

京都帝國大學教授
文學博士
吉澤義則編

未刊國文古註釋大系 第三冊

東京
帝國教育會出版部

萬葉緯目次

例言

一、本書を校訂するにあたつては、出來得る限り原本の面影を再現しようと務めた。從つて、場所によつて體裁がまちまちだつたり、平假名と片假名が混用されてゐたり、或は明らかに誤りであると考へられる個所があつたりするが、それらは一切原本の通りなのである。

一、但し、ルビは活字の關係上すべて現在用ゐられてゐる片假名に改めた。一例をあげると下フ、玉フをタマフ、ヿ丅を、マミとしたが如きである。

一、又原本には可成多く略字が用ゐられてゐるが、その中に一部正字に改めた處がある。斉を齊とし、尓を爾とした如きがそれである。

一、頭註は讀者の便を考へて、成し得る限りおなじ頁に收めることゝした。そのためにかなり不體裁なところも出來たが、それは止むを得ない。

なほ歌註の多い個處には番號を附して、その位置を示すことにした。

一、書中に（　）を附してあるのは、すべて細字をあらはすものである。譬へば、

菟ツ―藝ギ―泥ネ―赴フ　次嶺經（萬十三）　とあるのは

菟ツ　藝ギ　泥ネ　赴フ　次嶺經　萬十三　とあるべきものである。

同様に、さう云つた意味で、頭註や傍註にほどこされた割註も、すべて一行にして（　）を附してある。これは頁數の關係上やむを得なかつた。一例を擧げるならば、

備後（吉備乃美知乃之利）とあるのは、原本には備後　吉備乃美　知乃之利　とあるのである。

また書中

那ナ―賀カ―祁ケ（キト）ケ―藝勢（古本）ケ―流ル　汝之所レ着　とあるのは

那ナ　賀カ　祁ケ　トキ　藝ケ　勢古本　流ル　汝之所レ着

とあるべきところ。徒に行數の增加するのを恐れたためである。但しこれは傍註の多い第一、二卷に限つてゐる。

萬葉緯

二十册

今井似閑著

萬葉緯開題

萬葉緯二十卷の著者、今井似閑は京都の人、通稱を小四郎と呼び、又、市兵衞と稱し、家を大黑屋と號した。明曆三年(二三一七)豪商の三男に生れた。家は長兄が嗣ぎ更に次兄が嗣いだ。然るに家運の衰頽に遭逢した爲め、次兄の後を受けて約二十年、鋭意黽勉、遂に回瀾を旣倒から救ひ得た。乃ち元祿九年(二三五七)四十歲頃から家を甥に讓り、六波羅密寺(京都市・下京區・松原大和大路東・轆轤町に在る)東方の田圃に隱居し、專ら古典硏究に沒頭した。號を見牛と稱し、家を偃鼠亭と號した。蓋し莊子から得たものであらう。莊子の逍遙遊篇に、莊子が惠子に答へて「斄牛其大若二垂天之雲一、此能爲レ大矣、而不レ能レ執レ鼠」と言つた。卽ち、似閑は長大無用の牛の無能なるが如きを意味したものであらうか。偃鼠は同じ篇に「偃鼠飮レ河、不レ過レ滿レ腹。歸休乎」に據つた。彼が隱居の生活を象徵して居ると見える。但し住居は阿佛尼の舊址で庭園が勝れて居たと云ふ。

其の後、享保八年(二三八三)六十八歲を以て歿する迄、古典の校訂や書入に精勵した。それらの事蹟は、彼の述作した「むろの早わせ」や「四十賀記」等に詳しく、又、近世奇人傳卷三の契沖傳、古學小傳の卷上、諸家人物誌の卷下等に記されて居る。

似閑の學統は、殆ど契沖に負うて居る。但し下河邊長流等にも就いた由代匠記の似閑の序に記して居る。又、宮川松堅にも師事した。(蘿月菴國書漫抄)。かくて蒐集した古典、二百餘部の大部分を上賀茂神社の文庫に寄進した。今の三手文庫はそれである。又一部は周防の山口に寄贈した。

萬華緯の書名は、萬葉集を經とし、その註解の補助を意味して緯と稱したものである。但し緯は橫である。卽ち、內容から見れば、萬葉集と同時代のあらゆる資料を橫に集輯した事を意味するかとも見られよう。其處に似閑の勞力と識見とが輝いて居る。群書一覽卷四にも、支那の經書に對して、其の助力をなす緯書の存すると同じ意味で、萬葉緯と稱したと見て居る。淸の陣允錫の史緯三百三十卷の如きも、正史を經としての補助を意味して緯と稱したものである。

成立年代は、群書一覽に、この書の一本の奧書として

新撰萬葉二卷、眞名伊勢物語二卷、和漢朗詠二卷、右三部者世間刊行有レ之、故略レ之都合二十三卷、名二萬葉緯一。

元祿十三年洛東隱士輯之

とある。けれども三手文庫本たる原本には、享保二年(二三七七)三月にかゝる伊庭種季の跋文があつて、其の完成の時期を推測する事が出來る。卽ち似閑六十一歲頃、一旦完成したものであらう。但し朱・藍の書入や、附箋も有るのは、未整理のものと見える。聞くに從ひ、見るに從ひ修補して居たものらしい。萬葉緯たる名實を全からしめたものと言ふべきである。

萬葉緯の所在は、三手文庫に原本があり、山口縣立圖書館及び京都帝大附屬圖書館等に傳寫本がある。又、國文註釋全書第十七册に收載したものは、嘗つて黑川家に藏せられて居た十五卷の零本であつた。

本大系の底本は三手文庫藏の似閑自筆本を用ひた。

萬葉緯卷第一目錄

神代

素戔嗚尊到出雲之清地時御歌一首

下照媛欲令衆人知映丘谷者是味耜高彦根神上歌二首

皇孫彥火瓊瓊杵尊憂豐吾田津姬於不與共言御歌一首

彥火火出見尊戀慕於豐玉姬御歌一首

豐玉姬命寄玉依姬而奉報歌一首

神日本磐余彥天皇御代

天皇以共酒宍班賜軍卒乃爲御謠一首

同擊八十梟帥於國見丘乃爲御謠一首

道臣命歌一首

皇軍大悅仰天而咲因歌之一首

聊爲御謠以慰將卒之心焉謠一首

五瀨命中矢而薨○（闕字）天皇銜之意欲窮誅於長髓彥乃爲御謠之一首

御間城入彥五十瓊殖天皇御代

天皇以大田田根子令祭大神是日活日擧神酒獻○（闕字）天皇仍歌之一首

如此歌之宴于神宮諸大夫等歌之一首

於茲天皇歌之一首

選群卿遣于四方授印綬爲將軍於茲大彥命到於和珥坂上時有少女歌之一首

大物主神妻倭迹迹日百襲姬命薨作墓時人民相踵以手遞傳而運焉時人歌之一首

出雲振根殺於弟飯入根。故時人歌之一首

大足彥忍別天皇御代

天皇幸子陽縣時。涉野中大石憶京都而歌之。

一首

到於筑紫高田行宮時。有僵樹百寮蹈其樹而往來。時人歌一首

日本武尊居于甲斐國酒折宮時。擧燭而進食。是夜以夜之間侍者歌一首

有秉燭者續王歌之末而歌一首

日本武尊置一劍於松下去。後至彼處。劍猶存。故歌一首

氣長足姬尊御代

皇后命武內宿禰等令擊忍熊王。王先鋒能之凝者

欲勸己衆因高唱之歌一首

忍能王逃無所入。則歌一首

王沉瀨田濟而死。于時武內宿禰歌之。一首

王屍數日之出於菟道河。武內宿禰亦歌一首

皇太子應神天皇歸自角鹿。皇太后擧觴壽于

太子因以歌。一首

武內宿禰爲太子答歌之。一首

譽田天皇御代

天皇幸近江國至菟道野上而歌。一首

天皇授大鷦鷯尊以指髮長媛乃歌之。一首

大鷦鷯尊。知得賜髮長媛而大悅之報歌之

一首

大鷦鷯尊對髮長媛歌之。二首

幸吉野宮時。國樔人以醴酒獻天皇而歌之。

一首

天皇居高臺望見媛之船以歌之。一首

枯野船爲鹽薪燒之日有餘燼。異以令作琴。其音

遠聽。是時天皇歌之。一首

大鷦鷯天皇御代

大山守皇子隨河而沒。更浮流之歌。一首

大山守屍泛於考羅濟。時太子菟道稚郎子視其屍歌一首

天皇。桑田玖賀媛徒棄其盛年。即歌一首

於是播磨國速待獨進之歌。一首

天皇納八田皇女乞於皇后歌一首

皇后答歌一首

天皇又歌。一首

皇后答歌。一首

天皇又歌。一首

天皇令八田皇女。爰不知皇后忿不著岸親幸大津待皇后之船而歌。一首

時皇后不泊。天皇遣鳥山令還。皇后乃歌之。一首

皇后不還。至山背河而歌。一首

即越那羅山望葛城歌之。一首

口持臣之妹國依媛見其兄沾雨流涕歌一首

天皇浮江幸山背。視流水桑枝歌之。一首

天皇詣于筒城宮喚皇后。皇后不参見。時天皇歌。二首

雌鳥皇女織縑女人等歌之。一首

隼別皇子之舎人等歌。一首

隼別皇子隱草中僅得免急走而越山歌。一首

茨田堤鴈産。天皇歌以問武内宿禰。一首

武内宿禰答歌。一首

去來穗別天皇御代

天皇太子之時聆少女言而得免難則歌。一首

允恭天皇御代

衣通郎姫戀天皇而獨居。其不知天皇臨而歌。一首
天皇聆是歌則有感情而歌之。一首
明旦天皇見井傍櫻葉而歌之。一首
幸於茅渟宮衣通郎姫歌之。一首
木梨輕皇子竊通同母妹輕太郎皇女悒懷少息。因以歌之。一首
流輕太郎皇女於伊豫是時太子歌之。二首
穴穗天皇御代
圍於太子(木梨輕皇子)時。穴穗皇子(安康天皇)歌之。一首
大前宿禰答歌之。一首
大泊瀬幼武天皇御代
聞大臣妻愴矣傷懷而歌。一首
天皇幸河上小野讚蜻蛉口號。一首
天皇狩獵于葛城山時。欲斬舍人。舍人臨刑而作歌。一首
天皇遊于泊瀬小野觀山野之體勢興感歌。一首
忿刑木工鬪鷄御田時。秦酒公欲以琴聲使悟於天皇。橫琴彈歌。一首
齒田根命以馬八疋被除罪過既而歌。一首
欲使刑木工猪名部眞根時。有同作巧者歎惜眞根而作歌。一首
天皇聞此歌解徽纏。復作歌。一首
吉備臣尾代立弓執末而歌。一首
雄計天皇御代
天皇。室壽詠一篇
天皇壽畢乃起節歌。一首
天皇姉。飯豐青皇女。臨朝秉政。當世詞人歌。一首
置目鳴鐸而進。天皇遙聞鐸聲歌。一首

置目願歸桑梓。天皇重感難期乃賜歌。一首

小泊瀬稚鷦鷯天皇御代

太子立歌垣直當鮪歌。一首

鮪答歌。一首

太子歌。一首

鮪答歌。一首

太子歌。一首

太子贈影媛歌。一首

鮪臣爲影媛答歌。一首

影媛追行於鮪臣戮處遂作歌。一首

影媛收埋鮪屍既畢。愴矣纒心歌。一首

男大迹天皇御代

勾大兄皇子（安閑天皇）親聘春日皇女斐然之藻。忽形於言。乃口唱。一首

妃和唱。一首

毛野臣逢疾而死。其妻歌。一首

目頰子到任那時。鄕家等贈歌。一首

天國排開廣庭天皇御代

調吉士伊企儺爲新羅鬪將見殺。其妻大葉子亦見禽。愴然而歌。一首

或有和。一首

豐御食炊屋姬天皇御代

置酒宴群卿。是日大臣（蘇我馬子）上壽歌。一首

天皇和。一首

皇太子（聖德）脫衣裳覆飢者則歌之。一首

息長足日廣額天皇御代

毛津刺頸而死山中。時人歌。一首

天豐財重日足姬天皇御代

蘇我蝦夷立祖廟爲八佾作歌。一首

蘇我入鹿將廢上宮王等而立古人大兄爲天皇

于時有童謠一首

於三輪山猿合眼歌。一首

於劔池蓮中有一莖二萼妄推曰。是蘇我臣將榮之瑞也。老人等曰。移風之兆也。有謠歌三首

葛野秦河勝打祭虫於大生部多時人便作歌。一首

天萬豐日天皇御代

皇太子（天智天皇）聞造媛徂逝愴然極甚。於是川原史滿進奉歌歌。二首

白雉四年天皇欲捨於國位乃送歌於間人皇后。一首

天豐財重日足姫天皇御代（齊明重祚）

皇孫建王薨于時天皇哀傷極甚。迺作歌。三首

幸紀溫湯天皇憶建王悲泣。乃口號。三首

知救百濟軍敗績之怔有童謠一首

天皇崩。皇太子天智天皇哀慕。乃口號。一首

天命開別天皇御代

災法隆寺童謠。一首

異國之人授冠位童謠。三首

萬葉緯卷第一

洛東隱士似閑編輯

日本書紀

續日本紀第八。元正天皇養老四年五月癸酉。先是一品舍人親王奉勅修日本紀。至是功成奏上。紀三十卷系圖一卷。今案。序幷表可有焉。文粹等之古籍無所見。○明月記廿九建永二年（土御門院）五月廿日。顯昭付家長進日本紀歌註。云云。望申法橋云云。不知其由。日本紀者。我朝之國史。尤可重。若可其沙汰者。大臣公卿官外記尤可奉行歟。非法師撰進之仁歟。廿三日顯昭昇綱所云云。今案惜哉顯昭日本書紀歌註今世不傳。適釋日本紀引公望等私記。雖註之不免無誤謬。懷賢未見顯昭歌註歟。釋中無書某曰語。予茲密乘沙門契冲師撰日本書紀幷古事記歌註厚顏抄三卷。因成鼇頭幷施傍字。神代卷歌六首。人皇紀歌百二十首。凡百二十六首。（連歌二首）

神代紀上 一首

○是時素戔嗚尊自天而降到於出雲國簸之川上。時聞川上有啼哭之聲。故尋聲覓往者。有一老公與老婆。中間置一少女。撫而哭之。素戔嗚尊問曰。汝等誰也。何爲哭之如此耶。對

1 [illegible]八[illegible]十[illegible]也[illegible]云々
古事記曰、是高志八岐大蛇、年來喫、今臨被呑時、故哭傷矣。
2 [illegible]
3 [illegible]
4 古事記、[illegible]八雲[illegible]
5 萬葉第十七云、我宿ノ[illegible]ヲ見ゴメニ下ニツアカ[illegible]タハ苦シミ、[illegible]、今日櫻シツクニ我身イサ[illegible]ム香ヨメニ誘フ風ノ來ヌマニ、
八裳刺曲云云。

曰。吾是國神。號脚摩乳。我妻號手摩乳。此童女是吾兒也。號奇稻田姬。所以哭者、往時吾兒有八箇少女。毎年爲八岐大蛇所呑。今此少童且臨被呑。無由脱免。故以哀傷。素戔嗚尊勅曰。若然者汝當以女奉吾耶。對曰。隨勅奉矣。故素戔嗚尊立化奇稻田姬爲湯津爪櫛而插於御髻。乃使脚摩乳手摩乳釀八醞酒。并作假庪八間。各置一口槽而盛酒以待之。至期果有大蛇。頭尾各有八岐。眼如赤酸醬。松栢生於背上。而蔓延於八丘八谷之間。及至得酒頭各一槽飲。醉而睡。時素戔嗚尊乃拔所帶十握劍。寸斬其蛇。至尾劍刃少缺。故割裂其尾視之。（疑脱字）中有一劍。此所謂草薙劍也。素戔嗚尊曰。是神劍也。吾何敢私以安乎。乃上獻於天神也。然後行覓將婚之處。遂到出雲之清地焉。乃言（曰字）曰。吾心清清之。（此今呼此地曰清）於彼處建宮。或云時武素戔嗚尊歌之曰

夜句茂多莵。伊弩（都本）毛夜覇餓岐。莵磨語昧爾。夜覇餓枳莵倶盧。贈迺夜覇餓岐廻
（八雲立　出雲八重垣　妻共或籠　八重垣造　其八重垣）

乃相與遘合而生兒大己貴神。因勅之曰。吾兒宮首者即脚摩乳手摩乳也。故賜號於二神曰稻田宮主神。已而素戔嗚尊遂就於根國矣。

同　下　五首

天照大神勅天稚彦曰。豐葦原中國是吾兒可王之地也。然慮有殘賊强暴橫惡之神者。故汝先往平之。乃賜天鹿兒弓及天眞鹿兒矢遣之。天稚彦受勅來降則多娶國

神女子。經八年無以報命。故天照大神乃召思兼神問其不來之狀。時思兼神思而告曰。宜且遣雉問之。於是從彼神謀。乃使雉往候之。其雉飛下居于天稚彦門前湯津杜樹之杪而鳴之曰。天稚彦何故八年之間未有復命。時有國神號天探女。見其雉曰鳴聲惡鳥在此樹上。可射之。天稚彦乃取天神所賜天鹿兒弓天眞鹿兒矢便射之。則矢達雉胸遂至天神所處。時天神見其矢曰。此昔我賜天稚彦之矢也。今何故來。　乃取矢而呪之曰。若以惡心射者。則天稚彦必當遭害。若以平心射者。則當無恙。因還投之（投棄（万十三 同十九））。即其矢落下中于天稚彦之高胸[1]（高胸坂（古））。因以立死。此世人所謂返矢可畏之緣也。時天稚彦之妻子從天降來將柩上去而於天作喪屋殯哭之。先是天稚彦與味耜高彦根神友善。故味耜高彦根神登天弔喪大臨焉[2]。時此神形貌自與天稚彦恰然相似[3]。故天稚彦妻子等見而喜之曰。吾君猶在。則攀持衣帶不可排離。時味耜高彦根神忿曰。朋友喪亡。故吾即來弔。如何誤死人於我耶。乃拔十握劍斫倒喪屋。其屋墮而成山。此則美濃國喪山[4]是也。世人惡以死者誤己。此其緣也。時味耜高彦根神光儀華艶（萬）映于二丘二谷之間。故喪會者歌之曰。或云。味耜高彦根神之妹下照媛欲令衆人知映丘谷者是味耜高彦根神。故歌之曰

阿妹奈屢夜。乙登多奈婆多廼。汙奈餓勢屢[7]。多麻廼彌素磨屢廼。阿奈陀磨波夜[5]。彌多爾輔[6]

（阿米（古事）阿賓（萬六之三））（多麻能美須麻流美須麻流（古、賓字共爲二句））

天 在 棚 機 女 所 嬰 玉 御 統 穴 玉 者 ム 眞 谷

1 高胸、下注云、多歌[illegible]、姿胸。
2 喜、左傳、宣公十二年、國人大臨、杜預注、臨哭也、
3 今中國下道郡近似（[illegible]加乃里）
4 喪山、扶桑拾葉。
5 古夜、下ノ光ト見ユルハヤト云ナリ。ヤノ字ハ、其光ヤト云ヒテ、コトワラムタメナリ、下云、ミマキイリヒコハヤ。萬葉、近江ノ海夜カシコシト風守リ年ハヤヘナムコグトハナシニ、オクレキテ我ハヤ戀ムイナミ野ノ秋ハキ見ツ、イナム子ユヱニ
6 大山（[illegible]、或行逢）
7 萬葉、吾字奈[illegible]、汝乃七夕、神代紀上卷、一書曰、已[illegible]、五百箇御統之瓊云云。萬葉第十、七夕歌云、白玉ノイホツ、ドヒヲトキモミズ吾ハカ、タヌアハム日待ニ、足玉モ手玉モユラニオル機ヲ君カミケシニヌヒアヘムカモ

拖和拖羅須阿泥素企多伽避顧輸

又歌之曰

阿磨佐箇屢避奈毘謎廼以和多邏素西渡以嗣箇播箇拖輔智箇多輔智爾阿彌播利和拖嗣妹慮豫嗣爾豫嗣豫利據禰以嗣箇播箇拖輔智

此兩首歌辭今號夷曲

○皇孫因幸豐吾田津姬則一夜而有身。皇孫疑之。遂生火酢芹命。次生火折尊。亦號彥火火出見尊。母誓已驗。方知實是皇孫之胤。然豐吾田津姬恨皇孫不與共言。皇孫憂之。乃爲歌之曰

憶[3]企都茂播。陛爾播譽戻耐母。佐禰耐據茂。阿黨播怒介茂譽。播麻都知耐理譽

○須臾有鹽土老翁來。乃作無目堅間小船。載火火出見尊。推放於海中云云。自至海神之宮云云。海神則以其子豐玉姬妻之。遂纏綿篤愛。已經三年。及至將歸云云。先是豐玉姬謂天孫曰。妾已有娠也。天孫之胤豈可產於海中乎。故當產時必就君處。如爲我造屋於海邊以相待者。是所望也。故彥火火出見尊已還鄉。卽以鸕鶿之羽葺爲產屋。屋蓋未及合。豐玉姬自馭大龜。將女弟玉依姬。光海來到。時孕月已滿。產期方急。由此不待葺合。徑入居焉。已而從容謂天孫曰。妾方產。請勿臨之。天孫心怪其言。竊覘之。則化爲

1 [illegible]

2 [illegible]云、マヘツキミ、イワタラスモ、萬葉第九、[illegible]渡爲兒者、云云。師說、會者ノヨメルニマレ下照姬ノ哥ニマレ、味耜ノ神ノ事ヲハ、イカニヨメルニカ、其意カタシ、其中ニ、後ノ哥ハ、下照姬ノ哥トハミエヌニヤ。

3 萬葉、奧津藻之、名延之妹、此詞多。

4 雄略紀云、童女君者、本是采女、天皇與一夜而娠、云リ。

八尋大鰐、而知天孫視（私説）私屏深懷慙恨。既兒生之後、天孫就而問曰。兒名何稱者當可乎。對曰宜號彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊。言訖乃涉海徑去。（私記）于時彥火火出見尊乃歌之曰

[1]飫企都鄧利。軻茂豆句志磨爾。和我謂禰（古）志。伊茂[3]播和素邏珥。譽能據鄧馭鄧母邇（古）

（濤津鳥　鴨著嶋　我率寝　妹者不忘　世之盡）

○是後豐玉姬聞其兒端正、心甚憐重、欲復歸養。於義不可。故遣女弟玉依姬以來養者也。

于時豐玉姬命寄玉依姬而奉報歌曰

阿[4]軻娜磨廼。比訶利播阿利登。比鄧播伊珮耐。企弭我譽贈比志。多輔妬句阿利計利

（波（古事）袁　佐　閉比　迦禮　抒（古）斯　良多　麻　能（古））

（赤珠　光　有　人者　雖言　君之　光儀　助語　貴　有　來）此贈答二首號曰舉歌

神武天皇　八首

○神日本磐余彥天皇戊午年。秋八月甲午朔。乙未。天皇使徵兄猾及弟猾者是兩人。（兄宇迦斯　弟宇迦斯（古事記共））菟田縣之魁帥者也。時兄猾不來。弟猾即詣至。因拜軍門而告之曰。臣兄兄猾之爲逆狀也。聞天孫且到、即起兵將襲。望見皇師之威、懼不敢敵。乃潛伏其兵、權作新宮而殿內[5]施機、欲因請饗以作難。願知此詐、善爲之備。天皇即遣道臣命察其逆狀。時道臣命審知有賊害之心而大怒誥嘖之曰。虜爾所造屋、爾自居之。因案劍彎弓。逼令催入。兄猾獲罪於天。事無所辭。乃自蹈機而壓死。時陳其屍而斬之。流血沒踝。故號其地曰菟田血原。已而弟猾大設牛[6]酒以勞饗皇師焉。天皇以其酒宍班賜軍

1 萬葉第十六、奧鳥、鴨云船、同第六、奧鳥、味經乃原、紀中、可怜小汀、是也。

2 雄略天皇哥云、多斯爾波、韋泥受。萬葉第十四、伊伎豆久伎美乎、爲泥氏夜良佐禰、同第十六、橘寺之長屋爾吾率宿之、云云。

3 萬葉第二十、立シナフ君カスカタヲ忘スハ世ノ限ニヤ戀亘リナム。

4 古事記此哥贈答前後セリ。

5 古書、若二機張一。樋口氏

6 漢書文帝紀上、舉功行賞、諸民里、賜牛酒。後漢書馬援傳、擊牛、釃酒勞饗軍士。詩新臺云、魚網之設、鴻則離之。傳云、所得非所求也。

萬葉第五、百日シモユカヌ[illegible]路ケ行テアスハ來ナ
ムヲ何カサヤレル
2久云、コヤニサヤリヌ、勇魚(伊左奈)、名細、花細、香細、共ニ萬葉。
3[illegible]神紀、訓哤、此云ニ佐麼賓[illegible]
4被惠禰。禮記少儀云。兎ハ爲ニ宛脾皆聶而切之。集註云聶而切レ之謂ド先爲ニ大臠而後報切之爲レ膾上也。又、禮運捭レ豚集註　擘ヨ折豚ノ肉ニ云々。和名鈔ニ云。日本紀私記ニ云。竹刀(阿平比衣)ハ以ニ竹刀ヲ剪ルニ金銀ノ薄ヲ也。

古事記、此哥終云㠯々(音引)亞々新披、志夜胡志夜、(音引)者伊恭能布曾(此五字以音)、阿々(音引)志夜胡志夜、此者嘲咲者也、云々

附箋

被惠禰ハ、[illegible]代ニ、竹刀ヲヒエトメリ。サル[illegible]ニテコクニヤ。ト申サレタレド。ヒエト心意ラレタル差ナリ。ヒエナリ。ヒエニハ作ラズ。山王祭。サハラバ。ヒヤセトモ云ヘリ。ヒヤイユエヨノ通エニテ。ヒエナリ。和名ニ。竹刀ヲ阿平比衣ト云ヘルハ可ニ以爲ニ擄。シカレバ。被惠ト比衣トハ

卒。乃爲御謠之。曰

于儺能多伽機珥。辭藝和奈破蘆。和餓末菟夜。辭藝破佐夜羅孺。伊殊區波辭。區旋羅佐夜離(古事)。固奈彌餓。那居波。佐磨(古)。多知。曾廢(可作麼)能未逎。那鷄句塢。居氣辭被惠禰。宇破奈利餓。那居波。佐麼(可作麼)。伊智佐介幾未逎。於朋鷄句塢。居氣儾(古)被惠禰

是謂ニ來目歌。今樂府奏ニ此歌者猶有ニ手量大小。及音聲巨細。此古之遺式也

○冬十月癸巳朔。天皇嘗ニ其嚴瓮之粮。勒レ兵而出。先擊ニ八十梟於國見丘。破斬之。是役也。天皇志存ニ必克。乃爲御謠之曰

加牟伽筮能。伊齊能于彌能。於賛異之珥夜。異波比茂等倍屢。之多儺彌能。之多儺彌能。阿誤豫之多太彌能。異波比茂等倍離。于智弖之夜莽務。于智弖之夜莽務

謠意以ニ大石喩ニ其國見丘也。既而餘黨猶繁。其情難レ測。乃顧勒ニ道臣命。汝宜帥ニ大來目部作ニ大室於忍坂邑。盛設ニ宴饗。誘レ虜而取之。道臣命。於是奉ニ密旨。握ニ奮於忍坂而選ニ我猛卒。與レ虜雜居。陰期之曰。酒酣之後。吾則起歌。汝等聞ニ吾歌聲則一時刺レ虜。已而坐定酒行。虜不レ知ニ我之有ニ陰謀。任レ情徑醉。時道臣命乃起而歌之曰

字法差ヘリ。聶ノ事。不レ可レ出ニ於此。
5萬葉第二(長歌)渡會乃、齋宮從、神風爾、伊吹惑之、天雲乎、日之目毛不令見、常闇爾、覆賜而、定之、水穗之國乎云云。
6同云、朳之島能小螺乎、伊拾持來而、石以、都追伎破夫利。
7同第十九、藤原大后賜ニ入唐大使藤原淸河、御歌、大船爾、眞梶繁貫、此吾子乎、云云。
8擊　不審
9握　掘乎。樋口氏

於佐箇廼。於朋務露夜珥。比苫瑳破而。異離烏利苫毛。比苫瑳破而。枳伊離烏利苫毛。瀰都瀰都志。倶梅能固邏餓。勾鶩都都伊。異志都都伊毛智。于智弖之夜莾務（美都美都斯、久米能古良賀、久夫都々伊、伊斯都々伊母知、伊麻宇多婆、（俱乎寄乎）良斯、以上古事記此五句添タリ）

時。我卒。聞歌倶。拔其頭椎劔。一時殺虜。虜無復噍類者。皇軍大悅仰天而咲。因歌之曰

伊莾波豫。伊莾波豫。阿阿時夜塢。伊莾儺而毛。阿誤豫。伊莾儺而毛阿誤豫

今。來目部。歌而後。大哂是其緣也。

○又歌之曰

愛瀰詩烏。毗儾利。毛毛那比苫。比苫破易陪廼毛。多牟伽毗毛勢儒

此皆承密旨而歌之。非敢自專者也。

和名鈔、城上郡、忍城（於佐加）。苦、玉篇、舒鹽切、草名。茅苦也。師說、登中跡ノ和訓ノ下略ナリ、紀中津等以上三字用和訓。
2 彌都彌都志、今案瑞瑞也、志助也、瑞ハ八坂瓊ト云ル瑞ト同シ、祥瑞ト、ツヽキタルハ、幸ノ意アルニヤ、幸ハ物ヲホムル意アリ、和訓ノ意ハ、今草ナドノ、ウルハシクオイ出、人モワカヤカニ云ヘル、シキヲトミル、ト云ヘリ、ツトル音通スルコヽモ久米子等カウルハシク、ミモ〳〵トミユルヲ、ホメテイヘルトミエタリ。萬葉第三、見津見津四、久米能若子我、伊觸家武礒之草根乃、于卷惜裳、
3 頭槌劔、私記云、劔名其頭曲レリ
4 石椎、私記云、劔名 其頭似石。
5 勾鶩、今案今俗ウハカブキト云詞ト同、蕪甲是也、今西國ノ人頭痛丼舟ユルヲ共ニカブルト云。
6 噍類 後漢書云、襄城無噍類。言無復有活而噍食者也。樋口氏
7 江家次第大嘗會午ノ日ノ宴會、次久米舞、伴左、佐伯右、舞人廿人、琴工六人、如駿河舞、終拔劔無歌、以琴為節。
8 皇極紀、軍中之人、相謂之曰、二人當千、謂三ニ此歟。報殺（タムカヒコロス、雄略紀）。
9 中庸、愚而好自用、賤而好自專。

○十有一月癸亥朔。己巳。皇師大擧。將攻磯城彥。云云先是皇軍攻必取。戰必勝。而介胄之士。不無疲弊。故。聊為御謠以慰將卒之心焉。謠曰

哆哆奈梅弖。伊那瑳能椰摩能。虛能莾由毛。易喩耆摩毛羅毗。多多介陪麼。和例破椰隈怒。之摩途等利。宇介譬餓等茂。伊莾輸開珥虛禰

果以男軍越墨坂。從後夾擊破之。斬其梟帥兄磯城等。十有二月癸巳朔。丙申。皇師遂擊長髓彥。連戰不能取勝。云云。昔孔舍衞之戰。五瀨命中矢而薨。天皇銜之常懷憤懟。

10 仲哀紀、盾列陵（盾列此云多多那美）。萬葉第十七楯並而、伊豆美乃河波乃、云々。聖德太子時、伊比爾慧氏、云云。
11 萬葉第十七、安由波之流、奈都能左加利等、之麻都等里、鵜養我登母波、云云。當卷上云反緣水西行、亦有作梁取魚者、天皇問之、對曰、臣是、苞苴擔之子、此則阿太ノ養鸕部ノ祖也。

（欠國天十九、牛合作書可總全宿同、伏ス耆壊ヒ從也。）

至此役也。意欲窮誅。乃為御謠之曰

瀰都瀰都志倶梅能故邏餓。介耆茂等珥。阿波赴珥破。介瀰羅毗苔茂苔。曾廼餓毛苔。曾禰梅屠那藝弖。于笞弖之夜莽務（意欲窮誅トノ玉ヘルニ叶ヘリ。）

又謠之曰

瀰都瀰都志倶梅能故邏餓。介耆茂等珥。宇惠志破餌介瀰。句致弭比倶。和例破涴輸例儒。于智弖之夜莽務

因復縱兵忽攻之。凡諸御謠。皆謂來目歌。此的取歌者而名之也。

崇神天皇六首

○御間城入彥五十瓊殖天皇。八年夏四月庚子朔。乙卯。以高橋邑人活日。為大神之掌酒。冬十二月丙申朔。乙卯。天皇以大田田根子令祭大神。是日活日自擧神酒獻天皇。仍歌之曰

許能瀰枳破。和餓瀰枳那羅孺。椰磨等那殊。於朋望能農之能。介瀰之瀰枳。伊句臂佐伊句臂佐

如此歌之宴于神宮。即宴竟之諸大夫等歌之曰

宇磨佐開。瀰和能等能能。阿佐妬珥毛。伊弟氐由介那。瀰和能等能渡塢

於茲天皇歌之曰

宇磨佐階。瀰和能等能能。阿佐妬珥毛。於辭寐羅箇禰。瀰和能等能渡烏

2 大嘗會儀式云、巳ノ日奏田舞ニ（十人共舞）午ノ日伴、佐伯、兩氏、率舞人入自儀鸞門ニ（左伴氏、右佐伯氏、）各五位以上相分而列、就庭中床子ニ（所司預設）奏久米舞（廿人二列ニ舞）舞畢退出、次安部氏人（五位以上相別而列）、奏吉志舞（出入ノ門井ニ人數行列等、同ニ久米舞ニ）。

3 神名帳、添上郡高橋神社。

4 萬葉第十八、白酒黑酒、シロキクロキト點セリ、キトモ酒ノ名也。

5 耶殊ハ、日本ヲ作リ成スナリ。

正朔[1] 始皇本紀。

文選[illegible]合[illegible]註云[illegible]也。

比賣邪[illegible]中表[illegible]安[illegible]之事、吾田媛密[illegible]之取[illegible]香山土[illegible]領巾[illegible]祈曰、是倭國物實則反之、[illegible]此云[illegible]志[illegible]事焉。

姑[3] [illegible]雅云、王父之姊[illegible](三字衍)。

百襲[1] [illegible]孝靈天皇[illegible]孝元[illegible]人也。

卽開神宮門而幸行之。所謂大田田根子。今三輪君等之始祖也。

○十年秋七月丙戌朔己酉。詔群卿曰。導民之本。在於教化也。今既禮神祇災害皆耗。然遠荒人等猶不受正朔。是未習王化耳。其選群卿。遣于四方令知朕意。九月丙戌朔甲午。以大彥命遣北陸。武渟川別遣東海。吉備津彥遣西道。丹波道主命遣丹波。因以詔之曰。若有不受教者。乃擧兵伐之。既而共授印綬爲將軍。壬子大彥命到於和珥坂上。時有少女歌之曰

一云大彥命到山背平坂。時道側。有童女歌之曰

瀰磨紀異利寐胡播椰。飫迺餓烏塢。志齊務苔。農殊末句志羅珥。比賣那素寐殊望。於朋耆妬庸利于介伽卑氏許呂佐務苔。須羅句塢志羅珥。比賣那素寐殊望。

於是大彥命異之。問童女曰。汝言何辭。對曰。勿言也。唯歌耳。乃重詠先歌。忽不見矣。大彥(命字)乃還而具以狀奏。於是天皇姑[3]倭迹迹日百襲姬命。聰明叡智。能識未然。乃知其歌怪。言于天皇。是武埴安彥將謀反之表者也。云云。於是更留諸將軍而議之。未幾時。武埴安彥。與妻吾田媛。謀反逆興師忽至。

○是後倭迹迹日百襲[4]姬命爲大物主神之妻。然其神常晝不見而夜來矣。倭迹迹姬命語夫曰。君常晝不見者。分明不得視其尊顏。願暫留之。明旦仰欲覲美麗之威儀。大神對曰。言理灼然。吾明旦入汝櫛笥而居。願無驚吾形。爰倭迹迹姬命心裏。密異之。待明以見櫛笥。遂有

美麗小蛇。其長大。如衣紐。則驚之叫啼。時大神有恥。忽化人形。謂其妻曰。汝不忍令羞吾。吾還令羞汝。仍踐大虛。登于御諸山。爰倭迹迹姬命仰見而悔之急居。則箸撞陰而薨。乃葬於大市。故時人號其墓。謂箸墓也。是墓者日也人作。夜也神作。故運大坂山石而造。（天武紀上等陵）（城上……於保只智）則自山至于墓。人民相踵以手遞傳而運焉。時人歌之曰

飫朋佐介珥。菟藝廼煩例屢。伊辭務邏塢。多誤辭珥固佐摩。固辭介氏務介茂

（大坂　繼　所登　名　礫（神代上）手　越　越　將　堪　勝　歟　助語）

○六十年秋七月丙申朔己酉。詔群臣曰。武日照命從天將來。神寶藏于出雲大神宮。是欲見焉。則遣矢田部造遠祖武諸隅而使獻。當是時。出雲臣之遠祖出雲振根主于神寶。是往筑紫國而不遇矣。其弟飯入根則被皇命以神寶付弟甘美韓日狹與子鸕濡渟而貢上。既而出雲振根從筑紫還來之。聞神寶獻于朝庭。責其弟飯入根曰。數日當待。何恐之乎。輙許神寶。是以既經年月。猶懷恨忿。有殺弟之志。仍欺弟曰。頃者於止屋淵多生菨。願共行欲見。則隨兄而往之。先是。兄竊作木刀。形似眞刀。當時自佩之。弟佩眞刀。共到淵頭。兄謂弟曰。淵水清冷。願欲共遊沐。弟從兄言。各解佩刀。置淵邊。沐於水中。乃兄先上陸。取弟眞刀自佩。後弟驚而取兄木刀。共相擊矣。弟不得拔木刀。兄擊弟飯入根而殺之。故時人歌之曰

椰句毛多菟。伊頭毛多鶏流餓。波鶏流多知。菟頭邏佐波磨枳。佐微那辭珥阿波禮

（衣　都米佐須（古事）出雲　梟帥（振根也）所佩　刀　黒　葛　多（又ヤ乎）纏　無　鐵　可憐　指飯入根）

景行天皇　三首

1 今三輪若宮社若宮十三之時登天足跡某社之敷板。現在殊右足跡有温氣與今別也。

2 今箸墓現在。

3 神名帳、葛下郡、大坂山口神社、和名鈔、葛上郡、大坂。

4 神代紀下、天安河邊所在五百箇磐石。

5 推古天皇御製云、何言能摩差比、私記云、眞鋤之名也。師説、摩差比、直鋤也、神代紀上、素戔嗚尊、乃以蛇韓鋤之劒、云云、神武紀、御持劒之利、天武紀、少子部鉏鉤、古事記上云、其和邇將返之時、解所佩之劒小刀、著其頸而返、故其一尋和邇者、於今謂佐比持神也。

○大足彦忍代別天皇。十七年。春三月戊戌朔。己酉。幸子湯縣（日向）。遊于丹裳小野。時東望之謂左右曰。是國也。直向於日出方。故號其國曰日向也。是日涉野中大石。憶京都而歌之曰

波辭枳豫辭。和藝幣能伽多由。區毛位多知區暮。夜摩苦波。區珥能摩保羅摩。多多儺豆久。阿烏伽枳夜摩。許莽例屢。夜摩苦之于漏破試。異能知能。摩曾多（古事）祁務比苦破。多多彌許莽。幣遇利能夜摩能。志羅伽之餓延。塢于愛珥左勢許能固

（愛 吉哉 我家 方 雲居立來 大和者 國眞秀 助語 委 垣 山隱 有 大和 助語 愛（善也麗也） 命 將全 幸 人 疊薦 平 久膩加志賀波（古事） 曾古 山（大和） 白檮枝 髻 刺 此 子）

萬葉第十九、島山爾、照在橘、宇受爾左之、仕奉者、卿大夫等

是謂思邦歌也

○十八年秋七月辛卯朔。甲午。到筑紫後國御木。居於高田行宮。時有僵樹。長九百七十丈焉。百寮蹈其樹而往來。時人歌曰

阿佐志毛能。彌概能佐烏麼志。魔幣菟者彌。伊和多羅秀暮。彌開能佐烏麼志

（朝 霜 御木 小 橋（或竿橋） 群 臣 初語 渡 助語）

○四十年夏六月。東夷多叛。邊境騷動。云云。於是日本武尊雄誥之曰。能襲既平。未經幾年。今更東夷叛之。何日逮于大平矣。臣雖勞之。頓平其亂。云云。爰日本武尊則從上總轉入陸奧國。云云蝦夷既平。自日高見國還之西南。歷常陸至甲斐國。居于酒折宮。時擧燭而進食。是夜。以歌之問侍者曰。

珥比麼利。菟玖波塢須擬氐。異玖用加禰菟流

（新 治 筑 波（兩都也） 過 幾 夜 歟 寢）

鵲ノ渡セル橋ニオク霜ノ白キヲミレハ夜ソ更ニケル家持　　人迹板橋霜（溫庭筠）

1 師說皮辭枳ハナツカシクヨシノ意、萬葉ニ多キ詞ナリ。

2 禮記云、玉佩垂、則臣佩委。楚辭莊忌哀時命曰、衣攝葉以儲與兮、萬葉第二、多田名附、柔膚尙乎、

3 區珥能摩保羅摩、應神御製云、區珥能朋能彌喩、云云、萬葉第十八云、須賣呂伎能、可未能美許登能、伎己之乎須、久爾能麻保良、此外第五、第九ニモ見エタリ。私記ニ、奧區也、ト云ヘル意ハ叶ヘリ。萬葉第一、疊有、靑垣山、第六、高知爲、芳野離（宮乎）者、田立名附、靑垣隱、第十二、田立名付、靑垣山之、隔者、古事記上云、大國主神曰、然者治奉之狀、奈何、答言、吾者伊都岐奉于倭之靑垣東山上、此者坐御諸山上神也。

4 萬葉第五、吾命之、將全幸限、忘目八。

5 同第十六、薦疊、平群乃阿曾我、又云、八重疊、平群乃山爾。古事記、雄略天皇御製、多多美許母、幣具理能夜麻能、許知碁知能、夜麻能賀比爾、多知邪加由流、波毗呂久麻加斯、垂仁天皇段云、故、科曙立王、令宇氣比曰、云云、又在甘樫之前、葉廣熊白檮、令宇氣比枯、忽令宇氣比生、云云。

6 神代紀私記云、古者謂木爲介。師說、素戔烏尊ノ、毛ヲ拔散玉ヘルカ、身ノ所ニ依テ、サマ〴〵ノ木トナリタレハ、木ハ毛ノ意ナリ。

7 神名帳、陸奧、桃生郡、日高見神社。

諸侍者。不能答言。時有秉燭者。續王歌之末而歌曰

伽餓奈倍氏。用耶波虛　虛能用。比耶波苦塢加塢[1]（[illegible]）而於夜者九夜、於日者十日

即美秉燭。人之聰而敦賞

○日本武尊。於是。始有痛身。然稍起之還於尾張。爰不入宮簀媛之家。便移伊勢而到尾津[2]。

昔。日本武尊。向東之歲。停尾津濱而進食。是時解一劍置於松下。遂忘而去。今至於此[3]劍猶存。故歌曰

烏波利珥。多陀珥務伽幣流。比苦菟摩菟阿波例。比等菟摩菟。比苦珥阿利勢磨。岐農岐勢摩之塢。多知波開摩之塢

神功皇后　六首

○氣長足姬尊。攝政元年。三月丙申朔。庚子。命武內宿禰和珥臣祖。武振熊率數萬衆。令擊忍熊王。爰武內宿禰等。選精兵從山背出之。至菟道以屯河北。忍熊王出營欲戰。時有熊之凝者。爲忍熊王軍之先鋒。則欲勸己衆。因以高唱之歌曰

烏智箇多能。阿邏邏摩菟麼邏。摩菟麼邏珥。和多利喩祇弖。菟區喩彌珥。末利椰塢多具倍[5]。宇摩比等破。于摩譬苦奴知野。伊徒姑幡茂[7]。伊徒姑奴池。伊裝阿波那和例波[8]。多摩岐波屢。于池能阿曾餓。波邏濃知波。異佐誤阿例椰。伊裝阿波那和例波[6][9]

Footnote references:

1 萬葉第一、馬並而

2 和名鈔、伊勢、桑名郡、尾津（乎都）。

3 古事記云、到坐尾津前一松之許、先御食時、所忘其地御刀不失猶在、云云。

4 神名帳、宇治郡、彼方神社、拾遺愚草、彼方ヤハルケキ道ニ雪ツモリ待夜カサナル宇治ノ橋姫

5 末利郡、鏑矢乎、鏡矢乎、鏑ノ矢ナルヘシ、但、古來ノ矢ノ名ト知ヘシ。

6 萬葉、水薦苅、信濃乃眞弓、吾引者、宇眞人佐備而、不欲常將言可聞。

7 古事記八千矛神御歌、伊刀古夜能、伊毛能美許等、萬葉第十六、伊刀古名兄乃君

8 那後漢韓康伯傳云、公是韓伯休那、註、那餘語辭也。音乃賀反。

9 萬葉第五、靈剋、內限者、自註云、謂贍浮洲人壽一百二十年也。

時武内宿禰。令三軍悉令椎結。因以號令曰。各儲弦藏于髮中。且佩木刀。既而擧皇后之命。誘忍熊王曰。吾勿貪天下。唯懷幼王從君王者也。豈有距戰耶。願共絶弦捨兵與連和焉。然則君王登天業。以安席高枕。專制萬機。則顯令軍中悉斷弦解刀投於河水。忍熊王信其誘言。悉令軍衆解兵投河水而斷弦。爰武内宿禰令三軍出儲弦更張以佩眞刀度河進之。忍熊王知被欺謂倉見別五十狹茅宿禰曰。吾既被欺。今無儲兵。豈可得戰乎。曳兵稍退。武内宿禰出精兵而追之。適遇于逢坂以破。故號其處曰逢坂也。軍衆走之。及于狹狹浪栗林而多斬。於是血流溢栗林。故惡是事至于今其栗林之菓不進御所也。忍熊王逃無所入。則喚五十狹茅宿禰而歌之曰

伊裝阿藝。伊佐智須區禰。多摩枳波屢。于知能阿曾餓。句夫菟智能。伊多弖於波孺破。珥倍廼利能。介豆岐齊奈。和(古、萬葉)和ヲヤトヨム

則共沈瀨田濟而死之。于時武内宿禰歌之曰

阿布彌能彌。齊多能和多利珥。伽豆區苦利。梅珥志彌曳泥磨。異枳廼倍呂之茂

於是探其屍而不得也。然後數日之出於菟道河。武内宿禰亦歌曰

阿布彌能彌。齊多能和多利珥。介豆區苦利。多那伽彌須疑弖。于泥珥等邏倍菟

1 高枕

2 催馬楽 [illegible]ノ子ニ[illegible]津ノ原ノミ[illegible]栖ノ云云。

3 [illegible]御製、伊弉阿藝ヲ古事記ニハ、伊邪[illegible]ニ作ル。

4 萬葉第十九、伊佐[illegible]保[illegible]、許己呂[illegible]字[illegible]、[illegible]延。

5 谷上、[illegible]

○十三年春二月丁巳朔甲子。命武内宿禰從太子。令拜角鹿笥飯大神。癸酉。太子至自角鹿。是日皇太后。宴太子於大殿。皇太后擧觴以壽于太子。以歌曰

許能彌企破。和餓彌企那邏儒。區之能伽彌。等虛豫珥伊麻輸。伊破多多須。周玖那彌伽未能。等豫保枳。保枳茂苦陪之。訶武保枳。保枳玖流保之。摩菟利虛辭彌企層。阿佐孺塢齊佐

佐　唱進之義、說請也(私記)

武内宿禰爲太子答歌之曰

許能彌企塢。伽彌雞武比等破。曾能菟豆彌。于輸珥多弖弖。于多比菟菟。伽彌鷄梅伽墓。許能彌企能。阿椰珥。于多娜濃芝之枳佐(古)沙

應神天皇　八首

○譽田天皇六年春二月。天皇幸近江國。至菟道野上而歌曰

知婆能伽豆怒塢彌例麼。茂茂智儾蘆夜珥波母彌喩。區珥能朋母彌喩

○十一年。是歲有人奏之曰。日向國有孃子。名髪長媛。卽諸縣君牛諸井之女也。是國色之秀者。天皇悅之。心裏欲覓。十三年春三月。天皇遣專使以徵髪長媛。秋九月中。髪長媛至自日向。便安置於桑津邑。爰皇子大鷦鷯尊。及見髪長媛。感其形之美麗。常有戀情。

1 文選、[illegible]
2 [illegible]
3 [illegible]
4 [illegible]、私記云、[illegible]
5 ウタゲ、日本紀[illegible]
6 古事記云、[illegible]
7 神武紀、細戈千足ノ國。
8 和名鈔、日向國諸縣(牟良加多)郡。和名鈔、攝津國、[illegible]郡、桑津(久波都)。

於是天皇。知大鷦鷯尊感髮長媛而欲配。是以天皇宴于後宮之日。始喚髮長媛。因以上坐於宴席。時撝大鷦鷯尊。以指髮長媛。乃歌之曰

伊弉阿藝。怒珥比蘆菟彌珥。比蘆菟彌珥。和餓喩區瀰智珥。伽遇破志。波那多智麼那。辭豆曳羅波。比等未那等利。保菟曳波。等利委餓羅辭。瀰菟遇利能。那伽菟曳能。府保語茂利。阿伽例蘆瑳等咩。伊裝佐伽麼曳那

（伊邪古杼母(古事)死(古)　去來吾子　野蒜摘　我行道　香細　花橘　下　能(古)　波(古)　比登々理賀良斯(古)　枝　助語　人皆取　最末枝　鳥令居枯　三栗　中枝　含　所熟　指髮長　本都毛理(古)阿迦良　袁登賣袁(古)伊邪佐々婆爾良斯那(古)　娘子　去來　將榮　又將榮生乎）

於是。大鷦鷯尊。蒙御歌。便知得賜髮長媛。而大悅之曰。

1 瀰豆多摩蘆。豫佐瀰能伊戒珥。奴那波區利。破陪鶏區辭邏珥。委遇比菟區。伽破摩多曳能。比辭餓羅能。佐辭鶏區辭羅珥。阿餓許居呂辭。伊夜于古珥辭弖。

（水渟　依網池　和名、住吉郡、大網(於保與佐美)　蓴　沼繩　繰延　不知　榎杙衝　韋具比宇知賀佐斯良流、斯良邇、(古事)　2 河俣江　菱殼　指　刺也　不知　吾心　和(古)　叙(古衍文乎)　助　彌集　或動）

伊那叙久夜斯岐(古)　古事記ニ云ク如此歌ヒ而賜フ也。

3 大鷦鷯尊。與髮長媛既得交慇懃。獨對髮長媛歌之曰

瀰知能之利。古波儾嬢等綿。4 伽未能語等。枳虛曳之介逎。阿比摩區羅摩區

（道後　日向　可在諸縣　乙女　如神　(雷公也)　雖所聞　相枕　纏）

又歌之曰

（繼體紀、妹カ手ヲ我ニマカシメ我手ヲハ妹ニマカシメ、後漢書、班固傳、俯仰如神、註、戰國策、張儀謂秦王曰、彼周鄭之女、粉白黛黑、立於衢、非知而見之者、以爲神也。）

瀰知能之利。古破儾嬢等綿。阿羅素破區。5 泥辭區塢之叙。于蘆波辭瀰茂布

（寢　助詞　助詞　6 愛　思　母(古事)　意母布(古)）

○十九年冬十月戊戌朔。幸吉野宮。時國樔人來朝之。因以醴酒獻于天皇。而歌之曰

7 伽辭能輔珥。豫區周塢。8 菟區利。豫區周珥。伽綿蘆於朋瀰枳。宇摩羅珥。枳虛之茂知塢勢。磨呂

（橿上　作　橫臼　迦美斯(古事)　所釀　大御酒　美　聞看　飲　自稱）

萬葉第十六、水渟、池田阿曾我、崇神紀、六十二年冬十月、造依網池。

2 延喜式、神名帳云、河內國、若江郡、河俣神社。文選西京賦、徑(ヨコカマシ)延。

3 萬葉第十一、路ノ後、深津島山、和名鈔、備後(吉備乃美知乃之利)深津(布加津)萬葉ニ所詠是也、別說、日向ニハ前後ナケレトモ、九州ノ西ノハテナレハ、カクハヨマセ玉フナルヘシ。

4 萬葉第十二、如神、所聞瀧之、同十一、天雲之、八重雲隱、鳴神之、音爾耳八方、聞渡南。

5 萬葉第十四、曾我比爾宿思久、同第七背向爾宿之久、其外、トノシク、我シク、我シク、今シク、來シク、戀シク、餓ヲ、ニハシクナトアリ。

6 和名鈔、四聲字苑云、醴(音禮、和名、古佐介)一日一宿ノ酒也。

7 古事記、又於吉野之白檮ノ上ニ云々。／生カ

8 孝德紀、名墾橫川(ナハリノヨコカハ)。天武紀、息長橫川(オキナカノヨコカハ)。

9 顯宗紀、於淺甕釀酒(サラケカメルオホミキ)、美飲喫哉(ウマラニヤラフルカナ)。

秦大津父(ハタノオホツチ)(欽明紀)

1 曲禮云、凡爲人子之禮、冬溫而夏凊、昏定而晨省、集說、溫以禦其寒、凊以致其涼、定其衽席、省其安否、

2 忘ル、乏キ、

餓智之父（指天子）

繼體紀、嶷哉嚥呂古、示朕心於八方、盛哉勾大兄、光我風於萬國、

政治要略、第廿七、十一月三、辰日節會事、當日早旦、口鷹行一兩巡後、吉野國栖、於承明門外、奏歌笛、其詞云、賀芝乃不爾、與古羽須遠惠利天、賀女多於保美支。末良居、於世古世、丸賀朕、進御贄御酒・云云

歌之既訖。則打口以仰咲。今國樔獻土毛之日。歌訖即擊口仰咲者。蓋上古之遺則也。夫國樔者、其爲人甚淳朴也。毎取山菓食。亦煮蝦蟆爲上味。名曰毛瀰。其土自京東南之隔山而居于吉野河上。峯嶮谷深道路狹巘。故雖不遠於京。本希朝來。然自此之後。屢參赴以獻土毛。其土毛者栗菌及年魚之類焉。

〇二十二年春三月甲申朔戊子。天皇幸難波居於大隅宮。丁酉。登高臺而遠望。時妃。兄媛侍之。望西以大歎。於是天皇問兄媛曰。何爾歎之甚也。對曰。近日妾有戀父母之情。便因西望而自歎矣。冀暫還之。得省親歟。爰天皇愛兄媛篤溫凊之情則謂之曰。爾不視二親既經多年。還欲定省於理灼然。則聽之。仍喚淡路御原之海人八十人爲水手送于吉備。夏四月。兄媛自大津發船而往之。天皇居高臺望兄媛之船以歌之曰

阿波泥辭摩。異椰敷多那羅眦。阿豆枳辭摩。異椰敷多那羅眦。豫呂辭枳辭摩之魔。儴伽多佐例阿羅智之。吉備那流伊慕烏。阿比瀰菟流慕能

〇五年冬十月。科伊豆國令造船。長十丈。船既成之。試浮于海。便輕泛疾行如馳。故名其船曰枯野。

由船輕疾名枯野是義違焉。若謂輕野後人訛焉。

1 後漢蔡邕在呉見人爨桐取之作琴號曰焦尾琴

2 萬葉第二、若乃浦有、伊久里爾曾、第六、海底、奥津伊久利二

3 神名帳淡路津名郡由良湊神社。

4 古事記云、吉野之國主等、瞻大雀命所佩御刀歌曰、本牟多能、比能美古、意富佐邪岐、意富佐邪岐、波加勢流多知、母登都流藝、須惠布由、布由紀能、須加良賀志多紀能、佐夜佐夜

5 萬葉第十九、杉野爾、左乎騰流雉、神代紀上、

6 殘賊強暴横惡之神(チハヤフルアラブルカミ)、欽明紀、瀰河浦科嚴忌(イチハヤン)、式、鎮火祭云、御心一速比給波之

○三十一年秋八月。詔群卿曰。官船名枯野者。伊豆國所貢之船也。是朽之不堪用。然久爲官用。功不可忘。何其船名。勿絶而得傳後葉焉。群卿便被詔。以令有司。取其船材。爲薪而燒鹽。於是得五百籠鹽。則施之周賜諸國。因令造船。是以諸國一時貢上五百船。悉集於武庫水門。云云。初枯野爲鹽薪燒之日。有餘燼。則奇其不燼而獻之。天皇異。以令作琴。其音鏗鏘而遠聽。是時天皇歌之曰

訶羅怒烏(枯野)。之褒珥椰枳(鹽燒)之餓。阿摩離(餘)。虚等珥荳句離(和琴作琴)。訶枳譬句椰(搔彈哉)。由羅能斗能[3](由良乃門(未詳)門中)。斗那訶能異句離珥[2](石)。敷例多荛(觸(生也)立)。那豆能紀能(夏木)。紀能(古事)无。佐椰佐椰(行文乎鏗鏘々々)

仁德天皇 二十二首

○大鷦鷯天皇。然後。大山守皇子毎恨先帝廢之非立。而重有是怨。則謀之曰。我殺太子。遂登帝位。爰大鷦鷯尊。預聞其謀。密告太子。備兵令守。時太子設兵待之。大山守皇子。不知其備兵。獨領數百兵士。夜半發而行之。會明詣菟道。將渡河。時太子。服布袍。取檝櫓。密接度子。以載大山守皇子而濟。至于河中。誂度子。蹈船傾。於是。大山守皇子墮河而沒。更浮流之。歌曰

知[6]破椰臂苫(速人)于泥能和多利珥(宅道渡)。佐烏刀利珥(敏踊或楫取)。破[5]椰鷄務臂苫辭(將速人長水渉人取)。和餓毛胡珥虚務(我許將來)

然伏兵多起。不得著岸。遂沈而死焉。令求其屍。泛於考羅濟。時太子視其屍歌曰

知破椰智等于泥能知多利珥和多利涅珥多弖屢。阿豆瑳由瀰摩由瀰。伊枳羅牟苦虛虛呂破望閇耐。伊斗羅牟苦虛虛呂破望閇耐。望苦弊破。枳瀰烏於望比涅。須恵弊破。伊茂烏於望比涅。伊羅那鷄區。曾虛珥於望比。伽那志鷄區。虛虛珥於望臂。伊枳羅儒層區屢。阿豆瑳由瀰摩由瀰

○十六年秋七月。戊寅朔。天皇以宮人桑田玖賀媛示近習舍人等曰。朕欲愛是婦女。苦皇后之妬。不能合以經多年。何徒棄其盛年乎。即歌曰

瀰儺曾虛赴。於瀰能烏苦咩烏。多例椰始儺播務

於是播磨國造祖速待。獨進之歌曰

瀰箇始報。破利摩破耶摩智。以播區娜輸。加之古倶等望。阿例椰始儺破務

即日以玖賀媛賜速待。

○二十二年春正月。天皇語皇后曰。納八田皇女將爲妃。時皇后不聽。爰天皇歌以乞於皇后曰

于磨臂苦能。多菟屢虛等太弖。于磋由豆流。多曳麼菟餓務珥。奈羅陛弖毛餓望

皇后答歌曰

1 大山守皇子、同母妹、大原皇女、澇口皇女アリ。萬葉第十七、可奈之家口、許己呂思出、伊良奈家久、曾許爾念出、大和物語、我サマノ、イトイラナク成タルヲ、思ヒハカルニ、イトハシタナクテ、蘆モ打捨テ、走リニゲニケリ。和名鈔、苛、音何、和名、伊良、小草生刺也。

2 古事記、雄略、美那曾々久於美能袁登賣。

3 [illegible]

4 萬葉第十六、人和乃、立許等大且、世人能、多都[illegible]

5 神功紀云、時ニ武内ノ宿禰、令三軍、令推結、因以號令曰、各以儲弦藏髮中、且佩木刀、古事記同段云、設弦、（一名云[illegible]宇佐由豆留）

1 コソト云テ、キトウクルテニヲハ、天智紀ニミエタリ、亦萬葉ニ多シ。
2 萬葉第廿、家持、櫻花、伊麻佐可里奈里、難波乃海、於之弖流宮爾、伎許之賣須奈倍。
3 毛詩、蜉蝣之羽、衣裳楚楚。
4 阿珥、豈也、[illegible]不叶、[illegible]漢共ニ有レ之、文選阮[illegible]瑜爲ニ曹公ニ作レ書與ニ孫權ニ云、[illegible]呂[illegible]、豈同、謂不同也。萬葉第四、八百日往、濱之沙毛、吾戀二、豈不益歟、奥島守、此豈不益ヲ、今ノ本ニ、アニマサラメヤト讀シタレド、叶ヘリトモオボエズ、ネハ、アニマサラジカト點スヘキニヤ、アラハ今ノ阿珥ト併セ案スヘキニヤ。
5 天武紀、九年九月癸酉朔、辛巳、幸于朝嬬、因以看大山位以下之馬於長柄杜。古事記云、葛城長江曾都毘古、云々。神名帳、葛上郡、長柄神社、
6 忿（カタオモヒ）萬葉。
7 岬（ミサキ、萬葉）
8 古事記、景行段ニ云、[illegible]佐土[illegible]良、[illegible]萬葉第十三、[illegible]奈[illegible]都[illegible]。景行紀云、於是[illegible]。悉[illegible]、船行著岸。
9 古事記云、天皇、聞其大后自山代上幸而、使舍人名謂鳥山人、送御歌曰

虚呂望虚曾赴多弊茂豫者瑳用洒虚烏那羅陪務者瀰破介辭古者呂介茂

天皇又歌曰

於辭弖屢那珥破能瑳者能那羅弭破弄那羅倍務苦虚層層能古破阿利鶏梅（指八田皇女）

皇后答歌曰

那菟務始能譬務始能虚呂望赴多弊著弖介區瀰夜儾利破阿珥豫區望阿羅儒

天皇又歌曰

阿佐豆磨能避介能烏瑳介烏介多那者珥瀰致喩區茂能茂多愚譬弖序豫枳

皇后遂謂不聽。故默之亦不答言。

○三十年秋九月乙卯朔。乙丑。皇后遊行紀國到熊野岬即取其處之御綱葉而還。於是天皇伺皇后不在而娶八田皇女納於宮中。時皇后到難波濟聞天皇合八田皇女而大恨之則其所採御綱葉投於海而不著岸。故時人號散葉之海曰葉濟也。爰天皇不知皇后忿不著岸故時親幸大津待皇后之船。而歌曰

那珥波譬苦。須儒赴泥苦羅齊。許辭那豆瀰。曾能赴尼苦羅齊。於朋瀰赴泥苦禮

時皇后不泊于大津更引之泝江自山背廻而向倭。明日天皇遣舍人鳥山令還皇后。乃歌之曰

夜莽之呂珥。伊辭鷄苔利夜莽。伊辭鷄之雞。阿餓茂赴莵摩珥。伊辭枳阿波牟伽茂

皇后。不還猶行之。至山背河而歌曰

莵藝泥赴。揶莽之呂餓波烏。箇破能朋利。涴餓能朋例磨。箇波區莽珥。多知瑳介喩屢。毛毛多

羅儒。揶素麼能紀破。於朋耆瀰呂介茂

即越那羅山望葛城歌之曰

莵藝泥赴。揶莽之呂餓波烏。瀰揶能朋利。和餓能朋例磨。阿烏珥豫辭。儺羅烏輸疑。烏陀弖。夜莽苔

輸疑。和餓瀰餓朋辭區珥波。箇豆羅紀多伽瀰揶。和藝弊能阿多利

更還山背。興宮室於筒城岡南而居之

○冬十月甲申朔。遣的臣祖口持臣喚皇后。爰口持臣至筒城宮。雖謁皇后而默之不答。時

口持臣沾雪雨以經日夜。伏于皇后殿前而不避。於是口持臣之妹。國依媛仕于皇后。適是時

侍皇后之側。見其兄沾雨而流涕之歌曰

揶莽辭呂能。莵莵紀能瀰揶珥。茂能莽烏輸。和餓濟烏瀰例磨。那瀰多𦗟摩辭茂

時皇后。謂國依媛曰。何爾泣之。對言今伏庭請謁者妾兄也。沾雨不避。猶伏將謁。是以泣

悲耳。時皇后。謂之曰。告汝兄令速還。吾遂不返焉。口持臣歸。則返復奏于天皇

1 [illegible]第十[illegible]、[illegible]國、山代[illegible]、[illegible]天下、[illegible]多難山、[illegible]立、[illegible]山際。[illegible]山背山、[illegible]山背川、[illegible]河而[illegible]山代[illegible]

2 和名鈔、[illegible]郡[illegible]、[illegible]郷[illegible]、和名[illegible]

3 古今、稻八度すケト[illegible]セス[illegible]ハノ立榮ユヘキ[illegible]ノキネカモ

4 佐[illegible]夫、和名鈔[illegible]（佐[illegible]之大乃紀）

5 萬葉集第五、[illegible]、宮[illegible]。同第一、太上天皇幸吉野宮時、高市連黒人作歌、倭爾者鳴而歟來良武[illegible]、[illegible]、倭ノ内ニテ、[illegible]國ノ中ヲ[illegible]云ヘキ歟。

6 和名鈔、葛上郡、高宮（多賀）[illegible]也、釋日本紀、引上佐國風土記云、葛城ノ山東下、高宮岡、云々。

古事記下、仁德天皇段云、此天皇。娶葛城之曾都毘古之女、石之日賣命、又中卷、孝元天皇段云、比古布都押之信命、娶木國造之祖宇豆比古之妹、山下影日賣生子建内宿禰。此建内宿禰之子并九、男七女二云云 次ニ葛城長江ノ曾都毘古者、玉手臣、的臣、生江臣、阿藝那臣等之祖也。是ニ依レハ、高宮ハ、誠ニ皇后ノ故郷ナルヘシ。

7 萬葉集第十六、石麻呂爾、吾物申。

8 萬葉集第三、與妹來之、敏馬

之埼乎、還左傍、獨同見者、涙具未之毛。後撰集、古ノ野中ノ清水ミルカラニサシクム物ハ涙ナリケリ。

1私記云、師說、昔孝霊天皇御代、有二連牛一欲下以レ角破中堤上、堤中忽有二磐石一觸レ角相防、仍遂不レ能レ壞、故欲レ言二嚴(嚴乎)石一先引二此語一乎。

2萬葉第六、大夫之、去跡云道爾、凡可爾、思而行勿、大夫之伴、師說、オボロケニナリ。

3和名鈔、唐韻云、枕、(虛嚴反、漢語抄云、古須岐)鍬屬也。

4古事紀云、口大之尾翼鱸、佐和々々邇、引寄騰而、萬葉第一、散和久御民毛、第五、佐和久兒等遠、佐和々々、木鍬ニテ畠ヲ打音ニ寄セテ磐之媛ノフツクミイカリ玉ヒテサワカシキナ云。師說。

5古事記云、此天皇與太后所歌之六歌者志都歌之返歌也。

6雄略紀云、虻疾飛來嚙天皇臂。古事記、沼河姬哥云、多久豆怒能、斯路岐多陀牟岐。和名鈔、陸詞切韻云、腕(烏段反、和名、太太無岐、一名手腕也)。

7私記云、金機、師說、昔ハ錺レ機、以レ金鏤取二鳴聲一繼也。

8古事記、倭武命御哥那賀部勢流、意須比能須蘇比。萬葉第三、坂上郎女哥、手弱女之、押日取懸。

〇十一月甲寅朔。庚申。天皇浮レ江幸二山背一。時桑枝沿レ水而流之。天皇視二桑枝一歌之曰

菟怒瑳破赴。以破能能謎餓。飯朋呂伽珥。枳許瑳怒。于羅愚破能紀。豫屢麻志枳。箇破能區。莽愚莽。豫呂朋譬喩玖伽茂。于羅愚破能紀

明日乘輿詣二于筒城宮一喚二皇后一。皇后不二參見一。時天皇歌曰

菟藝泥赴。揶摩之呂謎能。許久波茂知。于知辭於朋泥。佐和佐和珥。儺餓伊弊齊虛曾。于知和多須。那餓波曳儺須。企以利摩韋區例

5又歌曰（萬葉第　打渡竹田之原爾、古今、打渡彼方人、後撰、打渡長キ心、遠キ事長キ事ニ云詞ナリ。）

菟藝泥赴。夜莽之呂謎能。許玖波茂知。于知辭於朋泥。泥士漏能。辭漏多娜武枳。摩箇儺祁麼虛曾。辭羅儒等茂伊波梅

時皇后令レ奏言。陛下納二八田皇女一爲レ妃其不レ欲下副二皇女一而爲上レ后遂不レ奉レ見。乃車駕還レ宮。天皇於是恨二皇后大怒一而猶有二戀思一

〇四十年春二月納二雌鳥皇女一。欲レ爲レ妃以二隼別皇子一爲レ媒。時隼別皇子。密親娶而久之不レ復レ命。於是天皇不レ知レ有レ夫而親臨二雌鳥皇女之殿一。時爲二皇女一織レ縑女人等歌之曰

比佐箇多能。阿梅箇儺麼多。謎廼利餓。於瑠箇儺麼多。波椰歩佐和氣能。彌於須譬鵝泥（多迦由久夜（古事））

爰天皇知二隼別皇子密婚一而恨之。然重二皇后之言一亦敦二于友之義一而忍之勿レ罪　〇古事記曰。天皇直幸二女鳥王

之上。女鳥皇女織縑服。於是俄而隼別皇子枕皇女之膝以臥。乃語之曰、孰捷鷦鷯與隼焉。曰隼捷也。乃皇子曰、是我所先也。天皇聞是言、更亦起恨。時隼別皇子之舍人等歌曰

破夜步佐波。阿梅珥能朋利。等弭箇慨梨。伊菟岐餓宇倍能。婆娑岐等羅佐禰

天皇聞是歌、而勃然大怒之曰、朕以私恨不欲失親、忍之也。何曩矣。私事將及于社稷則欲殺隼別皇子。時皇子率女鳥皇女欲納伊勢神宮而馳。於是天皇聞隼別皇子逃走。即遣吉備品遲部雄鯽。播磨佐伯直阿俄能胡曰、追之所逮即殺。云云 雄鯽等追之至菟田迫於素珥山。時隱草中僅得免。急走而越山。於是皇子歌曰

破始多弖能。佐餓始枳揶摩茂。和藝毛古等。赴駄利古喩例麼。揶須武志呂茂侶

爰雄鯽等知免以急追及于伊勢蔣代野而殺之（古事記云、故自其地逃亡到宇陀之蘇邇時、御軍追到而殺也。）

○五十年春三月壬辰朔丙申、河内人奏言。於茨田堤鴈産之。即日遣使令視。日既實也。天皇於是歌以問武内宿禰曰

多莽耆破屢。宇知能阿曾。儺虛曾破。豫能等保臂等。儺虛曾破。區珥能那餓臂等。阿耆豆辭莽（余能奈賀乃比登（古）以下二句無（古））揶莽等能區珥珥。箇利古武等。儺波企箇輸揶

武内宿禰答歌曰

1 私記云、伊苑岐、謂蚕也、高樹於保久生ル毛利也。
2 古事記、比波理波、阿米邇迦氣流、多迦由玖夜、波夜夫佐和氣、佐耶岐登良佐泥／邪也。
3 和名鈔、郭知玄云、梯（音低、和名、加介波之）、木堦所以登高也、唐韻云、棧（士限反、一音、賤）、訓同上、板木構險為道也。
4 萬葉第七、橋立、倉椅山、十市郡
5 雄略紀云、謂皇后曰、吾妹、自註云、稱妻為妹、蓋古之俗乎。
6 秋津嶋（神武三十有一年紀）
7 言、倭國之鳥、生子淺淡、未聞生我國也

多迦比迦流比能美古（古事）
夜輸彌始之和我於朋枳彌波。于倍儺于倍儺。和例烏斗波輸儺。阿企菟辭摩。揶莽等能倶珥珥。

八隅知之（萬）我大君者　諾諾　問我

宇倍志許曾（古事）　斗比多麻閉、麻許曾爾、斗比多麻閉、阿禮許曾波、余能那賀比登、

（巳上四句古事）
箇利古武等。和例破枳箇儒

伊麻陀岐加受（古事）　我者不聴

古事記云、如此白而被給御琴歌曰、那賀美古夜、都是邇斯良布登、加理波古牟良斯、此者本岐歌之片歌也、

履中天皇　一首

○去來穗別天皇卷曰、大鷦鷯天皇崩。皇太子自諒闇出之未即尊位之間。以羽田矢代宿禰之女黑媛欲爲妃。納采既訖。遣住吉仲皇子而告吉日。時仲皇子冒太子名以姧黑媛。是夜仲皇子忘手鈴於黑媛之家而歸焉。明日之夜。太子不知仲皇子自姧而到乃入室開帳居於玉床。時床頭有鈴音。太子異之問黑媛曰。何鈴也。對曰。昨夜之非太子所賚鈴乎。何更問妾。太子自知仲皇子冒名以姧黑媛則默避也。爰仲皇子畏有事將殺太子。密興兵圍太子宮。時平群木菟宿禰。物部大前宿禰。漢直祖。阿知使主。三人啓於太子。太子不信。（一云太子醉以不起）故三人扶太子令乘馬而逃之。（一云大前宿禰抱太子而乘馬）仲皇子不知太子不在而焚太子宮。通夜火不滅。太子到河内國埴生坂而醒之。顧望難波見火光而大驚。則急馳之自大坂向倭至于飛鳥山遇少女於山口問之曰。此山有人乎。對曰。執兵者多滿山中。宜廻自當摩徑踰之。太子於是以爲聆少女言而得免難。則歌之曰

於朋佐箇珥。阿布夜烏等謎烏。瀰知度沛麼。哆駄珥破能邏孺。哆嚧摩知烏能流

大阪　遇　或　少女　爾也　問　路　直　不　告　當摩路

允恭天皇　七首

○雄朝津間稚子宿禰天皇。八年春二月。幸于藤原。密察衣通郎姬之消息。是夕。衣通郎姬。戀天皇而獨居。其不知天皇之臨。而歌曰

1 和餓勢故餓勾倍枳豫臂奈利。佐瑳餓泥能區茂能於許奈比。虛豫比辭流辭毛（我兄子　可來　夜　小蜘蛛　ササヤカ（遊仙窟）蜘蛛　擧動也　今宵　驗）

天皇聆是歌。則有感情。而歌之曰

3 佐瑳羅餓多。邇之枳能臂毛弘。等枳舍氣帝。阿麻多絆泥受邇。多儴比等用能未（小形　錦　紐　衣帶（コロモヒモ）（薄代下）解放　而　數　者　不寢　唯　一夜　萬葉第十九、安可流橘、宇受爾指、紐解放而、千年保伎、）

明日（イ）天皇見井傍櫻華。而歌之曰

波那具波辭。佐區羅能梅涅。許等梅涅麼。波椰區波梅涅孺。和我梅豆留古羅（花　細　櫻　愛（日本紀）　異　愛　喩外人　早　者　不　愛　我　愛　子　等（指衣通））

皇后聞之且大恨也。於是。衣通郎姬奏言。妾常近王宮。而晝夜相續。欲視陛下之威儀。然皇后則妾之姉也。因妾以恒恨陛下。亦爲妾苦。是以。冀離王居。而欲遠居。若皇后嫉意少息歟。天皇則更興造宮室河内茅渟。而衣通郎姬令居。因此以屢遊獵于月根野。

○十一年春三月癸卯朔丙午。幸於茅渟宮。衣通郎姬歌之曰

4 等虛辭倍邇。枳彌母阿閉椰毛。異舍儺等利。宇彌能波摩毛能。余留等枳等枳弘（鎭　君　遇（値）　鯨魚取　海　濱藻（指馬藻）　寄　時々）

時天皇謂衣通郎姬曰。是歌。不可聆他人。皇后聞。必大恨。故時人。號濱藻謂奈能利曾毛也 6（勿告之義也）

---

1 [illegible]云、古者[illegible]兄、男[illegible]、[illegible]云、[illegible]、[illegible]之[illegible]、古今[illegible]、今シハト[illegible]ニシ[illegible]ヲ、カニノ[illegible]ニカ、リ[illegible]ヲトムル

[illegible]雅[illegible]云、[illegible]長、[illegible]、[illegible]小[illegible]長[illegible]、[illegible]長[illegible]一[illegible]、[illegible]、[illegible]之是也、[illegible]

3 萬葉第六、[illegible]第十六、[illegible]小野、[illegible]小[illegible]錦[illegible]、今ハ絶々リト申セハ、[illegible]ノ人モ、[illegible]ニ[illegible]ラスヤ[illegible]ラム、何事ニモアレ、[illegible]錦ヲ、月形錦ト云[illegible]ヲ動クヘシ[illegible]、[illegible]受[illegible]太[illegible]、錦御[illegible]二[illegible]、東紋[illegible]小[illegible]

4 萬葉第九、[illegible]花哉。

5 壹岐國風土記云、鯨伏、在郡西、昔者鯨走[illegible]、鯨[illegible]故云鯨伏、[illegible]鯨共化爲石、相去一里（[illegible]云鯨爲伏[illegible]）

6 萬葉、莫告藻、和名鈔、本草云、莫鳴菜（奈々里曾、漢語抄云、神馬藻、三字、云云奈乃里曾、今按本文未詳、神馬莫騎之義也）。

〇二十三年春三月甲午朔庚子。立木梨輕皇子爲太子。容姿佳麗。見者自感。同母妹輕大娘皇女。亦艶妙也。太子恒念合大娘皇女。畏有罪而默之。然感情既盛。殆將至死。爰以爲徒非死者。雖有罪何得忍乎。遂竊通乃悒懷少息。因以歌之曰

阿資臂紀能。椰摩娜烏莵約利。椰摩那箇彌。斯哆媚烏和之勢。志哆那企貳。和餓儺句菟摩。箇哆儺企貳。和餓儺句菟摩。去鐏去曾。椰主區津娜布例

〇二十四年夏六月。御膳羹汁凝以作氷。天皇異之。卜其所由。卜者曰。有内亂。蓋親親相奸乎。時有人曰。木梨輕太子。奸同母妹輕大娘皇女。因以推問焉。辭既實也。太子是爲儲君。不得罪。則流輕大娘皇女於伊豫。是時。太子。歌之曰

於褒企瀰烏。志摩珥波夫利。布儺阿摩利。異餓幣利去牟鋤。和餓哆哆瀰由梅。去等烏許曾。哆瀰等異絆梅。和餓菟摩烏由梅

又歌曰

阿摩儾霧。箇留惋等賣。異哆儺介廢。臂等資利奴陪瀰。幡舍能夜摩能。波刀能。資哆儺企邇奈句

安康天皇　二首

〇穴穗天皇。是時。太子。行暴虐。淫于婦女。國人謗之。羣臣不從。悉隷穴穗皇子。爰

1 私記云、言山行之時引足而行也。
2 去鐏去曾、私記云、如謂與古曾。
萬葉第二、皆曾伎賊乃夜、夢ニ所見鶴。
昨日、昨夜、共日本紀。
3 崇神紀、於河北而斬首過半、屍骨多溢。古事記、亦斬波布理其軍士、故號其地謂波布理曾能。古今云、身ハステツ心ヲタニモハフラサジ。
4 船餘、萬葉第四、大船乎、榜乃進爾、覆者、妹爾因者、古事記、仁徳天皇御歌、夜多能、比登母登須宜波、古母多受、多知迦阿禮那牟、阿多良須賀波良、許登袁許曾、須宜波良登伊波米、阿多良須賀志賣。師説、今ノ歌ノ末此意ニ同シ。
5 萬葉第二、天飛也輕路者、同第十一、天飛也輕乃社之齋槻、同第十五、安麻等夫也可里乃比備也。
6 履中紀、羽田汝者、羽田月、師説、高市郡也、萬葉、奴者

1 古事記云、此穴穂王子所作之矢者、即今時之矢也、此謂穴穂箭也。輕太子余時所作矢者、銅其箭之内、故號其矢謂輕箭也。

2 大前、小前、舊事紀第五、第八、ヲ考ルニ、兄ハ第二人也。

3 金戸、萬葉第四小金門爾、物共良爾、念有之、同第九、金門爾之、人乃来立者、同第十四、兒呂我可奈門欲、同由可久之要思毛、師説、今金門ヲ中略シテ、カドト云、門ハ鐵ニテ餝ル物ナレハ、不ハ加那登ト云ルナルヘシ。

4 脚帶、萬葉十一、朝戸出、公足結乎潤露原、同十七、ワカ久佐乃、安由比多津久利。雄略紀、大臣出立於庭、索脚帶。履中紀、是夜仲王子忘手鈴於黒媛之家歸焉。古事記、此歌者、宮人振也。

太子欲襲穴穂皇子而密設兵。穴穂皇子。復興兵將戰。故穴穂括箭輕括箭。始起于此時也。時太子。知羣臣不從。百姓乖違。乃出之匿物部大前宿禰之家。穴穂皇子。聞則圍之。

大前宿禰。出門而迎之。穴穂皇子。歌之曰

於朋摩幣。烏摩幣輸區泥餓。訶那杜加礙。訶區多智豫羅泥。阿梅多知夜梅牟。

（大前小前宿禰、金戸蔭、加久余理許泥（古事）如此御自立寄（指大前）雨立將止）

古事記曰、穴穂御子興軍圍大前小前宿禰之家、爾到其門時零大氷雨、故歌曰

大前宿禰答歌之曰

瀰椰比等能。阿由比能古輸孺。於智珥岐等。瀰椰比等等豫牟。佐杜弭等茂由梅。

（宮人、脚帶小鈴、落助、宮人散動、里人勤）

古事記、如此歌參歸白之、我天皇之御子、於伊呂兄王無及兵、若及兵者必人咲、僕捕以貢進、爾解兵退坐、故大前小前宿禰、捕其輕太子率參出以貢進。

乃啓皇子曰。願勿害太子。臣將議。由是太子。自死于大前宿禰之家。

雄略天皇　九首

○大泊瀬幼武天皇。是日。大舍人驟言於天皇曰穴穂天皇爲眉輪王見殺。天皇大驚。即猜兄等。被甲帶刀。率兵。自將逼問八釣白彦皇子。見其欲害。嘿坐不語。天皇乃拔刀而斬。更逼問坂合黒彦皇子。皇子亦知將害。嘿坐不語。天皇忿怒彌盛。乃復并爲欲殺眉輪王。案劾所由。眉輪王曰。臣元不求天位。唯報父仇而已。坂合黒彦皇子。深恐所疑。竊語眉輪王。遂共得間。而出逃入圓大臣宅。天皇使使乞之。大

臣。以使報曰。蓋聞。人臣有事。逃入王室。未見君王隱匿臣舍。方今坂合黑彦皇子與眉輪王深恃臣心。來臣之舍。誰忍送歟。由是。天皇。復益興兵圍大臣宅。大臣。出立於庭。索脚帶。時大臣。妻持來脚帶。愴矣。傷懷而歌曰

飫瀰能古簸。多倍能婆伽摩烏。那那陛嗚施。儞播儞陀陀始諦。阿遙比那陀須暮

大臣。裝束已畢。進軍門跪拜曰。臣雖被戮。莫敢聽命。古人有云。匹夫之志。難可奪。方屬乎臣。伏願。大王。奉獻臣女。韓媛與葛城宅七區。請以贖罪。天皇不許。縱火燔宅。於是大臣與黑彦皇子。眉輪王。俱被燔死。

○四年秋八月。辛卯朔。戊申。行幸吉野宮。庚戌。幸于河上小野。命虞人駈獸。欲躬射而待。虻疾飛來。嗜天皇臂。於是。蜻蛉忽然飛來。齧虻將去。天皇嘉厥有心。詔群臣曰。爲朕讃蜻蛉歌賦之。群臣。莫能敢賦者。天皇乃口號曰

野摩等能。鳴武羅能陀該儞。之之符須登。拖例柯擧能居登。飫褒磨陛儞麻烏須(一本易飫褒磨陛儞麻烏須以飫褒枳彌儞麻烏須)飫褒枳彌簸。賦(賊乎)據鳴枳訶斯題。拖磨磨枳能。阿娛羅儞陀陀伺(一本易伊麻伺)施都魔枳能。阿娛羅儞陀陀伺。斯斯魔都登。倭我伊麻西磨。佐謂麻都登。倭我陀陀西磨。陀俱符羅爾。阿武柯枳都枳都。曾能阿武鳴。蜩枳豆波野俱譬。波賦武志謀。飫褒枳彌儞摩都羅符。儺我柯陀播於柯武。蜩岐豆斯麻(已上三句古事皆我立一句)

1 萬葉第十一 栲白 同 第十三 雪穗
2 同 白細布 古事記(訓立云多多志)
3 匹夫 論語子罕篇云、匹夫モ志ヲ難可奪。
4 齊明紀、伊磐紀那屢、乎武例我禹杯儞。
5 萬葉第二、伎賊乃夜、大神宮神寶、廿一種內、玉纒横一(刀一柄刀形)、延喜式第一、倭文纒。和名鈔、風俗通云、靈帝好胡床、京皆作胡床(此間名云阿久良)、呉床(古事記)、阿遊胡簸爾志都、雄略紀、萬葉第五、久良宇知意岐。瓦、後橋。師說、後ノ方ヲ、倭文布ナトニテ、卷タルヲ云歟。
6 臂、手腓ノ意ナリ、臂ノ手ニアル所、喩ヘハ足ノ腓ノ如クナレハ、タコムラト云、師說。

[1] 古事記、故自其時號其野謂阿岐豆野也。

[2] 古事記、仲哀天皇段云、於是建内宿禰大臣白、恐我大皇、猶阿蘇婆勢其ノ大御琴。

[3] 古事記、其猪怒而宇多岐依來。師說、怒ル聲ニヤ。

[3] 在尾、萬葉第一、在根良、對馬乃渡。師說、此在根ト、今在尾ト同シ意ナルヘキ歟、在尾在テ久シキ嶺、在テ久シキ尾ト云ニヤ。

[5] 漢高祖紀、嵩呼萬歳三。

樋口氏

[7] 獵得、善言。

萬葉第十三、隱來之長谷之山青幡之忍坂山者走出之宜山之出立之妙山叙走出、出立共ニ山ノ宜出タル也。

[8] コヽロ裏、毛詩。師說下心ノ意ナリ。御心ノ底ニトホリテ奇妙ナル山ト思シメス由也。

野麻登（大和）一云、[illegible]

因讚蜻蛉名此地爲蜻蛉野。

○五年春二月、天皇狡獵于葛城山。靈鳥忽來。其大如雀。尾長曳地。而且鳴曰、努力努力。俄而見逐嗔猪從草中暴出追人。獵徒緣樹大懼。天皇詔舍人曰、猛獸逢人則止。宜逆射而且刺。舍人性懦弱。緣樹失色、五情無主。嗔猪直來欲噬天皇。天皇用弓刺（本）止、擧脚踏殺。於是田罷。欲斬舍人。舍人臨刑而作歌曰

野須瀰斯志。倭我飫裒枳瀰能。阿蘇磨斯志。斯斯能。宇柁枳舸斯固瀰。倭我尼礙能裒利志。阿理嗚能宇倍能。婆利我曳陀阿西嗚（三字古无）

（在尾上）（波理能紀能延陀（古事））（榛之枝上（景行紀尒））

皇后聞悲、興感止之。詔曰、皇后不與天皇而顧舍人。對曰、國人皆謂、陛下安野而好獸。無乃不可乎。今陛下以嗔猪故而斬舍人。陛下譬無異於豺狼也。天皇乃與皇后上車歸。呼萬歳曰、樂哉。人皆獵禽獸、朕獵得善言而歸。

○六年春二月壬子朔。乙卯、天皇遊于泊瀬小野。觀山野之體勢、慨然興感歌曰

擧暮利矩能。播都制能野磨播。伊底柁知能。與慮斯企野摩。和斯里底能。與盧斯企野麻能。擧暮利矩能。播都制能夜麻播。阿野儞于羅虞波斯。阿野儞于羅虞波斯。

於是名曰小野。曰道小野。

○十二年冬十月。癸酉朔。壬午。天皇命木工闘雞御田。始起樓閣。於是御田登樓疾走四面。有若飛行。時有伊勢采女。仰觀樓上。恠彼疾行。顚仆於庭。覆所擎饌。（饌者御膳之物也）天皇便疑御田姧其采女。自念將刑而付物部。時秦酒公侍坐。欲以琴聲使悟於天皇。横琴彈曰

柯武柯筮能。伊勢能。伊勢能奴能[1]。娑柯曳鳴。伊褒甫流柯枳底[2]。志我都矩屡麻泥爾[3]。飫褒枳彌爾。柯柂倶都柯倍摩都羅武騰。倭我伊能致謀。耶我倶殆鶏騰。伊比志柂倶彌皤夜。阿陀羅陀倶彌皤夜[4]

於是天皇悟琴聲而赦其罪。

○十三年春三月。狹穗彦玄孫。齒田根命。竊姧采女山邊小嶋子。天皇聞。以齒田根命收付於物部目大連而使責讓。齒田根命。以馬八疋。太刀八口。祓除罪過。既而歌曰

耶摩能謎能。故思摩古喩衞爾。比登涅羅賦[5]。宇摩能耶都擬播。鳴思稽矩謀那斯

○秋九月。木工猪名部眞根。以石爲質。揮斧斲材。終日斲之不誤傷刃。天皇遊詣其所而恠問曰。恒不誤中石耶。眞根答曰。竟不誤矣。乃喚集采女。使脱衣裙而著犢鼻。露所相撲。於是眞根暫停仰視而斲。不覺手誤傷刃。天皇因責讓曰。何處奴。不畏朕。用不貞

1 伊勢野、猶レ有二武蔵武蔵野一
2 所レ食、上ニ府ノ語茂利ノ府保ノ如シ。
3 巳盡、采女カエコリ、老ニ至ルマテ也、是ヲ序トシテ、以下ハ御田カ事ヲ云ヘリ、メツラシキ作ナリ。師説
4 仁賢紀、吾夫ハ怜矣（此云二阿我𪫧摩播耶一）トアレハ、アハレフ義也。
5 誇ル意ナリ、又鞍ハ、鞍ニ調シテ、柔ニナリテ、人御ル、ヲ云歟。師説

心妄輙答。仍付物部使刑於野。爰有同作巧者。歎惜眞根而作歌曰

萬葉第十一、[illegible]斐太人乃[illegible]和名鈔[illegible]縄墨[illegible]

婀柁羅斯枳。偉儺謎能陀倶彌。柯該志須彌儺皤。旨我那稽麼。柁例柯柯該武豫。婀柁羅須彌儺皤。

天皇聞是歌。反生悔惜。喟然頽歎曰。幾失人哉。乃以赦使。乘於甲斐黑駒。馳詣刑所。止而赦之。用解徽纏。復作歌曰

夜干玉、野干玉、烏玉、黑玉、（共萬葉奴波多麻）和名鈔本草云、射干一名烏羽、（射音夜、和名加良須安布木）萬葉第十三　烏玉之黑馬爾乘而

農播柁麿能。柯彼能矩盧古麿。矩羅枳制播。伊能致志儺磨志。柯彼能倶盧古麿。（句絶　一本云、伊志柯（不及）阿羅麿志）

（二）二十三年。五月辛丑朔。天皇寢疾不豫。

是時。征新羅將軍。吉備臣尾代。行至吉備國過家。後所率五百蝦夷等。聞天皇崩。乃相謂之曰。領制吾國。天皇既崩。時不可失也。乃相聚結侵寇傍郡。於是。尾代從家來會蝦夷於娑婆水門。（周防郡）合戰而射蝦夷等。或踊或伏。能避脫箭。終不可射。是以尾代空彈弓絃於海濱上。射殺踊伏者二隊。二嚢之箭。既盡。卽喚船人索箭。船人恐而自退。尾代乃立弓執末。而歌曰

彌致儞阿賦耶。嗚之慮能古。阿母儞擧曾。枳擧曳儒阿羅毎。矩儞々播枳擧曳底那。

唱訖自斬數人。更追至丹波國浦掛水門。盡逼殺之。

顯宗天皇　四首室壽一

○雄許天皇。久居邊裏。悉知百姓憂苦云云 穴穗天皇三年。十月。天皇。父市邊押磐皇子。及帳內佐伯部仲子。於蚊屋野。爲大泊瀨天皇見殺。因埋同穴。於是天皇與億計王。聞父見射。恐懼皆逃亡自匿。云云 天皇勸兄億計王向播磨國。赤石郡。倶改字。曰丹波小子。就仕於縮見屯倉首。云云 白髮天皇二年冬十一月。播磨國司。山部連先祖。伊與來目部小楯。於赤石郡親辨新[1]嘗供物。適會縮見屯倉首縱賞新室以夜繼晝爾乃。天皇。謂兄億計王曰。避亂於斯年。踰數紀。顯名著貴方屬今宵。億計王。惻然歎曰。其自導揚見害 孰與全身免厄（危イ）也歟。天皇曰。吾是去來穗別天皇之孫。而困事於人。飼牧牛馬。豈若顯名被害也歟。遂與億計王相抱涕泣。不能自禁。億計王曰。然則非弟誰能激揚大節。可以顯著（乎イ）。天皇。固辭曰。僕不才。豈敢宣揚德業。億計王曰。弟英才賢德。爰無以過。如是相讓 再三而果使天皇自許稱述 倶就室外居乎下風。屯倉首命 居竈傍。左右秉燭。夜深酒酣。次第儛訖。屯倉首。謂小楯曰。僕見此秉燭者。貴人而賤己。先人而後己。恭敬樽節。退讓以明禮。可謂君子。於是。小楯。撫絃 命秉燭者曰起儛。於是。兄弟相讓久而不起。小楯。嘖之曰。何爲太遲。速起儛之。億計王。起儛旣了。天皇。次起自整衣帶。爲室壽曰。築立。稚[2]室葛根。築立柱者。此家長。御心之鎭也。取擧棟[3]梁者。此家長。御心之林[5]也。取置椽橑（木）者。此家長。御心之齊也。取置[4]蘆萑者。此家長。御心之平也。取結繩葛者。此家長。御壽之堅

1 新嘗 大嘗會起源。
2 稚室、私記曰、師說、新室也。
3 和名鈔、釋名云欀（音襄、和名、太流岐、漢語抄云、波閉岐）在檼旁下垂也、兼名苑、一名橑、一名椽（音傳）。
4 蘆萑（自註云、ーー、此云三哀都利。萑音之潤反）。和名鈔、楊氏漢語抄云、棧（瓦乃衣都利、初限反）、日本紀私記云、蘆萑（訓名同上）、今案、唐韻注、胡官反、葦也、然則以蘆萑爲棧非也）。
5 林、萬葉第十六、乞食者詠云、吾角者、御笠乃波夜詩。吾毛等者、御筆波夜斯、吾宍者、御奈麻須波夜志。

1 出雲者新墾、私記曰、師說、出雲者良田之名也、言新墾之良田多稼如雲之出也。
2 淺甕、和名鈔、大朝式云、所出（佐良介、今案、色立成云、淺甕、和名同上）。
3 餌香市、河內國、錦部郡、餌香（安加）。
4 牡鹿、兼方案之喩手吾儛之姿也。
5 萬葉第十一卷戈之、道行彼、伊奈武思伊、數毛君乎、將見因母鴨、同第八、伊奈之呂、河向立
6 字意、私記曰、舞狀者、乍立乍居而舞、今之立舞是也。
7 事第三、皆々、等縵等之祖、兼方案之彼茅者、其所也、茅原川下、茅名也。弟日僕者、顯宗、皇之御名日、仁賢天皇之弟之由歟。
8 兼方按之、石上振之神榲者、伐本截末之義語也、伐木者、營作宮之義也。
9 市邊宮治天下者、顯宗仁賢兩帝之父。
10 皇子也）也、天皇國萬者、爲歟、今按、樂之詞、初手

也。取萱草葉者。此家長御富之餘也。出雲者新墾。新墾之十握稻之穗。於淺甕釀酒。美飲喫哉。（美飲喫哉此云于魔羅儞烏野羅甫屢柯倭也）吾子等。（子者男子之通稱）脚日木。此傍山。牡鹿之角（牡鹿此云左烏子加）擧而吾儛者。旨酒餌香市。不以直買。手掌摎亮（手掌摎亮此云陀那則擧謀耶羅羅儞）拍上賜。吾常世等。壽畢乃起節歌曰

伊儺武斯廬。哿簸泝比野儺擬。寐逗愈凱磨。儺毘企於己陀智。曾能泥播宇世儒（稻莚　河傍柳　水行者　靡起立　彼根者不失）

小楯。謂之曰。可怜。願復聞之。天皇遂作殊儛。（殊儛古謂之立出儛。立出此云陀豆豆。儛狀者乍起乍居而儛之）天皇詰之曰。倭彼彼茅原。淺茅原。弟日僕是也。小楯由是深奇異焉。更使唱之。天皇詰之曰。石上振之神榲（榲此云須擬）伐本截末（伐本截末此云謨登岐利須衛於茲婆羅比）於市邊宮治天下。天萬國萬。押磐尊御裔僕是也。小楯大驚離席。悵然再拜。承事供給。率屬欽伏。於是悉發郡民造宮。不日權奉安置。乃詣京都求迎二王。白髮天皇聞憙咨歎曰。朕無子也。可以爲嗣。與大臣大連定策禁中。仍使播磨國司來目部小楯持節將左右舍人至赤石奉迎。白髮天皇三年春正月。天皇隨億計王到攝津國。使臣連持節以王青蓋車迎入宮中。（古事記云、將儛時、爲詠曰、物部之我夫子之取佩於太刀之手上。丹畫著。其緒者載赤末押縻。魚簀如調八絃琴所治賜天下伊邪本和氣天皇之御子市邊之押齒王之奴）

○春正月。白髮天皇崩。是月。皇太子億計王與天皇讓位久而不處。由是天皇姉飯豐青皇女於忍海角刺宮臨朝秉政。自稱忍海飯豐青尊。當世詞人歌曰

野麻騰陛儞。瀰我保指母能婆。於尸農瀰能。莒能陀哿紀儺屢。都奴娑之能瀰野（大和邊　見之欲　牝　忍海郡名　此　高城（角刺也）在　角刺　宮（葬宮室也））

文選九歌註、離ハ羅也。[1]

冬十一月、飯豐青尊崩。

○元年二月、戊戌朔壬寅、詔曰、先王遭離多難、殞命荒郊。朕在幼年亡逃自匿。猥遇求迎、升纂大業。廣求御骨、莫能知者。詔畢與皇太子億計、泣哭憤惋、不能自勝。是月召聚耆宿、天皇親歷問。有一老嫗進曰、置目知御骨埋處。請以奉示。（置目ハ老嫗ノ名也。近江ノ國狹狹城山ノ君ノ祖、倭帒宿禰之妹。名ハ曰置目。）於是天皇與皇太子億計（王（國史））、將老嫗婦幸于近江國來田綿（絮（國史））蚊屋野中、掘出而見。果如婦語。臨穴哀號、言深更慟。自古以來、莫如斯酷。仲子之尸、交横御骨、莫能別者。爰有磐坂皇子之乳母。奏曰、仲子者上齒墮落。以斯可別。於是雖由乳母相別髑髏、而竟難別四支諸骨。由是仍於蚊屋野中、造起雙陵、相似如一。葬儀無異。詔老嫗置目、居于宮傍近處。優崇賜郵、使無乏少。是月詔曰、老嫗伶俜羸弱、不便行歩。宜張繩引絙、扶而出入。繩端懸鐸[2]、無勞謁者。入則鳴之。朕知汝到。於是老嫗奉詔、鳴鐸而進。天皇遙聞鐸聲、歌曰、

阿佐膩簸羅（淺茅原）嗚唅爾嗚須擬（袁陀爾袁須疑[3]（古事） 所名乎過）謨謀逗拖甫（百傳）奴底喩羅俱慕與（鐸響）於岐毎俱羅之慕（置目來助）

○二年九月、置目老困、乞還曰、氣力衰邁、老耄虛羸。要假扶繩、不能進歩。願歸桑梓、以送厥終。天皇聞惻痛、賜物千段。逆傷岐路、重感難期。乃賜歌曰、

於岐毎慕與（意岐米母夜（古事） 置目 助語）阿甫彌能於岐毎（淡海寄沖乎）阿須用利簸（從明日）彌野磨我俱利底（深山隱）彌曳孺哿謨阿羅牟（不見歟 將有）

2 和名鈔、鈴條下云、漢語抄云、鈴子（須須）、三禮圖云、鐸、音澤、大之鈴、其巨以銅爲ル也。

3 神功皇后紀、中臣烏賊津使主、[illegible]風俗勢國ノ[illegible]百傳[illegible]之、析鈴五十鈴[illegible]居神、萬葉第三、百傳[illegible]池。古事記、應神天皇、毛毛[illegible]多布、都奴賀[illegible]邇。

1 紀日本紀十一、天平六年、二月癸巳朔、天皇御朱雀門、[illegible]歌垣、男女二百四十餘人。

2 萬葉第四、難波方[illegible]之名、同第七、[illegible]海之朝開之[illegible]。

3 師說、[illegible]カ[illegible]モナク儀勢ヲナシテ振舞ヲ鮪ト云名ヨリヒレヲヒロケテ[illegible]ルニ喩ヘサセ[illegible]ヘル[illegible]。

4 私ノ家ノ垣ヲハ韓垣ト云テ、朝[illegible]ノ垣ヲハ[illegible]垣ト云ハ、[illegible]シテ[illegible]臣ノ道[illegible]ヲ易タリ　師說

5 師說、[illegible]子ナトスルヲカクト云、是乎。

6 謀、古事記、此ヨリ句々替リテ、四句アリ、夜-布(八府)士-[illegible]-理(志)[illegible]-麻-理(結)母[illegible]-木-[illegible](囲)岐-(結-牟(將レ斷)志-[illegible]加岐、夜-氣-[illegible](將燒)志[illegible]加-岐

武烈天皇　九首

○小泊瀬稚鷦鷯天皇。億計天皇崩。大臣。平群眞鳥臣。專擅國政。欲王日本。於是。太子。思欲聘物部麁鹿火大連女。影媛。遣媒人向影媛宅期會。影媛會姧眞鳥大臣男。鮪。恐違太子所期。報曰。妾望奉待海柘榴市巷。由是太子欲往期處。遣近侍舍人。就平群大臣宅。奉太子命。求索官馬。大臣戲言陽進曰。官馬爲誰飼養。隨命而已。久之不進。太子懷恨。忍不發顏。果之所期。立歌場衆。執影媛袖。躑躅從容。俄而鮪臣來排太子與影媛間。立。於是。太子放影媛袖。移廻向前。立直當鮪歌曰

之裒世能。儺嗚理鳴彌黎魔。阿蘇寐俱屢思寐我。簸多泥儞。都摩陀弖理彌喩

（潮瀬之　一云易ニ見ニ　餘波ヲ　遊來　鮪　鰭手　妻(影媛)立　有所見）

鮪答歌曰

飫彌能古能。耶陛耶賀羅賀枳。瑜屢世登耶彌古

（臣子ハ　八重　韓垣　許　皇子）

太子歌曰

飫裒拕檝嗚。多黎播枳多檝弖。農賀儒登慕。須衞婆陀志弖謀。阿波夢登茹於謀賦

（大刀　垂帶　立　不拔　末果　將會　念）

鮪臣答歌曰

飫裒枳瀰能。耶陛能矩瀰何枳。舸々梅騰謀。儺嗚阿摩之耳彌。舸々農俱彌柯枳

（古能志婆加岐(古事)　八重　組垣　雖將　不堪乎　名　汝甘乎　鮪(其ナ夫ナレバト謂也)不レ組　組垣）

太子歌曰

於彌能姑能耶賦能之摩哿枳始陀騰余彌耶爲我與簸據麼耶黎夢之摩柯枳

太子贈影媛歌曰

擧[2]騰我彌儺枳謂屢箇皚比謎拖摩儺羅麼婀我褒屢拖摩能婀波寐之羅陀魔（萬葉、和名）

鮪臣爲影媛答歌曰

於褒枳彌能彌於寐能之[3]都波拖夢須寐陀黎陀黎耶始比登謀阿避於謀婆儺倶儞

太子甫知鮪曾得影媛、悉覺父子無敬之狀、赫然大怒、此夜速向大伴金村連宅、會兵計策、大伴連將數千兵、徼之於路、斬鮪臣於乃樂山。是時影媛逐（本）行戮處、見是戮已、驚惶失所、悲涙盈目、遂作歌曰

伊須能箇彌賦屢嗚須擬底、擧[4]慕摩矩羅拖[5]箇幡志須擬、慕[6]能娑播儞於褒野該須擬、播屢比能箇須我須擬、逗[7]摩御慕屢嗚佐褒嗚須擬、拖摩[8]該儞播伊比佐倍母理、[9]拖摩暮比儞彌逗佐倍母理、儺岐曾保遲喩倶謀、柯屢比謎阿婆例

於是影媛收埋既畢、臨欲還家、悲鯁而言、苦哉今日失我愛夫郎、便灑涕愴矣纏心歌曰

婀嗚儞與志乃樂能[10]婆娑摩儞斯[11]斯貳暮能彌[12]逗矩陛御暮利彌儺曾曾矩思寐能和倶吾鳴呵

1 萬葉第十四、[illegible]、毛[illegible]

2 神功皇后紀云、三月壬申朔、皇后、選吉日、入齋宮、親爲神主、則命武內宿禰令撫琴、喚中臣烏賊津使主、爲審神者、因以千繒高繒、置琴頭尾、而請曰、先日教天皇者、誰神也、願欲知其名、逮于七日七夜乃答曰、琴頭ニハ、琴ヲ降シ、ラスル時、琴ヲ彈ハ、琴ノ頭ニ影ノ下フ故、影トツケテ云フヘキ枕詞ナリ。

3 天武紀下、倭文、此云之頭於利。萬葉第三、古昔、有家武人之、倭文幡之、帶解替而、萬葉第十一、去家之倭文旗帶乎結垂、孰云人毛君者不益、一書云、誰之能人毛。

4 私記云、師說、古以蒋爲枕、記云、高之眼用須、故欲言高之始有此言乎。神樂、小前張、薦枕、高瀨淀、三代實錄云、薦枕、高

5 御蔭（麿カ）栖日神社。崇神紀、高橋邑ノ人活日、神名帳、添上郡、高橋神社、萬葉第十二、石上、振之高橋

6 私記云、家多物、故有此發語乎、和名鈔、添上郡、大宅、

7 裝佐褒、師說、裝屋トツクル也、佐ト夜通、綏靖紀、一發再發、武烈、一箭。

8 和名鈔調記注云、笥（思吏反、和名計）盛食器也、

9 同云、說文云、簞（烏□反）字亦作簏、辨色立成云、俗云毛比、小笥也。

タマモヒニ水サヘモリ、古來ヨリ死人ニ水ヲ手向ルトミエタリ。

10 皇極紀、谷、此云、波佐麻、

11 萬葉第二、伊波比伏者、第六、十六、白物（鹿ノコト）

12 同第十六、□□行者、美都久屍、又□□實□元年二月詔詞中、

萬葉第廿、□久志奈美、豆久白□、師說、調ツク、紀中ミツクハ、是等ニ有テ水ノ意トオホシ。

[illegible]豪羅迩那僥能古

[illegible]

継體天皇 四首

○男大迹天皇七年九月、勾大兄皇子親聘春日皇女、於是月夜清談、不覺天曉、斐然之藻忽形於言、乃口唱曰、

野絁磨倶儞都磨々柯泥底、播屢比能哿須我能倶儞々、倶婆絁謎鳴阿利等枳枳底、與慮志謎鳴阿利等枳枳底、莽紀佐倶避能伊陀圖鳴飫斯毗羅枳、倭例以梨魔志、阿都圖利都麼怒利絁底、魔倶羅圖唎都魔怒唎絁底、伊慕我提鳴倭例儞魔柯絁毎、倭我提鳴麼伊慕儞魔柯絁毎、麼左棄逗羅多々企阿藏播梨、矢洎矩矢慮于魔伊儞矢度儞、儞播都等唎柯稽播儺倶、野都等利枳蟻矢播等余武、婆絁稽矩謨伊摩娜以播孺底、阿開儞啓梨倭蟻慕、

○妃和唱曰、

莒母唎矩能、簸都細能哿波庚、那我例倶屢、駄開能、以矩美娜開余嚢開、漠等陛鳴麼、莒等儞都

5 萬葉第七、[illegible]、マサネカツラノ遥ニ[illegible]、マサキツラトイヘリ、[illegible]

6 句續、一[illegible]カタシ、[illegible]

古事記、[illegible]曾陀多岐、多々岐[illegible]

遊仙窟、[illegible]

7 又手、又アザナフ、和名、[illegible]

校倉（[illegible]）ハ、組トモ云、アゼカヤス、[illegible]

8 マアサカヤス、アサカヤス、

マセカヤス。

肉弗、和名鈔、[illegible]韻云、弗[illegible]（初限反、[illegible]）、[illegible]內

同和名、夜[illegible]之）、[illegible]

弗也、萬葉第九[illegible]（一字[illegible]）[illegible]

9 三[illegible]宿、萬葉第十二、[illegible]人之宿、[illegible]

10 宿者不[illegible]、[illegible]

可[illegible]、萬葉第七、庭津鳥、

可[illegible]

萬葉第三、[illegible]

11 [illegible]

萬葉第三、家有者、妹之手

將[illegible]

同、[illegible]、人之[illegible]

12 [illegible]

古事記、雄略天皇御歌、波

其ニテ筝ハ竹ニテ作レリトミユ、[illegible]也云々、無名抄和琴二[illegible]

13 [illegible]、和名鈔、[illegible]

[illegible]

1吹鳴、萬葉第二、吹響之、小角乃音母、同第十一、時守之、打鳴鼓ナス
箏笛、是ハ竹ノ同根ナルヲハ、同胞ニナルニ喩ヘ、本ノ方ヲ、箏ニ作レルヲハ、皇子ニ喩ヘ、末ノ方ヲ、笛ニ作ルヲハ、自ラ喩ヘサセ玉フ歟、毛詩ニモ、妻子好合如鼓瑟琴、トアル如ク、絲竹ノ音ノ和ラキカナフモノハ、夫婦ノ道、トノホリテ、善名アマネク聞ユルニ喩ヘタマフ歟。

2我大君、[illegible]ヤスミシ、我大君[illegible]ヘリ。

3所帶、萬葉第九、三諸乃神能帶爲泊瀨河[illegible]

4[illegible]作ル人片[illegible]漢書不ノ識[illegible]樋口氏

5娶其[illegible]長居[illegible]吉備内臣[illegible]馬山[illegible]仍[illegible]曰、吉備内臣[illegible]新羅[illegible]宜[illegible]伎[illegible]
中形、今按、對馬ヨリ上ル道スカラノ内ノ名乎。

6萬葉第十五、牟可之欲里、伊比[illegible]乃、加良久爾[illegible]毛已許[illegible]和可須[illegible]可聞。

倶利。須衛陛鳴磨府曳爾都具利府企儺須美母慮我紆倍爾能朋梨陀致倭我彌細磨都奴
娑播府。以簸例能伊開能美儺矢駄府紆鳴謨紆倍爾堤堤那皚矩野須美矢矢倭我於朋枳美
能於魔細屢娑佐羅能美於祢能武須彌陀例駄例夜矢比等母紆陪爾泥堤那皚矩

○二十四年冬十月。調吉士至自任那奏言。毛野臣爲人傲佷不閑治政。竟無和解擾亂加羅。又倜儻任意而思不防患。故遣目頬子徵召。是歳毛野臣被召到于對馬逢疾而死。送葬尋河而入近江。其妻歌曰

比攞哿駄喩。輔曳輔枳能朋樓阿符美能野愷那能倭倶吾伊輔曳符枳能朋樓

目頬子初到任那時。在彼郷家等贈歌曰

柯羅屢儞嗚以柯儞輔居等所梅豆羅古枳駄樓武哿左屢樓以祇能和駄利嗚梅豆羅古枳駄樓

欽明天皇 二首

○天國排開廣庭天皇二十三年秋七月。遣大將軍紀男麻呂宿禰將兵出哆唎。副將河邊臣瓊缶出居曾山。而欲問新羅攻任那之狀。云云。河邊臣瓊缶獨進轉鬪。所向皆拔。新羅更擧白旗投兵降首。河邊臣瓊缶元不曉兵。對擧白旗空爾獨進。新羅鬪將曰。將軍河邊臣今欲降矣。乃進軍逆戰。盡鋭遄攻破之前鋒所傷甚衆。倭國造手彥自知難

救棄軍遁逃。新羅闘將手持鉤戟追至城洫運戟擊之。手彥因騎駿馬超渡城洫。僅以身免矣。於是河邊臣遂引兵退急營於野。於是士卒盡相欺蔑莫有遵承。闘將自就營中悉生虜河邊臣瓊缶等及其隨婦。于時父子夫婦不能相恤。闘將問河邊臣曰。汝命與婦孰與尤愛。答曰。何愛一女以取禍乎。如何不過命也。遂許爲妾。闘將遂於露地奸其婦女。婦女後還。河邊臣欲就談之。婦人甚以慙恨而不隨曰。昔君輕賣妾身。今何面目以相遇。遂不肯言。是婦人者坂本臣女。曰甘美媛。同時所虜。調吉士伊企儺爲人勇烈。終不降服。新羅闘將拔刀欲斬。逼而脫褌。追令以尻臀向日本大號叫曰。日本將嚙我臗脽。即叫曰。新羅王啗我臗脽。雖被苦逼尙如前叫。由是見殺。其子舅子亦抱其父而死。伊企儺辭旨難奪皆如此。由此特爲諸將帥所痛惜。其妻大葉子亦見禽。愴然而歌曰

柯羅俱爾能。基能倍爾陀致底。於譜磨故播。比例甫囉須母。耶魔等陛武岐底

或有和曰

柯羅俱爾能。基能倍爾陀陀志。於譜磨故幡。比禮甫羅須彌喩。那爾婆陛武岐底

萬葉第五、大伴佐提比古郎子、特被朝命、奉使藩國、艤棹言歸、稍赴蒼波、妾也松浦佐用嬪、嗟此別易、歎彼會難、卽登高山之嶺、遙望離去之船、悵然斷肝、黯然銷魂、遂脫領巾麾之、傍者莫不流涕、因號此山曰、領巾麾之嶺也。

推古天皇　三首

○豐御食炊屋姫天皇。二十年春正月辛巳朔丁亥。置酒宴群卿。是日大臣上壽歌曰（蘇我馬子）

1八十蔭、師説、次ノ二句ノツヽキヲ以テ見レハ、日ノ異名ナリ、日ハ木蔭ニ依テ、雨ヲサリ、暑サヲ凌ク如クナレハ蔭ナルヘシ。

2公望私記、因常立尊ノ下注云ハ、假令謂レ打爲ニ乎加無ニ言、是乎-都加-加-無也。

3宴、宇多介、紀中、古事記、布母加母、佐加美豆久良、萬葉第十八佐可彌豆伎、伊賑須和我於保伎美可舟、又云左加美都伎、安蘇比奈具禮止、同第十九酒見附、榮流今日之、師説、宴字ト引合ニ酒宴事ナリ、私記云、師説、言ハ獻ニ此歌ニ且加之。

4津-支奉也。

5私記云、日向國出ニ千里駒ニ、神代紀、牝韓ノ鋤之ノ劔

6枳、治定ノ詞也、然ルヲ、今疑フ詞ノ末ニ、ソヘ下ヘル點今ノ詞ツカヒニテハ、承得カタシ。

7萬葉第九、級照片足羽河、遊仙窟、楽王緣階奏差於雁。

8展（共古伴萬葉）。古事記、都久由美許夜流許夜理母、

9刺竹、萬葉第十一、刺竹齒隱有吾背子之是寄物陣思部中寄草、萬葉大宮トモ皇子トモツヽケタリ。古事記、賑岐牟久毘比志呂乃美夜波、夜多氣能泥能泥陀流美夜、許能泥婆布美夜、竹根之根足宮木根之根蔓宮ナリ。

酒（以下三句合而見ニ日出之空ニ也）

夜須瀰志斯。和餓於朋耆瀰能。訶句理摩須。阿摩能椰蘇訶礙。異泥多多須。瀰蘇羅鳴瀰禮磨。豫呂豆余珥。訶句志茂餓茂。知余珥茂。訶句志茂餓茂。知余珥茂。訶句志茂餓茂。訶之胡瀰弖。莵加倍摩都羅武。烏呂餓瀰弖。莵伽倍摩都羅武。宇多豆紀摩都流

天皇和曰

摩蘇餓豫。蘇餓能古羅破。宇摩奈羅摩。譬武伽能古摩。多知奈羅摩。勾禮能摩差比。宇倍之訶茂。蘇餓能古羅烏。於朋枳瀰能。莵伽破須羅志枳

○二十一年。冬十一月。自難波至京置大道。十二月庚午朔。皇太子遊行於片岡。時飢者臥道垂。仍問姓名。而不言。皇太子視之與飲食。即脱衣裳覆飢者而言。安臥也。則歌之曰

斯那提流。箇多烏箇夜摩爾。伊比爾慧弖。許夜勢屡。諸能多比等阿波禮。於夜那斯爾。那禮奈理鶏迷夜。佐須陀氣能。枳彌波夜那祇。伊比爾惠弖。許夜勢留。諸能多比等阿波禮

辛未。皇太子。遣使令視飢者。使者還來之曰。飢者既死。爰皇太子。大悲之。則因以葬埋於當處。墓固封也。數日之後。皇太子召近習者謂之曰。先日臥于道飢者。其非凡人。爲必眞人也。遣使令視。於是使者還來之曰。到於墓所而視之封埋。勿動。乃開以見屍骨既空。唯衣服疊置棺上。於是皇太子。復返使者令取其衣。如常且服矣。時人大異之曰。

哭之知レ哭其實 哉 逢 惶

舒明天皇 一首

息長足日廣額天皇。於是摩理勢臣進無レ所レ歸。乃泣哭更還之居於家十餘日。泊瀨王忽發レ病

薨。爰摩理勢臣曰、我生之誰特矣。大臣將レ殺境部臣而興レ兵遣之。境部臣聞軍至、率仲

子阿椰、出于門坐胡牀而待。時軍至乃令來目物部伊區比以絞之。父子共死。乃埋同

處。唯兄子毛津逃匿于尼寺瓦舍。即姧一二尼。於是一尼嫉姤令レ顯。圍レ寺將レ捕。乃出之。

入畝傍山。因以探レ山。毛津走無レ所レ入。刺レ頸而死山中。時人歌曰

于泥備椰摩、虛多智于須家苦多能、彌介茂虛靈能和區異能、虛茂羅勢利都母

畝傍山(高市郡)木立薄遮敢[1]毛津若子將篭自

皇極天皇 七首

○天豐財重日足姫天皇元年。是歲。蘇我大臣蝦夷立己祖廟於葛城高宮。而爲八佾之儛。遂

作レ歌曰

野麻騰能、飫斯能毗稜栖鳴倭、拕羅務騰阿、庸比拕豆矩梨、擧始豆矩羅符母

大和之忍廣瀨[2]將レ渡(葛城高宮)腰帶手作自裝

○二年。冬十月丁未朔。壬子。蘇我大臣蝦夷、緣レ病不レ朝。私授紫冠於子入鹿。擬大臣位。復呼

其弟曰物部大臣。大臣之祖母物部弓削大連之妹。故因母財取威於世。戊午。蘇我臣入

鹿獨謀レ將レ廢上宮王等而立古人大兄爲天皇。于時有童謠曰

舒明天皇之皇子也

1 甲谷帳、大和國、高市郡、彼君稻置神社。若是毛津カ叮靈乎。

2 葛上郡ノ北ハ、忍海郡ナレハ、彼處ニアル河ノ、廣キ瀨トスベキナリ。萬葉第十七、ニ可久佐波、安由比乃可是久和、時、揭ム之意。

伊波能杯儞古佐屢渠梅野倶渠梅多儞母多擬底騰褒羅栖歌麻之之能烏賦

時人說前謠之應曰。以伊波能杯儞而喩上宮。以古佐屢而喩林臣。以渠梅野倶而喩燒上宮。以渠梅拕儞母陀擬底騰褒羅栖柯麻之之能鳴賦而喩山背王之頭髮班雜毛似山羊。又曰。棄捨其宮匿深山相也

○三年夏六月。癸卯朔乙巳。志紀上郡言。有人於三輪山見猿晝睡。竊執其臂不害其身。猿猶合眼歌曰

武舸都烏爾陀底屢制羅我儞古禰擧曾倭我底鳴騰羅毎拕我佐基泥基佐泥曾母野倭我底騰羅須謀野

其人驚怪猿歌放捨而去。此是經歷數年上宮王等爲蘇我鞍作圍於膽駒山之兆也

○戊申於劍池蓮中有一莖二萼者。豐浦大臣妄推曰。是蘇我臣將榮之瑞也。卽以金墨書而獻大法興寺丈六佛。是月國內巫覡等折取枝葉懸掛木綿。伺大臣度橋之時。爭陳神語入微之說。其巫甚多。不可具聽。老人等曰。移風之兆也。于時有謠歌三首。其一曰

波魯波魯儞渠騰曾枳擧喩屢之麻能野父播羅

其二曰

1 萬葉第二、妻毛有者採而多宜麻之。
2 和名鈔、爾雅注云、麢羚羊、爾雅注云――力丁反。或作䍮。和名加萬之々、大於羊而大角者也。

2 制羅我、未名義、未知何本。

1 万葉第七、… 見之君乎 阿婆乃野之花橘之珠拾 神名帳、… 上… 河、… 神社、是乎。

烏智可拖能（彼方）阿婆努能枳枳始（雉（由背十兒）不令響）騰余謀作儒倭例播爾（我（入賣）者置寢）始柯騰比騰曾騰余謀須（人（中大兄鎌子）令響）

其三曰

烏麻野始爾（小林（林臣））倭例烏比岐例底（引二入 吾）制始比騰能（為（引入事）人）於謀提母始羅儒（面不知）伊弊母始羅儒母（家不知）

於是。或人説曰。此即宮殿接起於嶋大臣家。而中大兄與中臣鎌子連。密圖大義謀戮入鹿之兆也。

説第二謠歌曰。此即上宮王等性順都無有罪。而為入鹿見害。雖不自報。天使人誅之兆也

説第三謠歌曰。此即入鹿臣忽於宮中為佐伯連子麻呂。稚犬養連網田所斬之兆也。

○秋七月。東國不盡河邊人。大生部多。勸祭蟲於村里之人曰。此者常世神也。祭此神者致富與壽。巫覡等。遂詐託於神語曰。祭常世神者。貧人致富。老人還少。由是加勸捨民家財寶陳酒陳菜六畜於路側。而使呼曰。新富入來。都鄙之人。取常世蟲。置於清座。歌儛求福棄捨珍財。都無所益。損費極甚。於是葛野秦造河勝。惡民所惑。打大生部多。其巫覡等恐休其勸祭。時人。便作歌曰

禹2都麻佐波（太秦）。柯3微騰母柯微騰。枳舉曳倶屢（所聞來）。騰舉預能柯微乎（常世神）。宇智岐多麻須母（令打懲）

此蟲者。常生於橘樹。或生於蔓椒（蔓椒此云褒曾紀）。其長四寸餘。其大如頭指許。其色緑而有黑點。其貌全似養蠶。

2 古語拾遺云、至於長谷朝倉朝、秦氏分散寄隷他族、秦酒公進仕蒙寵、詔聚秦氏賜於酒公、仍率百八十種勝部、蠶織貢調、充積庭中、因賜姓宇豆麻佐（言隨積埋益也）所貢絹綿、軟於肌膚、故訓秦字謂之波陀。

3 柯微騰母、師説、神モ神試ノ而ト、云ハムカ如シ。

孝德天皇 三首

○天萬豐日天皇。大化五年。三月乙巳朔。戊辰。蘇我臣日向(日向字ハ身刺也)譖倉山田大臣於皇太子曰。僕之異母兄麻呂。伺皇太子遊於海濱。而將害之。將反。其不久。皇太子信之云云 喚物部二田造鹽使斬大臣之頭云云 皇太子妃。蘇我造媛聞父大臣爲鹽所斬。傷心痛惋。惡聞鹽名。所以近侍於造媛者。諱稱鹽名改曰堅鹽。造媛。遂因傷心而致死焉。皇太子。聞造媛徂逝。愴然傷怛哀泣極甚。於是。野中川原史滿。進而奉歌。歌曰

其一

耶麻鵝播爾。烏志賦拖都威底。陀虞毗預俱。陀虞陛屢伊慕乎。多例柯威爾鷄武
(山河 鴛二箇居 [1]逑好 所逑妹 誰將率)

其二

摸騰渠等爾。婆那播左該騰摸。那爾騰柯母。于都俱之伊母我。摩陀左枳涅渠農
(毎本 花[2]者雖開 何トテ 愛妹 久開 而不來(代太子))

皇太子。慨然頽歎。褒美曰。善矣悲矣乃授御琴而使唱。賜絹四疋。布廿端。綿二裛。

○白雉四年。是歲太子奏請曰。欲冀遷于倭京。天皇不許焉。皇太子。乃奉奉(无本)皇祖母尊。間人皇后。幷率皇弟等。往居于倭飛鳥河邊行宮。于時。公卿大夫。百官人等。皆隨而遷。由是天皇恨欲捨於國位。令造宮於山崎。乃送歌於間人皇后曰

[3]舸娜紀都該。阿我柯賦古麻播。比枳涅世儒。阿我柯賦古麻乎。比騰瀰都羅武箇
(著鉗 我飼駒 不令引寝(馬性不好臥) 吾飼駒 人將見歟(疑異心))

[1] 詩云、關々雎鳩、在河之洲、窈窕淑女、君子好逑。

[2] 萬葉、第二十、防人歌、等吉騰吉乃、波奈波佐家登母、奈爾須禮曾波波登布波奈乃、佐吉低已受祁矣

[3] 和名鈔、漢書注云、鉗(奇炎反、和名、加奈岐)以鐵束頸也。

齊明天皇　八首

○天豐財重日足姬天皇。四年五月。皇孫建王。八歳薨。今城谷上起殯而收。天皇本以皇孫有順。而器重之。故不忍哀。傷慟極甚。詔群臣曰。萬歳千秋之後。要合葬於朕陵。廼作歌曰

其一

伊磨紀那屢乎武例我禹陪爾。倶謨娜尼母。旨屢倶之多多婆。那爾柯那皚柯武[1][2]

（在今城（高市郡）小山（名所歟）上（私記）　雲　著テノ意　駿　助　立　何　將　歎）

其二

伊喩之之乎。都那遇舸播杯能。倭柯矩娑能。倭柯倶阿利岐騰。阿我謨婆儺倶爾[3]

（所射鹿　繋　河邊之　若　草　稚　有　我　不　思）

私記云、我孫ノ幼稚ニ有ニ老壽之意一故ニ深ク追テ歎スル歟

其三

阿須箇我播。瀰儺蟻羅毗都都。喩矩瀰都能。阿比娜謨儺倶母。於母保喩屢柯母

（飛鳥河　水　漲　相　作　行（水ノ喩ニ建王一）　無　隙（御年月ニ無隙）所　思　哉）

天皇。時時唱而悲哭

○冬十月庚戌朔。甲子。幸紀溫湯。天皇憶皇孫建王。愴爾悲泣。乃口號曰

其一

耶麻古曳底。于瀰倭柁留騰母。於母之樓枳。伊麻紀能禹知播。倭須羅庚麻旨珥[4]

（山　越　而　海　雖　渡（兼山）面　白　今　城（葬建王）內　不　所　忘　難忘也）

---

1 雉界也、於是大悲、異之、彥皇子、聞於下但被傷死、令二澤新漢陵上丘、欽明紀、七年秋七月、倭國今來郡、孝德紀、錦秋鞍作山田石川麻呂大臣、自茅渟道、逃向於倭國境、大臣長子興志迎二於今來大槻一、今大和ニ今來郡ナシ、漢人ノ今來リケル故、今來トモ、今來トモカケリ。

2 萬葉第十一、雲谷・竹淺・舊道・見乍豫・及白相、宋王高唐賦序云、旦爲朝雲、暮爲行雨。

3 萬葉第十六、所射鹿乎、認河邊之、和草、身若可倍爾佐宿之兒等波母。和名鈔、續捜神記云、其支少時、宗當照射、見一白鹿、射中之、明日尋蹤血、（今按、俗云照射、止毛之、蹤、血波加利）

4 其事未詳云、天武天皇從天智出于吉野之時、天初晴謂阿波遲、雲晴也、阿那於茂志呂、古語事之甚切皆稱阿那、言衆面明白。

[1] 萬葉第五、都禰斯良農道乃長手袁久禮久禮等伊可爾可由迦牟可利氏波奈斯爾。師說、俗ニモ遠キ處ヲハクレ／＼トモクレハルカニトモ云ヘハ、心ノ掻闇テ見エヌ意歟。

[2] 私記、以此歌雖釋替、不甘心。今以師說附旁耳。

[3] 齊明紀、偪使、（此云倶豆磨）、人ノ名ナリ、余リニクヾセナルハ、後ヨリ見レハ、平ナルモノナレハ、偪使ハ人ヲヒラクツマト云ヘリ、松ノハヘルヲ平松トヨメルヲ思フヘシ。

[4] 陀和美、萬葉第六、大夫之情者梨荷、手弱女乃、念多和美手、タワミハタユムナリ、御徘徊ノタワミハ、崩御ノ意アリ、又美歌理能美和陀騰歟、ミワタハ、水和多ニテ、水ノ淀ム所ヲイヘハ、タワミトイヘルト心ハオナシ。

[5] 今按ニ、甲子ヲ、江古止ヨムヘシ、甲乙ヲ、キノエ、キノトヽヨムハ、木ノ兄木ノ弟トイヘル事ナリ、サルニヨリテ、孝德紀ニ、長子ト書テ、エコトヨメリ、長姉ト云ヘハ、甲乙ニアタルニヨリテ、長ヲエトヨメリ、私記云、甲子謂太子也、太子者諸子之長也、故云甲之子也。

[6] 萬葉第五、毛毛等利能己悪古保志枳。

[7] 萬葉第四、然曾將待君之目乎保利、同第十、小牡鹿鳴成妻之眼乎欲焉。

彌儺度能。于之褒能矩娜利。于那倶娜梨。于之盧母倶例尼。飫岐底舸度舸武

其二

于都倶之枳。阿餓倭柯枳古弘。飫岐底舸度舸武

其三

詔秦大藏造萬里。曰傳斯歌勿令忘於世

○六年十二月。丁卯朔。庚寅。天皇幸于難波宮。天皇。方隨福信所乞之意。思幸筑紫。將遣救軍。而初幸斯備諸軍器。是歳。欲爲百濟。將伐新羅。乃勅駿河國。造船。已訖挽至續麻郊之時。其船。夜中無故艫舳相反。衆知終敗。科野國言蠅群向西飛踰巨坂。大十圍許。高至蒼天。[2]或知救軍敗績之恠。有童謠曰

[3]摩比羅矩都能。倶例豆例。於（弘乎）能幣陀乎。邏賦倶能理歌理鵝。[4]美和陀騰能。理歌。美烏能陛陀烏。邏賦倶能理歌理鵝。[5]甲子騰和與騰。美烏能陛陀烏。邏賦倶能理歌理鵝

○七年秋七月。甲午朔。丁巳。天皇崩于朝倉宮。冬十月癸亥朔。己巳。天皇之喪。歸就于海。於是。皇太子。泊於一所。哀慕天皇。乃口號曰

枳瀰我梅能。[6]姑褒之枳舸羅儞。婆底底威底。舸矩野姑悲武謀。枳瀰我梅弘報梨

天智天皇 五首

○天命開別天皇。九年夏四月。癸卯朔。壬申。夜半之後。災法隆寺。一屋無餘。大雨雷震。

五月。童謠曰

于知波志能。都梅能阿素弭爾。伊提麻栖古。多麻提能伊弊能。野弊古能度珥。伊提麻志能。倶伊播阿羅珥茹。伊提麻西古。多麻提能鞞能。野鞞古能度珥

○十年春正月。是月以大錦下授佐平余自信沙宅紹明云云以小山下授餘達率等五十餘人。童謠曰

多致播那播。於能我曳多曳多。那例例騰母。陀麻爾農矩騰岐。於野兒弘儞農倶

○十二月癸亥朔。乙丑。天皇崩于近江宮。癸酉。殯于新宮。于時童謠曰

美曳之弩能。曳之弩能阿喩。阿喩擧會播。施麻倍母曳岐。愛倶流之衛。奈疑能母騰。制利能母騰。阿例播倶流之衛

師說、大友皇子ノ山中ニ入テ、自縊タマフヘキ、瑞ナトニヤ。

其一

於彌能古能。野陛能比母騰倶。比騰陛多爾。伊麻拕藤柯爾波。美古能比母騰矩

其二

1 仁德天皇、四十年七六、於是阿俄能胡乃獻己之私地、請免死、故納其地赦死罪、是以號其地曰玉代。

2 萬葉第十八、多萬之賀伎美我久伊母伊布、クユクヤム、トハタラクニ、クイト謂。古意心エカタシトイヘト、大意ハ火災アルヘケレハ、出テ遁レヨトサトスナリ、

3 師說、才藝ハカハレトモ、共ニ叙爵ニ預ル事、譬ヘハ橘ノナレル枝々ハ、面々ナレトモ、玉ニ貫ク時ハ、皆同シ緒ニ貫ル、カ如シトナリ。

4 古事記、雄略天皇、美延斯怒能、袁牟漏賀多氣

5 萬葉第六、隼人乃、湍門乃磐母、年魚走、芳野瀧爾、

6 生、不及家里、萬葉第十四、可美都氣野、佐野乃九久多知、乎里波夜志、安禮波麻多牟惡、許登之許受登母、

7 萬葉第八、秋立而、幾日毛不有者、此宿流、朝開之風者、手本寒毛、アラネハ、アラヌニナリ、此テニヲハ古風ナリ。

其三

阿[1]箇悟馬能。以喩企婆婆箇屢。麻矩儒播邏。奈爾能都底[2]擧騰。多拖尼之曳雞武

（赤駒　發語　行憚　眞葛原　何傳言　直助將吉）

1 此哥萬葉第十二、相聞ニ入レタリ。

2 成言、飛聞（共雄略紀、川天止古）

萬葉緯卷第一終

（萬）十九之四十右

○景行天皇二十五年遣武內宿禰（或記景行十六年生大非也）令察北陸乃東方諸國之地形且百姓之消息也、同二十七年武內宿禰自東國還之、

同丑十一年正月宴樂、云云　武內宿禰曰侍門下備非常、云云　秋八月命武內宿禰爲棟梁之臣、

○成務天皇三年春正月癸酉朔己卯、以武內宿禰爲大臣也、初天皇與武內宿禰同日生之、故有異寵焉。

同日若同年歟、然トモ同年ナレハ景行二十五年十三才ナリ、令察國々如何

景行天皇三年屋主忍男武雄心命（孝元帝之後）詣之居于阿備柏原（紀伊國）而祭祀神祇仍住九年、則取紀直遠祖菟道彥之女影媛生武內宿禰、同四年娉八坂入媛爲妃生七男、第一曰稚足彥天皇（成務也）、

成務天皇六十年夏六月己巳朔己卯、天皇崩、時年一百七歲。

仲哀天皇九年春二月天皇崩、皇后及大臣武内宿禰匿天皇之喪不令知天下、

神功卷三月、仲哀九年也皇后命武内宿禰令撫琴

同冬十月仲哀十年也群臣尊皇后曰皇太后、是年也。大歲辛巳、即爲攝政元年

同十三年春二月命武内宿禰從太子令拜角鹿笥飯大神、

同四十七年夏四月、時皇太后譽田天皇責新羅使者云云、天神誨之曰、令武内宿禰行議

應神天皇七年秋九月、命武内宿禰領諸韓人等作池

同九年夏四月遣武内宿禰於筑紫以監察百姓、云云今大臣以忠事君

仁徳天皇元年天皇之御名與武内宿禰子木菟宿禰奉替名事有

仁徳天皇五十年、春三月壬辰朔丙申、河内人奏言、於茨田堤鴈產之、即日遣使令視、曰既實也、天皇於是歎以問武内宿禰曰、

多莽耆破屢・宇知能阿曾・儺虛曾破・豫能等保臂等・儺虛曾波・區珥能那餓臂等、下略

景行四年ニ、武雄心命、紀州ニ至リテ九年ト、マリテ、其間ニ武内ヲ生ムトミエタレハ、此九年ノ外ニ出サルコト明ケシ。或務生玉フ同日ヲ同年ニ心得テモ、或務ハ景行十三年ニ生玉ヘハ、夫ヨリ仁徳五十迄二百七十九年也、然トモ生日斗同シテ夫ヨリ前ニ生ルトミエ、又ハ仁徳五十年ヨリ後ニ薨シ玉フトミエヌレハ、三百年余ノ壽考ナルヘシ。

允恭天皇五年是命葛城襲津彥之孫玉田宿禰主瑞齒別天皇之殯○遣尾張連吾襲察殯宮之消息。○遣吾襲於葛城令視玉田宿禰○傒遮吾襲而殺于道路以逃隱武内宿禰之墓城云々冬十有一月葬瑞齒別天皇于耳原陵云云

今案武内宿禰墓葛上下郡内耳原邊ニアルヘシ、追々可考

此後紀中武内ノ事不見

萬葉緯二　古事記

目錄

天皇矢河枝比賣命任令取大御酒盞御歌一首

吉野之國主等獻大雀命之所佩御刀歌。一首

天皇宇羅宜須須許理之所獻之大御酒而御歌。一首

仁德天皇

天皇望瞻黑日賣之船出浮海以歌。一首

天皇戀黑日賣欺太后幸行淡道島之時遙望歌。一首

天皇到坐黑日賣之採菘處歌。一首

天皇上幸之時黑日賣獻御歌二首

天皇遣丸邇臣口子送太后歌一首

天皇戀八田若郎女賜遣御歌一首

八田若郎女答歌一首

速總別王之女鳥王。共逃退而騰于倉椅山。於是速總別王歌。一首

履中天皇

墨江中王火著大殿。故率逃於倭國天皇歌。一首

到於波邇賦坂望見難波宮爾天皇亦歌。一首

允恭天皇

木梨之輕太子。姧其伊呂妹輕大郎女而歌。一首

輕太子被捕歌。一首

輕太子將流之時歌。一首

衣通王[illegible]獻於歌太子歌。一首

後亦不堪戀慕而追往時歌。一首

追到之時待懷而歌。一首

雄略天皇

太后坐日下天皇幸行遣上於宮之時行立其山之坂上歌。一首

引田部赤猪子守志待天皇命依哉賜御歌其歌二首

赤猪子答歌二首

天皇幸行吉野之時。有童女彈御琴令爲儛。因其孃女好儛作御歌。其歌一首

天皇幸行于春日之時。袁杼比賣逢道逃隱岡邊故作御歌。其歌一首

天皇將斬於三重釆女之時歌。一首

獻歌者赦其罪。爾太后歌。其歌一首

即天皇歌。一首

春日袁杼比賣獻大御酒之時。天皇歌。一首

袁杼比賣獻歌。其歌一首

清寧天皇

袁祁命立歌垣時。志毘臣歌。一首（連歌）

袁祁命歌。一首（連歌）

志毘臣亦歌。一首

爾王子亦歌。一首

萬葉緯卷第二

洛東隱士似閑編輯

古事記

序云。元明天皇和銅五年正月二十八日。正五位上勳五等太朝臣安麻呂。謹上云云。今案。近世度會延佳神主所鐫梓新本與古本間有齟齬。正元元集所引之記與新本全同。延佳之記可信用。傳言當家雖閲此書義理難通倦焉。法橋顯昭袖中抄所引記者有傍註。古來定有註疏之類惜哉世不傳。今因師說成鼇頭施傍字。歌數凡百七首。内五十一首出日本紀已上記。今所記五十六首

此八千矛神將婚高志國之[1]沼河比賣幸行之時。到其沼河比賣之家歌曰

夜知富許能(八千矛)。迦微(神)能美許登(命)波。夜斯麻(八洲)久爾(國)。都麻(妻)麻岐迦(覓)泥氐(不得而)。登富登富(遠遠)斯。故斯(越)能久邇(國)邇。佐(賢)加志賣(女)遠。阿理登岐加(聞)志氐(レ有而)。久波(妙)志賣(女)遠。阿理登伎許(聞)志氐(レ有而[2](繼體紀))。佐[3]用婆比爾(添字結婚)。阿理([4]在)多多斯(立之)。用婆比邇。阿理加用婆勢(有往來[5])。多知賀遠母(太刀之緒)。伊麻陀(未)登加受氐(解而)。淤須比[6]遠母。伊麻陀(未)登加泥婆(解者(天智紀))。遠登賣(嬢子)能那須夜伊多斗(閉設[7]板戸)(サト通)遠。淤曾夫良比([8]押振)。和(我)何多多勢禮婆(所立者)。比許豆良比(挐)。和何多多勢禮婆。阿遠夜麻(青山)邇。奴延([9]鵼)波(者)那伎(啼)奴。佐(狹)怒都登理(野津鳥)。岐藝斯(雉)波(者)登與牟(響動)。爾波都登理(庭津鳥)。迦祁(雞)波(者)那久(鳴)(已上四句繼體紀)(波古木可用)。宇禮多久母(慨(神武紀))。那久那(啼)

1 和名鈔云、越後國頸城郡沼川(奴乃加波)、神名帳云、越後國頸城郡奴奈川神社、大神社。

2 何紀ト記セルハ、其記中ノ哥ト可引合、下皆倣之。

3 萬葉第十三、隠口乃、泊瀬乃國爾、左結婚爾、云云。

4 同第一、埴安乃、堤上爾、在立之、見賜者、云々。

5 同第十二、他國爾、結婚爾行而、太刀之緒毛、未解者、左夜曾明家流、云々。

6 同第三、手弱女之、押日取懸、云々。淤須比、西渓先生曰、カケヲビノ類歟、延喜式伊勢太神宮式云、太神宮、裝束、帛意須比、八條長二丈五尺廣二幅、延佳曰、豊受太神宮儀式帳云、御裝束、帛紀忍比四具、又云、木綿手次前垂懸氏、天押比衆、云々。

7 萬葉第五、遠等咩良何佐那周伊多斗乎、意斯比良伎、云々。

8 萬葉第十四、多禮曾許能屋能、戸於曾夫流、云々。

9 萬葉第一、奴要子鳥、卜歎居者、云々。和名鈔云、唐韻云、鵼(音空)(漢語抄云、沼江)怪鳥也、

1 萬葉第八、多夫手二毛、投越都倍伎天漢、云々。木瀨三之曰、伊ハ發語ニテ蒸也、阿麻波勢ハ、馬走也。豆ハ語ノ切ル所也、加比ハ神ニテ、神事ノ語リ事也。

2 師說、許登能加多理碁登母許遠婆以上、三句、次下ノ歌井雄畧天皇段三首、皆末ノ一句アリテ、此三哥者天語哥也ト有ハ、此語ニツキテ敷、如何樣ニモ祝詞ナトニ侍ルヘシ。

3 怒延久佐、伊奴江ト云草有、其上略ナトニヤ、弱草ノ妻トツヽクル類ニテ、女ノ枕詞トハミエタレド。和名ナトニモ不見草ナリ。

4 浦洲鳥、此類嶋雄相思コト深シ。

5 和杼理我鳥ハ、我身ヲ我物トスル意ナリ。汝鳥ハ汝ガ妻トナリテ隨カハムノ意ナリ。毛詩爾雅天保章云、如月之恒、如日之升。

6 多久豆怒、仲哀紀云、栲衾新羅國、私記云。師說、白衾也、栲木色白、故喩而言之、今云、詩曰、山有栲、注似樗色小白、葉差狹、亦類漆、云々、萬葉第三、多久夫須麻新羅、第二ーー白髮。

7 和名鈔云、日本紀云、沫雪(阿和由支)其弱如水沫云

留登理加。許能登理母。宇知夜米許世泥。[1]伊斯多布夜。阿麻波勢豆加比。[2]許登能加多理碁登母。許遠婆

爾其沼河日賣未開戸自内歌曰

夜知富許能。迦微能美許等。[3]怒延久佐能。賣爾志阿禮婆。和何許許呂。[4]宇良須能登理叙。伊麻許曾婆。[5]知杼理邇阿良米。能知波。那杼理爾阿良牟遠。伊能知波。那志勢多麻比曾。伊斯多布夜。阿麻波世豆迦比。許登能加多理碁登母。許遠婆。阿遠夜麻邇。比賀迦久良婆。奴婆多麻能。用波伊傳那牟。阿佐比能。惠美佐迦延岐氐。[6]多久豆怒能。斯路岐多陀牟岐。[7]阿和由岐能。和加夜流牟泥遠。[8]曾陀多多岐。多多岐麻那賀理。麻多麻傳。多麻傳佐斯麻岐。[10]毛毛那賀爾。伊波那佐牟遠。阿夜爾那古斐岐許志。夜知富許能。迦微能美許登。許登能迦多理碁登母許遠婆

故其夜者不合而明日夜爲御合也

八千矛神之嫡后須勢理毘賣命甚爲嫉妬。故其日子遲神和備氐(三字以音)自出雲將上坐倭國而來。裝立時片御手者繫御馬之鞍片御足踏入其御鐙而。歌曰

々、今案、和加夜流ノ枕詞ナリ、和加夜流、稚ユルナリ、若キ物ハ、柔ラカナレハ、沫雪ノ如ク、白クヤラカナル事ヲ也。纖體紀

8 遊仙窟云、折揚奶房間

9 曲、神代紀私記云、問、婆字讀、麻久、其義如何、答、男女會合之時、正直身體不能婚妻曲撓身體而後、爲之、故云万久云云、師說マナカリハ、マガリノ古語也。

10 毛毛那賀、師說股長ニ也、足ヲ伸ル意ナリ。延佳曰、百年ハ言五十之發語、五十訓伊。

1 [illegible]、鳥ノ[illegible]ヲ備ヒ見ルニ、キト見ルト時ハ、ヨソラセ、ハ、サルヲニ心ヲ入レテ、身ニ[illegible]相ヤ[illegible]ト、ヨク見ルヲ[illegible]ソヘテノ[illegible]フ也。

2 多多藝、[illegible]作[illegible]太高ヲタタヘリト略セリ、高六、多ク著重ネテ高キヲ云、私云、鳥[illegible]ヲ見時ハ毛立テ見苦シキ也。

3 [illegible]ヲ、ソメ木[illegible]ルオホツカナケレド、[illegible]ノ内ニ、人ヲオサメ、[illegible]ノ中ニ、マキシトイヘルヲ思フヘシ、[illegible]呂[illegible]字[illegible]ハ、コキニヤ、[illegible]也。[illegible]ハウキキ帯木也。イハラコキイハラノ[illegible]

4 [illegible]與呂志、[illegible]ノ、ハ、キ[illegible]モ[illegible]ケレト、フサノデ、[illegible]ニテ[illegible]カ[illegible]モ[illegible]ク、フサヒテ、[illegible]シキ[illegible]ク、[illegible]河[illegible]モ、八上[illegible]モ[illegible]レト、[illegible]ニ[illegible]ニマサリテハハストノタマフニヤ。

5 萬葉第九、[illegible]良之、[illegible]良之、[illegible]行者、云々、

6 宇那加夫斯、古代[illegible]、ウナタレメグリ、頭傾也。此[illegible]六二[illegible]志、[illegible]、一夜ノ[illegible]之間稻生[illegible]、[illegible]、云々。

7 萬葉第五、[illegible]野山、總利多[illegible]、[illegible]佐蘇乃可是[illegible]、[illegible]多[illegible]

奴婆多麻能久路岐美祁斯遠麻都夫佐爾登理與曾比淤岐都登理牟那美流登岐婆多

多藝母許禮婆布佐波受幣都那美曾邇奴岐宇氏蘇邇杼理能阿遠岐美祁斯遠麻都夫佐

邇登理與曾比淤岐都登理牟那美流登岐婆多多藝母許母布佐波受幣都那美曾邇奴

棄宇氏夜麻賀多爾麻岐斯阿多泥都岐曾米紀賀斯流邇斯米許呂母遠麻都夫佐邇登理與

曾比淤岐都登理牟那美流登岐婆多多藝母許斯與呂志伊刀古夜能伊毛能美許等牟

良登理能和賀牟禮伊那婆比氣登理能和賀比氣伊那婆那迦士登波那波伊布登母夜麻登

能比登母登須須岐宇那加夫斯那賀那加佐麻久阿佐阿米能疑理邇多多牟叙和加久佐能

都麻能美許登許登能加多理碁登母許遠婆

爾其后取大御酒坏、立依指擧而歌曰

夜知富許能加微能美許登夜阿賀淤富久邇奴斯許曾波遠邇伊麻世婆宇知微流斯麻能佐岐

那岐加岐微流伊蘇能佐岐淤知受和加久佐能都麻母多勢良米阿波母與賣邇斯阿禮婆那

遠岐氏遠婆那志那遠岐氏都麻波那斯阿夜加岐能布波夜賀斯多爾牟斯夫須麻爾古

8 神代紀上吹棄氣噴之狹霧、萬葉第六、[illegible]、鳴之[illegible]

9 前、依[illegible]乃[illegible]前、云々。詩、[illegible]日、[illegible]

10 夜ハ齣也。布波夜、三之日、伏屋也。

11 萬葉第四六、[illegible]也。我下丹、雖臥、云云潔、サヤメテ、日本紀。

夜賀斯（之下）多爾。多久夫須麻。佐夜具賀斯（栲(旧也)衾(伊良二万葉第十五)満之下）多爾。阿和由岐能。和加夜流牟泥遠。多久豆怒能。斯路岐多陀牟岐。曾陀多岐。多多岐麻那賀理。麻多麻傳。多麻傳佐斯麻岐。毛毛那賀邇。（已下十句同上）伊遠斯那世。（至此須勢理姫心解）登與美岐多氏麻都良世（1豊御酒奉佐(舊)聞食セ也）

如此歌即爲宇岐由比（四字以音）而宇那賀氣理氏[2]（六字以音）（之(舊)）至今鎮坐也。此謂之神語也

神倭伊波禮毗古命（神武天皇）坐日向時。云云更太爲太后之美人時。大久米命曰。此間有媛女。是謂神御子。其所以謂神御子者。三島湟咋之女名勢夜陀多良比賣。（旧書字(神武紀)）其容姿麗美。故美和之大物主神見感而其美人爲大便之時。化丹塗矢自其爲大便之溝流下突其美人之富登。（此二字以音下效此）（陰）爾其美人驚而立走[3]伊須須岐伎。（此五字以音）乃將來其矢置於床邊忽成麗壯夫即娶其美人生子。名謂富登多多良伊須須岐比賣命（陰踏鞴 五十）亦名謂比賣多多良伊須氣余理比賣（是者惡其富登云事後改名者也）。故是以謂神御子也。於是七媛女遊行於高佐士野。（佐士二字以音）伊須氣余理比賣在其中。爾大久米命見其伊須氣余理比賣而以歌白於天皇曰。

夜麻登能。多加佐士怒袁。那那由久。登賣杼母。多禮袁志麻[4]加牟（大和 高佐士野 七行 孃子等 誰 將點）

爾伊須氣余理比賣者立其媛女等之前。乃天皇見其媛女等而御心知伊須氣余理比賣立於最前以歌答曰

1 萬葉第六、燒刀之、加度打放、大夫之、祷豐御酒爾、吾醉爾家里、舊事紀者、大已貴命將婚高志國之沼河姫行幸之時、到其沼河姫家歌曰、云云トテ此次ニ今ノ歌アリ。

2 萬葉第十八、七夕歌云、多豆佐波利、宇奈我良利爲氏、於伎佐之吉、云云、今案、ウナカケリハ海翔也、海翔ハ天翔也。安倍仲麿ノ歌、初ハ靑海原トヨメルヨシ土佐日記ニカヽレタリ、夫ヲ天原トミカヘテ、古今集ニハ入ラレタレハ、靑海原、天原、同シ事トミエタリ、是ニナゾラヘテシルヘシ。

3 雄略紀云、孟冬作陰之月、寒風肅然之辰、云云。式、大殿祭祝詞云、御床都比（能佐夜伎）夜女（能伊須須伎）伊豆都志伎事（無久）三之日、イスヽキシ、イハ發語、スヽキハ口手ヲ述フナリ。

4 萬葉第二、如此許戀乍不有者高山之磐根四卷手死奈麻死物（之末加爾牟、日本靈異記）

加都賀都母。伊夜佐岐陀氏流。延袁斯麻加牟

爾大久米命以天皇之命詔其伊須氣余理比賣之時見其大久米命黥利目而思奇歌曰

阿米都都知杼理麻斯登登那杼佐祁流斗米

爾大久米命答歌曰

袁登賣爾多陀爾阿波牟登和加佐祁流斗米

故其孃子白之仕奉也

於是其伊須氣余理比賣命之家在狹井河之上。天皇幸行其伊須氣余理比賣之許。一宿御寢坐也 其河謂佐韋河由者。於其河邊山由理草多在。故取其山由理草之名。號佐韋河也。山由理草之本名云佐韋也 後其伊須氣余理比賣參入宮內之

時天皇御歌曰

阿斯波良能。志祁去岐袁夜邇。須賀多多美。伊夜佐夜斯岐氏。和賀布多理泥斯

然而阿禮坐之御子名。日子八井命。次神八井耳命。次神沼河耳命。三柱 故天皇崩後。其庶兄當藝志美美命娶其嫡后伊須氣余理比賣之時。將殺其三弟而謀之間。其御祖伊須氣余理比賣患苦而以歌令知其御子等。歌曰

佐韋賀波用。久毛多知和多理。宇泥備夜麻。許能波佐夜藝奴。加是布加牟登須

又歌曰

1 嘆鶺、萬葉ニ、ツヽトヨメリ、大久米命ノ目ヲ、千鳥ニ似タリト、千鳥ノ目ニヨソヘテ、ツヽ、胡千鳥ト、呼カクル意ナルヘシ。

2 神名帳、大和國城上郡、狹井坐大神荒魂神社五座、萬葉第七、痛足河、河浪立奴、卷目之、由槻我高仁、雲立有良志、事アラムトスト云事ヲ、ヨソヘタマヘリ、タトヘ謂ト云ヘシ。

宇泥備夜麻。比流波久毛登韋。由布佐禮婆。加是布加牟登曾。許能波佐夜牙流（畝傍山 晝 雲居 夕去 風將吹 木葉 所騷）

於是其御子聞知而驚云云 故爾神沼河耳命殺當藝志美美。故亦稱其御名謂建沼河耳命

景行天皇段

倭建命到相武國之時其國造詐白於此野中有大沼住是沼中之神甚道速振神也。於是看行其神入坐其野爾其國造火著其野故知見欺而解開其姨倭比賣命之所給囊口而見者火打有其裏於是先以其御刀苅撥草以其火打而打出火著向火而燒退還出皆切滅其國造等。即著火燒故於今謂燒津也。自其入幸渡走水海之時其渡神興浪廻船不得進渡爾其后名弟橘比賣命白之妾易御子而入海中御子者所遣之政遂應覆奏。將入海時以菅疊八重。皮疊八重。絹疊八重敷于波上而下坐其上。於是其暴浪自伏御船得進。爾其后歌曰

佐泥佐斯。佐賀牟能哀怒邇。毛由流肥能。本那迦邇多知氐。斗比斯岐美波母（相模 小野 所燃 火 火中 立 問 君 不忘恩寵）

故七日之後其后御櫛依于海邊乃取其櫛作御陵而治置也

倭建命自甲斐越科野國乃言向科野之坂神而還來尾張國入坐先日所期美夜受比賣之許於是獻大御食之時其美夜受比賣捧大御酒盞以獻。爾美夜受比賣其於意須比之欄（意須比三字以音）著月經故見其月經御歌曰

1 東舞章曲云、佐加無乃禰云々。師説、相模ハ武藏ヨリチイサケレハ、胸刺トイヘルヲ、相模ニ相模ト改ケルニヤ、武藏ヲ胸刺トカケリ、サルニヨリテ、佐泥佐斯ハ、サムネサシテノ略語ニヤ、イツレ相模ノ枕詞ナリ。延佳曰、佐下ノ、上ノ佐泥字佐字下卷、軽皇子云、佐泥泥氏波、萬葉集、左衛左藤氏許賀、不叶歟。

比佐迦多能。阿米能迦具夜麻。斗迦麻邇。佐和多流久眠比波。煩曾多和夜賀比那遠麻遮牟登波。阿禮波須禮杼。佐泥牟登波。阿禮波意母閇杼。那賀祁藝流。意須比能須蘇爾。都紀多知邇祁理

爾美夜受比賣答御歌曰

多迦比迦流。比能美古。夜須美斯志。和賀意富岐美。阿良多麻能。登斯賀岐布禮波。阿良多麻能。都紀婆岐閇由久。宇倍那宇倍那。岐美麻知賀多爾。和賀祁流。意須比能須蘇爾。都紀多多那牟余

故爾御合而。以其御刀之草那藝劔。置其美夜受比賣之許。而取伊服岐能山之神幸行。倭建命此時御病甚急。爾御歌曰

哀登賣能。登許能辨爾。和賀淤岐斯。都流岐能多知。曾能多知波夜

歌竟卽崩。爾貢上驛使。於是坐倭后等及御子等諸下到而作御陵。卽匍匐廻其地之那豆岐田(自那下三字以音)而哭爲歌曰

那豆岐能多。伊那賀良邇。伊那賀良爾。波比母登富呂布。登許呂豆良

於是化八尋白智鳥。翔天而向濱飛行(智字以音)。爾其后及御子等。於是小竹之苅杙。雖足跳破。忘其痛以哭追。此時歌曰

1 延[illegible]式、第八、六月晦大祓祝詞[illegible]云、彼方之、繁木乎。燒鎌ノ[illegible]、鎌以[illegible]。

2 久[illegible]比、至此末ヲ志比、トアルニ准フヘシ、古語ニハカク云ヒケルニヤ。

3 和名鈔　月水(一云佐[illegible])

4 論語鄕黨篇當暑袗絺綌必表而出之。

5 高光　日ハ指景行天皇。

6 萬葉第五、萬世爾、得之波岐布得母、

7 萬葉第五、敷多倍乃登許能邊佐良受

8 稻ニ、ハヒマハリタル、野老ノツルノゴトク、悲シミニ堪ズシテ、ハヒ臥タマフコトヲ、喩ヘタマフナルヘシ。

9 和名鈔、[illegible]、食經云、薢(音解、和名[illegible])、俗用野老二字、今按、漢語抄用野老二字、未詳、味苦少甘無毒、[illegible]、兼名苑注云、萆薢、其根黃白而味苦有也。

阿佐士怒波良。許斯那豆牟。蘇良波由賀受。阿斯用由久那

又入其海鹽而那豆美（此三字以音）行時歌曰

宇美賀。由氣婆。許斯那豆牟。意富迦波良能。宇惠具佐。宇美賀波伊佐用布

又飛居其礒之時歌曰

波麻都知登理。波麻波由迦受。伊蘇豆多布

此四歌者皆歌其御葬也。故至今其歌者歌天皇之大御葬也

品陀和氣天皇一時越幸近淡海國之時云云故到坐木幡村之時麗美孃子遇其道衢。爾天皇問其孃子曰。汝者誰子。答曰。丸邇之比布禮能意富美之女名宮主矢河枝比賣。天皇卽詔其孃子。吾明日還幸之時入坐汝家。故矢河枝比賣委曲語其父。於是父答曰。是者天皇坐那理（此二字以音）恐之。我子仕奉。云而嚴餝其家候待者明日入坐。故獻大御饗之時。其女矢河枝比賣命令取大御酒盞而獻。於是天皇任令取其大御酒盞而御歌曰

許能迦邇夜。伊豆久能迦邇。毛毛豆多布。都奴賀能迦邇。余許佐良布。伊豆久邇伊多流。伊知遲志麻。美志麻邇斗岐。美本杼理能。迦豆伎伊岐豆岐。志那陀由布。佐佐那美遲袁。須久須久登。和賀伊麻勢婆夜。許波多能美知邇。阿波志斯袁登賣。宇斯呂傳波。袁陀氏呂迦母

1 萬葉第十一、神南備能、淺小竹原乃、美妾、

2 千鳥翔處、玉等步行也。

3 萬葉第十四、宇惠多氣能、毛登左倍登與美、

4 同第十三、夏草乎、腰爾莫積

5 角鹿、今越前敦賀郡、此二句、蟹ノ答ナリ、此帝越前ニ笥飯大神ト、御名ヲ易サセ給ヘル事サヘアレハ、其故ナト侍テノ給フニヤ、横去ハ横ニ匍匐也。今按、今ノ九州俗、遊行スルヲサルクト云。

6 潜息衝、鳰ノ浮出テ息ツクハ、休ムナレハ、道ヲオハシマスヲ、潜ニヨセ、御息ヲツギテ、伏セ玉フヲ、浮ニヨセテノ玉フ歟。

7 級斷、萬葉第十三、師名立、都久麻左野方、筑摩ハ近江坂田郡ニアレハ、級立サ、ナミノ筑摩トツヾクル歟、シカレハ級斷ハ、段々ニ立小浪ト云ナルヘシ。師說

波那美波志[1]比斯那須[2]。伊知比呂能。和邇佐能邇袁。波都[3]邇波。波陀阿可良氣。美志波邇

波。邇具漏岐呂惠。美都具理能。曾能那迦都邇袁[4]。加夫都久。麻肥邇波阿氐受。麻用賀岐。許[5]

邇加岐多禮。阿波志斯袁美那。迦母賀登。和賀美斯古良迦。久母賀登。阿賀美斯古邇。宇多氣

陀邇。牟迦比袁流迦母。伊蘇比袁流迦母

又吉野之國主等瞻二大雀命之所レ佩御刀一歌曰

[6]本牟多能。比能美古。意富佐邪岐。意富佐邪岐。波加勢流多知。母登都流藝[7]。須惠布由。布

由。紀能。須加良[8]賀志多紀能。佐夜佐夜

又秦造之祖漢直之祖及知レ釀レ酒人名仁番亦名須須許理等參渡來也。故是須須許理釀二大御

酒一以獻。於レ是天皇宇二羅宜所レ獻之大御酒一而（宇羅宜三字以レ音）御歌曰

須須許理賀。迦美斯美岐邇。和禮惠比邇祁理。許[9]登那具志。惠具志爾。和禮惠比邇祁理

如レ此之歌幸行時以二御杖一打二大坂道中之大石一者其石走避。故諺曰。堅石避二醉人一也。

1 如理、許云、曾無二波那一、志比比ハ、侍也、久比比ト訓ミ主ヘルニ同シ。

2 櫟井、ホ紫苑、以弟、則從二鳥津使主一曾之、依春日臣食二井上一、和名鈔、雀二鍋、食櫟云、櫟子（上音歴、和名以知比）相似而大二於椎子一者也。

3 丹土、山海經云、丹以爲レ主、黑白皆丹之類也。初土、萬葉、黄土、赤土。共ニハニトヨメリ、皆初土ノ中ナリ、和名鈔云、釋名云、土黄而細密曰レ埴、常職反（和名、波邇）凡ハ埴ニハ、大抵上土ハ、或黄或ハ黒シ、美志迦邇、美ハ太山ノ太ト同シ、然ニ堀テ、底ヨリ黒キ土ノ出ルヲ、シホツチト云、物ヲクフ生スル由ナリ、是也、又鹽土老翁アリ。

4 頭衝、頭槌劔ヲ神代紀、勾猪々伊、勾夫達智能、神武段、久夫都々伊、撥兒ヲ加夫登、被ヲ加夫流、蕪ヲ加夫良、皆頭ノ意ナリ。日ノ痛ク堅時ニ、夫ニ久シク當レハ、頭ノ痛ム故ニ、次ノ句ヲノ主ハムトスル也、俗ニ上カブキ。

5 濃丹書垂、青丹ヲ濃ニツケテ、眉ヲ作ルナリ、美人ヲホムルニ翠黛緑黛ナト云カ如シ。

6 應神紀云、初天皇在孕而、天神地祇授二三韓一。既産之、宍生二腕上一、其形如レ鞆、是肖二皇太后、爲二雄裝之負一レ鞆、故稱二其名一謂二譽田天皇一上古時、俗號レ鞆謂二褒武多一焉。

7 須惠布由、今按、末殊歟。布由ハ諸ノ物ニテ、比惠通ズ、比惠ハ用ナリ、中古モ、簸切ナト云ル名ノ劔ノ有ケルコトク、切物ヲ劔トハ云ハムガ如シ、倭武紀カ御哥ニモ、コキタヒエネト、ヨマセ玉ヘリ、身ニ刀ノスルハ、ツメタキ物ニヤ、ヒヤリトキルト俗ニ云ナリ。フユヒエモ、ソノ心ナルヘシ、冬ノ字モ自ラ心カヨヘルニヤ。

8 スカラハ、木ノ立ノヒテ、木ニ枝ナトノナキヲ、スカリトシタリト申セリ、冬木ノ、葉ナト落テ、サ見ユルヲ、スカラト云ヘル歟。

9 言苦、萬葉第十七、相見婆登許波都波奈爾、情具之、眼具之毛奈之爾、此哥ハ、心苦シクモナシト云心也。コノ御製ハ、大御酒キコシメシテ、物仰ラル、事ノ、クルシキトノ玉フナリ。

大雀天皇之太后石之日賣命甚多嫉妬。故天皇所使之妾者不得臨宮中。言立者足母阿賀迦邇嫉妬。爾天皇聞看吉備海部直之女名黒日賣其容姿端正、喚上而使也。然畏其太后之嫉、逃下本國。天皇坐高臺、望瞻其黒日賣之船出浮海以歌曰

於岐幣邇波。袁夫泥都羅羅玖。文湍邪能。摩佐豆古和藝毛。玖邇幣玖陀良須

故太后聞是之御歌大忿、遣人於大浦、追下而自歩追去。於是天皇戀其黒日賣、欺太后曰。欲見淡道島而幸行之時、坐淡道島、遙望歌曰

於志氐流夜。那爾波能佐岐由。伊傳多知氐。和賀久邇美禮婆。阿波志摩。淤能碁呂志摩。阿遲摩佐能。志麻母美由。佐氣都志摩美由

乃自其島傳而幸行吉備國。爾黒日賣令大坐其國之山方地而獻大御飯。於是爲煮大御羹、採其地之菘菜時、天皇到坐其孃子之採菘處歌曰

夜麻賀多邇。麻祁流阿袁那母。岐備比登登。等母邇斯都米婆。多怒斯久母阿流迦

天皇上幸之時、黒日賣獻御歌曰

夜麻登幣邇。爾斯布岐阿宜氐。玖毛婆那禮。曾曾岐袁理登母。和禮和須禮米夜

又歌曰

夜麻登幣邇。由玖婆多賀都麻。許母理豆能。志多用波閇都都。由久波多賀都麻

1 萬葉第十九、布勢乃海[illegible]、[illegible]
2 [illegible]、日本紀云、七枝刀一口、萬葉第四、二[illegible]之、宗[illegible]
3 貴、推古紀[illegible]、タチナラバ呉ノマサビト、コマセバヘルトオナシ。
4 歌淡島、日本私記云、[illegible]說、今在淡路國東由良驛下、[illegible]之境、由良驛之南方、小島、[illegible]云云。[illegible]トイヘルニアレトモ其方ハ[illegible]ニ人ラネハ、コマセ[illegible]フヘキニアラス。[illegible]島ニツヽケサセ下ヘハ、[illegible]ノ中ニ、正義アルヘシ。
5 [illegible]（古本[illegible]）[illegible]古[illegible]ノ中ニテ、小[illegible]大[illegible]ノ中、一種ノチヒサキナルヘシ。
6 大[illegible]、難波邊トヨムヘケレト、[illegible]ヲ[illegible]トスル[illegible]ナレハナリ。
7 萬葉第六、山[illegible]、野之[illegible]、見[illegible]。
8 丹後國風土記云、[illegible]飛ニ芳[illegible]加、是布[illegible]得、所[illegible]和須良[illegible]
9 萬葉第十一、下トツ、ケム[illegible]見、爾有[illegible]リ、下ハ[illegible]リ、作、萬葉第九[illegible]延、置而、トセムカウセムト兼テ思ヒ置ヲ、下ヨハヘツヽトハ云ナリ。

太后石之日賣命爲將豐樂而於採御綱柏幸行木國之間天皇婚八田若郎女云云於太后大恨怒云云即不入坐宮而引避其御船泝於堀江隨河而上幸山代此時歌曰云云天皇聞看夜麻志呂邇伊斯祁登理夜麻伊斯祁伊斯祁阿賀波斯豆麻邇伊斯岐阿波牟迦母云云又續遣太后白山代上幸而使舍人名謂鳥山人送御歌曰。

丸邇臣口子而歌曰（古本）

[1]美母呂能曾能多迦紀那流。（以下七字古本无）意富韋古賀波良。意富韋古賀波良邇阿流。岐毛牟加布。許[2]袁

（三室　其　高城在　名所乎　心ノ序　大　葦　古之原　在　肝向（萬葉心ノ枕詞也）　許呂ヲ）

陀爾加阿比於母波受阿良牟

（本可用古本）（心　不　相念　將有）

天皇戀八田若郎女賜遣御歌。其歌曰

夜多能比登母登須宜波。古母多受。多知迦阿禮那牟。阿多良須賀波良。許登袁許曾須宜波良登伊波米。阿多良須賀志賣

（大和國添下郡矢田一本　菅　子[3]　不　持　立　歟　將レ老　惜　菅　原　言　二也社　菅　原　將レ言　惜　清（清代賣）女）（郎女無子）

爾八田若郎女答歌曰

夜多能比登母登須宜波。比登理袁理登母。意富岐彌斯。與斯登岐許佐婆。比登理袁理登母

（自一人　雖居　句　大　君　助　好（我ヲ也）　聞　看　一人　雖　居）

故爲八田若郎女之御名代定八田部也。

天皇以其弟速總別王爲媒而乞庶妹女鳥王。爾女鳥王語速總別王曰。因太后之強不治賜八田若郎女故思。不仕奉吾爲汝命之妻即相婚云云故天皇知其情還入於宮。此時其夫速總別王到來之時其妻女鳥王歌曰比佐迦多能阿米邇迦氣流。多迦由玖夜。波夜夫佐和氣。佐邪岐登良佐泥。天皇聞此歌即興軍欲殺。

[1] 此ミモロハ、高市郡ノ三諸山ニモモアラス、又三輪山ノ名ニモアリ、是ハ葛上郡ノ室ナリ、孝安天皇、室之秋津嶋宮ヲ造テ、マシ〳〵ケレハ、ソレヲ其ノ高城トハ云ノ玉ヘルト歟、又孝照天皇モ、ノ同郡へ拔上池、心宮ニテ世ヲ知シメセリ。履仲紀ニ拔上室トアレハ、池心宮モ、室ニアルヘシ。夫ヲ高城トハ玉フル歟。

[2] 許呂、只心ノ池心ト云名ヲ許サテ其ノミモト云地ル歟、云所アル故ニ、オヒケコカ原トケサセ玉ヘハ、カキノクハツ后ノ居ナルニ、歟、殊葛城ハ出サセ玉木ヘルレハ、ニ取出サセノ玉ヘルニヤ。

[3] 子不持、ウツホ、初秋、武隈ノハナワノ松ハオヤモコモナラヘテ秋ノ風ハフカナムヽ袖中、引哥、我ノミヤコモタリテヘバ武隈ノハナハニタリテ、トルコトモタリ允恭紀、コトヲ松モコソ、モタ、ミトイハメ。

一子（ヒトツケ）　神代紀。

1 河内國、丹比郡後分二南北一、

2 鐇斧持、丹比野ノ木ヲ切テイホリサシテ、オハシマサムトナリ。今按、碁ヲ基ニ誤レル事、神武紀等ニアリ然レハ、タツゴモニテ、キハ添字歟。和名鈔、釋名云、縛壁以席縛著於壁也。漢語鈔云、防壁(多都古毛)。

3 埴生坂、日本紀ニヨルニ河内國丹比郡ナリ。

4 萬葉第二、蜻火之、燎流荒野爾、第六、炎乃、春爾之成者、此外アマタヨメリ。彼ハ皆カケロフト點シテ、野馬ナリ、カケロヒトヨマセ玉ヘリ、今ハ火ヲヤカテ焔ノホノメクカ、蜻蛉ノ飛翔ルヤウナレハ、蜻火トカケル歟。又蜻蛉モ、蜻火モ共ニ木ハ影ロフ意ニ名付タル歟。

5 雄略天皇御製、多斯美陀氣多斯陀波韋泥受、出雲國造神賀詞云、大御心多親爾

6 與愛、萬葉第十四、曾能可奈之伎乎、刀禰多氏米也母、又云、可奈之伎我、古麻波多具等毛、

7 小寢、寢ダニネタラバナリ婆ハニゴルヘシ、萬葉第十五、安伎波疑爾、保敝流和我母、奴禮奴等母、伎美我布禮能、都奈之等理豆婆、

爾速總別王女鳥王共逃退而騰于倉椅山。於是速總別王歌曰

波斯多氐能。久良波斯夜麻袁。佐賀志美登。伊波迦伎加泥氐。和賀氐登良須母 二句(仁德紀)嶮 妹 石毛波(古本可用) 不得 來 我 手 令取

伊邪本和氣命(履中天皇)本坐難波宮之時。坐大嘗而爲豐明之時。於大御酒宇良宜而大御寢也。其弟黑(墨(イ))江中王欲取天下以火著大殿。於是倭漢直之祖阿知直盜出而乘御馬令幸於倭。故到于多遲比野而寤。詔此間何處。爾阿知直白。黑江中王火著大殿。故率逃於倭。爾天皇歌曰

1多遲比怒邇。泥牟登斯理勢婆。2多都基母母。母知氐許麻志母能。泥牟登斯理勢波 將寢 知 者 蓆歟 (和名)蓆歟 恭平(ヨト) 持 而 來 物 將寢 知 婆(古本可用)

到於波邇賦坂望見難波宮。其火猶炳。爾天皇亦歌曰

3波邇布邪迦。和賀多知美禮婆。4迦藝漏肥能。毛由流伊幣牟良。都麻賀伊幣能阿多理 埴生坂 我立 見 蜻 火之 所燎 家村 妻(后妃)之 宗 邊

男淺津間若子宿禰命(允恭天皇)崩之後。定木梨之輕太子所知日繼。未即位之間。姧其伊呂妹輕大郎女而歌曰云云 又歌曰

佐佐婆爾。宇都夜阿良禮能。5多志陀志爾。韋泥氐牟能知波。比登波加由登母。6宇流波斯登。佐泥斯佐泥氐婆。加理許母能。美陀禮婆美陀禮。佐泥斯佐泥氐婆 篠葉 打 哉 霰之 慥々 將率寢 後 者(神代哥)人者 雖離 雖易帝位 與 愛 コヲ加ヘシ 7小寢 助 苅 蔣 (萬葉亂枕詞)亂 亂 小寢

此者夷振之上歌也。

此以百官及天下人等背輕太子而歸穴穗御子。爾輕太子畏而逃入大前小前宿禰大臣之家。云云 於是穴穗御子興軍圍大前小前宿禰之家。爾到其門時零大氷雨。故歌曰云云 爾其大前

1 萬葉第十五、安麻等夫也、□里□都可比爾、衣且之可

2 牡蠣貝ハ、カキガラ也、千□大□三位、牡蠣ノカラヲニヨメル哥、榊葉ハモミチモセジヲ神垣ノカラ紅ニ見エワタル哉、

3 足令踏、萬葉第四、信濃道者、伊麻能波里美知、可里婆禰爾、安思布麻之牟奈久都波氣和我世、

4 令明、萬葉第十一、□原之下草露有者、□令明□射□母者跡知、

5 氣長、氣ハ息ナリ、長キ息ノ旅ニハ、カナルヲ□フ故ニ、山尋ナリ。□類ヲ、此哥ニ藏テ、萬葉第二ツ、良皇□御林ニ藏テ、此哥又山上憶良之、哥ヲ出ノ歌ヲ□レタル者、ニ都ヲ□アサレ、山尋ヌ人ハ、多山ニ、トテ山ヨキ材ヲ尋ヌル者ヲ、レハ下ニ六略、シ山頭へ名付、ハ能ルニヤル。今ハ萬葉第六ニ、將往多キ、時人ヲ迎參、出テ下ヲ待テ、ホヲ伐テ河ヘ流シテ取レハ、下ニ下リテ、是ヲヨリテナリ。

6 大峽、式、山口祭、祝詞、大峽小峽ニ立□木ヲ、奥山乃大峽小峽乎

7 旗張、萬葉ニ、靑旗ノ木幡、久萬木山、忍坂山ノ、山靑旗、トツ、ヘケヨメリ、山ノ繁リテ靑キカ、靑旗ヲ、堅タルヤウナルヲ云ヘハ、今モ其□乎。

小前宿禰擧手打膝儛詞那傳（自下二字以音）歌參來云云如此歌參歸白之。我天皇之御子於伊呂兄王無及兵。若及兵者必人咲。僕捕以貢進。爾解兵退坐。故大前小前宿禰捕其輕太子率參出以貢進。其太子被捕歌曰云云又歌曰

阿（天）麻陀牟（田歟乎（古本））加流袁登賣。志多多爾母。爾理泥氏登富禮。加流袁登賣杼母（飛　嫁子（允恭紀）下（忍也）田乎　余（古本可用）依　寢而（□也）行去　猶謂我等）

故其輕太子者流於伊余湯也。亦將流之時歌曰

1 阿麻登夫。登理母都加比曾。多豆賀泥能。岐許延牟登岐波。和賀那斗波佐泥（天飛鳥使　鶴之哭　將所聞時　我名問）

此三歌者天田振也。

其衣通王獻歌。其歌曰

那都久佐能。阿比泥能波麻能。加岐賀比爾。阿斯布麻須那。阿加斯氏杼富禮（夏草　相寢濱乎　可有伊字　2牡蠣貝　3足令踏　莫　4令明而行去）

故後亦不堪戀慕而追往時歌曰

岐美賀由岐。氣那賀久那理努。夜麻多豆能。牟加閇袁由加牟。麻都爾波麻多士（君之行　旅行也　5氣長成　山尋　迎　助語　將往　待者不待　此云山多豆是今造木者也）

故追到之時待懷而歌曰

許母理久能。波都世能夜麻能。意富袁爾波。波多波理陀氏。佐袁袁爾波。波多波理陀氏。意富（6大峽　7旗張　小峽）

袁爾。斯那加佐陀賣流(テト)。淤母比豆麻阿波禮。都久由美能。許夜流許夜理母。阿豆佐由美。多氏理多氏理母。能知母登理美流。意母比豆麻阿波禮。

又歌曰

許母理久能。波都勢能賀波能(雄略記)。賀美都勢爾。伊久比袁宇知。斯毛都勢爾。麻久比袁宇知。伊久比爾波。加賀美袁加氣。麻久比爾波。麻多麻袁加氣。麻多麻那須。阿賀母布伊毛。加賀美那須。阿賀母布都麻。阿理登伊波婆許曾。伊幣爾母由加米。久爾袁母斯怒波米

如此歌即共自死。故此二歌者讀歌也。

(雄略天皇)大長谷若建命初太后坐日下之時自日下之直越道幸行河内。爾登山上望國内者有上堅魚作舍屋之家。天皇令問其家云。其上堅魚作舍者誰家。答曰志幾之大縣主家。爾天皇詔者奴乎己家似天皇之御舍而造。即遣人令燒其家之時。其大縣主懼畏稽首白。奴有者隨奴不覺而過作甚畏。故獻能美之御幣物(能美二字以音)。布𦇶白犬著鈴而。己族名謂腰佩人令取犬繩以獻上。故令止其著火。即幸行其若日下王之許。賜入其犬令詔。是物者今日得道之奇物。故都摩杼比(此四字以音)之物云而賜入也。於是若日下王令奏天皇。背日幸行之事甚恐。故己直參上而仕奉。是以還上坐於宮之時行立其山之坂上歌曰

1 科笠、三代實錄、人名ニ、笠科アリ、イカナルヲ云ニカ、科笠ト同シ事ニヤ、泊瀬ニ行幸ナトアル時、君ノマシマス處ニ、立タル蓋ナトノ如、ウルハシキ妹ト云ハムトニヤアラム、弓ヲ久シク臥、或ハ立置タルヲ久シク不ノ相ニ喩フ。

2 此歌、萬葉第十三載焉。

3 掛眞玉、以上ノ句、古來被ナトセシ時、カヽル事ノ有ケルニヤ、萬葉、此歌ニ反歌二首アリ、年渡麻弖毛人者有云乎、何時之間曾毛吾戀爾來、或書反云、世間乎、倦迹思而、家出爲、吾哉難二加、還而將成。

久佐加辨能。許知能夜麻登。多多美許母。幣具理能夜麻能。許知碁知能。夜麻能賀比爾。多知加由流。波毗呂久麻加斯。母登爾波。伊久美陀氣淤斐。須惠幣爾波。多斯美陀氣淤斐。伊久美陀氣。伊久美波泥受。多斯美陀氣。多斯爾波韋泥受。能知母久美泥牟。曾能淤母比豆麻阿波禮

即令持此歌而返使也

一時天皇遊行到於美和河之時。河邊有洗衣童女。其容姿甚麗。天皇問其童女。汝者誰子。答白。己名謂引田部赤猪子。爾令詔者。汝不嫁夫。今將喚而還坐於宮。故其赤猪子仰待天皇之命。既經八十歲。於是赤猪子以爲望命之間已經多年。姿體痩萎。更無所恃。然非顯待情不忍於悒而令持百取之机代物。參出貢獻。然天皇既忘先所命之事。問其赤猪子曰。汝者誰老女。何由以參來。爾赤猪子答白。其年其月被天皇之命。仰待大命。至今日經八十歲。今容姿既耆。更無所恃。然顯白己志以參出耳。於是天皇大驚。吾既忘先事。然汝守志待命。徒過盛年。是甚愛悲。心裏欲婚。憚其極老。不得成婚而賜御歌。其歌曰

美母呂能。伊都加斯賀母登。加斯賀母登。由由斯伎加母。加志波良袁登賣

又歌曰

比氣多能。和加久流須婆良。和加久閇爾。韋泥氐麻斯母能。淤伊爾祁流加母

1 日下部、河内國河内郡
2 和名抄、考聲切韻云、㟴、山間陜處也、俗云、山乃加比。
3 熊白檮、熊蜂等。
4 神代紀、相與。
5 神木ニヨセテ、志ヲ述ク祇タル事ヲ、ホメタフナリ。
6 神名帳大和國城上郡、承田神社二座。伊呂波字類抄 承田作曳田。
7 萬葉第十六ニ射ニ...河邊之稚草身、若可借...作宿之只等詩毛。

爾赤猪子之泣涙悉濕其所服之丹摺袖。答其大御歌而歌曰

美母呂爾。都久夜多麻加岐。都岐阿麻斯。多爾加母余良牟。加微能美夜比登 (下略)[1]

又歌曰

久佐迦延能。伊理延能波知須。波那婆知須。微能佐加理毘登。登母志岐呂加母。[2][3]

爾多祿給其老女以返遣也。故此四歌者志都歌也。

天皇幸行吉野宮之時。吉野川之濱有童女。其形姿美麗。故婚是童女而還坐於宮。後更亦幸行吉野之時。留其童女之所遇。於其處立大御呉床而坐其御呉床。彈御琴。令為儛其孃子。爾因其孃子之好儛作御歌。其歌曰

阿具良韋能。加微能美氐母知。比久許登爾。麻比須流袁美那。登許余爾母加母[4]

天皇婚丸邇之佐都紀臣之女袁杼比賣。幸行于春日之時。媛女逢道。即見幸行而逃隱岡邊。故作御歌。其歌曰

袁登賣能。伊加久流袁加袁。加那須(古本)岐母。伊本知母賀母。須岐婆(古本)奴流母能[5]

故號其岡謂金[6]鉏岡也。

天皇坐長谷之百枝槻下。為豐樂之時。伊勢國之三重婇[7]。指擧大御盞以獻。爾其百枝槻葉落浮於大御盞。其婇不知落葉浮於盞。猶獻大御酒。天皇看行其浮盞之葉。打伏其婇。

1 是ハ初ノ御歌返シナリ。老女ヲ嚴橿ニヨソヘ玉ヘトモ、猶昔ヲ思ヒ出根奉リテ我ニ契ラセ玉ヘル御詞ノ末通ラヌヲ、三輪ノ神ノ宮人ノ玉垣ヲ築ソメテタユミテ築殘シタレハ、貴ナキ心ヲ神ノ知シメシテ、後ハ依ル方ナキニ喩ヘタル歟。

2 萬葉第四、草香江入江ニ求食蘆鶴乃

3 乏ハ少キ也、少キハメツラシキ意ニホメテイヘル事モアリ。

4 萬葉、賜酒節度使御製、聖武天皇、天皇朕、宇頭乃御手以、掻撫曾、宜賜、

5 萬葉第十八、家持、爲贈京家、願眞珠歌、安故比多麻、伊保知毛我母、物ヲ也。萬葉第五、阿麻等夫夜、等利爾母賀母夜、美夜故麻提、意久利摩遠志弖、等比可弊流母能、

6 全鉏(古本作全鉏)崇神紀、爰以忘鉏鎭坐於菟田甜武鋒坂上、武鋒故名、以後廻初也。

7 和名鈔 伊勢國三重郡釆女(宇禰倍)

以刀刺充其頸将斬之時其采女白天皇曰。莫殺吾身有應白事即歌曰

麻岐牟久能。比志呂乃美夜波。阿佐比能。比傳流美夜。由布比能。比賀氣流美夜。多氣能泥能。泥陀流美夜。許能泥能。泥婆布美夜。夜本爾余志。伊岐豆岐能美夜。麻紀佐久。比能美加度。爾比那閇夜爾。淤斐陀氏流。毛毛陀流。都紀賀延波。本都延波。阿米袁淤幣理。那加都延波。阿豆麻袁淤幣理。志豆延波。比那袁淤幣理。本都延能。延能宇良婆波。那加都延爾。淤知布良婆閇。那加都延能。延能宇良婆波。斯毛都延爾。淤知布良婆閇。斯豆延能。延能宇良婆波。阿理岐奴能。美幣能古賀。佐佐賀世流。美豆多麻宇岐爾。宇岐志阿夫良。淤知那豆佐比。美那許袁呂許袁呂爾。許斯母。阿夜爾加志古志。多加比加流。比能美古。許登能加多理碁登母。許袁婆。

故獻此歌者。赦其罪也。爾太后歌。其歌曰

夜麻登能。許能多氣知爾。古陀加流。伊知能都加佐。爾比那閇夜爾。淤斐陀氏流。波毘呂。由都麻都婆岐。曾賀波能。比呂理伊麻志。曾能波那能。氏理伊麻須。多加比加流。比能美古爾。

1 [illegible]ノ采女[illegible]日ノ御子ノ[illegible]シ召タル時ノ[illegible]

2 日代、宮號ニ、[illegible]日ノサシテカヽヤキアフ也。

3 日照、宮殿ノ高ケレバ、是ニ照ラレテ、早ク日ノ當ルナリ。[illegible]萬葉第八、[illegible]

4 八百丹、[illegible]八百日[illegible]以八[illegible]百、[illegible]ニテ[illegible]ノ堅キ也。

5 眞木割、萬葉第一、眞木佐苦、檜乃嬬手乎、[illegible]東海道トノ外ヲ云ナルヘシ。

6 蝶衣、和名鈔、玉篇云、[illegible]（三消反、和名、[illegible]同）[illegible]初生也。萬葉第十四、安利伎奴乃、佐惠佐惠之豆美、同第四、珠衣乃、狹藍左謂沈、初ノ字ヲ、五文字ニ許リタル計也。同第十五、[illegible]衣之、寶之子等敷、ヨキ衣ノ名歟、鷺ノ[illegible]

7 太ト云箏。萬葉第九、吾鎌、三重乃河原之、

8 下、萬葉、筑後國風土記云、昔景行天皇、巡國既畢、還都之時、[illegible]司在[illegible]村、設御酒、天皇[illegible]曰、[illegible]乎、朕之酒盞（俗語云、酒盞爲宇岐）因曰宇岐[illegible]夜部[illegible]人[illegible]生葉郡。

9 浮、和名鈔、酒盞（佐賀

10 阿布良。鳴聲、此記上云、二柱神立天浮橋、而指下其沼矛以畫者、鹽許袁呂許袁呂爾畫鳴。

11 市官、萬葉ノ山ノツカサ、野ノツカサ、岸ノツカサアリ、ツカサトル意ニテ、高キ方ヲ云ヘシ、山ノカサ、水ノカサモ、ツカサノ上略ナルヘシ。

12 湯津、湯トイフハ繁キ意歟。萬葉、並ニ[illegible]ノ中ニ、湯津[illegible]トモ云ヘリ。[illegible]トモ云メリ、[illegible]ハ、[illegible]ノ義ナルヘシ。

○登余美岐多氏麻都良勢。許登能加多理恭登母。許袁婆（豐御酒令奉）

即天皇歌曰

1毛毛志紀能。淤富美夜比登波。宇豆良登理。比禮登理加氣氐。麻那婆志良。袁由岐阿閇。爾波須受米。宇受須麻理韋氐。祁布母加母。佐加美豆久良斯。多加比加流。比能美夜比登。許登能加多理恭登母。許袁婆

（百磯城。大宮人。宇（古本）鶉鳥也鶉ノフヒレニ似タリ。取。領巾取懸而。2鶺鴒。尾ヲ引テ並立行（譬宮女）庭。雀。踞居。今日。酒宴（萬第十八、十九）。）

此三歌者天語歌也。故於此豐樂譽其三重采女而給多祿也。

是豐樂之日亦春日之袁杼比賣獻大御酒之時天皇歌曰。

美那曾曾久。淤美能袁登賣。太陀理登良須母。太陀理斗理。加多久斗良勢。斯多賀多久夜賀多久斗良勢。本陀理斗良須古

（水着。本（古本可用）。已上三句仁德紀。3二人取。夫（古本可用）。二人取。堅令取。下之堅哉。堅令取。二人取。）

此者宇岐歌也。爾袁杼比賣獻歌。其歌曰

夜須美斯志。和賀淤富岐美能。阿佐計爾波。伊余理陀多志。由布計爾波。伊余理陀多須。和岐豆紀賀斯多能。伊多爾母賀。阿世袁

（盃。4朝異。發語。倚立。夕異。知（古本可用）。千。木槻。5板欲得。（雄略紀舍人哥））

此者志都歌也。

袁祁命將治天下之間平群臣之祖名志毘臣立于6歌垣取其袁祁命將婚之美人手其孃子者菟田首等之女名大魚也。爾袁祁命亦立歌垣。於是志毘臣歌曰

（淸寧天皇段末。顯宗天皇。）

1 百磯城、百式紀、百石木、百師紀、百石城、百師木、共ニ萬葉ニ出、崇神天皇磯城瑞籬宮ニテ、世ヲ治メサセ玉ヘル事六十八年、百磯城トメデタキ都トテ、後モ准ラヘ習ヒ呼ケルヲ、後ヘ習シテ云ヘル歟。又彼宮ノ久シサヲ、百モ重ネヨトテ、其後ニ云ヒ出セル詞ニヤ。

2 鵠、鶴、私記ニ五名ヲ出セル中ニ、ツ、マナハシラ。

3 木陀理、雄略紀云、乃喚ニ集采女ニ使ㇾ脱ニ衣裙ニ而著ニ犢鼻ニ、露所ニ相撲ニ、カカル事サヘセサセタマヘハ、酒宴ニ興ニ入ラセ玉フ余リニ、二人取ラセテ、御覧シケル歟。

4 朝異、毎朝也。

5 板欲得、常ニ御足ニ觸テナヅサヘハ、アハレ夫ニモ成テ、常ニ仕ヘハヤノ意ナリ。萬葉第十一、如是許、戀乍不有者、朝爾日爾、妹之將履、地爾有申尾、

6 歌垣、天平六年二月癸巳朔、天皇御ニ朱雀門ニ覽ニ歌垣ニ、寶龜元年三月辛卯、男女二百三十人、供ニ奉歌垣ニ、其服並著ニ靑摺細布衣ニ、垂ニ紅ノ長紐ニ、男女相並分行徐進歌、毎ㇾ歌曲折、擧ㇾ袂爲ㇾ節。

1 弟津旗手、旗ニ竪立ラル、中ノ、次ノ旗ヲ云歟。袁祁命ハ、弟ニテマシマセハ、ヨソヘテヨメリ。隅傾ハ、旗ノ頭ノ、風ニ吹ル、時傾フクニ事ヨセテ、己カ威ニオサレテ、大魚ヲ得玉フ事ナルマシキ意ヲ、諭テ云ヘルナリ。

2 意保字袁ヲ、保字ノ切布ナレハ、カクハノ玉ヘリ。萬葉第六、鮪釣等海人舩散動と有、第十九、鮪衝等、海人之燭有、伊射里火之云々ノ意ハ鮪ヲ海人ノ衝ノ如ク、汝ヲ誅セハ、今コソ、君臣ノ禮ヲ乱テ悪ケレトモ、終シク思召出ル事モ、アラムソトナルヘシ。

意富美夜能。袁登都波多傳。須美加多夫祁理
（大宮之弟津旗手隅傾）

如レ此歌而乞ニ其歌末一之時、袁祁命歌曰　久(古今歌)

意富多久美。袁遲那美許曾。須美賀多夫祁禮
（大匠拙劣(ヲチナクヨハシ)弱(欽明紀)隅(寄薬子)傾）

爾志毘臣亦歌曰

意富岐美能。許許呂袁由良美。淤美能古能。夜幣能斯婆加岐。伊理多多受阿理
（大君心緩(ルト)臣子八重柴垣(守也)不ニ入立一在(大魚ニ依付玉フ事ヲ得玉ハヌ意)）

細字注トスヘシ
於是王子亦歌曰　細字同二行

斯本勢能。那袁理袁美禮婆。阿蘇毘久流。志毘賀波多傳爾。都麻多氐理美由　細字同二行

爾志毘臣愈忿歌曰　細字同二行

意富岐美能。美古能志婆加岐。夜布士麻理。斯麻理母登本斯岐。禮牟志婆加岐。夜氣牟志婆加岐

此二首日本紀ニ出ツ依テ細字トスヘシ

爾王子亦歌曰

意布袁余志。斯毘都久阿麻余。斯賀阿禮婆。宇良胡本斯祁牟。志毘都久志毘。
（大魚吉鮪衝海人已之有者將ニ裏戀一(欽明紀)鮪衝鮪）

如レ此歌而闘明各退。明旦之時、意富祁命袁祁命二柱議云。凡朝廷人等者旦參ニ赴於朝廷一、晝集ニ於志毘門一。今者志毘必寢。亦其門無レ人。故非レ今者難レ可レ謀。卽興レ軍圍ニ志毘臣之家一乃殺也。

萬葉緯卷第二終

萬葉緯卷第三目錄

萬葉緯卷第三

洛東隱士似閑編緝

○續日本紀

日本後紀第三。桓武天皇。延暦十六年二月己巳。先是重勅從四位下行民部大輔兼左兵衛督皇太子學士菅野朝臣眞道。從五位上守右少辨兼行右兵衛佐丹波守秋篠朝臣安人。外從五位下行大外記兼常陸少掾中科宿禰巨都雄等。撰續日本紀。至是而成。上表曰。云云今案類聚國史與今同矣。起文武天皇元年歳次丁酉。盡桓武天皇延暦十年。暦數九十五年。卷數四十卷

○聖武天皇、天平十四年正月丁未朔壬戌、（十六日）天皇御大安殿宴群臣。酒酣奏五節田舞。訖更令少（小(袖中)）年童女踏歌。又賜宴天下有位人并諸司史生。於是六位以下人等。鼓琴歌曰

[1]新年始邇。何久志社。供奉良米。萬代摩提丹（迄）

宴訖賜祿有差（如是）

○同十五年五月宴群臣於内裏。皇太子親儛五節[2]。右大臣橘宿禰諸兄奉詔奏太上天皇曰。

[1]今案賀大養德恭仁新京也。年中行事秘抄踏歌條下引此哥而書曰。歌詞七言也。如絶句詩。以平聲韻字爲韻云云今案未詳。

[2]左傳昭公元年云、先王之樂、所以節百事也、故有五節、杜預註、五聲之節、云々 今案、從中古以來好事者、天武帝於吉野彈琴時、前岫之下雲氣忽起疑如高唐神女、感曲舞、擧袖五變故謂之五節其歌曰乎度綿度茂、云々此歌萬葉第五長歌云、乎度綿良何・遠度綿左備須等・可良多萬乎多茂度邇麻可志此云ヘルヲ取テ、爲作セルナルヘシ、懷風藻ニ、吉野遊覽之詩有數首、只有美稱之古事無五節擧袖作。以萬葉歌。左傳之語、此詔旨等後人附會明矣。

貞觀儀式新嘗祭式云、大歌別當大夫、率歌者參入。就座定奏大歌舞五節。

附箋

江談抄一、淨御原天皇五節事

又云淨御原天皇之時五節始也。於吉原川鼓琴天女下降出前庭詠歌。云々仍以其例始之。天女歌云、

乙女子賣乙女佐比志毛加良太賦遠乙女佐比須茂其加良太踏遠

天皇大命爾坐而奏賜久。掛母畏伎。飛鳥淨見御原宮爾。大八洲所知志聖乃天皇命。天下乎治賜比平賜比所思坐久。上下乎齊倍和氣氏。无動久靜加爾令有爾八。禮等樂等二都並志氏。平久長久可有登隨神母所思坐氏。此乃舞乎始賜比造賜比伎。聞食氏。與天地共爾絶事無久。彌繼爾受賜利波行牟物等之皇太子斯王爾學志、頂令荷氏。我天皇大前爾貢事乎奏。於是太上天皇詔報白。現神御大八洲我子天皇乃掛母畏伎天皇朝廷乃始賜比造賜留寶國。寶等之此王乎令供奉賜波。天下爾立賜比行賜流部法波。可絶伎事波無久有家利止。見聞喜侍止奏賜等。詔大命乎奏。又今日行賜布態乎見行波。直遊止乃味爾波不在之氏。天下人爾。君臣祖子乃理乎。教賜比趣賜布止有良志止奈母所思須。是以教賜比趣賜比奈何良。受被持氏。不忘不失可有伎表等之氏。一二人乎治賜那毛止奈所思行須等奏賜止詔。大命乎奏賜止波久奏。因御製歌曰

蘇良美都。夜麻止乃久爾波。可未可良斯。多布度久安流羅之。許能末比美例波

又歌曰

阿麻豆可未。美麻乃彌己止乃。登理母知氏。許能等與美岐遠。伊[1]可多氏末都流（攻治要略亦作伊可）

又歌曰

夜須美斯[2]志。和己於保支美波。多比良氣久。那何久伊末之氏。等與美岐麻都流

1伊可可、元布未作レ寸、依ニ年中行事秘抄ニ改正焉、舒明紀、嚴矛、持統紀、重日、弐祝詞、伊加志穂、又茂辨、云々。
2斯志志、元布未作レ留、依ニ年中行事秘抄ニ改正焉、仙覺萬葉註釋並同。

〇稱德天皇寶龜元年三月辛卯。葛井・船・津・文・武生・藏六氏男女二百三十人。供奉歌垣。（神護景雲四年也）

其服並著青摺細布衣。垂紅長紐。男女相並。分行徐進。歌曰

乙女トカクハオトメナレトモ夫ハ誤ナルコト正鑑ニ見エタリ
乙女ト多ク書ナラヘレド乙ハ音於止ニ用レハ少女ニハ圖字差ヘリ

乎止賣良爾。乎止古多知蘇比。布美奈良須。爾詩乃美夜古波。與呂豆與乃美夜
（乙女等　男　起　添　踏　平　西　宮　萬代　宮）

其歌垣歌曰

布智毛世毛。伎與久佐夜氣志。波可多我波。知止世乎萬知天。須賣流可波可母
（淵　瀨　清　淨　博　多　川　千　歲　待　澄　有　川）

毎歌曲折。擧袂爲節。其餘四首並是古詩。不復煩載。時詔五位已上内舍人及女孺。亦列其歌垣中。歌數闋訖。河内大夫從四位上藤原雄田麻呂已下奏和儛。賜六氏歌垣人商布二千段。綿五百屯。夏四月癸巳朔。乙未。正六位上船連淨足・東人・融麻呂三人。族中長老率奉歌垣。並授外從五位下。

〇寶龜元年。天皇（光仁）。諱白壁王。近江大津宮御宇天命開別天皇（天智）之孫。田原天皇（施基皇子）第六之皇子也。母曰紀朝臣橡姫。贈太政大臣正一位諸人之女也。寶龜二年十二月十五日。追尊曰皇太后。天皇寬仁敦厚。意豁然也。自勝寶（孝謙）以來。皇極無貳。人疑彼此。罪廢者多。天皇深顧橫禍時。或縱酒晦迹。以故免害者多矣。又嘗龍潜之時。童謠曰

紀1 聖武天皇天平六年二月癸巳朔。天皇御朱雀門覽歌垣。男女二百四十餘人。五品已上有風流者。皆交雜其中。正四位下長田王。從四位下栗栖王。門部王。從五位下野中王等爲頭。以本末唱和。爲難波曲。倭部曲。淺茅原曲。廣瀨曲。八裳刺曲之音。令都中士女縱觀。極歡而罷。賜奉歌垣男女等祿有差。

紀2 神護景雲三年十一月壬辰。設新嘗豐樂於西宮前殿。

紀3 崇神天皇十年時。官軍屯聚。而蹢跙草木。因以號其山曰那羅山。蹢跙此云布瀰那羅須。

紀4 三月丙寅中朔。幸博多川。宴遊。是日百官文人及大學生等。各上曲水之詩。

國名帳云、河内國安宿郡、伯太彥神社・伯太姫神社、
文德實錄第十天安二年二月甲子朔己丑。在河内國從五位下伯太彥伯太姫神並預官社。

[1]葛城寺乃前在也。豊浦寺乃。西在也。於志止度。刀志止度。櫻井爾(榎葉乎)。白壁之豆久也。好壁之豆久也。於志止度。刀志止度。然爲波。國(曾)昌也。(吾乎)五家(曾良)昌也。於志止度。刀志止度。

于時井上(聖武ノ皇女孝謙ノ妹也)内親王爲妃。識者以爲。井則内親王之名。白壁爲天皇之諱。蓋天皇登極之徵也

○日本後紀

序云。臣緒嗣等。討論綿書。披閲曩策。文史之興其來尚矣云云又曰。自延暦十一年迄于天長十年。上下四十二年。勒以成四十卷。名曰日本後紀。承和七(八乎)年十二月九(十乎)日。云云今案緒嗣左大臣正二位藤原朝臣緒嗣也。此外遂功夫輩七人。不煩載。類聚國史與紀同。續日本後紀云。承和八年十二月丙寅朔甲申(十九日)。修日本後紀訖奏御云云、[2]西峯先生曰。今所世傳紀初十卷自中古抄來。末十卷近世或人依[3]類聚國史等古記編集焉。毎事至語末以云云終。則此說眞可謂得之。雖然其事依爲實。幸得水戸西山公御本以令比校而貫于茲而已

○桓武天皇延暦十四年夏四月戊戌朔戊申。曲宴。天皇誦古歌曰

[4]以(古)邇之幣能。能那何浮流彌知。阿良多米波。阿良多麻良武也。能那賀浮流彌知(野中古道改者將被改哉野中古道)

勅尚侍從三位百濟王明信令和之。不得成焉。天皇自代和曰。

記(紀(邇志))美己蘇波。和主黎多魯羅米。爾記(紀(邇))多麻乃。多和也米和禮波。都禰乃詩羅多麻(君社忘有[5]柔靈手弱女吾常白珠)

侍臣稱萬歲

1 河海抄云。催馬樂葛城。加都良支乃。天良乃。末部乃名留也。止與良乃。天良乃。爾之乃名留也。二段 江乃波爲奈。之良太万之川久也。末之良太万之川久也。於之止止於之止止 三段 之可之大由。久曾左可江無也。和以戸曾止美世介也。於之止止。止之止止。於之止止。止之止止。今案。寄此歟、自櫻井榎葉井同所歟。五音誤歟。又五上脱吾字歟、又櫻榎葉二字誤歟。

2 西峯松下見林也。

3 今案類聚國史二百卷之内、所流布現有六十卷。此内日本後紀全文間見焉。

4 六帖第二道題出之、爲柏原帝御製誤也。又以第四句爲阿良多米良禮與。

5 萬葉集第九曰、和靈乃服寒等丹、云々

○同十五年夏四月丙寅。宴。庭酒酣。上乃歌曰

氣左乃阿沙氣。奈呼登以非都留。保登登擬須。伊萬毛奈可奴加。比登能綺久陪久

○同十六年冬十月癸亥。曲宴。酒酣。皇帝歌曰

己乃己呂乃。志具禮乃阿米爾。菊乃波奈。知利曾之奴倍岐。阿多良蘇乃香乎

賜五位已上衣被

○同十七年八月庚寅。遊獵于北野。便御伊豫親王山庄。飲酒高會。于時日暮。天皇歌曰

氣佐能阿狹氣。奈久知布之賀農。曾乃己惠遠岐加受波伊賀之。與波布氣奴止毛

登時鹿鳴。上欣然令羣臣和之。冒夜乃歸

○同二十年春正月甲午朔。丁酉。曲宴。是日雨雪。上歌曰

宇米能波那。故非都都鄔黎叵。敷魯度岐乎。波那可毛祉流屠。於毛飛都留何毛

賜五位以上物。各有差

○同二十二年。三月庚辰。遣唐大使葛野麻呂。副使石川道益賜餞。宴設之事。一依漢法。酒酣。上喚葛野麻呂於御床下賜酒。天皇歌曰

許能佐氣波。於保邇波安良須。多比良可邇。何陪理伎末勢止。伊婆比多流佐氣

1 師說、陪久文章可何十許里之可同。

2 和歌菊花曾初見

3 凡、萬葉第七、吉備津采女死時歌云、人言天數凡津子之相日於保見者今敷備

[1] 此二首共在六帖并大和物語皆人乃歌題蘭キミノミタメト云々
師説紀中十二首ノ中三十人ノ哥ノ上句ノミソ萬葉ノ古風ヨリハスコシコナタニ聞ユル、其外ハマタク古風也。貫之ノ新撰和歌集序ニ、弘仁ヨリ延長ニ至ルマテノ哥ヲ取テリ、夫ヨリアナタノ古質ナルヲハ取ラストアルモオホツカナシ。

挿紙 九月乙巳幸神泉苑琴歌間奏四位已上共挿菊花于時皇太弟頌歌云、美那比度……上和之曰、羣臣倶稱万歳。乃……度能……右本朝逸史傳平城天皇二十年之下引類聚國史卷第三十一……
名河五市郎曰、古來文字因不自由蘭菊一用是ミダリニ亂不可直唐土此例多

[2] 萬葉第二。天智天皇賜鏡王女御歌云、山跡有、大島嶺、伊栄、大島嶺在

[3] 平群郡。祁布祁、作祁。新依類聚國史改正。

葛野麻呂涕涙如雨。侍宴群臣無不流涕。賜葛野麻呂御被三領御衣一襲。金二百兩。道益御衣一襲。金一百五十兩。

○平城天皇。大同二年九月乙巳。幸神泉苑。琴歌間奏。四位已上共挿菊花。于時皇太弟頌歌云

[1] 美那比度乃曾能可爾米豆留布智波賀麻。岐美能於保母能。多乎利太流祁布

上和之曰

遠理比度能己己呂能麻丹眞。布知波賀麻。宇倍伊呂布賀久。爾保比多理介利

羣臣倶稱萬歳。賜五位以上衣被。

○同三年九月戊戌。幸神泉苑。有勅令從五位下平群朝臣賀是麻呂作和歌。曰

伊賀爾布久。賀是爾阿禮波可。於[2]保志萬乃。乎波奈能須惠乎。布岐牟須悲太留

皇帝歡悦授從五位上。

○嵯峨天皇。弘仁四年夏四月。癸未朔甲辰。幸皇太弟南池。命文人賦詩。右大臣從二位(藤)○○○

藤原朝臣園人上歌曰

[3] 祁布乃比乃。伊介能保度理爾。保止度伎須。多比良波知與止。那久波企企都夜

天皇和曰

保度止伎須。那久己惠企介波。宇多奴志度。度毛爾千世爾度。和禮母企企多理

大臣舞蹈。雅樂寮奏樂。賜五位以上衣被、及諸王藤氏六位已下幷文人等綿、各有差。

○延暦十四年二月丙戌朔癸丑。幸無品有智内親王山庄(莊)。花宴。上欣然賦詩。群臣獻詩者衆。賜祿有差。俾文人賦春日山庄詩。各探勒韻。公主探得塘光行蒼、卽操筆曰

寂寂幽庄水樹裏　仙輿一降一池塘
栖林孤鳥識春澤　隱澗寒花見日光
泉聲近報初雷響　山色高晴暮雨行
從此更知恩顧渥　生涯何以答穹蒼

天皇歎之、授三品。于時年十七。是日天皇書懷賜公主曰

忝以文章著邦家　莫將榮樂負煙霞
卽今永抱幽貞意　無事終須遣歳華

尋賜召文人料封百戸。內親王者、太上天皇幸姫王氏所誕育也。頗涉史漢、兼善屬文。爲賀茂齋院。

〔以上文ハ下巻ニ[illegible]〕

〔以下[illegible]續日本後紀與類聚國史今比校、此紀亦貫書也、惜哉不全篇矣。〕

○續日本後紀

序云。起自天長十年二月乙酉、訖于嘉祥三年三月己亥、惣十八年。據春秋之正體、聯甲子以銓次、考以始終、分其首尾、都爲廿卷、名曰續日本後紀。云云 又云。貞觀十一年八月十四日、太政大臣從一位臣藤原朝臣良房、參議正四位下式部大輔臣春澄朝臣善繩。云云

○仁明天皇承和九年秋七月癸巳朔己酉。是日春宮坊帶刀伴健岑、但馬權守從五位下橘朝臣逸勢等謀反、事發覺。云云 乙卯。詔曰。現神止大八洲國所知須倭根子天皇我。詔旨良萬宣御

伊字未詳。

命乎。親王諸王諸臣百官人等。天下公民。衆聞食止宣。不慮外爾。太上天皇崩賜依天。昔夜止先久。哀迷比焦御坐爾。春宮坊乃帶刀舍人伴健岑伊。隙仁乘天。與橘逸勢合力天。逆謀乎構成天。國家乎傾亡須止。此事乎。皇太子波不知毛在止。不善人仁依天相累事波。自古利言來留物奈利。又先先毛仁令法師等天呪咀止云人多久安利。而毛止隱蔽撥求女事乎不欲之天奈毛抑忍留太。又近日毛或人乃云。屬坊人等毛有謀止云。若其事乎推究波。恐波不善事乃多有无事乎。加以後太上天皇乃厚御思乎顧天那毛。究求女事乎不知奴。今思保佐久波。直仁皇太子乃位乎停太。彼此無事波善久有部之止思保之女須。又太皇大后乃御言毛仁如此久奈毛思保世留故。是以皇太子乃位乎停退介賜不。云云。八月壬戌朔。甲子遣參議正躬王。送廢太子於淳和院。備前守從四位上紀朝臣長江。自院逢迎。其儀駕小車。出禁中。到神泉苑。長角駕牛車。先是童謠曰。

天爾波琵琶乎曾打都那留。玉兒牽[2]枯乃坊爾。牛車波善夜。氣辛辛箇乃小箇之華。

有識咸言。童謠不虛。于今驗之矣。

〇同十二年。春正月戊申朔。己卯。於大極殿。修最勝會之初也。是日。外從五位下。尾張連濱主於龍尾道上。舞和風長壽樂。觀者以千數。初謂鮐背之老。不能起居。及于垂袖赴曲。宛如少年。四座僉曰。近代未有如此者。濱主本是伶人也。時年一百十三。自作此舞。上表請舞長壽樂。表中載和歌。其詞曰

[2] 牽枯、或作括、括、裙等、不知孰是。樋口氏曰、枯裾乎、前漢鄒陽傳曳裾、魏志辛毗傳引裾。

那那都義乃。美與爾萬和倍留。毛毛知萬利。止遠乃於支奈能。萬飛多天萬川流

○丁巳 天皇召尾張連濱主於清涼殿前。令舞長壽樂。舞畢濱主即奏和歌曰

於岐那度天。和飛夜波遠良無。久左支毛。散可由留登岐爾。伊天多萬眦天牟

天皇賞歎左右垂淚。賜御衣一襲令罷退

○同嘉祥二年。三月乙卯朔。庚辰。興福寺大法師等。爲奉賀天皇寶算滿于四十。奉造聖像四十軀。寫金剛壽命陀羅尼經四十卷。即轉讀四萬八千卷。竟更作天人不捨芥。天女罷拂石。翻擎御藥。俱來祇候。及浦嶋子暫昇雲漢而得長生。吉野女眇通上天而來且去等像。副之長歌奉獻。其長歌詞曰

日本乃。野馬臺能國遠。賀美侶伎能。宿那眦古那加。葦菅遠。殖生志川。國固米造介牟。瀛津波。起川每年爾。春波有度。今年之春波。每物爾。滋榮惡天地乃。神毛悅比海山毛。色聲變志。梅柳。常殊爾。敷榮咲比開天。鶯毛。聲改且。八千種爾。奇事波。茜刺志。天照國乃。日宮能。聖之御子曾。狐葛天能梯建踐歩美。天降坐志大八洲。日嗣能。高御座。萬世鎮布。五八能。春雨有利。我國之。

1 [illegible]字有之
2 同承和十三年[illegible]
[illegible]
ナヘ、ツキノミヨニマワヘオル
トオキナトテワヒヤハ[illegible]ニ
ラムノトカキテ、次下ニ
云天皇ノ驗[illegible]ルアリテ今ノ
長[illegible]アルキ云
サミ[illegible]ス、其[illegible]
ハルコトニモヘイスイト
リノサエツリテコトシハチ
3 リトマヒソカナヅル
此和歌ノ讚ニツイテ[illegible]スル
トコロノ舞ハ、今ノ[illegible]
是也云々
3 吉野女眇通上天而來且去[illegible]
[illegible]歌[illegible]中云、拓之枝
乃由[illegible]云々
吉野[illegible]有志[illegible]
來通[illegible]
眦[illegible]度云
是亦[illegible]人[illegible]
有此度云那[illegible]云々、萬葉第三云、仙柘枝歌三首、或云、吉野人味稻與柘枝仙媛歌也、但見柘枝傳有此歌、此暮柘之左枝乃、流來者、梁者不打而、不取香聞將有、右一首、若宮年魚麻呂作、古今梁打人乃無有世伐此間毛有[illegible]柘之枝羽裳云々懷風藻云、男人遊吉野川留連美稻逢仙[illegible]嶺[illegible]栖心作野成

上下略此外有[illegible]今略
[illegible]之井之可[illegible]相
[illegible]紀具、[illegible]離騷[illegible]
[illegible]米所以[illegible]
(和[illegible]萬之[illegible])味久久

マトヨムヘシ
4 下不[illegible]天云[illegible]衣罷
[illegible]字可付心
5 以長[illegible]在
[illegible]

6 句數不定、古事記日
[illegible]鳥[illegible]葉[illegible]集等多[illegible]矣、
[illegible]
7 每年調之[illegible]乃波[illegible]萬葉

同此復聲[illegible]
色聲難讀解
詩云上天之載無聲無臭云々、菅家萬葉松之聲

[illegible]風之調[illegible]云々
萬葉二梓弓聲ニキカシテ云
9 狐葛 ヒサコツラ乎

聖乃皇波。尊毛。御坐加。日宮能。聖之御子能。天下爾。御坐天。御世御世爾相承襲弖。稱皇座。現人神止成給。御坐波世四方之國。隣皇波（指異邦）。百嗣爾。繼云毛止。何加等久有牟。所以爾。神毛順比。佛倍敬給布。益益爾。今我帝波。往古毛。不御坐志。將來毛。何申牟。釋迦之法。弘米給弖（比（類））。出家之人法乃族遠。罪有度。赦賜都。咎有止。宥米賜都。無譬岐。御惠乃。異廣久。御坐波。出家之人。法族波（遠（類））。御世世恒爾惜度。年月遠。堰加留天。不過須。鎭牟止誓願比禱申勢。然爾度世之理度。歡之。春爾有利。何弖志。帝之御世萬代爾重爾飾弖。奉令榮度。柘之枝乃。由求波。佛爾願成倍。聖而已。驗波伊萬世。所以爾。帝遠鎭爾驗須陀羅尼乃御法。四十卷乎。寫志繕倍（給（類））。護成須。聖之御像。四十軀。奉造弖四十之師乃（能（類））。悟開天。行布人遠（／脫五字一句乎）。調弖。誠乎致志。四萬爾。八千卷添弖。誓願。奉讀利。飾祈。鎭申利世。行留倍。此之所爲乃態乎。何天爾志。陳倍聞止江牟。茜刺須。終日須加良爾。烏玉乃。狹夜通左右。時日經天。思付爾（忖（類））。落滿乃。。堰。。（／水乎毛）賀禰天（倍（類））。世中乃（能（類））。伊須賀志態遠。添舫利。申志上留。就中爾。。（／脫句乎）大海乃。白浪開弖。常世嶋。國成建天。到住美。聞見人波。萬世能。壽遠延川倍。故事爾。云語來留。澄江能。淵爾釣世志。皇之民。浦嶋子加。天女。釣禮良來弖。紫雲之引弖（／之乎　／棚乎）（他（類））。片時爾。將弖飛往天。是曾此乃。常世之國度。語良比弖。七日經志加良。无限久。命有志波。此嶋爾許曾。有介良志。三吉野爾。有志熊志禰。天女。來通弖。其後波。

1柘枝　仁德紀

求柘之枝由者、承上榮所寄詞於吉野仙媛之名歟。延喜式春日祭祝詞云、天皇我朝廷爾八久波叡能如久、佐加叡志米賜登、云々。私云、寄此祝詞而柘枝乎久八乃木止可讀歟。天降木。三體詩王駕社日詩、桑柘影斜秋社散云々。柘說文桑也トアリ。讀久ト。波者爲得。

2忖　芳俱切悅也偣也、樂也　三重韻思也

古語拾遺曰、美夜比登能、於保與須我良爾、伊佐登保志、由伎能與呂志茂、於保與須我良爾。

伊須賀志、齊明天皇紀ニ、嚴神之宮トカキテ、イツクシノカミノミヤ、トモ又ハ、イツカシノカミノミヤ、トモヨメリ、スト、ツト、イト通スレハ、イスカシハ、イツカシナルヘシ。

神代紀一夜之間。

蒙レ譴テ。晩晴衣。著テ飛度云。是亦。此之島根乃。人爾有度云。五種乃。寶雲乃。大悲者乃。
千種乃御手乃。人乃世爾。萬代延爾。一種乃別爾莊テ。萬代爾。皇乎鎭[illegible]儀上之。絲[illegible]百種乃。
葛別爾。藤花開榮萬世爾。皇乎鎭(類)鶯波。枝爾遊天。飛舞且。囀歌比。萬世爾。皇乎鎭[illegible]澤鶴。
命乎長美。濱爾出且。歡舞天。滿潮乃。無斷時ゝ。萬代爾。皇乎鎭利倍。薰修法之。力乎廣美。大悲者之。
護乎厚美。萬代爾。大御世成波。如八十里。城爾芥子拾布。天人波。擧手且。不拾成奴如八
百里。磐根爾毗禮衣。裾垂飛志波。拂人不拂成天。皇乃。護之法乃。菓乎擎持來候布。如是鎭事
者。何事雖劣。何物非數度。旅人爾。宿春日乃山階乃。佛聖乃。奉獻布奈。大御世乎。萬代祈利。
佛毛。申上流。事之詞波。此國乃。本詞爾。逐倚天。唐乃。詞遠不假須良。書記須。博士不雇須。此
國乃。云傳布良久(類)。日本乃。倭之國波。言玉乃。當國曾。古語爾。流來留。神語爾。傳來傳來。事任
本世乃(類)事尋者。歌語爾。詠反天志(類)。神事爾。用來利。本乃世爾。依遵且。佛毛神毛。擧陳且。禱志
誠乃。丁寧度。聞志食須。嬰兒乃。孩語仁。折箸乃。本末不知。亂絲乃(類)。亂天有度。九重乃。御垣之下
皆。常世鳴。牽連天。狹牡鹿乃。膝折反志。候。聞言須。何以。聞汗流志。莵恐。何以
聞

1 法ハ入聲ニテハフトイフヘケレトモ音便ニハウトヨムヘシ。スヘテ入聲ノ文字ヲ音便ニウトヤハラカニヨムコト多シ。又蝶ハ入聲ニテ入聲ノ音ヲ用ル例モアリ。
2 萬葉第十八、安米比度[illegible]之、云々
私云、[illegible]人也、又第十、[illegible]人乎、[illegible]之止[illegible]
3 山[illegible]
4 萬葉第五、[illegible]佐吉播布國[illegible]、第十一、事[illegible]、八十衢、夕占問、第十三、志貴島、倭國者、事靈之所佐國叙、云云
5 適當トツヘク時ハ有ニ幸之意ニサレハ當ヲサキハフトヨムヘシ。
[illegible]小[illegible]
6 萬葉第三、十六自物、膝[illegible]云々

者、夫倭歌之體、比興爲先。感動人情、最在茲矣。季世陵遲。斯道已墜。今至僧中、頗存古語。可謂禮失則求之於野。故採而載之。於是大法師等寓居右大臣家。遣右近衛少將橘朝臣眞直。宣勅慰之。即施御被。賜雜色四十餘人調布。各有差。

劉子駿移書讓太常博士。禮失求之野。文選九

○日本三代實錄

序云。臣時平等竊惟云云。又云。起於天安二年八月乙卯。訖于仁和三年八月丁卯。首尾三十年。都爲五十卷。名曰日本三代實錄。云云　延喜元年八月二日。左大臣從二位兼行左近衛大將臣藤原朝臣時平。從五位上行勘解由次官兼大外記臣大藏朝臣善行

清和天皇天安二年。天皇諱惟仁。文德天皇之第四子也。母太皇太后藤原氏。太政大臣贈正一位良房朝臣之女也。嘉祥三年歲在庚午三月二十五日癸卯。生於太政大臣東京一條第。十一月二十五日戊戌。立爲皇太子。于時誕育九月也。先是有童謠云

大枝乎超天。走超天。走超天。（奔(古)）（古事談三字ナシ）騰躍止加理超天。（揚也）我耶護毛留。田仁耶搜阿左理食無。志岐耶雄（由(古)）雄伊志岐耶

第二走超、恐衍文、至下云、三超之謠。

識者以爲。大枝謂大兄也。是時文德天皇有四皇子。第一惟喬親王。第二惟條親王。第三惟彥親王。皇太子是第四皇子也。天意若曰。超三兄而立。故有此三超之謠焉。

萬葉緯卷第三終

萬葉緯卷第四　祝詞

目錄

萬葉緯卷第四

洛東隱士 編輯

此章雖非古詠同類將有便古語。依而集于玆

台記 別記 康治元十一月大嘗會記[1]

本朝書籍目錄云台記。左大臣賴長。宇治惡左府。云云今案別記者所流布于世之台記外所奧祕記也。康治者近衞院年號也。此壽詞蠹蝕衍文甚多矣。雖然以延喜式等祝詞參考而有明證則聯綿字句傍書圈別新古耳

○中臣壽詞

舊事本紀第五。宇摩志麻治命傳下云。辛酉正月庚辰朔。天孫磐余彥尊都橿原宮。初卽皇位。號曰元年云云宇摩志麻治命先獻天瑞寶亦竪神楯以齋矣。謂五十櫛。亦云今木刺繞於布都主劍。大神奉齋殿內。卽藏天璽瑞寶以爲天皇鎭祭云云高皇產靈尊兒天富命率諸齋斎部擎天璽鏡劍奉安正殿矣天兒屋命兒、天種子命。奏神代古事。天神壽詞矣

貞觀儀式。大嘗會條下云。辰日。神祇官中臣。捧賢木入自儀鸞門東戶。就版跪奏天神之壽詞

神祇令云。凡踐祚之日。中臣奏天神之壽詞義解云。謂以神代之古事爲萬壽之寶詞也。釋言。壽詞。神代古事也。

疏云。奏壽詞上劍并鏡至十一月爲大嘗耳

現御神止。大八島國所知食須大倭根子天皇我御前仁。天神乃壽詞遠稱辭定奉止良久申須。高天原仁神留坐須。皇親神漏岐神漏美乃命遠持天。八百萬乃神等遠集倍賜天。皇孫尊波高天原仁事始天。豐葦原乃瑞穗乃國遠。安國止[3]平止所知食天[4]。天都日嗣乃天都高御座仁。天都御膳遠長御膳乃遠御膳止。千秋乃五百秋仁瑞穗遠平久安

[1] 續千載集云、康治元年近衞院ノ御時大嘗會悠紀方神樂歌三上山ヲヨメル、左京大夫顯輔 チハヤフル三上ノ山ノ榊ハヲカヲカグハシミトメテコソヲレ、此外同集此時ノ歌有三二首、不盡載。顯輔家集ニ此時ノ大嘗會悠紀方ノ歌屏風ノ歌、不殘見ユ

[2] 延喜式大嘗祭ノ下ニ與貞觀式同シ

[3] 神積 續日本紀

[4] 式大殿祭祝詞云、所知食(古語云志呂志女須)

久由庭仁所知食止。事依志奉氐。天降坐之後仁。中臣乃遠都祖。天兒屋根命。皇御孫尊乃御前仁奉仕氐。天忍雲根神遠。天乃二上[1]仁奉上氐。神漏岐。神漏美命乃前仁受給波理申仁。皇御孫尊乃。御膳都水波。宇津志國乃水加。天都水加。立奉牟止申須事教給比志仁依氐。天忍雲根神。天乃浮雲仁乘氐。天乃二上仁上坐氐。神漏岐。神漏美命乃。前仁申世婆。天乃玉櫛遠刺立氐自夕日至朝日照氐。天都詔刀乃太詔刀言遠以氐告禮。如此告波。[4]麻知波弱韮仁。由都[5]五百篁[3]生出牟。自其下天乃八井[2]出牟。此遠持天都水止所聞食止。事依奉支。如此。奉志任任仁所聞食。由庭乃瑞穗遠四國卜部等。大兆[6]仁卜事遠持氐奉仕留悠紀[7]仁。近江國野洲。主基仁丹波國氷上遠齋定氐。物部人等。酒造兒。酒波。粉走。灰燒。薪採。相作。稻實公。等大嘗（二字衍文字）大嘗會乃齋場仁。持齋利參來氐。今年十一月中都卯日仁。由志理。伊都志理。持。恐恐美清麻波利仁奉仕利。月內仁日時遠撰定氐獻留悠紀主基乃黑木。白木乃大御酒遠。大倭根子天皇我。天都御膳乃長御膳[10]遠遠御膳止。汁仁實仁赤丹乃穗仁所聞食氐。豐明仁明御坐氐。天都詔刀乃。稱辭定奉留。皇神等毛。千秋五百秋乃相嘗仁。相宇豆[11]乃比奉利。堅[12]磐常磐仁齋奉。伊賀志[13]御世仁榮志奉利。自康治元年始氐。與天地月日共照志明志御坐事仁。本末不傾。茂

1 代 [illegible] 下、[illegible] 云々自[illegible]日二上[illegible]云々 [illegible] 大嘗祭上ニ [illegible]云、[illegible]井[illegible]方一丈二尺、[illegible]卜食、使[illegible]用レ之云々、又云、御井ハ在[illegible]見川[illegible]女井在二其[illegible]云々
2 [illegible] 大嘗祭齋場下、其井[illegible] 二、卜定、御井[illegible] [illegible]

3 古事記云、伊邪那岐命云々 [illegible]
4 麻知弱韮未レ詳、

5 由都、師說、由ハ繁キ也、萬葉由種蒔云々
6 [illegible] 古事記云、布斗[illegible]
7 [illegible]

和名鈔、丹波氷上郡氷上（比加美）。
[illegible] 由志理、伊都志理、未詳、[illegible]
[illegible] 大嘗祭 [illegible]

下、宣命ニ云、黑（岐）白（岐）御酒、[illegible] 云々
10 [illegible] 六月々 [illegible] 云々
11 （[illegible]毛）[illegible]（[illegible]毛）云々
同大嘗祭下、大嘗聞食（[illegible]

12 [illegible]敬（[illegible]）皇神等相宇豆乃比[illegible]（氐）云々
[illegible] 天皇（我）[illegible] 常石（[illegible]）伊賀志御世（[illegible]）云々
13 同[illegible] 云、[illegible] 大[illegible]

中臣茂作中取持、云々
[illegible] 云々

槍乃中執持氐奉仕留。中臣祭主正四位上行神祇大副大中臣朝臣淸親壽詞遠稱辭定奉止申。又申久天皇朝廷仁[1]奉仕留親王等。王等諸臣。百官人等。天下四方國乃百姓諸々集侍氐見食倍尊食倍。歡食倍。聞食倍。

天皇朝廷仁。茂世仁八桑枝乃立榮奉仕留倍禱乎。所聞食止。恐美恐毛申給止波久申[2]。

[1] [illegible]平野祭ニモ云、仕奉(弖)親王等、王等、臣等、百官人等云々、貞觀儀式、参[illegible]古[illegible]、式春日祭祝詞云、(大君)王等卿等(乎母)平(久)天皇(我)朝廷(爾)伊加志八久ハエ(乃)如(久)仕奉(利)佐加志米賜(登)云々

[2] [illegible]野祝[illegible]

○貞觀儀式

本朝書籍目錄云、十卷、云云今案不ㇾ記二作者一。同貞觀式下記云、貞觀十三年奏進。右大臣氏宗公撰、云云、若同作歟、此祭文延喜式陰陽式亦載焉、因ニ于茲一記二同異一耳、

附箋

[illegible]人[illegible]云、[illegible]祭下、[illegible]十人、進酒[illegible]一人、[illegible]一人、[illegible]仕一人 云々 [illegible]大嘗祭、進酒[illegible]作[illegible]酒[illegible]一人、[illegible]一人。共作二人。[illegible]酒浪一人。[illegible]上[illegible]二女[illegible]實[illegible]一人、[illegible]一人、[illegible]國人、歌人二十人[illegible]女二十人 云々

天[illegible]、實[illegible]ニコ、ニ似タルコトアリ。又[illegible]傳[illegible]宮御井[illegible]下、又[illegible]鎭[illegible]云、天[illegible]、[illegible]、云々天忍石(乃)長井(乃)水(乎)云々 北山抄

大嘗[illegible]日、云々中臣[illegible]天[illegible]之[illegible]云々

同註、天慶記云、卜文二枚。一枚下ニ定御井一

貞觀式次御水六、題用ニ齋場御井水一云々、

千秋(乃)五百秋(仁)、此段天孫降臨之段ニ似タリ、

立[illegible]、此詞[illegible]物語ニ多シ、[illegible]事[illegible]皇孫[illegible]、鼓文ニ並立奉[illegible]云々、

[illegible]又ハ[illegible]ニツクル、[illegible]、[illegible]ニ作ル、[illegible]ハ[illegible]ナルヘシ、[illegible]ハ當代ニモアシキ酒ニハ入ルナリ、昔ハ皆入ルトミエタリ、シカレハ[illegible]ハ[illegible]ナリ、

[illegible]氏曰、[illegible]補任云、[illegible]中臣[illegible]、[illegible]大[illegible]カ一男、[illegible]二・二・叙[illegible]……[illegible]二年十二月卅日、祭主、同五、正・廿四・[illegible]大[illegible]、[illegible]治元・正・六日・正三位[illegible]、[illegible]ノ賞、保元二・八・七・薨七十二、云云

附箋

種々、[illegible]ニ天[illegible]日向ニノ[illegible]時、クサ[illegible]ノ[illegible]事ハ傳リテ、[illegible]トル[illegible]事ヲワスレタルトテ、[illegible]ソノ水ヲトリニナヘリノ[illegible]ヘルコト、[illegible]鎭[illegible]本[illegible]等ニ見エ、[illegible]今[illegible]ノ[illegible]ト云時ハサキ[illegible]ハ水ヲ持テ[illegible]ルコトナレハサモアルベシ、[illegible]シテ右[illegible]ノ水トリニカヘリ[illegible]ヘルハ[illegible]ノ[illegible]ナルベシ、[illegible][illegible]法[illegible]二、昔ミシ[illegible]野ノ[illegible]ノ[illegible]ナニ今サラニオモヒ[illegible]ラム、[illegible]二[illegible]ト云フハアルト云ヘリ、[illegible]ハ[illegible]レタリキト[illegible]鎭[illegible]本[illegible]アレハ是ナルヘシ、[illegible]ノ天忍井ノコト不ニ甘心一天照大神ノ皇居ハ大和國ナレハ、シカオモヘル也、[illegible]水ハ播州ニ同レ[illegible]、[illegible]アリトイヘト、布留野ノ[illegible]ノ[illegible]コメレハ、[illegible]ノ[illegible]ハ大和國ノ[illegible]水ナルヘキ

○十二月大儺儀

晦日戌二刻。諸衛勒所部。云々于時陰陽寮官人。率齋郎等候承明門外。以桃弓葦矢。桃杖。頒宛儺人云々

陰陽師進讀祭文。其詞曰

今年今月今日今時。時上直符。時上直事。一人一事時下直符。時下直事。及山川禁氣。江河谿谷。二十四位。千二百官。兵馬九千萬人。位置衆諸。前後左右各隨其方。諦定位。可候大宮內。神祇官宮主伊波比奉留。敬奉天地能諸御神等波平久於太比。伊麻佐布倍志登申。事別詔久。穢久惡伎疫鬼能所所村村爾藏里隱布留乎波。千里之外。四方之堺。東方陸奥。西方遠値嘉。南方土佐。北方佐渡里乎。知能所乎。奈牟多知。疫鬼之住加定賜比行賜天。五色寶物。海山能種種味物乎給天。罷賜移賜布所所方方爾。急爾罷往止追給詔爾。挾奸心天留女加久良波。大儺公。小儺公持五兵天追走刑殺牟止聞食止詔。／打鼓比布物

訖儺長。大舍人。著方相面。緋衣。皂裳。持楯槍小儺齋郎。著紺布衣。緋末額。持桃弓葦矢桃枝。碎瓦。儺長稱儺。少儺及。分配人等隨即同稱。遍馳宮中。出自十二門。付京職云云

○年中行事祕抄 内膳司供忌火御飯事條下

順和名鈔云。雎鳩爾雅集注云。雎音七餘反。和名美佐古。今按古語用覺賀鳥三字。云加久加乃止利。見日本紀私記。公望案高橋氏文云。水佐古鶚屬也。好在江邊山中。亦食魚者也。云云今案釋日本紀亦引公望私記。明謂古書雖然恨不載全文矣

1 今俗サイヤレト云ハ、此齋郎ノ轉語ニ似タリ

2 於太比　續日本紀（孝謙帝勅語）於多比、同（光仁勅語）意太比、日本後紀（桓武勅語）於太比（釋之字歟）

3 和名鈔、肥前國松浦郡値嘉（知加）、今按、此値嘉ハ近値嘉ト遠値嘉トアルナリ、シカラハトホチカト讀ヘシ、又筑前國宗像郡アリ、和名今ノ本ニナシ、舊本ハ知加ト讀ムヘシ、古ヘ此ノ遠値嘉ト同所歟、可尋、此四堺ノ事拾芥ニモ出セリ

4 方相　職員令義解云、謂方相者、蒙熊皮、黃金四目、玄衣朱裳執戈云々

5 雎鳩　詩

6 景行天皇五十三年秋八月丁卯朔、天皇詔群卿曰、朕顧愛子、何日止乎、冀欲巡狩小碓王所平之國、是月乘輿幸伊勢、轉入東海、冬十月至上總國、從海路渡淡水門、是時聞覺賀鳥之聲、欲見其鳥形、尋而出海中、仍得白蛤、於是膳臣遠祖名磐鹿六鴈以蒲為手繦、白蛤為膾而進之、故美六鴈臣之功、而賜膳大伴部云々

高橋氏文云。天皇(景行乎)五十三年八月。行幸伊勢。轉入東國。冬十月到上總國安房浮島宮。(和名鈔養老二年割上總國四郡置安房國。)爾時磐鹿六鴈命從駕仕奉矣。天皇葛餝野毛御獦。(和名鈔下總國葛餝(加止志加)郡度(野乎)毛)六鴈留守。大后詔。此浦聞異鳥音。其鳴賀我久々。(私記曰說瑞ヲ鳥不見其名也、)欲見其形。不得登陸。還時領鮋魚多追來。六鴈以角弭弓當遊魚之中。即著弭(鉗乎)而出。忽獲數隻。仍號頑魯(魚乎)。此今諺曰堅魚。(以角爲鉤ハ橋此由也)遇潮涸。渚上仁居奴爲爾得八尺白蛤一具。六鴈捧件二種之物獻大后。大后擧給豆鮎(鱠乎)供御食。爾時六鴈命申久。令料理豆將供奉白。云々見河西山抱(取乎カハ曲乎)葉豆高次八枚仁刺作爪(取乎)見眞木葉一枚(高乎)次八枚刺作豆取日影(仁乎)(女蘿)爲縵。以蒲葉豆美頭良乎卷。麻佐氣葛乎多須岐都々々々(豆乎)(此間疑有脫字)時爲供奉ノ大后詔之。是時上總國安房大神乎(乎乎)御食都神止坐奉。爲。湯坐連等始祖。意富賣布連之子。豐日連。乎令火鑽豆此手忌火手爲天。伊波比由(毓乎)鹿々閇天。供御食並大八洲爾像天。八手ト古八手上呼(止乎)二定(ヒ乎)天。神齋大嘗等二供奉始支。但之。安房大神(神名帳安房郡安房ニ坐ス神社(名神大月次新嘗))爲御食神者。(津(神名帳))今大膳職祭神也。令鑽忌。(火ヲ乎)(火食乎(種李))大伴造者。物部豐日連之後也

神今食事(ジンコンケ(キイ)ノ西峯点下 / ジキ野松公御点)

高橋氏文云。太政官符云。定高橋安曇二氏。供奉神事御膳。

中辰日節會下

高橋氏文云。六鴈命。七十二年秋薨。(景行天皇六十年崩、不審)天皇宣命云。十一月嘗(新乎)ノ會モ膳(大乎)職ノ御膳ノ事モ。六鴈命勞始成流所ナ

(三代實錄云。貞觀元正廿七。大膳職從五位下大八嶋竈神八前。齋火武主比神、內膳司從五位下庭火皇神等並ニ從五位上云々。)

1 姓代錄山城國皇別、高橋朝臣、阿倍朝臣同祖、大稻輿命之後也。景行天皇巡狩東國。供獻大蛤。于時天皇喜其奇美。賜姓膳臣。天大渟中原瀛眞人諡天武十二年改膳臣。賜高橋朝臣云々

2 和名鈔、鰹音堅、加豆乎式文用堅魚二字。

3 領鮋魚未詳

4 和名鈔、安房國安房郡、河曲(加波和)

5 同、抱杷和名沼美久須利、俗云久古云々

6 料理、令義解云、

7 和名鈔上總國、周淮(季)郡湯坐湯坐人(神代紀由惠比止)湯人(雄略紀由衛)

8 江次第云。忌火。每至神態鑽火炊亦變。謂之忌火良也。延喜式忌火。庭火祭。官主於內膳司行事、又云天平三年正月。神祇官奏庭火御竈四時祭禮永爲常例云々

9 和名鈔、下總國結城郡高橋、神名帳同國同郡高埼神社、

10 神名帳云。大膳職坐神三坐、(並小)御食津神社。火雷神社。高倍(橋乎、埼乎)神社

リ。是以テ六鴈命ノ御魂乎ハ膳職仁伊波比奉天。春秋ノ永世ノ。神財ト仕奉牟志天云々

拾芥抄

1洞院相國公賢公作。

○宮咩祭文2伊呂波字類抄云。宮咩奠3。正月十二月。初午日、院宮諸家祭レ之ヲ云々

維永承△年歳次。其月壬午。年加中仁月乎擇比。月加中仁日乎擇比。日加中仁時乎擇天。掛毛畏支宮五柱。4笠間乃廣前仁。從四位上行官姓名。恐美恐。毛天申給久。絹波乍編。綿波乍結。進物波高坏加彌高高仁。飯乃方毛利加仁。清酒乃早仁。堅酒乃堅仁。橘乃忽仁。餅乃持天榮仁。鯛乃平ラカ仁。鱒乃彌益益仁。鰶乃好美好仁。鮑乃片岡仁。鯽乃搔寄天。齋乃庭佐良須。嚴久聞食志受納給天。壽長久身全志天。天地乃不祥。內外乃惡事。未萠以前仁。兼天波遠久拂世退介給天。官爵如意仁。叶志女給天。萬世仁子孫繁昌乃門止有志女夜。乃守里日。乃守里仁。常磐堅磐仁。守里幸閉給止。恐美恐毛申須

釋日本紀

書ニ于目錄ニ云。通議大夫祠部員外郎雍州刺史卜部宿禰懷賢釋。云云凡闕ニ此書ヲ。今不レ傳ニ于世ニ。古書間多シ矣。可レ謂ニ日本紀ノ至寶ト也

1拾芥抄、洞院相國公賢公抄也、坊本三杯アリ、一木ハ活字木、又ツネノ板木ニ二木アリ、此中活字ノヲ定木トスヘシ、板本ハ二木トモニ増添タル往々ニ見ユ、活字ノ本ト合校フヘシ、舊江州ノ石山寺ヨリ出タル本也、又別ニ一本アリ、連哥師里村紹巴、三條西殿ヨリ傳エテ手ツカラ寫シタル本、玄後代マテ持ツタエタルヲ、其子玄心代ニ有レ由テ浪華ノ某道億氏家藏トナレリ、其本モ今ノ活字ニ合レ見レハ、後ニ加エタルコト多ク見エタレハ、還テ活字ノ本ニハ孰與、活字ノ本上ノ本ノ終ニ寫本ニ云、彼本ハ開院ノ相國被レ抄之、仍テ呆守僧正留テ寫レ之、當寺ノ（石山）座主相傳テ令深秘被納ニ箱之底ニ云々、紹巴手寫シタル本ニハ稱名院殿奧書アリ、種季考、

2淸少納言枕草子、祠ナメケナル物ニヤノメノサイ（祭文ヨム人々

3神名帳。御巫ノ祭ル神八座之内。有ニ大宮賣神一與ニ宮咩ニ同神歟。謂ニ五柱ノ間ニ則別神歟、式祈年祭祝ニ大宮乃賣云々。宮咩大宮賣爲同神ニ者乎。於乃字ニ可レ讀兵範記云。保元三年正月九日、殿下宮咩祭如レ例。右大臣殿御方初有ニ此儀一。自ニ御所ニ調ニ給人形ノ。政所備ニ祭物家令大舍人ヽ祀宗頼爲ニ祝部一。

4笠間ウツホ物語國ユヅリ卷、ソン王ノ君。フヂツボニアルタグレニ。カハハナレテ。クロキ水楠ノオホキヤカナル。ヨツイツヽカサネテ。女ドモサシイレテイヌ。ツボネノ人〈〈。アヤシキモノカナ。ゴゼニカヽルモノヲサシ入テイヌルトテミレバオホキナルクボテヲ。シロキクミシテユヒテ。イツヽサシイレタリ。トリイレタレハ。ホドハナケイノオホキサナリ。アケテミレバヒ（トカ）ツニハ。ネリタルキヌヲ。イヒモリタルヤウニイレタリ。イマヒトツニハアヤヲオナジヤウニイレタリ。イマ一ニハ。カヅヲサケナドノヤウニテ。ヂンヲイリ（レカ）タリ。クボ・テノフタニ、十マ女ノテニテケフナラン。カラウジテ一ツイノリツル。ヒラテクボテニハ二十トカ。ネキコトモキカズナリニシカサマニハ蒔ノオホカルクボテトケトゾ。六々、賀方宗巣六、タメタフノ舟。ナカヨリガ一イツニタエリメシトシ。コトシバカリトテ。宮ノヘノウヘノ御ソノハシラヒタリケル。タガ心ケアハムトオモヘリケルヲ。ケシキヲミテシリフゴトニ（ホノマヽ）アメニアスカサマノ神ノナカリセバフリニシ中ヲイカデトハマシ云々

○龜[1]兆傳曰（古事談六曰、龜甲御占ニハ、春日社宮町西角ニテ、御坐スル社ヲハ、大諸戸ノ明神ト申、件社ヲ、北占ノ時ハ念ト、云々又伯耆國大島下人者、皆此占スル者ナリ、坂中院御時、伴ノ下人三人上洛仕テ彼占之時、皆今仕事者也云々、）

江次第八第十軒廊御卜條下

黄龜。（四季用之乎向ニ其月一建云云、）又曰。龜卜必具ニ五行一。水灌レ之。火放レ之。木立レ之。金爲ニ懸レ水器一。土以ニ龜甲一撒

水[2]ト火ホ神カア人エア　土多如金エア木カア

人　神

今案。惜哉龜卜之術。倭漢共以レ失ニ於其傳一。對馬儒醫牟田氏曰至ニ于今世一。對馬業ニ龜卜一神人多矣。僉卜部氏也。自然海邊取ニ所ニ寄來一之龜甲ヲ乾曝收置而成ニ龜卜一。其異詞等雖レ有ニ數多一。祕而不傳外人ニ云云。夫龜卜者自ニ往古一對馬伊伎氏掌レ之。今世雖レ混ニ貴姓ニ無レ分レ之者、師雜記引ニ今古明證一正焉。於是雖ニ無レ用事多一。爲レ解ニ愆載ニ全文一而已。雜記云。或書云。卜部姓。仲哀天皇御宇雷大臣（天兒屋根十一世）人達ニ龜卜一故始給ニ卜部姓一。又常磐大連（天兒屋根ノ十八世）奉レ授ニ中臣秡於欽明天皇一於是改ニ卜部姓一而給ニ中臣ノ姓一。天智天皇御宇至ニ大織冠一給ニ藤原氏一。大織冠御子意美麻呂又復ニ中臣姓一。神護景雲二年。意美麿子清麿被レ拜ニ中納言一斯時加ニ給大字一。又改ニ大中臣一。自ニ清麿一四世。日良[3]麿又給ニ卜部姓一自レ爾以來代代至レ今吉田家不レ改。今イハク。コレハ妄傳ヲ受タル說ナルベシ。卜部ノ家ノ說ニテアルベカラズ。先大中臣ハ。天兒屋命ヨリ傳ハリテ。隱レナキ貴姓。卜部ハ忍見命ヨリ傳ハリテ。先祖大キニ殊ナリ。凡祭詞等ハ。中臣ヲ最トシテ忌部コレニ次タリ。延喜式等ヲミルニ。卜部ハ此等ノ下ニ屬ストミエタリ。令第二（神祇）云。凡灼レ龜占ニ吉凶一者。是卜部之執業。コレ中臣ノ外ニ。卜部氏アル事昔ヨリ明ラカナリ。然ルニ。天武天皇十三年ニ。八姓ヲ分テ、眞人朝臣宿禰等ノ姓ヲ。諸氏ニ賜ヒケル時。

1 令義解云、兆者灼レ龜縱橫之文也、令集解云。灼龜爲レ卜灼驗爲レ兆也

2 今按近世衍ニ神道一者、以ニトホカミヱミタメ多如等詞一爲ニ三種祓一、此龜卜詞、而自ニ古來一稱ニ三種祓一不レ聞ニ名目一可レ笑。多如ノ如可レ作レ女。又後人以ニ神二字一關ニ和訓一准ニ前是亦可レ讀ニエアカア一止乎。又多女カアトヨムヘキ歟、所詮初ノ人以下訓恐有ニ乱脱一。袖中抄、ウラベカタヤキノ下ニ云、龜トニ五兆ト云事アリ、其中ニタメト云字ハ人ト云字ヲ書ト云々、仲實朝臣歌ニハ、カヒニチガヘルカメノウラクシヤタメトハシルハキミカアヘルカ、カヒトハ朱櫻桃火トモカキ、又タヾ櫻桃トモカケリ、タメニハアフト云事アリ、相字ヲカケリ、カメノウラヲカメノマスラトモヨメリ、師時卿歌ニ云、オモヒカネカメノマスラニコトヘハタメアヒタリトキクソウレシキト云々、江次第與ニ神中一人字訓相違如何、牟田氏曰、山櫻也、今世取レ皮曲物ナトヲツヽル物也、此木皮橫ニメグレル故ニ、縱橫ニ氣ヲ通スグルナリ、夫故ニ龜トニ用ルナリ、ウラカタニタテヨコニ氣ヲメクラサムタメニ象ヲトレリ云々、又曰ハ、カハ、カハナデ、櫻トモ云モノ也、久ハナデンノ櫻トモ云フ、夫木、奧山ニオイサラボヘルイヌサクラ—

3 三代格卷第一、貞觀十四年十二月十五日、官符、平野神社、預從五位下卜部宿禰平麻呂、云々。三代實錄四十九、元慶五年十二月乙亥朔五月己卯、尾張國中嶋郡人從五位下行丹波介卜部宿禰平麻呂卒ル。平麻呂者伊豆國人也。幼而習ニ龜卜之道一爲ニ神祇之卜部一。揚レ火灼レ龜決ニ義疑一多シ効ルニ、承和之初遣レ使聘レ唐。平麻呂以レ善ニ卜術一備ニ於使部一。使還之後爲ニ神祇大史一。嘉祥三年轉ニ少祐一。齊衡四年授ニ外從五位下一。天安二年拜ニ權大祐一兼爲ニ宮主一。貞觀八年遷ニ參河權介一。十年授ニ從五位下一。累歷ニ備後丹波介一。卒年七十五云々

附箋

古事記に、亀のうらよ、周易のうらよ、にうつれしといふ事をいひ出して、亀のうらをしとかられけり、乃きは周易深しと申しけり、今論事のほどにしあかりて、ゆたか出本文なり引に及けり、宗久答しかたまり二、ゆ道に負寨りぬ、拟入道申していはく、今は御才智弱にあまらせ給ひにけり、御學問いろへからす、益なかせさせ給は、一定御身の重と家へしと申して出にけり、此事をみつからもいみしき事におほしめして、御日記かかれたり、その言にいはく、已下不見

顯宗天皇三年月、云々人請之日、云々壹伎縣主先祖、押見宿禰侍祠、云々又日、神著人謂、云々對馬下縣直侍祠、云々

姓氏錄。右京神別。壹伎直。天兒屋根命九世孫雷大臣之後也。又未定雜姓。大和國。津島直。天兒屋根十四世孫雷大臣命之後也、

今案、壹岐對島二國共天兒屋根命孫、雷大臣有之爾人、平範記ニ、壹岐人齋ノ内壹岐氏ノ人見ユ

中臣ニハ、朝臣。忌部ニハ宿禰ヲ賜ヒケレド。卜部ハ豫カラズ。ミエタル事モナシ。三代實錄第七云。貞觀五年九月七日丙申。壹岐島石田郡人。宮主從五位下卜部是雄。神祇權少史正七位上。卜部業孝等。賜姓伊伎宿禰。其先出自雷大臣命也。同第二十一云。貞觀十四年夏四月廿四日癸亥。宮主從五位下兼行丹波權掾伊伎宿禰是雄卒。是雄者壹岐島人也。本姓卜部。改爲伊伎。始祖忍見足尼命始自神代供龜卜事。厥後子孫傳習祖業備於卜部。是雄卜數之道尤究其要。日者之中可謂獨步。コレニヨレバ。卜部ノ上祖ハ。忍見足尼命ニテ。雷大臣ヨリ。殊ニ顯ハレタル意ヲ、アラハサムタメニ。今ノ兩文影略互見シテ。初ニハ雷大臣ヨリ出トイヒ。後ニハ始祖ヲ擧タル歟。雷大臣ハ日本紀ニハ見エズ。神功皇后紀ニ。中臣烏賊津臣トイフ人ヲ審神者トシタマフトアレバ。仲哀天皇ノ御時。尤此人神職ヲ掌ルベシ。烏賊津ト雷ト似タレバ。烏賊津臣ヲ。雷大臣トイヒナセルニヤ。サレド神功紀ニ中臣烏賊津臣トアレバ。混ズベカラズ。又大臣ニアラズ。其上彼御時ハ。武内宿禰。大臣ニテオハシケレバ。雷大臣ハ別ノ代ノ人ナルベシ。又上古ヨリ中臣氏ハ中臣ニテ。卜部ト改タル事モ。卜部ヲ中臣ト改タル事モ。日本紀等ノ史書。古語拾遺ナドニモ。スベテナキ事ナリ。用ヘカラズ。文德實錄第六云。齊衡三年九月庚戌。宮主外從五位下。卜部雄貞。神祇少祐正六位上業基等。賜姓占部宿禰。コレハ卜部ノ文字ヲモ。占部ト改タメ。姓モ宿禰トタマヒタレバ。卜部氏ノ嫡家ナリ。今ノ卜部ハ。庶流ナレバ。卜部ノ文字ヲモ改タメズ。宿禰ノ尸ヲモ賜ハラズ。此故ニ古語拾遺ノ奧書ニハ。延久元年神祇大副卜部兼興トアリ。新勅撰ニモ。卜部兼豐トノミアリ。釋日本紀奧書云。正安四年二月大常卿卜部朝臣兼永トアリ。正安ハ後伏見院御宇ノ年號ナレバ。コレヨリサキニ。朝臣ノ姓ヲ賜ハハリケルニヤ。何ノ姓モナカリケル家ノ。俄ニ朝臣ヲ賜ヒタルハ。面目ナル事ナリ。續日本紀第三十九云。延曆七年七月癸酉。前右大臣正二位大中臣朝臣清麻呂薨。曾祖國子。小治田朝小德冠。父意美麻呂。中納言正四位上。云云　コレニヨレバ。意美麻呂ヲ。大織冠御子トイヘルモ誤ナリ。大織冠御子ハ定惠和尚ト。淡海公トナリ。或物ニ。大織冠ノ父ヲハ御食子トイヒ。意美麻呂ヲハ。大織冠ノ甥トイヘリ。甥ナラハ大織冠ト。意美麻呂

1兼直朝臣宣胤卿記ニ見エタリ此歌ノ時ハ未ダ兼直ノ四品ニナラサリケル時ナルベシ　樋口氏

附箋

種季曰神祇官ノ員官ニ史生四人、官掌二人、神部三十人、卜部二十人、便部三十人、直丁二人、御巫、祝部十トアリ、式ニ見ユ、今ノ吉田ハト部ナリ、神祇ノ事ハ伯大副ノ任ニテ、白川藤波ノ職分ニテ、吉田ノ知ル事ニアラネト、今ハ於神事ニハ此家ノヤウニ白人ノオモヒ皇朝ニモシカオホスメスヤウニナレリ、サマ〳〵カンガヘ共候ヘ共此コト十枚ヤ二十枚ニカキツクシモ申サレズ候ユヱ。不申上候。

ノ父トハ兄弟ニテ。國子ノ子ナルベシ、イヅレモ日本紀等ニ見エネバ。詳オボツカナシ。天智天皇ノ御時ハ。中臣金ヲ左大臣ニ任シタマヒ、持統天皇御卽位ノ御時ハ。神祇伯中臣大嶋朝臣。天神壽詞ヲ讀申サレケレバ。此人人意美麻呂ヨリハ。猶嫡流ニテ有ケルナルベシ。淸麻呂ヲ中納言ニ任ゼラレタルハ。景雲二年二月ナレ登。大中臣ヲ賜ハレルハ。同シ三年六月十九日ナレバ。斯時加ニ給大字ニトイヘルモ誤レリ。大中臣ハ史籍ニオホク見エ。賴基。能宣等ノ和歌ノ堪能サヘ出來テ。代代ノ撰撰ニ歌トモサカリニ見エタリ。シバラク末ノ集ニミエタルヲ出シテ證スベシ。新後撰集。神祇。大中臣定忠朝臣。マキモクノ玉キノ御代ニ跡タレテミヤヰフリヌルイスズ川上。續千載集雜一。大中臣永胤朝臣。身ノウサヲオモヘバイトド世ヲアキノ袖ノシグレハハルマゾナキ。風雅集雜上。大中臣直宣。雪カカルソトモノ梅ハオソケレドマヅ春ツグル鶯ノコエ。新後拾遺雜秋。兼レ冬。大中臣行廣朝臣。身コソカクフリヌル物ヲ年クレテツモルヲ雪ト何オモヒケム。卜部氏ノ人ノ歌ハ。新勅撰ニ。初テ兼直ノ歌見エタリ。新續古今集。秋下。卜部兼敦朝臣。有明ノ殘ルモウスキ庭ノ面ニソレカトバカリオケル初雪。同神祇吉田祭。正三位兼熙。モモトセヲハヤヨカヘリノ霜ヲヘテ絶スヨシ田ノ神祭カナ。同シ集ニ兼直1ノ歌アレド。タダ卜部兼直トノミアレバ。朝臣ノ尸ヲ賜ハリケルモ。先祖マデニハ廻ラサザレケルナリ。右兩氏ノヤウカクノゴトシ。委シクハ家ニタヅネテ知ベシ。カカレバ。サキノ說ハ大カタヒガコトナリ。範兼卿ノ童蒙抄。顯昭法橋ノ色葉集ニ。或物ニ卜部ハ思兼命ノ裔ナリトイヘリ。彼家ニ。兼ノ字ヲオキテ。名ノリ來レルモ。サル故ニヤトオボシキヲ。三代實錄ノ說。明ラカナレバ。オシハカリナリ。又或說ニ大織冠藤マキノ鎌ヲモテ。入鹿ヲ亡ボサレケル故ニ。帝ヨリ名ヲ鎌足トタマヒ。其子孫ナレバトテ。鎌ノ字ノ旁ヲ賜ハレリナドイフニタラズ。意美麻呂ハ持統紀ニ。臣麻呂トアル人ナリ。意ハ日本紀萬葉等ニ。於トオナジク用ルナリ。伊トオナジクオモヒテ。忌磨トヨムハ誤ナリ。云云。

1 萬葉集第十五、長歌云。由吉能安末能保都手乃宇良敝乎可多夜伎弖云々

2 町字古本日本紀私記字抄云、ニニキノ館[illegible]ノ時有二龜一、神[illegible]太詔戸命[illegible]服二立、[illegible]而進、頭白[illegible]天照大神[illegible]日、龜者知二天而不一レ知レ地、龜無レ所レ不レ知焉、請獻レ甲、灼レ之觀レ兆、則天下之吉凶居可レ知矣、逆二五兆一日、地天神人兆如レ次、就二北南東西中一左爲レ外右爲レ內地天兆各二十九卦、神人兆各三十八卦中兆三卦合爲二百三十七卦、以二櫻木皮一灼甲、決二其吉凶一、櫻木此云二波々加木一、已上種孝惠云

龜者傳云。卜者日假之、上靈夫子。夫子玉靈之精、而心令而先知。而上行二於天一下行二於淵一、諸靈數而莫レ如二汝信一、上靈尊二神龜一而爲レ之作レ

3 讚。萬葉別名。

惜哉以云云二誤焉

4 種子曰

夜[illegible]事、上古之故也、其毀時以下罪名是二以[illegible]二前

凡述二龜誓一皇親神魯岐（天照大神之謂也）神魯美命。（高御產巢日神之謂也。）荒振神者掃々手。石木草葉斷二其語一。詔二群神一。吾皇御孫命者。豐葦原水穗國。安平。知食。天降事寄之時。誰神皇御孫尊。朝之御食。夕之御食（尋常之御膳也）長之御食。遠之御食之間二食大嘗會。（香曉之御膳也。故事已上皆以卜食）可二仕奉一神問問賜之時。取二天香山白眞名鹿。（一說云。白眞男鹿）吾將仕奉。我之肩骨內拔拔出。（肉イ）火成卜以問之。問給之時已致二火僞一太詔戶命進啓（又按二此時二神女住二天香山一也。今稱二天津詔戶太詔戶命一也）龜津比女命。白眞鹿者。可レ知二上國之事一何知二地下之事一。吾者能知二上國地下天神地祇一況復人情憤悒。但手足容貌不レ同二羣神一故皇御孫命放二天石座一別二八重雲一。天降坐立二御前一下來也。云云　吾八十骨（甲也）乾二曝日一以レ竿打（斧小）天之千別千別。甲上甲尻眞澄鏡取作之（掛乎）以二天刀一掘レ町判掃之（穴町軼云云）3

先師說云。太古讀二太町一。據二甲穴軼一者也。云云

中臣祓（4 祭文）朝野群載第六

古語拾遺云。逮二于神武天皇東征之年一令下二天種子命一（天兒屋命之孫）解中除天罪國罪事上（所謂天罪者上既二設々訖。國罪者國中人民所犯之罪ナリ。其事具ニ在二中臣祓詞一）云云　今案。此祓詞無レ有二史籍一而適載二于朝野羣載一而已。又與二延喜式六月晦日大祓祝詞一（十二月准之）有二大同少異一矣。式不レ載之者公事以レ無レ用故歟。今執二於神道一者稱下自二神代一傳來奧祕上。恣吐二我意一。大概假二用浮屠虛無寂滅之說一可レ笑。

乃（朝野群載以下倣之）

5 高天。原仁6 神留坐須。皇親。神漏岐。神漏美乃御命（式）於以天。八百萬乃神達（等）。神集仁集賜比。神議仁議給（比）天。（師）不讀（式）吾皇御孫尊（乃）（我加）豐葦原乃水穗乃國。安國（式）於平久（介）所知食世（登）事依之。奉（天）。如此依。之奉之（差世）

5 續日本紀天平勝寶元年四月甲午詔[illegible]高天原[illegible]降坐之云云

[illegible]法度

6 神留 續日本紀第十七宣命云、高天ノ原ニ神積坐皇親神魯美命云々、神名帳八省殿祭祝詞[illegible]

師說アハセミルニカミツマリトヨムヘシ

國中仁荒振。神達乎神問仁問賜比。神掃仁掃賜比。語問之磐根樹乃立。草乃垣葉毛語止天天。磐座放千。一戸袁押開天(式ナシ)

天。八重雲乎伊頭乃千別仁千別給。天。天降利依。奉幾。如此。依。之奉之

四方乃國中仁。大倭日高見乃國乎。安國登定奉天。下津磐根仁。宮柱太敷立。高天原仁千木高知天。吾皇御

孫。尊乃美頭乃御舍仁仕奉天天乃御蔭。日乃御蔭登隱坐天。安國登平久所知食牟

國。中仁成出牟。天乃益人等加。過犯氣牟種々乃罪乎波。咎崇利 三字(式ナシ)

1 天津罪波。畔放千。溝埋女。樋放千。頻蒔串刺生剝逆剝。屎戶許々太久乃罪乎。天津罪登詔別天

國津罪波。生膚斷。死膚斷。白人胡久美。巳加母犯罪。巳加子犯罪。母與子犯罪。子

與母犯罪。畜犯罪。昆蟲乃災。高津神乃災。高津鳥乃禍。畜仆志。蠱物爲罪。許

々太久乃罪事出。

如此出波。天津宮事以天。大中臣(師不讀)天津金木乎本打切。末打斷天。千倉乃置倉仁置足波之天。天津菅曾乎。本刈

斷。末刈切天。八針仁取辟天

天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮。如此宣波羅

天津神波。天磐門乎押披天。天乃八重雲乎。伊頭乃千別仁千別天所聞食牟。國津神波。高山乃末。

神代紀十六、是ノ後素戔嗚尊之爲行也甚無状。何則天照大神以ニ天狹田長田一爲ニ御田一時素戔嗚尊春則重播種子(重播種子此云璽枳磨枳)且毀其畔(毀此云波那豆)秋則放ニ天斑駒一使ニ伏ニ田中一復見ニ天照大神當ニ新嘗ニ時一則陰放ニ屎於新宮一又見ニ天照大神方織ニ神衣一居ニ齋服殿一則剝ニ天斑駒一穿ニ殿甍一而投納。

一書曰、[illegible]毀畔又秋穀已成則冒以ニ絡繩一且日神居ニ織殿一時則生ニ剝斑駒一納ニ其殿内一

古事記(神功卷)更取ニ國之大奴佐一而(奴佐二字以レ音)種ニ求生剝逆剝阿離溝埋屎戶上通下通婚馬婚牛婚雞婚犬婚之罪類一

2 ヒトスガ

3 一絲綜

種考曰。宣ハ令ト云フ下知ノ詞ニアラス。只ノル也。若菜ノ上云。オノノーワカル、道ノホト物語シ玉フテ宮ノ御事ノ[illegible]イハマホシケレ[illegible]漢朗詠、マス鏡ソコナルカケニムカヒヰテシラヌ

短山乃末仁登利坐天。高山乃伊惠理。短山乃伊惠理乎撥別天。所聞食牟

如此所聞食波。皇御孫之命乃朝廷乎始氐天下四方國罪止云。罪。咎登云咎波不レ在。科戸乃風乃。天乃八重

雲乎吹放津事能如久。朝能御霧。夕乃御霧乎朝風夕風乃吹拂事能如久。大津乃邊仁居留大船能舳綱解放

綱解放天。大海原仁押放津事乃如久。彼方也繁木加本乎燒鎌能敏鎌乎以天打拂事乃如久

遺罪波不レ在止。祓賜比清賜事於。高山乃末。短山乃末利與。佐久良谷仁落瀧津。速川乃瀨仁坐須。瀨織津

比咩登云神。大海。乃原仁持出牟奈

如此持出往波奈荒鹽乃鹽乃八百道乃。八鹽道能。鹽乃八百會仁坐須速開津比咩登云神。持可々牟。呑天

如此持。可々牟。呑波天氣吹戸仁坐須氣吹戸主登云神乃根國底之國仁氣吹放牟氐天

如此氣吹放波天根國。底國仁坐登速佐須良比咩登云神持佐須良比除失牟氐

如此。失波天遺罪止云罪。咎登云咎波不レ在。物止祓賜比清賜登申事能由。八百萬。御神等諸共仁左男鹿乃

八能御耳乎振立天聞食止申

春日若宮社神樂舞乃歌

初乃歌
君加代乃。　比左之加留倍支太女志爾波　神毛宇江介牟。住吉乃松也禮住吉乃松也禮

春日山之良拍子[6]　以波爾乃松波　伊波爾止毛　千年乎　美止里乃　色爾志里

1 短山女女比延喜式　伴信 神武紀　雉〓ヒキヒトカククナ〓靈異記　下總雉方戈切雉然短也
2 佐久那太理(式)廣瀨大忌祭祝詞云、皇神等(乃)敷坐(須)山山(乃)自レ口狹久那多利(爾)下賜水(乎)云々
3 師說、延喜式六月祓祝詞ニ、呑ヲ歌呑トイヘリ、ヨハキヲカヨハキ、ヨルヲカヨルナト、源氏ニモイヘリ、催馬樂石川ニカヤル、カアヤルカ
4 式結句如レ此失(氏波)天皇(我)朝廷(爾)仕奉(留○)官官人等(乎)始(氏○)天下四方(爾)波)自二今日一始(氐)罪(止)云(布)罪(波)不レ在(止○)高天原(爾)耳振立聞物(止)馬牽立(氐○)今年六月晦日夕日之降(乃○)大祓(爾)祓給(比)事(乎)諸聞食(止)宣云々
5 詞花集賀、讀人しらず、君カ代ノヒサシカルヘキタメシニハ神モウヱケン住吉ノ松、
6 後拾遺賀、能因法師、春日山岩根ノ松ハ君ガタメ千年ノミカハ萬代ソヘム
續千載賀、爲家、春日山松吹カセノ高ケレハ空ニキコユル萬代ノコヱ

良牟拍子乃詠止於奈之
見爾(峯)乃嵐波　於止世爾止(雖不音)　萬歳乃　比々支曾(響)　美美(耳)仁三津(満)

中乃歌[1]　○三笠山　生(是與里詠波終迄止於奈之)曾布(添)松乃　江太(枝)古止爾　絶(不)受(手乎加由留)毛君加　左加(可)由倍(榮)支加那(哉)。也禮　○左加由倍支加奈／＼　左加由倍支加奈也

末乃歌[2]　色加戸奴　松止竹止乃　松止竹止乃(之保留手乎加由留)　萬川止竹止乃／＼(扇子左戸止留)　須恵(末)乃代爾(无)　以(何)津禮久(久)志止也／＼

君乃美(耳)曾美牟(将見)／＼　君乃美曾見牟／＼　以津禮久之止也／＼　(扇子右戸止留)君乃美曾美牟／＼／＼

同

初乃歌[3]　○千代萬天(迄)止　君乎(祈)以乃禮波(安比舞乃時皮是與里同音)　三笠山　美爾(峯)(手乎加由留)仁毛(同)於奈之　聲幾(聞)古山奈里(也)。也禮

聲支古山奈理也奈大牟加之企

之良柏子　○松波以波比乃　多女(様)之爾比(波)加留(引)留波　春日乃山乃姫小松　八千代乃玉椿

詠波之女止同[4]　○以川乃支河爾須(住)無鶴(貫(與奴通))　奈加(長)井乃浦爾安曾(遊)布龜

中乃歌上[5]　鶴乃子乃　萬太(又)川留(鶴)乃子乃(同音)。也之波子乃(曾孫(和名))　曾太(将)太牟(育)代萬天(迄)。君波萬之萬世(座)。也禮　君波萬之萬世／＼

君波萬之萬世／＼也

末乃歌[6]　宮人乃／＼　須(有)禮留衣爾(摺)　須禮留衣爾／＼(之保留)　須禮留衣爾由布太須支(扇子左倍取)(木綿乎繦)。　加(掛)介天心袁也／＼　太禮(誰)

爾與(寄)須良牟／＼　誰爾與須良牟／＼　加氣天心乎也／＼

(扇子右倍止留)加介天心乎也　／＼　加介天心乎也　／＼　多禮爾與須良牟　／＼　誰爾與須良牟　／＼

1 拾遺賀、聲タカクミカサノ山ゾヨバフナル天ノ下コソタノシカルラン
三笠山おひそふ松の枝ごとにたえすも君カサカユヘキカナ

2 色カヘヌ松ト竹トノ末ノヨニイツレヒサシトヤ君ノミソミム

3 千代マデト君ヲイノレハ三笠山ミネニモオナシコヱキコユナリ

4 催馬樂。蘆田ノイツヌキ川ニスムツルノ。チトセヲカケテ。アソヒアヘルカモ。夫木廿五、ヨミ人シラス。君カ代ハ。長居ノ濱ニヰルタツノ。アマタノ千代モ。アカスソアリケル、タツヲアメニ替ヘル歟

5 ツルノ子ノマタツルノ子ノヤシハコノソダヽムヨマテ君ハマシマセ

6 宮人ノスレルコロモニユフタスキカケテル心ヲタレニヨスラム

同

（初乃歌）萬代乃[1]　萬津乃尾山乃加氣志介美　蘇乃太牟加之良毛呂祢　子爾舞乃手乎加由留

君乎曾以乃留　止支波加支波爾也禮　登幾波加支葉爾。也禮

（之良拍子）神明所爾　萬之萬勢婆　一左以諸願ッ與之奈志　萬民宇禮戸奈介禮婆　加牟古毛於支天那爾加　世牟

（中乃拍子上）我也止能[2]　千代乃川竹布之止乎美　左毛行末乃波留加奈留加那。也禮

波留加奈留加那〳〵　波留加那留加奈〳〵也

宇惠天見留[3]　殖天安萬乃萬加支乃竹乃　萬加支能竹乃　萬加支乃竹能〳〵　布之古止毎

以也古毛禮留千代波〳〵　君能美曾見牟〳〵　君乃美曾美牟〳〵　以也古毛禮留千代波〳〵〳〵

君乃美曾見牟〳〵〳〵

右神樂舞歌依二于細見氏惠一書寫而已。追而以春日若宮社務何某正本一比二校之一。

釋奠十一座[4]見二于延喜式一

二座　先聖文宣王　先師顏子

祝文

己下皆讀音

維某年歲次月朔日子天子謹遣大學頭。位姓名。敢昭告于先聖文宣王。惟王。固天攸縱。誕降生知。經緯禮樂闡

[1] 古今買、出雲……ヲ……カキニ寛治八年……大歌大嘗會……合ニイハヒノコヽロヲ春日ニテ松尾ノ歌不審、若宮……只古歌ヲウタヘルマヽニテ松尾ヲヨメルニ心ナシ

[2] 我ヤトノチヨノ……ノシ……ホミサモ行末ノハルカナルカナ

[3] ウヱテミルアカキノ竹ノフシコトニコモレル千代ハ君ノミソミム

[4] 釋日……第二……元年二月丁已……之……是二……第十七……十年八月……二……釋奠……二次記……二、……東苑……中……有……樋口氏、

楊文教餘烈遺風。千載是仰。得茲末學。依仁。遊藝。謹以制幣。犧齋。粢盛庶品祇奉舊章。式陳明薦。以先師顏子等配尙饗。

從祀九座（閔子騫。冉伯牛。仲弓。冉有。季路。宰我。子貢。子游。子夏。）

祝文

（以下皆音讀）維某年歲次月朔日子天子謹遣大學頭位姓名。昭告于先師顏子等十賢爰以仲春（仲秋）率遵故實敬修釋奠于先聖文宣王。惟子等。或服膺聖教。（顏（與野哲載）音異）德冠四科。（與幾體二（製））或光闡儒風。（服道聖門實致（弟））貽範千載。謹以制幣。犧齋。粢盛庶品。式陳明獻。從祀配神尙饗。

大學寮釋奠圖式。見于江次第抄（雲圖抄並二）今煩不載之

神祇官圖（以大嶋求馬之本寫之）幷加今按

拾芥抄宮城指圖內。諸司廚町下云

神祇官（春日南。堀川西二町。大炊御門北。大宮東。薗圃西一町。又中御門南。西洞院東一町。又同俱）

延喜式（第九）神名帳

神祇官西院坐。御巫等祭神廿三座（並大。月次新嘗）

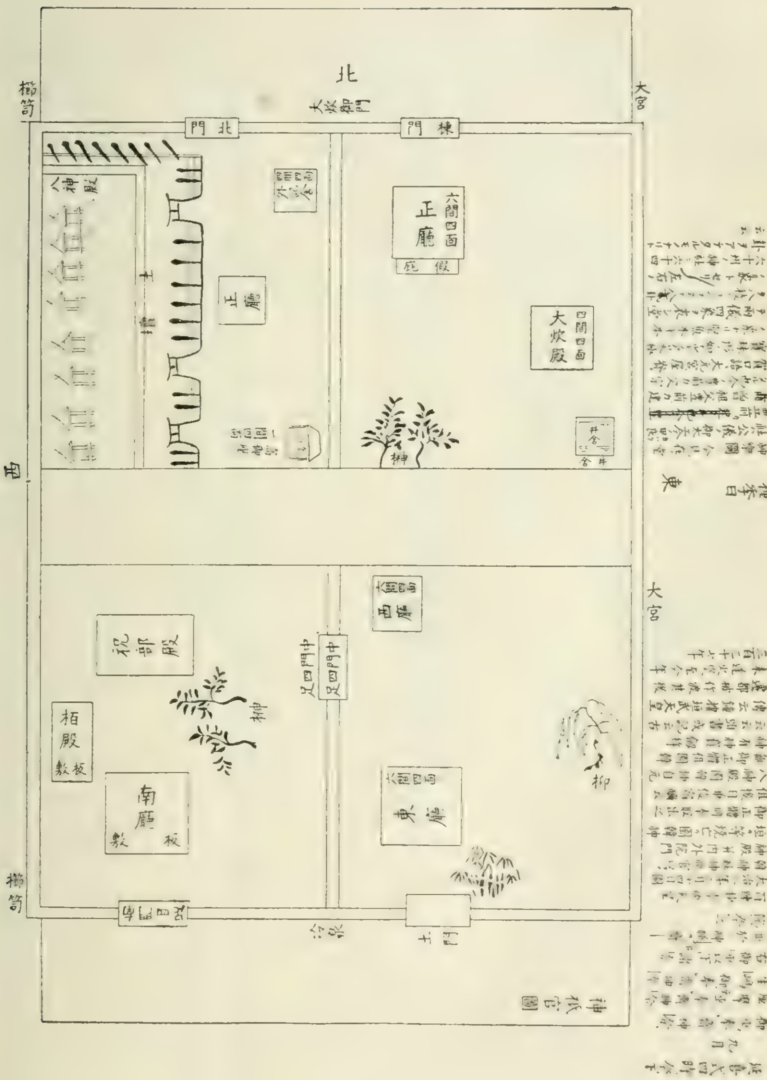
御巫祭神八座（並大。日次。新嘗中宮東宮ノ御巫モ亦同シ）

神。彥日神（式一魂）（御子）　高御產日神　玉積產日神（留（八）通用）　生產日神

1 學令集解云、開元令云、釋奠爲中祀、州縣釋奠亦准小祀例、神護景雲二年七月卅日官符云、應改孔宣父號爲文宣王事右得式部省解、偁大學寮解偁助教正六位上膳臣大丘解偁、天平勝寶四年大丘隨使入唐、問先聖之遺風、膠庠之餘烈、國子有兩門、題曰文宣王廟、時國子學生程賢告大丘曰、今主上大崇儒範、追改爲王、鳳德之徵于今至矣、然准舊典、猶稱前號、誠恐乖崇德之情、失致敬之理、大丘庸闇、聞斯行諸、敬陳管見、以請明斷者、執號文宣王、今依所牒、謹請省裁者、省寮覆解狀、理須必然、方行其數、合應旌德、天奉天時蓋謂此乎、仍顯改由、請官裁者、官議奏聞、奉勅依奏此事續紀稱德紀護景雲二年紀亦出ツ

宮廳記延德元年十月一去ル三月廿五日夜亥刻風雨雷鳴之刻異雲八流靡降于齋場之西宮並八神殿及大元宮之上ニ其中光氣有恐怖極メ仍爲行事ノ參入大元宮壇八神殿前大元宮後之庭上ニ有靈物同參抱之安ニ中ンヌ大元宮畢云々、太神宮延德記云、右女ト同シ、異說ニ云、後陽成院天正十八年三月十三日卜部ノ兼右奉勅同四月十八日奉遷神樂岡社內ニ云々種季按、洛中ノ寺院等天正年中ニ洛外ニ遷サレタル多ケレバ後ノ異說ヲ今ノ神樂岡ニ遷サレタル年トスベク宮廳記ノ八神殿ハト部ノ者等ノ何トソ上ヲ掠メテ私ニ神樂岡ニコシラヘオキタルナラム種季

玉積產日トヨムベシ大山積等有例作留者モ玉留ナリ。積ハ積ノ轉、留ヲ留ト通シテ用ヰタリ、種季曰


神祇官圖
北
東
西
大宮
大炊御門
正廳
大炊殿
祝部殿
柏殿
南廳
東廳

1 貞觀三年五月甲戌朔、授還浩日神位、御氣津神從五位下

2 自生井至平栗島神並貞觀元年正月廿七日授從四位下、元無位

13 同二年、十一月丁酉二神並正四位下

1 諸社根元記云、神祇官(東西院事)八足門内ノ(有額八神殿南北西ノ寢御殿)謂之西院(或齋院)東門内(東方中屋)東殿謂之東院(或齋院)

3 第二、四時祭下、鎭魂祭ノ八座(神魂、高御魂、生魂、足魂、魂留魂、大宮女、御膳魂、辭代主)大直神一座

足産日神 以上五社三代實錄貞觀元年正月廿七日從一位也無位二月丁亥授並正一位、　大宮。賣神 乃(八)之二左　1 御食津神　事代主神

座摩巫祭神五座 並ニ大。月次新嘗

2 生井神　福井神社 (八)モナシ(萬葉)　綱長井神 津(八)　波比祇神

阿須波神

御門巫祭神八座 並ニ大。月次新嘗

櫛石窓神 四面ノ門各一座　豐石窓神 四面ノ門各一座

3 生嶋巫祭神二座 並ニ大。月次新嘗

生嶋神 國(八)　足嶋神 國(八)

今按、神祇官西院祭神廿三座ノ内、御門神八座ハ。四門ニオハシマシ。殘十五座ハ。神祇官ニ祭ラルヽト見エタリ。然ルニ圖ニハ八神殿ノミ見ユレハ。今七座ハ何方ニマシマシケルニヤ。西院トイヘルハ。圖ノ内ヲ見ルニ。西ニマシマセハナルヘシ。シカレハ。東院ト云ルモ有テ。ソコニ座摩。生島ノ巫等ノ祭レル神ハオハシマスニヤ。此神タチノ御事ハ。サノミハト留メツ。都テ八神殿ヲ祭ラルヽ事ハ。祈年祭六月月次。夏冬二度。鎭御魂祭。並大嘗會等也。此外式大。三百四座ノ内ニテ。大。月次新嘗ト記シラレヌレバ。預ニ祈年月次新嘗等之案上官幣ニタマヘリト見エタリ。

古語拾遺云。逮ニ于神武天皇東征之年ニ。妖氣既晴無ニ復風塵ニ。建ニ都橿原ニ經ニ營帝宅ニ。爰仰ニ從皇天二祖

1 魂留作ニ玉積一モアレハ玉積ニテ魂留トヨムヘシ、積字宜ク志ト附麥皆トニテツムトツモルトノ差ヒヲイヘト向シコト也、於ニ和語一ハコトサラニ異ナルコトナシ、種季云、八神殿ノ御事ハ瓊々杵ノ朝ニ既ニ詔アリ、此詔ヲ打ナグリニハ惑マシケレハ、兒屋太玉承レ詔ヲ、定メテ於ニ日向一齋祀ノコト異論ナカルベク、ソノ時ハ高皇産靈御一神ノ靈ヲマツラレ八神ニハ追々後ニソロヒタルナルベシ、此中魂留ムスビ生ムスビナドハ、鎭魂ノ祭ノ時魂留ノ生ノトテ折ニフレテ目出タキ御名ニ因リテマツリタマヘルナラム、今俗夫婦ノ中ノコトヲ祈ルニ産靈神ヲ結ト云カタニ託セルテ祈ルタクヒ、必淫キ所以モアルマシクヤ、

2 種季云、古語拾遺從レ皇天二祖之詔ニ、建樹神籬トハ何レノ時ノ詔ヲ指テカクハ云ヘルニヤ、日本紀ノ神武一戊午ノ年九月事ハ有ニ天神ノ訓レ之曰トハアレトモ、二祖トハナシ、神代下皇孫迁ニ幸日向ニ一段第二、一書ニ高皇産靈尊因勅シテ曰、吾則起ニ樹天津神籬乃天津磐境ヲ當爲ニ吾孫一奉齋矣、汝天兒屋命太玉命。宜持ニ天津神籬ヲ降ニ於葦原中國ニ亦爲ニ皇孫一奉齋トノ云々則八神殿ノ監觴トスヘシ、西峰標註ニモ此言下高皇産靈尊爲レ鎭ニ護皇孫一建樹神籬磐境所ニ齋祀一也、即是神祇官西院八神殿之濫觴ト云リ、因レ此觀レ之八神殿權輿ハ瓊々杵ノ御宇既有神武ニ始マレルニハアラズ、而瓊々杵奉ニ祀於日向ノコト神武ハ奉ニ祀於高見山中ノコト瓊々杵ノハ面命耳提喩、神武ノハ夢ノツゲ、由來ヲ云ヒ、土地ト云ヒ、天地懸隔セリ、イツレニテモ八神殿濫觴ハ瓊々杵尊御宇ニアリ

之詔ニ建ニ樹神籬一。所謂。・高皇産靈。神皇産靈。魂留産靈[1]。生産靈。足産靈。大宮賣神。事代主神。御膳神已上今御巫所レ奉レ齋也　櫛磐間戸神。豐磐間戸神已上今御門巫所レ奉レ齋也　生嶋是大八洲之靈。今生嶋巫所レ奉レ齋也　坐摩是大宮地之靈。今坐摩巫ノ所レ奉レ齋也　舊事紀第七全同

日本紀云。神武天皇戊午年。九月。是夜自祈而寢夢。有ニ天神ノ訓之曰。宜取ニ天香山社中土一香山此云ニ介遇夜摩一以造ニ天平瓫八十枚一平瓫此云ニ毘邏介一幷造ニ嚴瓫而敬ニ祭天神地神一嚴瓫此云ニ怡途背一亦爲ニ嚴呪詛一。如レ此則虜自平伏嚴呪詛此云ニ怡途能伽辭離一天皇祗承ニ夢訓一以將行。天皇以ニ前年。秋九月ニ潛取ニ天香山埴土ヲ以造ニ八十平瓫一躬自齋戒祭ニ諸神ヲ。遂得ニ安ニ定區宇一。四年春二月壬戌朔甲申。詔曰。我皇祖之靈也。自レ天降鑒光ニ助朕躬一。今諸虜已平。海内無レ事。可下以郊ニ祀天神ヲ用申中大孝上者也。乃立ニ靈時於鳥見山中一。其地號曰ニ上小野榛原。下小野榛原ヲ用祭ニ皇祖天神ヲ焉

今按。古語拾遺舊事紀等ハ。事ヲ委ク記シ。日本紀ハ。理ヲ詳カニ盡セリ。共ニ幷シテ。八神殿並ニ大嘗會ノ起源[2]トナシテ見ハシ

延喜式第八祈年祭ノ祝詞ニ云。今年二月。大巫能辭竟奉。皇神等能前ニ白久。神魂。高御魂。生魂。足魂。玉留魂。大宮乃賣。大御膳都神。辭代主登御名者白而。辭竟奉者。皇御孫命御世乎。手永御世登。堅磐爾常磐爾。齋比奉茂御世爾幸閇奉。故皇吾睦神漏伎命。神漏彌命登。皇御孫命能。宇豆乃幣帛乎。稱辭竟奉久登宣。次座摩。御門。生嶋。等也　辭別伊勢爾坐天照太神并ニ御縣爾坐神。山口爾坐神。次水分等也

貞觀儀式。大嘗會式中。先祭七月。鎭大嘗宮齋殿地。其儀也。神祇官中臣忌部二宮人。依次率悠紀國司及稻實卜部。禰宜卜部。造酒童女燒灰等令持鎭料雜物一輦入自朝堂院南披門。宮主執祭文入南門內再拜兩段。訖讀祝詞鎭畢。二國童女各執着木綿賢木挿神殿四角幷門處。其宮地。東西廿一丈。南北十五丈云云

舊事本紀云。天照太神。細開磐戸而窺之。手力雄神。奉承其御手引而奉出。天兒屋命。天太玉命。以日御綱繩廻懸其御後以端出之左繩矣。復令大宮賣神侍於御前。（天太玉命久志備所生之神。如今世內侍。善言美詞。和君臣之間令宸襟悅懌焉）古語拾遺同之

今按。元元集ニ。神皇實錄ヲ引テ。足產魂ヲ。大己貴神トシ。大宮賣ヲ。今所引舊事紀ノ大宮賣神トス。都テ大宮賣ニ。マギル、事アリ。八神殿ノ內ノ。大宮賣。又造酒司ニ所祭大宮賣神四座。又拾芥抄ニ。宮咩祭文ニ。宮咩五柱笠間廣前トアリ。是ヲ合セテ思フニ。先八神ノ內ニマシマス大宮賣ハ。大己貴命ナルベシ。其證文。姓氏錄ニ出テ左ニ引ルガ如シ。夫八神殿ハ。無上ノ神ヲ祭ラレテ。天子モ御一代ニ一度ハ。御自ラモ祭ラセ給フ程ノ御神ナレバ。イカニ善言美詞スレバトテ。無上ノ神ノ內ニ合祭シ給フベキヤウヤハアル。大己貴神ハ。素戔烏尊ノ正嫡ニテ。ソノウヘ少彥名尊ト。力ヲ戮合セ。天下ヲ經營シ給ヘル御神ナレバ。合セ祭ラル、事サモアリヌベシ。足彥魂ヲ大己貴トセル事ハ。本據モ難知事ナレバオボツカナシ。次序ヲ思フニモ。大己貴神。辭代主神トコソ置玉フベケレ。（次第也）大宮賣神ヲヘダテ、。序デ給フモイカ、トオボユ。扨宮咩五柱トイヘルハ。舊事紀ノ大宮賣神モ。造酒司ニ祭ラル、四座ノ內ニオハシテ。八神ノ大宮賣ヲ合祭シテ。五柱トナシテ。院宮諸家マデモ。每年祭レル事トハナレルニヤ。天子ノ祭ラセ玉フニハアラデ。院宮諸家ノ祭レルハ。或ハ祈年。新嘗或ハ鎭魂諸祭ヲ兼テ。私ニ祭レル故ニ。無上ノ神タチマデハナクテ。大己貴神タチナドヲ祭レルハ。イハレ有

ル事トミエタリ。スヘテ八神殿ノ御事ハ。元元集ニ。諸書ヲ引テ陰陽不測ノ說ヲ。コトノ〳〵シク演ヘラレタレド。浮屠ノ說ニ似テ。信用シカタシ。只神代紀等ニヨルニ、高皇[1]產靈神。神皇產靈神。國常立尊。伊弉諾尊。伊弉冊尊。天照大神。少彥名命。大己貴命。辭代主命。ナドイヒマホシクヤ。今延喜式ニ所出名目ハ。元舊事紀ニ出タルヲ。廣成直チニ。古語拾遺ニ取用ヰタリ。今神號ノ事ヲ。評シ奉ル事ハ聊カナケレド。舊事紀ハ。聖德皇子浮屠ヲ好ミ給ヒ。馬子宿禰。君ヲ弑シ奉ル心ヨリナリタル書ナレハ。舍人親王モ用ラレザリケルニヤ。既神武紀ニハ。只鳥見山ニ。皇祖天神ヲ祭リ給フトノミ書玉ヒテ。神號ノナケレハ。聖德馬子ナドノ知食トコロニアラザル歟。マシテ凡人ナトノ口遊スル事ハ。中〳〵オソルベキ事トモニヤ。只天子ノミ知食ラン事トオホエ侍ヘル

姓氏錄中之本　山城國神別　神宮部造

葛城猪石岡天下神。天破命之後也。六世孫。吉足日命。磯城瑞籬宮御宇。崇神天皇御世。天下有災因遣吉足日命令齋祭大物主神。災異即止。天皇詔曰。消天下災百姓得福。自今以後可爲宮能賣神。仍賜姓宮能賣公。然後庚[2]午年。籍注神宮部造也

壺[3]碑圖以伊達種季本寫之

多賀　和名鈔。陸奧國宮城郡多賀

神名帳陸奧國宮城郡多賀神社

續日本紀。元正天皇神龜元年三月庚申。陸奧國言。東海蝦夷反。丙申以式部卿正四位上藤原朝臣宇合爲持節大將軍。爲征東海蝦夷也。十一月乙酉。征夷持節大使正四位下藤原朝臣宇合等來歸。同二年春正

1 [illegible]人ハ、[illegible]ソノウエ[illegible]錄ト歟、云書曰、高皇產靈尊ハ極天之祖皇帝也トサヘアリ、此日本國開闢以來高皇產靈ト云皇帝モナケレハ、皇代ニモ[illegible]ニヤ[illegible]シ、[illegible]人ノ[illegible]、又々[illegible]ノ皇妃トシ玉ヘハ、[illegible]ナケレハ貴[illegible]トモ[illegible]スベケレト、[illegible]テ[illegible]、[illegible]ルコト[illegible]イハレナシ、高皇產靈尊命曰トコソアルベキニ、舍人親王サヘ詔勅ノ字ヲ下シ玉ヘハイヨ〳〵迷ヒノ端トナレリ、[illegible]ニモアラス[illegible]ニモアラズ、公侯伯子男ニモアレ[illegible]ヲトナヘテ、非[illegible]人ハイカナルマキラハシキ御人ニヤ

2 種季曰　天智帝九年ノ戸口籍ヲ庚午籍ト云、

3 [illegible]錄[illegible]第一[illegible]城[illegible]十[illegible]云[illegible]有[illegible]鎮守府[illegible]門碑[illegible]見[illegible]碣立之見[illegible]人[illegible]也[illegible]異域[illegible]之行程[illegible]令[illegible]人[illegible]爲遂[illegible]出記有[illegible]

月丙辰。天皇臨レ朝詔。叙二征夷將軍已下。勳位一。各有レ差。授二正四位上藤原朝臣宇合從三位勳二等一。從五位上大野朝臣東人從四位下勳四等一云云、淡路廢帝。天平勝寶五年十一月癸未。以二從四位下惠美朝臣朝狩一。爲二東海道節度使一同六年十二月乙巳朔。從四位下惠美朝臣朝獦爲二參議一云云

今案。東人朝獦此時ニ

碑ハ立テタルナルヘシ

陸奥風土記云。坪碑。有二鴻之池一。爲二故鎭守府門碑一。惠美朝獦立レ之。見雲眞人淸書也。記二異城東邦之行程一令下旅人ニ不上レ爲二迷塗一

陸奥國宮城郡壺碑石堅六尺餘横三尺餘

西

此間一尺

多賀城　此卦ノ内三尺七寸

去京　一千五百里

去蝦夷國界　一千(イ無)百二十里

去常陸國界　四百十二里

去下野國界　二百七十四里

去靺鞨國界　三千里

此城神龜元年歳次甲子按察使兼鎭守將軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所里也天平寶字六年歳次壬寅參議東海東山之節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎭守將軍藤原惠美朝獦修造也

天平寶字六年十二月一日

土邊一尺七寸

此卦ノ内四尺五寸

寛文七年土中ヨリ掘出ス也神龜元年ヨリ寛文七年マテ九百四十四年

自天平寶字六年寛文七迄九百十一年ニ成。

今市川ト云所ニアリ。立石ト云アヤマリタリ。以朱書之者後人書加之。

袖中抄 第十九

イシブミ

イシフミヤケフノセハヌノハツ／＼ニアヒミテモ猶アカヌケサカナ

顯昭云。イシブミトハ。陸奥ノオクニ。ツボノ石文アリ。日本ノハテトイヘリ。但田村將軍。征夷ノ時。弓ノハズニテ。石ノ面ニ日本ノ中央ノヨシカキツケタレバ。イシブミト云ト。云云 信家侍從ノ申シハ。石ノ面。ナガサ四五丈許ナルニ。文エリツケタリ。ソノ所ヲバツボト云也。私云。ミチノクニハ。東ノハテトオモヘド。エゾノ島ハヒロクテ千島トモイヘバ。陸地ヲイハムニ。日本ノ中央ニテモ侍ニコソ

今案。顯昭ヨリハルカ後ニ。此碑ハ掘出シタルヨシナレバ。シラズガキニカヽレケルニヤ。信家ハ直ニミラレタリトミエタリ。新古今雜下、前大僧正慈圓、フミニテハオモフホドノコトモ申ツクシカタキヨシ申ツカハシテハヘリケル返事ニ前右大將賴朝卿。オモフコトイハデシノブハエゾシラスカキツクシテヨツボノイシ文。拾玉集。陸奥ノツボノ石文ユキテミムソレニモカヽジタヾマドヘトハ。同。思フコトイナミチノクノエゾイハヌツボノ石文カキツクサネバ。良玉集懷圓法師。日數ヘテカクフリツモル雪ナレバツボノ石文アトヤタエナム。

太秦牛祭文 以伊庭種季本ヲ寫之。太秦傳來之正本 世ニ傳言フ傳教大師ノ作ナリト也

謹請再拜

〽謹啓須維南瞻部列大日本國。歳次ホ某年號某季。無射十二。天、朝日。豐登夕日の豐降り坐中に銀に花榮金に實結天門開支開。天地戶和合したる今夜。當寺の堂僧四番大衆等誠を二花。嶺よりも高し志を五葉の底よりも深して恒例不闕。勒として摩[1]吒羅神を敬祭し奉る事あり。祭留神明を祭る超福の計こと靈鬼乎敬ふは除災乃基也。上波梵天帝尺四大天王日月五星廿八宿七曜九曜三辰九禽

〽下は炎魔王界、五道乃大神奏山府君、天[2]左宇司命司祿、別ては當所鎭守三十八[3]所五所護法、飛來天神部類眷屬、惣ては日本國中此大小乃神祇冊中にはあらねども稻積片山にはあらねども榎本榲本木がらき藤北森嵯峨乃奥なる一拳打れては聽て宇左以辻々の道祖神家々の大黑天神。袋持に至る迄鶩之言而白く

〽夫以婆性を乾抑の氣に受け德を陰陽の間に保ち信を專にして佛に仕へ愼を致して神を敬不。天尊地畏の禮を知。是非得失乃科を辨る是偏に神明の廣恩也。因茲單微の幣帛を捧て敬て以摩吒羅神に奉上す豈神乃恩を蒙らさるべけんや〽因茲四番大衆等一心乃懇切を抽て十列乃儀式を學び萬人の逸興を催すを以て目良神明の法樂に備へ諸衆此感嘆を成を以て暗に神の納受を知らんと也。然る間格槌頭に木冠を戴久波比良足に舊鼻高を絡付絨牛に荷鞍置支瘦馬仁鈴を付て馳も有里踊も有里〽或は鞍爪に大間を詰天仁加美、或は荷鞍に尻搭乎摺剝天悲も有里、〽企は誠に十列の風流に似りと雖止體は、唯百[4]鬼夜行に異す〽如此等。

[1] 摩吒羅神　山城名勝志東寺條下、拾要集云、○マタラ神ノコト八諸亡傳ニモアリ

[2] 天さう

[3] 三十八所　山城國名勝志云、醍醐門堂記錄云、鎭守三十八所、當寺大聖延喜年中大別當命鎭守三十七所護法ヲ僧像奉レ安二置之一。後鳥羽院御宇滿二加登大夫一爲二三十八所一（私云、注號諸之）同之賢隆寺緣起云、飛來天神者自二三國一渡來也、爲二當寺三十八所守護一自二新羅國一飛來之由依二日藏上人夢中之告一奉レ勸二請于當寺一神容白髮老翁也。

[4] 夜行鬼　ウブメ　本草云

すはひ
支はひ
顛字同
闇風ハ方語ニ下風ト云病ノコト也

振舞を以テ、摩吒羅神を敬祭し奉る事偏に天下安穏寺家安泰平爲也へ因レ之長く拂ひ退く倍支者あり
先三面の僧坊乃中に忍入て物取 世古盗人め奇佐須和以布和以也 小童とも木々乃奈里物取らん 比天明障子
打壊る骨奈左法師頭も危く覺るへ扱 安多腹頓病風欬嗽疔瘡癰瘡闇風殊には尻瘡虫瘡腫瘡安布美 瘡冬に向
平留大胝并胼へ咳病鼻多里壊心地癲狂擇食傳屍病 へ加之鐘樓法花堂乃 加波津留美讒言仲人鬪諍の中間言
へ貧苦男の入多介里・無能。女。隣行い へ父は當塔の檜皮喫貫犬 烏小 烏め、聖教。破留犬 鼠小鼠め、田の
畔穿土豹いへ如此異類異形 不道無慚の奴原に於波長く遠く、千の國 曾支の國 迄拂ひ退く可支者也

天文十八年九月十二日

有運寫之

若狭
淨玄
良專
正覺
覺。榮

中間祭文

已上以太秦直正本寫之

園太暦曰

文和四年十二月廿日神宮告文案

維文和四年次乙未十二月己丑朔廿日辛未

吉日良辰爾掛毛畏岐王城鎮守諸大明神二十一所太神宮八幡太菩薩・加茂太神於・奉始天惣志天波二十二社於・奉驚天・禁裏傳奏小臣等・恐美恐美毛申賜波久止申久一日萬機之政一帝三王之道、偏思無邪南・豈不歸正乎方今上關聖明垂拱之化、下竭克己復禮之議、斯以議奏之輩、政道得失耳目之所觸獻諫言天勿存私爾敷奏之仁・評議之輩雖訴乃奉行・理非乃評判、無憚權勢具・無怪賤貧久不致擁怠、不存偏頗須速任道理天可達朝議奈利・又爲訴論人物不論小大志・利不謂性重須・一切禁止之天不可受賄路須・縱自身不受用止毛・妻子僕從之中爾毛・知而不可令犯之須聞而專可令誡之志此等旨聊毛令違越者小臣之身爾神罰於可當給志・但愚昧之性・不辨理致短慮之質若卒叙念志神毛宥々多末比・君毛免之多末倍禱爾無私照察宜垂志止・恐美恐美毛申賜波久止申

告文職事辨官同事書藏人左少辨忠光執筆

權中納言從三位　藤原朝臣仲房
正三位　藤原朝臣藤長
從二位　藤原朝臣宣明
正二位行權大納言　藤原朝臣實基
正二位行權大納言　藤原朝臣長光
正二位　藤原朝臣隆陰
正二位　藤　原　經顯

各連署

萬葉緯卷第四　終

萬葉緯巻第五　大嘗會

目録

崇德院悠紀主基幷ニ御屏風ノ歌五首
近衞院悠紀幷御屏風ノ歌二十八首
後白河院悠紀主基幷御屏風ノ歌十首
二條院悠紀主基ノ歌五首
六條院悠紀ノ歌二十八首
高倉院悠紀主基幷御屏風ノ歌六首
安德天皇主基ノ歌二首
後鳥羽院悠紀主基ノ歌五首
土御門院主基ノ歌四首
順德院御屏風ノ歌一首
後堀河院悠紀主基幷ニ御屏風ノ歌四首
四條院悠紀ノ歌二首
後嵯峨院悠紀主基幷ニ御屏風ノ歌六首
後深草院悠紀主基幷ニ御屏風ノ歌四首
龜山院悠紀主基ノ歌三首

伏見院主基幷ニ御屏風ノ歌十二首
後伏見院悠紀主基幷ニ御屏風ノ歌十六首
後二條院悠紀主基幷ニ御屏風ノ歌二十四首
花園院悠紀ノ歌二首
後醍醐天皇悠紀主基ノ歌二首
光明院悠紀主基ノ歌二首
後光嚴院大嘗會御屏風ノ歌一首
後圓融院悠紀幷ニ御屏風ノ歌四首

萬葉緯卷第五

洛東隱士似閑編緝

神アソビノ歌

神遊波。神代卷等所記也。惠良支也。惠良支波。神樂也。夫木抄云。年中行事歌合。内侍所御神樂。貞世。久堅ノ天ノ昔ノ神遊ヒ今日モ雲井ニウタフ成哉。古今集オホムヘノ歌ハ大嘗會ノ歌ナリ。都テ大嘗會ノ歌ノ中ニ、神樂歌モアレハ、神アソヒノ歌、又ハヒルメノ歌、其外ヲモ類ニヒカレテ大嘗會ノ歌ノハシメニ置物ナラン

ヒルメノ歌

佐佐乃久萬（篠隈）。比乃久萬加波仁（檜前）。古末止米天（駒駐）。志婆之美川加戸（暫水令飼）。加介乎太仁美牟（影者見）

今按、比留女波。奉祭大日孁貴之神樂歌歟。萬葉集第十二左檜隈。檜隈河爾。駐馬馬。爾水令飲。吾外將見和名鈔云。大和國高市郡檜前（比乃久末）

フルキヤマトマヒノ歌

三代實錄第三云。貞觀元年十一月十九日庚午。撤去悠紀主基兩帳天皇御豐樂院廣廂宴百官。多治氏奏田舞。伴佐伯兩氏久米舞。安部氏吉志舞。内舍人倭舞。入夜奏五節並如舊儀云云。江次第第五云。和舞取榊枝舞也。又

大嘗會次第云。奏和舞。註云。著靑摺舞人十人。歌人十人。居庭中。琴師二人居歌人前。舞人用內舍人。猪部庭中南北行設二行座。舞人分著其南立床子。琴師二人著之。笛工一人在其後云云

今按、無間無時ハ昔ノ葉讀ヲオモフナルヘシ

楉結布。葛城山爾。降雪乃。萬那久時奈久。於毛保由流鉇

近江曲

近江乃風俗ノ曲ナリ。神代紀下云。此兩首歌辭今號夷曲。續日本紀云。天平六年二月癸巳朔。天皇御朱雀門覽歌垣。男女二百四十餘人。五品已上有風流者皆交雜。其中正四位下長田王。從四位下栗栖王。門部王。從五位下野中王。等爲頭。以本末唱和。爲難波曲。倭部曲。淺茅原曲。廣瀨曲。八裳刺曲之音。令都中士女縱觀。極歡而罷。賜奏歌垣男女等祿有差

新續集廿三、ヨミ人シラス、ウネノ野ニタヅノ一聲鳴ワカレ又モアフミトタノメテゾコシ

近江與里。朝多知來禮波。宇禰乃野爾。田鶴曾鳴奈留。明奴古乃夜波

水莖曲

水莖岡ハ筑前ノ名所、萬葉ニ多クヨメリ、第十、雁カネノ寒ク鳴ヨリ水莖ノ岡ノ葛葉ハ色付ニケリ

美豆具支能。岡乃屋形仁。妹止安禮止。禰天乃安佐介乃。霜乃降羽毛

四極山布里

文選、景福殿賦周于在四極

之波山山。打出天美禮波。加佐由比乃。嶋擠加倍留。棚無小舟

此歌ハ。萬葉第三ニ。高市連黑人ガ。羇旅歌八首アル中ノ。第三ノ歌ナリ。三四句打越見レバ笠縫ノトアリ。此歌ノ前ニ。年魚市方ト讀リ。尾張也。此歌ノ次ニ。牧ノ湖。高島ノ勝野原ヲヨメリ。共ニ近江ナリ。終ニ山背高槻村トヨメ

リ。然レバ。東ヨリ都ヘ歸リ上リ來ル。道ニテヨメル次第也。和名鈔ヲ考ヘ見ルニ。參河國幡豆郡礒泊　此礒泊ノ邊ニ。四極山アルヘシ。注ニ之波止トアレド。トヽツハ五音通ジテ同ジ事也。日本紀孝德紀ニ。礒泊トイフ人アリ。同ジ文字ニテ。シハツトアレバ。是ヲモテ知ベシ。雄略紀云。是月爲呉客道通礒歯津路名呉坂。上ニ住吉津トアレバ。此礒歯津ハ萬葉第六ニ。モスニヨリ雨ゾフリクルシハツノアマアミタヅナホセリヌレテタハンカモ。トヨメル所ナリ。是異處ナガラ同名ノ證ナリ。然レバ笠ユヒノ島モ。參河ナリ。笠トイフニツキテハ。笠縫ニテアリヌベクオボユ

已上五首古今和歌集大歌所ノ歌也

大嘗會悠紀主基ノ歌

神代紀上云。是後素戔嗚尊之爲行也甚無狀。何則。天照大神。以天狹田長田爲御田。時素戔嗚尊春則重播種子（重播種子此云璽枳磨枳　毀此云波那豆）且毀其畔。秋則放天斑駒使伏田中。復見天照大神當新嘗時。則陰放屎於新宮。一書曰。日神尊。以天垣田爲御田。時素戔嗚尊春則塡渠毀畔。又秋穀已成。則冒以絡繩。云云及至日神當新嘗之時。素戔嗚尊則於新宮御席之下。陰自送糞。日神不知。徑坐席上。由是日神擧體不平。故以恚恨。廼居于天石窟。閉其磐戸。云云同下云。是時天照大神手持寶鏡。授天忍穗耳尊。而祝之曰。云云　復勅天兒屋命。太玉命。云云　又勅曰。以吾高天原所御齋庭之穗。亦當御於吾兒。云云　淸寧天皇二年冬十一月依大嘗會供奉。新遣於播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯。顯宗天皇卷云、小楯於赤石郡。親辨新嘗供物。（一云巡行郡縣收斂田租也）適會縮見屯倉首縱賞新室以夜繼晝。云云　天武天皇白鳳二年冬十二月壬午ノ朔丙戌、侍奉大嘗。中臣忌部及神官人等。

幷播磨丹波。二國郡司。亦以下人夫等。悉賜祿。因以郡司等各賜爵一級。云云 五年九月丙寅朔丙戌神官奏曰。爲新嘗卜國郡也。齋忌（齋忌此ヲハ云踰既）則尾張國山田郡。次（次此ヲハ云須岐）也丹波國訶紗郡。並食卜 冬十月乙未朔丁酉 祭幣帛於相新嘗諸神祇。十一月乙丑朔。以新嘗事不告朔云云

今按。大嘗會儀式見于延喜式。貞觀儀式。江次第等

（古事談一、大嘗會之時代々令着給于冠ハ、延喜天皇之御冠也。（相具御等服在内藏寮）後三條院御頭ニメデタクアハセ給タリケル、此事ヲツネニ御自讃云云。）

八雲御抄第二云。大嘗會歌者。上古所見不詳。起自承和（于時丹波播磨國也）仁明。清和。陽成。光孝。在古今（醍醐乎）。其後丹後。因幡。美濃。尾張。遠江。伊勢。參河。越前。美作。備中。備前。但馬。等郡名少々詠之。而延喜以後偏以近江爲悠紀以丹波國備中替々爲主基也。後冷泉院主基爲播磨歟。只先例歌人詠之。自中古儒者必交之。延喜（寛平九）（近江 黑主）村上（天慶九）（備中 不知人）冷泉（康保四）（兼盛 元輔 能宣 不知人）圓融（安和二）（能宣 中務 兼盛）

自三條院所見不絕（花山。一條 未勘之）

年號	天皇	主	悠
長和	三條	兼隆	輔親
同四年	後一條（五乎）	爲政	輔親
長元	後朱雀	義忠	輔親
永承	後冷泉	家經	資業
治暦	後三條	經衡	實政
承保	白河	匡房	實政
寛治	堀河	行家	匡房
天仁	鳥羽	正家	匡房
保安	崇德	行盛	敦光
康治	近衛	敦光	顯輔
久壽	後白河	令明（袋 茂）	永範
平治	二條	範兼	俊憲
仁安	六條	兼光	俊成乎
嘉應	高倉	清輔乎	永範
壽永	安德	兼光	清輔
元暦	後鳥羽	光範	季經
建久	土御門		資實
建暦	順德御當代	有家	資實

（顯廣 永範 六條（新院）
永範 清輔 高倉 兼光
季經 安德（當今） 兼光
季經 後鳥羽（今上）
已上所載于袋草子相違如此。）

是皆悠紀近江。主基丹波備中替々也。一人必儒者一人只歌人也。乍二人儒者又例事歟。只歌人顯輔。清輔。俊成。有家。等人也。凡中納言以下也。未及大納言之以上。敦光令明ナト儒者也。中ニモ無指歌人ドモ。必可爲儒者也。是自然流例也。

行事辨注國所々名下作者（云云）撰其所計其詞詠之遣行事辨家以風俗歌下樂所以屛風歌給繪所若歌遲々時以所名加詞且進之。風俗歌許進先例也。和歌書樣。或以神樂歌爲始或以稻春歌爲始。又資業家眞名。別紙風俗與屛風也。家經假名一紙。匡房眞名。別紙。但匡房一度書假名他人皆眞名別紙也。同資業說。但顯輔詞眞名。歌假名也。悠紀主基共十月上旬可進。皆遣行事辨許。近代先經院奏流例也。

清輔袋草紙（第一）大嘗會歌次第、先從國々註進所々名於行事辨下作者許、作者撰便宜所々（[illegible]）風詠之進行事辨所以風俗歌下樂所、（以之令作樂）以屛風歌下繪所、（以之書置之）若和歌有遲々之時所々名一書詞先進之、和歌ハ追進之、（作者作計之）又風俗歌許進常事也、書和歌之時、家々之說不同也、輔親兼澄等假名、又風俗幷屛風歌等書一紙、義忠假名別紙、資業之流眞名別紙、家經之流歌假名、詞眞名、一紙（[illegible]）（自余人以初稻春歌爲初）匡房眞名別紙、（但天仁度假名也）以下、人々皆眞名別紙、但シ故左京詞眞名歌假名一紙也、長和以上人書樣不慥也、進覽之時可有禮紙也、宮內少輔伊行云、作歌先被下淸書所、而又書三通送辨許、一通（一紙）書稻春歌神樂兩首（一枚連書）風俗歌八首、一通（二枚書）屛風歌十八首幷稻春歌ヲハ下ス。風俗ハ下樂所、屛風歌下繪所、又云、行成幷伊房書置祕書有、號右筆抄、書寫之間口傳也、作書悠紀ノ歌ハ假名書之、主基歌ハ眞名也、作者皆如此存、淸書人又可然、（云云）但近代不必然歟。大嘗會天武天皇御宇白鳳二年癸酉十一月始之、但歌不見、而自承和御宇出來、但歌少々歟、勤悠紀主基國々共初丹波播磨也、其後因幡、美

濃、尾張、遠江、但馬、近江、備前、美作、越前、參河、伊勢、備中、隨レ令下ニ用其郡一、但書ニ嘉名ヲ郡一兩ヲ下レ之歟、近來以後偏ニ悠紀國近江、主基國丹波備中替々勤也、但冷泉院時、主基國播磨也。

今按、因ニ于八雲御抄。袋草子等ニ中古以ニ大嘗會歌一或書ニ眞名ヲ或書ニ假名ヲ以有下令類聚書上歟。惜哉今不傳。因茲採ニ諸書所ニ出大嘗會歌ヲ緝之。雖然所見僅ニ十而一耳。亦不惜哉。所謂其次序。稻舂。神樂。辰日參入音聲。樂破。樂急。退出音聲。巳日參入音聲。樂破。樂急。退出音聲。悠紀主基合而二十首也。此則風俗而諸物也。此外御屏風。甲乙丙丁戊己之六帖。每帖三首。而已上十八首也。此歌雖非ニ諸物ヲ以類故編焉。

所載勅撰幷撰集ニ大嘗會和歌

仁明天皇
まかねふくきびの中山おびにせる細谷川の音のさやけさ

この歌は承和のおほむへのきびのくにの歌 古今集

續日本後紀仁明天皇天長十年（于レ時承和元年前年）十一月癸卯。天皇御ニ八省院ニ修ニ禋祀之禮ヲ、戊辰御ニ豐樂院ニ終日宴樂、悠紀主基共立ニ標、悠紀則山上栽ニ梧桐ヲ兩鳳集ニ其上ニ、從ニ其樹中ニ起ニ五雲ヲ、々上懸ニ悠紀近江四字ヲ一、主基則慶山之上栽ニ恒春樹ヲ、々上泛ニ五色慶雲ヲ、々上有ニ霞、々中懸ニ主基備中四字ヲ云云、おほむへは、天武天皇ノ卷ニ、大嘗ノ二字ヲ、オホムヘ、ノ異點ニ、オホニヘトモヨメリ、猶大嘗ノ吉備國ノ歌ト云ハムカコトシ、贄ノ歌ナド云ル說ハ、トルニタラサル歟。

清和天皇
みまさかやくめのさら山さら〳〵にわかなはたてじ萬代までに

これは水のをのおほむへのみまさかの國のうた 同

文德天皇
文德實錄第三、文德天皇仁壽元年夏四月癸卯朔、癸丑、定ニ悠紀主基等國ヲ、伊勢國爲ニ悠紀、播磨國爲ニ主基ニトレ之所レ食也。今按、此時歌無ニ所見。

三代實錄第三（清和天皇）貞觀元年十一月十六日丁卯、車駕幸二朝堂院齋殿一、親奉二大嘗祭一、十九日庚午、撤二去悠紀主基兩帳一云云詔曰云云、參議從三位行右衞門督兼美作守藤原朝臣氏宗正三位、〇內藥正從五位下兼侍醫參河權介物部廣泉等正五位下、〇參河守從五位下御長眞人近人、散位美作介大中臣朝臣眞主等並從五位上、外從五位下參河介壹志宿禰吉野、正六位上右近衞將監兼美作權大掾紀朝臣正守、並從五位下參河掾大原宿禰麻呂、美作掾佐伯直豐麻呂並授二外從五位下一、云云紀文兩國卜食ノコトハミエネド、悠紀參河、主基美作ナル事、此等ノ人々ノ昇進ニテ知ヘシ、和名抄、美作國久米郡久米、性靈集ニ美作國佐良莊云云。

皇年代略記云、清和天皇貞觀元年十一月十七日（丁卯）大嘗會）（參河美作）云云

（陽成天皇）みのゝ國せきのふぢ川たえずして君につかへむ萬代までに

これは元慶のおほんへのみのゝうた　同

三代實錄三十陽成天皇元慶元年四月十九日庚寅卜二定悠紀美濃國席田郡、主基備中國都宇郡一、並卜食、皇年代略記云、元慶元年十一月十八日（己卯）大嘗會（美濃 備中）

六帖には、第二三句シケリカサナル玉カシハ、五句アフガウレシキトテ國ノ題ニテ大伴クロヌシトアリ、顯昭陳状ニハ第二三句シケリサカユル神サカキトアリ、今按備前備中備後元一國ナルヲ後ニ刻レテ三國トナレハ、此御時備中ノ都宇郡卜食テ主基ナレハ、昔ハ御野ナトモ近キ郡ナトニテ、一所ナトニテハナカリケルニヤ、可尋。

催馬樂美濃山

みの山にしゞにおひたる玉かしはとよのあかりにあふがたのしさ

體源抄催馬樂目錄、美濃山（茎(イ)）備前國悠紀風俗云云　和名鈔備前國御野郡御野（美乃）今按、梁塵抄承和帝（仁明天長十一）大嘗會、悠紀ノ風俗ノ歌也、トテマカネフクノ歌ト同時トノ玉ヘドモ、其時ニハ近江高嶋郡悠紀、備中下道郡主基ナレバ、事タガヘルニヤ。

ミノヽ山トハヨマデ、ミノ山トバカリヨメレハ、御野郡ノ山トキコユレド、備前ヲ悠紀トシタマヘルコト、是ヨリ上ニキコエネハ、夫モイカヾト覺ユ、仁和ノ御時、備前和氣郡卜食スレド、主基ニテ郡モタガヒスレハ、催馬樂目錄モオホ

ツカナシ、作者モ黒主ナレバ、ミノ山ミノ、山同所トナシテ陽成天皇ノ悠紀ノ歌ト心ウベキニヤ、後ノ明哲ヲ待ノミ。

催馬樂席田

むしろ田のいつぬき川に住鶴のちとせをかねてそあそひあへるかも

體源抄、催馬樂目錄、席田、美濃、元慶悠紀風俗云云 師說席田ト美濃の國にあひつれば、これも君か代の歌と同時にて、作者もくろぬしなるへし。

ちはやふるの歌名所をよます、以下此類ありこ

萬代第七

元慶大嘗會悠紀方美濃國風俗歌、ちはやふる神のさだめし國なれば古へよりも今そさかえん　作者なし。

君が代はかぎりもあらじ長濱の眞砂の數はよみつくすとも

これは仁和のおほんへのいせの國の歌　古今集　光孝天皇

三代實錄第四十五　光孝天皇元慶八年 仁和元之前年 三月廿二日、定ニ大嘗會悠紀伊勢國員辨(キナヘ)郡、主基備前國和氣郡ニ、並卜食ム　皇年代略記元慶八年十一月廿二日(己卯)大嘗會(伊勢備前)　仁和御時大嘗悠紀方伊勢國風俗歌ノ　續後拾遺集賀ノ部

大伴のくろぬし

扶桑略記云、宇多天皇仁和四年十一月廿三(二十イ)日、大嘗會、近江播磨云云皇年代略記亦無國郡ト注文

此歌、諸書爲ニ近江ニ誤也、仁和御悠紀伊勢、主基備前、

伊勢の海のなきさを淸みすむ鶴のちとせの聲を君にきかせん　こえん(萬代)

仁和の御時大嘗の歌　拾遺集賀

よみ人しらす

宇多天皇

かまふ野の玉の緒山に住つるのちとせは君が御代のかずなり

大伴のくろぬし 古今雜

古今[illegible]
あふみのや鏡の山をたてたればかねてぞみゆる君がちとせは

これは今上のおほんへのあふみのうた 古今雜

扶桑略記云、醍醐天皇寛平九年七月十三日丙戌、天皇即位於大極殿、冬十一月十四日丁亥、皇年代略記云寛平九年十一月廿三日（辛卯）大嘗會（[illegible]）云々

今日政也、以近江國依智郡爲悠紀、以丹波國多紀郡爲主基、

村上天皇　八雲第二、延喜以後偏以近江爲悠紀、以丹波備中替々爲主基也　村上備中不知人　云云

天暦御時大嘗會主基備中國中山 新古今集賀　　　よみ人しらす

ときはなるきびの中山おしなべて千年をまつの深き色かな

扶桑略記云、村上天皇天慶九年、[illegible]十一月十九日、大嘗會、近江野 備中下 供奉悠紀主基、云云

天慶九年大嘗會悠紀方近江國稻春歌 [illegible]　　　讀人しらす

あふみなる朝日の里はけふよりぞ世のさかゆへき光見えける

村上御時天慶九年大嘗會悠紀方巳日參入音聲鏡山をよめる　よみ人しらす 續千載賀

我君の千年のかけをかゝみ山豐の明にみるかたのしさ

村上御時天慶九年大嘗會主基方參入音聲備中國高倉山をよめる　よみひとしらす 新千載賀

[illegible]ナレハ其內ナトニヤ、イツレニテモアルヘシ。[illegible]今ぞみる[illegible]にてくちしかまふの野邊[illegible]はたるは　八雲[illegible]

朱雀天皇　扶桑略記云、承平二年四月八日己丑、[illegible]大嘗會[illegible]國郡[illegible]近江國神崎郡、[illegible]丹波[illegible]氷上郡、云々、按主[illegible]見皇年代略記[illegible]承平三年十一月十六日[illegible]云云[illegible]丹三

皇年代略記、[illegible]國郡未定

雲の山に萬代とのみ聞ゆるは高倉山の聲にぞ有ける

冷泉天皇
安和元年大嘗會風俗なからの山　拾遺集 神樂歌　　大中臣能宣

君か代のなからの山のかひありとのとけき雲のゐる時ぞみる

さゞ浪のながらの山のなからへてたのしかるべき君がみよかな

いはくら山　　よみびとしらす

うこきなきいはくら山に君が代をはこびおきつゝちよをこそつめ

みかみの山　　よしのふ

ちはやふるみかみの山のさかきばゝさかえそまさる末の世までに

讀人しらず

萬代の色もかはらぬさかき葉はみかみの山におふるなりけり

もとすけ

よろづよをみかみの山のひゞくにはやすの川水すみぞあひにける

おほくら山　　よしのふ

みつきつむおほくら山はときはにて色もかはらす萬代やへむ

みほ山　　讀人しらす

八雲 冷泉 兼盛 元輔 能宣 不レ知レ人

拾遺集、大嘗會歌十一首、皆近江也。

ナミクラ、伊勢神樂歌云

高嶋やみ尾の中山そまたてゝつくりかさねよちよのなみくら　堂舍

かゝみ山　よしのぶ

・みがきける心もしるしかゞみ山くもりなき世にあふがたのしさ

松がさき　清原元輔

千とせふる松がさきにはむれゐつゝたづさへあそぶ心あるらし

おものゝはま　かねもり

とゝこほる時もあらしなあふみなるおものゝ濱のあまのひつきは　よろつよをおもひきさなえ　定家

已上十一首拾遺神樂大嘗會同時同詠歌也

扶桑略記云、冷泉天皇安和元年十一月廿日乙酉、右大臣參入被定大嘗會國郡、悠紀近江國主基播磨國、八日辛卯大嘗會國郡卜定、十一日、大略定兩國、今日被卜定郡近江國野洲、播磨國飾磨、

冷泉院御時大嘗會歌よしたの里　夫木三十一　能宣朝臣

名にたかきよしたの里のいねなればつくともつきじ千世の秋まで　いなつき歌てる

なかひこ山　家集　元輔　同廿

はりまなるなかひこ山の霧はれて千年の春をみるかうれしさ

さゞれ石の山　近江又丹波　家集　夫木二十　能宣朝臣

君が代のかずをかぞへて取つまんためしなりけりさゞれ石の山

若悠紀方の歌にて近江の

石山をかくつゞけたる歟。

家集 近江いやたかのみね 金葉備中 夫木二十 元輔

さゞれ石のいはほとなればはりまなる（あふみなる歟）いや高のみねいやたかになる

家集 能宣朝臣 夫木廿四

國もせにつくれるみよの田にたてるいほの井川の音のさやけさ

家集 元輔 同

いくちたひ君が御代にはあふみなる玉つくり川すまんとすらん

同 近江やすかは 兼盛 同

やす川の水そこ見えて（すみて）ゐる（鶴）かめのよろつ代しりて（かねて）あそふをぞ見る 已上家集

題不知 玉葉 よみ人不知 同

百千鳥やすのかはらにむれゐつゝ友よびかはす心あるらし

家集いはひの歌 元輔 同二十五

みやはまのいさごのこすなわか君のたからのくらゐかぞへみむかし

冷泉院御時大嘗會歌　　能宣朝臣 夫木廿七

（家集ナシ）やす川のかはへにあそふあしたつは千年のかけに（かずに（イ））ならへてそみる（思ふ（イ））

家集　　兼盛 同

君か代を待しもしるくおほくら（あらき）の里のながぢを（さかえを（家））見るかたのしさ

冷泉院御時大嘗會歌　　元輔 夫木三十二

くりもとやせたの橋けたたわむまではこびつゞくるみつき物かな

家集大嘗會を　　元輔 夫木廿

さかき葉の色もかはらぬかめ山にときはの陰としげるべきかな

題不知 秋風　　よみびとしらす 夫木廿

昔よりなづけそめけるとみ山はわが君か代のためにぞ有ける

懐中　　讀人不知 同三十一

年ごとにます田の里のいねなればつくともつきじ千代の秋まで

下句、冷泉院御時能宣吉田里詠ト全同。

廬井川 近江栗太郡 懐中　　よみ人しらす 同廿四

あふみなるいほの井川の水すみて千年の數の見えわたるかな

題不知 いつみ井 備中　龜鏡　　よみ人しらず 同廿六

くにこほり今ぞさかえむいつみ井の君がみよには絶じとおもへば

龜鏡愛智郡近江　　よみ人不知 同三十一

うらばみにえちのこほりのいねをすへて神と君とにつくはつほかな
（トは食、す（イ）そ、はつほは初穂と傍書）

ハツホ、三代實録第十八云、所レ謂作レ之早穗ハツホ二十丈云云

龜鏡ひかみのこほり 丹波氷上　　同 同

萬代のためしにいねをつきしよりひかみの郡民そさかえむ

龜鏡松原のさと 未勘國　　よみひとしらす 同

春秋はおほくつもれど年をへてときはにみゆる松原の里

あをやきのさと 未勘國　　よみひとしらす 同

木からしの風はふけともちらずしてあをやきの里ときはなるらん（新續古今賀壽柳村近江也）

藻鹽草千束橋 近江　　作者なし

君が代はちつかの橋を幾かへりはこぶみつきの數もしられず

同　　同

末遠きちゝの川瀬による巨は我すべらぎの御代の數かも

安和作者悠紀兼盛能宣、主基元輔不レ知レ人、天祿作者、悠紀能宣兼盛、主基中務等ノヨシ、八雲ニミエヌレバ、明證ノアルヲバ上ニ記シ畢ス、又シルシトスベキ證文ナキトイヘドモ、安和天祿ノ間ノ作者、又讀人不レ知トイヘトモ、凡其時

代ノ歌ニ類セルヲモ又
トニシルスモノナラン。

兼盛家集

大嘗會ノ歌

夫木三十二、安和元年大嘗會悠紀方近江ノ國御屏風ノ歌、風雅集

賀云、天祿元年大嘗會悠紀方屏風の歌近江國勢多の橋をよめる

ひつき物（みつきもの（夫、風））たえずそなふるあつまちのせたの長橋音もとゝろに

（拾賀）いはのうへの川せきあけてうゑし田の稲は萬代たえてたへにし。

さゝなみのなからの山のなからへは久しかるへき君かみよかな

いにしへもみ（ホ（夫））すやありけむかゝみ山（鏡山の）行するゑ遠き（さき）とよのあかりは（ちよのかきりは（夫木廿））

鏡山やまびこたかくよばふなる世のさかゆべきかげとみゆらし

世のとみは岩藏山にをさめ置て萬代までに（も）君ぞつたへん（に（夫木廿））

とみゆ（山）かのかずまさりゆく君が代にあへるくに人たのもしきかな（夫木廿）

あさづまのみ井のこのかげしげりあひてさかえゆくよをみるかたのしき

重之家集

此歌名所考

大嘗會に主基の方にあかしのはま

朝日さす明石の濱をたちゐせし波ものとかになる世なりけり

大嘗會主基方丹波國くはばらの里を

和名鈔獨案（比支木由）イタリテツヨキ糸トミエタリ。

くはゞらの里の引まゆひろひ置て君がやちよのきぬいとにせん

同方たまつくり江を　夫木廿四題不知懐中よみ人しらず

ひとつして萬代てらす月なれは空にみがける（そこぬ見へけり）玉つくり江（玉つくり川）か

今案、重之大嘗會作者ナルコト、八雲御抄等ニミエズ、冷泉、圓融、一條ノ間ノ人トミユレバ、安和天祿ノ比ノ、大嘗會主基方ノ歌ナルベシ

御屏風歌、此御代初見
八雲圓融（能宣、兼盛、中務）

圓融天皇
天祿元年大嘗會風俗千年能山　拾遺集神樂歌　よしのぶ

此一首主基方にて丹波歌、千載集神祇部藤原光範朝臣歌の詞書、丹波國千年山云々。

ことしよりちとせの山は聲たえず君が御代をぞいのるべらなる

いやたかの山　かねもり

あふみなるいやたか山のさかきにて君がちよをば祈かざゝむ

みかみの山　野洲郡三上　よしのぶ

祈くるみかみの山のかひしあればちとせの陰にかくてつかへん

いはくら山

けふよりはいはくら山に萬代をうごきなくのみつまんとぞおもふ

かゝみ山　中務

よろづ世をあきらけくみむ鏡山千とせのほどはちりもくもらじ

おほくにのさと　かねもり

和名鈔愛智郡大國

年もよしこがひもえたり大くにの里たのもしくおもほゆるかな

よしたのさと

名にたてるよし田のさとの杖なればつくともつきじ君が萬代

まつがさき

鶴のすむ松がさきにはならべたるちよのためしをみするなりけり

已上九首拾遺神樂大嘗會同時同國歌

扶桑略記云、圓融院天祿元年三月五日丙午、於二太政大臣式曹司一、被レ定二大嘗會悠紀主基國一（悠紀近江、主基丹波）又被レ定二兩國郡一（近江、坂田、丹波氷上、共江次第）十一月十七日乙卯、大嘗會、仍天皇幸二八省院一

天祿元年大嘗會悠紀方御屛風歌（新勅撰賀雜四）　清原元輔

辛崎の濱のまさごのつくるまで春のなごりは久しからなん

花山院

扶桑略記云、花山院寛和元年二月三日戊寅、大嘗會國郡被レ定レ之、悠紀近江主基丹波、

一條院

同云、一條院寛和二年十一月十六日庚辰、於二豐樂院一大嘗會（近江國野洲郡 備中國下道郡）今按、此兩代大嘗會、（歌無二所見一、）皇年代略記亦兩代共以無國郡卜定文、

三條院

扶桑略記云、三條院長和元年八月十三日甲寅大嘗會國郡卜定近江（國平）坂田郡、丹波國天田郡

榮華物語（日蔭鬘）長和元年、冬の日もはかなくくれて、大嘗會のいそぎせさせ給ふ、されどその日は只うるはしうぞある、悠紀の方は大中臣能宣がこの、祭主輔親つかうまつる、主基の方は、前加賀守源兼澄なり。此人々、輔親はよしのぶかこなればとおほしめしたり、かねずみは、公忠の弁のすぢなりなどおぼしめして、うたのかたにさもあるべき人どもをあてさせ給へるなるべし。悠紀のかた、いなつきうた、さかたのこほり　　輔親

やまのごとさかたのいねをぬきつみて君かちとせのはつほにぞつく

御神樂の歌　　おなじ人

おほやしまくにしろしめす初よりやほ萬代の神ぞまもれる

まいり音聲　　たかみくら山

八雲、長和元悠紀、輔親 主基、兼澄

貞觀儀式、大嘗會式、中卯日、兩國獻物各收二膳屋一、神祇官留候、於二北門内左掖一、造酒童女先舂二御飯稻一、次酒波等共不レ易レ手且舂且歌、歌詞當時制レ之。

兼澄ハ信明朝臣ノ息、公忠孫ナリ。

今案　まいり音聲は辰の日なり。貞觀儀式、大嘗會式中、卯日、戌刻、鑾輿御二大嘗宮一、宮内官人率二吉野國栖十二人一、楢笛工十二人入レ自二

よろづよはたかみくら山うごきなきときはかきはにあふぐべきかな

樂の破の歌、しき地

おほみやのしきぢざいとゞさかえぬるやへのくみなきつくりかさねて

日本紀鮪臣歌、飫保岐瀰能耶陛能矩瀰餓岐云々

樂の急のうた　かなやま

夫木廿　家集

かな山にかたくねざせるときは木のかずにおいますくにのとみくさ

まかで音聲　やすかは

すべらぎのみよをまちでゝみつすめるやすの川波のとけかるらし

又つぎの日の參入音聲　なからの山

あめつちのともにひさしき名によりてなからの山のながきみよかな

樂の破のうた、よしみつ

吉水のよきことおほくつめるかなおほくら山のほとはるかにて

樂の急のうた

ゆふしでの日かげのかつらよりかけてとよのあかりのおもしろきかな

まかで音聲　やすらのさと

から夫木三十下同

もろ人のねがふこゝろのあふみなるやすらのさとのやすらけくして

擧常元南、左掖門ニ就レ位奏ニ古風ニ、悠紀ノ國司率ニ歌人ニ入ル、自ニ同門ニ就レ位奏ニ國風ニ、律生伯ニ一人、語部十五人ニ在ハレ、自ニ同門ニ就レ位奏ニ古詞ニ。同下、巳日辰刻主基帳…須其…乃…紀帳ニ、神祇官中臣捧ニ賢木ニ、就レ位跪奏ニ天神之壽詞ニ、國司率ニ風俗歌人等ニ且歌ヒテ參入、立ニ庭中ニ、歌人先入レ幄、次國司就ニ幄座ニ伏レ…者更起舞、如ニ初儀ニ入レ幄、乃奏ニ風俗ニ歌舞、舞（以ニ八人ニ成レ列之）次奏ニ所司樂ニ訖退出、皇帝御ニ清暑堂ニ（主基同レ之）

今按、卯日風俗者別也、猶ニ古歌ニ歟、同巳日辰刻御ニ悠紀帳ニ、悠紀人入レ自ニ儀鸞門ニ就ニ中庭左ニ幄ニ奏ニ和舞ニ（十人共舞）訖退出、次雅樂寮率ニ樂人ニ亦入就ニ門幄ニ奏レ樂、未刻御ニ主基帳ニ、次主基人等入ニ中庭右幄ニ奏ニ田舞ニ（十人共舞）訖退出云々。今案、ツギノ日トイヘルハ巳ノ日ナリ。此歌無名所。

主基の方いなつきうた、おほくら山　　兼澄

ふた葉よりおほくら山にはこぶいね年はつむともつくるよもあらじ

御神樂歌　なかむらやま

（續後拾遺）君か御代長村山のさかきばをやそうぢ人のかさしにはせん

たつの日の樂の破の歌　たまゝつやま

あまつそらあしたにはるゝはじめにはたまゝつ山の陰さへぞそふ

おなじ日のがくの急のうた　いなふさ山

（夫木二十源兼直）（つくり田の（夫））としつくりたのしかるべきみよなればいなふさ山のゆたかなりけり

おなじ日參り音聲　さゝれいし山

かずしらぬさゞれいし山ことしよりいはほとならんほどはいくよぞ

同じ日のまかで音聲　ちとせ山

うごきなき千とせの山にいとゞしく萬世そふるこゑのするかな

みの日のがくのは、とみつき山

君が代はとみつき山のつぎ（さ（夫木廿下同））／＼にさかへぞまさん（る）よろづよまでに（ね）

おなじ日のがくの急の歌　なかむら山

夫木 源兼隆
よろづ代をなかむら山のながらへこつきずよこばんみつきものかな

同じ日のまいり音聲　とみのをがは

あめのしたとみのをがはのすゑなればいづれの秋かうるはざるべき

おなじ日のまかで音聲　たゝかは

にごりなくみえわたるかなたゝかはのはじめてすめるとよのあかりに

このおなじをりの御屛風のうたなどあれど同じすぢの事なればかゝず云

今按、屛風ノウタ所見ナシ

後一條院

後一條院の御時、長和五年大嘗會主基方御屛風に、備中國長田山の麓に琴ひきあそびしたる所をよめる　善滋爲政朝臣 下載

千世のみとおなしことをそしらふなる長田の山の嶺の松風

扶桑略記云、後一條院長和五年四月七日庚辰、卜定大嘗會國郡、悠紀近江國甲賀郡、主基備中國下道郡、

長和五年大嘗會悠紀方風俗歌近江國朝日郷　祭主輔親 新古今 賀

あかねさす朝日の里のひかげ草豐の明のかざしなるべし

長和五年大嘗會主基方備中國御屛風 萬代 廿　滋爲政朝臣

八雲 長和五 悠、輔親 主、爲政

うごきなき君が御代かなまかねふくきびの中山ときはかきはに

後朱雀院

長元九年後朱雀院の御時、大嘗會主基方の神あそびの歌、丹波國神なび山をよめる（千載神祇）

常磐なる神なび山の榊葉をさしてぞ祈る萬代のため

扶桑略記云後朱雀院長元九年十一月十七日大嘗會、近江愛智丹波氷上供二奉其事一（共江次第）

（皇年代略記亦無國郡ト定文）

（八雲 長元九（悠、輔親 主、義忠））

後朱雀院御時大嘗會御屏風歌（續古今賀） 贈參議義忠

てる月のかつらの山に家居してくもりなき世にあへる秋かな

長元九年大嘗會御屏風備中國（夫木七） 贈參議義忠卿

（備中國ノ三字後人書入歟、誤也。）

のとかなるあめの下かないなふさの山田にたごもさなへ取なり

松葉集（名寄）年をへて絶しとぞ思ふたぐふればちたきの山にひける白糸（千瀧山丹後（藻鹽））義忠

此歌名寄ニナシ、フシン、丹後ハ丹波ノ誤歟

後冷泉天皇

扶桑略記云、永承元年十一月十五日辛卯、大嘗會、近江（甲賀）備中（英賀）供二奉悠紀主基一、（廿江次第）云云八雲御抄云、永承悠資業主家經

（皇年代略記、亦無國郡ト定文）

後冷泉院御時、大嘗會主基方御屏風に備中國たかくら山に、あまたの人花つみたるかたかきたる所によめる

藤原家經朝臣（詞花賀下）

打むれてたかくら山につむ物はあらたなき世のとみ草の花〔[illegible]〕　式部大輔資業 新古今 賀

新古今、九十賀時藤中納言俊家、コヽノソチヨハヒナ杖ニツリオキテ侍香雨ニトミ草ノ花

永承元年大嘗會悠紀方屏風近江國もり山をよめる

すべらぎのときはかきはにもる山の山人ならし山かつらせり

古今、卷向のあなしの山の山人と人もみるかに山かつらせよ

永承元年、大嘗會巳日樂急　式部大輔資業 萬代第七

わが君につかへまつらんこけ(ふかき)なせるいはねの村の萬代までに〔夫木三十一〕

後冷泉院の御時の大嘗會の主基方備中國に萬鄕をよめる　藤原家經朝臣 金葉 賀

みつき物はこぶよほろをかぞふればにまの里人かずそひにけり

同國いな井の里を人にかはりてよめる〔家經に替たる〕　高階時賴 同

苗代の水はいな井にまかせたり民やすげなる君がみよかな

後三條天皇

扶桑略記云、治暦四年十一月廿二日辛卯、大嘗會、近江國愛智郡、備中國英賀郡、供ニ奉悠紀主基一、云云八雲御抄云、治暦悠實政主經衡

皇年代略記亦無國郡ト定文

治暦四年後三條院の御時大嘗會主基方神樂の歌いはや山をよめる　藤原經衡 千載 神祇

うごきなく(き(イ))ちよをぞ祈るいはや山とる榊葉の色かへずして

後二條院御時、大甞會備中國歌（新拾遺 賀）　藤原經衡

はるかにぞ今ゆく末を思ふべき長尾の村のながきためしに

祝歌中　龜鏡　經衡（夫木三十一）

はこべともつきせざりけりみつき物おほいその里のみちのまもなく

（白川）六條天皇

扶桑略記云、承保元年十一年廿一日乙卯、大甞會、近江（延久坂田）丹波（多紀）供二其事一（共江次第）云云、八雲御抄承保悠紀政主匡房

皇年代略記、亦無國郡ト定文

白川院の御時、承保元年大甞會主基方、稻舂歌、神田郷を讀る　前中納言匡房（千載 賀）

ちはやふる神田のさとのいねなればつきひと丶もにひさしかるべし

承保元年大甞會主基方、丹波國かつらの山　前中納言匡房（新勅撰 賀）

久かたの月のかつらの山人もとよのあかりにあひにけるかな

承保元年大甞會主基方御屛風歌石坂山（續古今 賀）

いはさかの山の岩根のうごきなくときはかきはに苔のむすかな

承保元年大甞會主基方さか井の村を（下多 賀）　前中納言匡房

八隅しるわがすべらきの御世にこそさか井の村の水もすみけれ

承保元年、大嘗會巳日退出音聲樂急ふなせのはし　　前中納言匡房 [illegible]

御調物はこぶふなせのかけはしに駒のひづめの音ぞ絶せぬ

おなじ屏風の歌、人の家の門田にいねかる所あり　同

君が代はしづがかど田にかるいねの高くら山にみちぬべきかな

和名鈔、丹波國多紀郡日置

ひおきのむら人おほき所　同

くもりなき君がみよにはあかねさす日おきの里もにぎはひにけり

大嘗會主基方御屏風　　前中納言匡房卿 夫木七

あやめ草（引しら谷水の）ひらの谷水そこふかみ（名寄三十丹波）長きはちよのはじめなりけり

大嘗會主基方御屏風ふちさか山に藤咲たる所 夫木六　　前中納言匡房卿

君が代にあふかひありて紫の雲たちわたる藤さかの山

大嘗會主基方御屏風丹波 夫木十一　　前中納言匡房卿

ふたむらの山のふもとの秋萩に殘（は（名寄））をしける野べかとぞみる

主基方御屏風　　前中納言匡房卿 夫木十四

色も香もうつりやするとたび人の衣にゝほへ白菊の花

とみのを山丹波大嘗會風俗十首神樂歌 夫木廿　　前中納言匡房卿

所の名をよまでたゞ其おもむきをよめる例あり、此中にも考ふへし。

榊葉の色もかはらでけふよりはとみのを山にちよをこそまて　　同

水清きとみのを川のあやめ草けふを待てぞながきねも引

此二首時代分明ならされと、丹波といへるによりてこゝに入

承和元年大嘗會、主基方御屏風　　前中納言匡房卿 夫木廿

いのることかなひの山のさねかづらくれどもつきぬよもの山（人歟）かな

なかを山、承保元年大嘗會御屏風、たび人のあまたゆきかふあり　　前中納言匡房卿 同

もろ人のさかゆく道は長尾山またゆくすゑぞはるけかりける

大嘗會悠紀方御屏風　　同

椎柴のかはらぬ色をたのむ哉君がよはひの長みねの山

承保元年大嘗會　　作者ナシ、實政乎、悠紀

槇の葉も苔おふるまでなりにけりいくよかへぬる長みねの山

承保元年、大嘗會主基方御屏風村雲山に神社、又山のふもとに田あり　　前中納言匡房卿 夫木廿

あめの下年えぬ秋ぞなかりける村雲山の神のしるしに

家集遊樂山松を
承保大嘗會主基方ノ歌歟　　前中納言匡房卿 同

ゆらの山ふもとの松のまつかげに立よる人もちよをこそまて

承保元年、大嘗會主基方御屏風　同

君が代はいづれの里もおしなべていな村岡になりにけるかな

承保元年、大嘗會くらをかのわかな 丹波同　同卿

をとめこが袖ふりはへてくらをかにちとせの春のわかなつむらん

承保元年、大嘗會主基方御屏風 夫木廿二　前中納言匡房卿

ふた葉なる若杉のもり年をへて神さふるまて君はましませ

主基方御屏風　前中納言匡房卿 夫木廿五

かはしまやふなきの濱による千鳥おのれが名をば年とたのまん

和名鈔、丹波國氷上郡船(城布奈木)

實政 夫木廿五 私承保悠紀方ノ作者

何こともならびなくのみゆるかなくらふの里にいかゞいふへき

延久大嘗會　前參議實政卿

久しさのしるしなるべし色かへぬいはねの山の山のみどりは 夫木廿名寄

イハネノ山

此歌の左に右承保元年大嘗會歌ノ云云

主基方御屏風　前中納言匡房 夫木三十一

くらかきの里になみよる秋の田は年なかひこのいねにぞ有ける

承保元年大嘗會いつみのむらの人の家に菊花さかりなり　　前中納言匡房卿 同

白菊のいつみの村にすむ人はくろかみながら年をこそふれ

承保元年大嘗會　　前中納言匡房卿 同

けふりたつはるべの村はいにしへのなにはのみつのけしきこそすれ

承保主基方御屏風　　前中納言匡房卿 夫木三十一

ちはやふる神田の村のいねなれば月日とともに久しかるべし

承保元年大嘗會 同　　私、作者ナシ ユキ 資政 スキ 匡房 丹波

わが君の千代の數かも五月雨のたかのゝむらの軒の玉水

雨の下かくこそはみめかへはらや高田の村はえぬ年ぞなき

承保元年主基方 同　　匡房卿

八角しるわがすべらぎの御代にこそさか井の村の水もすみけれ

承保元年大嘗會 同 木綿園村近江　　前中納言匡房卿

をちこちの卯花月夜あかければひるとぞみゆるゆふその ゝ村

毛利山 名寄 丹波　　匡房

和名鈔、丹波國多紀郡神田、神名帳神田神社。

もり山に祈りしことはしるしあれともみちは神の手向なりけり

遊布山 丹波名寄　匡房

萬代と千度やちたびいはねなるゆふの山こそ數は知けれ

後大芋川 丹波名寄　匡房

おいも川ひとたびすめるしるしにはけふぞちとせの初なりけり

右承保元年大嘗會歌

前大雲川 同　匡房

よもの海もかくこそあらめ大雲川ひとりも波のたつ時ぞなき

同所

永保三年、應レ作二承保元年一

永保三年大嘗會主基方御屏風　前中納言匡房卿

すべらぎは千坂の浦のさゝれ石の雲井にみゆるいはとなるまで 夫木廿五

歌撫村　匡房

うたなての村に旅人まとゐしてをさまれる世の聲を聞かな

名寄高松山丹波

緑なる高松山をかぞふればいつしか年のゆきつもるらん　匡房

堀河天皇

扶桑畧記、堀河天皇寛治元年（在位廿二年也）十一月十九日丁卯、大嘗會、近江甲賀（悠紀）備中英賀共ニ帯其事、（共江帥第）云々　八雲御抄云、寛治悠紀匡房、主基行家、

皇年代略記云、寛治元年四月廿三日、國郡卜定云云

寛治元年堀川院の御時、大嘗會悠紀方、神あそびの歌、諸神卿をよめる（千載賀）

前中納言匡房

いにしへの神の御代よりもろかみの祈るいはひは君が代のため

寛治二年（元年）、大嘗會屏風にたかのを山をよめる（新古今賀）

前中納言匡房

とやかへるたかのを山の玉椿霜をはふとも色はかはらじ

寛治元年悠紀歌近江國みむらの山（新拾遺賀）

前中納言匡房

時雨ふるみむらの山の紅葉ばはたがおりかけし錦なるらん

堀河院御時、寛治元年、大嘗會悠紀方風俗歌

千々松原

前中納言匡房（續千載賀）

ときはなる千々の松原色深みこだかき陰のたのもしきかな

寛治元年大嘗會屏風に小松原のもとにながるゝ水あり、その所にすゞむ人あり（風雅賀）

前中納言匡房

此歌無名[illegible]

小松原したゆく水のすゞしきにちとせの數をむすびつるかな

堀河院御時大嘗會近江國歌 新拾賀　　前中納言匡房

みかみ山いはねにおふるさかき葉のはがへもせずに萬代やへむ

寛治元年、大嘗會悠紀方屛風に高野村 新續古今賀

吾君のちよの數かも五月雨の高野の村の軒の玉水

大嘗會悠紀方御屛風 夫木三十一　　前中納言匡房卿

八重たてる白雲山の梅の花南の風ににほはざらめや

大嘗會悠紀方御屛風青柳杜の柳を 夫木三　　前中納言匡房卿

代々をへて絕じとぞ思ふ春ごとに糸よりかくる青柳のもり

春ふかみ玉野の原のはなれ駒やよひの草にまかせてぞみる

大嘗會悠紀方御屛風 夫木四　　前中納言匡房卿

やす川のわたりの櫻はつ〳〵にみれどもあかず垣ごしにして

くらふ山下てる道は三千年に咲なるもゝの花にぞ有ける 五

家集あさひの野きし 同七　　前中納言匡房卿

春のくることやうれしきあかねさすあさ日か野べにきゞす鳴也

大嘗會悠紀方御屛風 夫木十一　前中納言匡房卿

かまふ野のしめのゝ原のをみなへしのもりにみすないもか袖ふり

かまふ野の若紫のふぢばかま千世の秋までにほへとぞ思ふ

大嘗會御屛風　前中納言定家卿 夫木廿

今按、定家卿ハ大嘗會作者ニアラズ。匡房ヲ古記ノ間ノ歌ナルベシ。前中納言モ不審。

玉かづらきよくみせんとかゝみ山豐の明の月もくもらず

悠紀方御屛風風俗歌 夫木廿　前中納言匡房卿

つくはねの白雲山のたかく／＼にわがすべらぎをあふぐなりけり

しろかね山 夫木廿　同

しろかねの山のかひある梅の花萬代ふべきにほひこそすれ

此歌は永承四年大嘗會主基方御屛風に、丹波國しろかねの山に梅の花さかりにさけるに旅人のある所と云

今按、永承悠紀方屛風、主基方屛風ナリ、此注アヤマレリトミエタリ、依テコヽニ載。

悠紀方御屛風 津野岡 夫木廿　前中納言匡房卿

つのゝ岡みなみにかほる梅の花君がみかどにかよふなりけり

悠紀方御屛風風俗歌 夫木廿　前中納言匡房卿

山もとやさのゝふなばしなか／＼にたのしきことを聞わたるかな

承保元年大嘗會主基御屛風 夫木廿四　前中納言匡房卿

あふみなる高つき川の底清みのどけきみよのかげぞうつれる　高つき、八雲、此よりいへばまなそへて高嶋の川せ歟、さきよくすむなり

歌ニヨルニ疑ヒアリ、近江ハ主基の國にあらず、寛治天仁の間の悠紀の歌なるべし。

悠紀方御屛風安河群鶴　十七廿七　前中納言匡房卿

やす川にむれたるたづのむれながら年をは君が年とここそつめ

大嘗會悠紀方御屛風　同三十　前中納言匡房卿

あし原やみつほの國をもる山もとよのあかりのおもしろきかな

家集やすらのむら　安置　十六廿一　匡房卿

さなへとるやすらの村の五月雨にあめが下こそにぎはひにけれ

さゞ浪やしかの浦より舟出してはこふみつきはかずもかはかず　匡房卿　十六ノ十二

櫻山　新古今　春二十　私近江ナルヘシ　匡房

櫻山散べき花もなかりけりあらき風だにふかぬ世なれは

同

さくら山花さへ匂ふかひありて旅ゆく人も立とまりけり

韓見山 同 師說カラミ山ハカ、ミ山ニテ近江歟　　同

見わたせはから見の山のおもしろく雪ごちとせの數はふりける

篠原 近江名寄廿四

朝まだき野ばらしのはら雪ふかみたびゆく人の道はいづくぞ

右寛治元年大嘗會當國歌也　匡房卿

寛治元年大嘗會悠紀方近江國辰日樂急 萬代七

三上山いはねにおふるさかき葉のはがへもせずて萬代やへん

鳥羽院八雲御抄悠紀匡房主基正家

江次第第十五、天仁近江甲賀丹波氷上、皇年代畧記云、天仁元年八月三日大嘗會 近江丹波云云 十一月廿一日丁卯(イ一) 今案、皇記亦無國郡ト定之文

天仁元年大嘗會悠紀の御屛風に三神山　　前中納言匡房 續後撰賀

あさ緑みかみの山の春霞たつや千年のはじめなるらん

かゝみ山

くもりなき君がみよには鏡山のどけき月の影もみえけり

天仁元年鳥羽の院の御時、大嘗會の悠紀方神樂歌、晉高山をよめる 續千載神祇

前中納言匡房

よばふなる音高山の椿葉の色にかはらぬ君が御世かな

天仁元年大嘗會悠紀方近江國石根山 續千載　前中納言匡房

石根山やまあゐにすれる小忌衣袂ゆたかに立ぞうれしき

天仁元年大嘗會　藤原正家朝臣 夫木六

音高み藤さか山の藤の花よろづの年の數をぞちぎる

天仁大嘗會歌　藤原正家朝臣 同七

あかねさすひおきの里を見わたせばうゐの花咲てなつかしきかな

天仁元年大嘗會　前中納言匡房卿 同廿

蟬の聲いやたか山の木のしたやたびゆく人のやどりなるらん

悠紀方御屛風

足引のいたくら山の峰までもつめるかりほをみるがうれしさ 夫木廿

天仁元年大嘗會　藤原正家朝臣 夫木廿

春たちて霞たなびく千年山ふもとの里のかげものとけし

天仁元年大嘗會主基方 萬代 丹波國御屛風 同　同

此歌ノ次、上ニ匡房卿ノ歌アリ、又名寄、此歌ノ作者匡房トセリ。丹波ハ正家ニテ作者正家ナリ、夫木丹波トアルハ誤レリ。

夫木抄第一、雜、二問、家集アソビノ問 夫木 前大納言俊光卿 ノフエ吹ノ社ノ神ハ昔ニキノアソビヲカヤ行カヘルラム

神名帳フエフキノ 穴吹神社、大和添上郡、（アナフキ）或作二穴咋一、曼行兼春日穴咋ノ邑。延暦七年八月對馬嶋守正六位上穴咋ノ……今案、笛吹有二二說一、……不審。

萬代第二十賀
高倉の山のふもとの里なればつみおく稻の數もしられず

玉松山 近江又丹波　　正家朝臣 同同

はる／＼とひさしかるべきみよなれば玉松山（丹波）にちよをこそまて

天仁元年大嘗會　　藤原正家朝臣 同同

しつかなる二村山のふもとにそちとせの秋の花も咲ける

天歡
永仁元年悠紀方御屛風 夫木卅　　前中納言匡房卿

蘆引（クレタケ）のふえ吹山の松かぜ（は秋）によろづ世の秋（のアキノ（已上名寄））しらべこそすれ

同笛吹 近江丹波 今按近江ハ誤歟　　藤原正家朝臣 同

いはねさす笛ふき山のかひありてちとせをふべき聲ぞきこゆる

天仁大嘗會　　藤原正家朝臣廿 夫木廿

君が世のたのしき年のいねなれば稻村岡にみちてこそつめ

たか岡にむれゐる人もゝろともにちよをちぎりしわかなをぞつむ

天仁大嘗會　　前中納言匡房卿 夫木廿五

我君はちさかの浦にむれてゐるたつや雲井のためしなるなん

天仁元年悠紀方御屛風 夫木卅一　　前中納言匡房卿

時雨せぬよしたの村の秋をさかりなほすいねのはつりなきかな　藤原正家朝臣 同

天仁大嘗會

長 ヒコノイネ下ニ亦出ツ。　はる〳〵と年もはるかにみゆるかなながらの村の長ひこのいね　次上匡房卿 同

天仁元年大嘗會

眞木の村つら〳〵つばきつら〳〵に思へばひさし君がやちよは

天仁元年大嘗會主基方丹波國神樂歌 萬代第七

此歌無名所　しづかなる山のたかねの榊葉をときはかきはにいはひてぞとる

名寄丹波

君が代にあふみなからに千葉の雲たなびきわたる藤坂の山 玉葉

名寄藤原正家朝臣

春立て霞たなびく千年山ふもとの里の花もめづらし

二首大嘗會歌歟

崇德院　八雲御抄悠紀敎光主基行盛

皇年代畧記云、崇德院保安四年六月十六日國郡ト定、十一月十八日丁卯大嘗會 近江 備中

大嘗會主基方備中國稱高山をよめる 金葉 冬　藤原行盛

雪ふればいや高山の梢にはまだ冬ながら花さきにけり

保安四年大甞會主基方御屛風 夫木廿　藤原行盛朝臣

千はやふるかみ村山の椎柴のいや年のはにいのりまつらん

大甞會主基方辰日參音聲に鼓山をよめる　藤原行盛 金葉賀

音たかきつゝみの山の打はへてたのしきみよとなるぞうれしき

悠紀方朝日のさとをよめる　藤原敦光朝臣 同

くもりなきとよのあかりにあふみなる朝日の里は光さしそふ

巳日の樂の破に雄琴（近江）の里をよめる　同

松風の雄琴の里にかよふにぞをさまれる世の聲は聞ゆる

近江國志賀郡雄琴、ヲゴト、土人ハヲグツト云地ナリ。

近衞院八雲御抄　悠紀顯輔主基敦光

皇年代畧記云、近衞院康治元年七月廿七日國郡卜定、十一月十五日癸卯大嘗會近江丹波云云

顯輔家集

近衞院御時大甞會和歌

悠紀方　近江國

風俗和歌十首

従三位行左京大夫兼近江守太皇太后宮亮藤朝臣

稲春歌　野洲郡

たゞ卅一
ひとごゝろやすのこほりときくなへにつけどつきせずはこぶいね哉

神樂歌　三上山

續千載卅五
ちはやふる三上の山の榊葉をかをかぐはしみ止めてこそとれ

辰日　参音聲　高御倉山

雲かくるたかみくら山のぼる日のはるかにみゆる君が御代かな

同日　樂破　玉蔭井

にごりなきたまかげのゐのそこきよみすみよき世にもあひにけるかな

同日　樂急　長等山

千賀
君が世はながらの松のいはね松千たびやちたびはなのさくまで

同日　退出音聲安良鄉

夫卅一
やすみ(ス(木)(夫))しるわがおほきみのみよにこそいとゝやすらのさともとみぬれ(ケ(夫))

巳日　参音聲　佐野船橋

よもの海波も音せぬきみが世とよろこびわたるさのゝふなばし

同日　樂破　朝日郷

夫卅一 いつしかとあさ日の里をたちいでゝいそぎもはこぶみつきものかな

同日　樂破（急平）　大富山

夫廿 よろづよとおほとみ山ぞよばふなるひさしく君をさかゆべしとか

同日　退出音聲　秋富村

君が世はたのしかるらしつねよりも年へてみゆるあきとみのむら

御屏風六帖和歌十八首

甲帖　正二月

長峯山　小松多生

夫廿 きみが世はなかみね山にふたばなるこ松の千たびおひかはるまで

見遣岡　有下摘二若菜一人上

同 はる〳〵とみやりの岡のわかなこそ千年の春はつむべかりけれ

梅原　梅花盛人翫レ之

いづれをかわきてもをらん梅ばらは心にそまぬ色しみえねば

乙帖　三四月

青柳村　樹尤多

春四
きみが世はたみの心のひとかたになびきしみゆる青柳のいと

白雲山　櫻花盛開行客見レ之

春四
や重たゝるしらくも山のさくらばなかほるばかりやしるしなるらむ

山吹崎　欵冬開敷行人見レ之

いはねどもくちなし色にしるきかなこや音にきく山ふきのさき

丙帖五六月

長澤池　有下採二昌蒲一人上

夫廿三
としごとにたえずひくかなあやめくさねをながさはの池をたづねて　ち(夫)

千歳里　殖田玄甚多

夫三十一
みわたせばちくらのさとにあまるまでかずもしられずとるさなへかな

常夏里　毎二人家一雜芟開

夫三十一
やとごとにうゑけるはなのかひありて咲みだれたる常夏の花　里(夫)

丁帖七八月

石瀧　水如レ糸

夫廿六 むかしよりなにながれたるいはたきの水のしら糸いくよへぬらむ

千草原　色々草花開敷

色〳〵のちくさのはらをみわたせばいくらばかりのにしきなるらむ

玉井　宿レ月

くもりなくすむたまの井にいとゝしくひかりをそふる夜の月かな

戊帖九十月

板倉山之田多積レ稲人見レ之

詞綵下 いたくらの山だにつめるいねをみてをさまれる世のほどをしるかな

會坂關　運ニ調物一人馬多

夫木廿 みつきものはこぶよほろしおほかればみちもさりあへずあふさかの關

鏡山　紅葉盛客見レ之

日にそへてあかくぞみゆるかゝみ山もみぢの色やふかくなるらむ

己帖十一十二月

鷹尾山　付鷹狩人

大廿 みかりするたかのを山にたつきじやきみがちとせのひ(み乎)つきなるらん

益田社　祭レ神所

大廿二 すべらきをまもり益田のもりなれやあからがしはのあからめもせず

高宮里　白雲(雪か)尤深

大廿三 あさまだきふりさけみれば白たへのゆきつもれるやたかみやのさと

康治元年十一月三日

已上　敦光主基方ノ歌無二所見一

国名鈔、近江淺井郡益田須木大[illegible]名類同郡[illegible]、た本三十一、[illegible]中、讃人[illegible]加、年コトニマス田ノ里ノ稻ナレバツクトモツキジ千世ノ秋マデ大嘗歌メキタリ

台記、康治二年八月己巳廿四日、大内記[illegible]令明死、[illegible]傳儒、[illegible]佐[illegible]外、其[illegible]及二令明一[illegible]云々、生年七十、云々年紀有二相違一如何。

後白川院

八雲御抄悠紀正範主基令明

百練抄云、後白河天皇久壽二年十一月廿三日大嘗會云云
皇年代畧記云、久壽二年九月十二日大嘗會
國郡卜定、十一月廿三日丁卯大嘗會近江丹波云云

院の御時の久壽二年大嘗會悠紀方風俗歌近江國わか松のもりをよめる千載賀

宮内卿永範

すべらぎの末さかゆべきしるしには木だかくぞなる若松のもり

久壽二年院の御時大嘗會悠紀方の神樂の歌近江國木綿園をよめる同神祇　宮内卿永範

神うくる豊のあかりにゆふそのゝ日かげかづらぞはへまさりける

久壽二年大嘗會悠紀方屏風に近江國かゝみ山をよめる 賀新古今　　宮内卿永範

拾賀 萬代をあきらけくみんかゝみ山千年のほとはちりめくもらし

くもりなき鏡の山の月をみて明らけき世を空にしるかな

久壽二年大嘗會歌 賀續古今　　宮内卿永範

をさまれる時にあふみのやす川はいくたびみよにすまんとすらん

みそぎを　　宮内卿永範 夫木九 大嘗會歌 似タリ

ちはやふるたなかみ川の清き瀬に千とせをいのる夏ばらへしつ

久壽二年大嘗會悠紀方御屏風近江國 夫木十八　　前參議俊憲卿

俊憲卿ハ平治悠紀方ノ作者也、加何。萬代集亦作ニ俊憲ー

あられふる玉野の原にみかりして天のひつきのにへたてまつる

主基方歌丹波國酒井村 夫木廿六　　藤原茂明朝臣 義(名寄三十)

此人大嘗會歌未ノ見、今按、茂ハ義ノ誤ニテ、義ハ令ト通シ用テ、令明歟。

明玉 出る(名寄)
わきかへりさかゐの水もすみにけりおほやしま知みよのはしめに くみ(同)

祝言中 歌カ 松井 山城久近江 同　　同

此歌大嘗會メキタリ、松井ハ新古今建久九、主基備中トス、同名異所歟。

むすびあぐる松井の水はそこすみてうつるは君がちよのかけかも

大嘗會主基方御屏風 悠紀歟 夫木廿七　　宮内卿永範

永範ハ、久壽ノ嘗、悠紀方ノ作者也、此歟ハ他代ノ内ノ誤ナルヘシ。

粟津野のこはぎが花に色そへて時しりがほにまじるさき草

月よみのさと 夫木三十一 大嘗歟似タリ、月よみの里は准レ上ズルニ丹波歟　藤原茂明朝臣

くもりなきとよのあかりに空はれて光をそふる月よみの里

二條院 八雲御抄悠紀俊憲主基範兼、皇年代畧記云、二條院平治元年四月廿日國郡卜定、十一月廿二日癸卯大嘗會近江丹波云云

平治元年大嘗會悠紀方風俗歌近江國ちさかのうらをよめる 千載賀　参議俊憲

君が代の數にはしかじ限なきちさかのうらのまさごなりとも

同御時大嘗會主基方稲春歌丹波國雲田村をよめる 同　刑部卿範兼

あめつちのきはめもしらぬみよなれば雲田の村のいねをこそつめ

平治元年大嘗會主基方辰日參入音聲生野をよめる 新古今賀　刑部卿範兼

大江山こえていく野の末遠み道ある世にもあひにけるかな

後拾、小式部、大江山いく野の道の遠ければまたふみもみずあまのはしたて

二條院大嘗會 夫木十四　よみ人しらず

高宮のさとのしるしに白菊の花の雪とはみゆるなるへし

平治元年大嘗會主基方丹波國、神樂歌 刑部卿範兼、萬代第七

平治祭祀俊憲(イ)編主基範兼

色かへぬときはの山の榊葉をいはひかさしつ萬代のため

六條院　八雲御抄（悠紀 俊成 顯廣(袋草子)　主基 兼光乎 永範(袋)）

皇年代畧記云、仁安元年九月三日國郡卜定、十一月廿二日己卯大嘗會（近江 備中）云云

長秋詠藻上

仁安元年大嘗會悠紀方の歌よみて奉るべきよし宣旨有しかば、さき／＼つねは、儒者などつかうまつるを、いかゞと辭し申を、猶よみて奉るべきよし、御氣色有よし、行事辨俊經朝臣、たび／＼しめしをくりしかば、よみて奉りし歌

悠紀方　近江國

風俗歌十首

稻舂歌　坂田郡

（新古今）あふみちや（新 の）坂田のいねをかりつみて道ある御代の初にぞつく

神樂歌　長岑山

（夫木廿）萬代を祈ぞかくる長みねの山のさか木をさねこじにして

辰日參入音聲鏡山

うれしくもかゝみの山をたて置てくもりなきよのかげをみる哉

同日樂破　余吾海

四方の海も風しづかにぞ成ぬらし聲おさまれるよこのうら波

同日樂急　直木村

君が代はちへのなみくらひまもなくつくりかさねよまきの村人

ナミクラ　伊勢神樂歌

同日退出音聲　音高山

風賀
吹風は枝もならさで萬代とよばふ聲のみおとたかの山

巳日參入音聲　石根山

夫木廿
行末をおもふも久し君が代はいはねの山のみねのわか松

同日樂破　安河

安川にむれゐてあそぶまなづるものどかなる世をみするなりけり

同日樂急　木綿園

玉賀
ゆふそのゝ日影のかづらかざしもてたのしくも有かとよのあかりに　の（玉）

同日退出音聲　高御倉山

夫木四
うごきなきたかみくら山祈おきつをさめん御代は神のまに／＼

同悠紀方御屏風六帖和歌十八首別紙ニアリ

甲ノ帖正二月

小松崎　子日有ニ遊客一眺ニ望湖海一

夫木廿五
子日して小松がさきをけふみれば沓に千世のかげぞうかへる

龜岳　有下採ニ若菜一女人上

をとめこも君がためとやかめ岳によろづよかねてわかな摘らん

梅原山　梅花多開敷

夫木廿
春の日の光はきはもなけれども先づ花さくは梅はらの山

乙ノ帖三四月

櫻山　櫻花盛開松樹交レ枝

夫木四
松が枝にえださしかはす櫻山はなも千年の春や匂はむ

・山吹崎　欵冬臨ニ岸水一

水の色に花のにほひもひとつにて八千代ぞすまん山吹の崎

大瀧山　卯花旁開山脚民家多

夫木廿
布さらすふもとの里のかずそへてうの花さける大瀧の山

丙帖五六月

長澤池　端午日人採二菖蒲一

夫木七 長澤の池のあやめを尋てぞ千代のためしにひくべかりける

吉田郷　殖レ田之所多

夫木卅一 せく水も吉田のさとにうゝる田はかねて年へむかげぞみえける

玉蔭井　水邊松蔭有二納レ涼之人一

夫木九 岩間もる玉かけの井の涼しきに千年の秋をまつ風ぞ吹

丁帖七八月

高宮郷　七夕有二引レ糸之家々一

夫木卅一 七夕に今朝ひく糸もながゝれと君をぞ祈るたか宮の里

志賀浦　月浮二水上一人見レ之

照月も光をそへてみゆる哉玉よせかへすしがのうら浪

玉野原　秋花開敷

夫木廿一 露しげき玉野のはらの萩さかり風ものどかにみゆる秋かな

戊帖九十月

吉水郷　多人家菊花臨レ水

夫木卅一
幾千代の秋かすむべき菊の花匂ひをうつすよし水の里

大藏山　山脚民家多ニ積レ稻之所一

夫木廿
かずしらず秋のかりほをつみてこそ大くら山の名にはおひけれ

松賀江岸　松樹茂盛邊ノ山有ニ紅葉一

紅葉はをそむる時雨はふりくれどみどりぞまさる松かえのきし

已ノ帖十一十二月

千坂浦　千鳥群飛行客見レ之

夫木十七
いくちとせいくさかゆかむ御代なれやちさかの浦に千鳥なくなり

勢多橋　白雪積敷人馬過レ之

夫木卅二
あづまぢや日つきのみつき絶じとて（すして（夫））雪ふみ分るせたの長橋

・吉身村　失題乎

夫木卅一
君か代はよしみの村の民もみな春をまつとやいそぎ立らん

仁安元年十一月三日詠ニ進之一

已上主基方歌無ニ所見一

高倉院八嘗御抄　悠紀永範　主基淸輔 袋草子

皇年代略記云、仁安三年四月廿八日、大嘗會國郡卜定、十一月廿二日(己卯)大嘗會(近江備中)云々

高倉院御時仁安三年大嘗會悠紀方の御屏風のうた(千載賀)　刑部卿永範

稻ふれどさかえこそませ君か代にあふ坂山の關の杉村(守ノイ)

嘉應元年高倉院御時大嘗會悠紀方の神あそびの歌、近江國守山をよめる(千載神祇)　宮内卿永範

すべらぎをやほ萬代の神もみな常磐にまもる山の名ぞこれ

仁安三年悠紀風俗歌(新勅撰賀)　宮内卿永範

あめつちをてらす鏡の山なれは久しかるべき影ぞみえける

高倉院御時大嘗會備中國歌(新拾遺賀)　清輔朝臣

くもりなき玉田の野への玉か影かざすや豐の明なるらん。

おなしき御屏風歌(同)

はる／＼とくもりなき世をうたふなり月出か崎のあまのつい

仁安三年大嘗會主基方備中國辰日樂破　藤原清輔朝臣(萬代集第七神祇)

神代よりあめのおしての動なきしるしにたてしいはや山かも

安德天皇八雲御抄悠紀(清輔兼光(袋))　主基(兼光季經(同))

夫木、廿五、大嘗會悠紀方御屏風(清輔朝臣)ハル／＼ト云々、夫木、悠紀共ニ誤歟。アメノオシテ、未詳。種季曰、神璽ナラバ、アメノシルシトヨムヘシ。清輔神祇令義解ヲミヌ人ト云ヘカラス云々。

吉記第十二、元年六月八日、大嘗會木文、文章博士敦周、光範等朝臣可ㇾ勤ニ申之ニ和歌、悠紀前皇后宮亮季經朝臣、主基左中辨兼光朝臣可ㇾ獻之、既被ニ定仰一云々、同第十三、壽永元八月十九日、大嘗會一切難ㇾ計、上無ニ許容一下不ㇾ從歟、何況追討使下ニ向者近江國々ニ勤彌難ㇾ計歟。又主基右少辨有ニ輕服二五月、日數過了乎 以斷退云々。

吉記第五云、悠紀近江國野洲郡、主基丹波國氷上郡、治承四年四月廿七日云云

百鍊抄云、安德天皇壽永元年十一月廿四日大嘗會也、去年容不ㇾ被ㇾ行ㇾ之、今年所ㇾ被ニ遂行一也。

皇年代略記云、壽永元年十一月廿四日辛卯大嘗會近江丹波云云

壽永元年大嘗會主基方の歌よみて奉りける時、神樂歌丹波國神なひ山を

よめる千載神祇　　權中納言兼光

みしまゆふかたに取かけ神なひの山の榊をかざしにぞする

新古今賀
仁安元年大嘗會主基方稻舂歌丹波國長田村をよめる、　權中納言兼光

神代よりけふのためとややつかほになかたのいねのしなひ初けん異本壽永元云云

益鏡第一、おどろの下、後鳥羽院文曆元年十月廿五日御禊、十一月十八日に大嘗會也、主基方の御びやうぶの歌、兼光中納言といふ人、丹波國長田村とかやを神代より――、益鏡あやまれる歟。新古異本ノ壽永ヲ正トスヘキ歟。

後鳥羽院　八雲御抄悠紀兼光（父）主基光範季經（同）

百練抄云、後鳥羽院元曆元年八月十日丙寅、大嘗會國郡卜定也、近江甲賀郡丹波多紀郡同十一月十八日癸卯大嘗會也云云

今上の御時元曆元年大嘗會悠紀方の風俗の歌三神の山をよめる千載賀　　藤原季經朝臣

ときはなるみかみの山の杉むらや八百萬代のしるしなるらん

元曆元年今上御時大嘗會悠紀方歌奉りける、神あそびの歌、近江國

諸神鄕をよめる同神祇　　藤原季經朝臣

もろかみの心に今ぞかなふらし君をやちよと祈るまことは

おなじ大嘗會の主基方よみ續古 一字たてまつりける神樂の歌丹波國千年山をよめる　同　　藤原光範朝臣

ちとせ山神のよさせるさかきばのさかえまさるは君がためとか

元暦元年大嘗會悠紀主基方方青羽山　新古今 賀　　式部大輔光範

立よれは涼しかりけり水鳥の青羽の山の松のしたかせ

元暦元年大嘗會悠紀方近江國巳日退出音聲　萬代集第七 神祇

ます鏡第一おどろのした、後鳥羽院元暦元年十月廿五日御禊、十一月十八日に大嘗會也、主基方の御びやうぶの歌兼光中納言といふ人、丹波國長田村とかやを、神代よりけふの爲とややつかほにながたのいねのしなひそめけん云云

正三位季經

かくばかりたのしきみよはいさや河いざやまだこそきゝもわたらね

土御門院八雲御抄悠紀資實今按主基方也

百練抄云土御門院建久九年十一月廿二日大嘗會云云

皇年代略記云、建久九年四月廿三日國郡卜定、十一月廿二日乙卯大嘗會　近江 備中 云云

建久九年大嘗會主基屛風に松井　新古今 賀　　權中納言資實

神名帳小田郡神嶋ノ神社

ときはなる松井の水をむすぶ手のしづくごとにぞ千代は見えける

建久九年大嘗會主基方の御屛風に備中國神嶋有ニ神祠一所を（續拾遺 賀）　前中納言資實

神嶋の波のしらゆふかけまくもかしこき御世のためしとぞみる

建久九年大嘗會（夫木廿）　前中納言資實卿

まさき山まさきのかづら紅葉して時雨もときをたがへざりけり

建久九年大嘗會主基方備中國御屛風（萬代集第廿 賀）　前中納言資實

（夫廿五）みつきものはこぶ千舟もこき出よもたる（ひ（夫））のとまりしほもかなひぬ

順德院八雲御抄悠紀資實、主基有家

百練抄云、順德院建曆元年八月十一日卜ニ定大嘗會國郡一、（近江 丹波）同云、建曆二年十一月十三日、大嘗會、仍天皇行ニ幸廻立殿一云

皇年代略記云、建曆元年八月十一日國郡卜定、十一月十三日（乙卯）大嘗會延引、（今月八日依ニ春花門院崩一）二年四月廿八日更國郡卜定、十一月十三日（乙卯）大嘗會（近江 丹波）云云

建曆二年大嘗會悠紀方屛風歌長等山（續古今 賀）　前中納言資實

すがの根のながらの山の嶺の松吹くる風もよろづよのこゑ

已上以ニ所ニ載ニ八雲御抄一給上之大嘗會目錄中所レ集倭歌如レ左

後堀河院悠紀家衡主基賴資

百錬抄云、後堀河院貞應元年十一月廿三日、大嘗會也云々

皇年代略記云、貞應元年四月十六日大嘗會國郡卜定、十一月廿三日丁大嘗會云々

貞應元年悠紀方たまの野　　正三位家衡

いろ〳〵の草葉の露をおしなべて玉野の原に月ぞみがける

おなじ主基の風俗いはや山同　　權中納言頼資

ふかみどり玉松が枝の千世までもいはやの山ぞ動かざるべき

御屏風歌いはくら山同

岩藏山ハ近江蒲生郡ナリ。然ハ此歌家衡トイヘルヲ落セル歟、又備中ニモイハクラ山有哉

足曳のいはくら山の月かげ草かざすや神のみことなるらん

貞應元年大嘗會主基御屏風に、備中國あきさか山　　前中納言頼資

初時雨ふりにけらしなあすよりはあきさか山のもみぢかざらん

四條院悠紀家光主基

百錬抄云、四條院天福元年四月十六日庚寅、大嘗會國郡卜定同云、嘉貞元年十一月廿日己卯、天晴月明、今夜大嘗會也、

嘉貞元年大嘗會悠紀方巳日樂破近江國眞木村　　前中納言家光

和歌ニ撰シ作レ水

ときはなるかげはかはらじまきの村あまの露霜いくよふるとも

嘉貞元年大嘗會悠紀神樂歌石戸山　　前中納言家光

神代より祈るまことのしるしには岩戸の山の榊をぞとる

後嵯峨院悠紀爲長主基經光

百練抄云、後嵯峨院仁治三年四月廿六日(八(皇))戊寅、大嘗會國郡卜定也、近江野洲備中下道(ツ)、同十一月十三日辛卯、天晴月明、大嘗會祭也。

仁治三年悠紀風俗歌三神山 續後撰賀　前參議爲長

いにしへに名をのみ聞て求けむみかみの山はこれぞその山

おなじき主基の風俗歌石﨑 同　前中納言經光

末とほき千世のかげこそ久しけれまだ二葉なる石﨑(イ本)の松

仁治三年大嘗會御屏風歌　大藏卿爲長 續古今賀

けふよりぞ千々の松原ちぎりおく花はとかへり君はよろづ世

仁治三年大嘗會悠紀方風俗歌朝日山 續拾遺賀　前參議爲長

あきらけきみよのはじめの朝日山あまてる神の光さしそふ

仁治三年大嘗會悠紀方屏風歌 新續古今賀　前參議爲長

春風は枝もならさず靜にてなびくばかりの青柳の村

仁治三年大嘗會悠紀方近江國御屏風　大藏卿爲長 萬代集第廿賀

萬代集第七巳日退出音聲。イニシヘニ、云々

此歌無名所

秋田もる山下陰のかり廬にいなばの風も寒しこよひは

後深草院悠紀經光主基成實

百練抄云、寛元四年四月廿三日壬午、大嘗會國郡卜定也、（近江丹波）同十一月廿四日己卯大嘗會也

寛元四年主基風俗歌神山（續拾遺賀）　正三位成實

神山の日影のかづらかざすてふとよのあかりぞわきてくまなき

おなじき御屏風に藤坂山（同）

紫の藤さか山にさく花のちよのかざしは君がためかも

寛平四年悠紀風俗歌三神山（新後撰賀）　民部卿經光

玉椿かはらぬ色を八千世ともみかみの山ぞときはなるべき

寛元四年大嘗會悠紀方近江國巳日樂破　前中納言經光（玉葉賀）

空晴て照す月日のあきらけき君をぞあふく（けは（イ））いや高の山

龜山院悠紀經光主基行家

皇年代略記云、文應元年四月廿九日大嘗會國郡卜定、十一月廿六日（乙巳）大嘗會（近江備中）云云

文應元年大嘗會悠紀方御屏風歌玉井（續拾遺賀）　民部卿經光

涼しさにちとせをかねてむすぶかな玉井の水の松の下かげ

文應元年大嘗會主基方神樂歌に 新千載賀　　従二位行家

色かへぬ黒かみ山の山かづらかくてやひさにつかへまつらん

文應元年大嘗會主基備中國稻舂歌 夫木廿一　　従二位行家卿

昔きく神のまゝ田のたねなれば二萬のみしねはやそくらぞつむ 八十倉

後宇多院歌無二所見一

益鏡草枕、文永十一年三月廿六日御即位、同十一月廿二日大嘗會、くわいりふ殿の行幸、節會なかりおこなはれて、清暑堂の御神樂もなし云々

皇年代略記云、文永十一年四月廿八日國郡卜定、十一月十九日 辛卯 大嘗會 悠紀近江 主基丹波 云々

伏見院悠紀資宣主基隆博

益鏡さし櫛、正應元年 正應三年(イ本) 三月十五日即位、同十一月廿五日、この程は大嘗會、五節などのゝしる、云々

皇年代略記云、弘安十一年四月廿八日國郡卜定、十一月廿二日 癸卯 大嘗會 悠紀近江 主基備中 云々

正應元年大嘗會主基方屏風に奈加良川岸菊盛開行人汲二下流一 風雅賀　　正二位隆博

汲人のよはひもさこそ長月やなからの川の菊の下水

正應大嘗會 夫木四　　民部卿資宣

とこしへにたつ白雲の山櫻春をかさねていくよかも見ん

正應大嘗會 同廿　　民部卿資宣

かくばかりゆたけき年にいなむら（近江）の山田もるをは又もあひきや

正應大嘗會 同廿　　民部卿資宣

さか木とる今もいは戸（近江）の山かづらふたゞびなびけやそのもろ神

正應大嘗會 夫木廿　　大藏卿隆博

今ぞ知らぬ榮のはなみ山（備中）かぜもうらゝにをさまれる世を

正應大嘗會 夫木廿　　大藏卿隆博

（契氏說云ノ愛臣ノ下、加佐山）あふがしたかさめの山の草木まで春のめぐみに露ぞあまねき

正應大嘗會 同　　（此ノ歌、[illegible]トアリ、誤也。[illegible]隆博ナリ）民部卿資宣

萬代をさしてぞ祈るちはやふる神村山のみねのまさか木

正應大嘗會 夫木廿

ましらふの鷹の尾山の朝がりに霜打はらふ峰の椎柴

たかつき山（備中高月） 夫廿大嘗メキタリ　　大藏卿隆博

霧はるゝたかつき山の月影につらもみだれず雁はきにけり

正應大嘗會 夫廿　　大藏卿隆博

（此位の山は常の位山ニテ、悠紀主基の國によらずよめる歌。）すべらぎの位の山の玉日かげ雲井にかくるけふの宮人

正應大甞會（夫廿）　大藏卿隆博

時雨つるまさきの山のそがひよりみゆるもみぢの色のけたかさ

正應大甞會（日蔭 夫木）（備中）　大藏卿隆博

のどかなる春のひさしの山高みあきらけきよのはじめをぞしる

後伏見院悠紀俊光、主基隆博

皇年代畧記云、永仁二年八月廿五日國郡卜定、十一月廿日（癸卯）大甞會（近江 丹波）云々

永仁三年ニテ正慶ト改元ナリ、六年誤レリ。

永仁六年（二乎）大甞會悠紀方御屏風近江國千枝村藤花淺深（玉葉 賀）　前中納言俊光

うすくこく千枝にさける藤浪のさかりも久しよろつ代の春

永仁六年（二乎）大甞會悠紀方屏風長澤池、端午日採ニ菖蒲一（風雅 賀）　前大納言俊光

君が代のながきためしに長澤の池のあやめもけふぞひかるゝ

おなじ大甞會主基屏風增井、納涼の人あり（風雅 賀）　正二位隆博

涼しさをます井のしみづむすぶ手にまづかよひくる萬代の秋

永仁六年（二乎）大甞會悠紀方屏風に花垣里（新續古今 賀）　權大納言俊光

白妙のゆふ取してゝ神まつるう月ににほふ花垣のさと

永仁大嘗會犬飼山近江 夫木廿　前中納言俊光卿

はしたかの羽風に雲はうちみだれ朝風さむきいぬかひの山

永仁大嘗會 夫廿　前中納言俊光卿

神代よりくもらぬやたのかゝみ山ねこじのさか木色もかはらず

永仁大嘗會 同　前中納言俊光卿

もろ共にちよをならせるためしかな鶴のきやどる高松の山

永仁大嘗會 淺井岡近江 夫木廿　前中納言俊光卿

秋はまだあさ井の岡のをざゝ原むすびやすらん千代の初霜

永仁大嘗會 夫木廿三　前中納言俊光

滋賀の海やいそ山おろししづかにて波路のどかにかよふ舟人

永仁大嘗會 夫木廿五　前中納言俊光卿

しがの浦やみつきをはこぶのぼり舟まかぢしげぬき月にこぐなり

永仁大嘗會 夫木三十一　前中納言俊光卿

さなへとるたごのひまなみ五月雨のふるも時しるあさはらの里

永仁大嘗會 同 田中村 近江　　俊光卿

すべらぎのちいほの秋のはじめには田中のいねのわさほをぞつく

稻春歌歟

うつろはでたてり（立入）の村の白菊はさていく秋の露霜かへむ

永仁大嘗會 主基三十　　前中納言俊光卿

モロ神、名所歟、已ニ上ニミユ。

あまてらす日かげのたすきかけまくもかしこくまもれやそのもろ神

主基

もろともにちよをならせるためしかな鶴のきやとる高松の山　　俊光 大嘗會歌メキタリ

永仁大嘗會 主基三　　俊光朝臣

菅の根のなかみね山のさくら花かさなる雲の末ぞはるけき

後二條院悠紀兼仲、主基隆敎 隆博ハ隆敎ニカハリテヨマレタル事モ有ニヤ

皇年代略記云、正安三年四月廿七日、大嘗會國郡卜定、十一月廿四日 乙卯 大嘗會 近江 備中 云云

正安三年悠紀風俗神樂歌三神山 新後撰 賀　　前中納言兼仲

榊とるみかみの山にゆふかけていのるひつきの猶やさかえん

正安大嘗會 主基三十一　　兼仲卿

いつくさのあひみだれたるたなつ物池田の里に雲をなしつゝ

正安大嘗會 夫木三　兼仲卿

高宮の宮人いかにかざすらんまづさく梅の花を尋て

正安大嘗會 夫木廿　大藏卿隆博

陰しげき玉のを山の玉椿八千代のかずは君がためかも

正安大嘗會 夫木廿二　兼仲卿

すべらぎをいのる祈りのかひありてちよの松原こけぞむしける

ちよふべきねのひの小松ひきうゑて君をしいはふ野の宮の原

上二正安、スキ方主基山
大藏卿隆博

正安大嘗會所々名を 夫木廿二　大藏卿隆教

緑なるおなじふた葉を引そへて小松か原にわかなをぞつむ

正安大嘗會 夫木廿二　兼仲卿

神名帳、近江河田神社

ひさかたののどけき空をけさみればかはたの社はかすみきにけり

正安大嘗會新田池備中 夫木廿三　大藏卿隆教

はしめてや千年の影をうつすらんにひ田の池の春の青柳

正安大嘗會遐保川 夫木廿四　兼仲卿

もろ人もよはひをのべてむすぶなりにほ（野洲郡）の川瀬の菊の下露（水平）

正安大嘗會 長等川 備中 夫木廿四　　大藏卿隆教
ひこ星の契の末のながら川あふせはいつの秋も絕せし

正安大嘗會 夫木廿五　　兼仲卿
君がためやちよの數をためしにてからさきの濱に千鳥しばなく

正安大嘗會歌 夫木三十一　　兼仲卿
稻舂歌
君が代はやすのこほりのみつき物ゆにはのいなぼつきぞはじむる 新續

大藏卿隆教 同
末遠き春のむかへのみつき物かずかずはこぶにまの里人
時にあふ民の心もやすらけき御代のはじめの豐岡のさと

正安大嘗會 夫木三十二　　兼仲卿
しらつるは千世ものとかにかた岡の里を所とむれつゝぞぬる

川邊里備中 同　　大藏卿隆博
白妙の浪もしづけき色見えてかはへの里にさけるうの花

正安大嘗會 夫木三十一　　兼仲卿
雨露もめぐみあまねき時にあひて長田の里に早苗取なり

同（野山里 備中）同　大藏卿隆敎

あかざこそ秋の野山の里人はくもりなき世の月をみるらめ

正安大嘗會 同　兼仲卿

和名鈔、近江滋賀郡古市（布留知）

ふるいちの名にあらはるゝ里なればひさしくかゝる池の藤浪

正安大嘗會 夫木廿二　大藏卿隆博

うたふらし世をゝさまれといはくらの村のもろ人諸聲にして

正安大嘗會 同　兼仲卿

和名、滋賀郡錦部（爾之古利）、淺井郡有二同名一

色〳〵の木々のもみぢをみわたせばたれおりかくるにしきべの里

正安大嘗會　大藏卿隆敎

八重村（備中）にさける山吹いくとせかあかぬにほひの色をかさねん

正安大嘗會備中同　大藏卿隆敎

色ごとにそむるもみぢのきゝの村しぐれけりとは今ぞ知らるゝ

花園院悠紀俊光主基

盆鏡云、花園院延慶二年十一月廿一日御禊、おなじ廿四日大嘗會云云

皇年代略記云、延慶二年四月廿八日大嘗會國郡卜定、十一月廿四日癸卯大嘗會（近江 丹波）云云

延慶二年大嘗會悠紀方稻春歌近江國暗部里をよめる 下、賀 前ニ永仁大嘗會俊光卿ノ歌アリ、此歌作者ナケレドモ、同ク俊光卿ナリ

和名、近江國甲賀郡倉歴

いにしへに今をくらふの里人は世々にこえたるみしねをぞつく

延慶二年新院御時、大嘗會悠紀方神樂歌石戸山をよめる 續千載、神祇 前大納言俊光

久かたの天の岩戸の山のはにとこやみはれていつる月かな

後醍醐天皇悠紀俊光主基

盆鏡云、後醍醐天皇、文保二年十〔一乎〕月廿七日大嘗會云々

皇年代略記云、文保二年四月廿三日大嘗會國郡卜定、十一月廿三日己卯大嘗會近江、備中云々

文保二年大嘗會悠紀方辰日の樂破、近江國盆原鄉 續後拾遺、賀 前大納言俊光

君が代は千年五百年かさねてもいやさかゆべき盆原の里

文保二年大嘗會悠紀方巳日の參入音聲近江國新居鄉 新千載、賀 前大納言俊光

いにしへにやゝたちまさる御たからの新居のさとはにぎはひにけり

已上盆鏡

光嚴院

皇年代略記云、元弘二年四月廿八日大嘗會國郡卜定、十一月十三日己卯大嘗會近江、丹波云々

今案大嘗會歌無所見

光明院悠紀隆教主基同人

皇年代略記云、曆應元年四月廿八日大嘗會國郡卜定、十一月十九日乙卯大嘗會近江、備中云々

暦應元年大嘗會悠紀方神樂歌近江國鏡山（風雅賀）　正二位隆教

岩戸あけしやたの鏡の山かづらかけてうつしきあきらけきよは

暦應元年大嘗會主基方稲春歌（新續古今賀）　正二位隆教

（ウツシノアヲヒトクサハ御代常ニ 國蒼生）

萬代のためしにぞつく田上や秋のはつぼの長ひこのいね（ナガ任正宗ノ歌詞）

悠紀主基歌人同人

崇光院

續神皇正統記云、第九十九代、崇光院云々、（奥書云文明三年四月尚書都事小槻宿禰在判云々）拟モ今度打ツヾキ天下擾亂ニヨリテ、御禊モ俄ニ停止セラレ、大嘗會モ被行ヌ事コソ、帝闕ノ初例無例ニ侍レ云云

皇年代略記云、觀應元年四月廿九日大嘗會國郡卜定、同十月廿二日御禊治定之處、天下擾亂仍不被行之、大嘗會遂以無沙汰云云

後光嚴院悠紀主基

皇年代略記云、文和二年八月廿七日大嘗會國郡卜定、十一月十六日（癸卯）大嘗會（近江丹波）云云

今上御時大嘗會御屏風に（新拾遺）　權中納言時光

時をえてちたの村人いくちたびとれどもつきぬさなへなるらん

ユキ、スキ、作者國郡不分明

後圓融院悠紀儀同三司、主基忠光

皇年代略記云、永和元年四月廿六日大嘗會國郡卜定、十一月廿三日大嘗會（近江備中）云云

永和元年大嘗會悠紀方辰日退出音聲千々松原（新後拾遺賀）　儀同三司

君が代はちぎるも久しもゝとせをとかへりふべきちゝの松原

義方、何ノ御代ノ作者歟、大嘗會歌メキタリ。

永和元年大嘗會主基方屏風備中國松山 新續古今 賀　　權大納言忠光

十かへりの花さきぬらし松山の梢を高みつもる白雪

玉村近江 夫木三十一　　藤義方 資忠(イ)

うつろはで庭おもしろき初霜におなじ色なる玉村の菊

家集長田丹波 同

作者落タリ、是亦大嘗會歌メキタリ。

しづかなる長田の村にすむ人のかりつむいねのはかりなき哉

後小松院

皇年代略記云、永德三年月日國郡卜定、同十一月十六日 乙卯 大嘗會 近江 丹波 云云

稱光院

皇年代略記云、應永廿二年四月廿八日大嘗會國郡卜定、十一月廿一日 乙卯 大嘗會 近江 備中 云云

後花園院

皇年代略記云、永享二年四月廿三日大嘗會國郡卜定、十一月十八日 乙卯 大嘗會 近江 丹波 云云

皇記註云、十二月大嘗會、上古以來初ノ例歟。然觸穢無力之上、京中已及二兵亂一、合之引二畜、對レ被レ行、仍無レ力被二注行之云云。

後土御門院

皇年代略記云、文正元年月日大嘗會國郡卜定、十二月十八日卯大嘗會 近江 丹波 云云

今按、後小松院以後、大嘗會和歌無二所見一矣。雖レ然後花園院永享十年奏二新續古今集一云云、因レ茲、止焉。

萬葉緯卷第五 終

萬葉緯 卷第六 踏歌東遊

目錄

萬葉緯卷第六

洛東隱士似閑編輯

日本後紀

桓武天皇。延暦十四年、春正月庚午朔。乙酉

宴ニ侍臣一奏ニ踏歌一曰[1]

伊呂波字類抄云。[2]踏歌。本朝事始云。天武天皇。三年正月朔朝。大極殿詔。男女無レ別闇夜踏歌。長暦云。正月十五日踏歌意何。當除ニ時來之凶一。兼祈ニ年中之吉一。故從ニ唐五帝之時一起也。顓頊氏治ニ天下一之時也。女踏歌。聖武天皇。天平十四年正月十六日天皇御ニ大安殿一宴ニ群臣一。酒酣奏ニ五節田舞一。訖更令下ニ少年童女一踏歌上。云々（天武三年ノ踏歌不ニ慥于國史ニ）今按。持統天皇。七年春正月。辛卯朔丙午日。是日漢人等奏ニ踏歌一。釋日本紀云。私記云。今俗曰ニ阿良禮走一。師説此歌曲之終必重稱ニ萬年阿良禮一。今故曰ニ萬歳樂一。是古語之遺也。年中行事祕抄云。仁和五年正月十四日。踏歌記云。議者多稱ニ踏歌一者。新年之祝詞。累代之遺美也。歌頌以延ニ寶祚一。言吹以祈ニ豐年一。豈啻縱ニ樂遊於管絃一。惜ニ時節於風景一而已也。宜下依ニ承和次實一以作中每歲長觀歌一。又云。古詩云。天上姮娥遙解レ意。偏教下月向ニ踏歌一明上。注曰。月夜者美人踏歌張詩。云云江談抄云。佳辰令月歡無レ極。萬歲千秋樂未レ央。謝一偃一任雜言詩。此詩踏歌詩也。古塔瓦銘有ニ萬歲千秋樂未央字一。今案件文見ニ唐神列三寶感通錄上一。件錄云。仁壽二年正月後分ニ布舍利五十三州一至四月八日。同年時下其列如レ左。云云 其中梨列塔地下瓦文千秋樂云云 件錄唐麟德元年終南山釋氏所レ撰也云云 因ニ此等文一。踏歌起原從レ唐

1 唐書禮樂志云

2 事文類聚第七、先天初上御ニ安福門一觀ニ燈一令下三朝士能レ之者一爲中踏歌上聲調入レ空。

樋口氏曰、神仙傳云、藍采和歌ニ於市一日、踏々歌。藍采和。世界能。幾何紅顔。一春樹。流年一擲梭。古人混々去不返。今人紛々來更多。朝騎鸞鳳到碧落。暮見桑田生白浪（下略）古詩云

3 佳辰令月 [illegible]

4 題 續列仙傳云。

初明

矣

山城顯レ樂舊來傳　帝宅新成最可レ怜

郊野通レ平千里望　山河擅レ美四周連

新京樂　平安樂

十萬年春

沖襟乃眷(類)八方中　不レ日爰開億載宮

壯麗裁レ規傳二不朽一　平安作レ號驗二無窮一

新年樂　平安樂

十萬年春

新年正月北辰來　滿宇韶光幾處開

麗質佳人伴二春色一　分行連袂儛二皇墀一

新年樂　平安樂

十萬年春

卑高詠澤洽二歡情一　中外含レ和滿二頌聲一

今日新京太平樂　年々長奉我皇庭

新京樂　平安樂

十萬年春

賜二五位已上物一有レ差

同紀云。延暦十二年正月庚辰朔甲午。遣二大納言藤原小黒麻呂。左大辨紀古佐美等一。相二山背國葛野郡宇太村之地一。爲レ遷レ都也。同十三年冬十月辛丑朔辛酉。車駕遷二于新京一。丁卯。此日遷レ都。詔曰云云 葛野乃大宮地者。山川毛麗久。四方國乃百姓乃參出來事之使且之云云

朝野群載卷第二十一 本朝書籍目錄云。朝野群載三十卷。記二作文書札等體一。三善ノ爲康撰

踏歌々曲男女 樂章

男子踏歌章曲。二首乎

隨二河海抄一附二假名一

詩小雅湛露天子燕二諸侯一也

萬春樂萬春樂萬春樂

我皇延祚億千齡 萬春樂 元正慶序年光麗 萬春樂

延暦(體イ)休期(朝イ)帝化昌(仙イ) 萬春樂 百辟陪筵花幄內 天人感呼

千般作樂紫宸場 萬春樂

我皇延祚億千齡 萬春樂 人(久イ)霑湛露歸依德(體イ) 萬春樂

日暖春天仰載陽 萬春樂 願以佳(喜イ)辰常樂事 天人感呼

千千億歲奉明王 萬春樂

今按。源氏物語初音河海抄載二踏歌章曲ヲ一云。踏歌ニ。我家。此殿。萬春樂。ナハソリ納曽利。此四曲ヲウタフ。皆呂也。多

種本曰
長川記文明三年二月、後土御門院、…御遊ノ事、…十六日、…第二度…中院（通秀）大納言申、同…九ノ法事起二於周…一及二日本一者、神武已來至二文武一四十二代者、是淡海公所レ製事、已合…

字治六、…五色錯…之…也（…）。

氏ノ秘說也。又至二末有一事吹々新之常樂。此詞難レ解淡海ニ松宰ニ作ニ撰十二字一ニ船者。續日本紀桓武天皇。天應元年六月。石上宅嗣傳云。自二寶字一後。宅嗣。及淡海眞人三船。爲二文人之首一。釋日本紀云。神武等諡名者。淡海眞人御船奉レ勅撰也。

女踏歌章曲七首

明明聖主億千齡〔萬（イ）〕 千春樂　無事無爲准〔準（イ）〕賞豫 千春樂

凝流〔換乎〕端拱任群賢 千春樂　網〔綱（イ）〕疎刑措還千古 天人感呼

治定功成〔爾（イ）置（イ）〕太平樂 千春樂

明明聖主億千齡 千春樂　深仁潛及三泉下 千春樂

鴻德遐充〔荒乎〕六合中 千春樂　悅〔悅（イ）〕以紀〔紀乎〕民民悅服 天人感呼

○○○○○○○〔イ无〕 千春樂

明明聖主億千齡 千春樂　上月韶光早先春 千春樂

階前細草綠初新 千春樂　南山雪盡春峯遠 天人感呼

北闕煙生瑞氣淳 千春樂

明明聖主億千齡 千春樂　君王曉卷流蘇帳〔（イ）〕 千春樂

春日芳菲遣興催 千春樂　曉光偏著青櫻柳〔揚乎〕 天人感呼

寒色金舞玉砌梅 千春樂　自此以下爲レ破

1 風滿高臺月滿天 新聲透徹五雲仙 五雲仙子備新曲 祐我山河億萬年 晉國平公樂官師曠

2 日本紀仁賢天皇卷室壽ノ詞云、殊儛、釋日本紀云、養老私記云、儛狀者作レ立作レ居而舞、今東舞是也。持統天皇二年冬十一月乙卯朔戊午、皇太子率二公卿百寮人等一與二諸蕃賓客一適二殯宮一而慟哭焉、於是、奉レ奠奏二楯節儛一諸臣各擧二己先祖等所仕狀一遞進誄焉、釋日本紀云、楯節儛、私記云、今之吉士舞也、手以レ楯爲二節度一故名云々。

3 今按此歌難二註解一。ハレナハ、歌ノ曲節歟。テヲトヽノヘロナハ、手ヲ調ヘテ、舞ノ姿ヲ調ル歟。ヘロルトニルトハ、通ス、干太トヘロムトハ、歌調ヘン歟、奈ニハツトモ、詞ナルヘシ。

4 絃ハ遠ヲ六帖コト、ムツノヲノヨリメコトニソカハニホフ引ヲトメチカ袖ヤフレスル。今案、ムツノ絃ハ和琴ナリ、七絃ハ琴ナリ、鄭喜子作テ開元中ニ進ル。形千阮咸ニ同シトイヘリ。八絃ハ未レ聞二其說一皆箏ニアラス。

1 明明聖主億千齢 千春樂 宮女春眠常嬾起 天人感呼
被催中使繪粧成 千春樂 雲鬟尙恨無新様 天人感呼
霧斂殿(イ)還嫌色不輕 聖主億千齢
明明聖主億千齢 千春樂 春歌淸響傳金屋 千春樂
雙踏佳聲繞玉堂 千春樂 借問曲中何憶有 天人感呼
仙齢寂寶乎祚與天長 聖主億千齢
早年愛光花華(イ) 千春樂 春遊不知厭
暮景落朱顏 猶惜韶光短
徘徊不欲還 聖主億千齢 以レ此爲急

東舞歌章[2]

一歌 於百於百
波[3]禮奈百一天於止々百一乃百一反呂一奈于太百一止々乃一反牟一奈百一佐加一無一乃爾百一江於々々々。々(イ)
（相携 峯）

二歌
江百一和加世古一加百一介佐乃一古百一止天波百一安波禮奈々川於乃一夜川於一乃一古止於百一之良一返太
（吾背子 今朝 言 出 何怜 七[4]絃 八絃 琴 調 在）
留百一古止於一奈イ无一奈於百一加々介夜安末一乃止々呂百加津乃百一於介夜 於々々百よ百よ

夜宇止波萬二一須留加　奈留宇止波萬仁宇千與爪ルナ見ハ一奈々久佐乃一伊毛古止古曾與之一古止古曾與之

一奈々久佐乃伊毛八一古止古曾與之一

アヘルトキ。伊佐之禰牟夜。奈々久佐乃伊毛。古止古曾ヨシ。アナヤ爪良介。アナヤ爪良。夜爪良。（須イ）夜須良。（以下三字无イ）

ア奈夜爪良介

[1] 今案七種妹ハ七人ノ女トイハムカ如シ。萬葉十九、モノノフノ八十ノイモラカクミマカフ寺井ノ上ノカタカコノ花

[2] 體源抄第五云、雜ノ口傳丙辰記ニ云、人王廿八代安閑天皇御宇、敎到六年丙辰歲駿河國宇戸濱ニ天人アマクタリテ歌舞シタマヒケレハ、周[illegible]カ[illegible]タヲヤカニシテ、海岸ノ春柳ニオナシク、廻雪ノ袂カロクアカリテ、紅浦ノ夕ノ風ニヒルカヘリケルヲ、或翁イサコヲホリテ中ニカクレ居テ見傳ヘタリト申セリ、今ノ東遊トテ公家ニモ諸社ノ行幸ニハ、必ス是ヲ用ラル、神明コトニ御納受アルユヱナリ、其翁ハ道守氏トテ今ノ世マテモ侍ルカヤ、云々。

[3] 體源抄第五云、求子、駿河舞ヲハ諸舞ト云、求子ハカリヲハ、片舞ト云。歌モ則諸舞ノ時ハ始ヨリ歌之、片舞ノ時ハ第三ノ句ヨリ歌之、花鳥餘情云、東遊譜云、先一二歌、次駿河舞、次求子、次加太於呂之調子、高麗双調也。云々

今按。有度濱[2]神女天降見于駿河國風土記。有度郡ノ條下。宇チヨスルナ見ハ。萬葉集第三。長歌。打縁。駿河能國。同第廿。宇知江須流。須流河乃禰良波云云　打縁駿河。如言打縁砂而成洲國。風土記雖載鷹河。仙河。珠流河。

駿河。尖峨。等和訓

無打縁於國之來由

八雲御抄第二云。東遊等歌。又被召事。歌人一人也。近ハ儒者多獻之。是非儒者役。自然事也。

加茂臨時祭　敏行　　八幡臨時祭　貫之

平野女使　能宣　　松尾行幸　兼隆

日吉行幸　實政　　祇園行幸　經衡

又船岡今宮崇尊之時。長能詠之云々

今按。東舞（或號駿河舞）東遊。求子[3]。皆同曲歟。後拾遺。能因法師。ウト濱ニ天ノ羽衣。トヨマレタル。顯昭註（袖中廿）ニ。ムカシ駿河ノ國ノウト濱ニ。神女天クダリテマヒシヲ野叟ノマネビツタヘテマフヲ。今ハスルガ舞トテ。アヅマアソビ

ニスルハ是也。云云此駿河舞トイハレタルハ。朝野群載歌ノ事ナルヲ。夫ヲ摸シテ。能因ノ東遊ニヨマレタル歌ニ。注セラレタルハ。顯昭ノオモヒタガヘラレケルニヤ。サレバ東舞ハ。朝廷御遊ノ時。スルガノ國ノ野叟ノ、ウタヘル風俗ヲトリテ舞サシメ給ヘルナリ。其長篇ヲトリテ、短歌トナシテ。神前ニテ舞カナヅルヲ、東遊トイヘルナルベシ。東ハ。東舞ニ相模ノ根。又駿河ナル有度濱。ナドウタヘバナリ。遊ハ。神樂歌ノ類ヲ。古今集ニ。神アソビノ歌。トイヘバナルベシ。又求子トイヘルハ。源氏末摘花奧入ニ云。櫻ノ花ノ。色ノコトノヽ。ミカサ山ノ。乙女ヲバステテ。求子ノ歌也。春日社ニテハ。ミカサノ山トウタフ。コト社ニテハ。各其所ヲウタフ也。云云此歌全篇未考トイヘド。春日社ヘ勅使ナド立ラルヽ時ノ。東遊ノ歌ナルベシ。扨乙女ヲステヽトウタヘバ。ヲト[1]。モト。カヨハシテ。求子トイヘルニヤ。此歌モ東舞ヲ摸シテ舞ヘルニヤ。サレバ私ノ宴遊ニテ東遊ヲウタヒ。又私事ニテヨメルヲ。皆求子トイヘルニヤ。千早舞平野ノ山ノ歌。八雲御抄ニ。東遊ノ歌トシ玉ヒ。又住吉ノ松カ根アラフノ歌。明月記ニ。東遊ノ詠トカヽレタルニ。拾遺愚草ニハ。住吉ニ求子ノ歌ヨミテタテマツルトアリ。是等ノ歌ニテシルヘシ。

1 袖中抄第十三、俊頼モトメツカオマヘニカヽルシバ待ノキタケニナレヤヨルカモナシ顯昭云、求嫁ノ事。大和物語ニ云。云云萬葉第九、過葦原處女墓時歌云。云々ヲトメヲモトメトモ云歟。オトモト同ヒヽキ也云々。

冬ノ加茂ノマツリノ歌

藤原敏行朝臣

千早振。加茂乃也之呂乃。姫小松。與呂川代不止毛。色波加波良之 古今集巻軸私

年中行事祕抄云。寛平元年十月廿四日壬午御記云。未登祚之時。鴨神託人曰。自餘之神。一年得二度之祭。只予一度而已。其自弘仁始得齋女幷百官供奉。不敢所怨。只極寂寞然秋時。欲得此幣事。不難也。但若佛德不堪其勢。云々仍自去年調備馬一匹令馳。亦習東舞近衛府官人中堪歌曲者十五人爲陪從。內藏寮儲幣。依穢停止。令藤原滋實於彼所遂被祈。云云十一月廿一日己酉刻。走馬並舞人等奉向鴨社頭。時平爲使。云云

今按。此時敏行詠乎。可尋。書東舞者則東遊也。近世加茂祭被再興。亦有東遊。則伶人歌此歌云。

2 扶桑略記云、醍醐天皇昌泰二年十一月十九日己酉、奉遣臨時祭使於賀茂社、先是有此使、仍當今相傳從今年被行之、今按、此時敏行詠歟可尋。

朱雀院御時。石清水ノ。臨時祭ヲ。ハジメテオコナハセ給フトテメサレケル歌　紀貫之

松毛於比。末多毛苔生。石清水。行春恵止保久。川加倍末川良牟（續古今神祇）

貫之家集。此詞書此歌ヲ書テ。次ニ又。石清水松カゲトホクカゲ見エテタユベクモアラス萬代ノカケ。袋草子ニ。此二首ヲ出シテ云。而能宣集冷泉院御時。始テ石清水臨時祭行ヒ給ニ。可唱之歌奉之侍シニ。君ガ代ニミナソコスメル石清水ナガレヲ千代ニツカヘマツラム。此時更又被改歌歟。不審。云云　年中行事祕抄云。石清水臨[1]時祭初事。天（朱雀）慶五年四月廿七日庚辰。調神寶。舞人十人。歌人十人。被奉遣石清水。依東西國賊亂時御祈也。云云此事去年十一月。欲被遂果之間。有内裏穢于今延引。有宣命。去年分度者御封等被奉寄之由載之。使播磨權守從四位上源光明也。天慶四年十一月五日辛酉。依平將門、藤原純友追討得報賽。可有加茂行幸。又始自今年石清水可被奉歌舞人等。以式乾門内西腋為樂所。自今日行之。所司毎日著饌。舞人十人。左右衞門。左右兵衞。左右馬。兵庫等判官也。歌人十人。堪能六位等也。歌云。祈タル八幡ノ宮ノ石清水ユクスエトホクツカヘマツラム。云云（江次第）同之。此歌下句。貫之詠ト全同。若禁庭與八幡東遊章曲之替歟。朝野群載第十二宣命類云。石清水臨時祭。天皇（加）詔旨止掛畏支石清水爾御坐世留。八幡大菩薩乃廣前云云　去[2]（圓融）天祿元（利與）始天。奉出給布宇都乃御幣乎差使天。令捧持天。東遊走馬乎調備天。奉出賜布云々

ハジメテ平野祭ニ男使タテシ時ウタフベキ歌ヨマセシニ　大中臣能宣

[1] 扶桑略記云、天慶五年四月廿七日奉幣宇佐八幡宮、香椎廟。石清水宮。依賽東西兵賊討平之由也。

[2] 扶桑略記云、圓融院天祿二年三月八日癸卯、始有石清水臨時祭使。右近衞中將忠清朝臣舞人十人、近衞中將已下六位等也。陪從十二人諸卿參御前、勸盃數巡各以淵醉、蓋御宿願賽也。

千早振。平野乃松乃。枝之介美。千代毛八千代毛。色波加波良之 私拾遺和歌集賀

扶桑略記云。花山院。寛和元年四月十月甲申。平野祭。左大臣參仕座。始自今年。被奉舞人走馬。左衛門權佐藤原朝臣惟成爲使。有宣命。江次第六第 平野臨時祭使儀。宣命云。天皇我詔旨止。掛畏支平野乃大神乃廣前爾 云云 宇都乃御幣遠。官位姓名遠差使天。令捧持天。東遊走馬遠。調備天奉出給布良久遠 云云 朝野群載同之 又日平野祭條下云。先今木。次久度。次古關。次相殿比賣。其四前立舞殿。卜部二人執賢木前行。至社門外左右相分跪執食薦入敷神殿前。膳部入而立机廻。炊女四人各執薦敷舞殿。膳部十六人立机。云云内侍參進可供之。云云又云。承平四年十一月十一日。内侍有障不參。以女使[1]爲代官。命婦敦子。云云今案男使女使ノコト江次第等ニ見エタリ。

一條院御時ハジメテ松尾ノ行幸侍ケルニウタフベキ歌ツカウマツリケルニ　源兼澄

千早振。松乃尾山乃。影見禮婆。今日曾千歳乃。初奈利介留 私後拾遺和歌集

扶桑略記云。一條院。寛弘元年閏九月十二日甲子。有行幸點地。依可行幸松尾。平野北野也。同十月十四日甲午。天皇行幸松尾社 私云先此ヨリ或ハ死亡甚多。風損間有。而又書スルコト大有年二度 同七年閏二月九日己未。於八省院奉幣廿一社。依祈年穀也。又被申明年當三合厄前後年有閏月。有御愼由。神祇官陰陽寮所申也。仍伊。石。賀。松。平。稻。春。原。住。祇。北。[2]十二社別被副進神寶東遊 云云 依此文。兼澄詠歌與十二社東遊別乎。可尋。

[3]後三條院御時ハシメテ日吉社ニ行幸侍ケルニ。東遊ニウタフベキ歌オホセゴトニテヨミ侍リケル　大貳實政 日野家也

安支良介支。日吉乃御神。君加太女。山乃加比有留。萬代也將經 私同

1 崇神天皇六年以天照大神託豐鍬入姫命。是齋宮ノ初也。清和天皇貞觀八年替賀茂齋内親王被進時子女王。自是先有齋院歟。然是初見。同貞觀十五年六月春日大神被進齋女。今按、女使准此等歟。

2 十二社 東遊可尋。

3 繼世續。ツカサ召。コノツギノ御門後三條院ニゾオハシマシヽ。大貳實政ハ東宮ノ御時ノ學士ニテ侍リシヲ時ナクオハシマセバ。カマヘテマイリヨラヌコトニナラントオモヒケルニ。サスガインタハシクテ。甲斐守ニ侍リケレバ。カノ國ヨリノボリテ。マイルマジキ心ガマヘシケルニ。クダリケルニ。餞セサセタマフトテ。州民縱發甘棠詠。莫忘多年風月遊トツクラセタマヘリケルトナム。エワスレマイラセザリケル云云。

扶桑略記云。後三條院。延久三年十月廿九日庚辰。行幸日吉。同四年三月廿六日丙午。行幸稻荷祇園。此二社幷日吉行幸此時始之。云云榮花物語卷シツエ內侍三ニハ。トテ比ノ御願トシ。祇園ヒエナトニ。行幸アリ。云云

オナジ御時。祇園ニ行幸侍ケルニ。東遊ニウタフベキ歌。メシ侍ケレバヨメル

藤原　經衡

千早振。神乃薗奈留。姬小松。萬代不倍支。波之女奈里介利私同

世中サハガシク侍ケル時。[1]サトノ刀禰宣旨ニテマツリツカウマツルベキ。歌フタツナム。イルベキトイヒケレバ。ヨミ侍ケル

藤原　長能

白妙乃。止與幣乎。止利毛知天。以波比曾初留。牟良左支乃野爾私
今與利波。安良不留心。末之萬須名。波奈乃美也古爾。社左太女川

コノ歌。或人云。世中サハガシウ侍ケレバ。船岡ノ北ニ。今宮トイフ神ヲイハヒテ。オホヤケモ神馬奉リタマフトナム。イヒツタヘタル 後拾遺神祇

以上以八雲御抄目錄次之

扶桑略記云。一條院正曆五年六月廿七日。爲疫神修御靈會。木工寮修理職造神輿二基。安置北野[2]船岡山。令行仁王經之講說。城中之人。招伶人奏音樂。都人士女。賫持幣帛不知幾千萬人。禮了送難波海。此非朝議起自巷說。一條長保三年五月九日庚辰。於紫野祭疫神。號御靈會。依天下疫疾也。是日以前神殿三宇。瑞垣等。木工寮修理職所造也。又御輿。內匠寮造之。京中上下多以集會。此社號之今宮。寬弘五年五月九日戊辰。紫野御

[1] サトノ刀禰

[2] 百錬抄云、三條院長和元年二月八日、設樂神自鎮西上洛。今日著船岳紫野。今按、設樂、今シダラトヨム姓氏アリ、樋口氏又案、シラキトヨムベキ歟。

饗會。諸司諸衛調ニ神供。東遊。走馬十行等ニ參向云云

今宮夜ー須ー禮章曲

百錬抄云。近衛院。久壽元年四月。近日京中兒女備ニ風流ー調ニ鼓笛ー參ニ紫野社ー。世號ニ之夜須禮ー。有ニ敕禁止ー云云今按。此章曲者世以下稱ニ寂蓮法師之眞蹟ー者上所ニ書寫ー也。本書者。雖ニ書ニ假名ー今爲ニ片假名ー。序段蠧蝕且殘待ニ後知者ー耳

ハナヤサ
〇〇〇キタル〇ヤ乎　ヤ[1]スラヤ〇〇〇イハナヤ乎
ハナヤサキタ
〇〇〇〇〇〇ルヤ　ヤスライハナヤ
ハナヤサキタルヤ　ヤスライハナヤ

急

ヤトミクサノハナヤ　ヤスライハナヤ
ヤ[2]トミヲセバナマヘ　ヤスライ花ヤ
ヤトミヲセバミクラノ山ニ　同
ヤアマルマデナマヘ　同
ヤアマルマデイノチヲコハヾ　同
ヤチヨノチヨソヘヤ　同
ヤコノトノヲナマヘ　同

1 ヤスラハ、安穩ノ意乎。見ニ于東舞章曲一。

2 千載雜下。物名ニキノヤタテ（イ：ニ）。源俊頼朝臣ミクラ山眞木ノ屋タテヽスム民ハ年ヲツムトモ朽（イ：タコ）ジトゾ思。類字、ミクラ山ヲ山城ノウチトス。今按、トミヲセバミクラノ山ニアマルマデ倉ヲコハヾ千代ノ千代ソヘ。又コノトノヲナ子ノセキトイハシメテ千代フル神ノミヨトノニセム。トイヘル二首ノ歌歟。

ヤコノトノチナ子ノセキト（六字ノ内衍文）　同
ヤイハシメテナマヘ　同
ヤイハシメテチヨフル神ノ　同
ヤミヨトノニセムヤ　同
ヤサケナヘコナヘ　ヤトルマロモヤスラ
ヤサケナヘコナヘ　ヤヒクマロモヤスラ

返

ヤサカコオタヒニ　トリタツナリ　ヤタトリタツナリ　ヤコヨヒニキテ　ヨヒニキテ　子ナマジカバ　ヤトリタヽマジ　ヤタトリタヽマジ　ヤイマアリソハデ　子ナマジモノチ　イマオモイデヽ　アナヽシタラコヒシ

（シタラ、内宮年中行事、又云志太良八手ヲ撃事也云云）

天延三年六月十五日丙辰。公家自今年於感神院被奉走馬勅樂東遊。依去々年炮瘡事也。上卿不參。參議源惟正卿參人行事。右近少將藤原理兼爲使。左右御馬各五匹。左右近衛官人已下供奉。東遊歌云

神加代乃。八坂乃里止今日與利曾。君加千年止。計始牟留（チハヤフルコヲハ）（已上六事根源）

走馬音樂每年可被奉。東遊今年計也（年中行事秘抄）

扶桑略記云。圓融院。天延三年六月十五日丙辰。初公家自今年被奉走馬幷勅樂東遊御幣等於感神院。是則去年秋。依炮瘡御惱有此御願。今被賽也。是日也。太政大臣參向感神院。公卿上官供奉。中宮職奉幣。同社有東遊等。

使亮從四位
下藤原季平。

式部大輔資業。伊豫守ニ侍ケル時。カノ國ノ三嶋明神ニ、東遊シテ、タテマツリケルヲヨメル

能因 法師

有度濱爾。天乃羽古呂毛。牟加之支天。不利介牟袖也。介不乃波不利古 私後拾遺神祇

此歌スルガ舞トテ、アヅマアソビニスルヨシ、顯昭ノ說。上ニ已ニシルセリ。

建暦元十一月四日。住吉經國來談之次。當社東遊歌可詠進由同來云。付之事重示之。仍詠之。

住吉社東遊和歌

從三位行侍從藤原ノ朝臣

住吉乃。松加根安良不。之幾奈三仁。以乃留三加計波。知與毛加波良之 私明月記

續後拾遺神祇此歌詞書云。住吉社ニ、ウタフベキ求子ノ歌トテ、神主經國ヨマセ侍ケルニ。前中納言定家云云。拾遺愚草神祇云。住吉并依羅社ニ求子ノ歌ヨミテタテマツルベキヨシ、祠官申シカバ、タテマツリシ。トテ右ノ歌ヲ書テ次

君加代波。與佐美乃杜乃。止古止波仁。松止杉止也。知多比左加江牟

此歌事。上已記畢。

風雅神祇、加茂遠久、久方ノアマノ岩舟漕ヨセシ神代ノ浦ヤ今ノミ生野夫木三十四神祇中、加茂氏人神山ニテノイハ舟漕ヨセテツナキソメシモワカ君ノタメ天磐舟ノ事神代紀ト萬葉ト兩說也。此舟ノ說ハ異ナリ。賀茂緣起ナドニ見ヘタル事ニヤ、今神代浦トイヘル處モ上鴨ニアリ。

加茂ノ社。午日ウタヒ侍ケル歌

也萬止加毛。海介安良之乃。爾之不可波。以川禮乃浦爾。御船川奈加牟 私新古今和歌集神祇

千種云。コレハ悉皆祓ノ事ヲヨメリ。順風ニ舟ヲイダスゴトクニ、聊モツナグ所モナク。ハラヘテ清淨ナルヨシナリ。

大比叡也。小比叡乃杣爾。宮木比支。以川禮乃禰宜加。祝會女劔

此歌ハ日吉ノ祭ニサキ立テ、午日ノ御ウラノ歌トナム。昔ヨリイヒツタヘタル 續後拾遺和歌集私

1內宮年中行事歌

今所ニ書寫ニ雖ニ禁河書ニ予師。嘗荷ニ祠官恩惠ヲ所寫置也。依レ茲隨ニ師說ニ加ニ傍字ニ又以皇太神宮年中行事所載和歌令ニ校讎ニ畢。倭姬世記云。終夜宴樂舞歌。昔乃巨細大小長短久。國保伎奉。云云 註ニ十二詠在ニ別卷ニ。年中行事記具也。云云

今按。稱ニ十二詠ト鳥名子十二首歟。年中行事記モ亦古來記而今非ニ所レ引書ニ歟

二月一日鍬山伊賀利神事

3阿奈太乃志（穴貴）。氣不乃太乃志佐（今日）。伊仁志戶母（往古）。加久也阿利氣牟（如此有）。氣不乃太乃志佐

六月十五日荒蠣御贄神事

於ニ海路ニ在ニ歌三首ニ一歌云

阿者良岐矢。嶋者七嶋止。萬宇世止毛（中）（雖）。毛奈志加天天波。2 5八嶋奈利氣里

次歌二首

此句未考6

和加矢古久（指）。伊乃千乃保津々乃（命）（帆筒）。瀨美乃宇戶仁（上）。壽乎千載止云。花乃佐伊太留（開而有）

1所名所實、詩持松、二見鄕ニアリ、久志緣明神トテ汀村ノ山ニ有、イカ成神ニカオボツカナシ。是內宮ノ末社ノウタヒ物ニアリ云。詩綺松ト云歌此內ニ見エズ。

2曹子建七啓、林以ニ芳蘂一
△左太沖蜀都賦ニ、雜以ニ少緖藻一、林以ニ蘋藻一。
△司馬長卿子虛上林賦、林、以ニ蘋藻一
△潘安仁射雉賦、稀薄蘂（カツリテツモリノ林）（種芳）

3備馬樂穴貴

4倭姬世記云、倭姬命御船ニ乘給、御膳御贄處定幸ニ行シテ嶋國國崎嶋ニ御饌ノ御饌（止）詔而、湯貴潛女等定給（天）還坐、時淡海浦ニ定給（支）戶嶋、志波崎、佐加太岐嶋定給、伊波戶ニ居給而、朝御氣夕ノ御氣處定（久）○爾海嶋相和而、淡在（介留）故淡海浦（止）號（支）伊波戶居嶋名戶嶋號、彼村處名柴前（支止）號、從レ其以西之海中（爾）在七箇嶋、從レ其以南嶋淡廿（支）其嶋（乎）淡良伎之嶋號支、其嶋淡ノ滿溢浦名（乎）伊氣浦號（支）云。還幸行其御船泊留在（志）處（乎）津長原（止）號（支）云々。

5萬葉第十四 ヒルツキ合而、タヒネガフ云々。杖カテ、文選。

6和加矢ハ所ノ名歟、其處ヲ指出ル舟也、伊乃千一本作ニ伊千ニ。此歌難解。保津々ハ帆筒也。俊頼歌ニ、ホヅヽシメ纜心セヨト詠レタリ。瀨美ハ帆柱ノ上ニテツナヲトホス穴也、千歳止云花アル歟。

和加君乃。於波志萬左牟古止者。左左禮石乃。伊波保止奈利天。古氣乃牟須萬天

同

安婆羅氣耶。嶋波七嶋止申世止毛。氣奈志賀弖天者。八嶋奈利氣里。惠伊耶惠伊耶

我君乃。御濱出乃御座船乃。蟬乃上爾。[2]千代止云鳥。舞曾遊不。惠伊耶惠伊耶

我君乃。命乎乞婆。左左禮石乃。巖止成天。苔乃生萬天。惠伊耶惠伊耶

我君乃。御倉之山爾。鹽乃滿如。富古曾入座。惠伊耶惠伊耶

十五日御占神事　奉ㇾ下ㇾ神共御歌

[3]阿波利矢遊。波須度萬宇佐奴。[4]阿佐久良仁。天津神國津神。於利萬志萬世

阿波里矢遊。波須度萬宇佐奴。安佐久良仁。奈留伊賀津千毛。於里萬志萬世

阿波利矢遊。波須度萬宇佐奴。安佐久良仁。上津大江下津大江毛。摩伊利太萬川

十六日櫻宮神事　玉串大內人舞

大和舞也

作御歌

美也比止乃。佐世留佐加支乎。和禮左志天。與呂津與萬大仁。加奈天阿曾婆牟

十七日神事　鳥名子歌

1 歌枕名寄、阿波羅氣嶋、伊勢、神崎の向ひに、ちいさき嶋々七つあり、是をあはらけといふ、その外に草木も生ぬいはほあり、けなしといへる是なり。あはらけの嶋は七嶋その中にけなしくはへて八嶋なりけり

2 千代止云鳥、鶴歟千鳥乎。

3 阿波利矢、名所歟、遊ハ從也。萬葉多出ツ。ヨリノ切イ二四相通ニテユトナリタルモノナリ種季。アハリヤユ一句、ハストマウサヌ一句、又アハリヤ一句、ユハストマウサヌ一句。以上二句ノ句讀幷義未ㇾ通、下二首同、

4 安佐久良ハ、朝熊山乎。

[1]志太良宇天止。天天加乃太戸波。宇知波牟戸利。奈良比波牟戸里
阿古女乃曾天。也不禮天波牟倍里。於比仁也世牟。多須支仁也世牟。伊左世牟伊左世牟。多[2]
加乃乎仁世牟。

又云

志多良波志利宇知。大津乃濱戸行波。[3]安不毛乃加波女多知古加牟左

又云

志太良波。與禰波也加波婆。左氣久美安氣天毛禮。止美乃津加比曾
伊氣保良禮與。波知須波和禮宇惠牟。波知須加宇[4]戸仁。奈女久良多天良禮與

又云

伊佐太知奈牟。乎[5]志乃加毛止利。美津萬左良婆。止美曾萬左良牟

大和舞　宮司舞時歌

年中行事云。齋内親王御
參宮之間。次第事云云

美奈豆支之。[6]於保與曾古呂毛。比佐津支天。與呂豆與萬天仁。加奈天阿曾婆牟

神主舞時

1 年中行事云、志太良ハ手ヲ打事也。
2 鷺、アシヲ和名鈔。ヲシカハアシノ鷺 日本紀。
3 アフモノカハメタチコカムサハ、樋口氏曰、アフモノカハ逢者(女)起 クチコガ 漕(无)率 イサ 歟。
4 宇戸ハホトリ也。奈女ハ、ナメカク 行ニテ行列也、常陸國行方郡、長秋詠藻仁安元年大嘗會辰日樂、直木村、君カ代ハチエ(ヘ歟)ノナミクラヒマモナクツクリカサネヨマキノ村人 拾遺神樂、高島や水尾の中山杣たてゝつくり重ねよ千世のなみくら 讀人不知。
5 鷺ノ鳧鳥ハ二ノ鳥ノ名ニアラズ、鷺ヲヤガテ鳧ト云ナリ。催馬樂ニモ此詞アリ。
6 於保與曾衣、古語拾遺歌詞也。

美也比止乃。佐世留佐加支乎。和禮佐志天。與呂豆與萬天仁。加奈天安曾婆牟

祭使舞時

寮官舞時

1大宮乃。戸影仁集。沖乃鳥。曾禮乎美天。曾良乃阿良多加。止比加介留女利

於保美也乃。知支仁於比太留。也萬加佐支。2與呂川乎知與仁。川加戸萬川良牟

3鳥名子歌　十二首

第一

阿女奈留也。也加利加奈加奈留也。和禮比止乃古。佐安禮止毛也。也加利加奈加奈留也。和禮比止乃古

第二

美知乃戸乃。古太知婆奈乎。4不佐乎利毛川波。多加古奈留良牟

第三

5止保多不美。美奈佐乃也萬乃。志比加衣太乎。不佐乎利毛天。波井萬呂毛止留

第四

6伊與與止曾伊不。支美加與波。知與止曾伊不。知與止曾伊不。牟良左支乃。於比克太禮天。

1旋頭歌也。大宮ハ日神御正殿也。倭姫世記云、隨二太神之教一、國々處々仁大宮處乎求給倍利云々。

2與呂川乎ハ萬代也、乎ト與ト通。

3元々集第七云、或書曰、人長者猿女君祖、天鈿女命也。依二高貴尊敕命一、負二(蟲損)天氣宇一、卽時八百萬神等集會坐、故手ニ持レ物名ニ之沖一(古語婆婆羅)御笛神善龍王採二天香山金竹一、其空節間雕二風穴一、通二和氣一、抗二安樂聲一矣。御歌神、木聲曲天兒屋根命、末音曲太玉命、御琴神金鷄命、長白羽命、用二天香弓六張一、叩レ絃、今世號二鳥名子一、則金雞長鳴義也。神宮雜事記第二云、長曆二年九月云々鳥名子男女十六人青摺衣裳可レ着云云。

4不佐ハ總也、多也、萬葉ニアマタアル詞也。

5萬葉第十四。遠江國歌。等保都安不美。伊奈佐保曾江乃、水乎都久思云々。和名抄。遠江國引佐郡、イナサ　ミトイト通。

6伊與與ハ、五百代也、與ト保ト通。於比乎太禮ハ、心解テ歡樂スル也。

以佐也阿曾婆牟

第五

[1]於保美也乃。萬戸乃安良禮須太禮。安良禮安良禮。和加加與戸波曾。川萬毛曾呂不。

第六

於保美也乃。萬倍乃加波乃古止。加波乃奈加佐。伊乃知毛奈加久。止美毛志太末戸

第七

也萬我波仁。須牟也乎志乃米止利。萬[2]之也。古乃與仁奈奈太比。川萬古比也須留

第八

也末我波仁。太天留[3]久呂女須古女。萬佐不久也。與支古仁天。乎止利加介天。以佐也安曾婆牟

第九

美奈美奈支。止[4]利婆加里仁曾安留。安良禮不利。志毛於久與毛。與[5]止毛佐太女須

第十

[6]於保加波也奈幾。波比呂久天多天留。於保加波楊奈支。與支加古仁天。乎止里可介天。伊佐也安曾婆牟

1 安良禮須太禮ハ霰ノ名歟。アラレ〳〵ハ、上ノ詞ヲ返シテ詠フナルベシ。

2 萬之也ハ、汝ヤニテ呼カケタル也、度々鳴ヲ關心ナルベシ。

3 久呂女ハ西行歌ニ見エタリ須古女ハ萬葉第一ナツムスゴ、イヅレモ賤女ノ惣名ナルベシ。第十一ノ歌ニヨレバ、八九十ノ三首ハ千鳥ヲ媒鳥ニテ捕ラント云心ニヤ。

4 鳥ハ千鳥ニテ、鳥計ト云ルニヤ。

5 與止毛ハ、宿モ歟、與ト也ト通。

6 大河楊ニ媒鳥ノ籠ヲカケントモ也。加古ノ加ハ惣文乎。第八ノ歌ニナシ。俗ニ籠ヲカゴト云フ。古クハコトノミヨメリ。

第十一

波末爾伊天天。安曾不知止里名利。安也之奈支。己萬川加宇戸爾。安見那於加禮曾

第十二

太知婆奈加。[2] 毛止爾美知乎不美天。加宇婆志也。和加加與戸婆曾。川末毛曾呂不

已上十二首次第如此。畢之後。アマノオヒアマノオヒ。廿三度申ス

異本云。鳥名子等組手廻々後。各頭一所聚伏。其後起各々手合後退出也。件職掌人。忌火屋殿御琴上退出也。

内宮年中行事云。六月晦日輪越神事。家司。輪ト人形ヲ奉持北ニ向候。于時一座近寄リ人形ヲ取持家司ニ向三度越。ヘ六月乃ナゴシノ祓スル人ハ千年乃イノチ延トコソキク。度別申。云云 今按。奥義抄云。六月。此月ニコトニアツクシテ。コトニ水泉カレツキタルユヱニ。ミヅナシ月トイフ。云云 私云。水泉涸盡スルハ。旱魃ニテ。別ニ天災ノ名ナレハ如何。詩經ニ陽月ヲ。カミナヅキトヨメリ。集註ニ疑無陽ト註セリ。シカレバ。陽月ニ對シタル言葉ニテ。是モ陰月ニテ疑無陰ト云ヘル心ニヤ。差陰少陽ノ月ノカハリハ。子細有ベシ。又水ヲ水底、水上ノ例ニテミナトヨメバ。無ト云字ハ、ミナトヨマスベキ料ニ添字ニテ、元ハ水月トバカリカキケルニヤ。ナゴシハ同書云。ヘサハヘナスアラブル神モ。オシナヘテケフハナゴシノハラヘナリケリ。サハヘナスト云事。[3] 日本紀ニ。天照太神ノ御孫。皇孫命ヲ葦原中津國ノ主トセントオボスニ。カノ國ニ如五月蠅邪神オホカリト云ヘリ。タトヘバ夏ノハヘノチリミダレタルヤウニ。アシキカミノアル也。コレヲハラヘナゴメムトテ。六月祓ハスル也。云云 私云。萬葉ニ。和ノ字ヲナゴムトヨメバ。ナゴシハ。邪神ヲハラヘヤハラグル心也トイヘド。今輪越トカケルニヨレバ。ナトワトカヨヘバ。今ハ

1 千鳥カ云、我ハ濱ニ出テ…安也ハ我也。音通。神代紀アヤシナキ吾君云々。

2 萬葉第二、三萬沙彌、嗟之蘰復路乃、八衢爾。物乎曾念。妹将不相爾

3 今西國ノ人扇ニ鳥ノツキテカラスヲ祭リテ遊ルヲ、サバヘドノ祭ト云フ。

輪ヲ越ル秡ト云心ニヤ。

九月十七日神事　大和舞歌

宮司舞時

奈我豆支乃。之具禮乃安女爾。奴禮天古曾。也萬乃古乃波波。宇良加戸留良女（九月）（時）（雨）（雨）（沾）（山）（未）（變）

十二月十七日神事　大和舞歌

宮司舞時

宇知也萬乃。伊須春乃波良仁。美知多知天。與呂豆與末天耳。加奈傳安曾婆牟（宇治）（五十鈴）（原）（奏）（遊）

十一月中寅日鎮魂事（年中行事秘抄）

（天孫本紀）先代舊事本紀云。宇摩志麻治命。十一月丙子朔。庚寅。初齋ニ瑞寶ー。奉ニ爲帝后ー鎮ニ祭御魂ー祈ニ請壽祚ー。其鎮魂之祭自レ此而始矣。詔ニ宇摩志麻治命ー曰。汝先考饒速日尊自レ天受來天璽瑞寶（十種是也）以レ此爲レ鎮毎レ年仲冬中寅爲レ例有司行レ事永爲ニ鎮祭ー矣。所謂御鎮祭是也。凡厥鎮祭之日。猿女君等主ニ其神樂ー擧ニ其言ー。大謂ニ一二三四五六七八九十ー而神樂歌舞尤緣ニ瑞寶ー蓋謂レ斯歟。

（天神本紀）天神御祖詔授ニ天璽瑞寶十種ー。所レ謂嬴都鏡一ツ。邊都鏡一ツ。八握劔一ツ。生玉一ツ。死反玉一ツ。足玉一ツ（滿（イ））。道反玉一ツ。蛇比禮一ツ。蜂比禮一ツ。品物比禮一ツ（蛇 蚿 鱔（イ））（イク物（イ））。是也。天神御祖教詔曰。若有ニ痛處ー者。令ニ茲十寶ー謂ニ一二三四五六七八九十ー而。布瑠部由良由良止布瑠部。如此爲レ

1 宇良加戸留良ハ、色ノ變ジテ紅葉スルヲ云歟。

2 美知多知天ハ、衆人滿立也

3 秘抄此ノ文有ニ省略ー、今以ニ全文ヲ載ニ于茲ー。

附箋

年中行事秘抄、賢所御神事ノ舊記云。天照大神閉ニ天石戸ヲ一……（十一月鎮魂此由也）于レ時大神詔ヲ吾今隱居——良有レ以也ト

舊事記ウマシマチノ云云庶幾不仕候、とねりの親王も御もちゐ不被遊候、岩戸段ヲ鎮魂ノ根本ト奉存候。右之文ヲ引キ可被遊候ハバト奉存候。種季曰

之者。死人反生矣。是則所謂布瑠之言本矣。所謂御鎭魂祭是其緣也。職員令云。神祇官伯一人。掌ニ鎭魂ー 謂ル鎭ハ安也。謂ニ人ノ陽氣ーヲ曰魂。魂ハ運也。言コヽロハ招ニキ離遊之運魂ー鎭ニム身體之中府ー。ニ故曰ニ鎭魂ー

鎭魂歌

[1] アチメ。一度。オヽヽ三度。アメツタ（チト通）ニ キユラカスハ　サユラカス　カミワカモ　カミユソ（コ乎）ハ　キネニキ
（天地　玲瓏　神）

カウ　キユラナラハ

アチメ。一度オヽヽ。三度 イソノカミ　フルヤシロノ　タチモガト　ネガフソノコニ　ソノタテマツル
（[2]石上　振社　太刀欲得　願其兒　奉）

アチメ。一度オヽヽ三度。サツオ（ヲ乎）ラガ　モタキ（ル乎）ノマユミ　オクヤマニ　ミカリスラシモ　ユミノハズミユ
（[3]薩雄等　持而在木眞弓　奧山　御狩爲　弓筈所見）

アチメ。一度。オヽヽ。三度ノボリマス　トヨヒルラ（メ乎）ガ　ミタマホス　モトハカナホコ　スエハヽホコ
（上座　豐日靈　御魂欲　[4]本金桙　末木桙）

アチメ。一度オヽヽ三度。ミツヤマニ　アリタテル　チカサナ　イマサカエテハ　イツカサカエム
（有立有　今不榮　何時將榮）

アチメ。一度。オヽヽ三度 ワギモコガ　アナシノヤマノ　山ノ山モト（ヒ乎）　ヒトモミルカニ　ミヤマカヅラセヨ
（[5]吾妹子　穴師山　人見　太山縵爲）

タマバコニ　ユフトリシデテ　タマチトラセヨ　ミタマガリ　タ（タ乎）マガリマシヽカミハ　イマゾキマセル
（魂筥　木綿取鎭　魂令取　御魂上　魂上座神　今來座有）

ミタマミニ　イマシヽカミハ　イマゾキマセル　タマバコモチテ　セ（サ乎）リクルミタマ　タマカヘンスナヤ
（御魂見　去座神　今來座　魂筥持　去來御魂　[6]魂復爲也）

次。ヒト。フタ。ア。ヨ。イツ。ム[7]ユ。ナナ。ヤ。コヽノ。タ[8]リ。ヤ。
（見也）

十度讀ㇾ之。毎度中臣玉結也。

今按ニ三代實錄ー云。淸和天皇。貞觀二年秋七月。己酉朔二十七日甲辰。夜偸兒開ニ神祇官西院齋戶神殿ー。盜ニ取ニ所齋戶衣ー。幷主上結御魂緖等ーヲ云。古語拾遺云。凡鎭魂之儀者。天鈿女之遺跡。然則御巫之職。應ㇾ任ニ舊氏ー云。貞觀儀

[1] アチメ。オヽヽ見ニ神樂歌ー。
[2] 萬葉第十六。境部王ノ詠ニ數種物ー歌、虎爾乘、古屋乎超而、靑淵爾、鮫龍取將ㇾ來、劒刀毛我ー
神樂歌、イソノカミフルヤ男ノ太刀モガナクミノヲシデ、宮ヂカヨハム
[3] 神樂歌サツテヽガモタセノマ弓オク山ニミカリスラシモ弓ノハズミユ
[4] 種季曰、本ハ金桙末ハ木桙。年中行事秘抄、齋所御事下、舊事記云、……、立ニ廻賢木ー其中伏ㇾ槽、御巫登ニ此槽上ー。以金付木歟合偶……。右木ノ下ニ有ニ桙字ー、以ニ金ヲ付ㇾ木桙ー歟。
[5] 神樂歌篇。ワキモコカアナシノ山ノ山ヒトヽ人モシルヘク山カツラセヨ
[6] タマヘシタマカヘシ 魂復ハ魂歸歟、魂歸ニ冥漠ートニ云リ、今爰ニ復生ヲ奉ル願ヒ處ニハアレド、ス
[7] ナマトハ云カタシ。種季曰雄略天皇九年紀六日ムユ
[8] 依、六日ムユカ。
正種云、太利ハ足ルノ義而、十之古語也、法謂ニ廿遠ー者太利之轉也。

式。鎭魂祭條下云。以安藝木綿二枚實於筥中。進置伯前。御巫覆宇氣槽立其上以桙撞槽。毎十度畢伯結木綿鬘。訖御巫舞。訖次諸御巫猨女舞畢云々。江次第。鎭魂祭條下云。神祇官。雅樂寮。神樂。次御巫衝宇氣。次神祇官一人進結糸於葛筥自一至十。此間女官藏人開御衣筥振動。註云。神琴師彈和琴。衝宇氣。神遊儀也。神代上卷宇氣槽不美止止呂加須義也。以賢木衝槽上也。結糸自一至十。宇麻志麻治命十種。寶振之返死之縁也。

1 □記云、康永卅三年十一月□今日鎭魂祭也、予爲□分□□見□之□古今ノ儀頗以相違云々

2 深山御記云(二條)長寛二年十一月十六日天晴、今日鎭魂祭也。云々神祇官下部、取槽(其體如斗)。横高三四寸弘二(尺一丈)許、今度敷(度)一枚御巫(小宮)結髪着二音(齊カ)闕腋袍(一)。表袴帯紙。以墨畫石形、持來押付、鈴衣、加[illegible](縛カ)御玉緒糸(以葛[illegible]結)中徒(段カ)擂繋之、其中結付白糸也。○授笏數々挿笏取之○次御巫隆進寄件筥ノ前跪、指笏取糸。結也(一結也)此間御巫以桙[illegible]宇氣槽上。

用糸自一至十許之也。次神祇官一人進結糸於葛筥自一至十此間女官藏人開御衣筥振動。畢祇官着座。云々

年中行事。奧書云。本云。永仁之比。伏見被書初之處。自然被閣之畢。嘉暦後醍醐令終寫功者也。外見不可許乎。今按忌火御飯條下云々季御讀經條下云。是日予師光不參行香。云々。野宮宰相定基公仰云。師光者中原師光也。云。予以此事申後三條院。云々三當作二乎

附箋

日本紀神代岩戸章ノ事

○此章稚日女ノ甍御ヲ侍臣禱リ神祇ニ御魂ヲ招キ申サル、ノ祭儀ニテ即鎭魂祭ノ起元ト見え申スヿ

○河内王葬豐前國鏡山之時、手持女王作歌萬葉集第三ニ出

豐國之云々

石戸破云々

○右手持女王ハ岩戸ノ章ヲ甍御ノ事ト御覽ト見え申候。伊弉冊尊石隱坐ト鎭火祭ノ祝詞ニ見え、倭姫命石隱坐ト世紀見え申候。此餘萬葉挽歌ノ中ニ石戸ニ隱ルト申シタル歌アマタ見え申候。今此ニ出申ニ不及事候。

○日本紀岩戸ノ章第一ノ一書ニ稚日女ノ尊云々神退矣ト可併按事ニ候。

○上代ハ人マカリ候ヘバ葬ノ沙汰ハ先ツサシオキ候テ祈禱ヲ致シ擧ゲ哀申タル様ニ萬葉ノ歌ノ中ニ其風俗見え申候事幾首ト申スヿハ無御座アマタ見え申候也。

○常世長鳴鳥ハ哭女ト見ヘ申候。按ニ常世ハ長キト申サンタメノ枕詞ニテ所謂八日八夜長哭ヲ令致サ擧哀事ト存候。此鳥ニ古來用ニタ、ヌ事ノ説ツクレルニテ御座候。雞ト申スモノハ人ノ啼スル時ニ畏マリタルトテ啼モノニテハ無御座候。

△然ラハ鈿女ノゑらぎ、わざをきノ事ハ擧哀ヲ差ヒタルニハ無御座候哉ト申サル、ニテ可有候。

○其嘘樂俳優が取リモ直サズ鎭魂祭ニ候。按ニ鎭魂祭ハ天祖饒速日ニ教ヘ玉ヘル事ハ天神本紀ニ見ヘ候。又神武元年十一月庚寅ノ日ニ饒速日ノ十八世宇摩志麻治命帝后ノ御タメニ鎭魂祭ヲ始メラルノ事天孫本紀ニ見ヘ候。共ニ舊本紀ニ云々ノ事ニ候。然ルヲ舍人ノ王不據舊事紀件ノ二事日本紀ニ載セ玉ハザルモノハ舍人ハ岩戸ノ章ヲ鎭魂祭ト思召候ト存候事。

△二事ヲ日本紀ニ略セラル、事ハサモアルベク候ヘド岩戸ノ事ヲ鎭魂祭トハアタラシキ事ニ候。

○貞觀儀式ニ鎭魂祭儀式以安藝木綿二枚置於宮中進置伯前御巫覆宇氣槽立其上以桙撞槽毎一度畢伯結木綿、訖御巫舞訖。次諸巫猿女舞畢。

此文舊事紀ニハ少シモ不似岩戸ノ前ノ云々日本紀ニ少シモ差ナキト存候。

△日本紀岩戸ノ章ニ似タトハカリハ殘多ク候、然ルヲオトシ付テ岩戸ノ前ノ云々ヲ鎭魂祭トハイカヾ

○古語拾遺ニ云、凡鎭魂之儀。天鈿女命之遺跡。然則御巫之職應任舊氏

此文ハイカ、思召候哉、廣成舊事紀ヲ不用只ウカト日本紀ニ據レルニアラズ、何ノ事モナシニ直ニ鎭魂ノ時ニ御巫カ岩戸ノ云々ヲ歌テ舞フユヘナリ

○鎭魂祭歌々出年中行事祕抄

〽ノホリマス　〽トヨヒルメガ　〽ミタマホス

言心ハ昇麻寸豐日女加御魂欲（此ヨメス）

〽モトハカナホコ　〽スエハ、ホコ

按。本波金桙末波日矛歟

〽ミタマカリ　タマカリマシシカミハ　〽イマゾキマセル

言心ハ御魂上魂上坐神波今既來矣

此外ニ七八首アリ皆〳〵大和ノ事跡ヲウタヘリ。岩戸ノ故事ニアラストハ言ガタシ

△右古語拾遺ノ文ハイツレニ近ク是ニオモハレ候ヘ共、後ノ歌共ハ今按、カタノ〳〵チトウケ取リカタク候。何ニテモシカト岩戸ノ段ハ鎭魂祭ナリトアル證文ヲ見申度候。然ラバ右ノ段々同心可申候尤トハ存候ヘ共今少殘念ニ候

○サテモムツカシキ事ニ候。サラハ匡房ヲ出シ可候

江次第鎭魂祭ノ下ニ

神祇官雅樂寮申　次御巫衝宇氣。次神祇官一人進結ニ絲於葛筥ニ自一至十。此間女官藏人開ニ御衣筥ヲ振動ス。

註云。衝宇氣神遊儀也。神代上祭宇介布禰不美止々呂加須ノ義也云々

此證文ニテモ合點不參候哉。匡房ノ說トテ至テ有識ニハ或ハトラヌ事モ候ヘト。件ノ註ハ下ノ得被申候ト存候

△先段ノ〳〵御尤候。然トモ日本紀ノ正文ニハ天照皇ト御座候。尤一書ノ說ニハ稚日女ト出申候ヘ共此度ノ考ヘニオトシ付ケテ稚日女トハイカヾニ候

○ヨキ事御問被成候申度候ヘ共骨キ問ニテ候ヘバ返答モ無御座候

△貴樣ノ御引キ年中行事ノウタニサヘ豐日女ト有之候。大日女トハ日本紀ニ出申候トコヲカ姬トハ神樂ノ歌ニ出申候。然ルヲ稚日女トオトシ付ラルヽユヘニ候

○其筋カラハイクエニモ合點ノユカヌ事ニ候御工夫被成候

右前々むさと口ニ信セ書付懸御目申候ヲ、御すて不被遊さしおかれ今度見申候て汗顏不少御座候。右ノ事ハ岩戸章ノ難陳ト申ものゝかたみきにいたしおき申候。重而入御覽可申候

兼盛家集

スルガニ富士トイフ所ノ池ニハ、イロノ〳〵ナル玉ナムワクトイフ、ソレニ臨時ノ祭シケル日ヨミテウタハスル

川加不邊枳。加須仁乎止良牟。淺間在。美太良之河波乃。曾古仁和久玉

日吉神道密記云

春日岡　天兒屋禰命、御祭禮日、七社神輿昇ニ置此所一也。結ニ付長柄於本社一而奏レ樂也　伎人笛、和琴、

忩棄出レ之歌云。

君賀爲女日吉乃御神、君我爲咋、憐矣也憐矣也

歌畢後七社ノ神幸ニ春日岡ニ奏ニ神樂一也。此レ神代ノ昔、日神入ニ磐屋ニ之砌、八百萬神等タチ奏ニ神樂一。春日ノ神奏ニ祝詞一者。故ニ春日ノ岡ニテ奏之。樓門ニ出御、此宿ヲ出御之順義也。禰宜正四位下大藏卿行丸敬而撰述

萬葉緯巻第六 終

萬葉緯卷第七 神樂

目錄

萬葉緯卷第七

洛東隱士似閑編輯

神樂

古語拾遺云。其後素戔嗚神。奉爲日神行甚無狀。云云 于時天照大神赫怒。入于天石窟閉磐戸而幽居焉。爾乃六合常闇晝夜不分。群神愁迷手足罔措。凡厥庶事燎燭而辨。高皇産靈神會八十萬神於天八湍河原議奉謝之方。云云 又令天鈿女命以眞辟葛爲鬘。以蘿葛爲手繦。以竹葉飫憩木葉爲手草。手持著鐸之矛而於石窟戸前覆誓槽。古語宇氣布禰 約誓之意 擧庭燎巧作俳優。相與歌舞。云云 于時天照大神中心獨謂。比吾幽居天下悉闇。群神何由如此歌樂。聊開戸而窺之。爰令天手力雄神引啓其扉遷坐新殿。則天兒屋命。太玉命以日御綱 今斯利久迷繩 日影之像也 廻懸其殿。令大宮賣神侍於御前。令豐磐間戸命。櫛磐間戸命二神守衞殿門。當此之時上天初晴衆俱相見面皆明白。伸手歌舞相與稱曰。阿波禮 言天晴也 阿那於茂志呂 古語事之甚切皆稱阿那 言衆面明白也 阿那多能志 言伸手而舞今指樂事謂之多能志此意也 阿那佐夜憩 竹葉之聲也 飫憩 木名也。振其葉之調也 爾乃二神俱請曰。勿復還幸。仍歸罪過於素戔嗚神而科之以千座置戸云云

今按古註以此語爲神樂濫觴。舊事本紀天孫本紀云、猿女君等主其神樂擧其言。云云 伊呂波字類抄云、神樂 加久良 樂音也。本朝事始云、仲哀天皇元年二月。神功皇后選吉日入齋宮、親爲神主、則命武内宿禰令撫琴。喚中臣烏賊津使主爲審神云云 今按此事見日本紀神功皇后卷。上古至書神遊之體皆謂惠羅久。惠笑也。羅久添字也。萬葉第七云。隱蒲者入流儀之草有也見良久少戀良久乃大寸。今俗ヱヘラ笑。又、ケラ〳〵笑。ケラ。ヱラ。通ス。或ハヱク

1 鈔源抄口訣云、神樂者、昔貞觀ノ御時、主宴之日、被奏定神樂、若是清暑堂御神樂歟云々 次ニ朱雀院御時、貞信公攝政之間、被始御神樂云々 後時御前歌、依ノ有其事云云、不被歌、其後信又歌云云 江家次第云、大嘗會ノトキ、清暑堂御神樂、昔ハ未必始終奏之、其歌少々唱之、只事御遊云々 秘事抄云、日本紀竟宴ハ一代ニ一度行ル也、近衛ノ後、御遊ヲ始メントスルトキ、先ツ神樂ヲ歌、一曲ヲ奏スル也、云々、同日、神樂ハ、此朝ノ國始ニテ位ニ居給テ、ハジメタル宴會ニモ、マツ清暑堂ノ御神樂トテコソ、オコナハルレ、神樂ハ、必ズ人ノタシナムベキ事也、 躰源抄三云、長久ノ内裏亡ニソ、ヤケソンゼサセ給タル、坂ヲトリテ、庭燎ニ入タリケリ、ソレヨリ内侍所ノ、御神樂ハ、ハジメテオコナハレケルトカヤ 躰源抄大二異説記、長撥子ノ下云、神樂者、本者平調也、依爲亡國晋後成壹越調、又氣比宮ノ樂用盤渉調

ボ、又、ヱガホ等皆此類也。史家（用雅樂。蓋古昔懐。或樂等文字。以此等義案之、上古ノ由良久即後世神樂歟。）本朝書籍目錄云。神樂譜二卷云云。惜哉不傳于世。今有稱内侍所御神樂式書、皆用眞名假名、而所々有註解。其體似古書。依于茲所篇次隨梁塵愚按所模寫、倣御神樂式註解亦引證用之。而歌下加式字矣。又用梁塵說則記古註。梁塵愚案抄者一條禪閤兼良公之述作也。奥書云。先年綾小路前中納言有俊。令所望之間。愚案之趣書遣之。其後思得事共重加草削。凡以雖不足定信用。暫以此本可爲復證也云云

拾芥抄神樂部云

庭火[1]　宸筆本無之

採物

榊（サカキ）　幣（ミテグラ）　杖（ツヱ）　篠（サヽ）　弓（ユミ）

劔（ツチ）[2]　鉾（ホコ）　杓（ヒシャコ（躰源）片折 ヒサコ 諸擧（梁））　葛（カツラ）　韓神（カラカミ）[2]

大前張（オホサイハリ）　宸筆本。前張。之外不被載之（狹居 躰或）　宮人（ミヤヒト）。由不志天

大宮人（オホミヤヒト）[3]（梁）无（源）同　何爾波形（ナニハカタ）　難（梁）潟（同）　木綿四手（ユフシテ）　志天（梁）　前張（サイハリ）　階香取（シナカトリ）　面白（オモシロ）　梁（无）　井奈野　和支母子　脇（梁）

小前張

薦枕（コモマクラ）　閑野小菅（シツヤノコスケ）　志津夜乃（簾）　宸筆本作志都　志津野（躰）　又小菅ノ二字無　礒等崎（イソラカサキ）　前（簾）　同本無崎字　篠波（サヽナミ）　殖春（ウヱツキ）　槻（梁）　總角（アケマキ）　上巻（簾）　下上（躰）　大宮（オホミヤ）　湊田（ミナトタ）　蛬（キリぎりす）　宸筆 蟋蟀　无（躰）

[1] 躰源云　神樂　庭火（以多近久說付假名差聲）

[2] 躰源抄云、神樂歌本云、韓神取物外也。又號八牧手（ヤヒラテ）

[3] 又葛又宮人　木綿四手、以上三首爲大前張、余无

已下爲雜歌。（躰）

千歳　早歌（徃歌被載之）已上二首宸筆

星歌（宸筆本歌字無之。晝目。弓立ツ（躰）等加之。彼是七首被載之）（梁）无

吉吉利利（宸筆本一ノ利無）　得錢子ゼニ（躰）　木綿作

二以下无

雜歌（宸筆本小前張之次ニ被載之千歳早歌之外無之）

晝目[1]（宸筆本木綿作ノ下ニ被載之）　湯立（宸筆弓立）　竈殿（同本無之）歌（梁）　酒殿（同）歌（梁）　神樂（同）（梁）无　朝藏（アサクラ闇宸筆同本星歌ニ被載之）淺闇（簾）　其駒（同）

今按、梁塵抄杦次有片折。諸擧。又階香取、次脱面白。酒殿次脱神擧。與諸擧同歌歟。有職之人可尋之。惣拾芥梁塵簾[2]中抄等有異同。記之如上

庭燎[3]

古語拾遺庭燎文。上已註訖。續日本紀。聖武天皇。天平三年春正月庚戌朔乙亥。神祇官奏庭火御竈四時祭祀。永爲常例。云云　詩形弓云。夜如何。其夜未央。庭燎之光。君子至止。鸞聲將將。禮記月令云。季冬命四監收秩薪柴以共郊廟及百祀之薪燎。又郊特牲第十一云。庭燎之百由齊桓公始也。集註云。庭燎者庭中設炬火以照來朝之臣夜入者。大戴禮言。天子百燎云云　今按。倭漢設庭燎之意別也。神代紀磐戸段云。火處燒覆槽置顯神明之憑談。私記曰、此時日神深隱天下常暗。擧燭行事。謂之火處燒也。此火者八處燒之。不言火燒。殊加處燒者將明其有八處耳。覆槽置。覆置槽舟登立其上令之踏響有聲也。天書第二曰。使天鈿女爲師主。頭著蘿蔓身著手繦足踏覆槽在於窟前。顯神明之

1 躰源、晝目、湯立、竈殿、酒殿、神樂、无、其駒、右神樂之目録者、北院御室御撰、絲管抄被載之云云

2 簾中抄神樂歌、中此外有鷄鳴可尋

3 御神樂式云、庭燎神代始ニ天兒屋根命ニ又千ニ庭燎末歌ニ註云、神代始ニ天太玉命ニ云云躰源抄云、仏諸云、神樂ハ近衛舍人ノシワザ也、今ニ其中ニ多氏ノモノ昔ヨリコトニ傳ヘ歌フ今ニ不絶。又日顯仲云、又云上代ハ神樂無調ナリ。而近來都テ以一越調爲之、我世ニ相傳事是也云々續教訓抄第十一上長笛ヲモテ神樂ニハ付ナリ。平調律音ニフク、昔ハ盤渉調ニテ吹ナリ、横笛ニハ一越調ニ合ナリ、庭火別閑ハカリニテ吹、サラテハ皆歌ニ付テ吹ナリ、但皆習ノ手アリ云々

馮談、諸神欲下令二日神一深見中奇物上。故俳優萬態不レ可二殫記一。云云神[1]樂[2]并庭燎起源具二于茲一。雲岡抄御神樂之庭燎都テ十八筒處。似下與二私記說一同上。江次第內侍所御神樂事云。綾綺殿額間西砌立二鐵輪一燒二庭燎一云々

古今大歌所神アソビノ歌[3]
深山爾波。霰降羅志。外山奈留。正木乃加豆羅。色豆幾爾介里 式上句

阿知女作法

古註アチメノ作法慥ナル所見ナシ、但ウスメヲアチメト云ルニヤ、アトウト五音相通セリ、天鈿女神ノ、岩戸ノ前ニシテ、俳優ノタハフレヲナシ給ヘルヲ、今ノ世ニアチメノ作法ト名付侍ルヘシ。於ゝ於ゝハ笑聲也。日本紀ニ、ア、ト笑聲ヲ云リ、アトオト五音相通セリ、於介ハ天鈿女ノタグサニシテフルイ侍ル木ノ名也、但又歌ノフシ歟。

本

阿知女　於[4]於於於 式

末

阿知女　於於於於 式

於介[5]

採物歌[6] 私云、此ハツノ採物ハ神世ニ由緒アリテ國ノ爲人ノ爲身ノ爲トモナレルモノナレバ、神ニ奉レルナリ、神代紀式ノ祝詞等ニクハシク見エタリ

榊 神代紀云 古事記 舊事記

---

1 古事記云。於二天之石屋戸一伏二汙氣一而蹈登杼呂許志、云々

體源抄六、凡神樂ノ人長ニハ、甚深ノ作法アル也。[illegible]記ニ見エタリ。庭燎ノ諸歌ハ唱所ノアル也。人長ノ詞ニ着テ歌フ也。モロウタツカマツレトイフ也。又一首ナガラ歌終ル事アリ、是モ人長ノ詞ニシタガフ也。此作法今世ニ知人マレ也。

附箋 著聞集第六、鳥羽院、八幡御幸有テ、御神樂オコナハレケルニ、ミツカラ御笛ヲフカセ給ケリ、本拍子[illegible]大李左衞、[illegible]ニテトリ[illegible]ケリ、末拍子[illegible]賢[illegible]ノ殿上人ニテトラレケリ。備[illegible]前[illegible]季兼[illegible]臣、庭火ノ本歌ヲトナヘケルニ、[illegible]兼弘人長ニテモロ聲ヲイ傳ストテ、外山ナルトウタ時、何ケルニモ、末ノ句ヲウタハデ、季兼朝臣志里一起ニケリ。其說ヲシラスニコソト、リ。ノ人イヒケリ。歸ノフリニ、世末ノ句ヲウタハザルハ、故實ニテ侍ルトナム。季兼朝臣、歸洛シケルニ作リ道ニテ、ウシロノ方ヨリ驅來ル者アリケリ。見カヘリタレバ、多近方也、驅付テイヒケルハ、アナカシコ、此事陣シ給フナ、タヾシラサルヨシニテオハシマスベシ、陣ジ結ハヾ、秘說アラハレヌベシトゾイヒケル、笛方カシラサリケレハ、笛弘ハシラヌハコトワリ、拍子トリテ出タツ時、人長輪ヲ冠ニカケテヒキトヽムルトカヤ、是秘說ニテ侍リ

2 神代卷六。掘二天香山之五百箇眞坂樹一而上枝懸二八坂瓊之五百箇御統一中枝懸二八咫鏡一下枝懸二靑和幣白和幣一相與致二其祈禱一焉云云

3 體源抄第十一、見山ニハアラレフルラシ是ハ庭火ノ歌也、然ルニ此歌ノ末ハ、モロ歌トテル秘事也。

4 御神樂式云於於御先聲也。雄々雄々云々、口決、古事記神武卷、亞々（音引）志夜胡志夜、此者伊基能布督（此五字以レ音）阿々（音引）志夜胡志夜、此者嘲咲者也。

5 古語拾遺云、飫憩木ノ名也、振二其葉一之調也

6 古註云、トリ物ハ榊以下ミナ手ニトル物也。

本

拾遺 榊葉乃。香乎加俱波志美。覓來禮波。八十氏人曾（大宮（或本、拾））。滿登爲世利介留（圓居（顯昭陳狀））式

末 古今

古今 神籬乃。御室濃山乃。榊葉畔。神乃御前爾。繁逢仁介里 式

本 或説

拾遺 榊葉爾。由布止理志天（木綿取鎭（萬葉）而）[3]。多我世爾加。神乃御室爾（マヘ（已上拾）とイ）（萎（大））。祝比曾女介牟

末

古今 霜八度。於介止[4]毛加禮奴。榊葉乃。多知左加由倍支。神乃幾禰加毛

[5]祈 ネギコト（日本紀）

幣 神代紀 古語拾遺

本

拾遺 幣波。我爾波安良須。天爾萬須。豐遠加姫乃[6]。美也乃美天具良（神（或））

末

拾遺 幣爾。奈良萬志物乎。皇[7]神乃。御手爾止良禮天。奈豆左波留倍幾（梁）（大同）

杖 神代紀云 倭姫世記云

本

1 萬葉第十、香細寸花橘乎玉貫將送妹者三禮而毛有香 式、香乎ノ乎作レ於、依ニ假名違ニ改正、下倣レ之。滿登比可レ作ニ滿登居ニ。古註云、マトヒハアソブ夏也、神遊ヒスルヲ云ヘシ、證本井ニ後拾遺皆マトヒニ作ル、非也。

2 御室ハ神社也、萬葉集ニ多クヨメリ

3 古事記訓レ垂云ニ志殿ー 西行歌カシコマルシデニナミダノカヽルカナ

4 古今集並ニ梁塵オケドカレセス

5 種季曰 勞世紀ノ讀也。精禱ノ貌ヲネギラヒ見タルニヤ、拜スルヲバヲレカヾムト云 一説ネギハネガヒノ轉語也トモ

6 古註、トヨヲカ姫トハ大ヒルメノ尊ヲ申、天照太神ノ御名也。

7 古註、皇神是モ天照大神ノ御事ヲ申ヘシ、ナツサハルハ馴レムツル、心也 拾遺結句ナヅサハマシヲ

此杖波。伊豆古乃杖曾。天爾萬須。豐遠加姬乃。美也濃川惠奈里

末

拾遺
相坂乎。今朝越久禮波。山人乃。千年川氣止天。支禮留杖奈里

本　或説

續後撰
足引乃。山乎左加志美。木綿川久留。榊乃衣太乎。杖爾幾里川津

末

皇神乃。美也萬乃杖爾。山人乃。千年乎伊乃里。支禮留御杖曾

篠　古語拾遺

本

此篠波。以豆古乃左左曾。舍人等我。古志爾左加禮留。鞆岡乃篠

末

新勅
篠分波。袖古曾也禮女。登禰川乃。石波布牟止毛。伊佐河原與里（ヌレメニテ有ヌベクヤ（長流））

本　或説

篠乃葉爾。雪布理川毛留。冬乃夜爾。豐乃安曾比乎。須留我手伸左

末

1 或曰、山人ハ仙也

2 古今僧正遍昭
ちはやふる神のきりけんつくからにちとせのさかもこえぬへらなり

3 中務集、夏山ノシケリヲワケテナク鹿ヲイカテトモノヽヒトタツヌラム
和名鈔。山城國乙訓郡鞆岡（度毛乎賀）清少納言ニ云、ヲカハ、トモヲカ、サヽノオヒタルガオカシキコト也云々（異説、鞆ハ弓射ル時ノ具ナレバ、舍人等ガ腰ニ著ル故ニ、カクツヽケタリ。日本紀ニ兵衞ヲトネリトヨメリ、
萬葉十四、トネ川ノ川セモミエスタヽ渡波ニアフノスアヘル君カモ（上野利根郡）

4 古註トヨノアソヒハ、豐明也。日本紀ニ宴ト云字ヲトヨノアカリトヨメリ、都テ宴遊ヲイヘリ、手伸之義、見古語拾遺

1 瑞籬乃神、同ニ瑞籬乃久歟—
2 後撰曰、折ツレハ腕ニケガルタテナガラ三代ノ佛ニ花タテマツル、又サヘヲ手草ニトルトイヘハ、若ハカキタガヘタル歟、官説
腕西鑒云、臂骨盡處爲レ腕、合俗云宇手久比、古人或以爲レ手、神樂歌ニ云、ミヅカキノ神ノ御代ヨリ……種李
3 古註、天鈿女命ノ、竹ノ葉ヲ手草ニスルヨシ見エ、作レハ、竹ノ葉サヽ、同事也
4 萬葉第二、梓弓引ハマニ〳〵ヨラメトモノチノ心ヲシリ勝ヌカモ
同十二、今サラニナニヲカ思ハム梓弓引ミユルベミヨリニシモノヲ
5 薩天ハ幸父ナリ、薩摩モ幸彦達ノスミ玉フ國ナレハ名付ケタルニテシルベシ、ミカリハ萬葉ニミ袖トヨメルニナソラヘテ知ルベシ。ミルハ、イニシヘハ、貴賤ニワタリテ云ル詞也、ミ袖ノ類是也 師説
萬葉第十、佐豆人之弓月我高爾
同第五、佐都由美乎多爾伎利持而
古註、四方山ハコヽニハスベテ世界ノ人ヲ云リ

瑞籬乃。神濃御代與里。篠乃葉乎。多布左爾登里天。安曾比爲良志毛（グ歟(師)）

弓 神代紀云

本

新勅 弓止以倍波。品奈支毛乃遠。梓弓。眞弓槻弓。志奈古曾安留良志（リケレイ）（ヒトシナモナシ(新勅)）

末

古今 陸奥乃。安達乃萬由美。和我比加婆。也宇也久與里古。忍比志乃比爾

本 或説

薩天天我（父）。毛多世乃萬由美（持 眞弓）。奥山爾。御獵須良志毛。弓乃筈美由

又本 一説（ヒトノマモリニ）

末 或説

拾遺 四方山乃。萬保里仁多乃牟（ヒトノタカラト）。梓弓（スルユミノ(大)、スルユミヲ）。加美乃多加良爾（ミマヘニ）。今志川留加奈（ケフタテマツル(拾)）

梓弓。波留來留毎爾。皇神乃。豊乃遊比爾。安波牟止曾於毛不

劒 神代紀云

本

拾遺 白加禰乃。目貫乃太刀乎。左介佩天（提）。寧樂乃美也古遠。禰留波誰子曾（錺 歩）

末

（同）石上。古屋男乃。多[1]-知毛我-奈。久-美乃緒志-天-天。宮路加-與-波-牟

本　或説

伊[2]-波-比古-志。神波祭里津。明日與里波。組乃緒鎮而。遊比太刀佩

（末ノ字落タリ）

於[3]-幾-津-支-爾。須-女神多-知乎。以-波-比古志。心波今曾。多-乃-志加里介留

鉾　古代綜

本

此鉾波。何國乃保-古曾。天爾萬-須。豐哀加比賣乃。宮濃保-古奈里。

末

四方山乃。人乃萬-保-里爾。爲-留保-古乎。神乃美前仁。以-波-比川留加奈

杪[4]　式祝詞云

本

（六帖）大原也。清[5]和井乃水乎。杪毛天。（テニクミテ（六）雞）鳥波奈-久止毛。安-曾-比天將行

末

（古今）我門乃。板井乃清水。里止-保-美。人志久-萬-禰波。水草爲爾介里（オヒイ生ナレバオヒ也）（六帖家持）

1 萬集第十六、虎ニノリフルヤヲスキテアヲフチニミツチトリテコムチカラタチモカ　鎮魂祭歌云

2 古註、神ノ祭ハスキツ障アルムナレバタチハキテアソバルト也。

3 古註、オキツキハ、オサメタルツカ、ハ墓ノコトヲ申侍レト、墓ニハ神ノホコラヲオキツキトハイヘル歟。タチノ歌ナレバ、スベカミタチトソ侍レハナリ。オキツキ詞林ヘアルシヤヲトメノ墓ノ采葉……

4 和名鈔云杪。廣韻曰。音酌二（ニ）同。和名比佐古、斟レ水器也

今案杪ハ元瓢ナリ、瓢ヲ以テ古ハ水ヲ汲ムト見エタリ。式ノ祝詞ニモ見エタレハ由緒アル事ニヤ、イヅレノ道ニモ瓢ヨリオコリテ杪ヲヒサゴトヨメルトオボユ

5 私

古註、清和井ハ、山城國大原郡ニアル清水ノ名ナリ。曉ノ鳥ノ鳴比マデモ猶納涼シテアソバムトヨメルナリ

附箋

清和井、櫻井カ、然者唯水ノ細流ヲ以レ板敷、亦草木ナドニテ櫻上テ水ヲ保チテ取用ユルナリ。和ヲカトテ用ユルハワヰウヱオノ音通レバナリ。シカレモ大原ヤト云ル五文字コソコ、ロヘネ。モシ唯大キナル原トイヘルコニヤ。

[1] 古註、片折ト云ハ歌曲ノ節ノ名也、此ノ歌ニトリテ、セカヤセカノ井、板井ヤ板井ハ、第二句ヲカサネテウタフヲ云ヘリ。或人曰、舞ノ手ノ急ニナル時、袖ヲ折ツテ舞フヲ片折ト云

[2] 古註、モロアゲト云モ、歌ノ節也。第一句ヲ略シテ、第二句ヲ三カサネテウタフヲイヘリ。タトヘハ陽関三扁ノ曲ト云テ、王維ガ詩ヲ行人ヲ送ル時、詩ノ句ヲ三度カサネテ謡フ事ノアルニナソラフベシ。

[3] 今案、石井ト云ハ、石ヲタヽミテ井トセルヲ云ヒ、板井トハ板ヲ並ヘテ井トセルヲ云ヒ、筒井トイヘルハ板モナクテ筒ノ如クニスクニホリテ井トセルヲ云ナリ。今モサノコトクセルヲ筒井ト云、沙マジリ又ハ柔ラカ成土ニテハホラレス、赤土ノカタキ土ニテハ、イツ方ニモアル事ナリ

[4] 袖中抄、山カツラノ條下、意ヲトリテ長流云、山カツラトハ穴師ノ山ノ社頭ニテ、神事ノ時、嵐烈シクシテ頭ヲカツラノヤウナル物ニテ巻テ、嵐ヲフセクト有、ソノ姿ヲ移シテ、今モ神樂ノ時山カツラヲ取テ冠ニカケヌルヲ云也。マキモクノ穴師ノ山ト云ヲ、ワキモコガアラシノ山トハウタヒナセル誤ナリ。教長卿云、穴師山ノ木ヲ取テ、神樂ノ庭火ニモ燒、諸社ノ祭ニモ參ル、主殿寮ノサタ也。柴取人ハカツラユフト云物ヲ、額ヨリ、後へヒキマワシテユヘル也。コレハ神事ヲウヤマヒカシコマル也。袖中抄云。ミルカネトハ、ミルヘクト云同詞也。古註、萬葉集二、卷向ト書テマキモコトヨメリ。然レバワキモコハ只マキモコト同ジカルベシ。萬葉第七、卷向ノアナシノ川ヲ行水ノタユルコトナク又カヘリミム。人麿。第十二、マキモクノアナシノ山ニ雲ヰツヽ雨ハフレドモヌレツヽゾクル。

[5] 神代紀、以二天香山之眞坂樹一爲レ鬘、以レ蘿爲二手繦一（續次頁上欄）

片折[1]

本

大原也。清和井也。世加井乃水乎。抄持天。鳥波鳴止毛。安曾比天久萬牟（大同）

末

我門乃。板井也。以多井乃清水。里遠美。人之久萬禰波。水草爲爾介里

諸擧[2] 本

清和井也世加爲（ヤ(イ)）（大同）。世加爲乃水乎。比左古毛天。鳥波奈久止毛。遊比天由加牟

末

板井也伊太爲（ヤイ）（大同）。伊太爲乃清水。里遠美。人志不レ汲婆。美草居爾介里

葛

本

六帖 古今 和支毛古加（マキモクノ）（古袖中同）。穴師乃山乃（(古)アラシ(袖中)）[4]。山人止。比登毛志留倍久（ミルカニ）（古袖中同）。山加豆良世與

末

古今 深山爾波。霰不留良志。外山奈留。正木乃加豆羅。色豆支爾氣里

韓神[1]

本

三嶋[2]木綿。肩仁取掛。我韓神乃。加[3]羅遠幾世牟彌。加良遠幾 式

八平手乎。手仁取持天。我韓神乃。加羅遠幾世牟彌。加羅遠幾 式（二字式脫）

八平手ハ神供献進具（式）古註、八ヒラテハ、八枚ノ平盤也、柏ノ葉ニテサシテ、神供ヲモル物也。

末

式早韓神 體源大神景通家日記云、早韓神間人長乙[4]カナツ、云々。

肩仁取掛。我韓神乃。加羅於幾世牟彌。加羅於既。手爾取持天。我韓神乃。加良飫來世牟也。加罗於木。加罗於木世武彌。 式

本 或說

和加介禮婆。風姿毛志羅須。父我加多。母我加多止毛。神曾志留羅牟

續日本紀、天平神護元年十一月、大甞會詔曰必人方父我可母我可多能親在天成物仁在云々

末

皆人乃。志天波左加由留。於[6]保奈保美。以左和加止毛仁。神左加毛止仁（四手　榮　大　直（長）　坂　木（長））

古註、サカモトハ坂本也。神ノマシマス所ヲイヘリ。

古語拾遺、以二眞辟葛一爲レ鬘、以二蘿葛一爲二手繦一

袖中抄云、日本紀ニ古語拾遺相違シ侍リ、サカキトマサキトハ其ツカヒヘルニヤ、眞木ヲトカツラニセン事、イカヤウナルベキニヤ、枝葉ヲ手ニカサスベキニヤ、久晋樂譜ニハ取物ノ中ニ葛ノ歌アリ、木ニハマキモクノ歌カケリ云々。但八幡御神樂ニハ取物九ヲ皆持テ舞リテ、別ニ葛ヲウタフトナン申ス、又ヒカゲニテ鬘ヲユフトモイヘリ

附錄 マサキノカヅラハ、前諸薛荔ヲ云ヘリ。（本マヽ）、、八木諸ノ異名ノニテ、木綿其類ニハ、タレハ是キラム歟。此ニ云ナキカナレト尾張國風土記ニ丹羽郡吉儀郷ハ時、建岡君到ニ美濃國花鹿山一攀ニ賢樹枝一造レ縵云々、日本紀ノ賢木抜樹爲レ縵モノ不レ見レ依トセム歟　猶可考

御[1]神樂式云、韓神之事、素盞嗚尊ノ子也、有ニ宮其所安泰之神、故於宮中祭之。一說漢神謂之韓神、可レ作ニ於延喜式名帳也、下皆傚レ之。體源抄第一上七子漢韓神譜アリ、今略之。國年奈譜亦韓神譜アリ。古事記五日（虫損）韓神社者、木自大内裏一南遷都之時、遣宮之使、可移ニ他所ニ云云、于時託宣云、中此處一不レ護ニ帝都一云猶云仍坐宮内省一云云

長[2]流云、ミシマユフハ伊豆ノ國ミシマヨリ出ル木棉也。又やひら手ハ八牧手ノ柏ノ葉ニ、神供ヲモルモノナリ。

御[3]神樂式云、加良於幾、座置也云々。體源抄云、私云、カラ荻ハカレタル荻ヲ云ニヤ、清暑堂御神樂試樂、執柄家ニテ行ハル、時、人長カレタル荻ノ枝ヲ持事アリ。是秘事ナリ。執柄家、清暑堂大内裏豐樂院ニアルナリ。

同[4]云。恒方云ク、カナデハ歌ゴトニ有レ之、而ニ近代ハ不レ舞レ之也。只上拍子ハ韓神ト其駒トニカナヅルナリ。歌ノ心ヲ舞也。星ニハ仰テ月ヲミルヤウヲマナブナリ。是今夜ノ月モ只コヽニマシマストイフ詞ヲ作アナリ、今世モ度々折テ、興アラン時ハ必ス乙ツヘキ也。

是[5]舞ヒハ叶作樂心之文。袖中抄、ミヤヒノ下ニ云或人云、神樂ノ大直日ノ歌云、ワカケレバ――神ゾシルラム、此歌ノ心ハワカケレバ、其振モシラズ、父方母方ト神ハシルト有ニヤ、サレハ（ミヤヒハ）振舞ト覺タリ、カヤウノ詞ハカヨハシテ用也、ヤサシトモキコユ、神樂モ同詞トキコユ云々今按、梁塵、ワカアレバ、神ハニ作ル、袖中ニヨリテ改正スル也。長流ワガアレバ、我生ハト注ス。（續次頁上欄）

6 大直、古今集、大直日ノ歌ナリ。ソレハマガレルヲ直クスルノ心ト見エ侍レバ、コレモ心ヲ直クシテ、イザ我友ト神ノ社ニツカヘントノ心ニヤ

1 神代紀上云
躰源抄第十一、有記云宮人トイフ秘事ヲウタフ事、賀教卿存知己上ニカト、大方キタイノ事也

2 古註、オホヨスカラヲ、オホヨソ衣トウタヒ、イサトホシヲヒサトホシトウタヘルハ、イツレモ五音相通也、歌ノ心ハオホヨソハ九ノ心也。ヒサトホシハ膝ヨリ下マテ、衣ノタケノ長キヲ云。ユキノヨロシモハ、雪ノ夜ニ宜シキト云心也。但キノヨロシモト云詞相違アリ。キノヨロシモハキテヨロシキト云詞歟、又ユキノユ文字ヲ畧シテ、キノヨロシモトウタフニヤ。シリカタシ。

3 長流云、九衣ヒザトヲシハ、ヒザヨリ下マデ衣ノタケノナガキヲ云也。

4 多支田、今案、神領ニテ四手ナドヲ引廻シタル高田トイハムガ如シ、アゲトタキト音通ス、神代紀下、海神教ニ彦火火出見尊ニ曰、兄作ニ高田ニ者汝可レ作ニ洿田ニ云云萬葉第二、タケバヌレタカネバ長キイモガ髪此來ミヌニミタレツラムカ、是ハ髪ヲアグレバヌレヌレトミエ、アゲネバ長クミユルト、ホメテヨメリ、照シ合セテ見ルヘシ、モロホハ二莖也、是ナイフナシハ、田ヲホメテ云ヘキコトノナシト也。

種季曰
西峰定本神代紀高田讀タカダ云々。多支ハ多加歟、又カイノ切カキノ切ニテタカキ田歟。

大前張

宮人[1] 古語拾遺、美夜比登能、於保與須我良爾、伊佐登保志、由岐能與呂志茂、於保與須我良爾。今俗歌云。美夜比登能、於保與曾許呂茂、[2]比佐止保志、由伎乃與保志茂、於保與曾許呂茂、詞之轉也。註解在二第十卷一。

本

宮人乃。於保與曾許侶茂。比佐止保志

末

比佐止保志。雪乃夜侶志茂。（大同）（キノヨロシキモ（長））於保與曾許侶茂

木綿志天

本

由布四手乃。（木綿）神乃多支[4]田乃。以奈乃穗乃（稲）

末

以奈乃保乃。毛侶穗仁左禮波。（二莖也（長））（シア反）古禮乎伊布奈志

難波潟

本

（古今）奈仁波我多。鹽美知久禮婆。安萬衣（堊）

末

安萬衣。田蓑乃志萬爾。田鶴奈支和多留

前張[1]

本

左[2]以波理仁。衣波曾女牟。安女布禮度

末

雨雖レ降。宇川呂比我加志。布加久染天波。

階香取

本

志奈加止里也（ル大同）。猪名野湊仁。安比曾（拍子ノ詞也　音曲ノ節）。津留船乃（ヘイ　釣）。加[3]知與久萬加世（梶）。加太布久奈。勿レ傾

末

弱[4]草乃也。妹毛乃里多（カ大）理也（ル大）（乘　ライ）。安比曾。我毛乃里多里也（ライ）。船加太布久奈。布禰勿レ傾

井奈野

本

志[5]那加登里也（ル大）。井奈乃布志原（五倍子）。安比曾。止比天來留。鳴我羽音波。面白幾（オト　イ大同）。志支加波於止

1 江家第内侍所御神楽ノ作法ニ、右此八種ノ[illegible]違、可レ尋。

2 萬葉第十、詠レ榛、オモフ子ノ衣ニスラムニホヒセヨ島ノ榛原秋タヽストモ。同第七、寄レ木、白菅ノマノノ榛原心ユモオモハヌ君カコロモニソ摺、同第十四、イカホロノソヒノハリハラ我キヌニツキヨラシメヨヒタヘト思ヘハ、拾遺集、神楽歌、衣ハスラム、サイハリハ榛ノ木ヲホメテ幸榛（サイハリ）ト云歟。以ト幾ト五音通セリ。題ニ前張トカヽレタルハ、スヘテ此神楽ノ名、カリテカケル亊オホケレバ、是モナスラヘテ知ヘシ。榛ノ木ノ初シホニテソムルヲ、云ベシ。師説

3 古註、カヂヨクマカセハ、風ニマカセテ、ヨクトレト云心ニヤ。

4 ワカクサノ、今按、シナカトリノ、歌ノ、返シノヤウニヨメリ、二首ニテ心ヲノヘタリ、萬葉ニ此類多シ。

5 拾遺集神楽、シナガ鳥イナノフシ原トヒワタルシギノハネ音オモシロキ哉。六帖、アサハラニ小夜打フケテ立鴫ノ羽コソシルラメヌルヨハ。猿丸家集、シナカ鳥猪名ノフシ原壽山ナラム時ニヲ宮ハカハラム。

末

[1] 階香鳥也。井奈乃布志原。安比曾。加美左須也。和加世乃君波。以久良加止里介牟。以久羅加

止里介牟

脇母古

本

和幾茂古仁也。一夜波多布禮。安比曾。誤里爾志與里。[2] 止里毛止良禮須。止里。止羅須

末

[3] 然有止毛也。我世乃君波。安比曾。以川川止里。六津止里。奈奈川止里。八川止里。古古乃

夜。十波止里。止乎波止里介牟

小前張

薦枕

本

[4] 古茂萬久羅也。多加瀬乃淀仁也。安比曾。誰贄人曾。志來衝上留。網遠路之。佐傳指上留

末

誰以贄人者。調レ贄而奉レ人事也 式

---

1 長流云、フシ原ハフシト云ハ木ノ生タル原也。カミサスハ髪ニカムザシヲ刺タルム也。今按ニイクラカトリケルトハ、源氏引歌ニ、ヌス人ノイフモコトワリサヨ中ニ君ガコヽロヲトリニキタレハ。此トルト同シ。ワカヨハミソコナヘルナリ。世ノ字ナレバナリ。我背ノ君ナリ。萬葉ニ多キ詞ナリ。男ヲサシテ云リ。

2 古註、トリモトラレズトハ、一夜ネテ、又トモアハヌ心ニヤ、

3 是モ本歌ノ反歌ノヤウニヨメリ。シカリトモハ、然レトモ也。トリトラレストハイヘド、十夜マテハ逢タルト也。

4 六帖、コモ枕高瀬ノ淀ニカルコモノカルトモワレハシラデタノマム、續後撰、コモ枕高瀬ノ淀二 武烈紀、影姫歌云、擧慕摩矩羅、栢筒補志須擬、三代實錄、薦枕、高御産栖日神社、萬葉第七、薦枕相卷之兒毛、六帖、こも枕高瀬のよどにかるこものかるとも われはしらでたのまん

長俊云、人トハ角鳥ナド御ニリナフル人々、鶴トルヲバツクトイヒナラヘリ、鶴圖ハ[illegible]ノ御コトナリ、コモ中ノ[illegible]ノ道[illegible]ノヤウニミメリ、2 花在下、宗[illegible]曰、打ムレテ、カクラ山ニツムモノハアラタナキ代ノトミクサノ花、猪[illegible]實ノ花、ミ山ナルトミ草ノ花ツミニトフユルキノ袖ヲフリデ、ソコシ古詩、富草ハ稻ヲ云也、俊云、九十賀、撰中納言[illegible]、コ、ノソギハヒヲニユヅリ置テ[illegible]ニトミクサノ花 3 [illegible]源抄云、[illegible]等カサキヲウタヒケルニ、[illegible]氏カ人長シテ、鶴ヲモテ[illegible]ツル[illegible]ヲシケル、時ノ人[illegible]美[illegible]代[illegible]、樂人助貞聞此事、其骨ナクシテコレヲマナブ。萬人咲云々 夫木、伊勢島や、いそらが崎の朝きりに、たゝなゝしし小舟こぎなれつゝ、、有房 [illegible]源第十、朱雀院御時貞信公攝政之間、被始御神樂、彼時[illegible]等依御[illegible]不被[illegible]其[illegible]久[illegible]云々 夫木廿二、文德(鶴山)元年大[illegible]、[illegible]中國稻歌、[illegible]二一[illegible]、昔キクノマ、田ノタネナレバ二葛ノミシネハヤソクラゾツク 美志[illegible]ハ御米也。和名鈔、糙(加[illegible]之[illegible])乃古稲之[illegible])之類也[illegible]余師說、[illegible]ノ中[illegible]、[illegible]代[illegible]、ナネノミコト 姉之類[illegible]女仁[illegible]留字也。以ニ女功ニ[illegible]古ハシタシミテイヘル[illegible]也。第一、神功皇后[illegible]ノ[illegible]ニ註セリ、セトマハソヘル[illegible]也。

天爾萬須也。豐遠加姫乃也。安比曾。其贄人曾。志來衝上留。網遠路之。左傳指上留。其以下式

閑野

之川也乃小菅。本 鎌毛天加良婆。生牟也古須介

末

天在。比婆里。與里來也。雲雀。止美。草毛知天

篠等

本

以曾良加左支爾。鯛釣安萬乃。モ(イ大同) 多比津留蜑乃 モ(イ大同)

末

吾妹子加爲止。太比川留蜑乃。モ(イ大同) 鯛釣白水郎乃 モ(イ大同)

篠波

本

篠波屋。志賀乃辛崎也。无イ 美志禰豆久。御米春 遠美奈乃與佐々也。无イ 曾連毋加毋。加連毋加毛。伊登古勢

末

能。滿以止古世爾世牟彌 式

阿志波羅太乃。伊奈豆來加爾能也。於乃連佐部。與女遠江須止天也。佐々介傳波。佐々介也。佐々介弖波。佐々介也。加飛奈介遠寸留也

殖槻

本

三代實錄、淸和天皇貞觀七年四月廿五日乙亥、授二大和國無位田中神從五位下一（式外添下郡也）

殖槻也。田中乃毛里也。毛里也大布。加左乃安左知加波羅爾

末

我。於支天。布太妻止留也。止留奈天布。加左乃朝茅加原仁

總角

本

總角乎。和左田爾也里天也。曾思布止。曾於毛布止。曾思布止。曾於毛布止。曾思布止也

末

其於毛布止。奈仁封世須之天也。春日須羅。波留比寸良。春日須羅。波留比寸良。春日須良。

大宮

本

1 今案、當時モ海岸ノ葦原ナトニ、小サキ蟹ノ、常ノ蟹ヨリハハサミノフトキガ、何方トモナク出テ、一度ニ腕ヲソロヘテハオロシノヘ稻ツクヤウニスレバ稻春蟹ト云ヘリ。サレバヨキコメヲエヌ事ノカヒナキトイヘル夏ヲ蟹ノ腕ヲサヽクルニソヘテヨメリ。式傳波ノ波作レ和、佐倍ノ倍作レ惠。依ニ假名遣違一改正。和名鈔揚氏漢語抄云、（彭其二音、海語抄稻春蟹之類也）兼名苑云。彭蜞（彭越ノ二音揚氏漢語抄云葦原蟹）形似レ蟹而小也。

2 ウエツキハ大和國添下郡也。カサノ淺茅原ニ我ヲオキテ、舊事本紀第三云、曾ツソノチ縫等カ祖天稚本嶋呂、顯宗紀云、倭者彼彼茅原淺茅原云々コレラヲ引合スルニ、淺城縣ヲ立ラレシ笠縫ト同シクシテ、添下郡ニアルニヤ。師說アト後撰夏、里トホキ田中ノ森ノユフヒカケウツリモアヘス日暮ルヽカ、田中ノ森ハ山邊ニアリ。王ハ、早苗ヲトリ田ニウヘテケフノ里人ハ神ノ祭ル也。家

3 總角ハ今ハ使フワラハナリ。早田ヲ治セントテ、ワラハヲ出シヤリツルカ、長キ春日ヲスラ何モセスシテヤ遊ヒヲルランカト心ツカヒスルナリ。萬葉第七、春日スラ田ニ立ツカル君ハカナシツマナキ君カ田ニ立ツカル。師說。

1 大宮乃。知-比-左小舍人。手々仁也。手々仁也。玉奈-良-婆。手々仁也
（知、殿。上章也(長)。ヤ(イ大同)。ラ(イ大同)。テラニヤ、手ニトラハヤノ心ナリ(長流)。ラ(イ大同)）

本

玉奈-羅-婆。比-留波手仁止-里也。夜-留波左-禰天-牟。天仁也。與-留波左-禰天-牟。天仁也
（比、晝。夜、夜。左、寢。ラ大。ラ(大)）

2 湊田

本

湊田仁。鵠也-川遠-里也。止-路-知奈也。止-呂-知奈也。八-川奈-加-良。止-路-知奈也
（也、八。里、居。路、取。奈、術又路）

末

八-川奈-加-羅。物毛-波-須-袁-里也。止-呂-知奈也。止-呂-知奈也。八-津奈-加-良止-呂-知奈也。
（物、物不思居）

蜚

本

3 蟋蟀乃。禰-多-左宇-禮-太-左也。御園生仁。萬-以-里來天。木乃根乎掘喰牟天。袁-左-萬-左。津-乃乎-禮
（禰、妬。宇、慨(神武紀)。萬、参入。袁、歌曲節(梁)。津、角。乎、折(長流)）

奴。袁-左-萬-左

末

禰-多-左宇-禮-多-左也。美-曾-乃-布仁。萬-以-里支天

或說

1 大宮ノチヒサコトネリ玉ナラハヒルハ下ニトリヨルハサネテント云フ歌ナルベシ。禁秘抄云。小舍人六人近代及二十二人一歟、○昔ハ白張裝束也、○小舍人召加藏人下知、有二名謁一歟

2 鵠、野王按、鵠(胡篤反漢語抄云、古布、日本紀私記云久々比)大鳥也、ハツ居ル鵠ヲ取ル術ナキ侭、トラムズルヤウヲ得シラヌヲイヘリ。ハツナガラ物モハズ、リヤトロチナヤトハ、モハズハ物モ思ハズナリ、日本紀、萬葉ナドノ歌ハカヤウニ思フヲ畧シテモフトノミイヘル事多シ。
何ノ心モナク二居ルヲイヘリ。萬葉十三ニ物オモハデ道ユキナムモ、トヨメルモ何心ナクトイヘルナリ。

3 躰源云、少納言入道信西云ク、蟋蟀ハ、物說上中下ノ三說アリ、自二木根一折之爲二下記一也、自二御園生一折之爲二上說一也、鳥羽院御物ノ箭語讀ド自二御園一折說上也。同第十一云、シカサヘヅリトイフ秘事ハキリ〳〵ストイフ歌ノ事也
今案、イヤシキ人ノ、カクシテ貴人ニ近付添リヌレトモ、モトヨリ下賤ノモノナレバ、カヘリテ身モイタヅラニナリヌルコヲキリ〳〵スニナゾラヘテヨメルニヤ。萎ニハ角ハナキモノナレド、娟ヘツラヒテ、人ヲツイヤスヲ、角トハイヘル歟、詩ニモ誰カ云フ、雀ニ角ナシト、何ニヨリテカ我屋ヲウカツ、ト作レリ。

1 古註、シタラハ所ノ名歟、カマウトハ高麗人ナリ。今案シタラカト句ヲ切テ、マウトノト、ヨムベキカ、シタラカハ所名トモ云ヘシ。マウトハ、萬葉ニ臣女トカキテマウトメトヨメルハ、今ハソレナルベシ、古今序ニマクラトイヘルモ、臣等ニテ、マウト等也。榮花物語ニ道長公人ラノリテノ玉ヘル詞ニモマウトタチトノ玉ヘリ。

2 伊勢物語、ヤヨヒノツイタチ、雨ソホフルニヤリケル、オキモセスネモセデヨルヲアカシテハハルノモノトテナカメクラシツ

志(シ)[1]-多(タ)-良(ラ)-加(カ)。萬(マ)〔臣〕-宇(ウ)-止(ト)-乃(ノ)。比(ヒ)〔單〕-止(ト)-戸(ヘ)-乃(ノ)-加(カ)〔狩〕-里(リ)-支(キ)〔衣〕-奴(ヌ)。奈(ナ)〔勿〕-止(ト)〔取〕-禮(レ)〔入〕-里(リ)-曾(ソ)。以(イ)〔最〕-止(ト)〔妬〕-禰(ネ)-多(タ)-之(シ)

末

奈(ナ)-止(ト)-乎(ヲ)〔(イ大)旡〕-禮(レ)-里(リ)-曾(ソ)。古(コ)〔霖〕-左(サ)〔霂（和名古左女）〕-女(メ)-仁(ニ)。曾(ソ)〔沾〕-保(ホ)-奴(ヌ)-良(ラ)-世(セ)。與(ヨ)〔伇〕-加(カ)〔離〕-禮(レ)-須(ス)〔爲〕-留(ル)。以(イ)-止(ト)-以(イ)-止(ト)-禰(ネ)-多(タ)-之(シ)

以上小前張

千歳

本

千(セン)-歳(ザイ)-千(セン)-歳(ザイ)-千(セン)-歳(ザイ)-也(ヤ)。千年乃千歳也(チトセノセンザイヤ)　式

末

萬(マン)-歳(ザイ)-萬(マン)-歳(ザイ)-萬(マン)-歳(ザイ)-也(ヤ)。與(ヨ)〔萬〕-呂(ロ)-川(ツ)-代(ヨ)-乃(ノ)萬歳也(マンザイヤ)　式

早歌

本

伊(イ)〔何〕-豆(ツ)〔處（梁）〕-連(レ)-曾(ソ)-母(モ)〔旡イ〕。止(ト)〔留（梁）〕-宇(ウ)-止(ト)-末(マ)-利(リ)〔ナシイ〕

末

加(カ)〔彼〕-乃(ノ)-佐(ツ)〔崎〕-木(キ)-越(コエ)-天(テ)

本

深山乃小─豆─々─良

末

久─禮─々─々小─都─々─良

本

佐─木乃久─比止─路─牟─止

伊─止波─多止─路─牟─止

2 阿─加─々─理布─武─奈。志─利奈─留子

我母女波阿里佐─木南─留子

3 已下（式）无

舍人古─武曾志─理古─武曾

我母古武曾志─理古武曾

安─知乃也─萬遠─也─萬

遠─也─萬乃安─知乃世

4 近衞乃美─加─止仁。巾子於─止─以津

髮乃根乃奈─介─禮婆

古註、コシハ冠ノ巾子也、昔ハ礒額ト巾子トヲハトリハナツヤウニシタル故也。カミノナキ故ニ、巾子ヲオトシタルソトナリ。蘇敬本草注云。髮髮根也

1 萬葉第十、ヲミナヘシ生ル澤邊ノマクズ原イツカモ絡テ我キヌニセム。

2 古註、クレ、クレノ〳〵、野クレ、山クレ、ハルノ〳〵トクル心也、ツヾラハクルモノナレバカクツヾケタリ、

3 我モ母ガアル故、アカヽリハフムマジト、ヘナル人ノ先ナル人ニコタフル也。舍人以下八句。御神樂式无レ之。父木女諸本不ニ分明一可レ尋。

4 躰源抄云、多親分云ク、人長ハ其歌ノ詞ヲ舞也、早歌ニ近衞御門ニ巾子ヲツト云トコロニハ、冠ヲ掛キ、赤膝踏ナシリナルコト云時ニハ、後ヲ顧テ見テ、前ヘ進ミ、舍人コセウトウタフニハ、コセウ尻ニ成ケリ。如レ此シテ取物ニモ挾居張ニモ、詞ニシタガヒテ舞ケル。但シコレハヨク其骨法ヲエテ、神妙ノ境ニ入テモノヽスベキナリ。シカラズバ還テヲコノ業歟

由須里安介牟。須須里安介牟 古註、ユスリアゲントハ人ノオホクテスリアケラル丶ト云心也。ス丶リモ同意ナリ

須須里安介牟。由須里安介牟

已上(式)无

谷加良由加波。(行) 遠加良由加武 (尾 將レ行)

遠加良由加波。多爾加良由加武 (式)无

[1]是加良由加波。彼加良由加武

彼加良由加波。是加良由加武

[2]遠美奈子乃佐衣波 (惠(式))

霜月師走乃加木古保里 (イ)イ(大同)チ(イ大同)

[3]安布里止也飛波里止 (式)无 古註、カイコボチハ、垣ヲヤブリテ、薪ニスルナリ。或人曰、霜月シハスノカイコボチトイフハ、女ノオ智ナクテ、ヲロカナルアマリ、垣ナドヲコホチテ、薪ニスルトナリ。古註、大方一曲ノ意コ丶ロエガタキ也

飛波里止也。阿布理止 式句毎ニ皆頭ニ有ニ也字一

星

吉吉利利

本

吉吉利利。千歲榮。利(大) [4]白衆等。聴說晨朝淸淨偈也。明安加星波。(歲 星イ) 明星波。[5]久波也。古古奈利也。奈

1 是彼ノ二式句御神樂无レ之

2 遠美奈、前ニ註スルカ如シ

3 障泥板（延喜式大神宮式）古註、アフリ戸ハ脇戸ナドノ、風ニアフラル、ヲ云也。ヒハリ戸今案、檜割戸歟、檜ハ良材ナレバ割テ用ル也。今モ檜ノオホカル山中ナトニハ檜ヲワリテ板ニ用フル也。

4 躰源抄云、神樂ニ難義了足（本マ、）歌ニ白衆等長說晨朝淸淨偈此詞ハ、涅槃經ノ文也、而偈ニルナリ 神樂ハ我朝ノ事起樂神世ト云ハ如何、少納言通憲云ク、（本ノマ、）神樂ノ本躰ハ氣比社神樂ニハ可レ尋レ之、人長之榊ニ輪ツケタルハ摸レ鏡云々 法華懺法ノ晨朝ノ偈也師說

5 クハヤ 今案、祭レ星非レ神非レ儒、偏ニ陰陽師ノ意ヨリ出ツ、依テ用ニ御語ニ乎

1 攷書云、江家次第云、御選、厨子所女官於采女中ニ選ニ其人ニ故謂ソ名云云。禁秘抄云、御選三人也。又髮上采女爲レ之。行幸之時持ニ大刀ニ奉ニ内侍ニ同車、是不レ可レ然事第一也云々

2 志毛由布ハ古註、霜結也、飛波ハ飛葉也。今按飛波遠ハ檜皮歟、又下紐、又檜葉ニテ檜葉ヲモテ垣ニユフニ下ヲユヒテ上ヲハサテオクヲイヘル歟

3 萬葉第七旋頭歌ニ、ミナトナル蘆ノ末葉ヲ誰カ手折シ、我セコガフル手ヲミムト我トタヲリシ、スベテハコノ歌ニ似タリ云々。此歌亦本末贈答

4 今按、本歌ハ木綿ヲツクラムトテ、信濃ノ原ニ麻ヲ尋ネ行也。末ノ歌ハタツネエテ、マス〳〵ヨキ祐ヲ木綿ヲツクリヌレハ神ニアソビヲセヨヤセヨヤトウタフ也。主計式信濃ノ調庸ヲイヘル所ニ、中男、紙、紅花、子ナドイヘバ、紙麻多キ國ニヤ。マシモハ益ノ也、ホメル意アリ、萬葉、橘ハミサヘ花サヘノ歌ノ結句マシ益トキハノ木トヨメリ。カミソヤハ紙麻ヤ也。主計式凡ソ中男一人輸作物、紙、斐紙、麻三斤トイヘリ。穀三斤トイヘルハ今カムヒト云ル木ニテ、和訓ノ意、紙斐ナリ。紙麻ハ今カウゾトイヘル木ニテ共ニ柴ノ皮ヲ剝テ紙ニ漉也。紙ヲカウトヨメルハ紙縒ノ類是也。麻ヲソトヨメルハ。天津綿麻又ニゴキ

仁志加毋。今宵乃月波。只爰爾末-寸也。只爰爾末-寸也。（大）此句无　六

（萬葉第五明星ノ訓、和名鈔并名義抄云、明星一名ハ明星此間云（阿加保之））

末

白衆等　古註云、本ノ歌ニ同シ仍略之

得錢子

本

得錢子加。禰-也奈-留。（闇　在）志-毛-由-布。（唐ンメ　結ユフ）飛-波遠。（檜　登）多-連加波太-遠-利志。（誰　手折）得錢子彌。太-々-良古-來-飛與彌。（未詳（梁））

末

誰加波多-遠-利-志。得錢子也　式

我社波。美-禮波也。宇-連-多-佐見。（ネタマシキ心也（梁）賓乎）多-遠-里傳古-志加也。（來　敦）得錢子也。多-々-良古木飛與也。多-遠-里傳古志加也。得錢子也（古）

木綿作

本

木綿作。志奈乃原爾也。安-佐太-豆-禰。（麻　尋）安-佐太-豆-禰。安-佐太-都-禰也　式

末

安-佐太-都-禰。末-志-毋加-美-曾也。（益　紙　麻）阿-曾-陪。（遊）阿-曾-陪。阿-曾-陪。阿-曾-陪。阿-曾-陪。（此一句无）阿-曾-陪。阿-曾-陪也　式

麻ノ類是也。麻、穀ヲ東國ニ殖ラル、コトハ、古語拾遺ニ見エタリ。靑和幣白和幣トイヒテ、穀ハ木、麻ハ草ノカハリメアレドモ、木綿トイヘル時ハ、共ニ穀麻ニワタリ、又皮ヲ剝スル時モオナシヤウニミユル物ナレハ、紙ヲモ麻ノ類トシテ、紙麻トイヘルナルベシ。又穀ノ内ニテ少カハリメノアル木也。斐

雑歌　拾芥

晝目[1]

本

伊加波加里。與幾和佐志天加。天照也。飛留女乃神乎。志波之止止女牟

末

以[2]豆古爾加。駒遠川奈我牟。朝日子加。阿左留澤邊乃。玉篠乃宇倍爾。

或說[3]

本

奈爾和佐乎。我波志都都加。天照也。日靈乃神乎。志波之止止女牟。

末

以加爾之傳。何業志天加。天照也。比留女乃神乎。志波之認牟。

弓立[4]

本

伊[5]勢嶋也。安万乃刀禰等加。多久保乃介。於介於介

末

1 古今、ヒルメノ歌、サヽノクマヒノクマ川ニ駒トメテシバシ水カヘカゲヲダニミム。

2 補中抄十三、イツコニカ—サレバヒルメノ神トハイハネド他ノ詞ヲモ相具スル歟。アサヒコハ、朝日也。或本ニハアマヒコトアリ。天ノ日ト云歟。山彦ヲアマヒコトイフ別ノ事也。ヒルメノ神ハ日神ナリ。天照太神ヲハ大日孁貴ト申也。神樂ニハアマテルオホム神ヲオロシ添レハ、神舉トテ、アゲ添ル歌モアリ。イカナルワサヲシテカ、シハシ。留メ添ルベキトウタフナリ。拾遺、神樂ニハ我駒ハハヤクユカナムアサヒコガヤヘサスヲカノ玉サヽノウヘニ。阿左留ハ阿太留歟、何通。河海抄等木イヅクニカヤドリハトラム朝日子ノサスヤヲカヘノ玉サヽノ上、アサヒコノヤドリトフト云義也。天照太神ヲアサヒコト云、又朝日ノコトバカリニモ云。

3 或說ノ二首以二河海抄一補レ之。在二神樂譜一云々。

4 今按、弓ハカリ字也。拾介、作二湯立一、貞觀儀式。園韓神祭儀、云。御巫先ツ進テ再拜兩段、云々始各二歌舞一於二御神子先ツ廻二庭火一供二立一舞云々ユキハ湯ヲ沸ス木也。御神子先廻二庭火一作法彼諸立舞トシテ湯ト立ト開ヲ彼諸トスヘクヤ、是ハ今ノ世ノ御湯花ヲ[illegible]スル出者トスベシ。始奏二歌舞一出テトアリ。又弓立ヲ歌フトハ如何且供ニ弓立一供ニ[illegible]ナト云ハム供ノ字ノ例モ無キ歟。

5 夫木、有房、イセ島ヤイソラカ島ノ朝霧ニタナ、シ小舟コキハナレツヽ。保乃介ハ火氣也。萬葉ニハ、火氣ヲケフリトヨメリ。ホノケトイヘテハ氣ニ煙ヲカヌルナリ、カホリアフトハ、鹽氣ノニホフナリ。萬葉第二長歌云。神風乃。伊勢能國者。奥津藻毛。靡足波爾。鹽氣能味。香乎禮流國爾。云々、同第九云、鹽氣立荒磯丹者雖有云、コレラハオノツカラナル鹽氣ナリ。マシテヤクニハ猶カホリアフベシ。神代紀、伊弉諾尊曰我所レ生之國、唯有ニ朝霧ニ而薫滿之哉。霧ニモ香アルモノ也、師說

附箋

△保乃介ー加保里安布ハ只ケフリノタチナビクヲ、加保里安布トハ申スベキニ、借義凡物有ニ聲色ニ謂ニ之香。李白詩瑤臺雪花數千點。片々吹落春風香。元稹詩雨秀雲淡覺ニ微和ー。盧象詩ニ雲風香ニ流水ー。李賀詩依微香雨靑氣氳。岑參詩猿鳥樂ニ鐘鼓ー。松羅泛ニ天香ー雨風非レ有レ香。皆形容語也。正字通烟モ霧モ鼻ヲトギスマシテ馥ハ何ゾヲ馥出サヌ事ハアルマジキナレド、煙霧ハ薫ヲ賞スベキモノニモアラヌ歟。すまのわさのしほやくけふり風をいたみ　梓李曰

流ニ寄テ、イツハカリニテ、ミタレバ岸ヲサヘサステニノ、ノ
イフ、也
リ歌ニ云、朝倉ニ宮中ニ前國ニ風ハ
ヘテ仍テ神樂也、
拍子ユクレバ、朝倉ノ如キハ、
ノ、ナ、二進ムハ
ヘ倍ニ中ドモ、日本紀
イニヘリ、
師中ノ拍子
拍子六々
ヤ此ハ一時
樂是進仕ルニ時ハ、音拍明也、父

呂律ノ歌ナリ、サレバカヘス
ト、ハ、備ナリ、サレ拍子ニアサフキラナ
シヒキ、備馬樂シテ、アサクラ
ヲウタフナルベシ。新勅撰、
神祇ナ神樂ヲヨミ侍ケル大
納言通具、霜ニアリ明ノ空マダ
フカク、月影サユル朝
クラノ聲
古今、コロキノイソタチ
ナラシイソナツムメサシヌ
ラスナ神ニヲレ、袁衣ニ
メザシナルカミ、詣ト書ヌル
ハワラハノコト也

多-久保-乃-介。伊-曽-良加崎爾。加-保-里安-布。於-介於-介。

本

於-保君乃。由-支止-留由乃。稚-櫻。於-介於-介

末

和-加櫻。止-里爾我由-久也。船-加知棹。比-止-加-世。於-介於-介

本

皇-神乃。介-佐乃神安-介仁。安-布人波。千年乃以-乃-知。安-里止社支介

末

曽-倍神波。與-支日祭禮婆。明日與-里波。緋乃衣乎。介-古-呂-毛仁世牟

朝蔵

本

朝倉也。木乃丸殿仁。我遠-連波　式

末

我遠-連波。名乘遠志都-々也。由-久爾太連　式

本　或說

朝倉也。織面乃湊仁。網引世波。多-末乃女-佐-志仁。安-比仁逢介里

末

葛城也。和多留久米路乃。繼橋乃。古[1]呂毛茂止良須(六帖袖中 ココロモシ)。以左加倍里古牟(イ大同 ナ)

其駒 本歟

其駒曾也(イ无)。我仁我仁。艸古孚(ハム(イ雜藝)) 久佐[2]波登利加波牟(ヲ(イ))。水[3]波登利。久佐波登里加波牟(ヲ(イ))ヤ(六)式

加孚乞、飼孚イ　ザイ取　將レ飼　クツハイ

或說 末歟

足布知也(の(大))。毛里乃毛里乃下奈留。和加古佐爲天古(ク(イ))。安[4]之斑乃。止良介乃駒

弱草將來　虎毛

[5]竈殿歌

古註、竈殿ハヘツイ殿也。神供ヲ調スル所也。トヨハ豐也。豐酒ナド云カゴトシ。ユタカナル心也。ミアソビハ御遊也。カクラヲウタヒ遊事也。アマノカハラハ昔八百萬乃神集リ給ヒシ所ナレバ、ヘツイトノヲナスラヘテイヘリ。

本

止與倍津以。美遊比須良志。久堅乃。天乃加波良仁。琴乃聲須留。琵[6]琶乃聲須留。登[7]左乃古衞須(ニ(イ))

豐　爲

留

末

1 古註、コロモ、トラズハイソギ歸ル心也、久米路ノ橋ハ夜ノアクレハカケタユル故ニ、イソギカヘルトイヘルニヤ、

2 河海抄、初句ノクサハトリカハムヲイザトリカハム。

3 或本、水波ヲ轡ニツクル、クツハノ音歟。

4 和名抄、騢馬、(踏雪馬附) 爾雅註云。四骹皆白曰レ騢。(音僧俗云河之布知) 骹謂ニ膝以下一也。四蹢皆白曰レ騚(音前)蹢蹄也。俗呼爲ニ踏雪馬一。古註、虎毛、アシブチハマダラナレバトラケトイフニヤ。

5 妹源抄云進蘇利古、謂二之竈祭舞一

6 續日本後紀第十一、童謠、天(爾波)琵琶(乎宿)打(那留)云々一本琵琶(乃)聲(須留)、一句无シ。

7 登左乃古衞、古註トサノ聲スルハ文字アヤマリアルベシ、笛ノコヱスルトゾアラマホシキ、或人云、トサノ聲ハ胡茄ノ聲ナリ、トサ、コカ聲通ス、古歌ニ、コサフカバクモリモヤセム陸奥ノエゾニハミセジアキノ夜ノ月、註ニ夷ガ海ニ入リテ久浮上リテ歗ヲフケハ霧ノ如クニ曇ルトナリ。茄吹ノ字也、角笛トモ云。日吉神道秘記曰、大竈社、奥津彦神也。此郎大歲神子也。大歲者杵築大神御孫也。竈殿社奥津姬神註解同上。若沖云臨時祭式 御竈祭五色薄絁各二尺、倭文一尺木綿三兩麻六兩鍬二口云々御井並御竈祭—。中宮御竈祭(東宮准之)同神名帳、大膳職坐神三座、並小御食津神社、火雷神社、高倍神社、三代實錄貞觀元年正月廿七日、大膳職從五位下大八島竈神八前、齋火武主比命神、從五位上、又大膳式、御膳神八座、齋院高部神、竈神、菓餠所火雷神、

附箋　煙のすゑ／＼

內侍屋焼て神代よりつたはれるいかたものけそこなはれけるそ、いとあさましき事には申侍、かのかたはむかしは三ありけるを、一をはひら野、一をは忌火、一をは庭火と申けると、圓融院の御代、永觀のころ二つはうせにけり、いま一のこりたる、かゝる事よろしからぬわさたりとて、神祇官に尋ねられ、ふるき事とかんがへらる、ひら野といひけるを、陰陽寮にとへてみついとめ祭といふ事に用けれと、中比より後祭はたえぬ、忌火といふにては六月十二月の御神事を御せんをくたしけり、庭火にこつねの御せんをはつかまつれり、かゝれはいとたひ／＼しき事にて、はしめこい（蟲損）しにおはせらをべしとを申、ふるきをそこなはれたる所はかりをなをさゑへしかとも（蟲損）くにさためかねられたり、入道おほきおとゞなともふるきをなをさるへしと申さるゝとぞ、

百錬抄後深草院寶治二年十月廿四日丁酉云々近日御竈神燒損可レ鑄改哉否事被レ問諸卿云々

比左加多乃。（久堅）天乃河原仁。止與津以須良之。（豐）（響）比波乃古惠與志、（藻鹽草）（善）琴乃聲須留

酒殿歌[1]

本

左加止乃波。（酒殿）比呂之萬比呂志。（廣）（添字）（廣）甕古之乃。（腰腹乎 コシニノ心カ）和加手奈止里曾。（我）（勿取）志加川介那久爾（然）（不告）

末

酒殿波。今朝波勿掃曾。牟連里女乃。（群）裳引裳引。今朝波掃傳幾

或説 本乎

天乃原。振放見禮波。ケ（大）八重雲乃。久毛乃中奈留。雲乃奈加止乃。中臣乃。[3] 天乃小菅乎。左支波良比。[4]（秡）祈里

志古止波。今日乃日濃多女。（爲）安奈古那也。和加皇神乃。神魯岐乃與左古 ケ（イ）（よけく也（長））

末乎

仁波鳥波。（鷄）[5] 加介呂止鳴奴奈利。於支與起與。（起）和加加止夜妻。（我）（一夜 ヒ歟）人毛古曾見禮

1古註、酒殿ハミワツクル所也。（甕）ハミカノ字ナリ、神酒ヲモルカメノ名ナリ、祝詞ニモ甕ノ腹ミチナラヘテト云、コレモ此甕ヲ云ベシ、ワカ手ナトリソハ、ケカルヘキニ也。

2古註、加茂ノミトシロニ、カタビラニ裳キタル女ノ、宮トリタル、ミカハタモツモノヲラレリメト云。ソレヲウレリメトモ云ニヤ。神田ツクルモノ、、食物モツヲ、ミカハタトハ云、ムレリメハ、酒女ト云心ナルヘシ

附箋 若神云式（神名）造酒司坐神六座（大四座小二座）大宮賣神社四座（並大月次新嘗）酒殿神社二座（並小）酒彌豆男神（ノミツヲ）酒彌豆女神
△齊衡三年九月十一日辛亥造酒司酒甕神從五位下大（ヲホ）邑（クウノ）刀自。小邑刀自等並預春秋祭。貞觀八年壬寅朔造酒司從五位下次邑刀自並准二大邑刀自小邑刀自幷甕神等一預二春秋季祭一亦造酒式祭神九座云々

3萬葉、中臣ノフトノリゴトイヒハラヘアカフ命ハタガタメニナシ

4古註サキハラヒハ菅貫モテ秡スル事也。アナコナヤハ、ナゴムルト云心ナリ。今案アナハ穴樂（クノシ）ノ穴ナルベシ、コナヤハ酒ハコキヲ上品トシ、濃酒トモイヘバ、アナナ濃ナルベシ、ナヤハナリヤナルヘシ都テ大嘗會ノ時白キ黒キノ酒ヲ造リテハ神膳ニ奉ラル、事式等ニ見エタレハ、其ヨシヲヨメルナルベシ。

5鷄鳴樂

加止夜妻、今按。加與レ日（トノ）草書。筆ニ書誤リ來レル事多シ、然レハ一夜妻ナルベシ

萬葉集第十六。吾門爾。千鳥數（シハ）鳴起余（オキヨ）起余。我一夜妻人爾所レ知名（ミラルナ）。此歌ヲヨミカヘテ。一夜妻ヲカド夜ト書誤レルナルベシ。又幾日ト

イヘル時、日ヲカトヨメレバ、日止與ヲナドカケルヲヨミ誤レル事モアルベシ。古註、奥ニイタリテ云。九神樂ハ一越調ヲモテ、ウタ

フト云リ。二條家ニハ、宮人ノ曲ヲモテ奥義トス。綾小路家ニハ弓立ヲ秘曲トス。但宮人ノ曲ハ近代ウタヒタエヌト云リ

萬葉緯　卷第七　終

體源抄第八本近眞教訓抄箏ノ事ヲ註セル條下ニ撥合名廿六記セルウチニ○玉戸村上天皇御製○葛城光明皇后作○東路○櫻人已上黄鐘調○宮村上聖主○宮人○伊勢宮齋宮女御也○小野宮實頼大臣○三嶋邊太政大臣師長作、已上平調音○御神樂延喜聖主一越調音○蒼海波○宇治宮知足院關白殿作○嶋河已上無調子

和國にてイテキタル分已上十三

萬葉緯 卷第八 催馬樂

目録

律

陰名一首
鷹子一首
道口一首
老鼠一首　長篇

呂

安名尊一首三段
新年一首三段
梅枝一首三段
櫻人一首二段　長篇
葦垣一首五段　長篇
山城一首三段　長篇
眞金吹一首二段
竹河一首二段
河口一首二段
美作一首二段

藤生野一首二段
婦與我一首
奥山一首
奥山爾一首
鷹山一首二段
此殿者一首二段
此殿西一首二段
紀伊國一首二段
石河一首三段
葛城一首三段
此殿奥一首二段
我家一首　長篇
青馬一首　長篇
淺緑一首　長篇
妹之門一首　長篇

席田一首二段
鈴之川一首
酒飲一首
田中一首
美濃山一首
大宮一首
角總一首
本滋一首二段
眉止之女一首
無レ力蝦一首
難波海一首

洛東隱逸　編緝

頃來。於書肆得於催馬樂章曲一卷。奥書云。右催馬樂一册者宗尊親王御自筆以本書寫校合畢。外題者聖護院道晃親王之御筆跡也。尤可秘々々。云云 可謂信得神助。依茲目錄以下除章曲之外。不違一点書寫焉。與諸書有異說則附傍。或有錯則爲鼇頭焉。且隨師說又加今案。催馬樂。順倭名鈔云。雙調曲。催馬樂 律ニ我駒トイフ曲是也[1] 挾鰭河 律ニ澤田河トイフ曲是也 云云。體源抄云。狛朝葛新作續教訓抄云。[2]催馬樂ト云ハ。催馬樂ト云樂アリ。其ヨリ事起レリ。此樂ノ唱歌ニ。コマヲモヨヲスト云事ノアリケルヲ、ヤガテ歌ニナシテ。國々ヨリ歌ヒイダシタリ。我駒ト云催馬樂是也。故ニ馬ヲ催トカキタルナリ。云云 古註ニ、往昔貢調ヲ大藏省ヘオサメシ民ノ。ロスサミノ歌ナルナドイヘルハ。誤レリ。此兩說ヲ以テ知ヘシ。據倭名。古來二首耳。雖然隨朝廷全盛撰或有益公私歌。我駒澤田河ノ類是也 或野章俚語。大芹無レカ蝦類是也 集而爲宴會之歌物矣。又躰源抄云。催馬樂笛譜ハ。藤原忠房依延喜聖主之勅譜ヲ作。箏琵琶ニハ。中務大輔信明 博雅二男 譜ヲ作レルナリ。云云 袖中抄ヒヂカサ雨下云。催馬樂譜ハ。一條左大臣雅信公作也。云云 本朝書籍目錄云催馬樂譜一卷 云云 正見源氏奥入幷河海抄等所引之催馬樂。大概與今同。而今所書章曲宗尊親王以何藏書書寫給哉可尋

1 和名。我駒作我賜、澤田河作律田河、依無其謂共改正焉。

2 續教訓抄第四末　催馬樂序　一帖拍子七。

三代實錄第三　貞觀元年冬十月廿三日尙侍從三位廣井女王薨。廣井者二品長親王之後也。（廣井少修德操、擧動有禮、以能歌見稱、特善催馬樂、諸大夫及少年好事者多就而習之焉云云。

3 本書假名ナシトイヘド體源抄ヲ以テ付之。

催馬樂目錄

律歌

我駒（ワガコマ）　拍子十二、二段各六

澤田河　狹鰭河（拾芥抄）（サハタカハ）　拍子十三　三段　一段九　二段四

高砂（タカサゴ）拍子卅三　七段　一段五　二段四　三段五　四段四　五段六　六段五　七段四

夏引（ナツビキ）拍子廿三（二乎）　二段　一段九　二段十三

貫河（スキガハ）拍子廿七　三段各九　拾芥藤家無レ之

東屋（アツマヤ）拍子十八　二段乎

走井（ハシリヰ）拍子八

飛鳥井（アスカヰ）拍子九

青柳（アヲヤギ）拍子十二　二段各六

伊勢海（イセノウミ）拍子八

庭生（ニハニオフル）拍子九

我門（ワガカト）爾（梁塵愚案抄）拍子廿一　三段　一段七　二段六　三段八

大芹（オホゼリ）拍子卅一

淺水（アサムツ）橋（拾）拍子十九

大路（オホミチ）道（拾イ）拍子十四　拾芥藤家無　二段各七

我門乎（ワガカドヲ）拍子十四　二段各七

鳥（伊）［1］鶏鳴（トリカナク　トリハナキヌ）

刺櫛（サシグシ）挿（梁）

［1］古註云、鶏鳴ク名目ニトリガナクト云也。
後撿説儀　永正六十廿三

逢路（アフミチ）更衣同音

更衣（コロモカヘ）替（伊呂波字類抄）

陰名（クホノチ）隱（梁）

鷹子（タカノコ）

道口（ミチノクチ）

何爲（イカニセン）無（伊）　更衣ノ下陰名ノ上。今目錄脫故ニ補レ之

老鼠（オイネズミ）目錄歌共ニ脫以ニ梁塵ニ補レ之　拾芥抄或號ニ西寺ー源家無レ之云云

呂歌

安名尊（アナタフト）拍子十四　三段　一段六　二段五　三段三

新年（アタラシキトシ）拍子十四　三段　一段六　二段五　三段三

1 葦垣三段以下。眞金吹全篇。山代二段以上歌脱。以二梁塵一補レ之。

2 此殿者、此殿乃、共二歌脱一、以梁塵補之。

梅枝 之（梁）已上同音 拍子十四 三段 一段六 二段五 三段三

1 葦垣 拍子卅 五段各六

山代 城（拾）背（梁中抄） 拍子廿七 三段各九

河口 拍子十四 二段各七

藤生野 二段平

奥山 拍子九

鷹山 拍子十六 此殿 此殿乃 二段各八 此殿奥同音

此殿乃 西（梁） 之イ 拍子十六 二段各八

石川 河（拾） 拍子十五 三段 一段六 二段六 三段三

此殿、奥 拍子十六（五平） 二段 一段七 二段八

青。馬 白（梁） 拍子十二 妹之門同音 ／之（拾）

席田 莚（梁） 拍子十二 二段各六平

酒飲 拍子八

櫻人 拍子廿二 二段各十一

眞金吹 拍子十八 二段各九 山代同音

竹河 拍子十四 二段各七

美作 拍子十五 二段 一段八 藤生野同音 二段七

妹與我 拍子九

奥。山爾 々（梁） 无（同） 拍子十二

2 此殿者 无（梁） 拍子十六 二段各八

紀伊國 州（拾） 拍子十六 二段 一段九 二段七

葛城 拍子廿二 三段 一段六 二段七 三段九

我家 吾（梁） 拍子十一

淺緑 拍子十二 妹之門同音

鈴之河 鹿（梁） 香（拾） 拍子

田中 井戸（拾梁） 拍子十

美濃山（ミノヤマ） 拍子　莫（拾）
角總（アケマキ） 拍子十　攣卷（伊）
眉止自女（マユトジメ） 拍子八
難波海（ナニハノウミ） 拍子十　ナニハツ

大宮（オホミヤ） 同 拍子十
本滋（モトシゲシ） 拍子廿 二段各十
無力蝦（チカラナキカヘル） 拍子六
妹之門（イモガカド） 歌在二催馬樂上卷之下一　婦（廉）　死（伊）

今按、簾中抄ニ此外有二呂御馬草（ミマクサ）[1]。酒屋（サカヤ）。倉垣（クラカキ）（此殿ノ西歟）。萬木（コロツキ）。鏡山。高嶋。長澤。律千年經。淺也一。同歌異名歟。可レ尋

西宮記。臨時十一。私遊宴事。夫於二律遊一者用二平調一。於二呂遊一者用二雙調一。至二于他調一隨レ時用レ之。但律呂遊以レ歌爲レ本。樂曲相交反聲於二倭琴一先常陸同音數度。次甲斐各々獨唱二風俗等一也云

1 御馬草ハ眉止自女ノ一名ナルヘシ。倉垣ハ此殿西ノ一名ナルヘシ。酒屋ハ此殿奥ノ一名ナルヘシ。

附箋

集義外書雅樂解

或問催馬樂歌に呂律あり、うたはれさる事はあるへからすいかん　云催馬樂の呂律といへるふしはかせ何とか有けんふりたえぬれはしりかたしといへり、角徴の間に二律へたてたるいきに作て、ふしはかせを付たはうたはるへし、されと日本にて自然におこりたるうたひ物には此いきなし、中夏の律呂の聲へにてうたひてはふしゆかす心あり、作てなすは國風に非されは各別の事也、日本の小歌にたゝひとつ呂のいきのふしありたるを聞たりといふものあり、律呂の學ありし人わさと作てふしをつけ置たるか所により中夏の風のことくなる處ありてうたひ出せるか知へからす、催馬樂の呂律といへるは黄鐘調を呂の樂といひし類ひにや、今黄鐘調は律の調なれとも十二音を十二月に配すれは林鐘は呂に當れり、林鐘を宮にて黄鐘の樂となせり、黄鐘は平調と同く律の樂なれとも林鐘によりて呂といひし類ひか、たゝし中夏にて黄鐘の樂は呂ともいふへし

同

めるは大になる也、かるはちいさくなる也。

律

我駒　拍子十二。二段各六

伊[1]天安加己末。波也久由支己世。萬川知也末。安波禮。萬川知也末。波禮。末川知也末

萬川良无比止乎。由支天波也。安波禮。由支天波也見无

又説末川乃也末　異説由支天美牟　安波禮

今按。萬葉第十二。羈旅發レ思。乞吾駒。早去欲[2]。亦打山。將待妹乎。去而速見乎。體源抄狛朝葛曰。催馬樂。我駒ヲハ呂律倶ニ唱レ之又云。催馬樂ハ。我駒ヲモテ序トシ。伊勢海ヲモテ破トシ。竹川ヲモテ急トス。是故人之口實也云云

澤[3]田河　拍子十三。三段。一段九。二段四。

左波多可波。曾天川久波加利也。安左介禮度。波禮

安左介禮止。久爾乃見也比止也。太可波之和多須。安[4]波禮。曾古與之也。太加波之和多須

1 イデハ、古註サラハナト云カコトシ。乞萬葉　アハレ待乳山

2 去欲、萬葉類聚ニ、ユカマセト點セリ。

3 澤田河三段以下有二不審一。梁塵抄爲二二段一。體源抄狛朝葛曰、澤田川。或譜ニ此歌絶畢ヌト云云。博貞カ譜ヲミルニ、安名尊ト同歌ト。云云竊ニ按、同歌不レ乖云云。長流曰、澤田川袖ツクハカリ淺ケレドクニノ宮人高橋ワタスト云歌ヲ三段ニワカチテウタヘルナリ。夫木廿一、喜多院入道二品親王家五十首、三條入道左大臣、五月雨ニ水コエニケリサハタ川クニノ宮人ノワタリス高橋

4 アハレソコヨシヤ　嗚呼也、ホメタル詞也。ソコハソノ所也、古註。

一說云。安波都比止々也之也

今按。朝葛曰。澤田川呂律俱ニ唱之。云云 萬葉第七。廣瀨川。袖衝許淺乎也。同十一。須蘇衝河。同十七。安夫美都加須毛。云云 續日本紀。聖武天皇。天平十四年八月乙酉。宮城以南大路西頭與甕原宮、東之間。令造大橋。令諸國司隨國大小輸錢。十貫以下、一貫以上。以充造橋用度。又云。十二月己丑。始運平城器仗置恭仁宮。辛卯初壞平城大極殿並步廊遷造恭仁宮。四年於茲其功纔畢。用度所費不可勝計。至是更造紫香樂宮。仍停恭仁宮造作焉。同十七年五月恭仁京泉橋。云云 師說聖武天皇。久シク世ヲ治メサセ玉ヒテ。全盛ナリシ事。唐ノ開元天寶ノ比トヒトシカリケルヲ。良史少シソシリタレハ。今ノ歌モ時ノ人ノヨミテ諷刺ヲフクメルニヤ。神代紀ニ大己貴命ノタメニ天安河ニ高橋浮橋及ヒ打橋ヲ造ラムト天神ノミコトノリシ玉フハ、高橋ハソリハシノヤウニ聞ユルニヤ、袖ツクハカリ淺キ瀨ナレハ、カリソメナル橋ヲワタシテモ、事タリスヘキヲトオモヘル心ト聞ユルニヤト、云云

高砂[1]長生殿破拍子卅三七段一段五。二段四。三段五。四段四。五段六。六段五。七段四。

多可左古乃。左伊左々古乃。太加左己乃乎乃戶爾太天留。之良多末。太萬川波木。多萬也名支比第一段有二說

曾[2]禮毛加止左牟。末之毛可止。末之毛可度禰利乎左美乎乃。見曾加介爾世牟。多萬也名支

[1] 體源抄、大神景範記云、長生樂、長秋卿笛譜云、以長生樂爲一帖、催馬樂高砂、同音。

[2] 古註、ソレモカトサムハ、ソレカト云詞也。マシモカトハ、汝カト云心、サンハ詞ノ助也。禰利乎左美乎乃

1古註ナニシカモサムハ、ナニカト云詞也。誰シカモトト云カ如シ。奥入沙下加ニ牟字ー、爲ニ名爾之加毛沙牟ー。古々呂毛萬太伊介牟

2サユリハナヲ、サユリバ、トウタフ故ニ、サユリバトイフ歌ハ、ソレヨリヨメルトソ。長流

附箋 アハマシモノヲ。○安波萬之无乃乎。むともと通スル常の事也、行能本朗詠蟬丸ノ歌 とてんかくて しむさむ ん、木工木工等也、至心懺悔ヲし、もトヨメル事、圓珠菴ヨク辯セリ。種季

3續教訓抄第四末云、夏引樂序拍子廿三、催馬樂、夏引音、此曲承和帝主御作、舞是成作、催馬樂青馬歌音也云々

4伊止、下ニアサギヌト云アリ、名々波加利ハ重七兩ヲ萬葉ニナヘクルマトヨメルコトク、量ニ七ハカリカクルナリ、麻績ヲ、ナヽハカリカウミテ、我イマシニ衣ヲオリテキスヘケレハ、モトノ妻ヲイナセテ、我ヲ妻ニセヨト、忍妻ノ男ヲスヽムルナリ。

5コクヒハ、エリ也、オホクビニムカヘテ、コクヒト云ヘリ。

6ヌキカハノキシノヤハラ田ヤハラカニヌルヨハナクテオヤサクル妻、ト云ル歌ナルヘシ。世々乃也波良ハヒチリコナリ、是ハ枕ヤハラカニトイハム爲ニ取出セリ。於也左久留川末トハ、萬葉第十四ニモ、サノヽ舟橋取

名爾之加毛。沙。名爾之加毛。名爾之加毛（何　牟(イ)）

古々呂毛萬多伊介牟。由利波名乃。沙由利波名乃（心　百合花　後上畧　萬葉、道邊乃草深由利云々）

介左々伊多留。波川波名爾。安波萬之毛乃乎。沙由利波名乃（今朝咲而有　初花　逢物）

又說安波萬之无乃乎

樋口氏曰无與レ毛通、毛字彙云、蒙晡切音模、無也、後漢ノ馮衍傳飢者毛レ食、太子賢曰、案衍集作レ無、今俗語猶然者、或古語亦通乎、當ニ讀如レ模

夏引拍子廿二。二段。一段九。二段十三。

奈川比支乃。之良伊止名々波加利安利。左己呂毛爾。於利天毛支世牟。萬之女波名禮與（忍妻　夏引　白糸　七量有　小衣　織將令著　汝妻放）

可多久名爾。毛乃以不乎美名加奈名。萬之安左支奴毛。和加女乃己止久。多毛止與久。（男答　頑　愚癡（日本紀）　物云　不歎　汝　麻衣　我　指本妻如　袂好）

支與久。可安多與久。己久比也春良爾。末之支世女加毛。奴比支世女加毛（著好　引聲　肩好　襟　安　汝將著　縫將著）

金葉賀、君カ代ハイク萬代カ重ヌヘキイツ貫河ノ鶴ノ毛衣、藤原道經

續後拾冬、席田ノイツ貫川ニ氷柱井テ宿ル月ニハシク物ゾナキ、大納言[illegible]道

貫河拍子廿七。三段各九

6奴支可波乃。世々乃也波良多末久良。也波良加爾。奴留與波名久天。於也左久留川末（女　瀨　淺　湿　沈　手枕　柔　承上　寢夜無　親離妻　男也）

ハナシ親ハサクレト、ヨメリ、妻ハ今ハ女ノ詞ニテ、男ヲイヘリ。オヤサクル妻ハマシテルハシトハ須女ノイフナリ。物ハスクナキヲモテメツラシトスルコトク、オヤノサクルニヨリテ、マシテウルハシキトナリ。ウルハシノ、ウ文字ヲ畧セリ、萬葉ニ物オモヒヲ物モヒトイフカコトシ。續詞花集賀ニ濃守にて神拜しけるにいつぬき川を見、藤原基貞朝臣、鶴ノスムイツヌキ川をきてみれば千年たふへきなかれ成けり

1 之加沙良波。異本作ニ無作作良波一、今按ニ、アラハ、田ニ美人一、不知有美女歟。古一作ニ之ニ不知ニ之是一、シカサラハ、サアラハ也、ウルハシトオモヘルヲウケテ、男ノ詞カヒニユカントナリ、

2 チカイハ、今ニオホハナヲトイフナルヘシ、ホソシキハ、ホソキナリ、ウハモハ我門ニ、ウハモノスソスレテト云ニ同シ、宮道ニ男ノスメルニコソ、宴曲集第四海道中ニ早蕨還ニカヘリヌル宮路ノ山中中ノ云々

3 今按ニ河海抄作ニ加須加比川ニ下爲ニ一段一、又止左之手作ニ止尼之一。比良伊天乎作ニ比良天一。今因ニ兩書一改正焉。

4 四阿ハアツマヤ、兩下ハ、マヤナリ、今ハアツマヤヲヤカテマヤトイヘハ、マ稲名ノ心ニアラズ、木ヲ眞木ト云コトク、アツマヤヲホメテ眞屋ト云ナリ、止乃ハ殿戸ナリ、ヒラカセハ、止ヒラケト云古語也、カスガヒモ戸サシモアラハコソ、其殿戸我サヽメ、オシヒライテキマセ我ヤ人ツマサハ、鎹ハカケカネ也、戸サシハ鏁也、人ノ妻トサタマルモノコソ、オソル、事モアルレ、我ヤハ他妻ナル、人妻ナラネハ、心ノマヽニ、戸ヲオシヒライテキタレトナリ、

5 兼名苑云、薄(音薄和名衣比良)一名箇(音曲)養レ蠶施ニ於其上一、令レ作レ繭者也。

男 於也左久留。川末波。末之天留波之。之加沙良波。也波支乃伊知爾。久川加比爾加牟

女 久川加波々千加伊乃保曾之支乎可斤。左之波支天。宇波毛止利支天。美也知加與波牟

今按。矢矧參河國也。今號ニ岡崎一。美也知倭名鈔云。同國寶飯郡宮道美也知。夫木抄衣笠大臣。

狩人ノヤハキニ今宵。トマリナバ。アスヤワタラム。豐川ノ水。倭名鈔同郡豐川止與加波云云

東屋拍子十八　梁塵愚案加須可比以下爲二段

男 安川末也乃。末也乃安萬利乃曾乃安萬曾々支。和禮多知奴禮奴。止乃止比良可世。加須可比毛。止左之毛安良波己曾。曾乃止乃止。和禮左々女。於之比良伊天。支末世。和禮也比止川末

古事記、八千矛神詠、遠登賣能、那須夜伊多斗遠、萬葉第五、遠等咩良何、佐那周伊多斗乎、意斯比良伎、

走井拍子八

波之利爲乃。己加也可利乎左女加介。曾禮爾己曾。末由川久良世天。伊止比支名左女

萬葉第七云。此小川。白氣結。瀧至。八信井上爾。事上不レ爲友。隕田寸津。走井水之。清有者。度者吾者。去不レ勝可聞。師說。此走井歟。イツレノ國ニアリトシラネド。前後大和ノ名所ヨメル中ニアレバ。大和ナルベシ。小

說文云、顯(音顯和名萬由)蠶衣也。　唐韻云、綜(蘇遭反又所衡反訓久流)絡レ絲取也。　漢語鈔云、綜車(於保加)

1狹衣一ゝトマレトモエコソイハレ子アスカヰニヤトリトルヘキケシキナラネハ。同。アスカヰニ影ミマホシキヤトリシテミマクサカクレ人ヤトカメム。師説飛鳥井ハ大和高市郡飛鳥川あろ同じ所也。蜻蛉日記中、ミカサ山ヲサシテユクカヒモナク、ヌレマトフ人オホカリ、アスカニミアカシ添リケレハ、木タチ、イトヲカシキ所ナリニハキヨケニ、ヰモイトノマヽホシケレハ、ムヘヤトリハスヘシトイフラムトミエタリ、云云

2赤染衞門集云久むまつといふ所にとまる夜、かりやにしはしおりてすゝんに小舟にをのこふたりはかりのりてこぎわたるを何するそよとへは、ひやゝかなる、おもひくみにおきへまかるぞといふ、おき中の水はいとゝやぬるからんこ、とはまなろを人のくめかし、水をはもひといひこ、みといひ、おといふは、おなしく御の字なり、和名に、盌をにおもひといへるも同し心歌、又主水同をもひとりのつかさといふも、もひは水なり、盌をもひといふも飲水器と注したれは、髪をもとゆひといひ又髪おほふ物をも、もとゆひといふことく、ふたつにわたれる名歟、但もひとはのむ水をいひこ海川の水をなへていふにはあらす云云。私云、今なめる人に、おもひもとほらぬといへり。

師說、伊勢家集云、故中務ノ宮ノ、コトヲカリ給ヒテアツマ琴ハルノシラベヲカリシカバカヘシ物トハオモハザリケリ、是ハ、春ハ呂秋ハ律ナル故ニ、東ハ春ノ方ニテ、又モアヅマ琴ナレ

萱刈ヲサメハ。蠶ヲ飼ニハ。箔(エヒラ(和名))トイフ物ヲアミテ。其上ニオキテカヘバ其料ナルベシサレバコソソレニコソマユツクラセテトハイヘレ云云

飛鳥井拍子九

1安須加爲爾。也止利波春戸之也(宿 可爲)。於介。可介毛與之(陰 好)。2美毛比毛左牟之(水 寒)。見萬久左毛與之(御 林 好)

但件也止利波須戸之可レ有二音一振一說

今按。清少納言。井ハ。アスカヰ。ミモヰモサムシト。ホメタルコソオカシケレ。玉葉。旅。カリソメト。思ヒシ物ヲ。アスカヰノ。御秣ガクレ。幾夜ネヌラム。惟明親王。大島氏云。今萬里小路。一條南東頬民屋內有古井。古來爲名水之由云傳。疑是飛鳥井歟。美毛比。景行天皇。十八年四月壬戌朔。壬申。自海路泊於葦北小島進食。時召山部阿弭古之祖。小左令進冷水。私記訓左牟美毛比梅園氏曰。片假名井字傳寫或遺橫一畫爲レ廾乎又水古訓志。與レ左五音通同義歟。云云私云。北與レ井通

青柳長生樂序拍子十二段各六

安乎也支乎。加多以止爾與利天也(片 絲 綠)。於介也。宇久比春乃(鶯)。於介也

宇久比春乃。奴不止以不可左波(縫 云 笠)。於介也。宇女乃波名加左也(梅 花 笠)

バ、カヘシ物トハオモハヌト、琴ヲホメテカヘシカ子玉フヨシニヨマセ玉ヘルナリ、安元ノ御賀ノ記ニ云、作者、隆房ソノヽチ、トリノハ、難波ノ海、ガテムノキウ、サテリチニフキカヘシツ、青ヤキ、萬サイラク、

オホウチ、云云。躰源抄大神景範記云、拾翠樂、久云、承和帝作之絃、催馬樂ニ合序、青柳、使、伊勢海、急竹河、同云、長生樂三反可吹之催馬樂青柳同音、續敎訓抄第四末、長生樂、新樂、中曲序、催馬樂青柳

同音、南竹譜云、承和ノ御時清涼殿前紅梅ノ花ノ賀ノ時、此笛曲ヲ作ル、則帝王ノ御作、舞ハ則左大臣信ノ朝臣所作ナリ、童男四十人麴塵ヲ著ス、御前

二舞、云云同云、南宮譜云、拾翠樂件曲、承和大嘗會ノ時、豐樂院ノ前ニ海濱ヲ作テ、此曲ヲ奏ス、砂石ヲ集メ、樹木ヲ殖テ、山阜ノ形ヲ成ス、幣布ヲ敷莽藻ヲ散シテ、海渚ノ躰ヲ傷

ル、船ヲ其中ニ引テ、飛帆ノ波ニ隨フニ擬ス、葦ヲ其中ニ藏テ、海人ノ藻ヲ拾フニ似セタリ、曲畢ニ即チ徹シテ復レ元ニ、又笛作清上、舞作尾張濱主、古樂、

古今集第廿。カヘシモノヽ歌。青柳ヲ。片糸ニヨリテ。鶯ノ。スフテフカサハ。梅ノ花笠。源氏若菜上。云。サウガノ人々。ミハシニメシテ。スグレタル聲ノカギリイダシテ、カヘリゴヱニナル、夜ノフケユクマヽニ物ノシラベドモナツカシクカハリテ、青柳アソビ給ホド、ゲニネグラノウグヒス、オドロキヌベク、イミジクオモシロシ、細流云、カヘリ聲ニナル、呂ノ律ニナル也、

伊[1]勢海拾翠樂拍子八

伊世乃宇美乃。引(河海) 支與支。清 江同 名支左爾。渚 阿(同) 一(同)[2] 之保加比爾。鹽干 安(同) 名乃利曾也川末牟。馬藻(和名、神馬藻)將摘 安よ(同) 加比也比呂波牟也。貝拾 安よ(同)宇(同)

多末也比呂波牟也 玉 安よ(同)

古說 太萬毛比呂波无 加比毛比呂波无

續教訓抄第四末云、拾翠樂博雅譜云、序拍子七、雖已絕畢、急拍子十、永承大嘗會樂所預源賴吉作、山村吉光作舞、云云

京極大相國御記云、昔承和初作此樂、今永承續其急、雖時代異意趣惟同、頗能折乃竹音而多日比蔡邕之德學龍吟而幾

年類馬融之詞料知能拌

清濁深知宮商也云云

庭生拍子九

爾波爾於不留 加良名川名波。唐薺 與支名々利。好 波禮。見也比止乃。宮人 左久留不久呂乎。[3]提袋 於乃乃 己

禮可介太利 掛

拾遺集。女ノモトニ。ナヅナノ花ニツケテツカハシケル。長能。雪ヲウスミ垣根ニツメルカラナヅナナヅサハマクノホシキ君哉。師說。オノレカケタリトハ。ナヅナノミノナレルガ袋ニ似タレバ云ヘリ。宮人ノ袋ハ。官位ニヨリテカ

1 和名鈔云。拾翠樂律歌有ニ伊勢海曲ニ是也

2 之保加比爾。古註。鹽干也。師說之保加比也ハ只貝也。古今集貫之長歌ニ浦ノシホガヒヒロヒアツメ。トレリトスレド。云云。後撰集、忍ヒテカヨヒケル人、イマタカヘリテナトタノメオホキテ、オホヤケノツカヒニ、イセノクニ、マカリテ、カヘリマテキテ、ヒサシウトハス侍ケレハ、少將内侍、人ハカル心ノクマハキタナクテ、清キナキサヲイカテ過ケム、但萬葉第十五ニ、對馬ノ竹鳴浦ニテ、玉シケル清キナキサトヨミタレハ、イツクニモイフヘキ歟。今モタヽ渚ノキヨキヲ、清キ渚トヨミ、少將内侍モ、名所トハオモハネト、今ノ歌ニヨリテ、何トナクヨメルニテモ作ルヘシ。續後拾遺集。仁和ノ御時。大嘗會悠紀方ヲヨメル、大友黒主。イセノ海ノナギサヲキヨミスムツルノ千年ノ聲ヲ君ニキカセム、是清キ渚所ノ名ナラハ清キ、渚ニスム鶴ノトヨムヘキヲ、ナキサヲ清ミトヨメルニテモ知ヘシ。

3 伊呂波字類抄云、魚袋朝襟縁云、古老傳云、昔鮫龍化而爲レ人、盗レ金、仍作ニ魚袋ニ(公卿、金、殿上人銀)付レ之、其後無レ害云云。令集解云、養老六年二月廿三日格云、太政官謹奏、停ニ止位袋一事、右奉レ勅者、行六位行授刀頭藤原朝臣房前上當見一品以下初位以上位袋者一切停却、若宜作商量者、臣等謹檢衣服令、袋從位色、緒別ニ正從ニ、明ニ上下ニ、當時裁從ニ女功勞位衣裕將着反覆欲停卸利伏請依舊兼見永從停廢謹以申聞謹奏、奉勅依奏。

4 和名鈔云。薺崔禹錫食經云。(辭居反上聲之重和名、奈都那)蒸而噉レ之、私云、今ナヅノ實ヲ俗ニ雀ノ巾着ト云。同云、蒋魴切韻云。袋ハ囊名。又金銀魚袋。唐令云。諸官人魚袋並令下ニ中何預請進上也

ハレリ
云

1 二段終ニ有美曾不三字、三段頭ニ美曾乃不乃五字ヲ今因ニ梁塵ニ補ニ乃乃之二字ヲ加ニ三段ニ。
2 安也女乃郡 愛子萬葉第六、今ハ愛婦ナリ。
3 大領、孝德天皇二年、其郡司並取國造性識清廉堪ニ時務一者爲ニ大領小領。
4 蚩字、未詳。
5 和名鈔本草云當歸(和名。夜末世里。云於保世里。又云。宇萬世里)
倭名鈔。陸詞切韻云、芹(音勤、和名世里)菜生ニ水中一也。本草云。水芹味甘シ平無ㇾ毒。一名水英。
6 コセリコソユテ、モムマシテニヲハ今ニカナハズ、萬葉ニモ、今トタカヘルテニヲハアリ、古今ニモ、秋ノ野ニ妻ナキ鹿ノ年ヲヘテナソ我戀ノカヒヨトソナクトアル下句ハ、顯昭モウタカヒヲ殘サレタリ、師說。
7 和名鈔、四聲字苑云、柞(音祚一音昨、和名由之、漢語抄云、波々曾、木名、堪ㇾ作ㇾ梳)。
8 新猿樂記云、大君父者、

我門拍子廿一　三段　一段七　二段六　三段八

和可々止爾。和加々止爾。宇波毛乃須曾奴禮。之太毛乃春曾奴禮。安左名川美。由不名川見。安左名川美。

安左名川美。由不名川見。和可奈乎之良末久。保之加良波。美[1]曾乃不乃。見曾乃不乃。

美曾乃不乃。美曾乃不乃。安也女乃己保利乃。[2]大領乃。[3]末名牟春女止以戸。於止牟春女止以戸

コソイハメ(イ)

又説止己曾以波女　千[4]蚩朝臣説

大芹拍子卅一

於[5]保世利波。久[9]爾乃沙多毛乃。己[6]世利己曾。由天々毛牟末之。古禮也古乃。前盤三多乃支。由[7]之乃支乃盤。牟之加女乃止宇。左伊可久乃左伊。乎左以止左以。兩面加須女宇介多留。支利止保之。加名波女盤木。五六可戸之。伊知六乃左以也。四三左伊也

高名博打也、筒父擢ㇾ傍簺ノ目任ㇾ意。五四尚利目四三
小切目、錐徹、一六難呉流叩子、平簺、鐵簺、金頭、
9 定筒、入破、云云。古註クニノサタモノハ諸國ヨリ奉ル物ヲ云、センハン
サンタユシナトハ皆木ノ名ニテ双六ノ盤ニ用ル也、ムシカメノトウハ頭子ヲ入ル筒也、ムシカメハ虫ノクヒ
タルカタヲエリタル也。カナハメハ盤ノメニカネヲハメ入タルナリ。

一説 蕃大　又説 古之乃支乃。比奈曾盤

今按。萬葉集第十六。詠雙六頭歌。一二之目耳不有。五六三四佐倍有。雙六乃佐叡。和名抄。兼名苑云。雙六子。一名六采。今按簿奕トイフ是也。簿音博。和名。須久呂久 同雙六采。揚氏漢語抄云。頭子 雙六乃佐以。今按ニ見文選博奕ノ詩ニ 玉篇云。塞 先代切、行棊。相塞曰レ塞。

淺水拍子十九

安左牟川乃。波之乃。止々呂止々呂止。不利之安女乃。不利爾之和禮乎。多禮曾古乃。名（轟 降 雨 古 我 誰 此 中）

加比止太天々。美[1]毛止乃加太知。世宇曾己之。止不良比爾久留也。沙支牟多知也（人(媒也)起 御 許 館乎 消 息 訪 來 添字 公 達）

又説 世ノ曾已之

和名抄。越前國。丹生郡。朝津 阿佐布豆 清少納言ニ、橋ハ。アサムツノハシ。夫木鈔廿。宗家。コトヅテム人ノ心モ。アヤウキニ。フミダニモミヌアサムツノハシ

大[3]路拍子十四二段各七

於保々知爾。曾比天乃保禮留。安乎也支加波名也。安乎也支加波名也（三乎 添 上 有 靑 柳 柳絮）

安乎也支加。之名比乎美禮波。伊末左加利名利也。伊末左可利奈利也（莫 莫 然 見 今 盛）

神代卷上云。其秋垂穎八握莫莫然甚快也。伊勢物語。藤花ノシナヒ。三尺六寸ハカリナム有ケリ。文選蓑々闇易等ノ字ヲ。シナヘルトヨメリ

我門乎大路同音拍子十四。二段各七

1 美毛止乃加太知

2 大木廿雑中　アサミツノ橋ハシノヒテワタレトモトヽロ〳〵トナルソワヒシキ、

3 大路、今按、新京朱雀ノ大路乎、大宮ノ西ノ小路トモウタヘリ、朱雀ニシタリ柳アルヨシハ讀線ニミエタリ

於保々知爾。假名有ニ不審、梁塵作ニ於保乎知爾一可レ用、一本作ニ於保於知一ニ

4 一段第二安乎也支之也ノ字脱。今ニ梁塵ニ補レ之

5 萬葉第十六、率爾今毛欲見秋芽子之四搓ニ將レ有妹之光儀乎

和可々止乎。止[1]散加宇散。爾（練）留乎乃（男）己。與（縱）之己左（不來有）留良之也。與之古左留良之也
與之奈之爾。止散加宇散。爾留乎乃己。與之己左留良之也。與之己左留良之也

鷄[2]鳴

止利波名支奴天不。可左　左久良萬呂可。之加毛乃乎。於之波之支太里。爲天春禮。奈可
古奈須萬天（又奈可古　須利天　與乎　云）[3]
刺櫛（體源抄云。拍子十五（源）又說十六）
左之久之波。多[4]宇（相）萬（似）利。名（七）々川安利（有）之可止（雖）。太[5]介久乃曾宇（椽（古註））乃。安（朝）之太爾止（取）利。與（夜）宇左利
止利。歩利之加波。左之久之毛奈（無）之也。左支光太知也

逢[6]路（躰源抄云。拍子十三）
安不美知（近江路）乃。之[7]乃々乎不々支。波（早）也比（フト通）可（吹）須。己（子）毛知（持）萬知（待）也世（瘦）奴良牟。之乃々乎不々支
也。左支光多知也

今按。千五百番歌合。左。タノム共今ハタノマジアフミヂノシノ、ヲフヾキ人ハカリナリ。顯昭判詞曰。左歌ハ。催馬樂ニ。アフミヂノシノ、ヲフヾキハヤフカスコモチマチヤセヌラムシノ、ヲフヾキ。ト中哥ニツキテヨメルナルヘシ。シノ、ヲフヾキハ。風ノ名ト申ツタヘタリ。コモチマチヤセヌラムトイフ詞ニツキテ。人ハカリケリトハヨメルニコソ。ソレモヲシハカリニヤ。タシカニ、詞ヲコトニアキラムル事ハイカヾ。大カタ神樂催馬樂ナドノウタハ。フ

1 江談菅家御點東行西行雲眇々止散加宇散ハトサマカウサマ也、爾留ハ徐歩ナリ古註、七月節會ニ、大將假粧ノ具ヲ給フ、陣ノ官人ヲハ、ネリヲトコトイヘリ、陣ハ歩心ナリ。
2 鷄鳴　無章曲。
3 古字、未詳。
4 相似　雄畧紀。
5 太介久乃萬曾宇
6 逢路ハ、近江路也。文字ヲカルノミ。
7 顚家集、君キカハナケホトヽキス黒髮ノフヽキニナレハ我モオトラス、皇極紀云山背王之頭髮斑雜毛似山羊ー今案萬葉ニ、小竹トカキテシノトヨメリ、ヲフヽキハ斑雜毛ノ左點ニヨルニ山背王ノミクシノミタレテ山羊ニ似タル躰ヲ、フヽキトイヘハ小竹ノ風ニ吹ミタレタルヲ小竹ノ小フヽキトイヘル歟。花ノフヾキナドイヘルヲ、雪吹トカクトイヘリ、是モ斑雜毛ニ叶ヘリ。比可須ヲ。判詞ニフカストカケルハ。比フ通ズル故歟是ハ不吹ニテハアラス、吹也、ヲトメサヒストイヘルモ乙女サヒスルナリ、皆古註ナリ、旅ニ久シクスミヌル人ナトニ、秋風ノ小竹ヲフキトフキヌル比サムキ夜セスカラ、古郷ノ子持タル妻ノ、待ヤ瘦ヌラム、ハヤク歸リテアヒ見タキト也。

ルキウタニテ心得ヤスキ事モアリ。又古語ナドマジリ。ユヘアリテ、ナニゴト、中アキラムベクモナキコトアリトコソ云云

更衣　韻源抄ニ云、拾子十三

己呂毛可戸世牟也。左支牟太知也。和可支奴波。乃波良之乃波良。波支乃波名須利也。

左支牟太知也

袖中抄。萩ガ花ズリノ下。此催馬樂ヲ引テ。萬葉第七。寄木。白菅之眞野乃榛原。心從毛。不念吾之衣爾摺。顯昭曰。稱大萩是歟。古枝ニ花發ナドヨムハ。此萩歟。以榛字用之。萩字ハ小萩歟。但萬葉ニハ皆以榛字用之。

同第十。吾衣摺者不在。高松之。野邊行之者。芽子摺類曾。ハギノハナノ。キヌニウツリタルガ。スレル樣ニミユル也。云云　又曰。此催馬樂ノ更衣ノ歌ニ祕說アリ。春夏ハ萩ノ葉ノズリヤトウタヒ。秋冬ハハギノ花ズリト謠フベシ。云云　其レヲ祕說ニツキテ。譜ニカキワケズ。惣ジテハギノ葉ノスリトカキタルワロシ。彼繩振ノ風俗ニ。ナハノツフラエノ。セナノ歌春ナレハ。カスミテミユルナハノツフラエ。トアルヲ。祕說トテ。春夏ト如此ウタヒ。秋冬ハキリテモミユルナハノツフラエ。トウタフガゴトシ云云　師說榛ノ花スリハ。榛ノ木ゾメトテ。此木ノ皮ニテ物ヲ染ル。色ニテ云ヘリ。サレハコソ寄木題ニテマノヽハキハラトハヨメレ。萩ノ花スリハ。露ナドニスレテ。此花ノ衣ニツキタルヲ云ヘリ。榛ト萩ト兩樣ニ心ウヘシ

何爲　韻源抄云。拾子十三

古註　シノノヲフ、キハ秋風ノハケシキヲ云、野分ナトノ類ナリ。

附案　萩ト云モノモ、シカト不可知ト見エタリ、津輕ノ封内ニ喬木一株アリ、十餘丈幹ハ四圍許アリト云、種季モ見キ、花モ葉モ常ニ云フ萩ナリ、古來津輕ニテモ、大萩歟ト云ヘリ、又薩摩ニモ大木ノ萩アリト云、又宮城野ノ萩ハ高サ二丈アマリアリ、是モ種季見キ、今世、伊藤長胤云、按萩科名、叢生、秋開紫花如豆花ト、トカク木綿等ニ考ヘガタキト見エタリ、種季曰。件ノ萩津輕弘前城ノ此方二里許ニ大鰐ト申其地ニ大日堂アリ堂ノ前林ノ中ニアリ、種季曰、今案ルニ今宮嶋ノ鳥井萩ノ木ト云リ、弘法ノ額アリ、予モ亦見キ

伊可爾世先世先也。乎[1]之乃可毛止利也（鴛鳧鳥）。伊天々由加波（出行）。於也波安利久止（親歩）。左[2]伊名戸止。與（夜）

川萬波左太女川也（妻定）。左支先多知也

陰名

久[3]保乃名乎波。名爾止可伊不（何云）。二反川良多利介不久奈宇。太[5]毛呂二反

今按。川良多利以下。梁塵抄作川[4]川多利介不久奈宇。太毛呂。比乃奈加乃比川支女。介不久奈宇太毛呂

鷹子（源拍子十五 又說十四）體源抄

多加乃己波。末呂爾多波良先（麻呂（自稱）給）。天爾須惠天（手居）。安[7]波川乃波良乃（粟津原）。美[6]久留須乃女久里乃（眞栗栖邊）。宇（鶉）

津良加良世先也（將合狩）。左支先多知也

體源抄狛朝葛云。大饗ノ引出物ニ。用鷹時必ス鷹子ヲ歌也。雅信ノ尊者ニテ被座ケルニ。若鷹ヲ引出物ニ進ゼラレタリケルニ。欲出時自取拍子鷹子ヲ歌ハレタリケル。爲珍事ト云云、庇大饗ニハウタハズ。御鷹飼不參故也。

資賢云。母屋之大饗ニハ鷹子ヲ歌也。是所以也。

本躰ハ鷹山ヲ歌也。就之有歌大饗之說云云

道口（躰源抄云。拍子十三）

見[8]知乃久知。太介不乃己不爾（國府）。和禮波安利止（我有）。於也爾萬宇之太戸（親申給）。己々呂安比乃加世也（風使也）。

1 ヲシカモトテ、鴛鳥モ、鳧ノウチナレハ、ヲシノカモトリトヨメリ。郢曲伊佐立奈牟、イサタチナムヲシノカモトリ水マサラハトクソマサラム

2 サイナム（若菜若、紫、乙女）レイノ心ナシノカ、ルワザヲシテ、サイナマル、コソイト心ツキナケレ云々、河海、罪（サイサム）。

3 古註、クホハ奥フカクカクレタル所ヲ云、ヲチクホ、谷クホナト云カコトシ。

4 或人云、川川多利ハ、十足（ツヽクリ）也。十分也、ケフクハ穂ヲホノケト云ケナリ。フクハ吹ナリ、ナウハ、無ナリ。

5 タモロハ、屯也。或ハ田面ナリ、日ノ中ハ、日本國中ナリ、稻ノ實ナル時、國風ニモ損セス、タムロシテ田ヲ守リ居レバ十分ノ年トオモヘルナリ。ヒツキメハ、田ヲ守ル女ナリ云々。

6 神功皇后紀云、狹々浪栗林（サヽナミノクルス）

7 アハツノ原ノミグルス野、アハツノハラミクルス野共ニ山階郷ノ内ニアルヘシ。粟津ハ近江粟津ニアラス、風雅歌ニ相坂ノ關ノコナタハナニトカヤナ君ニアハツノ心山シナヤ、云々ミクルス野ハ今山科郷ノ内小栗栖野ト同處ナルヘシ、ミトヲト共ニ御ノ字ナルヘシ。

8 和名鈔、北陸國越前（古之乃三知乃久知）武藏、吉見郡、高生（多介布）古註、ミチノクチタケフノコフニ我ハアリトオヤニハツケヨコロアヒノ風ト、云ル歌ヲカク歌フ也。

左支光太知也

老鼠[1]　以二[illegible]抄一補レ之。　體源抄云亦名二西寺一拍子十。

今按。西寺。拾芥抄云。西大宮。東一町。九條坊門南。歴代編年集成云。延暦十五年以二大納言藤原伊勢人一爲二造寺長官一建二立東西兩寺一。古今和歌集。西寺ノ柳ヲ。僧正遍照淺緑イトヨリカケテシラ露ヲ玉ニモヌケル春ノ柳カ

爾之天良乃。爾之天良乃。於伊禰須美。和加禰須美。於光毛川牟川。介左川牟川。介在

川牟川。保宇之仁萬宇左光。之爾萬宇世。保宇之爾萬宇左牟。之爾萬宇世

今按。體源抄朝葛曰。本西寺ノ詞ニ。法藏ト歌ハヒガ事也。蔭背川ムツ[3]袈裟ツムツ。或人云。蔭背ハ横ニ被名ナリト云云

呂歌

安名尊拍子十四。三段。一段六。二段五。三段三。

安[74]名多不止。介不乃太不止左也。伊爾之戸毛。波禮

伊爾之戸毛。可久也安利介光也。介不乃多不止左。也(梁井異入)

安[75]波禮。曾己與之也。介不乃太不止左。也(異入)

體源抄狛朝葛云。安名尊ヲ歌ツレバ。新年ハウタハザル也。先年ニ、左右ヲ別テ扇合アリ。事ヲハリテ御遊ノトキ。政長朝臣爲二方人一。安名尊ヲウタフ時。故二條關白殿。新年ヲ歌ベキヨシ其仰アリ。政長コレヲウタノ。聞二方人嘲

1 藤原ノ大[illegible]云、此歌ヲ[illegible]久日向レ西[illegible]拾ノ足之時[illegible]三度拍子云々。[illegible]聲[illegible]アレトモ此ニハ似ヨラサルヿナレハ畧之。此曲、西寺ノ老鼠ト云事アリ、老鼠トハ呂備馬樂也。

2 宴曲抄下鼠聟曰。川牟川、今案、ムカハヲ以テ喰ヲツムト云、ツム是乎

3 えむしやうつみ久けさつみ宴曲抄下。

4 アナ古語拾遺云アナタフトケフノタフトサイニシヘモカクヤアリケムケフノタノシサトイヘル歌ナリ。師說。此タフトハ。タノシキヲ云。欽明五年ノ記ニ。貴盛ヲタノシトモ。タフトシトモ。兩方ニ點セリ云云

5 古註　アハレソコヨシヤハ歌ノフシ也、人ヲタツトフ詞ナリ。

哢。政長ノ云ク。一日ノ事。人人嘲哢セラル。更ニアヤマタザル事ナリ。指シ仰セアラムニヲイテハ。提坊(紡末)ヲ忌ベキヨシ。前言耳ニアリ。而ルニ殿ノ仰ニヨテ。ウタハシムル處ナリ。殿ハ大納言ノ弟子ニテマシマセバ。豈シロシメサザラン

ヤ云云

新年拍子十四。三段。一段六。二段五。三段三。

安多良之友。止之乃波之女爾也。加久之己曾。波禮
（新年始遡。何久志社）

可久之己曾。川可戸末川良女也。與呂川與萬天爾
（供奉良女。萬代摩提升（續日本紀））

安波禮。曾己與之也。與呂川與萬天爾

古今、大歌所、オホナホヒノ歌、アタラシキトシノハジメニカクシコソチトセヲカネテタノシキヲツメ
日本紀ニハ、ツカヘマツラメ萬代マテニ
年中行事秘抄云。

體源抄云。賚時入道云。常不レ稱ニ年字一。云云 狛朝葛云。安名尊ヲウタヒツレバ。新年ヲウタハザル也。朝覲行幸ニハ。心新年ヲウタフベキ也。詞千金ニ直スル故也云云

梅枝拍子十四。三段。一段六。二段五。三段三。

无女加江爾。支爲留宇久比春也。波留可介天波禮
（梅枝。來居鶯。春）

者留加計天。名介止毛伊萬太也。由支波不利川々
（雖鳴未。雪降）

安波禮曾己與之也。由支波不利川々

古今集、春

體源抄朝葛云。梅枝ニハ。鳴クトモノ字ヲバ。御前ノ儀ニハ不レ歌。棲トモト歌也

櫻[1]人拍子廿二。三段各十二。一字

今按。和名鈔云。啄木。地久樂[2]。卽歌有。櫻人曲是也。師說。櫻人ハ。難波人須磨人ト同シ。和名鈔。尾張國愛智郡作良。此所ナルベシ。萬葉第三。櫻田[3]ヘタヅ鳴ワタルアユチカタシホヒニケラシタヅナキワタル

左-久-良-比-止。曾[4]-乃-不-禰-知-々-女。之[5]-末-川-多-乎。止-萬-知-川-久-禮-留。見-天-可-戸-利-己-牟-也。

曾-與-也。安-春-可-戸-利-己-牟。曾-於-與-於-也。

答[7]己-止-乎-己-曾。安-須-止-毛-以-波-女。乎[6]-千-可-太-爾。川-萬-左-留-世-那-波。安-春-毛-左-禰-己-之-也。曾-與-左。

(河海)安-春-毛-左-禰-己-之-也。曾-與-也　一說　川末左留比止波

葦垣拍子卅五段各六。

超　耻隔ノ切體源ノ說トイヘト天不ノ詔トハシカタシ

安[8]-之-可-支-末-可-支。萬-可-支-加-支-和-介。天[9]-不-己-春-止。於-比-己-須-止。波-禮

天-不-己-春-止。多-禮-加。己-乃-己-止-乎。於-也-爾-末-宇-與-己-之-末-宇-之-之

止[10]-々-呂-介-留。己-乃-以-戸。己-乃-伊-戸-乃-於-止-與-女。於-也-爾-萬-宇-與-己-之-介-良-之-毛

婦答　安-女-川-知-乃。可-見-毛。可-美-毛-曾-宇-之-多-戸。和-禮-波。萬-宇-與-己-之-萬-宇-左-春

1 體源鈔大、景範記云、イツレノ比ノ事ニカ、大宮右大臣、殿上人ノ時、南殿ノ櫻サカリナル比、ウヘ殿ヨリイマタ裝束モアラタメスシテ、御階ノ本ニテ、櫻花ヲホラレケリ。霞ワタレル大内山ノ春、霞ノヨニシラス心スミケレハ、高欄ニヨリカヽリテ、扇ヲ拍子ニ打テ櫻人ノ曲ヲ、數反ウタハレケルニ、多政方カ、陣直ツトメテ侯ケルカ、歌ノ聲ヲキヽテ花ノモトニスヽミ出テ、地久破ヲツカウマツリタリケリ、花田狩衣袴ヲソ着タリケル、舞ハテ、入ケルトキ櫻人ヲアラタメテ、蘇山ヲウタハレケルニ、政方久立歸テ、同急ヲマヒケル、イミシクヤサシカリケル事ナリ。

2 體源抄云、地久此樂、呂催馬樂、櫻人ニ合。

3 櫻トイフ所ニ田多ケレハ櫻田トイヘルニヤ。

4 ソノ舟チヽメハ、止メ也、河海ニハ止止女トモ侍リ。

5 師說　之末川多ハ嶋津田ニテ、嶋ニアル田ナリ、重之集ニ名取川ワタリテツクル小嶋田ヲモルニツケツヽ夜カレノミスル

6 二段ハ櫻人ノコタフルナリ、彼方ハ嶋津田アル所ヲサセリ、ツマサルハ、妻アル也。アトサト通セリ、セナハ男女ノ中ニテ云ニカキラス。セハ兄ノ字ナレハ、人ヲウヤマヒテイフ也、ナハ添タル字ナリ、サネコシヤハ、マコトニ歸リコシト也。

7 師說、古事記仁德御製、コトヲコソ菅トハイハメ、日本紀木梨輕太子御歌コトヲコソタヽミトイハメ、皆古語也。コトハニコソナリ。

8 體源抄云。葦垣催也。西王樂ノ序ナリ。

9 テフコスハ。超ノ字ナリ。晉ト訓ト云リ。オヒコスハ負越ナリ。源氏ニ、トシヘニケル此家ノトハ、祝言ノ詞ナレハ、致仕ノオトヾウタヒカヘラレタルニヤ。朗詠今樣ニモ如レ此ノ事有ナリ

10 今案、トヽロケルハ、ロサカナキナトイヘルカ如シ。止々呂介留、以下以二奥入一補レ之。

體源抄、大神景範記云、長竹譜云。西王樂葦垣ト同音ナリ、又云、以二葦垣一爲レ序以二廣山一爲レ破。續教訓抄云、長竹譜云、仁明天皇ノ御作ナリ、葦垣ト同音ナリ。舞ハ舞師、大上是成カ所作ナリ、又云、承和聖主御製作、云云。

同
須（菅）加乃禰（根）乃。春可名。須可奈支己止乎（無實也）。和禮波支久（聞）。和禮波支久。宇之可名（概哉（神武紀））
今按。萬葉第十。春ザレハ卯花クダシ吾越シ妹カ垣マハアレニケムカモ。同十三。葦垣之末掻別而君越跡人丹勿告事者棚知（利イ）。此等ノ歌ニヨリテツクレルニヤ

山城　代（目）　體源抄。三段拍子。各十。合拍子卅　目録拍子廿七。三段各九。又云夏也。西王樂ノコハフリナリト畢

也末之呂乃。[1]古（狛）萬乃和（渡）太利乃。[2]宇（瓜）利川（作）久利。名與也。良（曲節）以之奈也。左（同上）伊之奈也。宇里川久利。宇利川久里。波禮
宇里川久里。[3]和禮乎保之止伊不。伊加爾世牟。名與也。良伊之名也。左伊之奈也。以可耳世牟。以加爾世牟。波禮
以加爾世牟。[4]奈利也志那萬之。宇利多川萬天爾也。[5]良以之奈也。左以之名也。宇利多川末。宇利太（宇（河海））川萬天爾。波禮　又説　第二段第三段　和禮（我）乎曾保之（欲）止以云不名利也波之奈萬之

[6]今按。體源抄朝葛云。山城ノ歌詞ニ。ライシナヤ。サイシナヤ。ト云詞。葛城之詞ニ。乎志止止云詞等。其ノ童謠之詞トモ也。タトヘバ。近來ノ童謠ニ。ヤレコトツトウセイサラナリト云義ナリ云云

眞金吹　前（目）　目録ニ拍子十八。二段各九。山代同音　體源抄。二段拍子各十。合拍子廿

[7]萬（鐵）加禰不久。支（吹（鍛冶）吉）比（備）乃名（中）加也萬（山）。於比（帶）爾世留（爲）。奈與也。良以之名也。左伊之奈也。於比爾

---

1 拾雜下、音ニキクコマノ渡リノ瓜ツクリトナリカクナリナルコヽロカナ、大納言朝光
2 萬葉第六。コマ山ニ鳴ホトトギス泉川ワタリヲ遠ミコヽニカヨハズ　蜻蛉日記ニ千代モヘヨ立カヘリツヽ山シロノコマニクラベシ瓜ノ末ナリ
3 古今足引ノ山田ノソホヅオノレサヘ我ヲホシトイフウレハシキコト
4 萬之以上以ニ奥入ニ補レ之。古註、ナリヤシナマシハ、ウリツクリノ妻ニナリヤセマシトナリ。ウリタツマテニハ、瓜ノナリタツマテニヤマズホシトイフ心也。
5 續教訓抄第四末云、西王樂古樂○此破山城歌、音振様也。又上書訖應山音也、眞爲難決。
6 長竹譜云、上件ノ花賀ノ時笛曲ヲ作ル、仁明天皇ノ御作ナリ、（序事也）葦垣ト同音也。舞ハ舞師犬上是成カ所作ナリ、又云承和聖主御製作、以葦垣爲序以應山爲破云々。
7 眞金吹哥脱。以ニ梁塵抄ニ補レ之。

世留。於比爾世留。波禮

於比爾世留。保曾太爾加波乃(細谷川)。於止乃左也介左(音清)。良以之名也。左伊之奈也。於止乃左

也。於止乃左也介左也

今按古今集。大歌所御歌マカネ吹吉備ノ中山オビニセル細谷川ノ音ノサヤケサ。コノウタハ。承和ノオホムベノ。キビノクニノウタ。云云

竹河拍子十四二段各七

[1]太介加波乃(多氣河)。波之乃川女名留也(橋端在)。波之乃川女名留也。波奈曾乃爾(花薗)。波禮

波名曾乃爾。和禮乎波波奈天也(我 発也又放置也)。和禮乎波波名天也。[2]女左之多久戸天

今按。六帖。[3]竹河ノ橋ノツメナル花ゾノニ我ヲバユルセメザシタグヘテ。河海抄云

竹河大和國宇陀郡有二竹河流一之由見二舊記一云云　和名鈔云。大和國宇陀郡多氣。此乎

河口拍子十四　二段各七

[4]加波久知乃(河口)。世支乃安良可支也(關荒垣)。世支乃安良可支也。末毛禮止毛(雖守)。波禮

萬毛禮度毛。伊天々和禮禰奴也(出我寢畢)。以天々和禮禰奴也。世支乃安良可支

又說　伊天々安比爾支也

1 伊勢國多氣郡、丈木、タケ川ヤユタ野ヲミレハハル〱トヤ山田ノ原ノ松ハクモレル際心法師、天智紀童謠。

2 今案、アマノメサシノオトナリセハ、トイヘル歌ニヨレハ、メサシハ、童女ノ事トミユ、カイツモノナトヲ入ル籠ヲ、カメサシト云イヘルハ、カコハメヲサシクムモノナレハイヘル歟。ソレヲ持テ、海邊ヘイツレハ、メサシト海士ノ子ヲイヘル歟、又和布ヲサシトレハ、メサシト名付ル歟。

3 伊勢名所集云、竹河齋宮ノ頓テ西ノ方ナル村也、延喜式ニ、齋宮群行ノ時、此所ニテ、前鎭ノ秡アルヨシミエタリ。タケカハノ橋ノ：齋宮ノマシ〱ケル昔ハ：橋、モ有シト也、其近キホトニ今モ花薗ト云所アリ。皆、民ノ田地ニホリナシタレハ、古ノ花薗ノ跡ノシルシトテ、椿ナト殘シオケリ。云云

附箋

東奥ノ俗語ニ女兒ヲめらしト云、男兒ヲわらしト云、めらしハめざしノ轉ゼル歟ざとらトモニ舌音ナレハゾさモ常ニハ齒音ナレド、ざト濁レハ舌音ナリ、舌齒相通ト云サバキ、韻學ノモノノ云事ナレハ、齒音舌音通ジ用ウト云ベキ、今ノ歌、

竹河ノ橋ノツメ在ルハ、指ニ花園地ニ而言ヘリ、兒女ヲ携ヘテ花園ニ遊バムト云心歟

種季曰

4 伊勢國、新後撰、クモリナク月モテレトヤ川口ノセキノアラカキマトホナルラム後嵯峨院。

今按六帖第二。川口ノ關ノアラガキマモレドモ出テ我ネヌ忍ビ〳〵ニ。同。川口ノ關ノアラ垣イカナレバ夜ノ通ヒヲユルサヾル覽

美作拍子十五。二段。一段八。二段七。

美萬左可也。久女乃。久女乃左良也萬。左良左良爾。名與也。左良左良爾。奈與也

左良左良爾。和可名。和可名波太天之。與呂川與萬天爾也。與呂川與末天爾也

今按。古今集。大歌所御歌。美作ヤ久米ノサラ山サラ〳〵ニ我名ハタテジ萬代マデニ。コレハ。水尾ノオホムベノ。ミマサカノ國ノ歌。體源抄。朝葛云。美作呂歌。美作歌振ハ。柳花苑ニ合ナリ。コレニヨテ面白キ也。上古催馬樂ヲモテ作レ樂ヲ者流例也。以二樂之音曲一合レ歌天歌出シ證。如レ此云云

藤生野[1] 體源抄。二段。拍子各八。合拍子十六。

不知不乃々。可多知。可太知加波良乎。[2] 之女波也之。奈與也。之女波也之。奈與也

之女波也之。以川支。以波比之々留久。止支爾安戸留可毛也。止支爾安戸留可毛也

今按。日本後紀云。天長八年二月戊寅。新築二山城國綴喜郡香達池一。百姓所レ願也。好忠家集。フヂフ野ニ柴カル民ノ手モタユクツカネモアヘズカゼノ寒サニ

婦與我拍子九

伊毛止安禮止。伊留左乃也末乃。[3] 也萬[5]安良々支。天名止利不禮曾也。可保萬左留可爾也。[4]

1 袖中抄、作二瓜生野一。

2 古註、フヂフノ、カタチカ原ニシメハヤシイツキイハヒシシルク時ニアヘルカモト云歌也。藤生野ニ神ノ社アルヘシ。

3 入佐山、但馬、八雲御抄、師說未勘國。後撰秋下、梓弓イルサノ山ハ秋キリノアタルコトニヤ色マサルラム　宗于朝臣

4 郢曲、伊佐立奈米、イサタチナム、ヲシノカモトリ、水マサラバ、トクゾマサラム。

5 庶人三台詠云、アラ、キノ末ニ花サク、コトシバカリハカゼナフカセソ、安良々木ハ、カフチバカリニ、キテネヌレバ、心カウバシ。

止[1]久末左留可爾也（德）

一說　可保萬左留加禰也　止久萬左留加禰也

今按。六帖。我セコガイルサノ山ノ山アラヽキ手ナトリフレソ香モマサルカニ。（大伴郎女）允恭天皇二年紀云。初皇后隨レ母在レ家。獨遊二苑中一。時鬪鷄國造。從二傍徑一行之。乘馬而莅レ籬。謂二皇后一嘲之曰。能作レ園乎。汝者也（汝此云二那鼻音也一）且曰。壓乞戶母。（壓乞此云二異提一　戶母此云二覩自一）其蘭一莖焉。和名鈔。陶隱居本草注云。澤蘭（和名佐波阿良々木　一云阿加末久佐）生二澤傍一。故以名之

奥山拍子九

於[2]久也末爾。（奥山）支々留也乎知。（木伐　老翁）（神代紀）支也波介川留。（木削）末支也波介川留。（木）支介川留乎知

奥山爾拍子十三（目錄）

於久也萬爾。支名可須左[3]可支加乎知。（木流　老翁）支也止支也止。（木截　疾　哉乎）萬支也波介川留。支也波介川留。支介川留乎知

鷹山　拍子十六。二段各八。體源抄云冬ナリ、西王樂ノ破タリ

太加也末爾。（鷹山）多加乎。（鷹）太可乎波名知安介。（放　揚）乎[4]久乎名美。安波禮。乎[4]久乎奈美。波禮乎久乎那美。和可春。（吾）和可須留止支爾。（吾爲時）安戶留世奈可毛也。（合背）安戶留世奈可毛也

1 古註、以二止久一爲レ德、蘭ニ不レ聞レ有レ德、依レ茲爲レ德焉、郢曲ノイサ立ナムヲ内宮年中行事ニウタヘルハ結句ヲトミソマサラムトイヘリ、富モ德モ大ヤウ似タルコト、コソ思ヒ侍レ。

2 奥山爾。梁塵抄作二奥々山一、萬葉十、ひた人ノマキナカステフ丹生ノ川コトハカヨヘト舟ソカヨハヌ　同十三、長哥略、ヲノトリテニフノヒ山ノ木コリキテイカタニツクリ、

3 左加支、山城ノ所ニクハシ。

4 乎久乎名美、古註オクハ、鷹ヲ木ニ居置也、ヲナミハ女也、云云。置ノ義ナレハ於久ナリ、居ノ心ニヒカレテ乎久ニテモ假字ノ不レ差ニヤ

又說安戸留之良加毛

此殿者

此歌舊脫、以ニ異本歌一補レ之。

己（此殿）乃止乃波。牟戸毛止美介利（諸富）。左支久左乃（福草）。安波禮左支久左乃波名（花）（イ名）。美川波與川波乃奈可爾（三葉四葉中）。止乃川久利世利也（殿作爲）。止乃川久利世利也

師說、古今集序、イハヒ歌、此トノハムヘモトミケリサキ草ノミツハヨツハニトノツクリセリ、源氏初音ニ、コノトノ、ウチ出タルハウシ（拍子）、イトハナヤカナリ、オト、モ、トキノ〳〵聲ウチソヘタマヘル、サキ草ノ末ツカタイトナツカシウメデタクキコユ、トイヘリ、ムヘモトミケリハ、諸ノ字宜ノ字ナトヲ、ムヘトヨメリ、ケニモ聞ツルコトク富ケリノ心也、サキ草ハ、ミツトイフヘキ枕詞ナリ、和名鈔云、文字集略ニ云、蒚（音嫡和名、佐木久佐、日本紀私記云、福草、）草枝々相値、葉々相當也、延喜式治部省式云、福草瑞草也、朱草別名也、生ニ宗廟中ニ、此草枝々葉々カタタガヒナラネバ、中ヲソヘテハミツアル故ニ、ミツハトツヾケタリ、又令義解神祇令云、三枝祭（謂ル率川社ノ祭也、以ニ三枝ノ花ヲ飾ニ酒樽ヲ祭ル故曰ニ三枝ト也、）コレハ、三枝ノ花ヲ、福草ニナスラヘテ、酒樽ヲ飾テ、神ニ祭ル故ニ、サイクサ祭ト名付ル歟、萬葉第五長歌ニ、サキクサノ中ニヲネムト、アルモ、ミツアル物ニハ、必中アル故ニツ、ケタリ、枕草子ニ、ヒノキ、人チカ、ラヌ物ナレド、ミツハヨツハノトノゾクリモオカシ、トカケルニテ、後ノ人、檜ノ木ノ異名トオモヘリ、清少納言モ、シカオモヘル歟、只詞ヲノミ取テイヘルニモ有ヘシ、ミツハヨツハトイヘルハ、軒ノ三端四端ニカサナレルナリ、重閣ノ三層四層ニモ、又コナタカナタニ作レル殿ノ、軒ノ一所ニ集マリテ重レル心ニモ有ヘシ、今案、此歌ヲ、内侍所ノ殿作リヲヨメルトイヘル說、且テ無ニ所據一說ナリ、用ウヘカラス、

此殿西[1]

己乃止乃乃。爾之乃。爾之乃久良加支。波留比須良安波禮。波留比春良。波禮。波留比須良。由介止。由介止毛川支須。爾之乃久良加支也。爾之乃久良加支

今案、コノトノ、ニシノクラガキ春日スラユケトモツキスニシノクラカキ、ト云ル歌ナルヘシ

紀伊國拍子十六。二段。一段九。二段七。

支乃久爾乃。之良良乃波末爾。末之良良乃波末爾。於利爲留可毛女。波禮。曾乃太末毛天己

可世之毛不介波。名己利之毛太天禮波。美[3]名曾己支利天。波禮。曾乃太末美江春

本說 可世之毛不以太禮波奈己利之毛太天禮波 又作歌本四段也。而只用三一段。其歌。二乎[4]段詞云

石川[5]拍子十五。三段。一段六。二段六。三段三。

[7]伊之加波乃。己末宇止爾。於比乎止良禮天。可良支久以[6]須留。己比須留（河海）

伊可奈留。以可奈留於比曾。波奈多乃於比乃。奈可波多伊禮奈留加。多（河）ナシ（河）

可也留可安也留加。奈可波太伊禮太留可 左（河）

1 此歌脱、以二異本一補レ之

2 萬葉十六、紫ノコカタノウミニカツク鳥タマカツキ出ハワカ玉ニセム　新葉集、君カ代ノカスニモトヲムキノ國ノシララノ濱ニツメルイサコヲ

3 夫木、寛治三年、四條宮扇合歌、カモメヰルシララノ濱ノ水底ニソノ玉ミユル秋ノ夜ノ月　よみ人不知　今案、萬葉ニ、天霧相トカキテ、アマキラヒトヨメリキリテハ遮ル心ナリ、アマキル事トヨメルモ同シ心也ソコキリハ底霧也。

4 詞云。此下脱二三段歌一乎

5 體源抄第九、石川、中曲、此樂ハ石川ト申、催馬樂ニ同音也。

6 悔ハ久以ナリ、久也牟ト云トキ也、以由江與ノ行ナリ。可也留、體源抄第九、石川ノ注ニ、カヤルカアヤルカハ人ニモノトラスルヲ云ナリ。

7 石河ハ大和國高市郡ニアリ河内ニモアレト、昔高麗等ノ國ヨリ來化セル人多ク大和ニオカルヽ、日本紀ニ今來郡トイヘルハ、今大和ニハナシ、高市郡ニ今來アリ、此名モ、異國ヨリ來タル者ヲ、スヱオカセタマヒケル故ノ名トミエタリ。師說。又云、石川は大和國高市郡の石川、もしは河内の石川なるへし。長明の石川やせみの小川とよまれたるは加茂川の別名にて、そこにてはあるへからす。姓氏錄、河内國諸蕃下大狛連出レ自二高麗人伊利斯沙禮斯一也。大狛連出自高麗溢士福貴王也。島木高麗國伊理和須使主後也。

1 體源抄大神景範記云、榎葉井、抑此曲、承和帝主御作舞犬上是成作之、催馬樂葛城同音。此葛城ノ歌ハ光仁紀ニアル童謡ヲ歌ヒ損セルナリ。葛城寺(乃)前在(也)豐浦寺(乃)西在(也)於志(止度)刀志(止度)櫻井(爾)白璧(志豆久也)好璧(之豆久也)於志(止度)刀志(止度)然爲(波)國曾昌(由流也)五家(良曾)昌(由流也)於志(止度)刀志(止度)于時井上内親王爲妃、讖者以爲井則内親王之名白璧爲天皇之諱、蓋天皇登極之徵也、コレヲモテ引合シテ知ヘシ。

2 葛城寺ノ前豐浦寺ノ西トイヘルハ葛城寺ハ西ニアリテ東ニ向ヒ、豐浦寺ハ南ナリトニ向ヒテ、其西ノ方ニ櫻井ハ有歟。櫻井、榎葉井、其名大キニタカヘリ。又昔ヨリ葛城寺則豐浦ト心エケルニヤ、葛城ニテえのは井を尋ネケルヨシ、無名抄ニカカレタリ。

3 長明歌ニ、カツラキヤ豐浦ノ寺ノえのは井ニ猶シラ玉ヲシツク月影、豐浦寺ハ高市郡ナリ、此故ニ萬葉第八ニ故郷豐浦寺トイヘリ元明天皇藤原宮ヨリ、奈良宮ヘ遷ラセ給ヘル故ニ、彼集ニハ、明日香川ノ邊ヲサシテ故郷トイヘリ。葛城寺ハ葛上郡ナレハ、更ニオナシカラス。カツラキヤトヨラノ寺ノ秋ノ月西ニナルマテ影ヲコソミシ、是又長明ノ歌ト同シヤウニ心エテヨメリ。白璧ヲシラ玉トウタフハ、推量スルニ、璧ヲ瑤ト見タカヘタルナルヘシ。

紀ニ五家(良曾)トアルハ、此歌ニヨルニ、五ハ吾ノ字ノ下ノ、ロノ落タルナルヘシ。師説

異説 奈可波太以繻太留可

今按。續日本紀。孝謙天皇。天平感寶元年。冬十月乙亥。幸石川之上。志紀。大縣。安宿。三郡百姓。年百以下、小兒已上賜物。和名鈔。河内國石川(以之加波)郡。志紀大縣安宿幷河内之郡名也。奈可波多伊禮奈留加。中綿不入歟也。奈留左留也。音通。綿假名以和多(奈留乎)。後人誤爲中絕。雖高麗人取於中絕之帶而何益有焉。袖中抄河海抄等亦與今同

葛城

拍子廿二三段。一段六。二段七。三段九。
體源抄云雜ナリ

可川良支乃(葛城)。天良乃末戸名留也(寺前在)。止與良乃天良乃爾之奈留也(豐浦寺西在)

江乃波爲爾(榎葉井)。之良太萬之川久也(白璧沈(萬葉))。末之良太末之川久也(好璧)。於之止々。止於之止々

之可之天波(然而)。久爾曾左可江无也(國將昌)。和伊戸良曾(吾家)。止美世无也(將富)。於々之止々。止之屯止。於々之屯止。止之屯止

體源抄朝葛云。清暑堂御神樂ニハ。葛城ヲ歌也。又臨時客ニ歌之。云云 無名抄云。或人云。宮内卿有賢朝臣。時ノ殿上人七八人アヒトモナヒテ。大和國カヅラキノカタヘアソビニユカレタル事アリケリ。ソノ時アル所ニアレタル堂ノ。オホキニヤウ〳〵シキガミエケレバ。アヤシクテソノ名ヲ。アフ人ゴトニトヒケレドモ。シレル人モナカリケリ。カヽルアイダニ。事ノホカニビン白キ翁ヒトリマ見エケリ。コレハシモヤウアラムトテタヅネケレバ。コレヲバ

トヨラ寺ト申トイフ。人々イミジキ事也ト返々感ジテ。サルニテモ。モシコノヘンニ。エノハ井トイソ井ヤアルトトフ。ミナアセテ水モ侍ラネド。アトハ今ニ侍リトテ。堂ヨリ西イクホドナラヌホドニ。ユキテヲシヘケレバ。人々與ニ入テ。ヤガテソコニムレ居テ。カヅラキトイフ歌數十返ウタヒテ。コノ翁ニキスドモスギテカヅケタリケレバ。オボエヌコトニアヒヌトテ。ヨロコビカシコマリサリニケルトゾ。

此殿與拍子十六。二段。一段七。二段八。

己乃止乃々。於久乃。於久乃左可也乃。宇[1]波多末利。安波禮。宇波太萬利。波禮宇波太萬利。和禮乎。和禮乎己不良之。己[2]左可己惠奈留也。己惠奈留也

我家拍子十一

和伊戸。波。止波利帳毛多禮太留乎。於々保支美支萬世。无己爾世无。美左可奈爾奈爾與介无。[3]安波[4]比左多乎加可世與介无。安波比左太乎可加世與介无

古說止留良无也。比久良无也。安波比乃之萬奈留之萬男　此說今不レ用

今按。體源抄朝葛云。執聟ノ家。臨時ノ客ニハ。吾家ヲ歌フ云

[5]青馬　拍子十二　體源抄云春ナリ

[6]安乎乃末波奈禮波。止利川奈介。左乎乃萬者奈禮波。止利川奈介。之乃以左也乃。之乃左也乃。左世己可比己名留。左以論語。末多波太論語乃。多以支乃和良波乃。左世己加比己奈留。左伊論語

1 古註、ウハタマリハ、酒屋ニ酒ヲウル女ヲ云。

2 己左可己惠ハ、小坂聲ニハアラヌニヤ、タトヘハ坂東聲ナド云ノタグヒナリ。越ノ因ノ字ハ己江ナリ。種李

3 延喜式、蠑(サ、エ)崔禹錫食經云、蠑螺子(和名左太江)似レ蛤而圓ナル者也。サタヲカハ、是乎。本草云、石陰子(漢語抄ニ云甲贏ナルニテ世)。此物生ニ海中ニ陰精故以名レ之。

5 體源抄、大神景範記云、夏引樂、初拍子五、已下八、此曲。笛承和帝御作、舞是成作、催馬樂、青馬歌音也。

6 驄馬說文云、驄(音聰漢語抄云、驄ハ青馬也、黃驄馬ハ葦苑毛ノ馬也。日本紀私記云、美太良乎乃宇萬)青白雜毛馬也。多以巳下十三字以ニ梁塵抄一補レ之。

淺緑拍子十二

安左美止利。己以波奈太。曾女加介太利止毛。美留萬天爾。太萬比可留。之太比可留。

新京朱左可乃。之多利也奈支。萬太波太爲止奈留

前栽安支波支。奈天之己。[2]可良保比。之太利也奈支

今按。萬葉集第十。淺緑染懸有跡見左右二春楊者目生來鴨。凌雲集云。和下菅祭酒賦二朱雀褰柳一作上。皇城陌上楊将レ柳。兩々三々夾レ道斜。疇昔榮華都不レ見。今時憔悴一應レ嗟。古今集。花ザカリニ京ヲミヤリテ。素性法師。ミワタセバ柳サクラヲコキマゼ

テミヤコゾ春ノニシキ成ケル

妹之門　體源抄云。拍子十二　源又說廿二

伊毛可々度。世奈可々止。由支須支可禰天也。和可由可波。[3]比知可左乃。比知可左乃。安女毛也不良奈无。之天多乎左。安万也止利。可左也止利。也止利天末加良无。之天多乎左

今按。萬集第十一。妹門去過不レ勝都久方乃雨毛零奴可其乎因将レ爲。袖中抄云。シデ田ヲサハ。田ツクル物ナリ。シヅノタヲサナリ。シデトシヅトハ。同五音ナリ

席田拍子十二。二段各六。體源

[1] 萬太波太爲止奈留。梁塵抄作二萬太伊太爲止名留一。而解二又或二板井一。

[2] 古註カラホヒハ唐葵也。

[3] 源氏須磨、ヒチカサ、雨トカフリテ。古註、ヒチカサ雨トハ、俄ニフル雨ノ、笠モ取アヘスシテ、袖ヲカツク雨也。

[1]无之呂太乃。无之呂太乃。以[2]川奴支加波爾也。須无川留乃。伊川奴支加波爾也。須无川留乃（第二ノ伊川奴支加波爾也。以下十三字。以二梁塵抄一補レ之）

須无川留乃。春无川留乃。知止世乎可爾天曾。安曾比安戸留。與呂川與加爾天曾。安曾比安戸留（與呂川與。以下十三字以二梁塵抄一補レ之）

今按。體源抄催馬樂目錄云。席田。美濃。元慶悠紀。風俗。又朝葛云。莚田ノ初段ニハ。棲鶴ヲバ二度不レ唱ナリ。主上ノ御前ニテ歌ニハ。身ヲ堅ク心ヲ愼テ。主上ニ對奉テ。帝德ヲ褒タテマツル如クニテ可レ歌也云云 古今集。ミノ、國セキノフヂ川タエズシテ君ニツカヘム萬代マデニ。コレハ元慶ノオホムベノ美濃ノウタ。云云 三代實錄第三十一云。元慶元年四月十九日庚寅。卜定。悠紀美濃國席田郡。（和名無之呂太）主基備中國都宇郡。並卜食。六帖。國。ミノ山ニシゲリカサナル。云云 作者大伴黑主。師說イツヌキ川ノ歌モ。六帖ノ歌モ。此時ノ歌ニテ。作者モ黑主ナルヘシ

鈴之川體源抄。拍子九。

[3]須々加々波。也曾世乃太支乎。美名比止乃。女川留毛之留久。止支爾安陪留。止支爾安陪留可毛

[4]酒飲拍子八

左介乎太宇戸天。太戸[5]惠宇天。太不止已利。曾（梁塵作已利牟曾也）萬宇天久曾。與呂保比曾。末宇天

1 新拾、席田ニ千年ヲカネテスム鶴モ君カヨハヒニシカシトソ思フ　師光。
2 金賀、君カ代ハイク萬代カカサヌヘキイツヌキ川ノ鶴ノ毛衣　藤原資經。
3 古註、ス、カ川八十セノタキヲ皆人ノメヅルモシルク時ニアヘルカモ、ト云歌ナリ。
4 續教訓抄云、胡德樂、催馬樂酒飲合、多忠節記。町クタリヨロホヒ出テ世ヲミレハ物ノコトワリ皆シラレケリ慈鎭ノ詠トイヘリ。
5 惠字天、厩戸ノ色葉ニゑひもせすトアレハ、今此ハ惠フテ不天ナルヘキニ。
體源抄云、唱歌事。成佐云ク、唱歌ノ詞ハ、百濟國ノ語ナリ。我朝ノ音樂濫觴ハ百濟國ヨリ渡ルナリ。タリ、チリ、如レ此ノ詞ナリ。皆彼國ノ語ナリ。云云

久留。〻〻〻〻〻。〻〻〻〻〻。梁塵愚案抄無二此ノ重點一而シテ作二多牟名。多牟奈太利也。良无奈多利。知利宇ニ良(體源抄第九)爲下表二シクル笛ノ聲ヲ歌之曲節上ト 躰源第九與此說同

今按。躰源抄。朝葛云。箏彈スル妻云。催馬樂酒飲ト。右樂胡德樂ト。只一甲相替ト云

1田中丶丶(井戸(梁))拍子十 體源十一末催馬樂同音樂ニ者催馬樂所ニ注胡飲酒破ト田中井戸全無相違云々

(田中井戸)太名加乃爲度爾。比可禮留太奈支。川女川女安己女。己安己女(田水葱(和名)摘 摘)

多太利良利。太奈可乃己安己女

美濃山 體源抄藤拍子十。源又說廿 備前國。悠紀。風俗。

美乃也萬爾。之々爾於比多留。太萬加之波。止與乃安可利爾(梁)。安不加多乃之左也。安不加太乃之左也

今按。六帖。國ノ題ノ歌ニ。大伴黒主。ミノ山ニシゲリカサナル玉柏トヨノアカリニアフガタノシサ。梁塵抄。此歌ハ承和帝ノ。大嘗會ノ悠紀ノ風俗ノ歌也。云云 梁塵誤レリ。續日本後紀第一。仁明天皇。天長十年三月戊子朔。己酉。トニ定大嘗會事一。以二近江國高嶋郡一爲二悠紀一。備中國下道郡爲二主基一。云云 天長十一年則承和元也。和名鈔。備前國御野郡御野美乃。體源說近レ是。不レ知何レノ御代ノ風俗トイフコト

大宮拍子十 子藤(中畧テア反)

2於保美也乃。爾之乃己无知爾。安也女己无太利。左也女己无太利。多良利也。輪太名(大宮西小路漢女(貞觀儀式指女云)有 曲節 アト通)

ハキカス云云。如レ此御贈答ノ歌ニ、藤ヲコムト、中畧シテヨミ玉ヘハ、コヽモ子藤シタリニテアルヘシ。

1體源抄、大神景範記云、胡飲酒破、是モ忠拍子ナリ、サレトモ呂歌田中井戸ニ合タル故ニ、樂拍子ヲ用タルナメリ。

但歌ニ合時スコシノゾクトコロアルナリ。拍子ヲ打ヘキナリ。

夫木カハツナク田中ノ井戸ニ日ハクレテヲモダカナヒク風ワタルナリ 寂連

此歌ニヨレハ、田ナキ、ヲモタカ、同シ物歟。タツヌヘシ。

古註田ヲ作ラムタメ井トイヒテ、池ヲホリテ、水ヲタメタル也、其水ヲ田ニマカセ入ルロヲ井戸ト云ナリ。アコメハ、イヤシキ女ヲイフヘシ。

類字名所和歌、田中井戸、屬紀伊國、今案ヒカレルハ葉ノギラ〳〵トヒカルヲ云乎。

拾芥抄第四

2昌蒲小路(西京大宮東)今案、大宮ハ、洛中ノ大宮乎。ニシノコムチハ、西ノ小路ヲ、コンヂトウタヒナセル歟、大路ニ、ソヒテノホレルトモ、上ニミエタリ。アヤメハ、菖蒲ニヨセテ、女ヲヨメルコト常ノ事ナリ、コヽニテハ、只菖蒲ノ小路トイヒカケテ、漢女子藤ヲリトナリ、コムダリハ子藤タリ也。中畧トミユ、仁德天皇茨田堤ニ鴈産ル時、武内宿禰ニトハセ玉フ御製ニモ、アキツシマヤマトノ國ニカリコムトナハキカズヤ上下畧答歌ニモ、アキツシマヤマトノクニヽカリコムトワレ

又説 止利己止禰利。又。多々介巳无太利

體源抄。資忠記ニ云。倭舞ノ歌ハ。宮人ヲ用ルナリ 笛者左笛 舞ノ作法。座ヲ二行ニ歌テ。先出テ居也。袖ヲ撥合ス。次伏時平ニ二度次立テ。香寄テト四度。次居テ如レ初ノ袖撥合テ伏時二度シテ退入ナリ

角總拍子十

[2]安介萬支也。止宇止宇。比呂波可利也。止宇止宇。左可利天禰太禮止毛。[1]萬呂比安比介利。止宇止宇。加與利安比介利。止宇止宇止宇

又説 左可利天禰太禮止毛。止宇止宇。

本滋 拍子廿二段各十

[3]毛止之介支。毛止之介支。支比乃奈加也末。无可之與利。无可之加良。无可之可良
无可之與利。名乃不利古奴波。伊末乃與乃多女。介不乃比乃太女

眉止之女拍子八

[5]美萬久左止利可戸。萬由止之女。末由止之女。々々々々々。々々々々々。々々
々々。々々々々々。

又説 於保美支和可世。萬由止之女 拍子同打

今按。夜鶴庭訓抄ニ云。酒清子ハ 和名鈔作二酒浮子一 眉止自女トイフ。催馬樂ヲ吹ナリ云云

[1] 拾遺、戀二人麿 竹ノハニオキヌル露ノマロビアヒテヌルトハナシニ立ワカル哉
寳方家集、アル女ニ文ヤリタルカヘリコトニ、アケマキヲムスヒテヲコセタレハ ヒロハカリサカリテマロトマロネセムソノアケマキノシルシアリヤト

[2] 今案、猿樂ノ三番叟トヤラムニ、此歌ヲトリテ舞ヲ爲秘事可笑。

[3] モトシケキキヒノ中山昔ヨリ名ノ古コヌハ今ノ代ノタメトイヘル歌ナルヘシ。今案、此歌イツレノ御代ニテモ吉備國ノ大嘗會ノ歌ナルヘシ。

[4] 體源抄、酒清子、催馬樂合、謂ニ眉止自女一也、早物。

[5] 續教訓抄、第四末ニ云、酒清子、古樂小曲、堀河左大臣入道殿ノ説云、酒清司並ニ遍鼻胡徳樂ノ破、木ヨリ師説ナケレトモ、吹之、眉戸自女、酒飲ヘテ、トイフ催馬樂ニ音振タカフコトナシ。彼歌ヲ吹ナリトソ仰セラレケル。六條入道蓮道モ、催馬樂ニ、眉止自女ト云歌ヲ吹ニ、ツユタカハストイヘリ、イニシヘノマユトシメニモアラネトモキミハミマクサトリテカフトカ。催馬樂ニ、ミマクサトリカヘマユトシメ、トイフコトノアルヲヨメルナリ。マユトシメトハ、馬カヒヲイフナリ。

無力蝦拍子六

淮南子云。螾無筋骨之強、體源抄云、吉簡、呂歌、無力蝦ニ合ト申タリ、此曲極秘曲也。古註ミ、スヲハカヘルガ取テ喰物ナリ、故ニ對シテイヘルニヤ。

知可良奈支可戸留。二反 保禰名支美々須 二反

續書譜、唐太宗皇帝曰、行々若縈春蚓、字々若綰秋蛇、惡無骨也、

難波海拍子十

難波ヲナンバトイヘルハ、音ニ、ヨメルニハアルベカラズ。只ナニハトイヘルヲ歌ノフシニテ、ムトハスルナルヘシ。

名无波乃宇美。名无波乃宇美。己支毛天乃保留。乎不禰於保不禰。川久之川萬天爾。以末須己伊乃保禮。也萬左支萬天爾

ツクシ津マテニトハ、地ノ名ナルヘシ、筑紫ヨリ、京ヘノホル人ノ、舟ニテソコノアタリマテクレハ筑紫津トイフ歟、今スコシノホレ、山崎マテニトイヘハ山崎ヨリ下ノ方ナルヘシ

體源抄云

藤家不傳歌

律

貫河　東屋　大路　逢路　道口

呂

此殿西　此殿奧　鷹山　鈴香河　奧山

奧山爾　青之馬　妹門　我家

源家不傳歌

律　　呂

老鼠　旡力蝦

兩家共絕歌

律

我駒二段　澤田河三段　鷄鳴　陰名

呂

河口　大宮　紀伊州　奧三段

萬　葉　緯　卷第八　終

萬葉緯　卷第九　風俗

目録

風俗

雜藝

△豐統秋カ桐承スル。家業ノ骨髓ヲ記ス。豐原骨水ト偏旁ニアルヲ以テ。體源抄ト題セルト云。此事物ニアル歟。毎ニ人ノ云ヿ也。體字ハ从レ豊。豐ニハアラヌナド云ヿニハアラス。東大寺ノ黄熟香ヲ。蘭奢待ト云類ニテ。蘭字ハ柬ニコソ。東ニハアラヌナレド。以爲東ニマヽニ。ツイ名ヅケタルマデ也(種季云)

萬葉緯巻第九

洛東隱士似閑編緝

體源抄

奥書云。豐原統秋判。云云 礫礫集云豐原樂人統秋。豐筑後正四位下ト云者アリ。黍モ後柏原院御師範タリ。又歌道モ無手ナラズ。逍遥院實隆公ノ高弟ナリ。風流ノ者ニテ隱者ナリ。云云 雲玉集云。統秋身マカリケル時。イタミノ十首ノ内。メノマヘニキエヌ面影モノイハヾタエズ昔ノコトヤカタラム

風俗

狛朝葛新作續教訓抄ニ內體源ノ云。四條大納言公任ノ仰ラレケルハ。風俗ウタハヌ人。雨日ノ徒然ヲ。イカニシテカ。クラスラムト。云云 又云。古人風俗ヲバ。世人皆律歌ト思フ。シカラザル也。呂律相分也。呂歌律歌可尋之。又云。風俗ハ諸國ノ古風ヲ集ル也。故ニ諸國ノ風俗多在催馬樂中ニ事也。廣河限催馬樂雜藝今樣章謠之詞。此多是風俗之流也。云云 今按催馬樂風俗等。其所集同而。至曲節音聲有別乎。體源皆雖以片假名書。依於奥入河海所引催馬樂。改眞名假名。適奥入以上野歌一首書眞名耳。然風俗譜。亦元書眞名假名明矣。本朝書籍目錄風俗譜一卷。云云 體源與拾芥風俗目錄合符節。依以拾芥目錄書于茲。而今體源所不載風俗諸書所。出亦載于茲。

例萬云、風俗ハ、古人ハ、戯言ノロスサビノヤウニゾ歌ヒシ、今世近カヨリ、シタヽカニ成タル也、云云古今、顯註、甚ワカメカル、タゴノ浦ノ中ニ、イネノアマハ、トウタフハ、丹後國與謝ノ海ノ、タゴノ浦也、イネノアマモソノウミニアリ、コレハ湖海也、云々 康富記云、文安五年山城國大住庄内隼人領大嘗會田中田地一町二反有之、大嘗會時參洛、於官廳奏風俗舞人役是也。

拾芥抄風俗部　有雜藝

鳴高（ナリタカシ又號大宮）　難波乃都布良江（異本如此乃字無之）

玉垂　知知良良　東道　筑波山

甲斐加禰　伊勢人　菅村　常陸歌

荒田　大鳥　八乙女　我門

（宸筆次第付如此數）

雜藝

東遊（アツマアソビ）　今按。以下只有名目。體源等無章曲。所謂稱東遊者。所載朝野群載東舞與代代勅撰等所載東遊求子雖異名實爲一。依茲不出章曲歟。委註別卷。東舞者以神女駿河國有度濱天降事爲詠故稱東舞。後世倣其風。新詠歌爲神遊之態。依茲稱東遊歟。求子意未詳。或曰。東遊神社被奉祭每度被讀替。云云　雖然未見其證如何

朗[1]詠　愚問記體源內云。文應元年十一月六日。今夜清暑堂御神樂拍子合也。中院御代始也。云云　御神樂。コト終御遊。催馬樂。安名尊。次鳥破。次ムシロ田。次鳥急。次反平調。伊勢海。次萬歲。次更衣。次朗詠。佳辰令月德是北辰。云云　今按。大納言公任卿以所被撰朗詠集之詩應時宜詠歌。句中或取音或用訓。具見郢曲之內。與下以和歌詠歌上曲節音聲異歟。因茲從古所奧祕朗詠訓點現在焉。

今[2]樣　體源抄記朝葛云。今樣事。歌唱音ナリ。コヱアシキ者ノウタフハ。キカマホシクモオホエデ。ムツカシキ也。前草ハ始ハクグツニテ。後ニハ遊女ニナリテ。兩方ノ事ヲシリテ。メデタカリケリ。前草ガイヒケルハ。歌ハ第一ノ

1 文選第三。孫興公天台山賦云、凝思幽巖朗詠長川。伊庭氏

2 百練抄、高倉天皇承安四年九月一日、於太上法皇御所法住寺殿有今樣合事、撰定堪能輩卅人、十五夜之間、每夜一番被決雌雄、師長資賢卿等爲判者、十三日仙洞今樣合之次、有御遊、上皇令歌給今樣、希代之美談也。

吉朽

郢曲ハ郢曲探要歟

句ヲ短ク歌テ吉ナリ。トソイヒケル。又云。今様ハ。本體ハ律ナリ。然而呂律倶ニ存也。ク、ツノヤウハ呂音ニ歌ナリ。比巴法師ノ歌ニ又呂音也。而傀儡ノ體ニアラデ直ク歌ナガラ。呂音ニ歌ガメデタキ也。又云。男歌ハ揚聲ニテ不久テ迅クオロシテ。ウメキニテ。遥ニ延ニ待懸ルナリ。言者詞ヲ迅拾テ。早ナガラノドカニキコユルコトハ。詞ヲバ早ク歌モ。振ヲ大浪ニナミヨリテ歌ハ。ノドカニキコユル也　忠季云ク。今様近来其程延タリ。今様ハ四句ナリ。而一句各一息ナリ。仍其程ツヾマヤカニアリシナリ。又云。今様ハ歌者ノツヽミテ唱ハ。必ス哥ヒ損ズル也。傍若無人ニ思テ歌ガ不損ナリ。又云。聲ハツヨクウタヘバ揚ル。緩ベテ歌ヘバ下ルナリ。又聲ハ吉朽スルトキハ。聲ハアリナガラ大音ニナル也。忠政ハ政長ガ説ヲウケテ。歌。笛ヲ知ル人也。其ガ今様ノ歌。笛ハ習ナキヲ。彼人ノ付テ吹ケルハ。誠ニメデタカリケルナリ。律ノ催馬楽笛ノ詞ヲ。其振舞ニテ今様ヲ吹レケルガメデタカリケリ云云

古柳　風俗内稱我門
歌是乎。可尋

田歌　未知
其説

沙羅林　體源抄云。續教訓抄ニ所載ノ音曲ト申ハ。一節アル事見タリ。法文歌ノ習アマタアリ。イハユル沙羅林ノヤウト云。常ノ今様ヨリハ。少シフリノヘテ。オホヤウニアハレナルテイニ歌フベシトアリ。只今様ノヤウニ歌ヒテ。此事ヲワクモノナシ。オホヤウナリナト云テ。ニクミテ今ハ沙羅林（所ノ名ヲ名トスルコトアリ）ガヤウハウタハス。アルマジキ事也。早歌トテ。郢曲世ニモテアソビシナリ。是ハ悉雅楽ノ音聲ヲタヽシテ。七音。七音皆其源ヲモトヅク。殊勝ノ物也。コレモサル間。世ニ數奇ナクナリテ。今ハキヽシル人モマレナリ。雅楽ニ同ス。

早歌 片下 物様

體源抄云。教訓抄ニ云。所ノ歌ヒハ又別ナルニコソ。法文ノ歌。今様。片下。早歌。コレワクモノ。イトカタシトアリ。云云 今按物様說體源无

已上以體源說附會於拾芥所載雜藝目錄。已下只有一ノ箇名目以不探求其實或有或亡爲目錄[1]

夏神樂 體源抄 記中 云。多資忠云ク。内侍所ノ御神樂。四月ニ行ル、時。夏神樂ノ作法ヲ用ト。云云 夏神樂トハ。庭火ニ唱フ歌ノアルナリ。又云。或記云ク。夏神樂ニハ不焼火ヲ云。而長和四年壬六月廿三日。内侍所ノ御神樂ナリ。内侍所兩面ノ庭中ニ。庭火ヲタクト。云云 是左近將曹重胤カ。依有所申燒之。云云

倭舞[2] 同云。資忠記云。倭舞ノ歌ハ。宮人ヲ用ルナリ。笛者 左笛 舞作法。座ヲ二行ニ歌テ。先出テ居也。袖ヲ撥合ス。次伏時牙ニ二度。次立テ香寄テト四度。次居テ如初ノ袖撥合テ。伏時二度シテ退入ナリ。

安波乃戸[3] 同云。又云。臨胡禪脫ハ。大食調ノ曲ナリ。而博雅三位目錄ニ。始テ入平調也。樂ノ詞モ大食調吹也。問曰。此樂律催馬樂。安波乃戸ノ音振ヲモテ作之云云

葦柄[4] 同云。今世ニアシガラハ。誰人カ歌ラム。目出キモノナリ。宮内大輔基俊ガ歌シコソ。絕タカ程ノ叓ニテハアリシガ。本性ノアシガラニナリタリシナリ。ナマリテウタヒシ節共ノ。フカシギナリシ也。又云。足柄ハ世人稱雜藝タリ。此事不然歟。政長朝臣家歌笛譜ニ。以足柄歌笛譜入風俗部也。以之案之足柄ハ風俗歟云云

神歌 至千歌

[1] 拾芥、神樂目錄内面白、今无。

[2] 持統紀云、二年冬十一月乙卯朔戊午云云 奏楯節儛 私記ニ云楯節儛今之吉士舞也。手以楯爲節度故名云云。

[3] 今案、此歌無所見。

[4] 今案、此歌無所見。

註之

猿[1]楽　幷白拍子歌

同云。音曲事私云。神楽・催馬楽・朗詠・今様・梵音。以下ニモアラズ。歌ヲフシヲツケテウタフ事ノアルナリ。琵琶法師之ウタフニモ又アラズ。中昔ハ白拍子トテ。遊君ノウタフコトモ。當世猿楽トテウタフコトハ。一向昔ハナキ事ナリ。如此ノ音曲。世ニ出来シテ。天[2]下之乱オコル事有之也。楽道ニ生来者。カリソメニモウタフベカラズ。唐ニモ其事ハアリトミエタリ。論語子曰。悪紫之奪朱。悪鄭聲之乱雅楽。如此イマシメタリ。不調音曲世ニ充満スレバ。オノヅカラ雅楽ハスタレユクナリ。當世ノ體等丕此義也。雅音ハ更ニ面白モナシ。淫聲ハ人ゴトニ賞翫ノコトニナレリ。人ノ心ユガミヘツラヘルニヨツテ。佛神ノ御心ヲ。敬嘆申雅聲ハ。人ノ心ニハチガフ也。仍是ヲ面白トモ思ハズ。アサマシキ事ナリ。

安米不禮波　神歌
以川禮乃佛　今様歟
藥師乃十二　今様歟
海東久太禮波　今様
太子乃美奈介之　同
之奈乃爾安牟奈留　同
竹乃與奈加久　同
與之名乃和禮良　同
心乃宇知爾波　同
己上出體源
上野歌　風俗
宇惠支乎世之古止　今様
小車　風俗　駿河舞　東遊
衛門府風俗

風俗[3]

鳴高　又號大宮

楽記云、今夫新楽進俯退俯、姦聲以濫、溺而不止、及優侏儒、獶雑子女、不知父子、楽終不可以語、不可以道古、此新楽之發也、

集註云、俳優雑戯侏儒、獶猴也、言其短小之人如獼猴之狀、間雑於男子婦人之中、不復知有父子尊卑之等、優與猱同、云云

本朝文粹第三、辨散樂、邑村(上)御製、結句云、學峽猿之遊態、云々。今按散樂與猿同、御製被依樂記見矣

新猿楽記云、都猿楽之態、嗚呼之詞莫不斷腸解頤者也。又云、定縁者嗚呼之什也、先見其形、能者猿楽之仙也、未出其詞解萬人之頤云云

源氏乙女巻　サルカウガマシク。

宇治拾遺御神楽織事家綱二ケ條　樋口氏

清少納言枕草子入道殿のさるかうには

附箋

江談抄兒師猿楽於營始事、又兒師、猿楽等物、營始事、後三條院、令供養圓宗寺給之時、舞裝束爲人之擇、俊綱朝臣始構於事也。

附箋

△猿楽或作散楽

△文獻通考、散楽、野人爲楽之善者、非部伍之正聲也。

△江次第標注ニ、散更、猿楽也

△東鑑建久五年閏八月二日、参宴、猿楽、小法師中太丸、施藝、上下解頤云云

△種李公、宇治拾遺ニ、御神楽ニモ猿楽アリテ、陪従某ノツトメタルコヲ云ヘリ、然レハ、昔ハ伶人ノ中ヨリ猿楽ヲモ勤仕セルト見エタリ。而今、體源ニ一向昔ハナキ事ナリトテ、ケンモホロヽニ云ヘル、猿楽ヲ悪クメルハ、甚有謂、拾遺ニ、コリニコリニ夜闌テ、サリニサリニ寒キニ、フリチウ陰嚢ヲ、アリチウ灸ラム、ト云ヘル、今時ノ十字教下ト云ヘルモノトテモ、カヽル事ノコトハ、ツヽミテモイハサルヘキ、體源ハ、此フリチウフクリハ、如何ト歟云ヘキ、包南不審に存じ候、思召出され候はゞ御被下度候　種李白

附箋

(2) (續古事談)妙音院大相國、寺門云、舞を見、歌を聞て、國の治乱をしるは、蓬家の事なり、然るを世間に、白拍子といふ舞、常にあり、曲の聞は、五音の中には、亡國の音也、是の音也、此音は亡國の音也、舞の姿を見れは、ちまわり、こそらをあふきたこり、甚…に、不…なり、…身體共に、不…の舞とそのたまひける。

(3) 體源抄第十一云、風俗事、十四首ツネノ事也、但ソノ員數サタメカシ、當座ノノケイキヲモ、萬葉集ナトノ歌ヲモ詠スル也、又ヒタチ歌トテ、十四首ノ中ニ作ルコトニ、又ベチノ事ノヒタチ歌トテ作ル也、サレハニ說有歟。

西宮記云。有レ政日。事辨就レ結レ政一如レ常。上卿入ニ外記戸一。官掌唱ニ鳴高一

奈利太加之也。奈利多加志。同 於保美也知加久天。奈利太加之。安波禮乃奈利多加之

二段

於止奈世曾也。於止奈世曾

三段

安名加万古牟止毛也。美曾加奈禮

難波都布良江[1]

奈波乃川不良衣牟乃。世奈也。波留名禮波。加須美天美由流。奈波乃川不良江

一說安支奈禮波。支利太知和多留。川不良江乃世奈也

袖中抄云。祕說トテ春夏ハ如レ此ウタヒ。秋冬ハ。キリタチワタル。トモ。キリテモミユルナハノツフラエ。トウタフ。如レ此說ハ。時ニシタガフニハアラデ。本末ニ如レ此歌歟

玉垂[2]

多万多禮乃。古加女乎名加仁須衣天。同 安留之波毛也。（イモトヤ河海）左加奈毛奈支爾。左加名毛止女爾

二段

古由留支乃[3]。伊曾爾。和加米加利安介爾（テ本）

[1] 萬葉第三、日置少老、繩乃浦ニシホヤクケフリタサレハユキスキカネテ山ニタナ引、同山部赤人繩浦ニ從ソカヒニミユルオキツシマコギタム舟ハ釣ヲスラシモ、此歌武庫ニツヽケテ書ヌレハ攝津國ニ繩浦アルヘシ、今按、題ニ難波トカキ、歌ニナハトヨメレバ、ニノ字ハ署セルコト秘セリ、シカレバツフラエモ、難波ノ內ニアルベシ。夫木、モミチスル高津ノ宮ニ吹風ノニシキヲアラフナハノ浦ナミ、實家、今、難波權五郎殿又新御靈ノ社ト、俗ニ云ナラハセル社ノアタリヲ、津村ト云ヘリ、ツフト、ツムト、通ス、難波ノツフラエ是乎、夫木廿三ツフラエノセナノ霞モ春キエテ霧タチワタル秋ノ夕暮 隆季

[2] 古今集雜寛平ノ御時ニ、ウヘノサフラヒニ侍ケルオノコトモ、カメヲモタセテ、キサイノ宮ノ御カタニ、オホミキノオロシト、聞エニ奉リケルヲ、クラ人トモワラヒテ、カメヲオ前ニモテイテ、トモカクモイハス成ニケレハ、ツカヒノ歸リキテ、サナムアリツルトイヒケレハ、クラ人ノナカニヲクリケル、敏行朝臣、玉ダレノコガメヤイヅラコヨロギノ磯ノ波ワケオキニイデニケリ

[3] 忠見集、コユルキノアマハアサリニヤツレツ、イカナル時カナマメカルラム　古今大歌所御歌コヨロキノ磯タチナラシイソナツムメサシヌラスナオキニヲレナミ

知知良良

知[1]知良良加加止爾宇曾不伊。萬呂古曾多天禮。天宇止比左介天。奈止加波也多天利。之禮

毛世左良牟於乃禮加也。伊止古世禮天。加止爾天宇止乎比左介天

東[3]道

安川萬知爾加留加也乃與古於保知爾。奈左介乎加以。（此奈字附上句乎）加留加也乃。見[5]禰牟波也。（添字）古止牟毛也春良爾。（添字）

加留加也乃之左加以。加留加也乃

筑[6]波山

川久波也万波也万之介也万。之介支乎曾多加古毛加與不。牟奈。（二字袖中无）之太爾加與戶。和加川萬（二字共添字）

波之太耳[7]。。（補）

甲斐加禰

加比加禰波之呂支波由支加也。伊奈乎左乃加比乃介古呂毛也。左良須天都久利也。左良春

天川久利也

萬葉第十四云。ツクバネニユキカモフラル伊奈乎可母カナシキコロガニヌホサルカモ。袖中抄云。ケコロモハ。古歌ニツルノケ衣トヨメルハ。鶴ノ毛ノ白キニヨセテ。白キ衣ト云歟。又褻ノ衣トヨメル歟。イナハイナムト云詞歟。オサハ長歟。何事ニモオサトイフコト有バ。衣サラス人ニテアルヘシ。云云今按。此風俗ハ萬葉ノ歌ヲ取損ジケルニヤ。萬葉ハ。イナヲカモニテ。ヲハ添字也。筑波山ニ雪ノフレルカ。イナサニハアラスカ。布ヲ干セルニテアル

1 チヽラヽガ

2 コセレテ

3 續[illegible]守ニテ作ケルヨトセハテヽノホリケルヲ、美濃國ノ野上トイフ處ニヤドレルニ、カノ國ノ守知房ヲ見セウソコシテ酒ナトヲクレリケル返事ニ、藤原永實コトノハノ露ノ葉ノミエヌレハウレシキ[illegible]ノ草マクラ哉

4 萬葉ニ横大路、又新古今、刈[illegible]ノセキ守ニノミミエツルハ、人モユルサヌ道ヘナリケリ、此[illegible]筑前ニアルト云ヘリ、シカレハ東路ノカルカヤト云ヘハ、別歟、

5 ミ子ハ（ヤ）

6 古今、ツクバ山ハ山シゲ山シゲケレドオモヒ入ニハサハラザリケリ。

7 西宮記聞時十一、私遊宴事、大於二律一遊二者、用二平調一於二呂一遊二者用二双調一至二于催[illegible]一隨レ時用レ之、但律呂遊以レ歌爲レ本、樂曲相交反[illegible]、先常陸同音度、次甲斐、各獨唱風俗等一也云云

ベキカト

ヨメリ

伊勢人

以世比止波。安也之支毛乃乎也。。奈止止伊戸波。乎不禰爾乃利天也。古曾也。名美乃宇戸乎。名美乃宇戸乎古久也

菅村

須加牟良乃也。和禮古曾。春加无良乃也。牟良乃也。春加牟良乃也。於以天波。和禮古曾。加伊加良女

常陸歌[1]

比太知爾波。多乎古曾川久禮。安太古古呂。加女止也支[2]美波。也萬乎古江。乃乎古衣。安萬由支万世留

與入作ニ第三句ヲ。多禮乎加禰波。結句ヲ支美加安萬太支萬世留ニ

荒田

安良多爾於不留。止[3]美乃久左乃波名。天爾川美禮天。美也戸萬伊良宇也。加川多戸

大鳥

於[4]保止利乃波禰爾。也禮奈牟。之毛不禮利。也禮奈牟。多禮加左以不。知止利乎左以不良

1 朝葛云、御遊ノトキハ、先常陸歌ヲ歌フ也、此歌ハ令レ染物歌也、次又、可レ致朗詠、染レ物音無レ如ニ朗詠。云云

2 カメトヤ

3 榮花物語、日陰鬘、大嘗會悠紀方、祭主輔親、樂急、カナ山 カナ山ニカタクネサセルトキハ木ノカスニオヒマスクニノトミ草

4 和名鈔云、木草云、鸛、（音官和名於保止利）水鳥、似レ鵠而巣レ樹者也。同唐韻云、鷃（音安和名加夜久衣）雀鷃小鳥也。同崔禹錫食經云、鷃又有ニ一種、相似而小色蒼黒、並有ニ水湖間（漢語抄云蒼鷺、美止佐木）朝葛云、大鳥ハ駒ハ如ニ樂之破急ニ大鳥ヲハ狂(天)其駒ヲハ早歌也、補ニ歌フ時ハ、初二三反ハ三段拍子ニヨ打之、其後二人拍子ハ打テ早歌也。云云

牟。加-也-久-支乎左-以-不良牟。安-良-之也安-良-之。知-止-利毛伊-波-之之。加-也-久-支毛伊-波-之-之。美
-止-左-支毛。京與利-支-天。左-以-波-禮-之

八乙女[1]

也-乎-止-米波。和-加-也-乎-止-女曾。多川也也-乎-止-米。太-川也也-乎-止-女

二段

加-實乃也-須。古乃美-也-之-呂爾。一説 毎-萬-須多-加-萬乃波-良爾

多-川也。乎-止-米。多-川也也-乎-止-女　多-川以-下以二奥-入ヲ-補

我門

宇[2]-奈-與-也。之-太-留古-也-名-支。之-太-留加以天波。奈-與-也。之-太-留古-也-奈-支。之-多-留加以天波也
。久-爾曾左-加-江-牟。古-保-利曾左-加-江-牟。左-止曾止-美世-牟。和以-戸。曾止-美世-牟也。之-多-留古-也-
名-支

今-按。此-歌無下云二我-門一詞上。脱-乎。又催-馬-樂有二我-門爾歌一彼-乎。拾-芥目-録有二古-柳歌一。是-乎

雜-藝

宇[3]-波-良-古-支

宇-波-良-古-支乃。之-太爾波。以-多-知不-江不-久。左-留加-奈。-川。以[4]-名-古-萬-呂波拍-子宇-川。支-利-支

[1] 此八乙女ハ求子歌ニス、源氏引歌。
附箋 若伊云、源氏若菜下、もとめこはつろするに、わかやかなる上達部は、かたぬきており給ふ云云、匂宮御かはらけなとはしまりて、ものおもしろくなりゆくに、もとめこまひて、かよれる袖とものの云々、河海求子歌、千はやふるひらの松は枝しげみ千世も八千よも色はかはらし。（花鳥）細流風俗の、八乙女お求子とかける也、（花同）同、匂宮終ニにくからぬほどに、かみのますなど、花鳥神のますは求子の二段也。
△八乙女ヲ求子トモ云歟、亦ヨム歟、此二段ノ加美乃也須、トアル正字也、匂宮ニますトアル注、奥入ニカミノヤストモウタヒ候事モ候、河海ニハ神のやすトウタフ也、然ラハ緯ニハウタフマヽヤトアルベシ。

[2] 宇奈與ヤハ、頂好ヤ歟、冠柳トイヘルモ、頂柳ヨリシタレタル體ヲイヘルトミエタリ、是モ楠ヨリシタレタル體、頂ニ見ナシタルニヤ。

[3] 今近江ノ人。茨ニ春白キ花咲物ノワカタチヲ、イバラコギト云。所謂ル葱-苓花ニマジヘテ、酒ニヒタス花ノイバラ也。

[4] 和名鈔 鼬-鼠（以太知）同本草云、蚱-蜢（作猛二音和名以奈古萬呂）貌似二螺蜥二而色小蒼、在二田-野間一者也、下河邊長流、イバラコキイツリスギテシヅノヲガ垣ニ花サク夏ノキヌラン

利須波鉦鼓宇川

狹衣第三云。又サショリテ。其ツギカナテヲ〳〵ト。ヒヂシテツクメレバ。イタチフエフクサルカナヅ。トヒキタマフヲ。ハハシロ。イトオモシロウ。メデタウ思フニ。エタエズ。心モスミタチテ。スヱニマテトリテ。アフギウチナラシテ。イナゴマロハヒヤウシウツ。キリ〳〵スハ。ナドホソメアケテ。クビスヂヒキタテテ。タレカヘリ〳〵ヒク。ソバガホノ。ミスニスキテミユルハ。オカシナドモヨノツネノ事コソイヘ。云云 此コトバヲ以テ改正

伊[1]與湯雜藝。催馬樂

以與乃由乃。由介多波伊久川。伊左之良須也。加須戸春也。加須戸春與萬須。也禮。曾與也

名與也。支美曾之留良宇也

以與乃由乃。之太志多與利。和久乃之良以止乃也。久留比止太江女。也禮。曾與也奈也。毛[2]乃爾

曾安利介留也

伊與古江乃。奈古戸乃川川良。和加比加波。也[3]宇也宇與利古。也禮。曾與也。名也。之乃比之

乃比爾也

以與乃由乃。左良波乎多知天。美和太世波。多介[4]乃古保利波。天爾止利天美由也

今按以下非伊與湯類歌。失題乎。今依傍例以發句為題

遠[5]江

1 萬葉三長歌畧ミユノウヘノコムラヲミレハオミノホモ生ツキニケリ古歌云、イヨノユノユゲタノカズハ(イ)ハイクツ左八ツ右ハ九ツナカハ十六。

2 物ニソハ、タエメヤタエズアル物ニゾアリケル歟。

3 神樂弓末ミチノクノアタチノマ弓ワカヒカハヤウヤクヨリコシノヒ〳〵ニ

4 伊豫無多介郡有和氣郡。然疑溫泉郡多介和氣誤乎。又多和以通韻云乎

5 遠江(止保太阿不三)濱名、(波萬奈)和名。重之家集、水ノ上ノ濱名ノ橋もやけにけり打けつ浪やよりこさるらん 枕草子ちかへ君とほつあふみの神かけてむげに濱名のはしみさりきや、三代實錄、四十六云、遠江國濱名橋長五十六丈、廣一丈三尺、高一丈六尺、貞觀四年修造二十餘年已以破壞。

止保太不美波萬太乃波之乃多由久波奈古以加也不名加也。波江乃古止毛乃安曾不名利介利也

多由以下有二訛脱一乎

相坂

安[1]不左加乃世支乃古名太波奈爾止加也奈。支美爾安波[2]川乃古古呂也萬之奈也

安乃由久

安乃由久波。見由加也美由加。美由奈良波。於支古久不爾乎。也禮曾與也名也。以曾戸由久也。介與也

アア等ノ四字ハ雖安美假字以テ附眞名ヲ後人正レ之

古名利女

古[3]奈利女波。支爾介留毛乃乎。加良須天不。久[4]呂止利也川乃也禮曾與也奈也。以末太古須天川也

神樂乃其駒

曾乃古萬曾也。和禮爾和禮爾。久左古波牟。久左波止利加波乎。美川波止利。久左波止利加波乎

朝葛記云。其駒ハ本體風俗ナリ。而ルヲ一條院ノ御トキ。朝倉其駒ハ。神樂ノ無二下尾モナキヤウナルニトテ。神樂ニ歌ヒ具スルナリ。當時ハ神樂ナレドモ。本體ハ風。習ノ也。統秋書ニ入云。昔ハ風俗ナリ。堀河院神樂ニ入サセ給畢。云云

1 古今集一、音羽山音ニキキツヽアフ坂ノ關ノコナタニ年ヲフル哉

2 逢坂、相坂ヨリ此方ニテ、山城ノ内、山科郷ノ内乎、蟬丸ニ、アハツノ原ノミクルスノメクリ、トイヘルニ可合。樋口氏曰、アハツハ安由歟、音通。

3 古奈利女ハ、古奈美ニ、利ノ字ヲ加ヘタルナルヘシ。利ノ女美ハ、音通。和名鈔云、顔氏云、前妻(和名毛止豆女、一云古奈美)

4 久呂止利ハ、和名ニ鴉ヲ久呂止里トヨメトモ、是ハ烏ノ事ナルヘシ。和名鈔云、唐韻云、烏(哀都反、和名加良須)爾雅云、純黒而反哺者謂之烏。

已上

猶朝葛之記所ニ拔書中。神歌今樣等載ニ于茲。而亦爲ニ眞名ニ矣

神歌[1] 亦見拜姬式今畧于茲

神歌事

神歌ハ昔ハツヽメテミシカク歌ヒケル也。今ノ世ニナガクナリニタリ。敦家ハサゾノ給ヒケル。顯仲云。神歌ハ、前句末歌終ニ籠ザマニ。次句ヲ出スナリ。或云。(著聞集第六)侍從大納言(成道)雲林院ニテ。鞠ヲケラレケルニ。雨ニハカニフリタリケレバ。ハシガクシ(シハシ(著))ノマニ立イリテ。階ニシリヲカケテ。ハレマヲマタレケルホドニ

安米不禮波。乃支乃多末美川。川布川不止。以波波也毛乃乎。古古呂由久萬天
(雨降軒玉水。雨垂之聲也(寄閑話)中著。言物心行迄)

ト云神歌ヲロズサマレケル程ニ。格子ヲ內ヨリヲシアケテ。女房ノ聲ニテ。此程コレニ候人ノ。モノヽケワヅラヒテ(ナシ)(著)候カ。只今ノ御聲ヲ承テ。アクビシテ氣色カハリテ見エ候ニ。今少シ候ナムヤトスヽメケレハ。沓ヲヌギテ。堂ノ內ニ(ヘ著)入テ。キチヤウノホカニ井テ

以川禮乃佛乃願與里毛。千手乃知加比曾。太乃毛之支。加禮太留草木毛。多知萬知爾。波名左支美奈留止。支支多禮波
(何佛願自千手誓頼母敷。枯有草木忽花咲實成聞而有。今樣歟)

トイフ句ヲ。取カヘシトリカヘシウタヒテ又

[2]寶方家集ニアルヲンナニ、モノヲダニイハマノ水ノツブ〳〵トイハバヤユカムオモフコヽロハ 蜻蛉日記ニ、ヨロヅニ思フ事ノミシゲキヲイカデツブツブトイヒシラスルモノニモガナトオモヒミダル云々 ツブ〳〵ト云詞ハ神代卷萬葉伊呂波字類抄等ニ出タリ、サノミヤハト不レ記レ之。

藥師乃十二乃誓願波。衆病悉除曾多乃毛之支。一經其耳波。左大乎支川。皆令滿足須久禮多利（今様歟）

教訓抄ニ云。所ノ歌ヒハ。又別ナルニコソ。法文ノ歌。今様。片下。早歌。コレワクモノイトカタシトアリ。第一ニ今様ハ。ヲリヲキラフベシ。春ハ春ニツケ。夏ハ夏ニツケ。秋冬モ同之。月ノ比ヤミノヨシヲウタヒ。祝ニ無常ノ歌ヲ歌ヒ。夏。冬ノ歌ヲウタフハ。アルマジキ事也。又女房ナドノ前ニテアソビ。ナサケアルトコロニテ。蓬莱山ナンドウタフハ。フルメカシ。如此事ハ歌ヒモノニカギラズ。樂人モ同事也。白河院之御時ニ。メサレテ歌ツカマツリケルニ。イダシテ云

海道久太禮波。奈美多加之。山道止於毛戸波。須久禮天也萬支比之。萬之天北陸道波。山支多加加牟奈留毛乃乎也。以左左波。伊世知爾加加利奈牟

此歌ヲ歌フアイダ。ハテノ句出サムトスルニ。歌トシテメサレテ。御定ニ。コノツギノ句。〽イザタヾミヤコニフタリヰタラム。トウタヘト仰下サル。扨其ヨリ其定ニツカマツリタリケルニ。御心モアヒカナヒテ。感ジオボシメストテ纏頭給ハリヌ

又同院ノ御時。歌近藤ト云モノ。御前ニメサレテ。歌ウタハサセ給ケルニ。思ヤウ。アハレナル歌ヲ。ウタハムト思テ出シテ云

太子乃美奈介之。夕久禮爾。古呂毛加介天支。竹乃葉仁。和之乃美山乎。以天之與利。久川波安

若沖云　宇治拾遺、ワレガ身ハ竹ノハヤシニアラネドモ、サタカ衣ヲヌキソカケケル、金光明經云、曩世有二王摩訶羅陀一生二三太子一、云云小子名曰二摩訶薩埵一、出遊林野ニ見レ有二一虎一、適產七日而有二七子一、周匝圍繞饑餓欲レ絶云云言我今爲下利二一切衆生一求中於菩提上捨二難レ捨故臥二餓虎前一、虎無レ能レ爲レ求レ力不レ乃、卽以二乾竹一刺レ頸出レ血、於二高山上一投二身虎前一、云云。

禮止毛。奴之毛奈之

此歌ヲイダシタリケルニ。一首ヲハラヌサキニ。ヲヒイダサレニケリ。ヲリニシタガフベキコトナリ

シタシキトモガラアマタ。歌ウタフ女一人グシテ。月ノアカキ比。三條坊門東ノ洞院ノヘムニ。アソビアリキケリ。カネツク程ニ。アル所ニヨキ聲ニテ。歌ウタフモノアリキ。シバラクトヾマリテ是ヲキク。案ノゴトク。男ヒトリシテ笛ヲ吹。二人今様ウタフ。

其歌ニイハク

世ヲコソハ古語乎、コ、ヲセニセムナトヨメリ、古坂ノ萬事笑ニ見エタリ。

之奈乃爾安牟奈留。支曾知加波。支美爾於毛比乃。不加介禮波。美支波仁曾天乎。奴良之川川。安良奴世乎古曾。須須支川禮

是ヲ。エモアヘヌセヲコソ。トハ其女ノウタヒタリケル。

又天王寺ヘ參リテ。カヘリケルニ。江口ニトヾマリテ。夜フクルホドニ。アソビノトコロヲ。ウカガヒケルニ。火ノモトニテ。スグロクヲウチケリ。ヲシイリテ今様ヲモヨヲスニ。イダシテイハク

竹乃與奈加久。安波禮奈留。不之毛左太女須。於支爲川川。人爾之良禮奴。古比乎之天。止利乃名久萬天。禰毛以良須

此歌。サセルフシモナケレドモ。折ニヨリテ興モアリキ。又ワスレヌフシニ。人ノカタリシナリ又

與之名乃和禮良加比止利爾也。加波加利左也介支冬乃與爾衣波宇須久天夜波左卒之多乃女之人波。萬天止古須

又

平兼盛、拾遺戀
忍フレト色ニイテニケリ我戀ハ物ヤオモフト人ノトフマテ

心乃宇知爾波之乃戸止毛。色爾波以天介利。和加古比波物也思不止美留比止乃。安也女天以加爾止止不萬天爾

已上。イカホドモアレドモ略之。

已下諸書所出風俗載于茲。至歌下書於出所。只奥入上野歌一首書眞名假名。餘者倣之書矣。

上野歌　風俗

後拾冬　ムハ玉ノヨヲヘテコホル原ノ池ハ春トトモニヤ波モ立ヘキ　藤原孝善
オヒモスカネハ生モ束ナルヘシ、ストツト道、多クノ束ヌルホトニ生スルヲ云ナルヘシ。

乎之多加戸。加毛左戸支爲留波良乃伊介乃也。多萬毛波。萬爾奈加利曾。於比毛須加爾也。萬爾奈加利曾也　奥入全篇如此

六帖。原ノ池ニオフル玉モノカリソメニ君ヲ我オモフ物ナラナクニ。今按萬爾奈ハ。萬奈ニ同シ。マネカリソハ、ナカリソト同ジ詞ナリ。無名萬 勿名萬。孝徳紀唯識論等ノ讀也。源氏眞木柱。枕草子等ニ。玉モハナカリソ。トイヘリ。

今様

大納言成道。齋院ニ参テ。御遊有ケルニ

和名鈔、十九、蟲豸類下、蛁蟟、(和名、久豆久豆保宇之)

若沖云、豐受皇太神御裝束物、錦御蓋二條(裏、納以黑絲刺小車紋於錦並)

允恭天皇御製

サヽラガタニシキノヒモヲトキサゲテ(アマ)タハネズニ、タダヒトヨノミ

若沖云、釋紀、輕皇后妃、和(カヘシウタ)テ曰、ワカオホキミノオ隠ルサヽラノミオヒノムス垂タレタレヤシヒトモウヘニテナケク

萬葉第六之廿七

山葉左佐良榎壯子、天原門度光見ラクシヨシモ

右或云月別名曰二佐散良衣壯士也。

同三之四十六

天有左佐羅能小野

同十六之卅一左

天爾有哉神樂良能小野爾

宇恵支乎世之古止波。宇久比須奈加世牟止爾毛安良須。久川久川保宇之乎。奈女須江天。讀經世左世牟止曾於毛不

トイヘル今様ヲ。當座ニウタヒカヘテ。カウナギメヲナメスエテ、ソメガミニマセン。トウタヒタリケルヲ。時ノ人。感ジテケルトイヘリ

小車風俗

乎久留萬伊禮天。支乃比毛止加牟。與比和乎之乃波波。支可奈。和禮之乃波支與。和禮之乃波支與。川豈左以保天介良之

袖中抄云。此歌ヲグルマトイヒ。紐トヨムトハミエタレド。錦トイフ詞ハナシ。若キノヒモトアルハ。錦ノヒモトカムヲ。文字ノ落歟。慥ナル本説ヲ可レ考。ヨヒト云詞モアリ。又ワレシノバキト云詞モアリ。綺語抄ノ歌ニ。シノブベシムスビモアヘズヲグルマノヨヒヨヨゴトニトクル下紐。トイフハ。此風俗ノ歌ヲオモヘルニヤ。月面小車トイフ風俗ノ歌ハ。今ハ説タエタリト申セバ。ミチノ人モカシカニ不レ知ヤ侍ラム。

梁塵祕鈔口傳曰

熊野乃權現者、奈久佐乃濱爾曾、於里多麻布、和歌乃浦爾之麻之麻世者、年者行止毛君王子

右以二梁塵祕鈔口傳一書レ之、然共以二闕本一悉不レ取焉。

衛門府風俗歌

多多良女乃。花乃如。加以爾利好。牟夜淑紫乃色好牟夜（政事要略）

紙江入楚引ニ此歌ニ云。タ、ラメノ花ハ只梅ノハナノゴトク也。ウタヒモノナレバ。フシニヒカレテ。タ、ラメト聞ユル。插練ハ兩面フクサヘバリニテ。中重ナシ。紅色也。云云

（保子村上ノ皇女）ヒメ宮ハ。マダイトワカクオハスレバ。アテヤカニオカシクオハスルニ。御琴ヲイトオカシウヒキ給ヘバ。キ、給フヤ。コレハイカニヒキ給フゾト。ノ玉ハスレバ。（村上正妃）母御息所。三尺ノ木丁ヲ御身ニソヘ給ヘルヲ。木丁ナガラヰザリヨリ給ホド。ナマ心ツキナク御覽ゼラル、ニ

毛乃止奈爾止。美知乎萬加禮波。經乎曾一萬支。美川介太留乎。止利比呂介天。己惠乎安介天。與牟毛乃波。佛說乃奈加乃。摩訶乃盤若乃。心經奈利介利　（榮花物語月ノ宴）

特源抄第九、頭挿花事、或人云、舞人冠ヲキル時ハ必スカサシノ花ヲサスヘキ也、時ノ花ヲサスヘキウヘハ、其季ニ可レ隨也、タトヘ作リ花ヲサストモ、其季ノ花ヲサスヘキナリ。恒例會式云云、稻荷出居、三月タ、ラヘノ生花、鳥帽子付之、同御祭四月、卯ノ花也、生花也。今按、タ、ラメト、タ、ラヘト音通、梅ニハアラサル歟、まさすけ抄云、うすいろ又春秋よし、うすあゐ、四月にわかゝえでとて、うつくしきなるは秋よし。春はなか〱□□ろはかりに、ひとへかさねて、たゝらへいろとてそきる。

梁塵秘抄　（夫木第廿題）シラズ

甲斐仁於加之支。山乃名波。之良根奈美咲。之保乃山。牟呂不之。加之波麻山。須須乃之介禮留。爾波萬山

須須、神代紀ニ野薦、私記ニハ、須々岐ト云ヘリ、玉串ノ料ニナレバ云ヘル歟、說ニ神代ノ者ハ、スヾ竹ト云モノナリト云リ、有ルカ所レ考歟、根笹ヲカラザレバ四五尺ニナルヲ今モスヾトイヘリ。

今按、梁塵秘抄、二十卷、後白河院勅選、本朝書籍目錄、今案、オカシキハ、面白也。シラネナミ咲ハ雪ニテ、花ノ波ナリ、スズハ、大峯ニ多キ草トイヘリ、續古今、ヨヲコムルスヾノシノヤノ朝戸出ニ山陰クラキ岑ノ松風、僧正行意歌ナリ、シホノ山ハ古今ニ、シホノ山サシテノ礒ニナク千鳥君カミ代ヲハ八千代トゾナク、南方紀傳、南朝元中元年三月、大雪フル事八尺、甲斐ノ國境ノ山、南帝ノ勅願寺トシ玉フ。云云

今様四首　（拾玉集第五）

花

（三月晦）春乃也與比能。安計保之丹。四方乃山邊乎。見和多世波。花左加里加毛。之良雲乃。加加良奴峰古曾奈加里介禮

郭公

波奈多知波奈毛。仁保不奈里。軒乃安也女毛。加保留奈里。夕久禮左萬乃。五月雨爾。山郭公名告之天

月

秋乃波之女爾。奈里奴禮婆。古止志乃名加婆波。須支仁介里。我世不介行。月加介乃。加太不久美留古曾哀奈禮

雪

冬乃與左无乃。朝保良介。知支里之山路丹。雪不加之。心乃安止波。川加禰止毛。於毛比也留古曾哀奈禮

知足院禪定殿下ノ仰ニ云ク。萬歳樂ハ公私ニ付テ。祝所ニハ必ス。舞トイヒ樂トイヒ。先奏之。後ニコソ。何ノ曲ヲモ用ヰラレ侍レ。誠ニ目出度キ曲ニテ侍ナリ。ナニハノ事モ。名ニヨリテ。其德ヲアラハス事ナレハ。尤其謂アリテオホヘ侍リ。サレバイハヒノ今様ニモ

祝乃所爾。吹笛波。地久美濃山。黄鐘調。君加與波比波。萬歳樂トイヘリ。續教訓抄

萬葉緯卷第九終

萬葉緯卷第十　雜

目錄

同査體七種
同雅體十種歌十二首
同短歌一首長歌一首
喜撰式四病歌
孫姫式八病歌十五首
同殘篇短歌一首長歌式歌一首
同歌十首幷詞二句
駒牽後定家卿送ニ右中辨ー歌一首
右中辨返歌一首
宮女御參時定家卿詠進之歌一首注共ニ四首
定家卿加階所望之時歌一首
古撰左比止云詞歌一首
智光法師先ニ行基ニ卒時行基歌一首
建ニ南圓堂ー時鬼現形シテ歌一首
天德五年新造內裏之柱ニ蟲食歌一首

阿佛於ニ病床ー詠歌一首
聖武天皇愛行基和歌一首
行基與婆羅門僧正增答和歌二首
聖武天皇幸シタマフニ泉橋寺ニー時與ニ左大臣橘朝臣ー贈答御作歌二首
後花園院贈ニ給將軍義教ー旗御製一首

萬葉緯巻第十

洛東隱士似閑編緝

神代巻上

〇伊弉諾尊伊弉冊尊。立於天浮橋之上。共計曰。底下豈無國歟。廼以天之瓊（瓊玉也。此云努）矛指下而探之。是獲滄溟。其矛鋒滴瀝之潮凝成一嶋。名之曰磤馭盧嶋。二神於是降居彼嶋。因欲共爲夫婦產生洲國。便以磤馭盧嶋爲國中之柱（柱此云美簸旨邏）而陽神左旋。陰神右旋。分巡國柱。同會一面。時陰神先唱曰。

古事記云、天神賜天沼矛而言依賜也。

憙哉遇可美少男焉（少男此云烏等孤）（今案）

舊事紀云。喜哉遇可美少男焉。又改倭和曰。姸哉可愛少男歟。云云古事記云。阿那邇夜志愛上袁登古袁（此十字以音）

玉篇云。許記切、樂也、神代卷一書曰、姸哉可愛少男歟、自注云、姸哉此云阿那而惠夜、可愛此云哀、今案[illegible]吉爲哀、可愛與吉字通。先讀少女少男、後還讀可愛、於理不順、可愛似與字同、今讀直向下於理爲順、古事記云、姸哉乎國之壞矣（姸哉此云奈珥夜）可愛少男、猶ヨキオトコトイハムガゴトシ。

陽神不悅曰。吾是男子。理當先唱。如何婦人反先言乎。事既不祥。宜以改旋。於是二神却更相遇。是行也陽神先唱曰。

憙哉遇可美少女焉（今案）（少女此云烏等咩）

舊事紀云。喜哉遇可美少女焉。又改倭和曰。姸哉可愛少男歟。云云古事記云。阿那邇夜志愛上袁登賣袁云云

古今集假名序云。此歌アメツチノ。ヒラケハジマリケルヨリイデキニケリ。アマノウキハシノシタニテ。メ神ヲトコ神ト成給ヘル事ヲイヘルウタ也。　同眞

附箋

住吉爲和歌神ノ事、種季曰、若沖云

古事記ニ猨田毘古神坐阿邪訶時、爲漁而於比良夫貝其手見咋合而沈溺海鹽、故其沈居底之時名謂底度久御魂云々由此觀之伊邪那岐命——次於水底滌時所成神名底筒之男命——中筒之男命——上筒之男命ト申シタルハ、即伊邪那岐命也。

而憙哉遇可美少女焉トノ玉ヘルヲ和歌ノ權輿トノ傳ナレハ、伊諾ヲ和歌ノ神ト申サムヿ異論ナカルベク、然ラハ伊諾ナラムハ何レノ神社ヲモ申スベキニ、獨リ住吉ニ和歌ノ神ヲ申シ奉ルモノハ深キ習モ侍ルニヤ、按ズルニ彼社司津守氏ハ代々歌人也、モシクハ此人々ノシカ申タテタル歟。

附箋

仲哀紀八年九月乙亥朔己卯、時有神託皇后而誨曰云云、眼炎之金銀彩色多在其國、是謂栲衾新羅國焉、神功皇后紀（之始）三月壬申朔云云、答曰、神風伊勢國之百傳度逢縣之拆（サク）鈴五十鈴宮云云、幡荻穗出吾也云云、對曰於日向國橘小門之水底所居而水葉稚之出居神名表筒男中筒男底筒男神之有也云云、案此託宣和歌之說也、住吉四座係者雖他郡神ニ元引而託給フナルヘシ。

名序曰。神世七代。時質人淳。情欲無分和歌未作。云云 顯昭古今集序註引一神語曰。此詞相當和歌歟。神代夷曲不定文字章句故也。眞名序者委不沙汰。只以素戔烏之詠爲濫觴歟。是私案也。可祕藏歟。

古今序 世ニツタハルコトハ、ヒサカタノアメニシテハ、シタテルヒメニハジマリ、シタテルヒメトハ、アメハカミコノ女也、シヤウトノカミノカタチヲカタニウツリテカガヤクヲヨメルエヒス歌ナルヘシ、コレラハモシノカスモサタマラス、歌ノヤウニモアラヌコトヾモナリ、アラカネノツチニシテハスサノヲノミコトヨリソヲコリケル、チハヤフルカミヨニハウタノモシモサタマラス、スナホニシテコトノ心ワキカタカリケラシ、人ノ世トナリテ、スサノヲノ尊ヨリソミソモシアマリヒトモシハヨミケル、スサノヲノ尊ハアマテルヲホン神ノコノカミナリ、女トスミタマハントテ、イツモノ國ニ宮ツクリシタマウトキニ、ソノ所ニヤイロノ雲ノタツヲミテヨミタマヘルナリ、ヤクモタツイツモヤヘカキツマコメニヤヘカキツクルソノヤヘカキヲ

日本紀云。天武天皇九年十一月壬申朔癸未。皇后。持統也 體不豫。則爲皇后。誓願之初興藥師寺。仍度一百僧。由是得安平。云云 拾遺集哀傷。光明皇后。山階寺ニアル。佛跡ニカキツケ玉ヒケル。ミソヂアマリフタツノスガタソナヘタルムカシノ人ノフメル跡ゾコレ。云云 伊呂波字類抄云。藥師寺七大寺ノ內天武天皇云云聖武天皇ノ御宇、天平二年己巳三月二十九日。建東塔。云云 今案在山階寺佛跡未考。但爲七大寺內則與興福寺同稱山階寺歟。不審。近世藥師寺僧房寫石碑作圖畫傳于世。非中古作歌因于茲書記耳。

[illegible]云、山階寺は興福寺なり、淡海公[illegible] モロヒトノタメニ、此格萬

美阿止都久留。伊志乃比鼻伎波。阿米爾伊多利。都知佐閇由須禮。知々波々賀多米爾

毛呂比止乃多米爾

彌蘇知阿麻利。布多都乃加多知。夜蘇久佐等。胃太禮留比止乃。布美志阿止々己呂

麻禮爾母阿留可毛

與伎比止乃。麻米爾美都爾。美阿止須良乎。和禮波衣美須弖。伊波爾惠利都久

多麻爾惠利都久

[illegible]二閒作、[illegible]三疊ノ曲ト云ルヤウニウタヘル時ノ[illegible]シ字、論語曰、子與人歌[illegible]ハ[illegible]必使反之而後和之[illegible]

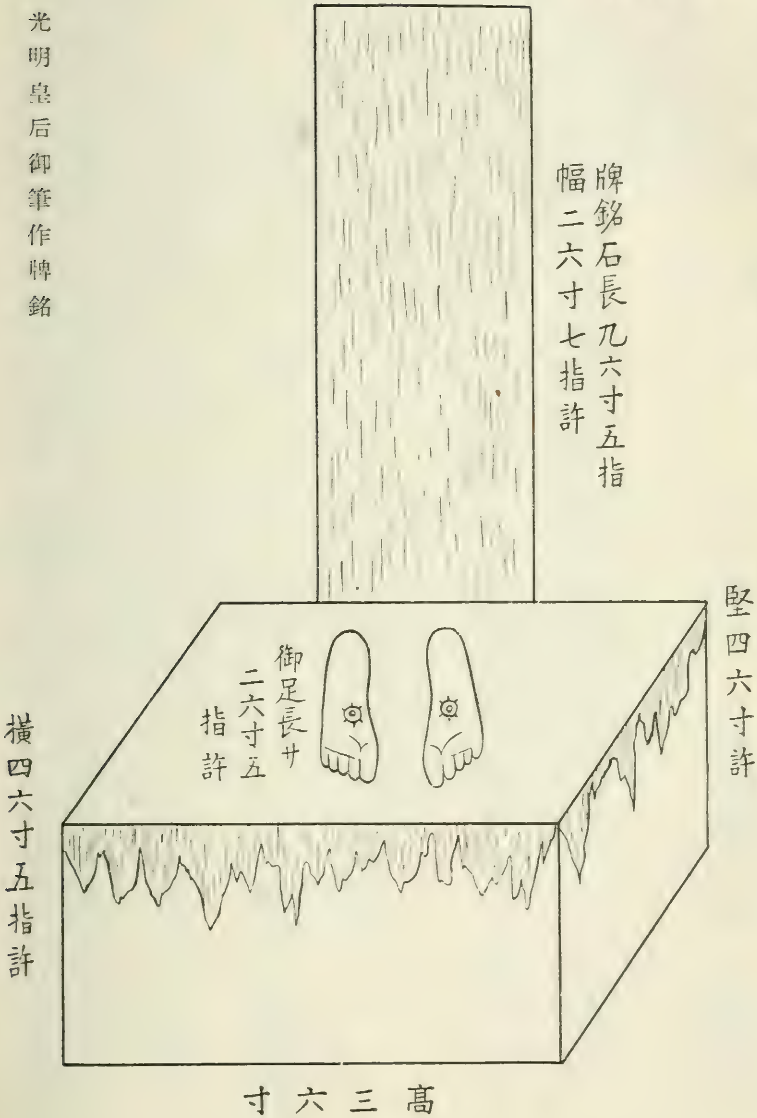
樂ニ換頭トイヘルモ、初句ヲカヘテ、又元ノ譜ヲクリカヘシヽルヲイヘリ。

附箋 胃太[illegible]字 上篇ニ胃ハ[illegible]貴ノ切トアリ、[illegible]卷云、[illegible]切ハ、わゐうゑをの字なりト、然レハ胃太貴留ニテ、牟ノ字ノ假字ニハ合ヘリ、サレト今歌第一ヨリ第二三句ニ傳ノ三十二相八十種好ヲヨミ臣ヘバ、何トゾ三十八十ノ[illegible]ヨリアツマルト申ス事ニハイタシガタク候[illegible]、[illegible]靈篇[illegible]西[illegible]集トヨミ候ヘ共、是ハ下[illegible]止義ニ候ヘハ[illegible]字とてもあつきる歌ニハイタシカタク存申候、此胃字ハ今少御考モ可有御座候はん哉、種牟[illegible]六[illegible]美祁牟 以六字爲一句萬葉集此格多矣。

○和州藥師寺佛足跡石圖幷

和州[illegible]考云、藥師寺ハ添下郡也。佛足形十七首歌外ニ千輻相。殳輻相。又。具足魚鱗相、金[illegible]杵相、[illegible]之紋在云々。

十七首ヲレ作ニ廿一首ニ乎流タルヲ除キケルニヤ。



光明皇后御筆作牌銘

佐々美

己乃美阿止。夜與都比賀利乎。波奈知伊太志。毛呂毛呂須久比。和多志多麻波奈
須久比多麻波奈
伊可奈留夜。比土爾伊麻世可。伊波乃宇閇乎。都知止布美奈志。阿止乃祁留良牟
多布刀久毛阿留可
麻須良乎乃。須々美佐岐多知。布賣留阿止乎。美都々志乃波牟。多太爾阿布麻弖爾
麻佐爾阿布麻弖爾
麻須良乎乃。布美於祁留阿止波。伊波乃宇閇爾。伊麻毛乃己禮利。美都々志乃覇上
奈賀久志乃覇止
己乃美阿止乎。多豆禰毛止米弖。與伎比止乃。伊麻須久爾々波。和禮毛麻胃弖牟
毛呂毛呂乎爲弖 呵嘖生死
舍加乃美阿止。伊波爾宇都志於伎。宇夜麻比弖。乃知乃保止氣爾。由豆利麻都良牟
佐々美麻宇佐牟
己禮乃與波。宇都利佐留止毛。止己止婆爾。佐乃己利伊麻世。乃知乃與乃多米
麻多〇〇〇〇〇

麻須良乎能。美○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○
佐伎波比乃。阿都伎止毛加羅。麻爲多利弖。麻佐二爾彌祁牟。止乃　止毛
○○○○○○
乎遲奈伎夜。和禮爾於止禮留。比止乎於保美。和多佐牟多米止。宇都志麻都禮利
都加閇麻都禮利
佐加乃美阿止。伊波爾宇都志於伎。由伎米具利。宇夜麻比麻都利。和我與波乎閇牟
己乃與波乎閇牟
久須理師波。都禰乃母阿禮等。麻良比止乃。伊麻乃久須理師。多布止可理家利
米太志可利鷄利
己乃美阿止乎。麻波利麻都禮婆。阿止奴志乃。多麻乃與曾保比。於母保由留可母
美留閇止毛阿留可
於保美阿止乎。美爾久留比止乃。伊爾志加多。知與乃都美佐閇。保呂夫止曾伊布
乃曾久止叙伎久

乎遲奈伎夜
麻良比止乃
米太志　感乎

能字下句連ニ

比止乃微波(人身)。衣賀多久阿禮婆(難得有)。乃利乃多米(爲法)。能與須加止奈禮(四成)。都止米毛呂毛呂(勤諸)
須止賣毛呂毛呂(進乎)
與都乃閇美(四蛇)。伊都々乃毛乃々(五從乎)。阿都麻禮流(集有)。伎多奈伎微乎婆(汚穢身)。伊止比須都閇志(厭可捨)
波奈禮須都倍志(離)

志爾乃於保岐美、死乃多身乎、又大君乎、直指レ死乎。

伊加豆知乃(雷)。比加利乃期止伎(如電光)。己禮乃微波(是身)。志爾乃於保岐美。都禰爾多具閇利(常相具)
於豆閇加良受夜(可畏不有哉)
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇乃多爾。久須利師毛止牟(藥師求)。與伎比止毛止牟(善人求)

佐爾佐牟我多米

佐爾佐牟我多米爾(爲)

古語拾遺

廣成、類聚國史財官部……

序云、從五位下齋部宿禰廣成撰、
至二書末一云、大同三年二月十三日、

〇至二于磯城瑞垣朝一。漸畏二神威一同レ殿不レ安。故更令下齋部氏率二石凝姥神裔。天目一箇神裔。二氏更鑄レ鏡造上レ劍。以爲二護身御璽一。是今踐祚之日。所レ獻神璽之鏡劍也。仍就二於倭笠縫邑一。殊立二磯城神籬一。奉レ遷二天照大神。及草薙劍一。令二皇女豐鍬入姫命奉一レ齋焉。其遷祭之夕。宮人皆參終夜宴樂。歌曰

美夜比登能。於保與須我良爾。伊佐登保志。由伎能與呂志茂。於保與須我良爾

今俗歌曰。美夜比止乃。於保與曾許侶茂。比佐止保志。由伎乃與侶志茂。於保與曾許侶茂。詞之轉也

日本國現報善惡靈異記

序云。諾樂右京藥師寺沙門景戒錄云云順倭名鈔引罵僧而邪婬得惡病而死云篇。可謂古書

〇狐爲妻令生子緣第二

昔欽明天皇（是磯城島金刺ノ宮食國天皇。天國押開廣庭ノ命也）御世三野國大野郡人。應爲妻不見好孃乘路而行時。曠野中遇於姝女。其女媚牡馴䁭之牡䁭之言何行稚孃也答言。將覓能緣而行女也。牡心語言。成妻耶。女答言。聽。即將於家交通相住。此頃懷妊生一男子。時其家犬十二月十五日生子。彼犬之子。每向家室而䫆期。睚眥嘷吠。家室脅惶告家室長言。此犬打殺。雖然患告猶不殺。於二月三日之頃。年米春時。其家室。於稻春女等將充間食。入於碓屋即彼犬子將咋家室。而追犬即驚懍恐成野干登籬上而居。家長見言。汝與我之中子相生。故吾不忘汝。每來相寢。故隨夫語而來寐故（名爲岐都禰也）時彼妻著紅襴染裳（今之桃花裳也）而窈窕裳襴引逝也。夫視去容戀歌曰

古非波示奈。和我戸爾於知奴。多方可岐留。波呂可邇美緣弖。伊邇師古由惠邇故其令相生子名號岐都禰。亦其子姓負狐直也。其人強力多有。走疾如鳥飛矣。三野國狐直

神中抄云、我良ト許呂ト同音也。伊佐ト比佐ト同ヒヾキ也、オホヨス、オホヨソ、同音也。オホヨソ衣トハナヘテノ衣ト云歟。ユキノヨロシモトハ、雪ノ夜ト云歟、ロハ助字也。

扶桑略記

牡（牝牡之牡、以爲男夫乎）

毛詩箋

戀ハ勿、我上ニキハマルノ意歟、タマカキル、魂極ノ意ニテ死ヲ云歟。

附箋

△神明鏡第卅欽明天皇治卅二年――美濃國ニ男侍、野中ニテ暮行美女ニ行合、哀是ヲ妻ニ成バヤト思テ言ヲ云カケタリケレハ、夫ニ語テ寄夫婦成、程ナク男子ヲ儲、或時隣家ニアリ（シ歟ル）犬來テ此女ヲ見テ強ニ吠ケル程ニ此女キツト鳴テ怒リテ出テ走ヲ見レハ狐也。又子モキツト鳴テ出テケリ。是小狐也、鳴ツル聲ニ付ケテキツ子ト云初也―種季曰

等根本是也。

政事要略第六十一太子傳云

○聖德皇太子示表緣第四　邊雙槻宮御字歟

聖德皇太子者磐余池邊天皇。立之爲皇太子。云云 皇太子居住于鵤岡本宮。時有緣出宮遊觀片岡村也。路側有乞匃人得病。而太子見之從轝下俱語之問訊。脫所著衣覆於病人而言。安臥也。遊觀既訖。返轝幸行。脫覆之衣。挂于木枝無彼乞匃。太子取衣着之。有臣白曰觸於賤人而穢衣何乏更著之。太子詔。住矣。汝不知也。彼乞匃人佗處而死。太子聞之遣使以殯岡本村法林寺東北角。有守部山。作墓而收。名曰人木墓也。後遣使掘墓。而不開無之人。唯作歌書以立墓戶歌。曰

伊珂瑠賀能。等美能乎可波能。多延婆許曾。和賀於保吉彌能。美奈和須良延米

使還白狀。太子聞之默然不言。誠知聖人知聖。凡夫不知。凡夫肉眼見賤人。聖人之通眼見隱身。斯奇異之事

今昔政事要略書略

○見烏邪婬厭世修善緣第二

禪師信嚴者和泉國泉水郡大領血沼縣主倭麿也。聖武天皇御世人也。此大領之門大樹烏作巢產兒抱之而臥。雄烏遐邇飛行求食。養抱子之妻。求食行之頃。他烏遞來與婚姧就心。其姧今夫烏共高羽空指北而飛棄兒不瞻。于時前夫烏。食物哺將來見之無妻烏。于時慈兒抱之而臥不求食物而經數

日。大領見之使人登樹見其巢。抱兒死。大領之大悲感心觀鳥邪婬厭世出家。離妻子捨官位隨行基大德修善求道。名曰信嚴。但要語曰。與大德俱死必當同往生西方云云　信嚴禪師先幸少緣自行基大德先少命終也。大德詠歌作

加良酒等伊布。於保乎蘇等利能。去等乎美蒂。等母邇等伊比天。佐岐陀智伊奴留

夫火炬時。前備折松時雨降時。兼潤石根示鳥部事領發道心光善方便見告悟道者。其斯謂之矣云云

萬葉十四廿八カラストフオホヲゾトリノマサデニモキマサヌキミヲコロクトゾナク。文字中。美。第四等。比之三字脱。以補中抄補焉。乎蘇、関若巻六、萬葉ニ鳥ヲ大オゾ鳥トヨミ、又鳥ノ字ヲ、曾(ソ)ニアマタ用タルモ、オゾノ上略ナルベシ、大キニキタナキ鳥ト云コヽロトイヘリ。高野山ニキタナキ物流ス溝ヲ、オゾ川ト申セハ、尤シカルベシト、云云種季按ニ今此ニハ、幸ニ鳥ノ部事ト云、ツキ屬タレバ、大ヲソ鳥トアルベキ歟、鄙下賤モマハリテハ、キタナキ方ニナルベキ歟、恐ノ假名ハオソノヨシ、同菴主云ヘリ。種季曰此歌誤字多而難解。

○女人惡鬼見點被食噉緣第卅三

聖武天皇世擧國歌詠之謂

奈禮乎曾。與咩邇保師登。多樂何牟知能古。牟知餘呂豆能古。南无南无耶仙佐加又佐加母持酒々利法萬宇師夜太能知識給萬去土邇

爾時。大倭國十市郡菴知部東方有大富家。姓鏡作有一女子。名曰萬之子。未嫁未通。面容端正。高姓之人伉儷猶辭而經年祀。爰有人伉儷忽々送物。彩帛三車。見之靦心兼復近親隨語許可。閨裏交通。其夜閨内有音言痛哉三遍。父母聞之談之曰。未效忍猶痛矣。明日晩起。家母叩戸驚喚不答。怪開見。唯遺頭一指自餘皆噉。父母見之悚慄惆慘。睠下乎送娉妻之彩帛變成畜骨。載之三車亦變成呉朿木也。八方人聞集臨見之无有也。韓筥入頭初七日朝置三寶前以爲齋食。乃疑災表

先現。彼歌是表。或言神恠。或言鬼嘲（嗘乎）。覆思之猶是過去怨也。斯亦奇異之事也

聖德太子傳曆 平氏撰 本朝書籍目錄云。聖德太子傳二卷。云云 日本紀竟宴得聖德太子。從四位下行右中辨藤原朝臣師尹歌云。佐支耶保敷 云云。此故事無紀中在傳曆。可謂古書矣。平氏者。平基親。一條院代人也云云

此傳暫與、政事要畧所引太子傳別矣。

○推古天皇二十七年己卯。春正月。太子奉勅命駕巡檢 畿內諸國臣連國造伴造所建寺地云云。夕時旋斑鳩宮。到于勢益之原。北顧謂左右曰。可怜。此處有一信女（推古）。可建小寺（平群寺）。在中三十年以來上云云 居于椎坂東。望本宮獨謠曰

斑鳩。宮之甍丹。炎火之。火村中丹。心者入沼

○皇極天皇三年甲辰冬十一月。大臣幷入鹿。起一家於甘檮岳上。大臣家外。作城垣。積貯兵食。又氏人等入侍其門。名爲祖子孺者。大臣慠奢無君之意。日日彌深。時人危之。故天皇讓位於皇太子。自爲皇祖母尊。（是略錄文也） 一說。甲辰年三月八日。東方種々雲氣飛來。覆斑鳩宮上。連天良久而銷 云云 （元年傳云。十一月。入鹿臣。獨遣小德臣勢臣德太等。欲害山背大兄王等於斑鳩宮云云、遂與子弟妃妾一時自經死 云云大臣（父蝦夷）聞入鹿殺大兄王等。嗔シテ曰。我亡不久云云）

童子相聚謠曰

磐上丹。兒猿米燒。米谷裾。喫而今核。山羊之伯父

又謠曰

山背之。菟手之枝枝。水金丹。相看杜根。菟手之枝枝

此謠始起王子孫未滅之前。王子孫滅後猶不之止 私（皇極天皇四年。入鹿爲中大兄皇子被誅。）

今案與日本書紀可參合。日本書紀、時有謠歌三首。其一曰、ハルハルニコトヅキコユルシマノヤブハラ。其二曰、ヲチカタノアハノキヾシトヨモサズワレハネシカドヒトゾトヨモス。其三曰、ヲバヤシニワレヲヒキレテセシヒトノオモテモシラズイヘモシラズ

江次第 第十四

本朝書籍目録云。廿一卷中納言大江匡房卿撰

○大原野行啓。起五條后。子以藤氏勸學院衆爲車副。二條后高子以姪乘車後。在五中將昔和歌與二條后。

大原也。小鹽之山毛。今日等己曾。神代之事緒。思出良目。

人疑先是若有密事歟。或云。在五中將爲嫁件后出家相構。其後爲生髮到陸奥國向八十嶋求小野小町尸。夜宿件嶋。終夜有聲曰

秋風之。吹仁付天毛。阿那目阿那目

後朝求之。髑髏目中有野薄。在五中將涕泣曰

附箋 江次第十、外記日記、殿上日記[illegible]之間[illegible]任[illegible]被[illegible]日、外[illegible]日次日記、一[illegible]人者、孝[illegible]也、[illegible]有事也、[illegible]大[illegible]之[illegible]切也。一[illegible]常[illegible]紙以牛[illegible]小[illegible]人[illegible]打云云、[illegible]外記日次日記、久[illegible]人之持[illegible]被[illegible]日次日記、持人[illegible]間也、但皆悉令持人[illegible]也、[illegible]任大外記之間、皆悉[illegible]取也、[illegible]取之後、外記日記[illegible]爲[illegible]書[illegible]工斬々被[illegible]取也、事[illegible]被[illegible]日記[illegible]在[illegible]代之事也、[illegible]盡之[illegible]也、若[illegible]任當初不[illegible]取者、一[illegible]日[illegible]定絕失[illegible]、皆悉持人之[illegible]也、[illegible]爲[illegible]家左許[illegible]者、[illegible]子孫不絕[illegible]也、[illegible]師任[illegible]有[illegible]仁之心強[illegible]欲[illegible]云云[illegible]違相[illegible]不事絕[illegible]稀有之事也、當時之一物也。

附箋 古事談 江家の書籍は、昔よりやけうせず、匡房卿、三條高倉に藏をつくりて、この文共ををさめけるを、京中火災おこるへしと申けれは、江師云けるは、日本國うせすは、此家うせすへからす、朝家うせすは、此文やくへからす[illegible]、災はおそ[illegible]、其後に朝家[illegible]。

顯註密勘定家卿曰。江次第ノ說不可用之。云云伊勢物語ニ云。ムカシ二條ノ后ニマダ春宮ノミヤスン所ト申ケル時。云云、貞明親王（陽成院）貞觀十一年二月立爲皇太子。云云三代實錄第五云。貞觀三年二月廿五日己巳。皇太后詣大原野神社參詣。御牛車以藤原氏六位以下爲御車從者云云今案ニ、云不可用、年數有相違也。

古事談一、知足院殿仰云、四條大納言、北山抄ハ、神妙之物也、大二條殿ヲ聟ニ取テ、九條殿ノ御記ヲモ伺見テ候タル間、メテタキ物ニテアル也。江次第ハ、後二條殿御料ニ候タル文也、末代ノ公事不可過其歟、但此事尤少々相交歟、

同云、高家者業平之末葉也、業平爲勅使、參向伊勢之時、密通於齋王、云云、懷姙生男子、高階師尚養子、云云、師尚是也、世依有此事、高階氏不爲顯官、云云、高階者（天武天皇之孫）高市皇子之後也、給高階姓、少輔從四位下備前守也、師尚總宮内卿高二位成忠之男也。

遊仙窟。今案、薄ハ惣シテ草ノ茂リタル、ヲモ云歟、赤染右衞門家集、ヲナデシコノス、キニナリタルヲミテ、云々。

附箋 古事談二、業平朝臣盜二條后（高子長良子、清和后、陽成院母）（宮仕以前）將去之間、兄弟達（昭宣公等）追至奪返之時、切業平之

木鳥、云云仍生髮之程、爲見歌枕、發向關東（見伊勢物語）宿奥州八十嶋之夜、野中有詠和歌上句之聲、其詞曰、秋風之吹毎、穴目々々、只有一髑髏、就聲求之、無人、且明ヨリ見、件髑髏之目、出タリケリ、毎風吹、薄之生ナクヲトリケリ、如此聞、薄、小野小町[illegible]云此者、所逝去[illegible]下向之間、云、爰業平哀憐、付下句云、小野トハ不云ケリ、此事見木絕。

附箋 俗ニス、キト云テ、薄（ハク）ノ字ヲ書モノハ、唐人ハ芒（バウ）ト云草也、ス、キト云語ハ凡テノ草ノ茂リタルコト也、赤染衞門ナテシコノス、キニナリタルヲミテト書ル、其證ナリ。此ニヨキタトヘハ、紅葉（モミヂ）ハスベテノ木々ニ云語ナルヲ、鷄冠木ノミ、紅葉ノ木トモ云、モノ、ヤウニ心得タル人モアルナリ。鷄冠木ニ、加倍天（カヘデ）ノ和名アル如ク、芒（バウ）ニモ一分ノ和名アルベキニ、久シク絕エテ、其名亡タルカ、雞冠木ハヨク紅葉スルモノ、芒ハヨク茂ルモノユエニ、紅葉ノ木ト云ヒ、薄トノ名ヲ負リ、倭名鈔ニ、爾雅云、草聚生曰薄、辨色立成云、芒（スゝキ）今案ニ芒音千、草盛也、見唐韻、種季云、正字通ニ、薄、蒲各切、林薄、木曰林、艸曰薄、故曰叢薄ト。是レニテ漢語ノ薄（ハク）モ、和名ノス、キモ、並ニ草（コトバ）ノシゲリタルヲ云語ニテ、芒（バウ）ノ和名ヲ、久シクトナヘウシナフタルト云フニテ、分曉セリ。御校勘、おもしろく奉存候ゆゑ、非憚あしく引の理窟ヲ申。

（タヽラメの事、風俗内へ引ヘシ）○又風俗ノ多々良女乃花乃如ヲ、中院殿ノ梅ノハナトノ御註ヲ、雅亮抄ニ、春はなか〱ふたつはかりにひとかさね、て、たゝらへいろとて、そきる、トアルヲ御打込ニ成候て、梅ニハアラス候歟、ト被仰候も至極承事（ウケクマハリゴト）に奉存候て、非憚稱美巾上候。種季曰

小野止波不レ成。薄生計里

卽斂葬。中將與二齋宮一密通令レ生二師尙眞人一。仍高家于レ今不レ參二伊勢一。故中宮大原野詣時。資仲卿進二五條后行啓時行列圖一。人疑レ之。

江談抄

本朝書籍目錄云。六卷。江匡房 云云

○玄賓律師辭退事

弘仁五年。玄賓初任二律師一辭退歌云

三輪川乃。淸流爾。洗天之。衣乃袖者。不レ穢。計利

○同大僧都辭退事

又云。辭二大僧都一歌云

外國。水草淸。事多。君都。不レ住末佐禮利

○又云。去二洛陽一赴二他國一間。道來會女人脫レ衣奉レ之得レ之歌云

三輪川爾。詣天淸幾。唐衣。久留土思奈。得豆土思。之

○安倍仲麿讀レ歌事

靈龜二年爲二遣唐使一。仲麿渡唐之後。不二歸朝一。云云讀レ歌。雖レ不レ可レ有二禁忌一尙不レ快歟。如何

天原。不利左計見禮波。加須賀奈留。三笠乃山爾。出之月加毛

件歌仲麿讀歌止覺候。遣唐使爲レ罷時。於レ唐讀歟。如何。何事爾無奈利之脅。可レ有二禁忌之事一云云

類聚國史百八十七佛道部十四云、桓武天皇延曆十七年五月丙午正五位(マシ)粟臣翼卒云云父吉麻呂靈龜二年以二學生一阿倍朝臣仲麿兼人入唐云云。

土佐日記云。

永久四年三月或人問二師遠一

○嵯峨天皇御時落書多候事

嵯峨天皇之時。無惡善止云落書。世間爾多候也。篁讀云。无レ惡善止讀止。云云天皇聞レ之給天。篁所爲也土被仰天。欲レ蒙レ罪之處。篁申云。更不レ可レ候事也。才學之道。然者自レ今以後可二讀申一。云云仍天皇尤以道理也。然者此文可レ讀被レ仰令レ書給。

十卄卅五十落書事

海岸香左前落書也

二冂口月八三中土遠世市中用二小斗一升乎

欲唐艶書　谷傍有レ欠。日本返事木頭切月中不用

一伏三仰。不レ來人待。書暗。雨降降雨。慕漏寢如レ此謠云云（已上東齋隨筆）

粟天八一泥如坂都

或令爲市々々有砂々々又左縄足出端乎

志女砥與布

江談又古俗

○白雲似レ帶圍二山腰一　青苔如レ衣負二巖肩一

左中詩

此落書等不レ知レ解誤脱多乎シシノコノコ、シシノコ子子子子子子子子。又ネコノコノコネコノコ。止此時篁讀レ之（止）。宇治拾遺物語ニ見エタリ。古今集秘

附箋　江談抄三古塔銘事又云古塔銘云粟天八一（此文未被）件塔在所可レ讀云云云云。尋也云云。

附箋　宇治拾遺三　いまはむかし小野篁といふ人おはしけり、嵯峨の御門の御ときに内裏にふたをたてりけるに、無惡善とかきたりけり、御門篁によめとおほせられたりけれは、よみはよみさふらひなん、されとおそれにて候へは、え申さふらはじと奏しけれは、たた申せとたび〱おほせられけれは、さがなくてよからんと申て候ぞ、されは君をのろひまいらせて候なりと申けれは、おのれはなちてはたれか書んとおほせられけれは、さればこそ申さふらはじとは申て候つれと申に、御門なにもかきたらん物はよみてんやとおほせられけれは、なにゝてもよみさふらひなんと申けれは、片かなのねもじを十二かゝせ給てよめとおほせられけれは、ねこのこの子ねこ、しゝの子のこしゝとよみたりけれは、御門ほゝゑませたまひて、事なくやみにけり。

榮花物語花山云。

爲加那留。假字違ヘリ。後拾遺、哀傷、シクレトハ千草ノ花ソ散マカフナニフル里ニ袖ヌラスラム 此歌ヨシタカカクレ侍テ後十日ハカリニ 賀緣法師ノ夢ニ心チヨゲニテ、笙ヲフクトミルホトニ、クチヲタヾナラスニナム侍ケル。母ノカクバカリコフルヲ、心チヨゲニテ、イカニトイヒ侍リケレバ、タツヲヒキトメテ、ヨメルトナムイヒツタヘタル、云々。

苔衣。爲レ著巖者。末比呂計牟。喜奴喜奴山乃。帶遠須留加奈

此詩義孝少將卒居之後。賀緣阿闍梨夢見ニ少將ノ有ニ歡樂之氣色一。阿闍梨云。君何心地喜之久天波被レ坐。母君被ニ戀慕一仁波土云者。少將詠曰

○昔契ニ蓬萊宮裏月一。今遊ニ極樂界中風一。

時雨天波。千々乃木乃葉曾。散末加宇。爲加那留里乃。袂奴良左牟

○博雅三位習ニ琵琶一事

博雅三位會坂目暗琵琶習被レ知乎。如何。答曰。不レ知。談曰。尤有レ興事也。博雅高名管絃之人而美道重求。會坂目暗琵琶。最上之由風ニ聞世上一。人々雖レ令ニ講習一。更以不レ得。住所遠以所狹而行向人少々爾博雅先以下人。內内ニ所謂樣等書而。不ニ思懸一所爲レ住京都爾居而過與加之土賺。目暗詠レ歌曰

世乃中波。土天毛加久天毛。須久志天牟。宮毛和良也毛。半天之奈計禮波

土詠而不レ荅。使者以ニ此由一云爾。博雅思樣。此目暗命在ニ旦暮一我亦壽雖レ不レ知。流泉啄木止云曲者。此目暗耳社傳奈禮。相構天聞レ彈欲レ傳之處。三箇年間。宅頭仁聞仁。更以不レ彈。三年土云八月十五夜。爲ニ朧曇一風少吹而。博雅思樣。憐今夜有レ興夜哉。會坂目暗。流泉啄木奈土波。今夜彈良牟土思天。琵琶譜具天向ニ會坂一。如レ案琵琶遠使レ鳴程。盤涉調鳴爾。博雅聞天。尤有レ興。啄木ハ是盤涉調也。今夜鳴ニ此絃一。定欲レ彈哉土思而。嬉思間。目暗獨遣レ心。無レ人詠レ歌曰

逢坂乃。關乃嵐乃。嶮・爾。志比天會居多留。與遠過土天土詠而鳴絃。博雅垂涙啼泣。好道憐也土思。目暗獨言云。憐有興夜哉。若我慣數奇者。今夜在世間。今夜爲心得人來遊世與加之。物語世牟土獨言聞天。博雅出音云。博雅社爲參云計禮波。目暗云。誰賦坐問。然也答。目暗音ニ聞計禮波。感而物語仕天。遣心令傳件曲。云云博雅依不隨身琵琶。只以譜傳請歸云云諸道之好者。只可如此也。近代作法誠以不可有。左禮波社上手者諸道仁有。近代仁無事也。誠以憐也被談。又問云。件曲近代有否。被答曰。第一也。無識者。代ニ團亂旋第一曲用也。傳者少。件人所傳也。

○鷹司殿屏風詩事

又被命云。鷹司殿屏風詩齊信卿被撰之。齊信頗多被入資業詩。花塘宴詩色絲白撰入之義忠聞之中ニ宇治殿云。絲字他聲非平聲。可謂僻事。語云。俊遠保昌之可作也。資業依當任受領。其詩被多入。云々戸部納言。聞此事。勘文集詩白氏被獻之。聲々麗句敷寒玉。句々妍詞綴色絲。云々宇治殿聞ニ食此事被勘仰義忠。云々蟄居及明年三月。不被免之。則付女房獻和歌云云

青柳乃。色乃絲仁天。結天之。與禮波會土計傳。春乃久禮奴留

依此歌被免云云

扶桑略記

皇圓律師、叡山功德院僧也。樋口氏

夢殿見于平氏太子傳

本朝書籍目錄ニ云。三十卷。阿闍梨皇圓抄。云云伊勢兵亂記ノ系譜ニ云。親房。村上天皇ヨリ十三代。伊勢國司ノ祖。北畠准后。大納言正二位。一品准大臣。南朝ノ詔ト。云云著書四部元元集。扶桑略記。神皇正統記。職原抄。云云今案ニ近世所レ稱扶桑略記ノ殘篇ト纔ニ十四五代。至ニ卷末一以ニ如來滅後一書焉。是皇圓所作乎。又有下稱ニ日本紀略ト一本上。自ニ醍醐至ニ後一條ニ一。全文掛於朝政。是則親房卿扶桑略記乎。雖レ然皇圓略記之內ニ有ニ親房卿略記混雜セルコト一歟。如何トナレバ者皇圓略記之內ニ有下無ニ如來滅後文ニ本上也。可レ尋不審

○後一條院ノ。治安二年。十月十七日丁丑。入道前大相國（御堂殿道長）ノ詣ニ紀伊國金剛峰寺ニ一。云云廿六日召ニ維時ヲ一給ニ御馬一。御ニ法隆寺ニ一。先ヅ覽ニ東院ヲ一。是聖德太子ノ夢殿也。覽ニ種種ノ寶物一。有ニ御歌一云

王乃。御名乎者聞土。麻多毛三以。夢殿麻天仁。伊賀手木津覽

雖レ有ニ古今之秀歌一。不レ可レ出ニ其右ニ一。云云修理ノ權ノ大夫源長經。依ニ教命ニ一記レ之。多多略抄

江吏部集下

暮秋從ニ大井河一各言レ所レ懷和歌序

寛弘之歲、秋九月、蓬壺侍臣ノ一十輩、合ニ宴于龜山之下大井川之上ニ一、或ハ高談艶語シ、或ハ絲竹觴詠シ、沙鷗與ニ鵷鷺一狎近、紅葉與ニ紈綺一紛糅、於ア戲今日之興、今日之情不ニ偏ニ好ニ遊泛ヲ一、誇ニ四海之無事一也、不ニ偏ニ好ニ眺望ヲ一、觀ニ三農之有ルヲ年也、艤レ船者攝州刺史盡ニ水陸之珍ヲ一、赴レ令ニ者翰林主人、兼ニ花鳥之事ヲ一、于レ時山水秋深若ニ雲夢ノ者有ニ八九一、煙嵐日暮記ニ風物ヲ一、以難ニ一二ニ一、憖ニ詠ニ和歌ヲ一、其聊慰ニ老思ヲ一、其詞ニ曰ク

河船仁。乘天。心乃。行時八。沉女留。身止毛。思保江奴加奈

和歌三式

八雲御抄云、四家式、歌經標式參議藤原濱成寶龜三年奉勅、喜撰作式喜撰奉勅撰、孫姫式有序、石見女式是安倍清行幷同小町歟、顯昭古今祕抄云、七病ハ光仁ノ御代、濱成卿撰レ之、四病ハ仁和御代喜撰註レ之、八病ハ後ニ孫姫難ニ喜撰一也。然ハ和歌之始ハ七病也、愚問賢註云、濱成式ハ光仁ノ詔勅ニ應シ、孫姫式ハ聖廟ノ製作ヲノコサル、トモニ病ヲノゾキ、體ヲワカテリ、誰人カコレニ隨ハザラム、又顯昭古今序註云、但喜撰式中、有ニ眞僞兩本一、其僞本中、以ニ長句歌一名ニ短歌一、三十一字爲ニ長歌一、又或立ニ六義六體八病等ヲ一、尤不レ可レ用歟、又沓冠折句合薰物仁和帝御歌云云、是ハ天暦帝ノ御製也又私考云、四句混本歌、無レ載ルコト二諸式一、件ノ喜撰僞式在レ之、仍俊賴範兼清輔等引ニ用之一、無ニ其謂一歟。云云今案、濱成式、今現有レ序、至レ終云、寶龜三年濱成謹上、喜撰有ニ序幷ニ四句混本歌一、而似下稱スルニ顯昭僞本一式上、雖レ然依レ非ルニ新作ノ書ニ、采ニ用唯四病ヲ耳。都テ三式雖レ有ニ殘篇一無レ可レ徴シトス矣、于レ茲先師歎ニ此式不ルヲ全、綴テ下諸書所ニ引證スル一式文ヲ上、附ニ殘式之後ニ一、依レ是芟レ繁而書ニ於此一、古本間作ニ眞字一因摸レ焉。

濱成

和歌七病歌經標式

一頭尾　第一ノ句ノ終ノ字ト與ニ第二句ノ終ノ字一同字也

旨母我禮能、旨陀留夜那疑能、
霜　枯　垂　柳

萬十
阿岐可是能。比爾計爾不氣馬。美豆倶基能、
秋　風　日　異　吹　水　莖
與ナシ

二胸尾クキヨウ　第一ノ句ノ終ノ字ト與ニ第二ノ句ノ三六等ノ字ニ同字也

萬二
何乎何是能。伊勢能倶爾爾母。阿羅麻之呼
神　風　國
以下有能與レ能也

萬七
宇治何婆呼。不禰和他是呼等
河　船　渡
與ナシ

三腰尾（他ノ句ノ終ノ字ト與ニ本韻ニ同字也）

和我夜那疑。美止利能伊止爾。那留麻弖爾（爾與レ爾也）

美那具宇禮太美。何氣弖俱美陀利

以上出ニ于殘篇ニ。以ニ奥義抄ヲ補焉。此外雖レ有ニ伊母我比毛。等俱止牟須婢弖。他都紀夜鹿。（已上萬十）美和他須能勢能。丹至去計

羅俱婆。之三十字ニ文字不ニ分明ニ。且依レ無レ據而不レ爲ニ本文ニ。

四靨子（五句ノ中本韻ト有ニ同字ニ也。一靨子ハ不レ爲ニ巨病ニ二靨子以上ヲ爲ニ巨病ニト）

伊母我那婆。知與爾那我禮牟。比賣之麻爾（爾與レ爾也）

萬葉第 イモカ名ハ――ヒメシマノ小松カウレニコケムスマテニ 河邊宮人

五遊風（一句ノ中字ト與ニ終ノ字ニ同字也）

等爾何俱爾。母能婆於毛波之。比他太具美

萬十一 云云物者不レ念斐太人乃、打墨繩之直一道ニ

但物名ヲハ不レ可レ忌。假令妹紐。

是物名也。如レ此云ヲハ不レ可レ避

六聲韻（二句共ニ同韻（イ）字是レ也）

美麻俱保利。和我於母不岐美毛。阿羅奈具爾。

奈爾爾可棊介牟。宇麻都何良可之爾（爾與レ爾也）

但不ニ巨病ニ。長歌ニハ皆用レ之

七遍身　二韻中ノ除テ本韻ニ字以上ヲ有ニ同字ー也

伊麻左禰爾。奈爾可於母波牟。和可奈婢具。古古呂波岐美爾。與利爾之母能呼

二句中。用

四爾是也

和歌三種體

一者求韻　二者査體　三者雅體

求韻歌別有二種

一長歌以第二句終字爲一韻。以第

四句終字爲二韻。如此轉々

二。短歌以第三句終字爲初韻。

以第五句終字爲終韻

韻字有二種

一麁韻　夜麻　太麻　旨麻　波麻　等類也

二。細韻　旨　利　爾　利　等類也

査體別有七種

一雜會

資人久米廣足歌云

可須我夜麻（春日山）。美禰古倶不禰能（峯漕船）。夜具旨弖羅（藥師寺）。阿波知能旨麻能（淡路島）。可良須碁能倣羅

牛馬犬鼠等一處如相會。

無有雜意。故云雜會。

二猿尾

道合師歌云

波太保已彌。蘇比弖能保禮留（添登有）。那波努古等（如羅）。蘇婢弖能保禮留。波他保古能

終七字有五字

也。故云猿尾

三無頭有尾

神日本磐余彥天皇撃梟帥歌云

（神武紀道臣命歌也）

衣美旨呼比陀利（蝦夷獨）。毋毋那比等（百人）。比止波伊倍等毛（人雖云）。他牟可比毋勢須（手向不爲）

無初五字。故

云無頭有尾

四ニ列尾

殖栗豐嶋詠レ夜歌ニ云

阿可都止(奥)其婆。止利母奈具那利。弖羅弖羅能。何爾母止與美努。阿氣婆弖努己能與。波(イ)

曉　鷄鳴也　寺寺　錚　動響　曉果　此夜

終句有ニ八字一。故云ニ列尾ト一

五ニ有頭無尾

八坂入姫答ニ活目天皇一歌ニ云

己能奈旨呼。宇衣弖於保佐婆。可之古計牟。

此梨　惠歟殖　不歟生　賢

宇惠弖於不佐婆歟

無ニ腰以下一。故云ニ無尾一。第三句ヲ爲レ腰腰以上爲レ頭。○以下爲レ尾　腰(イ)

六ニ直語

活目天皇贈ニ八坂入姫一歌ニ云

美麻旨須留。呼可爾何氣須留己能奈之呼。奈須(イ)　宇衣弖於保旨弖。何氣爾與計牟母

御座爲　岡　陰爲　此梨　惠歟殖　不歟生　陰　好

宇惠於不旨

俗人言語無レ異。故云ニ直語一歌人勿レ犯ニ右歌句體一。若犯レ之爲ニ查體一

七ニ雜韻

角沙彌紀濱歌云

（萬一）之羅那美能。波麻麻都我延能。侘牟氣俱佐。伊具與麻弖爾可。等旨能弊爾計牟（仙覺萬葉第一註釋）

韻字不合（第三句終字初韻第五句終字終韻）故云雜韻。左與牟非同韻。

雅體有十種

一聚蝶（每句ノ上ニ用同事也）

淨御原御製曰

（萬第一）美與之能呼。與旨止與具美弖。與之等伊比旨。與之能與俱美與。與岐止與具美與（已上萬）

每句有吉無凶。假令如聚葉蝶一處。故云聚蝶。

二謎警（言隱言露也）（于語（奥））

立式者歌云

彌須美能伊倍。與彌都基不留比。岐呼其利弖。比岐岐利伊陀須。與都等伊不可蘇禮

夫鼠家穴名也。米臼篩。粉名也。伐木引出。火名也。與都是四字也。則云穴戀心也。故云謎警。如此言名爲甲第也。

三雙本（以六句爲一絕。第三句終字爲初韻。第六句終字爲終韻。）

大神高市萬呂卿歌云

旨羅具母能。他奈比俱夜麻波。美禮等阿可努何母。大豆那羅婆。阿佐止比己玄弖。由不弊古麻旨呼（乎ト呼ト同韻ノ字也）

四短歌（以五句爲一絕。第三（句子）終ノ字ヲ爲初韻。第五句ノ終ノ句終ノ字ノ爲終韻。）

神代紀下
於基都等利。可毋豆具旨麻爾。和我爲禰之。伊毋波和須禮之。與能古止己等爾（之與ト爾同韻ノ字也）

五長歌（二句ノ終ノ字ヲ爲一韻。如此轉々）

弔天稚彥會者歌云

神代紀下
阿女奈留也　於保太奈婆他能　一韻

宇奈我勢留　太麻能美須麻侶。　二韻

神代紀此一句ナシ
美須麻呂能　阿奈他麻婆也美　三韻

太爾不陀和他留。阿治須基能可美　四韻

二句能字。是一韻。四句侶字。是二韻。能與侶一對也。六句美字。是當三韻。八句美字是四韻。美與美是一對韻。

四句文字。六句尾字當韻。今欲改韻故。以五句能字貫韻。於四句侶字露改韻節也。若歌者欲改韻者。

如此爲焉。若不欲改者。又居其韻同字韻。

不可背例。雖然多不可用。但絕句其禁甚也

六頭古腰新（以下顯昭陳狀。以古事陳發句。以新意陳三句。是爲雅意也。以古事陳於初句。故曰頭古。陳新意者於三句是ノ故曰腰新）

當麻大夫陪ニ駕伊勢ニ思レ婦歌云

阿豆佐由美。比基都能倍奈留。那能利蘇母。婆奈婆佐具麻弖。伊毛爾阿婆怒可母

（梓弓　引津邊　神馬藻（和名）　花咲迄　妹不逢）

梓弓是古事。引津是譬。神馬藻新意。花咲迄新物色。不レ逢レ妹歟是爲ニ結句ー。

仙覺萬葉第十、註釋ニ引ニ濱成卿式ヲ出ニ此歌ヲ次書云。奉ニ制ニ云、莫乘毛花葉開于等兩韻ニ於レ事不レ睹。又二韻同音也、可レ謂ニ阿豆佐由美ノ一句、比岐都能倍那留ノ二句、那能利蘇我ノ三句、婆那能佐倶麻弖ノ四句伊母爾阿婆怒何ノ五句ト云云。

七頭新腰古。（以ニ新意ヲ陳ニ發句ヲ。以ニ古事ヲ陳ニ三句ヲ。是爲（奥）妙佳也）

長田王戀レ婦歌。云乎

阿基也麻能。毋美治婆蘇米留。旨羅都由能。伊知之留岐麻弖。伊母爾阿波努何母

（秋山　黄葉染　白露　著迄　妹不逢）

秋山發句之新句新意。黄葉二句物色。白露三句古事。炳四句譬。不レ逢レ妹蒐五句結句。○與レ毛一對。（母（奥）能（同））凡作歌體背レ是皆爲ニ査體ー

八頭古腰古（頭昭陳狀　第一句陳ニ古事ヲ爲レ頭。第三句陳ニ於古事ニ爲レ腰。頭ヲ並ニ陳ニ於古事ヲ故ニ曰ニ頭古腰古。以下殘篇從ニ十新意記書ニ轉シ來ル歟　此體或ハ有ニ相對ー或ハ無ニ相對ー。）

詠レ春歌曰

阿呼爾與旨。奈羅夜麻可比與。之侶太弊爾。已能陀奈比具婆波留我須美可母

（青丹吉　山峽　比（奥校本）　白妙　此棚引　春霞）

青丹吉白妙共古事也。是爲ニ相並ー也

九古事意（都テ此ノ体非ニ一ノ例ー。無レ所レ定。ノタル四句ノ中ニ交錯）

詠龍田山歌云

可是不氣婆。具毋能基努何佐。他都太夜麻。伊等爾保波勢留。阿佐我保能波奈

雲衣笠是二句。龍田山三句。寄於二句、衣笠譬顯於三句山之名。故云古事意。

十新意體　袖中抄第四 比躰非是古事。亦非是直語。或ハ有相對。或無相對。故曰新意。如孫王賢燒ノ戀ノ歌曰ヘルカ

萬葉第七雙對 旨保美弖婆。伊利努留伊蘇能。具佐奈羅之。美留比須俱奈具。已不留與於保基三(弐)數不見譬如湖闕之礒草。盈時不見落時纔見。故鹽爲喩。遠古離直故曰新意。見日少戀夜大者。是其相對。是體與古直相似。少亦難別。可以消息也云云　巳上袖中

無對　　奥藤原里宫卿奉贈新田親王歌云

阿基波疑波。佐岐弖知留羅之。可須我能爾。奈具奈留旨何能。已惠呼可奈之美

仙覺萬葉第七註釋全文如此 美那曾己弊 一句 旨都俱旨羅他麻 二句 他我由惠爾 三句 已々侶都俱旨弖 四句 和我毋波那俱爾 五句

第一二句非是直語、三四句是爲直語、三ホ句一句之情ヲアラハス、故名新意、余准知　奥義校本

已上出於奥義抄

比佐可太能。阿麻由俱都基呼。阿美爾佐旨。和我於保岐美波。基奴我佐爾勢利

仙覺萬葉集第三註釋云。|。

此ノ歌出ニ于濱成卿和歌式一

濱成式ニ云。失者如下柿本若子詠ニ長谷一四韻ノ歌ニカ云上

阿麻俱毋能（天雲之）　可氣佐倍美由留（影塞所レ見者（萬））　一句

己母利俱能（隱來矣）　婆都勢能可婆努（長谷之河乃）　二句

宇羅那美可（浦無歟）　不禰能與利己努（船之依不レ來）　三句

伊蘇那美可（磯無歟）　阿麻母都利勢努（海部之釣不レ爲）（之萬）　四句

與旨惠夜旨（吉咲八師）　宇羅婆那具等母（浦者無友）　五句

與旨惠夜旨（吉書矢寺）　伊蘇婆那俱等母（磯者無友）（諍イソヒ（イ））　六句

於岐都那美（奥津浪）　岐與俱己岐利古（浄榜入來）　七句

阿麻能都利不禰（白泉郎之釣船）　八句

右萬葉集仙覺註釋全文如レ此、

和歌四病喜選式殘篇

一ニ岸樹者　第一句ノ初字。第二句ノ初字同聲也。如云乎

ヱ留比佐倍。（照日副）ヱ羅努都基佐倍（不照月）　ヱト與レヱ同聲也

二ハ風燭者　毎句二字第四字同聲也。如レ云

コ(奥)
加能等能波。佐止能止利止加　能ト與レ能止ト與レ止同聲也。(奥)
（此　殿）

三浪舟者　船(奥)　五ノ言之第四五ノ字ト與二七言ノ之第六七ノ字一同聲也。如レ云

倶佐能努能。和可禮旨伊毛母　能ト與レ能母ト與レ毎同聲也。(奥)
（草　野　離　妹）

四ニ落花者　每句交二於同文一。詠誦上中下ノ文散亂也。如レ云

奥義ナシ
能知能比能。旨留之爾旨都留　能ト與レ能同聲也
（後　日　標　爲）

奥義抄ニ云。新選髓腦。落花病ノ證歌ニ云。乃知能比乃。之留之爾旨川留。之良加之能。之婆旨能知也久。太豆奴婆加利曾。乃ト與レ乃。之ト與レ之也。云云

已上以二奥義抄一補ヲ焉

和歌式　殘篇

孫ヒコヒメ姫

和歌八病　避レ病之處頗ル損益 餘レ類長之時々猶渡　已上如本

第一同心　一篇之内再ヒ用二同詞一。或ハ謂二之ヲ和聚聯一

第二亂思　義不レ優。於文而造次難レ讀。或謂二之ヲ和形迹一

第三欄蝶　欲レ勞二句首一疎二義ヲ於末一。或謂二之ヲ和平頭一　倭(イ)

第四渚鴻　偏均二於韻一不レ勞二其始一。或謂二之ヲ和上尾一　倭(イ)

第五花橘　通レ句多ノ詞直用ニ其ヲ征（與）詠平本名。或謂ニ之ヲ雜語ー

第六老楓　篇ノ終一章上四下三毋之（イ）也。或謂ニ之ヲ畳韻語ー

第七中飽　一篇之內或有ニ卅五六字ー。或謂ニ之ヲ和結語ー

第八後悔　渥本之詠音韻不レ諧、或謂ニ之ヲ解語ー。

第一同心者　一篇之內再ヒ用ニ同辭ー。詞人用ニ心根ー。其同〇（心乎）之歌ニ云

西行　マスケ生ルアラタニ水ヲ一カスレハウレシカホセテナク鶯カナ

鶯　下篇ニ、於歸切トアレハ、音爲トスベシ。今此鶯ハ發語ナルヘケレハ、以爲ノ、以ハ、發語ノ助歟。種李

美豆太加支。陀何他乃萬千爾。麻可須等夭之（古今序註）

美豆奈支以爲爾。保等保止爾爲禮　同

再用ニ水辭ー是其病也。奥義 若故重讀無レ咎

若以レ意自用者不レ拘レ此

左衛門督源氏歌ニ曰

宇太婆宇天。比可婆比哥那牟。古與比左倍。安奈古止和利也。禰弖波可弊良之

是則於レ義無レ妨也

又雖ニ文辭同ー義理已異亦無レ妨也

阿支那禮等。和佐太爾加利萬。止古呂奈三。加利我爾與曾爾。奈岐和太留可毛

是雖ニ同辭ー義別與レ鴈異也

文辭雖レ異義理共同。最不レ宜乎

古木島歌云

安比美留女。奈支古乃之萬爾。介不與利大。安萬止母三衣須。與須留奈美可那

上何無此島。下何寄波也。（三代實錄第四十七、山城國葛野郡上木島下木島南里云々。）

是雖二文頗異一再稱二無之義一如レ此類必須レ避レ之。

第二亂思者（義非レ緩於レ文句造次讀レ之云二錯亂一思慮）

古交レ野遊覽歌云

由久水能。奈我太乃津止母。之良奈俱爾。於能我左等佐止。那古蘇不利介禮

若能興趣顯露鮮擧二言之一則歌可レ愛

紀氏少卿獻歌云

加久婆可利。宇支古止於母比。旨氣岐世爾。奈爾加和我身能。宇麻禮支爾計光

第三欄蝶者（欲レ（題字）居二何ノ首一除二義於末一借下蝶之異レ翼上花次第二及二其分散一當時今異古謂二之ヲ借平頭一）

古小島歌云

春加須美。佗奈比具也麻乃。萬津我衣耳。保爾波安羅須大。之良久毛曾太都

若能聲略如始終詞暢用レ之則混雜是矣

古以那河衣之用首歌云

礒萬天八。波左和歌之美。葉間與利。見爾己曾人八。之比八奈良女 全文如レ此

第四渚鴻者 偏に題にひかれてことはゐいたつかはしくせさる也（奥）偏抱ニ於韻一不レ勞ニ其首一猶下遊レ渚之鴻。任徒摸中スルカ其將レ飛而翩上レ　用レ韻歌云

己禮乃冬。我身於以由支。已介乃八布

衣太爾曾不禮留。乎之介奈介禮八 全文如レ此

若能通流用レ之可レ叹ニ。其文ニ矣

左近府生友秀飛レ舟歌ニ云

風間奈三。海乎和介由久。白波乃。

立和賀禮。者。賀奈之賀利奈光 全文如レ此

第五花橘者 諷レ物綴レ詞或直ニ梅ニ花名ニ猶ニ橘之錯ニ花實ニ者也

古諷レ拙歌ニ云

安奈豆太奈　太介追毛乃木　毛衣奈久爾

太追倍者爾旡也　吾加己比良久爾 全文如レ此

第六老楓者 一篇終ノ章上四下三用レ之。猶下香楓之樹枝葉先零ニ其秋ニ而無中夏花ノ色上云云。言已似貧吟詠可難必宜翅

本云 天留月八加曾介萬女三無 不以己乃上加支良久介奴 留加比々々 磯篇知此以 奥義補之。

古答レ贈レ花歌云

天留月八。波禮萬奈久乃三。爾保不以呂乃。比止由支毛奈久。支衣奴留加宇支 全文有二脱字一以二奥義一補レ之

奥ナシ 若能變二其體一宛轉用レ之其所レ望也

小野小町

續古今經五

人古已呂。和我美乎安支爾。奈禮婆古曾宇支已止乃波能。之介具知留良女

第七中飽者 雖二五章分レ句或有二卌二三四五六言一猶下人飾レ外只中有二痛心一終遂使人飽上唯不レ爲二其害一

古題二中秋花一歌云

奥義 ときは秋そはなは春なりこふうへもなみかきえたりいろたらつりにさらん

以下種李本以予本付二傍字一

追支八秋曾。花巴春奈利。大布八乎都毛。那三支加支。衣利天。色見爾曾津利爾左介良牟

自卌六言是

若能守二持一言一不レ員二盈縮一彌爲二麗助一也

小野小町歌曰

加支利奈支。於毛比爾萬介天。與留八已无。

由女于乎佐倍奈。人八千加不奈

第八後悔　（混本ノ詠者ハ音韻不レ諧ハ披ニ讀章句ヲ猶ニ環ス耽味ヲ後ニ見ン者ノ唯應恨ム云云）

古歌ニ曰

以八乃宇倍爾。（岩ナシ）爾左須松柏止。（萬津我乃三古曾母布己己呂阿留）於毛比之物乎。

（奥義抄　いはのうへにねさす松かえとのみこそおもふこゝろある物を）

權乃。夕景萬他須。宇津呂倍留加奈

（奥義抄）混本ノ歌五句ノ體　同三國町ノ歌右ノゴトシ　音韻不レ諧ハ是也

若能諧調用レ之則綺靡也

憐治教歌曰（以上種本）

和太津三乃（海童）　底深久安良冗（將有）　千比呂久留。（等操）

安萬乃太久奈八（海士栲縄）　太由留止支奈久（絶時無）（全文如此）

音韻諧調スル者ノ是也

凡長歌式　（五七五、七々々。五言ト與ニ七言ニ韻轉交任循環シテ不レ絶。唯其落句ニ重テ用ニ七言ノ歌ニ）

○○○高市親王ニ曰（人麿奉）（奥）

掛萬久毛　加之己介禮止毛　以八萬久毛

由々之介禮止毛　明日香山　眞柏原耳（マカミカハラニ）（萬、奥）（ノ種子）

比佐加太乃　安萬津三己止乎（加（奥））　加之己久毛

左太女太萬比犬　神左比犬（布上（奥））　以八加久禮萬須

安萬三已利（ヤフミシハ（重））（以下四句奥義ニ見ユ）　岩於保支三乃　支已之女須

曾止毛乃國乃　萬支乃太津　（フハ（重））曾山已衣犬（嶺（奥））

已萬介毛乃（ツルギノ）（奥義以下三句ヲ見）　和左三乃八良乃　加利宮爾（マキニ（奥））

止止萬利萬之犬（々（奥））　安女乃之太　左加衣𠂉止支二（八（奥））我毛止毛止毛（全文如此）

巳上採姬式殘篇。

以二奥義抄一補焉

採姬式殘篇（袖中抄第十七）

雨之滌レ涙（アメノフルコトクツハケナミタ落）螢ヽ鰓須レ留二於渡河一（ハシトヽマルニ）（已上袖中校本）

奈久那三太。雨止不良奈𠂉。和太利川

美豆萬左利奈婆。加倍利久留加爾

瀧之流レ浦咽聲止。（ハコトヘルムセフ）（羽字守）聞二於椎嶺一（ユ（袖校））（ノヲニ）

和加支毛乃。奈我留留瀧能。𠂉須留已惠（肝（袖中校本））（喟せ（袖校））

支古衣也須良𠂉。之比乃乎能支旨（ニシ（イ））（岸）

裂二背麻一尙禱レ神。（サイテスカツヲ／而ルニ）終得二樂於今日一（ニウミヲケフニ（袖校））

山城名勝志云。

今、推尾ト云ハ山崎天王ノ山ヨリ北ヲ云。

曾延伎、藏具曾多云ニ會
上階ニ菅麻(波)長六寸(仁)
木末(乎)云葛六々種云(さ)
中書戴云ニ才苅萬末苅切
(氐)シ々種ニ曰

顯昭云、ニハタチトハ神ノ
ヲリ給フ事歟、神楽ニハ庭
火ト云事有リ、又社ニハヒロ
庭ナト云リ、又諸社行幸ニ
モ庭ノ座トテアリ、又カヘ
リタチトモイヘリ、神ニハ
庭立アル事ナリ。

顯說、神カタニハ神ノタメ
トイヘル歟、萬葉五、同十
四ニタメニヲ畧シテタニ
トイヘリ、モハ藻ノ字
モバイトヨメリ。延喜式伊ノ字
支度ニ祝詞ニモオキツモハ
ヘツモハナトイヘリ、ソレ
ヲ取ニ伊勢ヘ行トイフニ
ヤ

奈加止三乃。天能須我曾乎。太津美曾疑
以乃利之神波。介布乃太女之耳
神。木綿而祠レ社、未レ知レ起二於誰世一
佐加木葉爾。由布取之天天。太我世爾加
神乃以加支乎。以波比曾女介光
漢國屛風畫勝二我神之立レ庭
母呂古之乃。屛風乃繪爾毛。三天岐安禮者。
和禮左弊加美能。庭太知乃與佐
倭州屛風欲レ釣二故人之巣路一　共古歌也
神加太爾。以世倍和禮由久。加弊留左耳
母波毛萬津良米。加等左須奈由女
致二感三昧一左二法　結之臨可レ知
感安利弖。比止乃萬字津留。久羅萬也麻
於古那不法波。曾波加奈利介利
發二願四月一他方參之。爰效

下句ノ意ハ、賀茂祭葵鬘ヲ云ニテ
ノ葵ニテ葵ヲカザスヲ云
行カヘルヤソ氏人ノ玉カツ
ラカケテソタノムアフヒテ
フ名ヲ

知波夜布留。加母乃萬都利乃。玉加豆良（祭）（鬘）奴布止以不笠波。宇女乃波奈我左

太衣須於毛比波。安不比奈利介利（不絶）（逢日）（宇レ字）

縫織以レ笠樺ニ錦衍之用ニ柳線ー（テレ ヲア ム ルニ リウ セン）（袖校）

安乎夜疑乎。加太以止爾與利弖。宇久比須乃。

古今秘註云、鸎縫（ユサハ
リ）ハ梅花ニ鸎ニ籠中ニ以縫
鼓也

ユサハリ

歡鸎於レ枝。鶯（片脱字乎）尻之刺ニ梅針ー（ノ恐ル三アウクワンノサフコトヲヲ）（袖校）

梅加衣爾。由左波利之太不。宇久比須與。

伞女乃光婆羅爾。之利安倍不佗弊（ヤ）（袖校）

以上出ニ於袖中抄ニ

顯昭古今序秘註採姫式云

浪花津之蘆菔。送ニ三冬ニ而着ニ一片ニ

舊枯野之本柏。因ニ新交ニ而恨ニ故人ー。

今案此二句亦恐有レ歌

散木集第九

恨レ躬恥レ運雜歌百首之內

沙彌能貪上

佐藻古曾爾。無智文盲荷。生計和有。人非人莛。可成等哉

〇明月記歌道事

奧書云。本云。以後成恩寺禪閤殿下令書拔給御自筆之本所書寫也云云。今案明月記者權中納言藤原定家卿日記也。傳聞有數十卷。雖然於歌者悉以無漏此書。而今雖有書假名歌數多不煩載焉。

毎月記云、去元久ノ比、住吉參籠ノ時、汝月アキラカナリト、冥ノ靈夢ヲ感シ作リシニヨリテ、家風ニソナヘムタメ、明月記ヲ草シオキテ侍ルコト、身ニハ過分ノワサトハ思ヒ給ヘル、云々

今案ニ、細註ハ一條禪閤兼良公也。

駒牽次將除籍以後ノ事
〇建久八年八月十六日。黄昏著束帶。依駒牽事也。退出之後。送一行右中辨許

立馴之。三世乃雲井乎。今更爾。隔天見鶴。霧原乃駒
（右賀守臣駒牽詩也）

返事歸盧即持來（賢乎）

時乃間囂。隔鳴覽。立馴之。雲井爾近幾。霧原乃駒

宮女御參歟〔賢〕ノ歌可詠進由二品御消息事
〇建保三年十二月六日。二品御消息云。明日宮女御參彼（御（イ）彼乎）如此狀可被遣和歌誰人可詠進哉之由。申水無瀨殿之處。可被詠進由被仰下。可存其由者。畏奉了。如此先先例（ノ徳文字）。上臈多奉之歟。頗似過分面目。左右可隨御定由申之。祝言雖一首無難詠出之條。極以可畏事也。彌增沈思之辛勞耳。聞見事忘却。入宮立后之間歌詩申內大臣殿了。雖廻愚案卒爾風情不尋常。仍書一首汀湯付清（如本）範朝臣。可伺披露由示之

俱禮奴萬野。計布野所羅仁所。志良禮奴留。萬津者比佐志喜。千世能田月志登私

萬津保登毛。比佐志幾計布野。由布俱禮者。千支里也千世野。波志女奈利計里私

七日卯時。夜前清範朝臣返事到來。其狀云。御詠給御覽候之處。端御歌モノモノシクテ殊宜候。可被用之由。內々御氣色所候也。清範謹言。

夜前進覽之後。更有思出事。クレヌマノケフ。古今貫之歌。七字頗不快。仍當時之詞雖劣。改之也。後日可申此由。

暮難式。今日乃容仁奇。知奴留。待者久敷。千世乃例登。書高檀紙一枚。加禮紙以二枚如立文裹之。依有存旨用此字。

但禮加多喜。計布野所羅仁所。志良禮奴留。萬津者比佐志喜。千世能田目志登

午時束帶參彼宮。付前右少辨親房朝臣進入之。女房有會釋。返事。

○建保四年十二月十二日。今日付一首愚詠於山城守。

雪乃內能。本能松谷色萬佐禮。加多倍乃木々波。花毛左久奈里

傍官昇進不被競望。僅申松爵之一階由先日示付之。稱無次由。仍加從此歌伺之也。十三日午時計。山城送書云。今朝御湯殿之次。具申入了。愚歌有御詠吟。置自賞以舊賞加階有其例哉之由。有御事。々體似宜者。且以感悅。舊賞之餘執遇加階之勳功。

○後撰抄　後撰抄云。[illegible]撰作也。三代集ノ口傳不可有。但見已

古撰云

古今哀傷、キノ友則カ身マカリニケル時ニヨメル、ツラユキ、アスシラヌ我身トオモヘトクレヌ間ノケフハ人コソカナシカリケレ

存旨、今案、聖人立五常ニ、夫婦有別、[illegible]

拾遺愚草云、[illegible]イナニ、下鶴ノ翼、オホクノ[illegible]コエシニ、正三位ヲ申トテ、[illegible]ニツケ侍シ、雪ノ內ノ——

カンカヘモノ
勘物云。定家。建保四年十二月十四日。叙正三位。春日行幸行事賞。

類聚歌要云、三代集萬葉集古今和歌集後撰和歌集

石橋氏泉州志曰、麻福田家ノ地ハ在泉南郡稻葉村。

近來波。憂身裏氣里。奈良山之。青木之下葉。色哉替禮留

曼荼羅緣起（作者不詳）云。昔河內國有富家。門前有卑民。其子號麻福田丸。戀富家之女將死。母怪問。童不答。母就其知己密問之。童語所由。母歎其不可及共病臥。姬風聞以爲。母子若爲我死須大罪。即密使僞慰母子之心。母子喜起焉。又使云。密事不達不通。汝宜學筆。童諾。又使云。汝願爲僧。近我有便也。童即作僧。又使云。縱爲僧無效驗不敢近。願爲高僧矣。小僧不得止而既走他國欲修行。智論所謂引欲駒入佛道是此謂乎。姬愍其志手自縫藤袴以充行裝。小僧竟走焉。未經幾歲而姬早世。小僧在他國悲歎之餘更恐無常迅速。日夜孳々勤而學成名振。世稱智光法師。智光先行基卒。智之徒以爲師初謗行基。其罪尚不輕。故使行基修智之中陰迫薦上基應請來登壇一讚詠和歌一首云

麻福田丸。修行出之。藤袴。其片袂。我縫喜

茲知姬是行基之前身也（出泉州志）

袖中抄（芹ツミシ昔ノ人ノ丁）云。或人ノ語シハ。昔大和國ニ猛者アリケリ。家ニハ山ヲ築。池ヲホリテ。イミジキ事共ヲ盡セリケリ。門守ノ嫗ノ子ナリケル童ノ。マフク田丸トイヒシ有ケリ。池ノ邊ニイタリテ。芹ヲ摘ケル間。猛者ノイツキ姬君イデテ遊ビケルヲ見テヨリ。此童オホケナキ心ツキテ。病ニナリテ。其事トナク臥リケレバ。母怪ミテ。故ヲ强チニ問ケレバ。童此ヨシヲ語ルニ。スベテ有ベキ事ナラネバ。我子ノ死ム事ヲ歎ク程ニ。母モ又病ニ臥ヌ。其時ニ彼家ノ女房。此女ノ宿リニ立入ルニ。二人ノ者ノ病臥ルヲ見テ。怪ミテ問ニ。母ノ云ク。サセル病ニアラズ。然々ノコト侍ルヲ。思ヒナゲクニヨリテ。母子死ムトスル也トイフ。女房笑ヒテ歸リ。此由ヲ姬君ニ語ルニ。姬君哀ガリテ。安キ事ナリ。ハヤ病ヲヤメヨトイヘト有レ

バ。此由テツグルニ。童モオヤモ。カシコマリヨロコビテ。起テ物クヒナドシテ。例ノ如クニナリヌ。姫君ノ仰セニ。忍ビテ文ナド通ハサムニ。手カヽザラム口惜シ。手習フベシトアレバ。童悦ビテ。一日二日ニ習ヒツ。又云ク。我父母シナム事近シ。其後ハ何事モ沙汰セサスベキニ。文字シラザラムハ淺マシ。學問スベシ。童又學文シテ物ミアカス程ニナリヌ。又云。シノビテカヨハムニ。童ハ見苦シ。法師ニ成ベシ。則ナリヌ。又云。其事トナキ法師ノ近付ムハアヤシ。心經大般若ナド讀ベシ。祈リセサスルヤウニモテナサム。ト云ニ隨テヨミツ。又云ク。猶イサヽカ修行セヨ。護身ナドスルヤウニテ。近付ベシトイハバ。修行ニ出タツ。姫君哀ミテ。藤バカマヲ調ジテトラス。片袴ヲバ自ラヌヒツ。是ヲキテ修行シアリク程ニ。姫君カクレニケレバ。ソノ由ヲ聞テ。道心ヲ發テ。偏ニ極樂ヲ願ヒテ。タウトキ聖リニテ失ヌ。弟子ドモ後ニ事ニ行基菩薩ヲ導師ニ請ジタルニ。禮盤ニノボリテ云ク。マフク田丸ガ。（修行ニ出シ乎）藤袴ワレコソヌヒシ。（ソノ乎）カタバカマ。トイヒテカネ打ナラシ。コト事モイハデヲリヌ。弟子アヤシミテ問ケレバ。忘者智光ハ必往生スベキ緣アリシ物ノ。ハカラザルニ。世間ニ貪著シテ。惡道ニユカムトセシカバ。我方便ニテカクハコシラヘイレタルナリトナムアリケル。姫君ハ行基菩薩ノ化身。行基ハ文珠ナリ。マフクタ丸ハ。智光也。サレバ智光賴光トテ。往生シタル物ハ是也。此義ハウキタル事ニモアラズ。或人ノ文珠供養シケル導師ニテ。仁海僧正宣ヒケルナリ云云弘仁四年癸巳。建二南圓堂一。冬嗣公本願四天王像造二彼堂一之時。築レ壇之鬼現形歌云

補陀羅久乃。南乃岸仁。伊保利世波。北乃藤波。今曾佐加衣牟

元祕別錄ニ、勘文部ニ、天德五年二月十六日。改元應和、依革命、並皇居燒亡也云云、或抄御記曰、陰陽寮勘申、天德是火神號也、可有忌云云、此度年號ハ右中辨兼大學頭文章博士菅原朝臣所撰上也。種季曰、林虫食歌萬葉亦見。於當作遠

其後藤原氏繁昌。（伊呂波字類抄興福寺ノ條下）

天德五年二月十六日。改天德五年爲應和元年。天德是火神號也。可有其忌。仍改元也。世傳云。新造內裏之柱虫食卅一字。其歌曰

作論。又母屋計南。菅原舍。棟之板間。不合奴。限者（扶桑略記第廿六）

且於病床詠歌云

限安留。命於人仁。伊曾加禮天。見奴世之後緒。加禰天知奴留

此歌於病床令詠之條自其時世以所口遊也。況可令吹擧哉（廷尉（爲世爲兼）兩卿訴陳狀於病床者阿佛歟）

神龜二年九月將諸弟子行致山埼河、不得船假、掩留河中、見有一大柱、大菩薩問曰、彼柱有知人矣、或人申曰、往昔尊船大德所度橋柱云云、愛大菩薩發願、從同月十二日、始度山埼橋、天平五年壬（脫支）。三月、朝廷與輦車一兩愛大菩薩和歌云。

止夫久留末、和禮爾太末倍利、以加爾止々、毛々與呂己倍止、毛止毛。（脫四字乎）

八年於久修園結夏安居、七月三日乘船下去善福寺、用以二千餘蓮華莊嚴、以二千餘蓮浮於河水、迎道出居、俄爾之間、三僧乘船到來、（一僧婆羅門僧正、一人ハ林邑ノ僧、一人ハ大唐ノ僧云々）時婆羅門僧正稽首、大菩薩云、南謨阿利耶曼蘇悉里菩地薩埵波耶摩訶薩埵波耶云云大菩薩答拜云、南謨阿利耶波魯吉帝世波羅耶菩地薩埵皮耶薩埵波耶、卽

波羅門僧正和歌云、

伽毗羅衞爾、開天吾來之、日本乃、文殊乃御容、今日見都留加奈、

大菩薩答歌云、

靈山乃、釋迦乃御前爾、結天之、眞如不レ朽天、今日見都留加奈、

則設々無數供具、以盡二主客之禮一、時人嘆二未曾有一自爾始稱二文殊一也。

天平十三季春三月。掩二留泉橋院一。天皇行幸。終日清談。奉レ施二食封一百戸一。左大臣橘朝臣。奉レ施二食封五十戸一。于レ時天皇玉駕巡二於泉河一。乃請二大菩薩一。終日讌樂。大臣彈レ琴云。

蓮葉爾。湛倍水乃。玉如。比加禮留人乃。安不加宇禮之作

天皇和歌曰

玉乃如。比加禮留人爾。於保呂計爾。吾之念波波。已已爾。安波女也

永享後花園院十年。秋九月。將軍義教綸旨を申請。御教書をなしそへ。上杉中務少輔持房を大將として。持氏退治乃爲。關の東に遣はす。みかどより。御旗をくだし給ふ。持房頂戴して進發。御旗の御製

千早振。海中雲之。幡之手仁。東之塵於。拂不秋風

後に、上杉山内の重寶天子の御旗といふは是也。南方紀傳

人乃ハ、人仁ト云ル古語也。

古本、海中ヲ、ヤヘタツト訓ズ。於レ義無レ謂。萬葉集第一、ワタツミノ豐旗雲、云云。古註云。豐旗雲、曰二海雲一、云云。依レ是改レ點トヨハタトス。

萬葉緯卷第十終

萬葉緯卷第十一

目錄

菅家萬葉上

萬葉緯卷第十一

洛東隱士似閑編輯

新撰萬葉集卷之上（又謂之菅家萬葉集）

扶桑略記云。宇多院寛平四年九月廿五日。道眞公撰新撰萬葉集上下。其序略曰。當今寛平聖主萬機餘暇。宮闈方有事合歌。後進之詞人。近習之才子。各獻四時之歌。初成九重之宴。又有餘興同加戀思之二詠。倩見歌體。雖誠見古知今。而以今比古。新作花也。舊製實也。以花比實。今人情彩剪錦。多述可憐之句。古人心緒織素。少綴不整之艷。仍左右上下兩軸惣三百有首。號曰新撰萬葉集。或曰。下卷延喜十三年八月廿一日源相公說云。契沖師新撰萬葉集序云。此新撰萬葉集ハ。カケマクモカシコキ。北野ノ御神。マダ人間ニマシ〳〵テ。朝廷ニツカヘタマヒシ時。萬葉集ニ效ヒテ撰バセタマヘルナリ。コレニヨリテ。又ハ菅家萬葉集トモナヅク。萬葉ヲ古萬葉トイフコトモ。此新撰イデキテ後ニ簡ヒテイフナリ。序ニカヽセタマヘルコヽロ。寛平五年ニ。キサイノ宮ニ。歌合セサセ給ヘルヲ。ソレガ中ニ。神ノ御コヽロニカナヘルヲ。左ノ方ヲ上トシ。右ノ方ヲ下トシテ。フタマキトナシタマヘリ。三百有首トアレド。今カゾフルニ。二百五十二首アリ。上下トモニ。四季戀オノ〳〵。初ニシルサセタマヘルカズニカナヘレバ。三百有首トハ傳ヘ寫シテアヤマレルニヤ。又此中ノ歌ニ。古今集後撰集ナトニ。是貞ノミコノ家ノ歌合ノ歌トテ入ラレタルアリ。オボツカナシ。此集ノ事物ニミエタルハ。勅撰ニハ。拾遺集ニ。コボレテニホフ花櫻カナトヨメル一首ヲ。菅家萬葉集中歌トテ。載サセタマヘル

扶桑略記云、延喜三年正月廿五日丙申、從二位太宰權帥菅原○○(道眞カ)薨ニ西府ニ年五十九云云。

ニナラヒテ。末ノ集ニモシカ載ラレタルオホシ。順ノ和名鈔ニ。芽薄ナトイフ文字用ヰサセ給ヘルヲ。ソノ所〻ニ引テ證ゼラル。古今六帖ニモ。此中ノ歌アマタ見エタリ。又下卷ノ初ニ。延喜十三年八月廿一日謹進。トイヘル序アリ。オボツカナキ物ナレド。顯昭法橋ノカ、レタル物ニモ此事アレバ。イカニモアレ。昔ヨリアリクルコト久シ。又下卷ノ末ニ。女郎花ノ歌廿五首アリ。マタオノ〳〵詩ソヘリ。コレモムカショリアリ。トモニ後ノ人ノソヘタルナリ。云云今案。除ニ上下序並詩賦ヲ一只取ニ歌詞ノミヲ一載ニ于茲ニ一

新古今春、寛平御時、后宮歌合歌、

水のおもにはるさめや伊勢

古今春、寛平御時、后宮歌合歌、素性

別樣

拾遺春、菅家萬葉集中、和名第十五、工匠具、鏟下云、新撰萬葉集用ニ鏟字ヲ一、云云。萬葉集第七亦用レ之。

指南　史記指南車、周公所レ制、以錫越裳氏使者車爲ニ先導ニ得レ歸レ國、樋口氏

後撰春、寛平御時后宮歌合歌、

春歌廿一首

后宮歌合
水之上丹。文織紊。春之雨哉。山之綠緒。那倍手染濫
サメ(同)

后宮歌合素性
散砥見手。可レ有物緒。梅之花。別樣匂之。袖丹駐禮留

拾遺春
淺綠。野邊之霞者。裹鞆。已保禮手匂布。花櫻鉇

后宮歌合素性 モ(古今)
花之樹者。今者不ニ掘殖一立レ春者。移徙色丹。人習藝里
古今春 アヂキナク(同)

同
春霞。網丹張牢。花散者。可ニ移徙一鶯將レ駐
春立(一本) シ(同)

后宮歌合紀友則
花之香緒。風之便丹。交倍手曾。鶯倡。指南庭遣
古今 タグヘ(同)

同
駒那倍手。目裳春之野丹。交南。若菜摘久留。人裳有哉砥
續千 イサ トマリ アフチ

吹風哉。春立來沼砥。告貫牟。枝丹牢禮留。花拆丹藝里

眞木牟具之。日原之霞。立還。見鞆花丹。被驚筒
カクコソハミメアカマキミカナ(拾)

春立砥花裳不匂。山里者。懶軽聲丹。鶯哉鳴
ソ(古)

梅之香緒。袖丹寫手。駐手者。春者過鞆。片身砥将思
トヽメテウツシ　スキヌ
ナラマシ(古)

鶯者。郁子牟鳴濫。花櫻。拆砥見芝間丹。且散丹藝里
ウツセミノ世ニモニタルカ(古今)　ウツロヒ(歌合)

春霞色之千種丹。見鶴者。棚曳山之。花之景鴨

春霞起手雲路丹。鳴還。鴈之酧砥。花之散鴨
井イ

霞立。春之山邊者。遠藝禮砥。吹来風者。花之香曾爲

霞立。春之山邊丹。開花緒不飽散砥哉。鶯之鳴
サクラハナアカズ(同)　アカズ

鶯之破手羽裏。櫻花。思隈無。早裳散鉇
ハヤ

乍春。年者暮南。散花緒。将惜砥哉許匕良。鶯之鳴
ヲシ　トナクナ　コヱ(同新同)

如此時。不有芝鞆思倍者。一年緒。惣手野春丹。成由裳鉇
須イ

鶯之陬之花哉。散沼濫。侘敷音丹。折蠅手鳴
スミシハナモヤ　打　(已上顯註)

郁子第十七、草類云、本草云、子一名楳、和名牟閉云云

酢字上脱ニ手ノ字ノ歟、下巻有レ之、又万葉第九、手酬草タムケクサ。

裒 廣ー句曰、於ー及功ー佉ニ切杜詩曰、雨裒ー紅蕖丹々香シ

伊勢物語ニ、ワレテアハムトイヘリ、將レ惜トカキテハ、ヲシマム也、將ノ字ハ衍文歟、オホツカナシ、又ヲシマムノ畧語乎、

萬葉ニ、思フノオヲ畧シテ、モフトノミヨメル歌多シ、然レハ不有鞆倍者トカヽセ給ヘキヲ、不有ハアラヌトモヨムヘケレハ、アラシトヨマスヘキタメニ、芝ノ

春来者○花砥哉見濫○白雪之○懸禮留柯丹○鶯之鳴　古今、雪ノ木ニフリカヽレルヲヨメル、素性

夏歌廿一首

后宮歌合　蟬之音○聞者哀那○夏衣○薄哉人之○成砥思者　古今、ナラン(同)

同　夏之夜之○霜哉降禮留砥○見左右丹○荒垂宿緒○照月影　栖イ

同　友則　沙亂丹○物思居者○郭公鳥○夜深鳴手○五十人槌往濫　古今、

后宮歌合友則　初夜之間裳○葬處無見湯留○夏蟲丹○迷増禮留○戀裳爲鉇　惑イ　古今戀

葬處和名云ニ

同貫之　夏之夜之○臥歟砥爲禮者○郭公○鳴人音丹○明留篠之目　篠イ　古今

同　五十人○沓夏○鳴濫○足彈之○山郭公○老牟不死手　コヱハナレズ(同)

后宮歌合　蕤賓侯○野邊之側之○菖蒲草○香緒不飽砥哉○鶴歟音爲

后宮歌合　暮歟砥○見禮者明○塗○夏之夜緒○不飽砥哉鳴○山郭公　古今忠峯

后宮歌合　郭公鳴立○春之山邊庭○沓直不輸○人哉住濫　夏イ

同　菖蒲草○五十人沓之五月○逢沼濫○毎來年○稚見湯禮者　エツヽ、ル家　貫之家集

字ヲ加ヘ玉ヘリ、下ニ至リテ、シラヌヲ不知沼トカ、セタマフモ同シ、國史ノ宣命ナトニモ、此例オホシ、思ノ字ヲ加ヘ玉ヘルハ、アラシトモヘハ、アラシトオモヘハト云コトヲ知ラセ玉ハムトテナルヘシ。

陬　廣韻曰、陬ハ隅ナリ、說文陬隅也、又聚居也、樋口氏

古今、ナラムトオモヘハ、戀、將成ナリケルヲ、將ノ字オチタル歟。

樂天句曰、月照平沙夏夜霜、

郭公倭名曰、唐韻云、鸎鸎（藍樓二音和名保度々木須）今之郭公也

五十人。下至レ秋五十人ト訓セリ。此律ヲ下署歟、五百ナルヲ保或與ト讀例乎。

初夜、

蕤賓、前漢律暦志曰、蕤ハ繼也、賓ハ導也、言ハ陽始テ導ニ陰氣一使レ繼ニ養物一也、位ニ於午一在ニ五月一樋口氏

郭公、

師説クツテイタサヌ人トハ、百舌鳥也。ウツホ物語、祭の使、夏はかりうゐだちすなる郭公寸にはかへらぬ年もあらじな、好忠家集中、順夏歌、郭公うゐだつ山を里しらばこのまを行て聞べき物を、

古今夏、ほとゝきすながなく里のあまたあればなほうとまれぬおもふ物から
後撰夏、うとまるゝ心しなくばほとゝぎすあかぬわかれにけさはなかまし

浮宕

後撰ニヨルニ、曾ハ爾ヲ寫シアヤマレル歟、又葬ノ字ノ下ニ、歟ノ字アルヘシ。

和名第十二燈火部云、蚊火、新撰萬葉集歌云、蚊遣火、云々。

綻、樂天詩曰、冬夜殊未レ綻、製夏服行〻將レ綻、樋口氏

后宮歌合 去年之夏。鳴舊手芝。郭公其歟不歟。音之不變沼（同）
古今
后宮歌合ウラミツ、 跡見筒。駐牟留鄕之無禮早。山郭公。浮岩手者鳴
后宮歌合 蛻蟬之。侘敷物者夏草之。露丹懸禮留。身丹許曾阿里藝禮
同 夕去者。自螢異丹燃禮鞆。光不見早。人之都禮無杵 ソ（同）
古今紀友則
后宮歌合 夏山丹。戀敷人哉入丹兼。音振立手。鳴郭公鳥
古今[illegible]秋岑
同 琴之聲丹。響通倍留。松風緒。調店鳴。蟬之音鉇
新拾遺
后宮歌合友則 夜哉暗杵。道哉迷倍留。郭公鳥。吾屋門緒霜。難過丹鳴
古今
后宮歌合ハ 都禮裳無杵。夏之草葉丹。置露緒。命砥恃。蟬之葬無佐 ムシ（同）
後撰ツネモナキ
同 夏草之。繁杵思者。蚊遣火之下丹而已許曾。燃亘藝禮 シモ（同）
新勅撰
誰里丹。夜避緒爲手鹿。郭公鳥。只於是霜。寢垂音爲
古今戀
人不識沼。思哉繁杵。郭公鳥。夏之夜緒霜。鳴明濫
新拾遺

秋歌三十六首

后宮歌合在原棟梁 秋風丹。綻沼良芝。藤袴。綴刺世砥手。蛬鳴 テフ（同古今）
古今俳諧

后宮歌合
白露丹。風之吹敷。秋之野者。貫不駐沼。玉曾散藝留
後撰延喜ノ御時歌メシケレハ文屋朝康

后宮歌合素性
吾而已哉。憐砥。思。蛬。鳴暮。景之。倭嬰麥
將手　ハオモフ（六帖）
古今

后宮歌合友則ハツ　キコユ（同古同）
秋風丹。鳴鴈歟聲曾。響成。誰歟玉梓緒。懸手來都濫
古今

后宮歌合
女倍芝。匂倍留野邊丹。宿勢者。無綾泛之。名緒哉立南
古今小野美材　オホカ（同）

同
秋之夜之。天照月之。光丹者。置白露緒。玉砥許曾見禮
新勅撰

同
白露之。織足須芽之。下黄葉。衣丹遷。秋者來藝里
ソメイダス（同）　オリイダス（新）　ス（同）
新勅

后宮歌合
鴈歟聲之。羽風緒寒美。促織之。管子纏音之。切切砥爲
ナク（六帖）

同
花薄。曾與靹爲禮者。秋風之。吹歟砥曾聞。無衣身者
ヒトリヌル（後）
後撰在原棟梁

后宮歌合在原棟梁
穐之野。草之袂歟。花薄。穗丹出手招。袖砥見湯濫

同
不散靹。兼手曾惜敷。黄葉者。今者限之。色砥見都例者
古今

后宮歌合
鴈之聲者。風丹競手。過禮靹。吾歟待。人之言傳裳無
ソナキ（同）
新古

同
秋之蟬。寒音丹曾。聞湯那留。木之葉之衣緒。風哉脱鶴

古今、是貞親王家歌合歌、紀友則、

和名第廿云、新撰萬葉集云、女郎花、倭歌云、女倍芝、云云。

泛、廣匀曰、汎同、孚梵切、浮見

和名第廿、鹿鳴草條下云、辨色立成、新撰万葉集、等用二芽字一。唐韻芽音胡誤反、草名也、云云。

促織、和名鈔兼名苑云、絡緯、一名促織（和名、波太於里女）鳴聲如二急織一、故以名之。

和名第廿云、爾雅云、草聚生曰レ薄、紬注云、新撰萬葉和歌云、花薄、波奈須々木、云云、詩云、豈曰レ無レ衣、又云、九月授レ衣

和名十九云、兼名苑云、寒蜩、一名寒蟬（音蟬）一名蟟（音遼）、俗云、加知世美、似レ蟬而小、青、月令曰、寒蟬鳴、是也。

和名鈔、箏、說文云、箏（芳無反、與敷同）、縱絲管也。

漢語鈔云、（久太）辨色立成云、管子（和名同上）新撰萬葉集亦用之。

可爲死ハ、死ヌヘキニハアラス、爲ヌヘキ也。下ニ、鳴曾可爲歧、トアルニ同シ、

斧　和名

後撰秋讀人不知、風ノ音ノカギリト秋ヤセメツラム吹クルゴトニ聲ノワビシキ

拾遺物名、貫之、松のねは秋のシラベニキコユナリ高クセメアゲテ風ゾ引ラシ

寛宮歌合

日夕芝丹秋之野山緖別來者不意沼錦緖曾服

寛宮歌合

奥山丹黄葉蹈別鳴麋之音聽時曾秋者金敷

古今是貞のみこの家の歌合の歌讀人不知

同

鴈之聲丹管子纏於砥之夜緖寒美虫之織服衣緖曾假　キル（同）　オトロクアキノ（夫同）

夫木十二

同

秋風丹音緖帆丹擧手來船者天之外亘鴈丹曾阿里藝留　サリ（同）

古今藤原菅根

同

秋山丹戀爲麋之音立手鳴曾可爲死君歟不來夜者　ネニ同

續古今

寛宮歌合

唐衣乾鞆袖之燥沼者吾身之秋丹成者成藝里　ツユケキ（新同）

新勅撰ヒトシレズ露イ

同

秋之月叢斧栖照勢留者宿露佐倍玉砥見湯濫　ス（同）

卒爾裳風之涼吹塗鹿立秋日砥者郁子裳云藝里

後撰、是貞のみこの家の歌合に、ナリ（同）

秋芽之花開丹藝里高猿子之尾上丹今哉麋之鳴濫　ノシカハイマヤ（同）

古今是貞のみこの家の歌合によめる、敏行

松之聲緖風之調丹任手者龍田姬子曾秋者彈良咩　シ（同）

後撰詞書同、壬生忠岑

白露之色者一緖何丹爲手秋之山邊緖千丹染濫

古今詞書同敏行

秋霧者今朝者那起曾龍田山婆婆曾之黄葉與曾丹店將見　サホヤマノ（同）

古今詞書同

雨降者笠取山之秋色者往買人之袖佐倍曾照　モミチハ、（同）

古今詞書同

這與レ者通、韻會。

何人鹿來手脫係芝藤袴秋每レ來野邊緒匂婆須
古今貫之同敏行

音立手鳴曾可レ爲岐秋之野丹朋迷勢留虫庭不レ有砥
後撰　友則

甘南備之御室之山緒秋往者錦裁服許乜知許曾爲禮
古今是貞親王家歌合　忠岑

名西負者强手將レ恃女倍芝之人之心丹秋道來鞆
後撰　貫之

秋風之吹立沼禮者蛍已歟縱砥木之葉緒曾刺

希丹來手不レ飽別留織女者可レ立還波路無唐南

山田守秋之假廬丹置露者稻負鳥之淚那留部芝

秋之野之千種之匂吾而已者見砥價無獨砥思者

夜緒寒美衣借金鳴苗丹萩之下葉裳移徙丹藝里
古今是貞親王家歌合

言之葉緒可レ恃八者秋來者五十人禮歟色之不レ變藝留
新撰古今

冬歌二十一首

掘手置芝池者鏡砥凍禮鞆影谷不レ見手年曾歷藝留
古今

小竹之葉丹置自レ霜裳獨寢留吾衣許曾冷增藝禮
古今　友則

光俟柯丹懸禮留雪緒許曾冬之花砥者可レ謂狩藝禮

印々十八云、萬葉第二十シ、芳…義…負鳥、萬葉第二十シ、…ノ二…オチタル…、…ニモ、今ヒケルカゴトシ。
句

古今敢上題不レ知讀人不レ知、左レ註人麿、拾遺作、秋題しらす、人まろ、並六帖第六、秋萩の題に、人丸、いろつきにけり、拾遺同、

人訓レ律例下出レ之、
藏人、東人、和訓互用律語、
賢、五音通故乎、
隼人、…代各下、

夥風集、たみだ川ニ…には…にきよけれどこひしき人の影もみえぬを

後撰、…の葉にかゝれる雪のうれな…こそ、下…同。

五十人禮、東人之義、
父菴人、隼人、和名鈔云、…部訓…豆、當…、

、五十人童葉處砥
、五十人爭頃
、五十人爭之五月

兼盛家集、年をへておりつくすべき糸なれや七夕づめたえずとひこしかな

墀、字彙作墀、卓音律字書曰、天子殿前之階也、以丹朱漆地謂之丹墀。樋口氏

後撰冬題不知読人不知、此歌、末ノ世ノ歌合ナラハ、禁忌ナリト難セラルヘシ、大和物語ニ、ミツネ白雲ノコノカタニシモオリヰルハ天ツ風コソ吹テキヌラシ

后宮歌合 霜枯之枝砥那佗曾白雪緒花砥雇手見砥不被飽　トモアカス(同)

後撰　ノキエヌカギリハ　ハナトコソミレ(後)

后宮歌合 擲崩芝之雹降積咩白玉之鋪留墀輛人者見蟹　ノ(同)

後撰　クラシ

同 冬寒美篭丹懸垂谷鏡迅裳破南可老迷久　ミノモニカクル(同)

后宮歌合 白雪之八重降敷留還山還匕曾老丹藝留鈍　モ(同)　有疑

古今

同 冬成者雪降積留高杵嶺立白雲丹見江亘濫　マカフカナ(同)　ツモ(歌合同)

同 松之葉丹宿留雪者四十人丹芝手時迷勢留花砥許曾見禮　上　カ、

后宮歌合 白雲之下居山砥見鶴者降積雪之不消成藝里　ル(同)

古今 大虚之月之光之寒藝禮者影見芝水曾先凍藝留　シキヨ(同)

后宮歌合 白雪之降手積禮留山里者住人佐倍也思銷濫

古今忠峯

古今友則 吾屋門之菊之垣廬丹置霜之銷還店将逢砥曾思　テソコヒシカリケル(同)

后宮歌合 三吉野乙山之白雪踏別手入西人之音都禮裳勢沼

古今忠峯

后宮歌合 十月霖降良芝山里之並樹之黄葉色増往　サホヤマ　カツラ(同新同)　正歟

新古

汴、詩泣ニ氷れ汴

伊勢家集、竹のはにちりかゝりなん梅花雪の中のたとるとみるへく、

后宮歌合 古今
雪降手。年之暮往。時丹許曾。遂。緑之。松裳見江藝禮（モミチヌ（古同））丹歟

同 後撰
涙河。身投量之。淵成砥。凍不レ泮者。景裳不レ宿（ハアレ（後同））（ユクカタモナシ（後））

爲レ君。根刺將レ求砥。雪深杵。竹之園生緒。別迷鈍

后宮歌合チラシ
攪散芝。散花砥而已。降雪者。雲之城之。玉之散鴨（コト（同））

夫木第十八又三十
霜枯丹。成沼。雖レ思。梅花。拆留砥曾見。雪之照禮留者（砥歟）

後撰
歷レ年砥。色裳不レ變沼。松之葉丹。宿留雪緒。花砥許曾見咩（カ枝イエ）レ（同）

戀歌二十首

后宮歌合友則 古今友則
紅之色庭不レ出芝。隱沼之下丹通手。戀者死鞆

同 新拾
思筒。晝者如レ此店。名草咩都。夜曾佗杵。獨寢身者（コソナミダツキスナカルレ（同））

后宮歌合 新拾
鹿島成。筑波之山之。筑々砥。吾身一丹。戀緒積鶴（マ（同拾同））（神（同））

后宮歌合 拾遺
都例裳那杵。人緒待砥手。山彥之。音。爲左右。歎鶴鈍（コトフルマテモ）（コタヘスル（古））

古今
戀亘。許呂裳之袖者。潮滿。海松和布加津加沼。浪曾起藝留（砥乎）

新勅 后宮歌合
戀佗手。打寢中丹。往還留。夢之只徑者。宇都丶丹那良南（カヨフ（同古同））

古今敏行

六帖第五、ハカリノ題、ナソワカコヒノ、

後拾遺雜四、紀時文、イニシヘノチヾノコガネハカギリアルヲアフハカリナキ君ガ玉章

念オモヒトイハネド、火ヲカネテ、ヨミアハセタリ

玉葉戀三、戀の歌よみ作ける中に、蹤風こひしともあひみぬさきになくなりぬれば蹤風集同じ、歳ハ蹤の誤にて、きえぬともへはなるへし。

萬集十一、片糸モテヌキタル玉ノナヽヨハミ亂ヤシナム人ノシルベク

拾遺戀五、ツラケレド恨ムルカギリアリケレバ物ハイハレデネコソナカルレ

后宮歌合
懸都例者。千七之金裳數知沼。何許戀之。逢量那岐　ト(同)

同　夫木三十三
人緒念心之熾者。身緒曾燒。烟立砥者。不レ見沼物幹

戀芝砥者。今者不レ思。魂之。不二相見一程丹。成沼鞆倍者　減歟

后宮歌合　續後撰
被レ厭手。今者限砥。成西緒。更昔之。被レ戀鉇　シカルラム(同續同)　丹歟

同　古今
戀敷丹。佗手魂。迷那者。空敷幹之名丹哉立南　ノコラム(同古同)

后宮歌合　古今
朝景丹。吾身者成沼。白雲之。絶手不レ聞沼。人緒戀砥手

后宮歌合
片絲丹。貫玉之。緒七弱美。亂手戀者。人哉知南

后宮歌合　古今菅野高世
都例無緒。今者不レ戀砥。念倍鞆。心弱裳。落淚歟

同
人不レ識下丹流留。淚河。堰駐店。景哉見湯留砥　ナ(同續同)

續後撰
淚河。流被店袖之。凍倚。佐夜深往者。身而已冷濫　下上歟

君戀砥。霜砥吾身之。成沼禮者。袖之滴曾。泣增藝留

戀敷丹金敷事之。副沼禮者。物者不レ被レ言手。淚而已許曾

思佗。山邊緒而已曾往手見留。不レ飽別芝人哉見留砥　アカス

古今
千七色丹。移徙良咩砥。不レ知國意芝秋之。不二黃葉一補者　之歟　草葉都良イ

新撰萬葉集卷○下 之歟

春歌二十一首

后宮歌合源當純
古今
谷風丹。解凍之。每レ隙丹。打出留浪哉。春之初花

后宮歌合藤原興風
古今 タテ、絕イ
音不レ斷。鳴哉鶯。一年丹。再砥谷。可レ來春革

同
春之日丹。霞別筒。往鴈之。見江須見江須裳。雲隱筒 ユク(已上歌合)
津平有疑

燃草丹。梅散落沼。生多良者。何成花歟。又者可レ折 柝歟

吾身緒者。一朽木丹。成多禮哉。千之春丹裳。逢留貝那芝 砥イ
千歟下廿七葉左

后宮歌合
古今興風 タナビク
春霞。起出留野邊之。若菜丹裳。成見手芝鉇。人裳摘八斗 モシテシガ(歌合)

后宮歌合
春來禮者。花緒見牟云。心許曾。野邊之霞砥。共丹起介禮 ミムトオモフ(後) ヌ(六帖)
後撰春、女とも花みんとて野邊に出て典侍因香朝臣(六)

同
拾遺
年內。皆乍レ春。過那南。花緒見手谷。心可レ遣久 ハテ(同) クレ ミテタニモウキヨ過ラム(拾)

同
續千載友則
春雨之。色者滋雲。見江那國。野邊之綠緒。何手染濫 コクシモ(同) コシトモ(同)

同
古今興風
折花者。乍千種丹。化成砥。誰革春緒。恨果多留 イトヒ(同) 不惜去里歟留イ

師說、萠木トヨメル歌アリ、是ニナズラヘバ、萠草ニ、燃ヲカリテカヽセタマヘル歟。

(同)新撰 色深見留野邊谷。常那良者春者往鞆方見成申

同 古今千里 鶯之白レ谷出留音無者春者來鞆誰告申（同古同）

同 大虛緖。覆量之。袖裳鉇。春開花緖。風丹不レ任芝

往撰 丹イ（同）

同 新撰 白妙之浪道別手哉。春者來留。風立毎丹。花裳拆藝里（フクマヽ（同））

同 散花之俟云事緖知坐猕。春者往鞆。不レ戀間事。（フルユキトフラセサラ シノバレザラ）

后宮歌合 俟手云丹。不レ駐沼物砥。乍レ知。誣手戀敷。春之別歟（新古 マテトイフニ）（緖乎 ハ（同））

往春之跡谷有砥。見申加者。迅還來砥。言申物緖

此歌后宮歌合爲二一首一可レ爲レ正

往春之跡谷有砥見申加者ノベノマニ／＼トメマシモノヲ

アカズシテスギユクハルノ人ナラバ迅還來砥言申物緖

開者。日散。緖可レ惜芝。春之方見丹。摘曾駐鶴（美乎）（已上后宮歌合）（此歌如レ本異本同）（華乎 衍文乎）

后宮歌合 來春丹。逢事許曾。固唐日。過往丹爲曾。不レ後申（將乎）（スモカナ（同））

春霞。棚曳山之。假廬丹者。涌瀨而已許曾。於砥者立藝禮

去年鳴芝。音丹佐牟幡似。垂鉇。幾之間革。花丹狎兼

後撰春、讀人不知、花シアラバ何カハ春ノヲシカラムクルトモケフハナゲカザラマシ

朝忠集、花ダニモチラデワカルヽ春ナラバケフヲワリナクヲシマザラマシ

開者、后宮歌合ニ、日クルレバカツチル花ヲアタラシミ春ノカタミニツミゾトメツル以二此歌一改正。

此歌、鶯トイフ文字スヱズシテ、コゾナキシトイヒ、花ニナレケムトイヒテ、題ハセリ。

古今、タグレハ雲ノハタテニ物ゾオモフ天ツソラナル人ヲコフトテ

夏歌二十二首

后宮歌合
天之原。悠々砥而已。見湯留鉇。雲之幡手裳。色滋雁藝里

后宮歌合
散花之。染云量。勢芝山緒。不レ見知沼容丹。夏者成塗

後撰 鯛風宗集 ノヒトシラス
夏之夜之。月者無レ程。乍レ明。朝之間緒曾。加許知寄介留　ツ(同)

同
鯛風集
夏之月。光不レ惜。照時者。流水丹。遊絲曾立

千里集鵲飛山月暗
後撰
鵲之。嶺飛越斗。鳴往者。夏之夜度。月曾隱留　テ(同)　カトゾミル(千)

后宮歌合
匂筒。散西花。曾思。裳保湯留。夏者綠之。葉而已繁里手

同
夏之風。吾歎手。本丹西。被レ裹者。思牟人之。土毛丹芝手申　四手

后宮歌合ノ
假染丹。身哉被レ恃沼。夏之日緒。何蛻蟬之。鳴暮芝鶴　世(同)　ナト(同續同)

續後撰ノ
夏來者。藕之浮葉。老沼禮砥。後拆花緒。見裳過棲鉇

后宮歌合
夏之日緒。暮芝佗塗。蟬之聲丹。吾鳴添留。音者聞湯哉　ネ

后宮歌合
吹風之。吾屋門丹來。夏夜者。月之影許曾。涼鷹介禮　ス(同)

后宮歌合ヲ　レトモ
古里丹砥。念哉爲濫。郭公鳥。如二去歲一丹。那禮曾鳴成　馴也

後撰、夏題不知讀人不知、第三句ヲカヘセ玉ヘルヤウハ、萬葉十六ニ、ヤブリナ、破夫利トカキ、ミヤコヲ都夜故トカケルニ同ジ。

句

土毛、左傳昭公七年云食二土之毛一誰非二君臣一。樋口氏

藕、爾雅云、荷芙蕖其根藕。

■ハ、霞ノ字ヲアヤマレルナルヘシ。

シタハナチユクトハ、モスソヲカヽグルヲ云歟。又シタバカレ行、ト歌合ニアルハ、下葉枯行歟、夏ノアツキ日ハ、草ノ下葉モもえこゝかれゆく物なり。

白氏文集云、草螢有レ耀終ニ非レ火、荷露雖レ團豈是レ珠。古今、僧正遍昭、ハチスバノニゴリニシマヌ心モテ何カハ露ヲ玉トアザムク

萬葉第七、片岡ノムカヒノヲカニシヒマカバコトシノ夏ノカゲニヤミムカ

夏之日緒蓉芝佗筒鳴蟬緒將問而爲廉何事歎倦杵　クサノクル、モシラス(后宮歌合)　トヒモシテ(同)

沙亂丹情解筒暖杵身緒木高別手風牟問南　ヤヒチ(同)

后宮歌合
草繁芝多放往夏之夜裳別手別者袂者沾南　ハカレ　トシワケ

同
推鍋手夏樹之野邊緒見亘世者草葉毛水毛綠成藝里　サツキ(新同)カケ　樹(イ)山(又イ)ソラ　クサバミナミトリナリ(新)

新勅
后宮歌合
夏之夜之露那駐曾藕葉之誠之玉砥成芝果爾者　ス(同)

同
夏之日緒天雲暫芝隱沙南寢程裳無明留朝緒　ヨニセム(同)　シノヽメ(新)

新撰和歌
后宮歌合
夏之夜之松葉牟曾與丹吹風者五十人連歟雨之音丹殊成　コヱ　カハレル(同)

同
幾之間丹花散丹兼求谷有勢者夏之蔭丹世申緒　枯　ナガク　ミ(同)

后宮歌合
夏草裳夜之間者露丹憩濫常焦留吾曾金敷　ウチハヘテ　永イ又水イ　丹イ

蓬生荒留屋間丹郭公鳥佗敷左右丹打蠅手鳴

秋歌三十七首　八首

后宮歌合
浦近久起秋霧者藻鹽燒烟砥而已曾立亙藝留　アサ　コリ　ミエ(同)　アヤマタレケ(家)　ミエワタリ(後)

古今撰賦風集
同貫之
秋之野之草者絲鞆不レ見江那國景白露之玉砥聯貫　オク　ナル(同)　ヌクラム(後)

後撰紅葉御時歌めしければ貫之
置乎

當日

此トリカヘスハ、取カヘテ打カヘスナリ。古今、徹行、久方ノ雲ノ上ニテミルキクハ天ツ星カトノヤマタレケル

鳥ハ、寫シアヤマレル字ナルベシ、隔ニテ、アサノ上畧乎。

古今
爲レ吾○來 秋丹霜○荒 無國丹○蟲之音聞 者○先 曾念 敷

同
秋來者○天雲左右丹裳○不二黃葉一緒虛佐倍驗久○何歟見湯盤　トイヘ　ト(同)　エニシ

同
山澤之○水無杵砥許曾○見互○秋之黃葉之○落手騷勢者　コト　ル　チリテカヽレ(同)

寶風集 井八

同
秋風丹○被レ倡互○鳩歟聲 者○雲居遙丹○當日曾聞湯留　キツル

后宮歌合 續撰
幾之間丹○秋穗垂濫○草砥見芝程幾裳未レ歷無國　カトトモヘタヽラ(同)　クサ(同)

同
大虛緖取反鞆○聞那國○星歟砥見留○秋之菊鍦　ミエ

后宮歌合
秋之野丹玉砥懸留○白露者鳴秋蟲之淚成希里　ツ(同)

拾遺貫之 續撰
秋之夜丹○雨砥聞江手○降鶴者○風丹散希留○黃葉成介里　フルモノ(拾)　シタカフ　コノハ(拾)　ミタルヽ(續)

后宮歌合寶風
秋之夜緒○明芝佗沼砥○云鷲留曾○物思人之○爲丹佐里介留

古今寶風
白波丹○秋之木葉之○浮倍留者○海之流勢留○舟丹佐里介留　人乎　カトソミ(同古同)

同
秋之野丹○駐露砥者○獨寢留○我淚砥曾○思保江沼倍杵　オケル　ヲ　モ　ヒシレカシ

同大江千里
栽芝時○花待遠丹○有芝菊○移徙秋者○憐砥曾見留　ニ　アハンヤシ(同古同)　哉イ　芝イ

古今千里
黃葉○誰手酹砥歟○秋之野丹○奴麋砥散筒○吹素良牟　アキ風ハ　葉者乎　モミチハヲ　ニキリ　チラス(已上后宮歌合)

萬葉六、オク山ノマキノハシノギフル雪ノフリハマストモ土ニオチメヤモ

後撰、天川シガラミカケテトヽメナムアカズナカルヽ月ヤヨドムト

萬葉十、ヌバ玉ノヨワタルカリハオボツカナ幾夜ヲヘテカオノガ名ヲノル　後撰

秋、行カヘリコヽモカシコモタビナレヤクル秋ゴトニカリカリトナクヒタスラニワガオモハナクニオノレサヘカリ〳〵トノミナキワタルラム

瀬溪、セヽラク是乎。

文集亦、始涉ルニ藍-淡瀠ヲト

良奈同韻相通、今世々、奈支ト云ハ小水之名、磯水耳日者誤也。

古今、秋下、是貞親王家歌合歌、文屋康秀。

古今、命トテ露ヲタノムニカタケレバ物ワビシラニナク野ベノ蟲

后宮歌合　後撰　風寒美。鳴秋蟲之。涙許曾。草葉之上丹。露緒置良咩　ニイロトル　ハイロトル（一云）　ト（同後同）

同　黄葉之。散來時者。袖丹受牟。土丹落佐者。疵裳許曾都衜　ハ（同）

后宮歌合　六帖　音丹菊。花見來禮者。秋之野之。道迷左右峯。霧曾起塗　スル他本無此歌　末詳　タチワタリツヽ（同）

同　古今　秋之露。色殊々丹。置許曾。山之黄葉裳。千種成良咩　ノコトコト　イロコトヽニ　コノハノ（同）

同　後撰　秋之夜之。月之影許曾。自木間。墮者衣砥。見江亘氣禮　オチハコロモト身ニウツリ（同）

後撰　古今　草木皆。色雖變。大海之。濤之花丹曾。秋無鳫希留　是貞親王家歌合題歌　クサモキモ　康秀　ワタツミ

銀河。秋之夜量。與砥麻南。流留月之。景緒駐部久

不常沼。身緒飽沼禮者。白雲丹。飛鳥佐倍曾。鳫砥聲緒鳴

黄葉之。流手堰者。山河之。淺杵瀬良杵裳。秋者深杵緒　見奴イ

打吹丹。秋之草木之。芝折禮者。郁子山風緒。荒芝成濫　フクカラニ（古）ノヘノ（同小註）　トイフラム（古）

秋之蟲。何佗芝良丹。音之爲留。恃芝影丹。露哉漏往　霜イ

山裳野裳。千種丹物之。哀杵者。秋之意緒。遣方哉無杵

白露丹。被瑩哉爲留。秋來者。月之光之。澄増濫　夜之[illegible]之・冷加[illegible]イ

後撰　月ヲミテ　秋風丹。濤哉立濫。天河。亘間裳無。月之流留々　セ（同）

秋之野丹。凝垂露者。玉成哉。聯貫懸留。蜘之絲筋
古今是貞親王家歌合歌オクシラ
夕暮丹。音累増。秋之蟲。何歟金敷。吾那良那國
露寒美。秋之木葉丹。假廬爲留。蟲之衣者。黄葉成計里
秋來沼砥。目庭朗丹。不レ見禰鞆。風之音丹曾。被驚計留
古今秋たつ日よめる敏行
如レ此留世丹。何曾者露之。起還里。草之枕緒。數爲覽　成良南イ
秋之野丹。立棊之聲者。吾曾鳴。獨寢夜之。數緒歴沼禮者
白雲丹。翼鼓替芝。飛鴈之。影佐倍見留。秋之月鉇
秋來者。草木雖レ枯。吾屋門者。繁里。増留。人芝不レ問禰者　曾乎
磯之上。古枠心者。秋之夜之。黄葉折丹曾。思出鶴

冬歌二十二首

后宮歌合
天之虚。冬者浦佐倍。凍介里。石間丹涌豆。音谷裳世須　ス（後）
後撰　未詳　底（イ）コホリニトチタレヤ
同
流往。水凍塗。冬障哉。尚浮草之。跡者不レ定沼　トヽ（後）
後撰
后宮歌合
吾屋門者。雪降牢手。道裳無。五十人童葬處砥。人將レ來　ヒトノトメコム（同）
同
神女等歟。日係紛之上丹。降雪者。花之紛丹。焉違倍里　ル（同）　恐衍文　絲乎

古今秋上、題不知讀人不知、カズサヘミユル秋ノ夜ノ月
是定家卿天福ノ本也、顯昭法橋本ハ、カゲサヘミユル秋ノ夜ノ月

虛　義訓

古今冬、題不知讀人不知、雪フリシキテフミワケテトフ人シナケレバ今案、將ノ下ニ、問ノ字アリテトヒコム歟。
葬處ハ、字ヲカリテ、カヽセ玉フマデニテ、墓ニアラズ、イヅコヲソコト云程ノ心トミエタリ。ソコハカナドイヘルハカナルヘシ。

古今冬、友則、雪フレバ木ゴトニ花ゾ咲ニケルイヅレヲ梅トワキテヲラマシ

貫之家集、白雪ノタナ引ワタル足引ノ山ノタナバシ我モワタラン、此歌新古今旅ニハ山ノカケ橋ケフヤワタララム、

トケズモアルカナヲ、毛阿ノ切賊ナレバ、ツヾメテマルカナトヨメリ。

眞

月令日、露結爲霜。

颶風集、嵐吹山ノフモトニチル雪ハトクチルウメノ花カトゾミル

萬葉十、山高ミフリクル雪ヲ梅花チリカモクルト思ヒツルカモ

後撰、フルユキハキエテモシバシトマラナムハナモモミヂモ枝ニナキ比

不雪者、此句字ノオチタル歟、雪ノ下ニ、消間ノ二字アリテ、ユキ、エヌマハ歟。

新古今戀二、題不知、藤原興風、アトフミツクルネヲノミゾナク、フミトムルユクヘモナシ、皆道ノ縁ナリ、濱路トツ、クル心ヲ、シラセントテ、道鳥ト書給ヘリ。

后宮歌合
冬來者。梅丹雪許曾。降紛倍。何禮之枝緒。花砥折申　（カヽレ）（エダヲ）（歟イ）（トハヲラム(同)）

同
足曳之。山之懸橋。冬來者。凍之上丹。往曾金敷　（カネツル(同)）

白雪之。降手凍禮留。冬成者。心眞丹。不解麻留鉇　（貞乎）（下十六左三）

后宮歌合ソ
白露裳。霜砥成介留。冬之夜者。天之漢障。水凍介里

后宮歌合
降雪之。積留峯丹。白雲之。立裳不躁。居歟砥曾見留　（ハ）（／者イ）（浪イ）（サワカデ）（ヲル(同)）

同
吹風者。往裳不知砥。冬來者。獨寢夜之。身丹曾芝美介留　（イロ）（ミエネ(後同)）（チルイ）

後撰
同颶風
嵐吹。山邊之里丹。降雪者。迅散梅之。花砥許曾見禮　（シタ）（ウメノハナ）（サクカト）（ル(同)）

后宮歌合
雪而已曾。柯丹降敷。花裳葉裳。伊丹兼方裳。不知麻留鉇　（キ）（カト）（ミエスモアル(同)）（去也）

草裳木裳。枯塗冬之。屋門成者。不雪者。問人裳無　（ユク）（ユキフミワケテ(イ)）（ソキ（已上后宮歌合））

后宮歌合是則又宗集
冬之池之。上者凍丹。閉鶴緒。何手加月之。底丹入兼　（テ）（タル）（ラレテ）（ミユラム(拾)）

拾遺
浦近杵。前丹波立。冬來者。花拆物砥。今曾知塗　（タチ）

后宮歌合
霜之上丹。跡蹈駐留。濱道鳥。往邊裳無砥。浪耳曾來留　（ツク）（ナキ）（ス(同)）

自木間。吹來風丹。散時者。雪裳花砥曾。見江惑介留　（亘イ）

古今、布引ノ瀧ノ白糸年ツモリオイニケラシナクロキスヂナシ

古今冬深養父、冬ナガラ空ヨリ花ノチリクルハ雲ノアナタハ春ニヤアルラム

後拾遺戀和泉式部、君コフル心ハチヾニクダクレドヒトツモウセヌモノニゾアリケル

月ヲ玉桂トイフコト、此ニ二首ミエタル外、モロ〳〵ノ文ニヨメル歌ナシ。

後撰戀二、女ノモトニ初テツカハシケル、藤原忠房、オモフオモヒハ、牟ハ布ヲ寫誤レル歟、又通韻歟。神代紀、物根ヲ、モノタネトヨメリ、種ト根ト、コトナレド心通セリ。

后宮歌合
雪之内野。自三山許曾。老者來禮。頭之霜砥。成緒先見與
シロク(同) カラ ガラ スゾ オモハル、(夫)誤

同
降裳不敢。銷南雪緒。冬之日之。花砥見禮早。鳥之認覽
トフ(同)

年月之。雪降往者。草裳木裳。老許曾爲良芝。白見禮者

雲之上之。風也者繁杵。白雪之。枝無花砥。許々良散覽

花更丹。散來砥而已。見江鶴者。降積雪之。不消成介里

戀歌三十一首

后宮歌合
一度裳。戀芝砥思丹。苦敷者。心曾千々丹。摧倍良成留

同
君戀留。涙之浦丹。滿沼禮者。身緒筑紫砥。曾吾者成塗
トコ(古同) ケル(古)

古今輿風
獨寢。屋門之自隙。往月哉。涙之岸丹。景浮濫

戀佗。景緒谷不見芝。玉桂。殊者根佐倍丹。掘手捐店

沼イ
後遂丹。何爲與砥歟。玉桂。戀爲留屋門丹。生增留藍

后宮歌合
人見手。念裳牟事谷。有物緒。暗丹戀曾。葬處無雁介留

足千種之。祖裳都良芝那。如此量。思丹迷。世丹駐低

玉葉戀五、朱雀院御時、入内の後、いかなる事か有けん、淸愼公のもとへつかはしける、女御藤原慶子、身のうきに思ひあまりのはて〳〵はおやさへつらき物にぞ有ける

古今 君コフル
人緒思。涙芝無者。唐衣。胸之亘者。色裳江那申
アタリ(古)

古今、秋上、寛平御時、后宮歌合歌、興風、此歌コヽニハコトオボツカナシ、秋ノ歌ト注ニマジレルニヤ。

萬葉十二、ワキモコニ戀スベナカリムネヲヤキ朝戸アクレバミユルキリカモ
ウツホ、祭ノ使、大ソラモワガゴト物ヤ思フラム草木モコガレテテレル夏ノ日
兼賀集、ハルカスミタナ引ソラハ人シレズ我ミヨリタツ煙ナリケリ

元眞集、アヒミヌニシヌベキ物ト知ヌレバ心ヲサヘゾコロシハテツル、

後撰戀二、藤原千兼　ながれては行方もなし涙川わが身のうらやかぎりなるらん
素性家集　松山の水は數とおもほえず戀しき君にしき浪ぞたつ

發句ヲカ、セ玉ヘルヤウ、萬葉ニモミエズ、夕月ハ人ノ三里バカリ行ホドアル心ニヤ。

后宮歌合　契兼言路曾都良杵。織女之。年丹一度逢者相革

同　吾戀者。三山隱之。草成哉。繁佐増禮砥。知人裳無杵　ノ(同古同)　古今小野美材

同　思庭。大虛障哉。燃亘。朝起雲(霧イ)緒。烟庭爲手　トハ(同)

同　不レ飽芝手。君緒戀鶴。波許曾浮杵見沈箕手有亘都禮　ニ　ミヤセ　ケル(同)

同　無レ破曾。寢手裳覺手裳。戀良留々。怨緒五十人槌。遺手忘牟　古今　コヽロ　コヽロ(同)　シキカ　ラハ(同古同)

同　佗沼禮者。誣手將レ忘砥。思輌。夢砥云物曾。人恃目那留　テ　フ(同)　古今興風同集

可レ銷。命裳生八斗。試牟。玉之緒量。將レ逢云南　シヌル　イキモヤスル　ニ(已上后宮歌合)　古今同歌合

后宮歌合　不レ飽芝手別芝初夜之。涙河。與砥美裳無裳。涌立心歟　上畧　コヽロカ

同　無レ限深思緒。忍禮者。身緒殺丹裳。不レ滅介留　テフ(詞同)　ハ(同同)

同　經レ年。燃那留富士之。山自者。不レ飽沼思者。吾曾増禮留　詞花新勅撰

同　佗亘。吾身之浦砥。成禮々者哉。戀敷人之。頻浪丹起　コト(同)

同　髣髴丹見芝。人丹思緒。屬染手。心幹許曾。下丹焦禮　續古今

同　夕三里夜。於保呂丹人緒。見手芝從。天雲不レ晴。心地許曾爲禮　而已許曾(イ)

雖レ近人目緒護許呂者雲井遙氣杵身砥哉成南　ヒトメヲモルコロハ（同）

同
不レ飽而今朝之還道不レ覺心一緒置手來芝加者

天漢三尾而已增留早滿丹荏許曾堰敢禰袂之志加良三

自葦間滿來潮之彌增丹思增鞆不レ飽君鉇

人之身丹秋哉立濫言之葉之薄裳滋裳千丹移徙禮留　ウスクコクナリウツロヒニケリ（同）

貫之家集
戀爲禮者吾身曾影砥成丹介留佐利砥手人丹不レ添物故

古今貫之
逢事者雲井遙丹鳴雷之音丹聞筒戀亘鉇

古今忠岑
風吹者峯丹分留々白雲之往還手裳逢砥曾思　タエテツレナキ将乎キミカ心カ（同又貫之家集）

袖裳無杵身砥哉可レ成戀歷筒涙丹腐手可レ棄藝禮者　六帖四、別、素性タモトナキ身トナリヌベシケフヨリハ、ナミタニクチテステヽムモノヲ、素性家集アメヨリモタモトナキ身ゝナリヌベシタエヌナミダニクチヌベケレハ

戀佗沼天河原倍往手志歟亘彦星逢砥云成

女郎花歌廿五首

一木無二女郎花部一以二戀部一爲二卷終一

白露之置晨之女倍芝花丹裳葉丹裳玉曾懸禮留

草隱禮秋過禮砥女倍芝匂故丹曾人丹見塗

名丹饒手今朝曾折鶴女倍芝花丹懸禮留露丹奴禮筒

拾遺戀二、大納言清蔭、ふたつなき心は君におきつるを又ほどもなくこひしきやなぞ

萬葉四、アシベヨリミチクルシホノイヤマシニオモフカ君カワスレカネツル
伊勢物語、アシベヨリミチクルシホノ……

古今戀一、題不知讀人不知、ワカミハカゲトナリニケリ
左ノ詩ノ第三句、不レ添沼物一故更一生、此ニヨルニ、添ノ下沼字落タル歟。

玉葉秋上、亭子院歌合に、女郎花を、讀人不知、

饒　司馬相如傳ニ云、資用富饒カ也。張良傳云、巴蜀之饒（樋口氏）廣勺曰、富也、飽也、餘也。

古今秋上、朱雀院の女郎花合に讀て奉りける忠岑、ヒトノミルコトヤクルシキ秋キリニノミ

夫木十一、秋二、女郎花、昌泰元年、亭子院歌合、ヨミ人シラス、秋ノ野ノヲミナヘシトルサ、ワケニ、是ニヨルニ少竹ニ別ト有ケムヲ、竹ノ字落タル歟、少ハ小ト通用、少納言少輔ナトノゴトシ。

名ニコソアリケレヲ、曾阿ノ切佐ナレハ、ツヅメテナニザリケレトヨメリ。曾ノ字ハ行文ナリ、モシハアトサト同韵ニテ通スレバ、アリケレヲ、サリケレトヨメル歟、但此例ハミエズ。

姿ヲ、スガタトハヨムマジ、萬葉ニ、風流ヲヨシトヨメレバ、コレヲモサヨムベキ歟。

此歌、三四ノ二句ノ間字オチテ知ガタシ。

夫木第十一、秋二、女郎花、昌泰元年、亭子院歌合、讀人不知、腰句秋マチテ、ウツホ物語、祭ノ使、アラカネノ土ノ上ヨリ蘩カヅラハヒテフケフゾウレシカリケル

詩第二句云。路頭ノ遊客花ノ色詠。

公丹見江牟。事哉湯々。敷女部芝。霧之籬丹。立隱濫

女倍芝。移秋之。程緒見手。根障遷手。露曾折鶴

秋之野緒。皆歷知砥手。少。竹乎 別丹。潤西袂哉。花砥見湯濫

毎レ秋丹。折行良咩砥。女倍芝。當日緒待乃。名丹許曾佐里介禮

秋風丹。吹過手來留。女倍芝目。庭不レ見禰砥。風之頻禮留

泛成砥。名丹曾立塗。女倍芝。那砥秋露丹。生添丹兼

古今秋上、朱雀院の女郎花合に、讀て奉りける、みつね

女倍芝。往過手來。秋風之。目庭不レ見砥。香許曾驗介禮

女倍芝。人哉見都濫。三吉野之。置白露之。姿緒作禮留

女倍芝。此秋而已曾。已膽杵緒玉砥。貫手見江南

荒金之。土之下丹手。歷芝物緒。當日之占手丹。逢女倍芝

女倍芝。秋之野風丹。打靡杵。心一緒。誰丹寄濫

古今左大臣時平

乍レ枝。花秋風丹。散沼鞆。色緒原分那。野之女倍芝

長宵緒。誰待兼。女倍芝。人待蟲之。毎レ秋丹鳴

夫木十一

秋之野緒。定手人之。不レ還禰者。花之〇者。不レ遣介里

朗丹裳。今朝者不レ見江哉。女倍芝。霧之籬丹。立隱禮倚

夕當レ改ニ作久ニ

拆野ハ、名所ナリ、萬葉第八ニ、春山ノサク野、第十二、ヲミナヘシサク野、萩ノ花サク野、ナトヨメリ。国郡未レ考、ヲミナヘシハ、サクトツヽケム料ノ枕言ナルヲ、ヤガテ下ニ秋クレハ、花ノ陰ナトヨミテ、題ニ叶ヘタリ。

詩第一句云、打-亂緒秋風ニ故レ倦

夕方之。月人男。女倍芝。生砥裳野邊緒。難レ過丹爲

女倍芝。拆野之鄕緒。秋來者。花之影緒。曾。假盧砥者世留

打敷（亂イ）。物緒思歟。女倍芝。世緒秋風之。心倦介禮者

君丹依。野邊緒離手。女倍芝。心一丹。秋緒認濫

女倍芝。秋在名緒也。立沼濫。置白露緒。潤衣丹服手

古今物名、をみなへし

友則、あき露をわけそほちつゝ、花みんと今その山をみなへしりぬる

女倍芝。折手丹潤留。白露者。嫉花之。涙也介里

露草丹。潤曾保知筒。花見砥。不レ知（沼乎）。山邊緒。皆歷知丹杵

萬葉緯 巻第十一 終

萬葉緯 巻第十二 竟宴

目録

日本紀竟宴各分レ史

得二大鷦鷯天皇一二首、藤原國經
得二神日本磐余彥天皇一幷序、三統理平
得二國常立尊一藤原春海
得二日臣命一二首、葛井清鑒
得二天穗日命一二首、矢田部公望
得二櫛玉饒速日命一二首、藤原忠紀
得二王辰爾一藤原博文
得二事代主神一藤原佐高
得二思兼神一阿保經覽
得二天手力男命一阿刀春正
得二猿田彥一紀淑望

得二玉依姫一大江千古
得二太玉命一物部安興
得二巴提便一藤原忠房
得二段楊爾一惟宗具範
得二天萬豐日天皇一藤原玄上
得二木菟宿禰一源兼似
得二土倉阿弭古一紀有世
得二保食神一大中臣安則
得二渟中倉太珠敷天皇一藤原道明
得二天國排開廣庭天皇一二首、三善清行
得二下照姫一源當時

得二伊弉諾尊一藤原菅根
得二豐御食炊屋姫天皇一藤原忠平
得二天渟中原瀛眞人天皇一在原友于
得二氣長足姫天皇一平惟範
得二橘豐日天皇一藤原清經
得二御間城入彥五十瓊殖天皇一十世王
得二日本武尊一藤原有實
得二大泊瀨天皇一藤原有穗
得二聖德太子一源貞恒
得二武內宿禰一藤原國經
得二譽田天皇一源光
得二大鷦鷯天皇一藤原時平
得二雄朝嬬稚子宿禰天皇一式部卿是忠

得二瑞齒別天皇一、兵部卿貞保
日本紀竟宴各分（以下天慶六年）
得二壬辰爾一首并レ序 橘直幹
得二天稚彥二一首藤原利博
得二天穗日命二一首秦敦光
得二天兒屋根命二一首源仲遠（橘乎）
得二秦酒公一 葛井清鑒
得二段楊爾二三善文明
得二思兼神一 三統公忠
得二浦島子一 大江朝望
得二木祖句句廼馳一源公輔
得二田邊伯孫一藤原近相
得二草祖草野姫一平齊章
得二玉依姫一源泉
得二事代主神一 源俊

得二壬辰爾一 菅原有躬
得二衣通郎姫一橘實利
得二阿直伎一紀在昌
得二櫛玉饒速日命一 藤原有相
得二土倉阿珥古一 源泓（洽乎）
得二聖德太子一 藤原師尹
得二物部麁鹿火大連一 小野好古
得二伊弉諾尊一大江朝綱
得二豐玉姫一藤原俊房
得二國常立尊一大江維時
得二月夜見尊一源公忠
得二的戸田宿禰一源仲宣（橘乎）
得二保食神一源由道
得二菟道稚郎子一藤原有聲
得二秦大津父一源國淵

得二雌朝津間稚子宿禰天皇一藤原在衡
得二天國排開廣庭天皇一源庶明
得二御間城入彥天皇一 伴保平
得二天命開別天皇一 源高明
得二大泊瀨天皇一 源清蔭
得二大鷦鷯天皇一 藤原師尹（井乎）
得二活目入彥五十狹茅天皇一藤原實賴
得二天萬豐日天皇一 中務卿重明
得二大己貴大神二一首、矢田部公望

諸書所レ出竟宴歌

得二土倉阿珥古一 菅野高松
彥波瀲武鸕鷀羽葺不合尊、兵部卿イ
康（下和）譽田天皇、右大臣多
得二國常立尊一歟歌一首
得二伊弉諾尊一歟（乎）一首

萬葉緯 卷第十二

洛東隱士似閑編緝

此本者鎌倉中書王眞蹟。藏在肥後國熊本城下本紗寺矣。師不慮得臨寫彼本。而成諸頭或於諸書每有稱竟宴歌者纂於書尾手自加奥書附與於予。雖然以不類撰書苅除歌左并註釋假名再臨寫附片假名於歌右令人易見焉。以古註并師說合而爲頭註且加今案而已

紹運錄云、人王第八十七代後嵯峨院第一皇子宗尊親王、征夷大將軍一品中務卿、文永十一年七月廿九日薨、年廿二、今按下向鎌倉爲將軍依號鎌倉中書王

日本紀竟宴和歌上

養老五年始講　博士從四位下大江朝臣安麻呂

釋日本紀云。日本書紀講例、康保二年外記勘申、養老五年博士或云不注云云。今案養老五年一品舍人親王奉勅撰日本書紀而奏上翌年也。作者大江中書王誤也。應作太一字

弘仁四年講　博士刑部少輔太朝臣人長外記日記註弘仁三年

釋紀同云。竟宴　弘仁三年　私記云。四年云云博士刑部少輔從五位下多朝臣人長今案作者太ノ安手麻呂カ孫乎カ　日本後紀第二十二曰。弘仁三年六月戊子。是日始令參議從四位下紀朝臣廣濱。陰陽頭正五位下阿倍朝臣眞勝等十四人讀日本紀。散位從五位下

日本後紀二、三年とあれば外記の異說こそ四年とあるべけれ。

貞主事八、西宮記等にも見えず。

多朝臣人長執講

承和十年講　參議從四位上滋野朝臣貞主、外記日記ノ注ニ博士散位正六位上菅野高年

釋紀同云。承和十年六月一日。博士散位菅野朝臣高年。建春門南腋曹司講之　續日本後紀第十三曰。承和十年六月戊午朔。令知古事者散位正六位上菅野高年於內史局始讀日本紀。同私考云十一年六月丁卯。日本紀讀畢。

元慶二年講　五年畢。六年宴。助教從五位下善淵朝臣愛成

釋紀同云。元慶二年二月二十五日　博士伊豫介善淵愛成敷政門外宜陽東廂講之（於敷政門外宜陽東廂講日本紀竟宴序云。右相府命秘書監善大夫）序者從五位下行大內記菅野朝臣惟肖。歌人兵部卿本康親王以下三十人（博士序者加之）序云。中間相府轉太政大臣秘書拜豫列別駕。壬寅歲秋八月。相府率唱群公聊行澆章之禮。三代實錄第三十三曰。元慶二年二月二十五日辛卯。於宜陽殿東廂令從五位下行助教善淵朝臣愛成始讀日本紀。從五位下行大外記島田朝臣良臣爲都講。右大臣已下。參議已上聽受其說。同第三十五曰。元慶三年五月七日丙申。令從五位下守圖書頭善淵朝臣愛成。於宜陽殿東廂讀日本紀喚明經紀傳生三四人爲都講大臣已下每日閑讀。前年始讀。中間停癈。故更始讀焉。同第四十二曰。元慶六年八月二十九日戊辰。於侍從局南。右大臣曹司。設日本紀竟宴。先是元慶二年二月二十五日。於宜陽殿東廂令從五位下助教善淵朝臣愛成讀日本紀從五位下大外記島田朝臣良臣。及文章明經得業生學生數人遞爲都講。太政大臣右大臣及。諸公卿並聽之。五年六月廿九日講竟。至是申澆章之宴。親王已下五位已上畢至抄出日本紀中聖德帝王有名諸臣分宛。太政大臣已下預講席。六位已上各作倭歌。自餘當日探史而作之。琴歌繁會歡飮竟宴。博士及都講賜物有差。五位已上賜

內藏寮綿。行事

外記史預焉

日本紀畧云、延喜四年八月九日大學寮差進日本紀尙復。同廿一日講日本紀。同六年十月廿二日日本紀講竟。同十二月廿七日、日本紀竟宴。閏十二月十七日、於侍從所日本紀竟宴每人分史詠和歌云々。

延喜四年講　六年宴。紀傳博士矢田部公望 明經葛井清鑒

釋紀同云。延喜四年八月廿一日。博士從五位下大學頭藤原朝臣春海或云前下野守云々講所不詳。竟宴同六年閏十二月十七日序者從五位下行大外記兼周防權介三統宿禰理平　歌人兵部卿貞保親王以下三十六人　序云。甲子歲降欠字ナランカ綸旨令大學頭大夫說之始於四年秋八月廿一日終於六年冬十月二十二日。卽閏十二月十七日聊屈師禮以成竟宴。

新國史全文初見于茲。又何在、諸神記云、新國史云、仁和五年四月乙亥、朕之外祖母當宗氏神、在河內國自今年始可祭之云々。

新國史曰。延喜四年八月二十一日壬子。是日於宜陽殿東廂令初講日本紀也。前下野守藤原朝臣春海爲博士。紀傳學生矢田部公望。明經生葛井清鑒等爲尙複復乎。公卿辨大夫咸以會矣。特召大舍人頭惟良宿禰高尙。文章博士三善朝臣清行。式部大輔藤原朝臣菅根。大內記三統宿禰理平。式部少丞大江千古。民部少丞藤原佐高。少內記藤原博文等令預講座焉

今按亂逆ハ將門純友ノ亂也。

承平六年講　天慶六年宴

釋紀同云。博士從五位下行紀伊權介矢田部宿禰公望。宜陽殿東廂講之　竟宴天慶六年十二月廿四日依亂逆引延乎　序者從五位下行大內記兼近江權少掾橘朝臣直幹　歌人中務卿重明親王以下三十七人　序云。承平六年之冬。令阿州別駕田大夫說之。中間別駕累遷美州紀州。天慶六年九月傳授始畢。至其十二月二十四日聊仍舊貫之儀以行澆章之禮云云

今案日本紀略云。朱雀院承平六年十二月八日壬辰。於宜陽殿東廂講日本紀。同廿四日戊申。有日本紀竟宴。同天慶六年十二月廿四日戊辰。於宜陽殿有日本紀竟宴。私云承平竟宴史家失乎

今按釋日本紀云。康保二年八月十三日

博士攝津守橘朝臣仲遠。承平尙復（云云）

日本紀略云。村上天皇康保元年二月廿五日壬申。今日勅定散位正五位下橘仲遠講日本紀。又尙復學生仰紀傳明經道可令差進之由仰大學寮。同九月乙酉。陰陽寮勘申可講日本紀之日時來月廿日乙丑同二年八月十三日庚戌。於宜陽殿東庇始講日本紀。以橘仲遠爲博士。私云。此後記竟宴不見。亦講日本紀無所見。朝政襄行可歎焉

西宮記云。始講日本紀事。大臣奏宣旨定博士。又仰明經道令差進尙復學生。定去月（其乎）裝束於宜陽殿東廂。大臣南面東上（右北壁下）大納言以下參議以上東面北上列於納言座之東端（西面）設博士座。其南（西面）設當講尙復學生座。東孫庇小板敷有聽衆幷少納言外記史幷尙復學生座。時尅大臣幷納言立右近陣座各執書卷（別勿）入自東面板戶昇殿著座。（納言自第一間登之）次參議入從東面板戶。卽昇自南第一間著座。（同執書卷）座定大臣召外記。外記稱唯。趁立東戶內（西面是見大臣入戶也）大臣仰可召博士之由（其詞在上日記也）外記稱唯退出。次博士入從南小戶直登著座。次尙復學生等入自同小戶著東小板敷座（座乎）。次聽衆幷少納言及召人等入從同南小戶著小板敷座。々次當講尙復學生一人進著其座。次博士尙復大臣以下皆披書卷。次尙復唱文一聲音。其體高長之。次博士讀。々了尙復讀訖（訖乎）。尙復博士退出　二三年之間。講讀畢。定日設宴座於侍從所竟宴事。侍從所。其座西壁下撤大臣座。其所立四尺屛風二帖。其前施地敷二板幷茵一枚爲之博士座。又撤納言以下座。其母屋東第一二間西上對座設大臣以下。參議以上座（立机備肴食物但博士机三前）參議座東庇設四位幷辨少納言座。南廂東第一二間設召人侍從大夫以下座。其末設尙復學生等座。同南廂中央間立文臺裝束訖。（此間脫句）親王一人許也。

公卿自左近陣引至件取入從坤角東行登自巽角階相分著座。次辨少納言及侍從昇殿著座。次尙復學生等又著座。次辨少納言及侍從大夫等著座。座定外記等置紙筆硯。尙復學生一人就文臺披詠詩二三再奉親王。次臨時召人等一々畢。但大臣以下預件講人。々乎兼皆得其詠詩之文。盃酒三獻之後上達部進盃。序者進序之後取文臺莒置博士前上卿座之上方。次又外記秉燭。次上卿召博士一人（預定其一人也）爲講師。人々讀件倭歌（此間親王公卿出爲令入宮）此間辨少納言幷侍從大夫等文候公卿座近邊。于時大歌御琴師調和琴。被召公卿座頭令應詠之音講畢博士尙復各給祿有差。件祿物爲饗饌等之物從公卿家家依廻文所給也（諸道講書記傳講書漢書竟宴之日貞眞親王參會出詠句以云云　明法博士惟宗直本於里亭可講律令小紀宮旨）

日本紀竟宴。各分史得大鷦鷯天皇一首（元慶六年）

皇太后宮大夫藤原朝臣國經

氣不利奈岐。（烟氣無）也度遠女玖美之。（宿惠）須女良己曾。（皇）也曾度世阿末利。（八十年餘）玖爾之良之氣禮（國知食）

於保散々岐。（大鷦鷯）多加都乃美也乃。（高津宮）安女毛留遠。布可世奴古度乎。（風雨入隙漏屋不葺事）多美波與呂古布（百姓稱聖帝）

日本紀竟宴和歌延喜六年

日本紀竟宴。各分史得神日本磐余彥天皇（幷序）

從五位下大內記兼周防權介三統宿禰理平

日本書紀者。一品舍人親王。從四位下太朝臣安滿等奉勅所撰也。神代上下紀。帝世廿八紀。惣三十卷。筆削成功。其勤至矣。此紀元慶皷篋以來二十餘年。倚席不講。時人竊歎師說將墮。中子歲降綸旨令大學頭藤大夫說之。大夫。下意之問。上口而答。學前儒之于矛鑒後生之耳目。況亦。

詩ハ、今按ニ歌也。萬葉集ニ引レ當ノ歯レン詩ト或ハ陪ノ賦ト至レ下ス。讀ニムト件ノ倭歌ニヲ則爲レルコト歌必セリ矣。

八雲御抄第二、會ノ歌ノ書樣ヲノ玉ヘル下ニ和歌注不レ可レ然事歟、但源ト起ニ日本紀竟宴ノ延喜ニクハ崇德院御時顯輔ガ書ノ注云々

此ノ竟宴ノ序釋日本紀ニ略シテ引ケリ、序者菅野朝臣惟肯歌人三十人云々。此木假字ヲ用タルニ詔トスベキ事多シ。

仁德四年ノ紀

神武天皇紀

皷レ篋ハ記ニ入レ學ニ皷レ篋遜ニ其業ニ。樋口氏

教而無倦。勸以傾懷。始於四年秋八月廿一日、終於六年冬十月廿二日。郎閏十二月十七日、聊屈師禮以成竟宴。于時在朝公卿大夫莫不畢會焉。數巡酒後。座人耳熱。宜下歌舊史各述緣情上。其詞云

得國常立尊

渡飛加氣留。阿麻能伊波布禰。多都禰弖蕉。阿岐都志麻弭波。美野波志迷勢留(新古)

從五位下大學頭藤原朝臣春海

得日臣命二首

葦牙廼。那微能幾佐斯裳。度保迦羅須。阿麻都比津機能。波志米度毋弊波

學生蔭子從八位下葛井宿禰清鑒

伊佐遠志久。多陁斯岐彌知乃。於牟迦斯佐。斗弖曾和我那毛。岐微波多末比斯

以婆禮比古。美流伊米佐女弖。耶駄賀羅須。和禮斗曾府多理。美知波遠志弊祀

得天穗日命二首

學生陰孫從七位下矢田部宿禰公望

阿麼能褒臂。俄彌農美飫野簸。耶佐賀珥廼。伊朋津儒波屢濃。儷弃登胡楚耆鷄

倶娑幾微儺。擧都夜讃豫斗底。婀辭撥羅乃。矩兒問多智儞芝。夷弉鳴那梨氣釐

耳熱前漢楊惲傳、酒後耳熱呼嗚々。樋口氏

神代紀上

穪考曰、此歌以國常立爲王者ノ大宗トマウニ聞ユ。

神武天皇紀

神功紀傾感(於武加志美)靈異記喜(武可之比)萬葉第十八(ムカシクモアルカ)

伊米、由米、トモニ日本紀並ニ萬葉ニ多シ。神代紀上、又下。ツネハスマルトイヘド、統ノ字スブトヨメバ、スバルトイハレタリ。神代紀下

延喜式第八、出雲國造神賀詞云、出雲臣等遠祖天穗比命(乎)國體見(尓)遣時(尓)天(能)八重雲(乎)押別(氏)天翔國翔(氏)天下(乎)見廻

(氏)云事中結(久)云々。

神武紀・舊事紀・古事記

得ニ櫛玉饒速日命ニ二首

學生蔭孫從七位上藤原朝臣忠紀

そらみつとも、そらにみつともいふは、やまとの枕詞なるが、これはやがてやまとをさしてそらみつといへり。山を足引といふが如し。

蘓朗美都邇。阿麻能伊婆布然。玖陁斯志波。比志理廼微餘遠。和多須登傳那理

敏達天皇紀

毗佐迦陁能。阿麻農婆波耶能。那賀理勢波。阿羅布留比度遠。那邇迦牟景末斯

得ニ王辰爾一

少內記從六位上藤原朝臣博文

神代紀下

譽能那呵尼。吉美那賀利勢婆。嘉羅須皤爾。加氣流古登皤々。那褒幾裔奈麻志

得ニ事代主神一

式部少丞正一位下。不審。樋口氏

式部少丞正一位下藤原朝臣佐高

須女美萬仁。夜志未乎佐利弖。奈美能宇倍乃。阿遠布事加幾邇。多比爲須留可那

神代紀上

得ニ思兼神一

新拾遺神祇

左大史正六位上兼行筭博士阿保朝臣經覽

方便、量、測ヲ共ニ日本紀ニハ、皆タバカルトヨメルハ、只ハカルト云ニ同ジ、俗ニアザムクトノミ思フハ誤レリ。

於蒙飛加禰。多波賀利許度乎。勢佐梨勢波。安萬能伊波度波。飛羅氣佐良萬事

同上

得ニ天手力男命一

外從五位下大外記阿刀宿禰春正

止己也美母。多乃之支美與止。奈利介留波。安女多知加良乎。多須介安利介利

（常闇　手疑　御代　成　天手力雄　助　有）

神代紀下

得二猿田彦一

刑部少輔從五位下紀朝臣淑望

新古今 比佐加多乃。安萬乃也弊久毛。不利和計天。多久利之支美乎。和禮曾無加弊之

（久堅　天　八重雲　振　別　天降　皇孫　我（猿田彦）奉迎待）

同上

得二玉依姫一

刑部大輔從五位下大江朝臣千古

新古今 四羅難彌爾。多萬餘理毗咩能。古志己登波。奈磯砂也都比爾。(新)東末利難理計武

（白浪　玉依姫　來事　渚　激　終　泊　成）

神代紀上

得二太玉命一

諸陵頭從五位下物部宿禰安興

比佐嘉多能。阿麻弖流呵美乎。伊能留度曾。要多母須惠々爾。奴佐波志弖氣留

（久堅　天照神　祈　枝　末　枝乎下枝ニ懸ニ　鏡乎　青和幣白和幣ー）

須惠々爾ノ詞意得ガタシ、末枝ナラバ須惠衣トアルベシ、オボツカナシ。

得二巳提便一

從五位下守佐兵衞權佐藤原朝臣忠房

多禮母古能。加奈之幾止支波。美遠須天々。東羅乃之多支留。那母多知奴部之

（誰子　時　棄レ身、　虎舌　切　名）

欽明天皇六年紀

西宮紀ニ云、其中秀句、誰嚢子之無レ香有時皮棄レ身底虎野舌切名複許奴壁舘乎（クレモコノカナシカルトキハミヲステテトラノシタキルナノヘヌベキタチ）

孝謙天皇七年

得ニ段楊爾一

從五位上博士兼備中權介惟宗朝臣具範

伊苑斗毛能。布瀰餘乎飛止波。哆耶也宇耶。古禮乎光爾止曾。度毛爾乃利止流

得ニ天萬豐日天皇一

從五位上行少納言兼侍從播磨權介藤原朝臣玄上

乎須國乃。能理多禮多末布。於保美與波。那爾波能那賀羅。度巳曾支巳由禮

得ニ木菟宿禰一

散位從五位上源朝臣兼似

都玖數久禰。須女羅加美許耶。那加弊世流。許巳路波幾瀰遠。伊婆布奈理氣利

得ニ土倉阿弭古一（西宮記同）

土倉、屯倉ノタカヘルニヨリテ、師説多ケレド、今コヽニ略シツ、神功皇后ノ御時、吾彥ノ子筑前ノ住吉ノ神主トナレリ。カヽレハ吾彥ハ二百餘歲ナカラヘタル人ナリ、其後ハシラス。依羅神則此人ノナレル歟。

前刑部大輔從五位上紀朝臣有世

阿彌波。留。安比古爾阿比天。阿知支奈久。四年之間解由無之

得ニ保食神一

孝德天皇紀
尊ニ佛法一輕ニ神道一爲レ人（柔仁）好レ儒不レ擇ニ貴賤一頻降ニ恩勅一云々。
おほよそ元年よりなり

仁德天皇紀

仁德天皇四十三年、作ニ依網屯倉阿弭古一、西宮記云、元慶六年竟宴未レ得ニ解由一者ヲ前三河守菅野高松得ニ土倉阿弭古一
土倉記網阿彌々介流曆抑哉繫ニ緒ニ手一無ニ解由一
四年之間解由無之トヨメル不レ得ニ解由一述懷也。和名鈔河内丹比郡依羅（與佐美）今按與ニ住吉大羅一不レ可レ混。

神代紀上

從五位上行神祇大副大中臣朝臣安則

宇介毛智能。加美能知加良波。伊津久佐能。多那津毛能乎曾。美與利那志多留

敏達天皇元年

得二淳中倉太殊敷天皇一

正五位下守右中辨兼行勘解由次官藤原朝臣道明

嘉良須羽邇。墨毛見別奴。玉津沙波。君賀御世爾曾。献氣流

欽明天皇十三年

得二天國排開廣庭天皇一二首

從四位下行文章博士兼備中守三善朝臣淸行

スラト云詞、萬葉ニ尙ノ字ヲ用タリ、無上ノ佛サヘナホ此世ニワタリ來リタマヘリ、イハムヤ其外ヲヤトナリ

保登計須羅。微迦斗加志胡美。斯朗陁幣能。那微迦幾和計傳。宜麻勢流母乃遠

七年紀

此歌ハ作者隨分才學アレドモ、サシモ用ラレネバ、述懷ヲ兼タル歟。老驥伏櫪トイフコトクナルベシト、タトフル心ナリ。

六帖第二

斗都惠阿末理。夜都惠遠胡遊流。多津能胡麻。幾美須佐米然婆。於伊波傳奴幣志

神代紀下

得二下照姬一

從四位下行在中辨兼木工頭源朝臣當時

此ノ發句衣通ノ心ナリ。

新勅撰

賀羅古呂裳。下照姬能。勢那戀曾。阿女仁幾古遊留。鶴奈良奴禰波

詩ニ鶴鳴二九皐一聲聞二于天一

神代紀上

得二伊非諾尊一

從四位上行式部大輔兼春宮亮備前守藤原朝臣菅根

阿遠宇那波羅。伊散那根美禮波。於保夜私麿。滿勢岐止跡袁能。我蘇迴曾阿理氣流

アヲウナバラナクトツ、ケラレタル事、マセキト、エノトイフ事キコエズ。樋口氏曰、マセキトモノハ、マスヒト、モ館、普通益人等也。推古天皇十五年

得二豐御食炊屋姫天皇一

右大辨從四位上兼行侍從備前守藤原朝臣忠平

堤乎波。豐浦宮爾。都幾曾女弖。世々乎部奴禮止。水波毛良佐須

聖徳太子傳曆六、推古天皇十五年秋九月。

池ヲホリ、塘ヲ築コトハ、崇神紀垂仁紀等アマタミエタルヲ、今ノ歌ニトヨラノ宮ニツキソメテトヨミ玉ヘル事、オボツカナシ。若ツキコメトヤヨマセ玉ヒケン。今案豐浦宮ニハ神功皇后ノミマシ〳〵テ、夫ヨリ後ノ帝オハシマシケル事未レ聞。

天智天皇六年

得二天命開別天皇一

參議左大辨從四位上兼行讃岐權守紀朝臣長谷雄

佐々奈美乃。與須留宇美倍爾。美夜波之女。與々爾多江奴加。支美加美乃知波

天武天皇紀上

得二天渟中原瀛眞人天皇一

參議正四位上行左兵衛督兼修理大夫近江權守在原朝臣友于

與古加波能。安多利爾多知之。久毛乎美弖。阿麻乃比津支波。衣弖之支美奈利

神功皇后紀

得二氣長足姫天皇一

參議大藏卿正四位下平朝臣惟範

日月乃行久。星躔波。可者留止毛。新羅乃國波。加知波可和可之

天皇討二服新羅一之時。新羅重誓曰。非二東日出一レ西。河石昇爲二星辰一。不レ乾二船艣一不レ闕二春秋之朝貢一。坂云

用明天皇二年

得二橘豐日天皇一

參議正四位下行右兵衛督兼播磨守藤原朝臣清經

多知波那能。須女羅乃支美遠。々之美介無。多須那可末己止。和禮毛於止良之

崇神天皇七年

得二御間城入彦五十瓊殖天皇一

參議正四位下行宮內卿兼伊勢權守十世王

多々禰古乎。無止女佐理世波。由女爾見志。於保毛乃奴之乃。可美安禮奈末之

景行天皇二十七年廿八年擊二熊襲一四十年平二東夷一

得二日本武尊一

參議正三位行左衛門督伊豫守藤原朝臣有實

ミコニヤハアラヌヲ、アヌ字ヲ畧シタル歟、古歌ノ例多シ。ミコニハヤハ、ミコニヤハニ同シ。

也末度多介。仁之比无賀志乃。久爾遠宇知天。太飛良介與世之。美古仁。也波。良奴

雄畧天皇四年

得二大泊瀨天皇一

中納言從三位兼行民部卿春宮大夫藤原朝臣有穗

美可利須留。（大木廿四・御田爲）幾見加弊留止天。（君還）久女加波仁。（來目水）比度古止奴之曾。（一言主）以天末世利介留（行ニ逆天皇一）

得二聖德太子一

中納言從三位兼行右衞門督源朝臣貞恒

以可留可能。（斑鳩）那美支乃見也爾。（十市郡磐余池邊雙槻宮）多天之乃利。（十七條憲法）以末乃散加之支。（今賢）見與爾安不可那（御代合哉）

得二武内宿禰一

大納言正三位藤原朝臣國經

川久之弊天。（筑紫經）久可多知世之爾。（探湯爲）支與支見波。（清身）む與乃數如良爾。（六代皇）可弊支爾介利（奉仕來）（川脫假字）（國記年十三天皇一其後子レ今六代故之始仕由田邑）

得二譽田天皇一

右大臣從二位兼行皇太子傅右近衞大將源朝臣光

渡之弊多流。（新勅撰作者誤年經而有）不留幾宇喜磯遠。（古浮伏）須弖年波曾。（不捨勿絕（經）タヽス）散邪計起毗比喜。（鏗鏘（サヤカ）（絕）響）（脈通）登保玖幾許遊流（遠所レ聆）

得二大鷦鷯天皇一

左大臣從二位兼行左近衞大將藤原朝臣時平

多賀度能兒。（臺上）乃保利天美禮波。（遠ニ望ミノソム）安女能之多。（天下）與毋爾計布理弖。（四方煙氣多起）伊萬蘇渡美奴留（今於ニ既ニ富矣）

得二雄朝嬬稚子宿禰天皇一

用明天皇
推古天皇
イカルカトハ、太子推古天皇九年ニ初テ斑鳩ニミヅカラ住給フべキ宮ヲツクリソメ玉ヒ、十三年十月ニ初テ住セ玉フ。ナミキノ宮トハ用明天皇十市郡磐余池邊雙槻宮ヲタテサセ玉ヘリ、斑鳩ハ今ノ法隆寺ニテ、程ヘタ、リ時タカヘリ、オボツカナシ。又タテシノリトハ十七條憲法ニテ、推古天皇十二年ノコトナレバ、イカルカハ、シハラクオキテ、ナミキノ宮オボツカナシ。又ナミツキニテコソアルヲ、ナミキトアルモイカニソヤ、ヨミソコナヒ玉ヘルニヤ。

應神天皇、九年
武内宿禰、景行天皇ヨリ仁德天皇マテ六代ノ帝ニツカヘ奉リ玉ヒケレハ、此注ソノナソラヘヲカキ玉ヘリ。

應神天皇三十一年

仁德天皇四年　七年
新古今賀、ミツキモノユルサレテ、國トメルヲ御覽シテ、仁德天皇御歌、タカキヤニノボリテミレバケブリタツタミノカマドハニギハヒニケリ　疑是今ノ歌歟。

允恭天皇四年

式部卿是忠

甘櫟乃。丘乃久可太知。支與介禮波。爾己禮留多見元。可波禰數末之幾

スマシキハ、今案、嫌ヲイサキヨクスルナリ、今俗[illegible]ヲ洗フヲスマスト云。

反正天皇

得二瑞齒別天皇一

兵部卿貞保

見門乃爲能。曾己爾之奈ヘ留。波奈乃以呂也。數女良美己度乃。見奈度奈利介む

見林云

正字通云分二宀之半一爲二广一乙二篆作二冂冂一左右半宀作二广乙一[illegible]ニ音ヲ注シタル[illegible]ニ、其ノ字ハ某ノ反ト云、反ノ字ニ乙乙ナドアリアマタナリ。

日本紀竟宴歌上

元慶六年歌　追加二首合四首　大納言國經卿一人二首

延喜六年歌　作者三十人といへり　三十六人　此中四人各[illegible]二首　合四十首

上卷合四十二首三十七人

序一首三統理平

日本紀竟宴和歌 天慶六年

日本紀竟宴各分。得二王仁一一首并序

從五位下行大内記兼近江權少掾橘朝臣直幹

原夫有レ國有レ家之后。先設二記レ言記レ事之官一。所下以知二萬代之規謩一察中百王之號令上者也。是用元正天皇御宇之時勅二一品舍人親王。從四位下太朝臣安麻呂等一俾レ撰二日本書紀一。上超二混沌一下別二人神一。始二於辛酉之元一終二於壬寅之歲一惣三十卷勒爲二一家一自下彼天孫排二雲衢八重之路一仙蹕降二日向千穗之峰一神倭臨二曲浦一而逢二漁人一焉指二中洲一而爲中鄕導上洎下于持統禪讓之際。傳以二洪基一文武謳歌之初。受中其曆數上乃是四十二帝之興襄者。纖微必錄一千餘年之治亂者。旨要無レ遺。寔著述之菁華爲二皇王之炯戒一。由レ斯弘仁承和之朝元慶延喜之世。重開二講席一累叩二疑關一。聖上纂二統天下一爲無。扶桑之域歸レ仁。細柳之鄕慕レ化。超レ周郁々。邁レ舜巍々。運屬二時休一思レ講二國典一故承平六年之冬令二阿州別駕田大夫說一レ之。大夫桂苑中料。蘭臺高弟。網二羅百氏一尋二其廣一則雲夢鄧林之飛走不レ逃。苞二括群流一論二其深一則三江五湖之波濤盡入。内染二提撕之慈訓一。外受二敦誨於先師一。卽應二綵綸一始披二講授一。藻鏡懸レ鑒光澄二宇宙之間一華鐘待レ撞響徹二雲霞之表一。天慶二年季冬之末。東西邊州風塵不レ靜。干戈之備嚴蘭講誦之音寂寥。俄而盪二滅一兇一澄二淸四海一。衆區寧謐禮樂復興。尋以講レ之其禮如レ故中間別駕果遷二美州紀州一。六年九月傳授

竟宴據日本紀竟宴之事。

始畢。至二其十二月二十四日一聊仍二舊貫之儀一以行二澆章之禮一。于レ時王公大夫。碩儒博學。鵷鸞接レ翼朱紫成レ群。宛然茅洞之春遊一髣二髴蓬壺之夜宴一。鳴琴緩鼓別鶴啼焉之曲欲レ終。羽爵頻飛中山上若之流無レ數。請分二舊史一各々詠二新歌一扇二遂古之餘風一。纉二先朝之故事一其詞曰

神代紀下

得二天稚彥一二首

學生蔭子正七位上藤原朝臣利博

和多津見野。千倍野肆羅奈身。古江天沽曾。八島乃國仁。布箕波都太不禮

安麻都賀美。耶保與魯都度波。意賦奈禮度。阿咩和賀飛古能。難古蘇多賀氣禮度利能禰遠。度賀武流比度能。難賀利勢波。安麻能發波耶發。駕弊羅非良摩事

神代紀上下

意ノ字、日本紀萬葉等ハ皆於ニモチキテ、倭ニツカヒタル事ナシ、下ノ多敦光歌ニ賀美能意非雄ト云々。

得二天穗日命一二首

明經得業生從六位下行伊豫權大目秦宿禰敦光

阿麻能保毗。宇氣毗母志屢何。安禮麻斯弖。賀美能意非雄度。難理爾氣流賀難

延喜式第八、出雲國造神賀詞ニ見エタル。

安志波羅能。美都保能何爾々。智發耶布留。賀美武計與度蘇。阿麻何多志鷄流

神代紀上

得二天兒屋根命一二首

文章生正六位上源朝臣仲遠

度固野美珥。阿萬弖瑠呵美苔。異廼離弖蘇。菟岐飛度度毛珥。能智婆瑳駕遊流
阿瑳儺阿瑳儺。底瑠飛廼娑萬離。瀰屢語苔珥。固野泥能美虚度。伊菟伽倭儒麗倖

雄略天皇十二年

得二秦酒公一

外從五位下行造酒正葛井宿禰清鑒

木工闘鷄御田ナレド、タクミヲバ都テヒダノタクミトイヘバ、カクハヨメル歟

繼體天皇紀七年

已止能禰濃。阿波麗耶禮波夜。數梅羅機瀰。飛多能多久美濃。都美焉喩留勢流

得二段楊爾一

勘解由次官從五位下三善朝臣文明

多仁野宇仁。飛止爾古惠太留。波加勢加毛。和加夜之麻々弖。奈見和氣久禮波

神代紀上

得二思兼神一

從五位下行大外記兼近江權少掾三統宿禰公忠

度固豫那瑠。登離廼胡惠爾曾。伊婆斗々智。毗伽利離岐豫波。安氣波芝之貴氣流

雄略天皇廿二年

得二浦島子一

少納言兼侍從。五位下大江朝臣朝望

宇羅志麻能。許々呂兒加奈布。都摩遠衣天。加米野世波比遠。東裳兒曾部氣留

神代紀上

得ニ木祖句々廼馳一

縫殿頭從五位下源朝臣公輔

玖玖之知加。宇美保度古世流。伊呂伊呂之。木古曾見屋古之。加佐里奈利氣禮

雄畧天皇九年同十七年。九年新七月壬辰朔河內國言云々コレ伯孫事。十七年春三月詔ニ土師連等一云々。コレハ別義。右取合テヨマレタルハ誤リナルベシ、又伯孫埴馬ツクルトイヘル事モ紀中ミエズ。

得ニ田邊伯孫一

從五位下守治部大輔藤原朝臣近相

伯孫可。埴爾馬作之。時與利曾。器佐部。豐奈利氣留

神代紀上

得ニ草祖草野姫一

兵庫頭從五位下平朝臣齊章

ハルヤムカシノ詞、コヽニ見ユ。

度志古度乃。波留也光加芝之。加也之比女。野丹毛也萬丹毛。九佐之毛由良光

神代紀下

得ニ玉依姫一

從五位上少納言源朝臣泉

和陁都彌遠。伊底玖麻斯計武。胡盧路故蘇。夜麻讃智比胡能。與咩度作弊那禮

神代紀下

得ニ事代主神一

從五位上守權右少辨源朝臣俊

瀰胡斗能驪。俄斯古美傳胡倦。毛路陁布禰。虚志畢理美保能。讃機遡都驪勢爾

語（高皇産巽）

得二王辰爾一

從五位上守右少辨菅原朝臣在躬

事留古登能。安流度難岐。能。幣多天遠發。三日波駕利度毛。伊布邊嘉理氣利

度（假名）

得二衣通郎姬一

從五位上行少納言兼侍從紀伊介橘朝臣實利

夫利爾天留。加保波太禮曾止。度不末天仁。比賀利度保禮留。幾見加於度飛女

弟姬本名也、衣通郎姬者時人號

得二阿直伎一

從五位上行式部少輔紀朝臣在昌

久太良與利。奈美遠和氣許之。岐美奈禮波。奈遠波奈加禮天。乃許須奈留倍之

得二櫛玉饒速日命一

從五位上守左少辨藤原朝臣有相

久多利古志。阿麻能伊波布禰。伊波禮比古。美也波志咩勢留。志流倍難理氣利

得二屯倉阿弥古一

敏達天皇元年
世說新語云、魏武嘗過二曹娥碑下一、楊修從。碑背上見レ題作二黃絹幼婦外孫齏臼八字一、魏武謂レ修曰、解不、答曰解、魏武曰、卿未レ可レ言、待二我思一之、行三十里、魏武乃曰、吾已得、令二修別記一所レ知、修曰、云々、魏武亦記レ之與レ修同、乃歎曰、我才不レ及レ卿乃覺三三十里一、注二當讀典錄ヲ引タル說ニハ[illegible]衡解ストイヘリ。

允恭天皇七年
古事記ニハ衣通郎女トハ允恭天皇ノ皇女、輕ノ大郎女ヲイヒテ、今ノ衣通姬ノ名ヲバ、弟姬之郎女トイヘリ。

應神天皇十五年

神武天皇

今西宮記有二作者名一、歌御
仁德天皇御見レ上（四十三

年ノ久者此歌有ニ述懐意一。倶知ハ鷲ノ字書ニモロ〳〵ノ頭ニテ智ノ名ノカハレル事ヲイヘル處ニ、鳩鶴高鷲トアリ、カヽレハ倶知ハ鳩鶴ノ音ナルヘシ。

從五位上行前參河守源臣訟(西宮記)

安美乃宇知丹。加々利波志女之。久知與利裳。者那知加弊作奴。那氣岐萬佐禮里

日本紀録
太子傳曆

太子傳云、三年甲午春三月云々太子三歳答之、桃花ハ一日榮物、松葉ハ萬年之貞木也。故所ノ賞之。

白氏文集云、若無ニ松栢一[illegible]ハ、其ニ有[illegible]。

今按日本紀ニテコムヲニモ[illegible]アナキ事ヲ傳ノ說ニ付テヨマレタルコトハイカヾアラム、此ホニヨリテミレハ、太子傳ハフルキ書ニコソ。

得ニ聖德太子一

從四位下行在中辨藤原朝臣師尹

佐支耶保敷。波奈乎者於幾弖。登與止美己。萬津爾者見萬須。伊呂那賀利介里

得ニ物部麁鹿火大連一

從四位下行左中辨小野朝臣好古

[illegible]天皇二十一年

心ニクベキニ、ユカズトアルコト吟味スヘシ。

阿羅賀比狗。都久志野伊者井。多禪良氣弖。古許呂由賀須曾。於毛布倍良奈留

神代紀上

得ニ伊弉諾尊一

從四位下行民部大輔兼文章博士大江朝臣朝綱

賀曾伊呂婆。阿婆禮度美須夜。毗留能古婆。美斗勢爾那理努。阿枳多々須志天(已上西宮記同)

西宮記、其中秀句西宮ノ息ニ於宮ニテ三年ヲヘラレケル述懐ナリ。

神代紀下

得ニ豐玉姬一

備中權守從四位下藤原朝臣俊房

奈美遠和介。倭我比能毛度遠。多都禰古之。毗志利濃美與能。於夜仁佐利藝留

神代紀上

ムスヒオキテトイヘル□、解シカタシ。穫季用、此亦王葉ノ眞劉ヲ詠ル乎、ムスヒオキテハ、ハシメオキテノ意ナルヘシ。古言ニ、物ノ最初ヲ草ムスビト云フ、又縁ヲムスブト云ヘルモ夫婦ニナルハシメヲ云ヤウナリ。ヲサムルハジメ、ハジメオキテニテ重復ニナラズ。

得二國常立尊一

從四位下行大學頭兼文章博士備前守大江朝臣維時

新勅撰

安馬能芝多（天下）。乎佐牟留波之女（治始）。牟須毗於幾弖。豫魯菟與萬弖爾（萬代迄）。多愛努那利氣理（不絕成）

得二月夜見尊一

從四位下守右大辨兼行近江守源朝臣公忠

新勅撰

都奇餘美濃（月夜見）。安女爾農保利弖（天上）。野彌毛那久（無）。阿岐良氣幾豫乎（明代）。美瑠我陁能芝佐（見樂）　公忠家集

仁徳天皇十二年

得二的戸田宿禰一

右兵衛督從四位下源朝臣仲宣（新勅撰、拾遺本云、續古撰）

久魯賀禰能（黑鐵）。麻度遠度保世流（通）。伊佐美爾蘇（勇）。奈焉多麻波利弖（名賜）。與爾都多幣計留（代傳）

神代紀上

得二保食神一

從四位下行兵部大輔源朝臣由道

伊津久散能（五種）。多奈津毛能雄者（穀）。宇介毛知野（保食）。加美曾那志介流（神生）。與呂津夜能多咩（萬代為）

應神天皇四十年

得二莵道稚郎子一

從四位上行式部權大輔藤原朝臣有聲

此歌ヨミトキカタシ、愛ノ字ヲメグシトヨメト、心ニハメグトイヒテ、腰ノ句ニミタマヘルトアリ、イマダカクヨメル例ヲシラネバ、後ノ人サダムベシ。

譽田能幾美波。於止古遠曾迷久。美多麻倍留。久仁遠由都留。古止濃不可幾爾（此句脱一字）

欽明天皇

得秦大津父

從四位上左京大夫源朝臣國淵

大可美遠。多須介天能智曾。大津父可。不歌久佐與利波。那利天多利介留

允恭天皇上四年下十四年

得雄朝津間稚子宿禰天皇

參議左大辨從四位上兼行備中守藤原朝臣在衡

萬賀布守智遠。久可倍溫須惠傳。和玖能美簡。王多濃當摩讃部。安羅波禮仁計麗

（割レ蜯貿眞珠有ニ腹中ニ）

欽明天皇

得天國排開廣庭天皇

參議從四位上行左兵衛督兼紀權守源朝臣庶明

於保美度求。比呂邇波須女良。微與那禮波。阿多志久爾佐弊。阿麻多幾都加布

崇神天皇十七年

得御間城入彦天皇

參議大藏卿正四位下兼行播磨守伴朝臣保平

美萬支比古。與能奈加和多須。古々呂阿利天。奈久天者阿之支。不禰造久利介利

天智天皇十年

得天命開別天皇

參議正四位下兼右衛門督行備前權守源朝臣高明

雄略天皇五年

得ニ大泊瀨天皇一

言ヲ朝テ治ノ皇皇太子ノ時立ラレシハ、降朝天皇六年五月ノ[illegible]ニミエタリ。

須女羅枳能。乃布彌濃美也而。都玖利於岐斯。登磯農摩邇摩邇。微與毛多喬勢數

中納言源朝臣清蔭

仁徳天皇四年[illegible]七年

得ニ大鷦鷯天皇一

與岐古度遠。與呂都與賀禰亭。衣都留賀那。可津良幾夜滿能。久布乃美嘉利于

從三位守大納言兼行中宮大夫藤原朝臣師尹

大鷦鷯。須女羅賀與々利。多津氣敷里。阿麻能比都幾仁。裳江萬散留賀奈

垂仁天皇三十五年

得ニ活目入彥五十狹茅天皇一

續古今賀、清輔六

大納言正三位兼右近衛大將陸奧出羽按察使藤原朝臣實賴

意氣美都耳。但邇散嘉江計流。滿幾牟玖濃。多萬超農賀勢芳。伊麻衣能古禮利

孝徳天皇

得ニ天萬豐日天皇一

中務卿重明

安馬豫魯都。豫呂茲農美那焉。都多敷留波。久禰多毗良氣岐。與々能賀須鴛毛

得二大己貴大神一二首

従五位下行紀伊權介矢田部宿禰公望

久仁牟氣芝。（平国）保古能佐紀與利。（寳矛先鋒自）都多倍玖留。（傳來）美太末農快由蓄。（恩頼）計輔曾字禮之義（今日）
知保安幾乃。（千五百秋）久爾遠婆米多留。（國治有）阿度乎能美。（跡耳）豫呂都余伊麿毛。（萬代今）和須禮野波洲流（忘哉者爲）

清輔奥儀抄云、皆丹歌ニイトマナミカヒナキ身サヘイソグ設ミタマノフユトムベイモイヒケリ ミタマノフユト云ハ、ナキ人ノ恩德ヲ報ストテ、年ノハテニマツルニ、下人ハミタマ祭ト申ス。公家ニハ荷前ノサキ祭ト云、日本紀ニハ恩頼ト書テ、ミタマノフユトヨメリ。見林云。

日本紀竟宴歌下

此卷天慶六年竟宴歌三十七人（此中四人各詠二二首一）

合四十一首

序一首（橘直幹上下序合二首）　上下合八十三首　追加二二首一　猶豫歌三首合八十八首

諸書乍レ出。此書所二漏脱一之竟宴歌隨二師說一書二于茲一。今案ルニ宗尊親王書ニ寫シタマフモ　於竟宴歌ヲ此等見ルトキハ歌詠

・不レ有二全篇一歟。亦別ニ有ルカ二書卷一歟。

西宮記云　講二日本紀一博士等例。天長承和其人未レ詳。

元慶六年（右大臣宣奉レ勅講レ之例、以二假名字一書二詠句一）講博士伊豫介善淵愛成。序者大内記菅野惟肖。得二土倉阿彌古一。未レ得二解由一者

前三河守菅野高松、其詞曰。日本紀竟宴。各分レ史得二土倉阿彌古一。前三河守菅野高松

土倉能。網尼賀々介流。鷹狎哉。繫絆手。無二解由一

歌體大略如レ此云々（今按ニ此外雖レ出ニスト二首一ヲ與ニ前篇一依レ爲ニルニ同謌一省ニ畧之一ヲ）

元慶二年日本紀竟宴、彦波瀲武鸕鷀羽葺不合尊　兵部卿本康親王

和多川海。波加支和氣弖。阿良波禮之。多介宇能美古止。伊久與幣奴良牟（續後撰神祇ノ部　今爲ニ眞名一）

元慶二年日本紀竟宴ノ歌

譽田天皇　右大臣多

菱形能。小倉能山波。簸屢介支袁。君袁磨朋留爾。加介裳波奈禮儒（萬代集神祇ノ部　今爲ニ眞名一）

詞林采葉抄ヒモロキノ條下云。日本紀竟宴歌云。神ノヒモロギソナヘツルカナ。トヨメリ云云（上句无）

日本紀竟宴歌似タル歌。諸書ニ所レ出今記ニ于茲一。

アシツノヽ。オヒデシ時ニ。アメツチト。人トノシナハ。サダマリニケリ（六帖第六蘆）

若元慶六年竟宴ノ

得ニ國常立尊一讀歟

又古歌トテ

ヌホコタレ。オノゴロ嶋に。クダリマス。神ゾカゾイロ。國ヲウメレバ

是得ニ伊弉諾尊一讀歟

仁徳天皇四十三年、

無ニ解由一、高松未ノ得ニ解由一ヲ依ニ何誌一述レ懷乎。

二瀬レ作レ六

神代紀上

二瀬レ作レ六

譽田天皇

菱形小倉山、日本紀纂疏ニ所見ノ字佐宮ノ集第一云、菱形者三山之總名也、北辰影向之地也、峯形如ニ菱之角一、三山者ハ一龜山、在ニ北方一似ニ龜形一（號ニ小倉山ト）二大尾山、在レ東爲ニ龜山尾一、三宮山、菱形耶小倉乃山之下津石根ニ宮柱太敷立是也、又云、菱形之稱非レ一山之秀分ニ三方一、西崎於松林之間有ニ自然之池一、號レ山總名之故稱ニ菱形池一、西峯云

順家集夏衣キモコソマサレオナジクハ神ノヒモロギトキテカヘラム

神代紀上

種季曰

此歌三オヲ詠メリ、以ニ國常立ヲ爲ニ人也ニヨメレハ、世ノ神道ヲ云フモ、一氣ト云ヒ、發生ノ元氣等ト云ヘル、コトコトク妄言也

神代紀上天之瓊矛、瓊玉也

此日ヲ努

古事記、沼矛。

續古今、雑中太上天皇（後嵯峨院宗尊御文）

ヒサカタノアメヨリオロス玉桙ノミチアル國ゾ今ノワガクニ

續日本後紀第十二、仁明天皇承和九年十月辛酉朔壬午、彈正尹三品阿保親王薨、遣從四位上藤原朝臣助、從四位下田口朝臣佐波主、從五位上藤原朝臣宗成、從五位上下路眞人永名等監護喪事、葬日遣參議從四位上和氣朝臣眞綱等贈位曰、天皇我大命良万止阿保親王爾宣久、往者逆人結黨天不善留事謀利而乎親王乃至誠有天白顯爾依氐伏罪天國家不亂奈里爾依此氐伊都志賀參入坐牟冠位上賜止牟念行支、而間爾不慮外爾、忽爾朕我朝廷乎置天罷坐止奴聞食天原毛、驚賜比悔賜々止都大坐、然毛、治賜比授奉止牟所念之位止爲天奈毛一品賜比治賜布、又遣留禰留親母幷子等乎毛殊矜治賜牟、罷坐留道間波平久幸久、宇志呂毛輕久、罷坐止、詔不天皇我大命乎宣云云

堀河院後度百首、藤原忠房朝臣、池、伊勢ナラバヒガ叓ゾトモ思ハマシヤマトナルテフミマサカノ池。鴨長明伊勢人ハヒガコトシケリツシマヨリカヒガハユケバイヅシ野ノ原。西行山家集イセ人ハヒガコトシケリサヽ栗ノサヽニハナラデシバニコソナレ。

三代實錄第三十七云、元慶四年五月廿八日辛巳、從五位上行右近衛權中將兼美濃權守在原朝臣業平卒。業平者、故四品阿保親王第五之子、正三位行中納言行平之弟也。阿保親王娶桓武天皇女伊登内親王生業平。天長三年親王上表曰、無品高岳親王之男女先停王號賜朝臣姓。臣之子息未預改姓。既爲昆弟之子。寧異歯列之差。於是詔仲平行平守平等賜姓在原朝臣。業平體貌閑麗放縱不拘。略無才學善作和歌。貞觀四年三月授從五位上、五年二月擇左兵衛權佐數年遷左近衛權少將尋遷右馬頭累加至從四位下。元慶元年遷爲右近衛權中將明年兼相模權守後還兼美濃權守卒時年五十六。

江次第十四云。大原野行啓起五條后順子以藏氏勸學院衆爲車副。二條后高子以姪乘車後。在中將書和歌與二條后。大原也小鹽之山毛今日等己曾神代之事緒思出良目。人疑先是若有密事歟。或云在五中將爲嫁作后出家相構。其後爲生髮到陸奧國向八十嶋云云。中將與齋宮密通令生師尚眞人。仍高家子不參伊勢。故中宮大原野詣時資仲卿進五條后行啓時行列圖人疑之。

萬葉緯 卷第十三 眞名伊・

目錄

萬葉緯 卷第十三

洛東隱士似閑編緝

六條宮者、村上天皇第七皇子、二品中務卿具平親王也。號二千種一、和漢才人尤能レ書、六條久我元祖也。則所二撰述一之眞名伊勢物語只有二流布印本一而已、而校讎スルニ無レ由、以二定家卿天福假字本一採レ可レ要二此書一而記二同異一而餘措レ之而已、適以二袖中源氏河海等抄一間雖二引證一不レ足レ徵トスルニ焉、後以下寛永年中令二書寫一本上一校耳。

眞名伊勢物語

六條宮御撰

昔。男。裹頭爲而。平城京。春日鄕知由爲而。鴈往遣利。其鄕爾最媚有女。朋比住遣利。此壯士垣間見
尙書古者伏羲氏之王二天下一也　添下郡　領シル（萬葉）　鴈狩　娲娜ナマメク（遊仙窟）、萠々ハラカラ（允恭紀）　竹取物語ニモコヽカシコノオトコカキマミ
而遣利。不所念。古鄕爾最强而有希禮波。心地迷爾遣利。壯士著有遣留狩衣之裾乎鑽而歌乎書而遣。其壯
ココリノゾキカイマミノソキケリ
士信夫摺之狩衣乎何著有計留。
古今戀一業平
春日野廼。稚紫。摺衣。信夫廼亂。限不被知諸何云計留。次面白言與乎將思
三字无
道奧廼。信夫鈙摺。誰故。亂始似志。吾不成莫爾
古今戀四河原左大臣○戾摺ナリ　ムトオモフ（古）
諸云歌廼心餡得也。往古人。右壹早閑麗乎何爲計留
蜻蛉日記ニ、打ネタルホトニ、カドイチハヤクタヽク。久蟬ノコヱ、イチハヤウナキタレバオドロキテ云々
○昔。男。在計利。寧良花洛者別。此京者。人之家未定計留時。長安女在計利。其女代之人爾者勝有計
京
利。其人從質心何勝有計留。獨耳爾毛不有計羅志。其乎彼斂夫。打物語而還來而。如何將念。時彌生
利（イ）　鈙イ

1 裹頭、初冠。漢書。古今物名貫之、ワレハケサウヒニソミツル云々。
2 娲、明秘切娲娜也（玉）
3 朋比
4 神代紀下、覗其私屛。
5 强 杜子美、春水生詩ニ一夜水高二尺强数日不可更禁當。强牛屢添雲、雲臺抄。
蓬生ニ、ワツカニ南オモテノカウシアケタルニヨセタレバイトハシタナシトオホシテ、アサマシウ、スヽケタル几帳サシイテ、侍從出キタル。玉カツラニ、カヘランモハシタナク、心オサナク、出タチニケルヲオモフニ、竹取物語ニ、ミコハ立モハシタ、居ルモハシタニテ、居玉ヘリ。元眞集、我宿ニウヱテタニミム女郎花ヒトハシタナル秋ノ野ヨリハ
6 諸 郡各切苔也、說文應言也。
7 ミチノクノ、師說コレハシノブノミダレトヨメルハ、
歌ノ心ナリト作者ノ本歌ニヒキテ後人ノ註シツクルナリ。
8 定家卿勘物、河原左大臣源融、寛平七年八月薨、七十三、於二左中將一非二幾先達一如何。
9 鈙 與該同該六分切、磨、
几鼠切文無疑是乎（曰）
10 鈙イ本上玉）
閑麗
纏體綣、斐然之藻忽形ニ於言ニ云々
11 長安 見于下
斂父

1萬十六、イヤヒコノオノレ神サヒ背クモノタナ引ヒスラ小サメソホフル　新古今重之、春雨ノソホフル空ノヲヤミセス落ル涙ニ花ソチルケル

2魂左、和名鈔鬼物トカキテアシキモノトヨメリ。

3毛詩云、寤寐思服。悠哉悠哉。展轉反側。又云、言念ニ君子一載寢載興。謙德公、ヨルハサメヒルハナカメニクラサレテ春ノコノメゾイトナカリケル　六帖、フシテオモヒオキテナカムル春サメニ花ノ下紐イカニトクラム

4絢、無ニ所見一疑綺乎。韻會云、爾雅、綸似レ綸、組似レ組、東海有レ之、註云、海中草生ニ彩理一有ニ象レ之者一以名云。通志云、綸、鹿角、菜組、海中苔。和名鈔辨色立成云、六味菜、比須木毛、揚氏漢語抄云鹿尾菜。樋口氏曰、絢絢乎詩云容爾菜絢、ヒジキハナハヲナヘルニ似タル義ナレハナリ。

5二條后諱高子、貞觀元年十一月廿日從五位下、五節舞姫コレヨリ先ノ夏ナリ。

6五條皇太后諱順子、閑院贈太政大臣冬嗣女、仁明天皇后、文德天皇御母、清和天皇祖母也。

朔。1雨曾保零爾遣計留。

3寤不レ爲。寢不レ爲夜留乎。明而者。2春魂左。長雨晩津

○昔男在計利。（以下假名无）假性爲計留女許爾。（〇懸想也。）4絢裳與云物乎遣左

有レ念者。徘徊戸爾。眠毛爲何。引敷物爾者。袖乎爲乍裳（萬葉　玉シケル家モ何セム八重葎ハヒタル宿モ妹トシスマハ）

5二條后宮。未帝爾毛祇承不レ賜。直人爾而御坐計留時事與社

○昔　6東五條爾皇太后宮御坐計留。西對爾。住人在計利。其乎穂爾者不レ有。（ホ(イ)）志深有計留。人往訪計留乎。

親月上旬計爾。外爾隱逖利。在所雖レ聞。他往可レ通所爾毛不レ有計禮者。名乎7佗與思乍何在計留。復年大簇

爾。前梅榮成爾。去季乎思出而。彼西對爾往而。立而見。出雖レ見。去年爾可レ似毛不レ有。打泣而。8亭有

板敷爾、月傾左右手伏而。去年乎慕而讀。（思出(イ)）

（古今ノ業平）9月哉不レ有。春哉昔。春不レ有。吾身獨。本身爾爲而

諸讀而。夜若旦與明爾。（朧ホノカ(萬葉)）泣哭還逖利

7佗　楚辭。余佗傺兮。王逸註ニ失レ志貌。大簇、白虎通云、正月律謂ニ之太簇一何太亦大也。簇者湊也、言ニ萬物始大湊レ地而出一也。

8亭、和名鈔、釋名云、亭ハ人所ニ停集一也（和名河一波良）云（阿波良也）。

9新勅撰後撰、梅ケ香モ身ニシム比ハ昔ニテ人コソアラネ春ノヨノ月。續拾遺戀四、春ノ比物申ソメケル人ノ梅ノ花ヲ折テサシオカセ侍ケル又ノ年、オナシ所ニテヨミ侍ケル、前中納言定家、心カラアクカレソメシ花ノカニ猶物オモフ春ノアケホノ　我ノミヤ後モシノハン梅花匂フ軒ハノ春ノヨノ月

1 假子　和名鈔云、文選東京賦注云、假子(假ハ之忍反)、假子讀、師說(和良波倍)童男女也。童男(乎乃良倍)和童女(女乃和良倍)。

2 垝　說文急ナリ、急ハ立居ノ切迫也、切也、盡也。(玉)琴操云、孔子到匡郭外顏淵舉策指匡穿垣曰往與陽貨從此入　伊勢集、人逢坂ノ關ハヨルコソモリマサレクル〻ヲナトテ我タノムラム、返シ、モリマセトヨルハ猶コソタノマルレヌルマモアラハコエント恐ヘハ　家隆卿、キヨミカタ我カヨヒチノ關ナレヤウチヌル人モナミノヨル〳〵

3 詩衞風云、言思伯使我心痛

4 清正集、オホツカナクモレル空ノ月ナレヤ心ヤマシキヨハニモ有カナ

5 後撰、カラウシテアヘリケル女ニツヽム事侍テ、又エアハス侍リケレハ、ツカハシケル、兼輔朝臣、アフ坂ノ木ノ下露ニヌレシヨリ我衣手ハ今モカハカズ

6 灰汁、辨色立成云、灰汁(阿久)淋也(阿久太、流音林)　惠澤、白虎通云、甘露美露也、降則物無不美盛矣。

7 箶、周禮註、箙(音服和名夜奈久比)盛矢器也。唐令用胡祿二字唐韻云、箶簏(胡鹿二音)箶室也。竹取物語ニ此事モル人〻モ

ユミヤヲタイシテ、オモヤノウチニハ女トモバンニヲリテマモラス、女ヌリゴメ

ノウチニカクヤヒメヲイダカヘテヲリオキナモヌリゴメノ戶サシテ戶クチニヲリ

綺合ニ、マツ物語ノイテキハシメノオヤナル竹取ノ翁ニウツホノトシカゲヲアハセテ

前ノ段ヨリサキノ事ナリ

○昔男在計利。東五條渡爾。最忍而往計利。偷在所成波。從門毛得不入。假子蹈開有計留。從築牆垝通計利。人集雖不有與。每重計禮者。主聞付而。其通路爾。每夜人乎居而。守爲氣禮波。彼男往與得不相還計利。然讀。

和名(ツイカキ、ツイヒヂ)軍(イ)

六帖　アフコトヲアコギガ島ニ引鯛ノタヒカサナラハ人モ知ナム

人爲被知。吾通路。關守者。宵宵殊。内毛眠勿何

不乎　古今業平

諸讀計禮者最痛心病計利。主縱而計利

二條后宮爾。偲而參計留乎。余聞在計禮波背人達。守爲給計留常社

萬葉亦同　世之　昭宣公大納言國經

○昔男在計利。得不獲借計留人乎。歲乎歷而夜這度計留爾。辛爲而。女。心合而盜出而。最闇爾將往計利。灰汁田河與云河乎往計禮波。草上爾。置有計留惠澤乎。是者何社常何。夫爾問計留乎。往前遠。夜終爾計禮者。鬼在所友不知。神副甚忌敷鳴。雨毛痛零計禮者。亭有倉爾。女姑奧爾押入而。夫脊弓箙負而戶口爾居。早夜毛明何爲與思乍居有計留爾。鬼速一口爾悔而計利。穴哉常雖云。神鳴騷爾。得不聞計

女ノ　結婚ヨハヒ(萬葉)　乎(イ)　ナシ(イ)　萬葉　敷以下效之　假用　題詞　食也　留イ　トコノ下畧　古語事之甚切、皆稱阿那

利。[illegible]夜毛明行爾見者。將來志女毛無。葦指乎爾傳。雖ㇾ哭甲斐無（甲斐無足也。[illegible]天足也。廣雅）白玉數。何社其人廼。所ㇾ問居。露其思而。消勝魂乎

（[illegible]二年[illegible]月[illegible]爲中宮、廿六）

是者。二條後宮。從父兄女。女御御許爾。祇承樣爾而。居給經利氣流乎。容貌廼最妙樣御坐計禮波。惱而負出有計流乎。御背人堀河大將。太郎基經。國經大納言。未下郎爾而。裏江參給路爾。忌敷哭人廼在計流乎。聽付而留而。取返而御坐計留。其乎是鬼與波云經流也計利。未最稚而。后宮廼日爾御坐計流節。之事也。

（[illegible]太政大臣長良[illegible]仁公[illegible]女）（弟子）（昭宣公）（太郎基經 ナシ、無文字）（6 郎乎假字乎）（可愛（遊仙窟））（與賀[illegible]（イ））

○昔男在計利。花洛爾在佗而。熱田江往計流爾。妹背尾張境廼海頭乎行爾。浪最白立乎視而最數。過往方之。戀數爾。浦山敷毛。還並哉諸讀利計流

（[illegible]（イ））（河邊（萬葉））（[illegible]（イ））

○昔男在計利。京哉棲愁借計無。熱田之方爾行而。可ㇾ棲所將ㇾ求左縁須流人獨二人爲而往計利。信乃國。淺間嶽爾。烟之昇乎視而

1 [illegible]、[illegible]、山[illegible]ノ子ナ[illegible]ハレタル[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]トリアシスリサケヒフシアフキ、[illegible]九ニモニニコメリ[illegible] 2 居、[illegible]、月[illegible]日居。

3 [illegible]、白玉カ[illegible]カトトハム人モ[illegible]オモフ[illegible]ヲサシテコタヘン

4 [illegible]、[illegible]花たまはくた[illegible]に、くわ[illegible]てまつら[illegible]給ぬ、と[illegible]どのなりいまはわたらせ[illegible]なん、いま[illegible]くるしけれ[illegible]しはて、あし[illegible]給。

5 從父兄女　和名抄

[illegible]傍、[illegible]事本紀。

6 下[illegible]、[illegible]日本後紀第十九[illegible]二年正月[illegible]壬[illegible]、[illegible]位在原[illegible]從五位下[illegible]二十五[illegible]ナリ[illegible]三代實錄第六[illegible]云、[illegible]三月七日[illegible]從五位上[illegible]上[illegible]從八[illegible]年[illegible]此[illegible]十八歲[illegible]錄ニ時在[illegible]ハ三十[illegible]シ、二[illegible]從五位下[illegible]タル、人ノ[illegible]ニ見エリ[illegible]システル、カヘリテ[illegible]佐ガタ[illegible]十歲ニ[illegible]ハ、[illegible]二[illegible]ニテアラレケル[illegible]ト、[illegible]ノソノ[illegible]ルベキ[illegible]ナル[illegible]ニテル[illegible]、[illegible]モアル[illegible]ノ子[illegible]

ナレハ、[illegible]ノ[illegible]タメニモ然ルベカラヌ事ナル故ニ、[illegible]勸トモナリテ、ワツカニ一[illegible]等ヲ降シテ捨オカレタルホトノ事ナリ。師說今案、同[illegible]王[illegible]ノ時ノ官名互見ス

ヘシ。

7 文選[illegible]詩、流波戀二舊浦一行雲思二故山一

8 [illegible]縁友

新古旅羇 信濃有。浅間峻爾。発煙。遠近人廼。視哉波失将レ目（終此ヲチコチ（萬葉））

○昔。男在計利。其壮士。身乎衛府無物爾思作而。花洛爾波不レ有。東方爾可レ棲所将レ不見左行計利。道被レ知人獨毛無而迷往計利。水河國八橋與云所爾将レ至。彼或乎何。八橋與云計流波。水堰河之蛛手成波。橋乎八渡瀬流爾頼而何。八橋與云計流。其澤之頭之。木蔭爾下居而。何怜悔計利。（カレイヒ食也 干飯也餉（和名））其澤爾。垣津幡。面白開有計利。其乎見而。或仁云。賀幾津播多常云五文字乎。句首爾居而。旅心乎。讀與言計禮波。

古今旅 加良衣。著乍穢爾志。津麻志有禮者。波留。幽來寢。多眦惜社思

諸讀計禮波皆人粟豆之上爾落レ涙而潤爾計利。往往而。駿河國。宇都山爾至而。吾将レ入與須流路者。最苦勞細爾。絡石鶏冠木葉繁而。物心細。情有目尾見流事與思爾。修行者値有。如レ是路爾波。如何御坐津也與云爾。見禮者見師人成計利。京師爾其人之許爾左文乎書而傳

新古旅羇 駿河有。宇都山部。現爾毛。勤爾毛人爾。不レ相成計利

風使山乎觀者。早苗月晦日爾。玉塵最白歴利

1 花洛、洛字或作雒、左傳云、武王克レ商、遷二九鼎於洛邑一、蓋宅二洛者一、武王之志而成王定レ之。我朝桓武天皇時、山城國立二東西兩京一、西京擬二長安一爲二右京一、東京擬二洛陽一爲二左京一、總曰二平安城一 和爾雅

2 後撰、打ワタシナカキ心ハ八橋ノクモテニ思フ事ハタエセシ 六帖、戀セントナレルミカハノ八橋ノクモテニ物ヲオモフ比哉

3 面白、舊事本紀。

4 古今ニモ、フタミノ浦トイフ所ニトマリテ、タサリノカレイヒタウヘケル。

5 歎、ハカルカノ上略、サレトカスカトハヨメド、ハルカトヨメルヨシヲシラス。

6 史記云、膠液船解ヌ

7 粟豆 和名行旅具四聲字苑云、餉（式亮反字、亦作レ饟）加禮比、於久留）以レ食送レ人也。餉輔、旅ツトニモテルカレヒノホロ〱トナミダゾオツル都オモヘハ

苦 同 蕭（次下）蕭（又次下）

簫略（下同）。

文選、陸士衡長歌行云、體還中、自損、李善云、無レ故自損、曰レ坐也。

幸 漢書

不覺 遊仙窟

漫 遊仙窟

故ミタリナルメニアフナリ、舊説

9 絡石、和名鈔一名領石。豆大條紋云、此草苞レ石木而生、故以名レ之。

10 鶏冠木同 漢語抄云、加倍天乃木、辨色立成云、鶏頭樹加比留提乃木、今按、是一木名也。

11 詩經 公劉篇云、京師之野 氏云、所謂京師者蓋起二於此一、其後也、因以二所レ都爲二京師一也。公羊傳云、京ハ大也、師ハ衆也。天子ノ居ハ以二衆大一言レ之。

12 傳 六帖、音ニキクウツノ山ヘノウツヽニモ夢ニモ見ヌニ人ノコヒシキ

13 早苗月

14 玉塵、何遜詩、昨逐二微風一起、誰言非二玉塵一（五車）

新古旅 節不レ知。山者布盡領。何時左歟。鹿子班爾。雪迺歴覽[1]

其山者。爰喩。比叡山乎。二十計重上將レ有體爲而[2]。鳴者四乎知之樣爾何在計流。（或說云、尻壺鹽といふ物あり。其形似二此山一物語之習故好卑詞、宿）猶往往而[3]。武藏國與

（總乎）霜懸國與之中爾。甚大成河在（有(イ)）。其乎墨田河與云。其河之頭爾。叢居而思遣者。無レ限遠毛來爾計留哉與侘[4]（蓮胤信用此說、或本本はしりほしの先人命縱雖レ爲鹽事凡卑也。不可用之、心えすとてありなん、往年有尋問、人答不知云々）

相流爾。渡子[5]早船爾乘。日毛將レ沒與云爾。乘而將レ渡與須流爾。皆人物侘敷而。花城爾思人無爾師毛不レ

有。然時。（霜乎）白鳥之嘴與レ足與赤之。（和名）田鳥之大佐有。水上爾游乍魚乎食。京爾波不レ見鳥有。（皆人見不知(イ)）渡子爾問計禮波。（留爾(イ)）

是何鴫[6]與云乎聞而

古今旅 名爾志負者。卒言將レ問。宮子鳥。吾思人者。有哉無哉與（萬葉、舟キホフ堀江ノ川ノミナキハニキヰツヽナクハ都鳥カモ　順集、コシノ海ニムレハヰルトモ都鳥ミヤコノ方ゾコヒシカルベキ　ウツホ物語、名ニシオフ關ヲモコエシ都鳥聲スル方ヲモ、シキニシテ）諸

讀計禮波。船擧[7]而哭計利。

○昔男至二武藏國一迷行計利。然其國在女乎夜這計利。娜[8]異人爾將レ會與云計流乎。母何高貴[9]在人爾心付有計

留。爺[10]者直人爾而。（ヽ々、ヒトノ心ナリ）母何藤原成計流。然何高貴在人爾與思計留。此聟金爾讀而遣有。棲所何。武藏國入間

郡。三芳野鄕有計流。

續後拾遺ヨミ人不知
三芳野廼（埜(イ)同）。田面鴈毛永爾（頓(日本紀)）。君之方爾社。余留與鳴成

聟金返

1 宗祇集、シカ山ノミネナレハコソ白雪ノカノコマタラニ降テミユラナ　重之集、秋クレハナクヤ小鹿ノマタラ雪山遠キカモ皆ノセヌ哉　定家卿、時シラヌ里ハ玉川イツトテカ夏ノ垣ネヲウツム白雪

2 體（日本紀）體勢。

3 古詩、行々重行々與君生離別。

4 哉、此文字異邦書ニ我國ニカナトツカヘル心アル哀ナシ、我書ノウチニモコヽニハシメテミエタル歟。

5 渡子（和名鈔、日本紀、私記）云、渡子（和名、和太之毛利）一云（和太利毛利）。

6 鴫　和名鈔。

7 莊子、擧世而譽レ之不レ加レ勸　註擧皆也。合レ船　沒　死（日本紀二十五）。

8 娜　字彙、奴、可反那上聲。娜娜美貌、又舒遲貌、今按未詳。

9 高貴人、大江千里集、秋悲不二貴人心一、大多ノ秋ヲカナシトミルコトモアテナル人ハシラスソアリケル。

10 爺（以遮切、俗爲二父爺一也）

吾方爾。余留與鳴成。三芳野。田面鴈乎。何歟将レ忘
諸何至二他國一。如レ是言者不レ停計流。何イ

○昔男在計利。集江往計流爾。東也 朋友等爾。從レ路云遣計留ヤリ(本)

拾遺摘直幹
忘諸余。期者雲居爾。雖レ将レ成。空行月廼。廻會左右手
狹衣、メクリアハム限リタニナキ別哉空行月ノハテヲ知ネハ

○昔男在計利。人之娘乎盜而。武藏野江國イ將往程爾。偸兒有計禮波。國守爾被レ搦爾計利。女姑假用。草村中爾陰
置而迯爾計利。路行人。此野者埜下郎人在。左有乎。火将レ付與爲禮波。女侘而

古今春讀人不知
カスカノハ古
武藏野者。今日者勿燒莫。稚草。妻毛籠利。己毛籠梨
萬葉第十九、オモシロキ野ヲハナヤキソフル草ニ新草マシリオヒハオフルカニ

諸讀乎聴而。女姑取而。供爾将往計利。

○昔。武藏在男。花洛有女之許爾。聞禮者慙。不レ聞苦與書而。上表爾。音イ 武藏鐙與書而。遣而後。ヤリ(本) 不レ音成爾
計禮者。本イ 從レ京女
武藏鐙。然兼。懸乎 而。思爾者。不レ問毛煩志。問毛愁師ウレハ乎
六帖、サタナナクアマタニカクルムサシアフミイカニノレハカフミハタカフル
諸在乎見而何。難レ堪心地爲計流。

1 拾遺、詞書、たちはなのたゞもとが人のむすめに忍びて物いひ侍りける比、遠き所にさかり侍るとて、この女のもとにいひつかはしける。古來風躰體、遠き所にまかるとて女につかはしける 大江爲基。

2 日本紀云、日本武尊初至二駿河一賊有二殺レ王之情一放二火燒二其野一。

3 下郎人

4 仁賢紀云、弱草吾夫何怜矣、自註云、古以二弱草一喩二夫婦一、故以二弱草一爲レ夫

5 題、日本紀ウハフミ 紫式部北ヘ行雁ノツハサニコトツテヨクモノウハカキカキタエスシテ

6 鐙、蒋魴切韻云鐙、（都鄧反、和名阿布美。）鞍兩邊承レ脚具也。

7 然兼而。此三字サスカニカケテトヨメルヤウ難二心得一。今案、兼ノ字カネヲ、二四通シテ、カニトモヨムヘシ、然レハ然ノ字サテトモヨメハ、然兼ノ二字サスカトヨミテ、而ノ上懸等ノ字ヲ脱乎。

將レ問者言。不レ問所レ恨。武藏鐙。如レ是節爾哉。人者死鐙

毛詩 [illegible]

萬葉 ム戀シナハコヒモシネトヤワキモコカリキヘノ門[illegible]

古今 ツ、戀シネトスルワサナラシムハタマノヨルハスガラニ夢ニ見エ

1 蕭、先[illegible]切、蕭[illegible]寂寥ノ[illegible]

○昔。男在計利。至三津國一蕭爾到爾計利。爾所有女。王城之人乎波。目頰賀爾哉將レ念。切爾思惠流心何

在計流。然彼女

2 淮南子云、蠶食而不レ飮。二十二日化。

萬葉第十二作云云

永永爾。戀爾不レ死者。桑子社。成有可計流。玉之緒計

中々也 アラスハ トラマシモノヲ（已上萬葉十二）

3 末摘花、ナニコトニツケテカ御心モトマラン、夜フカク出タマフ。

歌詞社雛鄙有計流。然爾憐與哉將レ所レ念。往而寐爾計利。三更出計禮者。女

三更

萬葉第十六、サスナベニユクカセコドモイチヒ津ノヒバシヨリコムキツニアムサム

竹取物語、サラニ鹽ニスレタル衣タニヌキカヘナデナム立チマウデキツ

夜也 四方開者。木京爾爲食。久宅鷄。未爾鳴而皆乎所レ遣

諸云流乎。夫京何往與而

元眞集物名、カラクダモノ、コユルギノ渚ニ風ノ吹シカラクダモノコサス浪モヨセケリ

古事記、八千矛神詠、ニハツドリカケハナク

神樂歌、ニハトリハカケロトナキヌ

六帖、夏ノ夜ノコモチカラスノサガゾカシ夜フカクナキテ君ヲヤリツル

4 續日本紀神護景雲元年十月乙巳、置二陸奥國栗原郡一、本是伊治郡也。和名鈔云、栗原郡栗原。

栗原廼。姉波乃松之。人有。宮子之裹爾。率與云倍

萬葉第八、玉津島ミレトモアカスイカニシテツヽミモテユカンミヌ人ノタメ

ウツホ物語、キク人ハアネハノ松ノ風ナレヤ昔ノ聲ヲ思ヒイツルハ

5 菓、萬第十六ノ十三詞書云、賜二菓物一云云。家ー、涙ー、道去ー、今クラニテツヽメルヲツトヽ云ハ、ツトニ持カヘルニハ、ワラニテ包メバソレヲモツト名ツケタリ。

諸云利計禮者。悅而思計羅師常社。云居計留。

新拾遺花山院御製、長歌畧、タクミイデケンヒタ、クミヨロコボシク思ヘトモ云云

カケロフ日記、思フヤウニモアラス身ヲシナケ、バコヱアラタマルモヨロコボシカラズ云云

○昔男在計利。至二三津國一。名云言無人之妻爾通計留爾。何也 女(イ) 對然樣爾而。○下十九丁 可レ有女爾而毛。不有。計禮者。見(イ) 爲レ異

淸少納言、ニクキモノ、ナンデウコトナキ人ノスヾロニヱガチニテ物イヒタル

新勅撰素平 信夫山。偲而通。路毛哉。人廼心之。奧毛可レ見 覽(イ)

女。無レ限日出與雖レ思。然恐夷心乎見而。如何。詮 義訓 萬葉亦同、日本紀惡サカナキ ナ 古今思フテウ人ノ心ノクマゴトニ立カクレツヽミルヨシモカナ

○昔紀有常與云人在計利。三代帝爾祇承而。仁明文德淸和 時爾相計禮與。代改時遷。ナシ(イ)孫(イ) 計禮者。尋常之。人之(イ) 如毛不レ有。人柄者。

心。高貴。成事乎好而。異人爾毛不レ似。○活心無。貧而毛。論語貧而無レ諂 尙往古好有時乍レ心。尋常之事毛不レ知。年

來會馴有妻漸床別而。離別也 終爾尼爾成而。姉之前立而成有許江往乎。所イ 夫實眤幾事社無禮與。今者左行乎。最

天晴與令レ念。貧計禮者行態毛無梨計利。思侘而。懇爾會語計流朋友之許爾。是加浦今者左往乎。ナシ(イ) 何事毛

聊有事毛不レ得レ爲遣事與書而。小 日本紀 イサヽカ 爲レ異 奧爾 帚木、テヲ折テアヒミシコトヲカソフレハコレヒトツヤハ君カウキフシ

手乎折而。會見志事乎。算禮者。算(イ) 拾十五。四十年也 トヲイツヽ(イ) 四葉歷爾計利

彼朋友是乎見而。最大晴與思而。夜留之物至贈而讀

讀、上十九之左

2 師說、ベクハバ、カリト云ル意ナリ、文章ニ譬ハ可二十里一トカキテ十里ハカリトヨメルニ同シ。

3 恐

4 三代實錄(第三十)元慶元年正月廿三日乙未、從四位下周防權守紀朝臣有常卒、有常ハ左京人、正四位下名虎之子也。性情警ニシテ有二儀望一。少年侍二奉仁明天皇一。承和中擢拜二左兵衞大尉一、數年右近衞權將監兼近江權少掾タリ云々。(文德帝御代昇進畧之)貞觀九年爲二下野權守一、秩滿、爲二信濃權守一、十七年授二正五位下一、十八年至二從四位下一、爲二樂頭一、爲二周防權守一、卒年六十三。

5 陳鴻、長恨歌傳云、時移事去リ樂盡悲來ル。

6 活心

7 論語云、子曰吾少時也賤シ、故ニ多ク能二鄙事一、君子多ナリ乎哉、不レ多也。莊子曰、聖人不レ從二事於務一、源氏引歌、アル時ハアリノスサビニカタラハデナクテゾ人ハ戀シカリケル

續千載業平
年多仁毛。拾十而四葉。經爾計爾乎。幾度君乎。手飲將レ來覽
是云而。遣有計禮者
是哉此。天翼衣。宜社。君之美家思與。上計禮
悅爾絕不得叉
秋哉來流。露哉滿加婦與。思至。有者涙之。降爾社有計流
○昔。女。年來不二音信一計流人之。櫻乎見爾來計禮者。アルシ
古今ヨミ人不知
化有與。名爾社立禮。櫻花。年爾希有。人毛待計利

古今ヨミ人シラス、櫻ノ花ノ賀ニ久シクトハサリケル人ノキタリケル時ニヨミケル――
貫之集、アタナレド櫻ノミコソフルサトノ昔ナカラノ物ニハ有ケレ

返
同上業平
今不來者。明者雪與社。歷諸勝。不レ消者雖有花可レ見哉

後鳥羽院、ケフタニモ庭ヲサカリトウツル花消スハアリトモ雪カトモミヨ
定家卿、庭ノ面ニ消スハ有トモ花トミル雪ハ春マテツキテフラナム
同、花サソフ庭ノ春風路モナシトハ、ソ人ノ雪とタニミン

○昔。生心在女在計利。夫左右云計利。女歌讀人成計禮波。將レ試左。菊花之所レ移乎折而。夫許江遣有
紅爾。將レ匂者幾所等。白雪之。枝毛多和迴爾。零歟友所レ見
夫不レ知讀計利　留(イ)

1 衣裳（ミケシ、日本紀）御衣（同萬葉）。

2 音信

3 下ニナマ宮ツカヘ 源氏ナニ〳〵ノ上達部 慤心カヨヘリ。

4 貫之集云、チカトナリナル所ニカタ、ガヘニアルなノワタレルトキ、キテアル程ニ、コトニフレテ見キクニ、歌ヨムヘキ人ナリト聞テ、コレガヨムサマニイカテ心ミムト思フトイハムトノ心ナリケレバ、フカクモイハヌニカレモ心ミムトヤ思ヒケム萩ノ葉モミチタルニツケテオコセタリ、アハセテ十首、ヲンナ秋萩ノ下葉ニツケテメニチカクヨソナル人ノ心ヲソミル　返シ、世ノ中ノ人ニ心ヲソメシカハ草葉ノ露モミエシトソ思フ　此二首拾遺ニモ入。

紅爾。匂之上廼。白菊者。(同 イ 雪)折計流人之。袖歟與社見流　古今、花見ツヽ人マツ時ハ白タヘノ袖カトノミソアヤマタレケル

○昔。男。宮仕師計流女之方爾。兒達成計流人乎相知有計利。無レ間離爾計利。同所有計禮者。女之目爾者。所レ見物乍。夫者有物友[1 カ]不レ被レ念女(ヘカ)　萬葉、アマ雲ノヨソニノミヽシワキモコニ心モ身サヘヨリニシ物ヲ

古今[2]天雲乃。四方爾毛人廼。成行之。然爾目爾者。所レ見魂乍　萬葉、アマ雲ノヨソニ雁金キヽシヨリハタレ霜フリサムシコノ夜ハ

同、カクシノミアヒ思ハサラハ天雲ノヨソニソ君ハアルヘカリケル

アマ雲ハヨソノ枕詞ニテ夫ヲ全篇ニモタセタリ、萬葉、大舟ノカトリノ海ニイカリオロシイカナル人カ物思ハサラン

古今、梓弓春タチショリ年月ノイルカ如クニ思ホユル哉

諸讀計禮者。夫返

同上業平[3]天雲廼。(アマクモノ我也)遠爾耳左。(ソラ(古今))古事者。(經也)己居仙之。(女也)(山ヒトノ下畧)風痛有(ユキカヘリ)

・トヨメリケルハ、マタオトコアル人トナムイヒケル。

○昔男在計利。大和在計流女乎。(ミテ)夜這而會爾計利。然間經而。宮仕爲流人成計禮者。還來道爾。沽洗[5]計。鷄冠木[4]之黄葉。最面白乎折而。女之許爾。從レ路云遣有計流。

(下葉業義訓)君之故。被二手折一枝者。乍レ春。右社飽之。黄葉爲爾計禮

後拾遺雜、太政大臣、カレノ\ニナリテ四月ハカリニ、マユミノモミチヲ見テヨミケル、藤原兼平朝臣女、スム人ノカレユク宿ハ時ハカス草木モ秋ノ色ニソ有ケル

---

1 新古今、長能、アタ言ノ葉ニオク露ノ消ニシヲ有物トテヤ人ノトフラン

2 古今詞書、きの有つねがすめに往けるを、うらむる事ありて、しはしの間、晝はきてゆふさりはかへりのみしけれは、讀みてつかはしける、業平朝臣正說とすへし。

3 後撰、白雲ノ行ヘキ方モサタマラス思フ方ニモ風ハヨセナム　拾遺、白雲ノカヽルソラコトスル人ヲ山ノフモトニヨセテケルカナ

4 揚氏漢語云、鷄冠木(賀倍天乃木、辯色立成云、鷄頭樹、加比留提乃木、今案一木ノ名也)鷄手(萬葉八……)

5 沽洗、白虎通云、三月謂之沽洗、沽者故也、洗者鮮也、言下萬物皆去レ故、就二其新一莫上レ不二鮮明一也。古註カヘテノ紅葉ハ若葉ノアカキナリ。

諸而遣有計禮波。返事者。京爾付而何。持用來計流

幾時間爾。移歴色。將付覽。君之郷爾者。春無流良志　萬葉十、年ノハニ梅ハサケトモウツセミノ世ノ人ワレシ春ナカリケリ

○昔。男。女。最賢思通而。異心無計利。然乎何有事歟將有。萬葉、世中ヲウシトオモヒテ家出セシ我ヤカヘリテ何ニカナラム 簡略有（イ同）言爾付而。[1] 世間乎侘思而。如是 出而將往

歌乎（思ヒ（イ））何讀。物爾書付有計流

出而去者。心輕與。云哉將爲。世乃[2]有樣乎。人者不知而

謀讀置而出而往計利。此女。是書置有乎見而。計[3]志宇心置流可言毛無乎。不覺 依何將是與。痛打哭而。幾方

爾覓將往與。門爾出而。左見右見計禮土。カニ（萬葉）カクニ（同上） 何所[4]乎慕跡。不念者。毛乎 還入而

思鹿。鳴世成計利。年月乎。化爾契而。吾哉棲志　棲此文字ニヨレハ住居ナリ

諸云而長目居

新勅撰ヨミ人不知

人者不知。思[6]哉爲覽。玉鬘。面影[5]爾耳。最見乍。

此女。最久敷在而。念兒侘而哉將有。思ヒヲコラヘシノブ也 云遣計流

今者左忘[7]草之。種乎多仁。人之心爾。不蒔毛哉

後撰、伊勢、日ヲヘテモ影ニミユルハ玉カツラツラキナガラモタエヌナリケリ

萬葉、人ハイサオモヒヤムトモ玉カツラ影ニミエツヽワスラレナクニ

後撰、玉カツラカツラキ山ノ紅葉バハオモカゲニノミミエワタルカナ

貫之集、ウチミエンオモカケコトニ玉カツラナカキカタミニ思ヘトソ思フ

六帖、カケテオモフ人モナケレトタサレハオモカケタエヌ玉カツラカナ

[illegible]暑、[illegible]若干敷爲ニ[illegible]二別ニ集ヲ[illegible]非ニ世器ニ[illegible]身ニ同器[illegible]ニ遂、精舍ヲ欲レ求自爲レ是（書言故事）。

2 消息（同狀）共日本紀。源氏帚木、エンニ物ハヂシテ限イフベキコトヲモミシラヌサイマニシノビテ、ウヘハツレナクミサホツクリ、心ヒトツニオモヒアマル時ハ、イハム方ナキスゴキ言ノハ哀ナル歌ヲヨミオキ、忍バルベキカタミヲトヽメテ、フカキ山里世ハナレタル海ツラナドニハヒカクレヌルカシ。

3 異、同、共萬葉。

4 今案、イツコヲハカトモオホエネバ、墓ハナキ人ノシルシニキツク所ヲイヘハ、古語ニソコトキハメタル所ヲ云トミエタリ。萱蕗ニモ、ハカナクト云ルニ、葬處無トカ、セ玉ヘリ。シカレハ、ハカナク、シソコハカ皆同シ詞トミエタリ。源氏夕良ニ、君モカクウラナクタユメテハヒカクレナハ、イツコヲハカリトカワレモタツネン。

5 文選、日落遊子顏。

6 帚木、ニゲカクレテ人ヲマドハシ、心ヲミントスルホドニ、ナガキ世ノモノ思ヒニナル、イトアヂキナキコトナリ。

7 詩衛風ニ、焉ソ得ニ諼草ニ言樹ニ之背ニ。文選養生篇云、合歡蠲レ忿萱草忘レ憂。

返　古今、忘草何ヲカ種ト思ヒシハツレナキ人ノ心ナリケリ
同　忘草タネトラマシヲアフコトノイトカクカタキ物トシリセハ
六帖、ワスレ草タネノカキリハハテナ、ム人ノ心ニマカセサルヘク

續後撰葉平
萱草。殖與多仁開。魂有者。思計利常波。知毛爲諸勝
又又從レ有勝爾。云通而。壯士

新古今ヨミ人不知
忘覽與思心之息[1] 爾從レ有異魂社悲敷

返　古今集、ワスレナントオモフ心ノツクカラニアリショリケニマツゾカナシキ

同上
中空爾。立居雲廼。無レ跡。身之墓無毛。成爾計流哉　下上木イイ同同

ハ
諸云計禮與。己之世世爾成爾計禮波。疎社成爾計流　後撰、フエ竹ノモトノフルネハカハルトモオノガヨ、ニハナラスモアラナム

○昔。墓無而絕爾計流中乎。尙哉將レ不レ忘。女之。許從　イロ從ノナシ

新古今ヨミ人不和
浮乍。人乎波江下。不レ忘者。豫[3]恨乍。尙社戀敷

ヘリ
諸云計禮波。然者[4]余與云而。壯士

續後撰葉平
會見而者。一レ心乎。通間廼。水廼流而。不レ絕常社思
交（萬葉）川島也

千載從三位季行、君ニノミシタノ思ヒハカハシマノ水ノココロハアサカラナクニ
新續古今堯季、ソスルナヨサスカ契ヲカハシマニヘタツル年ノナミハコユトモ

1 息
2 寢覺記に云、むかしの人は父母の墓をいみしくかまゆるを孝養とす、報恩の志なきを懸志をはかなしといひそめて、今もおろかなる人たはかなしといへり。
3 豫、萬葉ニカネテト訓リ。
4 拾遺、片キシノ松ノウキネトシノヒシハサレハヨ絲ニアラハレニケリ

諸云計禮波。其夜往寢計利。古來廼言久。云而

古今忠岑、クル、カトミレハアケヌル夏ノ夜ヲアカストヤナク山ホトヽキス
伊勢集枇杷左大臣、アフ夏ノアケヌヨナカラ明ヌレハ我コソカヘレ心ヤハユク
萬葉、此ヨラノハヤク明レハスヘヲナミ秋ノ百夜ヲネカヒツルカモ

秋夜廼。千夜乎一夜爾。颯而。八千代爲寐早飽辰將レ有

返

秋夜廼。千夜乎一夜爾。雖レ成。詞殘而。[1]鷄哉鳴何（續古今ヨミ人不知）

イニシヘヨリモア[2]ハレニテナムカヨヒケル。

○昔。鄙活[3]爲計流人廼。兒鞆。井之許爾出而遊計流乎。長爾成爾計禮波。壯士毛女毛。慙通而在計禮跡。夫

（作物語ナリ（日本紀同））
（神代紀下、門前有二一井一井上有二一湯津杜樹一、古今、我門ノ板井ノ清水里遠ミ人シクマネハミ草生ニケリ）

者此女乎社令レ得思。女毛此夫乎社與念乍。母之合言乎毛不レ聞[4]何在計流。然其夫之許從右何

筒井津津。[5]五幹爾懸志。麻呂之長。生爾計良志諸。妹不レ見間爾（領シタル心）

兼盛集、我戀ハ筒井ノ濱トナリナヽム心ヨクミテ人ハシルヘク
定家、ツヽ井ツノ井ツヽノタルヒトケヌマニ早クモクルヽ冬ノ空哉
土御門内大臣、ツヽ井ツノ井筒ノ上ニ水コエテ結フモ淺シ五月雨ノ比

返　女（下上）

1 下句ヤサシキ歌ナリ。
2 怜怜（オモシロシ、アハレ、カナシ）共ニ歎。
3 大和物語、トシコロワタラヒナトモイトワロクナリテ、タ良ニコトシコソナリワヒニモタノムカタノムスクナク、ヒ井ナカノカヨヒモオモヒカケネハイト心ホソケレ、歎恒集、玉クシケフタミノ浦ニスムアマノワタラヒ草ハミルメナリケリ
4 見オトリセラレジト心ヲツカフ心ナリ、在ノ字ヲカケルハヲリケレバノ心アリ。
5 幹、文選蕪城賦、板築雉堞ノ殷、井幹烽櫓之觀。筒井、猶中古種々ニアレト、今井桁モ石ニテモ作、但上ヲ摺ヌキテカハナキヲ云。

競來。1振別髮毛。肩將レ勝。不レ君爲而。誰歟可レ上 髮結（允恭紀）

2是五十日云而。終爾如二本意一會爾計利。然年來歷間爾。女之親無。便無成隨爾。諸共爾云甲斐無而將レ有哉。左。河內國高安郡爾。往通所出來爾計利。雖レ然此本妻（女・女イ）。惡與思經流氣色毛無而。沒禮者出立而遣計禮波。夫異情在而。如レ是似哉將レ有與思猶3而。前栽之中爾隱居而。彼河內將レ去面不而見者。此女最能假（粧乎）相師傳。打長日而

古今集ニヨミ人不知
風吹者。奧津白波。4龍田山。夜半兒哉君之。獨往覽
六帖第一カク山ノハナノコ
萬葉、フタリユケト行スキカタキ秋山ヲイカテカ君カヒトリコユラム
同、玉カツマシマクニ山ノタクレニヒトリカ君カ山チコユラム

諾讀計流乎聞而。無レ限悲與思而。河內江毛5治不レ往在爾計利。佺 彼 高安爾往而見者。最初社。（最 毛作）計禮。今者打解而。髮乎卷上而。自飯6匙乎取而。7籠子之器爾盛計流乎見而。心愁借而不レ往成爾計禮波。彼女大和之方乎見遣而（觀イ）

君之方。見乍乎將レ居。生馬山。雲勿隱莫。天者雖レ歷（モ萬）
新古今 萬葉第十二
定家卿、イコマ山イサムルミネニヰル雲ノウキテ思ヒノハルヽ世モナシ

諾云而見出有爾。令レ辛倭人將レ來與云有計禮者。悅而待爾。度度過爾計禮波

1萬葉、ヲトメラカフリワケ髮ヲユフノ山雲ナカクシソ家ノアタリミム
同、振分ノ髮ヲミシカミワカ草ヲ髮タクラヘム妹ヲシソ思フ
同、橘ノ寺ノナカヤニワカ率宿シウナヰハナリニカミアケツラムカ
ウツホ物語、オトウトノミヤハヨツ御グシカタワタリニテアニミヤノヤウナリ。
萬葉、イモカ髮アケサヽバノヽハナレコマアレユキケラシアハヌ思ヘハ

2拾遺、ヨノナカヲカクイヒイヒテハテ〳〵ハイカニヤイカニナラムトスラム

3猶與ハ曲禮ノ疏。說文ニ猶ハ獸ノ名ナリ。與亦獸ノ名。二者皆進退多レ疑。人之多二疑惑一者似レタリ。之故ニ謂二之猶與一。楚辭用二猶豫字一、漢書呂后紀ノ註ニ、師古カ云ク、猶ハ獸名。爾雅曰、猶ハ如レ麐（キ）善登レ木。此獸性多二疑慮一常居二山中一。忽聞二有聲一卽恐ニ有レ人且ツ來害一之每下豫メ上レ樹久之無レ人然後敢下ル。須臾又上如レ此非レ一。故不レ決者稱二猶豫一也。（諺）

4武紀、皇師勸レ兵步赴二龍田一而其道狹嶮人不レ得二並行一乃還更欲三東踰二膽駒一而入二中洲一

5治、佺 疊

6匙、說文云、匕（卑履反、和名賀比）和匙也。字亦作レ匕

7笥、兼名苑云、一名扶提。

新古今ヨミ人不知
君將レ來與。云志毎夜。過寢禮者。不レ特魂廼。戀乍社歷
諸云計禮與。夫不レ住成爾計利

○昔。男。女片田舍爾住計利。壯士宮仕師爾左。別乎惜而往計流隨爾。三[2]年左右乎不レ來計禮波。待侘有計流爾。最懃爾云計流他爾。今夜將レ會與契計流爾。此夫來有計利。此戶開給與搥[3]（打敲）計禮者。不レ開歌乎何。讀而使有計流

續古今ヨミ人不知
璞。歲廼三季乎。待侘而。只今夜社。新枕レ將レ爲
諸云出有計禮者。壯士

女ニ喩
梓弓。檀弓槻弓。年乎歷而。已爲志神言忠。令レ見[4]（今ノ男ニ誂）（善ウルハシ(日本紀)）
諸云而將レ去與爲計禮波。女

續後撰ヨミ人不知
梓弓引雖レ引不レ引。從レ昔。心[5]者君爾。賴似志魂乎
諸云計禮與。夫還爾計利。女最悲而。後爾[6]立而追行與。得追不レ付。妙[7]美井之在所爾伏爾計利。爾所有計流石爾。及後爲而書付計流（拇血也）
相不レ念。離寢留人乎。留不レ得。吾身者今社。消終寢月留

1 モノ、トイヘル文字、面白シ、古今ニモ此ノ文字見エタリ。ウツセミノヨノ人コトノシゲヽレハワスレヌモノヽカレヌヘラナリ
2 令第三云、其夫沒三落外蕃一有レ子五年（謂稱レ子者）男女同也無レ子三年而改レ嫁。
3 搥
4 萬葉、玉ホコノ道ノ神タチマヒハセンワカ思フ君ヲナツカシミセヨ
5 萬葉、梓弓末ノタツキハシラネトモ心ハ君ニヨリニシモノヲ 古今、梓弓ヒケハモトスヱワカ方ニヨルコソマサレ戀ノコヽロハ
6 隨後シリニタチテ（日本紀）
7 妙美井（和名鈔妙、美井）日本紀云……（之三豆）
8 オヨヒハ指ナリ、小指ニアラス、和名鈔ニイツヽ指ノ名皆何オヨヒトイヘリ。

1古今、夏蟲ノ身ヲイタヅラニナスコトモヒトツオモヒニヨリテナリケリ
謙德公、アハレトモイフヘキ人ハオモホヘテ身ノイタヅラニナリヌベキカナ
元眞集、コヒワビテ身ノイタヅラニナリヌトモワスルナワレニヨリテトナラハ

諸書而。彼所爾徒爾[1]成爾計利

○昔男在計利。不レ相友不レ云計流女乃。然成計留之許江遣計流

古今業平
秋野爾。小竹別朝之。從レ袖毛。不レ會眠夜社。漬勝計流

後撰、ナカレテハ行方モナシナミタ川ワカミノウラヤカキリナルラン
同、ワタツミトタノメシコトモアセヌレハワレソワカミノウラハウラムル
菅萬、ワヒワタルロカミノウラトナレハハヤコヒシキ人ノシキナミニタツ

2泉郎、和名鈔。
3綏、後撰、春ノ池ノ玉モニアソブニホ鳥ノアシノイトナキ戀モスルカナ
小大君集、ヨヒ〳〵ノ夢ノ玉シヒアシタユクアリカテマタムトフラヒニコヨ
4歎

好色有計流女 返

古今小野小町
見目無。吾身乎浦與。不レ知早。不レ枯[2]泉郎。足綏[3]來流

○昔 男。五條渡成計流女乎。得不レ獲成爾計流事與。慙[4]有計流人之返事爾

5新古今、影ナレテヤトル月哉人シレスヨナ〳〵サハク袖ノミナトニ
續古、戀、サモコソハミナトハ袖ノ上ナラメ君ノ心ノマツサハクラム
定家、ナク千鳥袖ノミナトヲトヒコカシモロコシ舟モヨルノミナトニ
續古今、人シレヌ袖ノミナトノアタ浪ハ名ノミサハケトヨル舟モナシ定家
萬葉、イニシヘノ人ノノマセルキヒノサケヤメハ、スベナヌキスタバラム
6延喜式、主殿寮式云三年一請貫簀一枚。
ウツホ物語、シロカネノ御タラヒジンヲマロニケツリタルヌキス

新古今ヨミ人不知
不レ所レ念[5]。袖爾浪渡。躁哉。諸來船迺。依志計爾

○昔男在計利。女許爾一夜往而。復毛不レ往成爾計禮波。女之母。腹立而。手盥貫簀[6]乎抛計禮波。手洗之水爾。鳴影乃遷計流乎見而

吾計。物思人者。復毛不レ有。常思者水之。底仁毛在計利

諸讀利計禮者。彼不レ來計流夫聞付而

貫之集、屏風ノヱニ女トモ河ノホトリニアソフ、我身マタアラジトオモヘド水底ニオホツカナキハカケニヤハアラヌ
古今、フタツナキ物トオモヒシヲ水底ニ山ノハナラデイツル月影
拾遺、テル月モ影水底ニヤトリケリ似タル物ナキ戀モスルカナ

水口爾。我哉所レ見覽。蝦蟇津副。水底爾而。諸音爾鳴

○昔好色有計流女。出而徃計禮者。云貝無而壯士

何而有。相期笒簣爾。成爾計無。水令レ不レ漏杜。結志魂乎。

後撰、ウレシケニ君カタノメシ言ノハ、カタミニクメル水ニソアリケル

同、ムスヒ置シカタミノコダニナカリセハナニ、忍フノ草ヲツマヽシ

金葉、アフコトノ今ハカタミノメヲアラミモリテナカレン名コソヲシケレ

○昔二條後宮𨓍（貞觀八年女御）。東宮之（1 貞觀十一年貞明親王東宮）。御息所與申計流時。花賀爾。食被レ上有計流爾。近衛司有計流人

花爾不レ飽（新古今業平）。歎心者何時毛。作志香友。今日今夜爾似時無

萬葉、花サキテ實ハナラネトモナガキケニオモホユルカモ山吹ノハナ

○[3]昔男。女乎盜而徃道爾。水有所爾而。夫將レ呑哉與問爾。領拜計禮波。結而爲レ呑。然將而往爾。率爾荅

無將レ成。壯士本所江還爾。彼水飲志所爾而

大原哉。堰之志水尾。結上而。飽哉與問志。人者等等

○昔男。[4]端有計流女之許爾

會言者（新勅撰ヨミ人不知）。魂緒計。所レ念而。面黄心之。長所レ見覽

○昔宮之裏爾而。或兒達之局[5]之前乎渡爾。何乎怨爾歟念計無。余師哉草葉之將生能將レ見與云乎。壯士

伊勢、我タメニナニノアタトテ春風ノヲシムトシレル花ニシモサク

1 貞觀十一年二月、貞明親王爲皇太子、于時高子爲女御、依春宮母儀也。去年十二月廿六日誕生高子、年廿七。

2 花賀

3 此一段ナシ、補中抄ニ加レ今アリ。

4 小端（ハツ〳〵、ハツカ）共萬葉。

5 房

6 祥サカ（日本紀）

科裳無。人乎兒咀[1]者。忘草。己之上爾社。負常云成（生也負ヲ兼）
諸云乎。奸女毛在計利

○昔男。物云計流女爾。年來在而。
古。賤女之麻手卷。指[2]返。往古乎今爾。成世師毛哉（古今ヨミ人不知）
諸云計禮與。何友不レ思哉將レ在。

○昔男。攝津國菟原郡爾通計流。女。今度往而。又者不レ來與思經流氣色鳴者。壯士
（上句萬葉）從二葦部一。滿來鹽廼。彌倍爾。君爾心乎。思增哉
返
籠江爾。思心乎。如何河。船差棹廼。指而可レ知（續後撰ヨミ人不知）
[3]鄙人之詞似而者。善哉惡哉

○昔男。[4]顏强有計流人之許爾。
（新勅業平　元）言齒五十戸爾。不レ言者胸。被レ騷而。一レ心。哭近來哉

1 兒咀、諸毒藥還著二於本人一。普門品。誓(ウケフ)、日本紀字氣比、古事記。紅葉賀、コキデンナトノウケハシゲニノタマフトキ、シヲハ。

2 指

3 和名鈔、揚氏漢語抄云、田舍兒(和名、井奈加比止)。

4 顏强、漢書司馬遷傳云。言不レ辱者所レ謂强顏耳。通鑑第四十九集覽云、强顏猶レ言二顏厚一也。諺

舊事記云、復令二倭文造祖天羽槌神一織二倭文布一者
萬葉第三、赤人、勝鹿眞間娘子墓ヲミテヨマレタル長歌畧、イニシヘニ有ケン人ノシツハタノ帶トキカヘテ。同第十一イニシヘノシツハタ帶、古今、イニシヘノシツノヲタマキイヤシキモヨキモ盛ハアリシ物ナリ。萬葉、倭文幣トモ。シツハ神代ヨリアル布ノ名ナリ。ソレヲ民ノキモノニセシ故ニイヤシキ者ヲシヅトハ言ヘリ。

萱萬、アシマヨリミチクルシホノイヤマシニオモヒマセトモアカヌ君カナ
萬葉、アシヘヨリミチクルシホノイヤマシニ思フカ君カワスレカネツル
同、長歌畧、朝ナキニミチクルシホノタナキニヨリクルナミノソノシホノイヤマス／＼ニソノ浪ノイヤシク／＼ニワキモコニコヒツヽクレハ

六帖、イヘハエニイハネハクルシ世中ヲナケキテノミモツクスヘキカナ
同、イヘハエニフカクカナシキフエ竹ノヨコヱヤタレトトフ人モカナ
源氏須磨、中納言の君いへはえにカナシウオモヘルサマヲ人シレスアハレトオホス。

面無而云流可ㇾ鳴

安猶、オモナシ日本紀、萬葉ニ、ヨヒニアヒテアシタオモナミカクレニカケナガキ妹カイホリセリケム 共ニ面目ナシト云詞ナリ、是心ニアラズ。

○昔 男心爾毛不ㇾ有。絶有人之許爾 玉緒乎。沫緒爾搓而。被ㇾ結者。絶短後毛。將ㇾ相與社思

新古 ヨミ人不知

萬葉、玉ノヲ、沫緒ニヨリテムスヘレハ有テノチニモアハサラメカモ
貫之、ハルクレハ瀧ノ白糸イカナレヤ結ヘトモナホ沫ニミユラム
清少納言、上氷アハニ結ヘルヒモナレハカサスヒカケニユルフハカリソ

○昔男忘寢留何日利與。問言爲計流女爾[3]

古言也

谷狹美。至ㇾ峯所ㇾ這。玉葛。將ㇾ絶與人爾。吾莫念爾

○昔 男。好色成女爾相爾計利。後目痛哉將ㇾ念

ヘリイ同

新勅撰

吾不ㇾ成。下紐解勿。槿花[4]。暮影不ㇾ待。花爾者雖ㇾ有

古今、女郎花ウシロメタクモミユルカナ男山ニシタテリトオモヘハ
奥儀抄、喜撰式、混本歌、安部清行、アサカホノタカゲマタヌチリヤスキ花ノヨソカシ
六帖、フシテオモヒオキテナカムル春雨ニ花ノ下ヒモイカニトクラム

返

令二一人一。所ㇾ結紐乎。令ㇾ獨。會見左右手者。不ㇾ解與社思

萬葉第十二、フタリシテ結ヒシヒモヲヒトリシテ我ハトキミジタ、ニアフマテハ

○昔紀有常物爾往而。遲來計禮波讀而遣計流

續古今羇旅

依ㇾ君。思將ㇾ學。世中之。人者是親。戀與云覽

○假用

返

[1] 萬葉ニ、無大伴家持ガ二字ニ〔?〕なしふに、オモナノサマヤトミヲフモニクケレト、臣覺、スコシヒカリミセンヤ、アマリニニクシトノ臣ヘハ、在ニカヘゲテヨス、オモナノ人ヤトスシワラヒ丁フ、昔ニニ詞ツヨキ心ナリ。

[2] 拾遺

[3] 萬葉第十四、谷セハミ峯ニハヒタル玉カツラタエンノ心ワカオモハナクニ　同、峯セハミ谷ヘニハハル玉カツラハヘテシアラハ年ニコストモ　詩周南云、葛之覃兮、施二於中谷一、維葉萋萋。草抽ㇾ莖信不ㇾ断憑ㇾ高樹上ニ假ㇾ樹入二雲中一。

[4] 槿花、和名鈔。

不レ習者。代毎レ人。何乎鴨。戀與者云與。問志吾師裳

○昔西院[1]帝與申御門御坐計利。其帝親王。崇子與言御在計利。其親王疾給而。葬夜。其宮隣有計流夫。向爾夫車立利。御葬將レ見左。女車爾相乘而出有計利。最久將出不レ奉。打泣而將レ病部賀利計流間爾。其者源至與云。天下好色[3]有計利。此車乎女獨之車與思而。左右雌[2]間爾。彼至。螢乎取而。此車爾入有計禮者。車有計流人。此螢之燈火丹哉將レ似[4]與思而。滅何與爲左。男讀

出而去者。限可レ爲。燈盡。年歷寢流歟與。哭聲乎奇希

彼至返

最天晴。鳴莫所レ聞。燈火之。滅流[5]魂友。我者不レ知勿

諸何返有計流。天下好色廼歌仁者。直[6]社在計流。

内親王ト至カ父定卿トハイトコナレハ至モナケクヘキ人也、誠ニホイナラヌ事也。嵯峨天皇、源定、至、擧、順イタルハシタガフガオホヂナリミコノホイナシ。

○昔。稚男。氣[8]志浦者不レ有女乎思計利。猿[7]爲[9]流母在而。思毛社付左。此女手外江追將レ遣與爲。然社五十

1 淳和天皇、諱大伴、桓武天皇第三皇子、御位ノ後西院ニマス、西院ハ四條ノ北西大宮東也、又淳和院ト號ス。崇子内親王母橘船子、正四位上清野ノ女、承和十五年五月十五日薨、十九歲、今年六月ニ嘉祥ト改元アリケレハ、嘉祥元年ナリ。蜻蛉日記ニ、五月ニモナリヌ、十ヨ日ニ、ウチノ御クスリノ事アリテ、ノヽシルホトリモナクテ、廿ヨ日ノホトニカクレサセタマヒヌ。

2 ナマメク、帚木ニ木枯ノ女ヲイヘル所ニ、今一聲キヽハヤスヘキ人ノアル時ニ手ナノゴヒタマヒソ、ナトイタクアゴサレカヽレバ、女カタウコヱツクロヒテ、木カラシニ吹アハスメル笛ノネヲヒキトヽムヘキコトノハソ、ハヅナキトナマメキカハスニ、ニクヽナルヲモシラデ

姚

3 毛詩序疏曰、女有二美色一男子悅レ之、故經以レ女通レ女曰レ色、佛祖三經曰、佛曰、愛慾莫レ甚二於色一色之爲レ欲其大無レ外。（諺）

4 似

5 王充論衡曰、人之死也猶二火之滅一、火滅而燿不レ照人死而智不レ惠。

6 或、默然（萬葉古點）順ハ、永觀ノ比マテ在世ナレハ此物語天曆ノ比ヨリハルカ後ニ出來タル證ナリ、

7 猿、古今、サカシラニマシラナ鳴ソ足引ノ山ノカヒアルケフニヤハアラヌ

8 宇治拾遺、サバカリ大キニオハスル殿ノ御手ニ大キナルカナカマリカナトミユルゲシウハアラヌホトナルヘシ。

9 賢良、情進、出、サカシラ（共萬葉）。孟子曰、朝廷莫レ如レ爵鄕黨莫レ如レ齒。

戸土毛。未レ追捨一仁之弩成者留流勢無。女毛賤計禮波撲[1]力無。思者爾倍計利。幸爾仁。母此女乎遂爾追捨。夫千之涙乎雖レ落障夜志裳無。然間爾將レ爲レ出。壯士泣哭讀厭[2]而者。誰歟別。將レ難。有志爾勝。今日者賀無裳

女[3]返。爾付而何所至而。遂者志津與。人間者。不レ飽別之。涙河至而

諸讀而。他江沒𥘑禮者。母繞[4]爾計利。尚去爾思而行云然。最是師裳不レ有與思爾。有他江沒有計禮者。迷而願立計利。今日之日沒計自。復日之黄昏[5]爾何。幸爲而往便[6]有計利。往古之稚人者。有歌[7]流物。乎何爲計流。今代之翁。當爾指南哉。時者彌生晦成計流

○昔。[8]女朋比二人在計利。一人者賤夫之貧。○一人者高貴有壯士持有計利。賤夫用有女。師馳之晦爾。袍[9]乎洗而。自張計利。志者至計禮與。未然有賤行毛不レ習計禮者。袍袂乎張破[10]而計利。將レ作片裳無而。只哭爾泣計利。是乎彼高貴有壯士聞而。最心苦在計禮者。清氣有六[11]位袍乎。只片時爾見出而遣左讀

大和物語ニ、夜ヒトヨナキアカシテアシタニミレハ、ミノモナニモ涙ノカヽリタル所ハ千ノナミダニナナム有ケル、アイミシウナケハヘチノナミタトイフ物ハアルモノニナム有ケルトソイヒケル。

1 撲ハ、撲ノ誤字。此上ノ有字衍、有ハ相撲ノ二字ヲ連綿而、須末布歟。古事記、須摺。推、スマフ草(同)(共崔仙竄)。

2 イトヒテモ　續後撰共五文字同。

3 此詞並ニ何所至而ノ歌无。

4 繞、文選、靈光殿賦、俯仰顧盼、東西周章、註、顧盼ハ周章ノ驚視也。孔子家語、五儀篇、周章遠望。字彙、周章ハ恇懼貌（正懼惶恐不安之貌）詳。

5 黄昏ハ、トリノ時トヨムヘシ。

6 便

7 歌、ウタハ和朝ノ風俗ニテ、人々ノスキコノム物故、スキトヨメル歟。

8 古今此歌詞書云、メノオトウトヲモテ侍ケル人ニ、ウヘノキヌヲオクルトテヨミテヤリケル。

9 和名鈔、楊氏漢語抄云、袍（薄交反、和名宇倍乃岐沼、一云朝服）著レ襴之袷衣也。

10 帑、ヤル（日本紀）。

11 ロウサウハ緑衫也。六位ノ袍ナリ。（榮花殿上花見ニ、フネサス人ハ人、ロウサウノカリキヌハカマニ、カネシテヌヲカキタルニ、蘇芳ノアコメキタリ。）

古今雑業平
紫。色深時者。目毛張爾。野有草木社。不別計流

武藏野心可在　古今、紫ノ一本ユヱニムサシノヽ草ハミナカラアハレトソミル
同、ナニハノアシノメモハルニ
土佐日記、松原メモハル〳〵ナリ
(六帖) アハレナリケリ

○昔男在計利。好色與知知女乎相謂計利。然計禮者。數往計禮與。猶最後目痛。然左當將不往者得不有計流中成計禮者。一二三日。障事在而。得不往是何。

新古今業平
出而來。跡谷未。替乎。誰之通路及。今者成覽

狹乎
○猶伏爾讀流可鳴

○昔賀陽親王與申御子御坐計利。其親王女乎念而。最賢惠乍通給計流乎。最嗤而。吾耳與思計流乎。又他聞付而文遣與而。霍公之像乎書而　古今、カツミレトウトクモ有カナ月影ノイタラヌ里モアラシトオモヘハ
同、思ヘトモ猶ウトマレヌ春カスミカヽラヌ山ノアラシトオモヘハ

古今ヨミ人不知夏
霍公。汝鳴郷數。多有者。名乎將被疾。思物乍

諸云計禮者。此女氣色劣而

名耳立。志手之田主者。朝社鳴。五百里多爾。將被疾者　古今、イクハクノ田ヲツクレハカ郭公シテノ田ヲサヲ朝ナ〳〵ヨフ

時者薤宥爾何在計流。男返

1 後撰、夏蟲ノシル〳〵マトフ思ヒヲハコリヌカナシトタレカミサラム

2 賀陽親王、桓武天皇第七皇子、母ハ夫人多治比氏二品治部卿、貞觀十三年十月八日薨、七十八。榮花物語、ムカシカヤノミコトイヒシ人コソ、細エハカシコカリケレ。

3 嗤、正字通云、史灌夫傳、效兒女曹呫囁耳語、註切切附語也。唐資鑑言。如不出口世號。嗤囁、說文、耳部聶附耳私小語。言部、巫訓多言口部入聲、無嗤、按嗤本作聶、謬郡同聶。

4 疾

5 松風ニソノヨハ内ニモワタラセ玉フヘケレト、トケサリシミケシキトリニ、ヨフケヌレトマカテ玉ヒヌ。金葉、ヌス人トイフモコトワリサヨナカニ君カ心ヲトリニキタレハ

6 薤宥、白虎通云、五月謂之薤宥、薤者下也、宥者敬也、言陽氣上極陰氣始宥ニ敬之。

左隣人多幾。死代之田亭乎。猶特。吾妻郷爾音爲不レ絶者

○昔縣江行人爾。餞將レ爲左喚而。外人爾毛不有計禮者。家童不左。酒坏差爲而。女之裝束何與將レ負左。女爾相代而主夫歌讀而。裳腰爾結付指。

說文曰、餞送レ去也。徐曰以二酒食一送也

遊仙窟云、娘子既是主人母少府須作二主人公一

論語曰、邦君之妻稱曰二夫人一ゝゝ自稱曰二小童一

出而行。君之故爾與。絕津禮波。吾副喪無。

不將成哉ナリニケルカナ(已上六首)

萬葉第五山上憶良、長キハルウチノカギリハ平ラケクヤスクモアラムヲコトモナクモナクモアランヲ長略

同第十五、今夕ニモモナクユカントムマノアマノホツテノウラヘヲカタヤキテ長略

同卷、旅ニテモモナクハヤコトワキモコガユヒテシヒモハナレニケルカモ

此歌者。或之中爾面白計禮者。心留而不レ讀者。腹爾深味毛出不來

史記平準書曰、顏異與レ客語口有二腹誹一之法一。楚辭九章惜往日曰、與信讒弗レ味兮子胥死而憂。朱子註云味謂三之レ食物咀嚼而審二美惡一也。

○昔男在計利。人娘之祠。如何此夫爾物將レ言與思計利。心弱打將レ出言難哉將レ有。物病爾成而可レ死時爾是社思志歟與云計流乎。母聞付而。泣哭傳多利計禮波。夫雖レ迷來。死似計禮波。徒然與籠居計利。時水皆盡之晦。最日赤近比。宵者遊居而。五更而良涼風吹計利。螢高蜚昇。此壯士見臥而

古今、夏ト秋トユキカフ空ノカヨヒヂハカタヘス、シキ風ヤ吹ラム　螢火亂飛秋已近シ

1 外人

2 墜、古今ニ文屋康秀ガ參河掾ニナリテ、小町カモトヘ、アガタミニハエイデタ、ジヤト、イヒヤリケルモ、田舍ヲ見ニハエ出ヒタツマシキヤトナリ。

3 有常、嘉祥三年五月近江權大掾、仁壽二年但馬介、齊衡元年正月讚岐介、コレラノ時歟。天安元年五月伊勢權守、二年二月肥後權守。

4 絕。

5 萬葉十九、藤原清河ヲ遣唐大使トシ下フ時ノ孝謙天皇ノ御製、ヨツノ舟カヘリハヤコトシラガツケワカモノコシニシデツ、マタム

日本紀神功皇后云、于時也適當二皇后之開胎一。則取レ石插レ腰而祈之曰、事竟還日産二於茲土一。

6 祠、冊傳(共)カシツク。

7 後拾遺、白浪ノウチイテン事ソツ、マシキオモヒヨルヘノミキハハナラネハ(キイ)

萬葉第十六歎二夫君一歌一首並短歌。

8 古事記云、天若日子死、云々、乃於其處作二喪屋一云々日八日夜八夜以遊也。

9 日赤

10 五更

11 蜚

1 ツケ越ハ、告ヨト題フ心ナリ。古事記歌ニ、コノトリモ打ヤメコセネトヨマセ玉ヘルハ、鳴ヤミネトノ玉フナリ。萬葉ニ乞ノ字ヲコソトヨメルモネカフ詞ナリ、セトソ五音通スレハ、コセコソ同ジ詞ナリ。

2 陰精 火精

3 恒娥

4 鄭重

5 古今詞書、アル女ノナリヒラ朝臣ヲトコロサタメスアリキストオモヒテ、ヨミテツカハシケル。
大和物語
カクテスマスナリテ後、中将ノモトヨリキヌヲナムシニオコセタリケル、ソレニアラハヒナトスル人ナクテ、イトワヒシクナムアル、ナホカナラスシテタマヘトナム有ケレハ、内侍御心モテアルコトニコソハアナレ、大ヌサニナリヌル人ノカナシキハヨルセトモナクシカソナクナル　中将、ナカルトモナニトカミエン手ニ取テ引ケン人ソヌサトシラナムトナムイヒケル。

6 染殿内侍右大臣良相ノ女滋春母

7 大和物語云、ヒトノ國ノカミノクタリケルウマノハナムケヲ堤ノ中納言シテ云給ヒケルニ、クルヽマテコサリケレハイヒヤリケル、別ルヘキコトモ有モノヲヒネモスニマツトテサヘモナケキツルカナ、トアリケレハマトヒキニケリ。

後撰秋 蜚螢。至雲上。可去者。飽風吹常。鴈爾傳越[1] 行(イ)
萬葉歸雁、春マケテカリカヘルトモ秋風ニモミチノ山ヲコエコサラメヤ
續古今業平 難沒。夏之日沒。詠者。其事常鳴。魂社悲敷 ナレタルコトハナケレ也(無也)

○昔男。最華美友在計利。片時得不去思計流乎。人之國江往計流乎。路爾往爾計利。（最哀與思而別爾計利）陰精[2]火精歷而遣有文爾。淺猿得有得不對面。恒娥[3]火精之經寢留事。（ヨ文字入テ可見）忘哉爲給計無與。最痛思侘侍。世中人之心者被目離者。可將忘物爾社在禮與。云遣有計禮者（ヨミテヤル）

六帖オモカケ業平 目離友。所念鳴丹。所念。時志無計禮波。面影爾立

○昔男在計利。鄭重[4]爾如何與思女在計利。雖然此夫化有與聞而。顏強耳倍乍云利計流

古今ヨミ人不知[5] 御麻洒。彈手多爾。成寢禮者。思常得社。不手飲計禮[6]

返 夫

同上業平 御麻與。名爾社立禮。流傳藻。終爾賴湍者。有云魂乎

○昔[7]男在計利。物江往人爾。餞將爲左待計流爾不來者

古今業平 今社知。苦物常。人將待。鄉乎波不枯。問部借氣梨

古今、ワレヲノミオモフトイハヽアルヘキヲイテヤコヽロハオホヌサニシテ
萬葉、河上ニアラフワカナノナカレキテ妹カアタリノセニコソヨラメ
六帖貫之、ワタツオキノシホセニナカレテモ人ノヨルセハ有テフ物ヲ

古今詞書、紀ノトシ貞カアハノスケニマカリケル時ニ、馬ノハナムケセントテケフトイヒヲクリケルトキニ、コヽカシコニマカリアリキテヨフクルマテミエサリケレハ、ツカハシケル。

イ本爲一卷　イ亦同

眞名伊勢物語　下

六條宮御撰

1允恭紀、木梨輕太子ト輕大娘皇女ト同腹ニシテ密通ノ事。又異腹ニテ立后例多事。此妹異母歟、下ニ業平ヲヒトツ子トサヘアリケレハ、玉葉戀一、イモウトノオカシキヲ見テカキツケテ侍リケル。參議篁　中ニユク吉野ノ川ハアセナヽムイモセノ山ヲコエテミルヘク　返シ、參議岑守朝臣ノ女、妹背山カケタニミエテヤミヌヘクヨシノ、川ハニゴレトゾ思フ　新千載戀二、妹ノ影タニ見エテヤミヌヘク吉野ノ川ハニコレトソ思フ　ト申侍リケレハヨメル、參議篁　ニコルセハシハシ斗ソ水シアラハスミナムトコソタノミワタラメ　續古今戀二題シラス參議篁　ミノナラムフチセモシラスイモセ川オリタチスヘキ心チノミシテ　古今哀傷一、イモウトノ身マカリケル時ヨメル、小野たかむらの朝臣、ナク涙雨トフラナムワタリ川水マサリナハカヘリクルカニ

2萬葉第三ノ十三、人麻呂、ハル草ノマシメツラシキ我大君カモ

3慾、字彙云、音好慾也。又云慾、其久切怨仇也、通口氏曰慾乎又怒乎。

4說苑云、晉靈公造九層臺、荀息聞レ之莊子云。

○昔。男。妹乃。1最可レ笑咲(イ)有乎見而。慇感(日本紀)末稚美。寢好爾所レ見。稚草乎。人之將レ結。紉ムスフ(日本紀)言惜社思

返

初2草麵。名社目頰敷。言社。浦無魂乎。思計流哉

○昔男在計利。3怨怒(イ)イ(同)人乎浦見而

鳥子乎。拾乍拾者。4雖レ重。不レ思人乎。思魂河波

諸云計禮者。女

萬葉十一、ハネカツラ今スル妹カウラワカミヽ、イカリミキテシ、紐トクウラ/\ウラヤカ共ニ末ニアラス　古事記、輕皇女、夏草ノアヒネノ濱ノカキガヒニ足フマシムナアカシテイユケ　後撰、マタ年ワカヽリケル女ニツカハシケル、源中正、葉ヲワカミホニコソイデネ花薄下ノ心ニ結バサラメヤ　大和物語たゝみね、ワカ宿ノ一村スヽキウラワカミ結ビ時ニハマタシカリケリ

萬葉、ツルハミノヒトヘ衣ノウラモナクアルラン子ユヱ戀ワタルカモ　同、ウラモナクイマシ子故朝ナ/\モトナソコフルアフトハナシニ

毛詩云、不レ屬千毛不レ離于裏。　歸去來辭云、雲無心而出レ岫。

六帖　鳥ノ子ヲトヲツヽトヲハカサヌトモ人ノ心ヲイカヽタノマム　續千載雜體ノ中ノ俳諧ニ、カリノ子ヲ人ノオコセテ侍リケレハヨミ侍リケル和泉式部、イクツヽ、イクツカサネテタノマヽシカリノコノヨノ人ノコヽロハ

蜻蛉日記ニ、三月ツコモリ方ニカリノ子ノミユルヲ、コレ十ツヽカサヌルワサヲイカテセムトテ、テマサクリニスヽシノ糸ヲナカウムスヒテ、ヒトツムスビテハユヒユヒシテヒキタテタレハ、イトヨウカサナリタルナホアルヨリハトテ、九條殿女御殿御方ニタテマツルウノ花ニゾツケタル、ナニコトモナク只レイノ御フミニテ、ハシニ此トヲカサナリタルハ、カウテモハヘリヌヘカリケリトノミキコエタル御カヘリ、カスシラス思フ心ニクラフレハトヲカサヌルモ物トヤハミル　トアレハ御カヘリ、オモフホトシラテハカヒヤアラサラムカヘス/\モカスヲコソミメ

1 觀經序分義ニ云ク、縱發ニ淸心一猶如レ畫レ水。
涅槃經云、是身ノ無常念々不レ住、猶如ニ電光暴水幻夢炎一、亦如下畫レ水隨畫隨合上。

2 古今、マテトイフニチラテシトマルモノナラハ何ヲサクラニ思ヒマサマシ
萬、チルハナノマテテフコトヲシラマセハ春ハユクトモコヒサラマシヲ
新古、マテトイフニトマラヌ物ト知ナカラシヒテソヲシキ春ノワカレハ

3 古今詞書、人ノセンサイニキクニムスヒツケテウヱケル歌。
大和物語、在中將ニキサイノ宮ヨリ菊メシケレハ奉リケルツヰテニ……

4 朗詠秋、菅三品、前栽詩、多見栽レ花悅レ目儔、先レ時瀉養待レ開遊。白ニ吾閑寂家一……

5 倦ニ春樹春栽秋草秋。
離騷、朝飲ニ木蘭之墜露一兮、夕餐ニ秋菊之落英一。

6 鷲尾
日ホ……、……ノミカトノ御製、此コロノシクレノ雨ニキクノ花チリソシヌヘキアタラソノカヲ　菊ノ……見

續後拾ヨミ人不知哀傷
朝露者。消殘而毛可レ將レ有。誰歟此世乎。手飲可レ終

六帖在原トキハル、チラスシテコゾノ櫻ハ有ツトモ人ノ心ヲイカヽタノマム

返　男

續古今業平
吹風爾。去年櫻者。雖レ不レ散。穴手飲難。人之心波

萬十一、水ノ上ニ數カクコトキワカ命ヲ妹ニアハムトウケヒツルカモ
又オトコ、ユク水トスクルヨハヒトチル花トイツレマテ[2]テフコトヲキクラム

又　女　返

古今ヨミ人不知
行水爾。數書賴藻。墓無者。不レ思人手。思浦成計利

化競互爾爲計流。夫女之忍行爲計流言可レ成

○昔男人家之前栽爾菊殖計流乎見而

古今秋業平
遷植者。秋無時哉將レ開。花社散目。根副枯目哉

○昔男在計利。人廼從レ許。粃鷲尾遺有計流。

返事爾

續齊諧記云、屈原以二五月五日一投二汨羅一……
拾遺集賀部、五月五日チヒサキカサリチマキヲ山スゲノコニイレテ、タメマサノ朝臣ノムスメニコヽロサストテ、春宮大夫道綱母、心サシフカキミキハニカルコモノチトセノサツキイツカワスレム

菖蒲刈。君者沼爾社。迷計流。吾者野爾出而濕社佗敷

アヤメヲ賞フル日ナレハアヤメカリトハヨメリ、今ノ人ハマコモカリトゾイフヘキ。
天智紀七年丁卯夏五月五日遊二獵蒲生野一。

諾云而。雉乎何遣計流

〇昔男在計利。會難有計流女爾會而。物語爲留間爾。鳥鳴計禮者

續後撰雜中 如何是波。鳥鳴聲。人不知。思浦心者。未能深爾。夜也

〇昔男。顔強有計流女爾云遣計流

後撰十三人不詳 去不遣。夢路乎尋。袂爾波。天津空有。露哉置覽（已上後撰）

〇昔男。在計利。思繫有人廼。得難成而之代爾 後(イ)

是亦二條后乎

續後撰雜中 不思者。有毛爲覽月跡。言廼。時節毎。被手飲哉

〇昔男在計利。寐一寤一思餘而 思乎 思乎

新勅撰雜 吾袖者。草庵爾。雖不有。暮禮波露乃。宿與社成

昔男(イ) 蟹也

〇男。人不知物思爲流男。顔強人之許爾。 計利(イ)

新勅撰三人不知 戀侘。泉郎廼刈藻爾。宿云。乍吾身而。碎鈞哉

〇昔榮而好色有男。長岡與云所爾。家造而居計利。爾所廼隣有計流宮腹爾。兒與棠無女友。鄙成計禮 事也 萬葉十二八丰 者。田猶爲左。此壯士在乎見而。忌作之軛者廼所行哉左。雲集而入來計禮者。

三點イ同　袖中十三　宿ニ也　〇下五丁之右　軼乎

〇此夫逃而奧爾隱爾計利。女

---

1 仙宿始宿難逢難見可 書重。 恰病夜半驚人 萬如狂鷄三更唱 伊勢集枕相左大臣、アフ事ノアケヌコナカラ明アレハワレコソカヘレコヽロヤハユク

2 尋

3 古今、夢路ニモ露ヤオクラムヨモスカラカヨヘル袖ノヒチテカワカヌ 古今、ヨシノ川ヨシヤ人コソツラカラメハヤクイヒテシコトハワスレシ

4 萬葉、イツトテモ戀ス時トハアラネトモタカタマケテ戀ハスベナシ 古今、イツトテモ戀シカラスハアラネトモ秋ノユフヘハアヤシカリケリ

5 コヽロツキテハ、好色ノ心ツキテ也。

6 榮 萬葉、オホキミノミカサニヌヘルアリマスケアリツヽミレトコトナキワキモ ウツホ物語、コヽニモノセラル、中ニコトモナキムスメタレ、オホクノ物セラルラム、又云、カタチモイトル事トモナシ、コロシキホトノ女トモ也。

7 軼 薛許、昨日春風欺不在 就床吹落讀殘書。

枯之アレ
古今ヨミ人不知雑

彼迯利。天晴幾代之。屋門成哉。将レ棲人之。音信毛不レ爲
諸云而。此宮爾雲集來居而在計禮者。此夫（イホ十七ウ イ同亦）
萑[1]生而。荒有屋門廼。宇禮[2]多幾爾。獦爾毛醜女。（假也）出入成計利（多集（萬葉））
諸何云出有計流。此女友。穗将レ拾與云計禮波
打佗而。落穗拾與。聞勝者。吾毛田頭爾。行增魂乎

鬼和名鈔
拾遺、ミチノクニ名トリノ郡クロツカトイフ所ニ重之カイモウトアマタアリトキヽテイヒツカハシケル。兼盛。ミチノクノアタチノ原ノクロツカニオニコモレリトイフハマコトカ

毛詩、北山之什大田章云、彼有二遺秉一此有二滯穗一伊寡婦之利
列子出、類年旦百歳、底レ春被レ裘拾二遺穗一
白氏文集、觀レ刈レ麥詩云、復有二貧婦人一抱レ子在二其傍一右手秉二遺穗一左臂懸二弊筐一。延喜式第五十雑式云、凡百姓被レ雇刈レ穗之日不レ得レ率レ人拾レ穗。

○昔男在計利。如何将レ思。京ヲ東山爾。棲（将（イ））與思（入イ）而讀
後撰雜業平
棲将レ佗。今者限廼。山家爾。身乎可レ隱。屋門求而牟

後撰詞書、ヨノ中ヲオモヒウジテ侍ケルコロ、下句、ツマキコルヘキ
千載俊成、住ワヒテミヲカクスヘキ山里ニアマリクマナキ月ノカケカナ
新古俊成、今ハトテツマキコルヘキ宿ノ松千世ヲハ君ニ猶イノルカナ

與而物痛病而死入有計禮波。面爾水灌何與爲而。生出而（○○○イヽナシ）
法華經信解品云、于レ時窮子悶絶躃レ地父遙見レ之語レ使言以二冷水一灑レ面令レ得二醒悟一。

萑[1]、本草云萑草（上音律、和名毛久良）
概[2]（ウレタキ神武紀）。八雲御抄（ウレタキハ、ネタキナク）。古事記（ウレタクモナクナル鳥カ）。萬葉（ウレタシヤシコ霍公）

與

昔上爾。露社置成。漢河。門渡爲廼。鹿之死付歟

落何云而氣出有計流

伊勢物語

○昔男在計利。宮仕急心毛不破儀計流間爾。彼家童子。間女爾將思與云人爾付而。他國江往計利。此夫宇佐使爾而往計流爾。或國廼。祇承官人之妻爾而何在與聞而。女主爾酒坏取爲余。不然者不呑常云計禮者。香取而出有計流爾。肴在計流橘乎取而

古今ヨミ人不知

早苗月待。花橘乃。香乎聞者。往古人之。袖廼香社作流

古今、タカ袖フレシ宿ノ梅ソモ
密勘ニ、橘ノ香イツレノ袖ニテモ侍リナム

諸云計流爾社。思出而。尼爾成而。山爾入爾計流

○昔男。至筑紫往有計流爾。是者色好與云。軾者與。簾中成人廼云計流乎聞而

拾遺ヨミ人不知

染河乎。將渡人廼。如何河波。色爾出云。言廼無將有

後撰、ワタリテハアタニナルテフ染川ノ心ツクシニナリモコソスレ
大和物語、アタ人ノタノメワタリシ染川ノ色ノフカサヲミテヤヤミナム

女返

後撰ヨミ人不知タハレシマヲミテ

名爾志負者。化爾社可有。遊嶋。浪廼消衣將著與云也（已上後）

後撰大江朝綱朝臣、マメナレトアタ名ハ立ヌタハレシマヨル白浪ヲヌレ衣ニシテ

○昔。年來不音便計流女。心賢哉不有計無。無墓人廼言爾付而。人之國成計流人爾。仕禮計流間爾。本所見人之前出來而。物食世何與爲計利。夕去此在津流人賜與。主爾云計禮波。遣有計利。壯士吾乎波不

1 [illegible]十、[illegible]ハヘフリクル雨ハヤ[illegible]ハヤコク[illegible]ノカイノチルカモ[illegible]、我[illegible]ニ[illegible]、サクナル[illegible]ノシナラミ淺ヤコスラム

儀2 [illegible]第二云、[illegible]五年[illegible]豐[illegible]帛[illegible]位[illegible]ラス

續[illegible] 1[illegible]一[illegible]杯[illegible]

5 今香ヲカクヲキクトイフハ[illegible]ナルベシ。[illegible]代卷[illegible]伊[illegible]集[illegible]コレリ

軾6

揚子雲長揚賦、[illegible]ノゴトク[illegible]ノゴトクニスグ[illegible]宇[illegible]、軾[illegible]也。

古今、梅花サキテノ後ノミナレハヤスキ物トノミ人ノイフラム

作者[illegible]、スキ物ヲ花ノフタリニコセサラハ[illegible]トコナツモ[illegible]タエマシヤハ

風7 流士（タハレヲ萬葉）

レ知哉左

古之。匂者幾等。櫻花。扱留之如毛。成爾計流哉

諸云乎最悲與思而。報毛不レ為居有乎。何報者不レ為與云者。涙之落爾。目毛不レ見物毛不レ被レ言與云。又

夫　後撰、メモミエス涙ノ雨ノシクル、ハ身ノヌレ衣ハヒルヨシモナシ

是也兒之。吾爾近江乎。遁乍。年月雖レ歴。勝面無美

諸云而衣絶而雖レ為レ被レ取。捨而往爾計利。何所去覧友不レ知

○昔。世營嫗女。何心情將レ在壯士爾。會見而字哉與雖レ思。五十。將レ出言。便無佐爾。孥三人乎喚而。眞

言不レ成夢語乎為。二人孥。無レ情報將レ停。三郎有計流孥何。好御壯士社將出來與合流爾。此女氣色甚好。

異人者最無レ情。如何歟此在五中將爾會而志哉與思心在而。狩為行。計流路爾。而。馬之口乎取而。是右何

思與云計禮波。怜賀利而。往而寢爾計利。然後壯士不レ來者。壯士之家爾往而。闚計流乎夫入風所道見而

百歲爾。一歲不レ足。蘂蛛神。吾戀良志。面影爾所レ見　和名鈔水菜部云、辨色立成云、江浦草髮也（豆久毛一云太久萬毛）

諸云而。夫馬爾鞍置而出立氣色乎見而。女棘枳椇爾懸而。家爾來而打臥利。此夫彼女之所レ作樣爾。偲而

1 扱、韻會說文、收也、取也、拐也、擷也、引也。今案、コケルハ木ノ葉ナドヲコケグ也。古ニモ葉コキタレテコナトヨメリ。今コメル所ノコケルハ、痩ナリ。ヤセコケテナトイヘリ。ソレヲ假テ扱ノ字ヲカケリ。

2 絕 上

3 營、韻會、維傾切、音伯。是營、又怔營、畏懼貌、惶恐不安之貌。揚子雲之怔營ス卜註ニ旁皇失ノ據ル。

4 莊子云、文王觀ニ於臧ニ見ニ一丈夫ノ釣一。文王欲ニ擧授ニ之政ニ而恐大臣父兄之弗レ安也、欲ニ終而釋レ之而不レ忍ニ百姓之無レ天也。於是旦而屬ニ之大夫ニ曰、昔者寡人夢見ニ良人、黑色而頿、乘ニ駁馬而偏朱蹄、號曰寓ニ而政於臧丈人一庶幾乎民有レ瘳乎。諸大夫蹵然曰、先君王也、文王曰然則卜レ之。諸大夫ノ曰、先君之命王其無レ它又何卜焉。

左傳云、小臣有ニ晨夢ニ。崇神紀云、天皇相夢謂ニ二子ニ曰。拾遺集、夢ナリソ戀シキ人ヲミソメツル今ハアハスル人モアラナム

5 土佐日記云、コネサケシハシハクルカエトリケシキアシカラス。山谷詩夢小序註、南唐近事馮僎舉進士有ニ徐文ニ能判夢（或作ニ京夢ニ）。

6 闚（字彙、枯回切、音恢、闚ニ頭門ニ中ニ小視也。

7 入風（萬葉ニハスキマトヨメリ、ホノカトコ）ニヨメルモ心通ヘリ、然レハ所ノ字ハ愆文歟。大和物語ニ、カクイカスヲイカニオモフラムト思ヒ出テ、アリシ女ノガリイキヌリケリ、久シクイカサリケレハ、ツヽマシクタテリ。

8 サテカイマメバ云々　棘　枳椇本草ニ云ク、枳椇（只矩ノ二音、和名加良太知）玉篇云ク、枳ハ似レ橘ニ屈曲者也。

1狹莚、山城國調席二百八十枚、諸席五百九十枚、父六、狹席六枚、長席八枚。
2史記、秦二世三年、趙高欲レ爲レ亂、恐ニ群臣不一レ聽、乃先設レ驗、持レ鹿獻ニ于二世一言馬也。(諺)
3袖中抄、駒ヲケヂメトヨメリ。物ノタカヒメヲキハヲタテヌヤウノ心ナリ。
4朗詠、風詩云、漢主手中吹不レ駐。
5禁秘抄云、聽レ色大臣女、或大臣孫也。
6從父兄弟
7末通女卷、カノ人ノ御タメニモイトカタハナルコトナリ。ウツホ物語初秋卷、大鳥ノハネヤカタハニナリヌラム今ハオトヤニ霜ノフルラム
醜　和爾彌倚人（加多和）倚人、同字彙云、物體不ニ備具一謂ニ之倚一與レ倚同、揚子方言、亦謂ニ之踦一。

立而見爾。女打哭而眠左

（上句古今）1狹莚爾。衣片敷。小宵裳哉。戀敷人爾。不レ會鴨將レ寢（ワレヲマツラム　ウチノハシ姫ノミ（古今戀四））

諾讀計流乎。夫天晴與思而。其夜者眠爾計利。（記者詞）世中廼例與作而。思浦姑思。不レ念姑不レ念物乎。此人者思面不レ思面。其穴3目不レ見心何在計流

○昔男在計利。女偷爾談行毛不レ爲計禮者。幾所有計無怍爾讀

（新千載）吹風爾。吾身乎成者。玉簀垂。日間求乍。入倍魂乎（岐乎）（イラマシカ（イ）同）

女返

（上同ヨミ人不知）取不レ留。4風爾波雖レ有。珠簾。誰之不レ綏者歟。（愆女乎）日間可レ求

○昔帝（淸和天皇）時日機仕瀨給女。5色被レ縱有在計利。大御息所（染殿）爾而在計流6從父兄弟有計流。殿上爾侍計流在原有計流（業平此時四十歲許）壯士廼。7未最稚借計流乎。此女曾知有計利。夫女之方綏佐禮有計禮者。女之在所爾來而。向居計禮波。女（歟）痛醜也。身毛喪何。是勿爲莫與云計禮波。

（新古業平）思爾波。偲流事社。負爾計流。會似志替者。然毛被レ有者在

文選曹子建七哀詩云、願爲ニ西南風一長逝入ニ君懷一。萬葉旋頭歌、イキノヲニ我ハ思ヘト人メオホミコソ吹風ニアラハシハ〳〵アフヘキモノヲ　同、妹カヌル床ノアタリニイハク、ル水ニモカモヤ入テネマクモ

古今、思フニハシノフルコトソマケニケル色ニハ出デジト思ヒシモノヲ　同、命ヤハ何ソハ露ノアタモノヲ逢ニシカヘハ惜カラナクニ

諸云而曹子[1]爾居給江禮波。例廼御曹司爾者。人之將レ見面不レ知而。昇居計禮者。此女思侘而京[2]江行。然者

何好事左往通計禮者。皆人咎而笑計利。晨而主殿司廼見流爾。踏[3]者取而輿爾拋入而社昇居計流。右顚[4]爲作

在渡爾。身毛徒爾可レ將レ成者。終爾可レ將レ喪左。此夫如何詮。吾如レ是心乎。停給江與。神佛[5]爾毛雖レ言。

彌倍爾耳所レ念而。尙破無[6]戀敷耳所レ念計禮波。覡陰陽師乎喚而。戀不レ爲與云。祓之具左何。禊計流隨爾。

[7]最悲機事數增而。從レ有異爾。慕敷耳所レ念者。

貫之集、住吉ノ朝ミツシホニミソキシテ戀忘草ツミテカヘラム

六帖、ツラキ人ワスレナムトテハラフレハミソクカヒナク戀コソマサレ

同、コヒセシトセシミソキコソウケサラメアフセハユルセカモノミツカキ

古今ヨミ人不知

戀不レ爲與。水垂神河爾。所レ爲禊。神者不レ受。成爾計流哉（已上古）

定家、コヒセシノミソキハカミモウケストヤ人ヲワスル、ツミフカシトテ

諸云而何往計流。此帝[8]者。御皃好御坐而。佛之御名乎御心爾入而。曉爾者御音最貴而申給乎聽而。此女者

痛哭計利。如レ是王爾不祇承[10]宿世拙悲事。此夫爾被レ絆而與何哭計流。如レ是程爾帝聞レ食付而。此夫姑流[12]

師遣計利。此女姑。從父兄[11]妃面退出佐爲而。殿倉爾籠而。志保果給計禮者。倉爾籠而淚淚

シホルハイタマシムル也、萬葉十九、梅ノ花雪ニ之乎禮氏、菅蘰、秋ノ草木ノ芝折濁者袖ヲシホルノシホルニ非ス

1 曹子

2 京

3 踏 清少納言ニ、ミツシ所ノオモノダナトイフ物ニ、クツオキテイヒノヽシルヲイトヲシカリテ、タガクツニカアラン、エシラスト、トノモリツカサ人々ノイヒケルヲ、ヤヽマサヒロガキタナキモノゾヤトリニキテモイトサハガシ。

4 顚、字彙云、乃挺切、寊頂顚也、顚倒也、父四支寒掉也、是乎。

5 土佐日記ニ、此ワタリ海賊オソリアリトイヘバ神佛ヲイノル、

6 古今、ワリナクモネテモサメテモ戀シキカ心ヲイツチヤラハ忘レン

7 定家卿、ユキメグリアクセキシラヌミソキ川カナシキコトハ數マサリツヽ

古今、ワスレナント思フ心ノツクカラニ有シヨリケニマツソカナシキ

奧義抄ニ、コレハ深養父カ元輔ニヨミヘナルナリ。新撰髄腦ニ見エタリ。

8 三代實錄第三十八云、天皇風儀甚美、端嚴如レ神、性寛明仁恕溫和慈順、好讀二書傳一、耽二習釋教一、應犬之遊、漁獵之娛、未二嘗留意一。

9 古今、ーノウキメミエヌ山チヘイランニハ思フ人コソホタシ成ケレ

絆、釋名云、絆ハ（音半、和名保太之）半也、物使二半行一也、

10 不レ得二自縱一ナルコト也。

伊勢集、次クキヲカヨフ斗ヲスクセニテ雲井ハルカニハテネトヤキク

大和物語、行末ノスクセモシラヌ昔ワガチキリシコトハオモホユヤキミ

11 從父兄

12 流、三代實錄、貞觀八九十三年ノ間、官位昇進ノコトミエス、ソノ間ニ籠居セラル、ホトノ事ノアリケルニヤ。今案、二條后其外好色ノコト、モ代ニモレナハサモアルヘキ事ナリ。阿保親王薨去ノ時、宣命ニ親母井子等ハヲモ殊ニメクミ治メタマハムトアレハ、流罪ナトトハ國史ニノセラルヘキホトノ事ハナカリケルニヤ。江次第ニモ流罪トイヘルホトニハナクテ髮ヲキリテトアリケルニヤ。人常ニ此歌ノ心ナラハ、世ヲモ人ヲモ恨ムヘカラス、心詞アヒカナヒテヤサシキ歌ナリ。

古今典侍藤原直子朝臣

泉郎之刈。藻爾棲蟲之我乍與。音乎社唱目。余姑浦不見　コレハ似ツキタルヲカレルナリ。

諸唱居禮者。（唱 喝）（計(イ)）此夫從他國毎夜來乍。笛[1]乎最面白吹而。聲者笑敷而社。（哀(イ)）吟計流。如是計禮者。此女倉爾（者(イ)）

乍籠。爾所社在鳴常聞與。相可見爾毛不有何有計流

雖然與。（新勅ヨミ人不知）思覽社。金敷計禮。有爾毛不有。身乎者不知而。

諸思居。夫者同志不相者是行乍[2]（女(イ)）　ヒトノ國ニアリキテカクウタフ

[3]古今ヨミ人不知

徒爾。行而者還。物故爾。見卷欲左爾。被率乍、

水尾御時有可。大御息所與者。（モ非也）染殿皇后。也。（順子）五條之披[4]庭鞆

淸和天皇、元慶四年十二月四日崩、年三十一葬粟田山、納骨於水尾山。淸和天皇鷹犬之遊漁獵之娛未嘗留意、風姿甚端嚴如神性。

○昔男在計利。攝津國爾知所。（兎原郡蘆屋乎）有而朋友貝連而往爾。（有計流爾兄弟友達引將而難波方爾往計利(イ)）諸乎見遣者。船鞆之在乎見而（共也）

後撰詞書、身ノウレヘ侍ケル時、津ノクニニマカリテスミハシメ侍リケルニ、文選、秋風辭、歡樂極兮哀情多シ。

（後撰雜業平）難波津乎。今日社三津乃遡。毎浦爾。是哉此世乎。海渡船

是乎天晴借而。人人還爾計利

○昔男在計利。逍遙[5]爲爾。（イ无）思共貝列而。和泉國江。夾鐘[6]許爾往爾計利。河內國[7]生馬山乎見遣者。陰見晴見。

立居留雲不息。從朝陰而日流晴有。六[8]出最白木梢爾降有。其乎見而。行人之中爾。只獨讀計流

1 六帖、イヘハエニキケハカナシキ笛竹ノヨコエヤタレト問ソヒトモナシ

2 韻會蒼頡篇ニ、乍ハ兩辭也。禮運註疏、祭ニ百神ニ曰レ蜡、陸佃カ云ク、蜡ハ韻曰乍、一ハ有一ハ無、爲乍物之生死、老少、一ハ有一ハ無、何有ニ窮已ニ是之謂乍。（諺）

3 萬葉、カクシテヤ猶ヤカヘラム近カラヌ道ノアイタヲナツミマヰリテ　後撰、春ノ池ノ玉モニアソフニホ鳥ノ足ノイトナキ戀モスル哉

4 掖庭、西都賦、掖庭向日宮ノ名。在天子左右如肘腋。

5 毛詩、伊人於焉逍遙、逍遙（アソブ、日本紀）。カハセウエウ、古今詞出。萬葉第九、カキツラネトコヨニイタリ

6 夾鐘、夾鐘乎。白虎通云、二月律謂之夾鐘、何ソ夾春ハ孚甲也。言萬物孚甲種類分ルル也。

7 萬葉、難波トヲコキ出テミレハ神サフルイコマ高根ニ雲ソタナヒク

8 六出、見韓詩外傳。朱子云、地六水之成數雪者水結爲花六出。

昨日今日。雲之立舞[1]。隱呂浦者。花之林乎。佗與可レ鳴 雲也 雲ノ妬也

○昔男和泉國江往計利。住吉郡住吉鄉住吉濱[2]乎行爾。最面白計禮者。下居乍。或人住吉濱乎加而。海頭 行(イ)

乎讀與云。皆人讀與爲流爾或人讀。

雁鳴而。菊廼花咲。秋者雖レ有。春者海部爾。住吉之濱 定家、白菊ノニホヘル秋モ忘草オフテフ岸ノ春ノ浦風

諸讀計禮者。是爾妙而。人々[3]不レ讀成逖利 皆人(イ) 哀惜而(イ)

○昔男在計利。其壯士妹背國江。狩使爾往計流爾。彼[4]伊勢之齋宮有計流人之母 常之從レ使鷹[6]。此人能勤[7]與 閑(イ) 利(イ) 下上歟

云遣計禮者。母[5]之言成計禮者。最鄭重[8]爾勞計利。朝爾波狩爾出立而遣。夜去者。爾所爾還[9]來佐世計利。二

日與云夜。夫破而會與云。女毛將。不レ會與波不レ思計禮與。甚他目繁計禮者得不レ會。使眞[12]常在人成者。遠

毛不レ宿。女之寢屋毛近在計禮者。女他乎如而[13]。夜半一許爾。夫之許爾來計利。夫將不レ被レ寢計禮者。戶之 者(イ) 外也

方乎見出而臥爾。明玉[14]野朧有爾。人之影廼志計流乎見計禮波小兒乎前爾立而八立利。夫最嬉而。如我寢 徑女乎

---

1 狂雲妬二佳月一

2 後撰春下、イツミノクニヽマカリケルニウミノツラニテ、ヨミ人不知、春ノフカキ色ニモ有カナ住ノ江ノソコモミトリニミユルハマ松 定家卿、ケフソミル春ノ海ヘノ名ナリケリ住ヨシノサト住ヨシノハマ

3 伊勢集、リウモントイフ寺ニマウデ、人々イサ歌ヨマントイヒケレハ、タチヌハヌ衣キシ人モナキモノヲナニ山ヒメノヌノサラスラムトヨミタリケレハ、コト人ヨマスナリニケリ。

4 古今集詞書、業平朝臣ノ伊勢ノクニヽマカリタリケル時、齋宮ナリケル人ニイトミソカニアヒテ、三代實錄、貞觀元年冬十月五日丁亥、卜二定恬子內親王一爲二伊勢齋一。同三年九月發二遣伊勢齋內親王一。元慶元年迎二前ノ伊勢齋內親王一。

5 親ハ顯昭云、紀靜子ナリ。

6 鷹使

7 勤

8 鄭重

9 西行、山里ハ人コサセシト思ハネトトハルヽコトゾウトクナリユク

10 古今、咲花ニ思ヒツキミノアチキナサ身ニイタツキノイルモシラステ

11 萬葉、高根ヨリ出クル水ノ岩ニフレワレテゾ思フ妹ニアハヌヨハ 同、キヽシヨリ物ヲ思ヘハ我ムネハワレテクタケテトコヽロモナシ

12 主神(カミサネ 日本紀)。大和物語、貞文、春ノ野ニミトリニハヘルサネカツラ我キミサネトタノム許リソ

13 後撰、秋ノヨニ人ヲシツメテツレ〳〵トカキナスコトノネニソナキヌル

如 大和物語、人心ウシミツ今ハタノマシナ(ヨ)ユメミヤミユトネソスキニケル

14 明玉 躬恒集、秋ノヨノオホロニミユルツキヨリハモミチノイロソテリマサリケリ

所爾將入而。從夜半一至鷄鳴1在爾。又何事毛不語還爾計利。夫最悲而不寢成爾計利。晨而最鬱悒計

禮土。吾人乎可遣爾志毛不有者。最心本無而待居爾。開分而暫在爾。女之從許詞者無而

古今ヨミ人不知
君哉所來。吾哉將往。不所念。努歟現歟。寢而歟寢而歟　萬葉、ウツヽニカ妹カキマセル夢ニカモ我カマトヘル戀ノシケキニ

夫甚痛打哭而讀

上同葉半　彼イ　昔夜須。心之闇爾。迷爾幾。努現與波。夜人定余（古今同）

諸讀而遣而狩爾將出。野爾行與。心者空爾而。今宵田爾人閑而。最速將相與思爾。國守6齋宮守兼有

計禮者。狩使在與聞而。一夜酒呑志計禮波。專會事毛得不爲。明者尾張國江將去邊計禮波。夫毛女毛。

人不被知千之涙乎流與毛得不會。夜漸明何與爲流間爾。女之從方所出坏歌乎書而出志有、見者

兵7人之。被渡與不沾。緣爾師吾者

諸書而末者無。其坏小盤爾續松8炳墨左歌之末乎書付

又會坂之關9毛越何

諸云而。被明者尾張國江越爾計利

齋宮ハ水ノ尾ノ御時、文徳天皇ノ御ムスメコレタカノミコノイモウト

欽明天皇皇女磐隈皇女初侍於伊勢大神祠、坐皇子茨城姧解ス、欽達天皇七年春三月以菟道皇女侍伊勢祠、即姧池邊皇子事顯而解

1 鷄鳴
2 古今、ムツコトモマタツキナクニアケヌメリイツラハアキノナカシテフヨハ
3 鬱悒（オホツカナシ　イフカシ）（共萬）。
4 アハレナル心ノヤミノユカリトモミシヨノ夢ヲタレカサタメム
5 萬葉、立ヰスルタトキモシラスワカ心アマツソラナリツチハフメトモ
同、立トマリユキミノ里ニ妹ヲオキテ心ソラナリツチハフメトモ
6 齋宮頭、貞觀七年五月十六日丙申。從五位上行伊勢權守藤原朝臣宜ヲ爲齋宮頭、伊勢權守如故、同八年二月十三日己未、以齋宮寮頭從五位下藤原朝臣諸房爲中務少輔、從五位下藤原朝臣諸藤爲齋宮寮頭、コノアイタノ事ナルヘシ。續日本紀、天平十八年八月置齋宮寮、伊勢齋宮寮無名、無權官、相當從五位下。
榮花玉村菊ニ、カノザイゴ中將ノコヽロノヤミニマドヒユキ、ユメウツヽトハ世人サタメヨト、ヨミタリシモ、カヤウノコトゾカシ、ソレハマタマコトノ齋宮ニテオハセシヲソノコトナリ云々。
7 兵　歩兵也。
8 和名鈔、松明、注ニ續松トカケリ。
9 後京極、合坂ノ關フミナラスカチ人ノワタレトヌレヌ花ノ白浪

○昔男從ニ狩使一還來計流爾。大淀渡爾宿而。齋宮之侲子爾云縣計流。

新古業平
海松刈。方呼幾所社。棹指而。吾爾教佘。泉郎之釣船

ツリ舟ハ只詞ノタラネハソヘテイヘリ、篁ノヒトニハツケヨアマノツリ舟ニオナシ。サヲサシハ舟サスサヲノサシテシルヘキトイヘル、サシテニオナシ。

○昔男在計利。伊勢齋宮爾。裹之御使爾而 參計禮波。彼宮爾相子與云計流女。私言爾而
此(イ)

續千載ヨミ人不知
千盤破。神五十垣毛。可レ將レ越。大宮人之。見卷欲作爾

萬葉、ユフカケテイミシ社モコエヌヘク思ホユルカモ戀ノシケキニ

夫　返

上同業
戀布者。來而毛見佘借。茅葉屋經。神之禁。路不レ成莫

萬葉第九、登ニ筑波嶺一爲ニ嬥歌會一日作歌略云、イサナヒテヲトメヲトコノ行ツトヒカカフカヾヒニ人妻ニ我モカヨハム我ツマニ人モコトヘ此山ヲウシハク神ノ昔ヨリ不禁ワサゾケフノミハメグシモミルナコトモトムナ、ウシハク神ハ伊弉諾伊弉冊ナリ。

○昔男在計利。伊勢國有計流女乎又得不レ會。隣之國江往左。忌敷嘆計禮波女
壓(イ)

新古ヨミ人不知
大淀之。松者烈久裳。莫レ不レ有。浦見而耳乇。還浪哉

古今、アフコトノナキ世ニシヨルナミナレハウラミテノミソ立カヘリケル
新古、今ムスメノ齋宮ニグシテクタリ侍リテ、オホヨトノ浦ニミソキシ侍ルトテ、女御徽子女王、大ヨトノ浦ニ立浪カヘラスハ松ノカハラヌ色ヲミマシヤ
有家、大ヨトノ月ヲウラミテカヘルナミ松ハツラクモアラシ吹夜ニ

○昔男彼所爾波將レ在雖レ聞。消息乎多爾何。可レ云毛不有女之當乎思計流

萬葉第四湯原王
目爾者見而。手爾者不レ被レ取。月廼中之。楓廼如之。君爾社有計流

○昔　男。女乎痛恨而

同十一拾遺
袴根蹈。將レ重山者。不レ隔當。不レ相日多。戀渡哉

1 延喜式、神名帳、伊勢國多氣郡竹大與杼神社、
2 侲子
3 後撰、オトコノマテキテスキゴトヲノミシケレハ、蜻蛉日記、ムカシスキコトセシ人モ今ハオハセストカナト、人ニツキテキコエマツ。
4 易經、剝卦云、君子尚ニ消息盈虛一、豐卦云、天地盈虛、與レ時消息、註、消息謂ニ進退一。禮記月令云、陰生爲レ息陰死爲レ消。廣韻云、消息、音信也。文選李善註曰、消言レ往也、變既往故消。息言レ來也。使レ死所レ求故日息也。
5 拾遺、ナケレトモアハヌ日數ヲコヒヤワタラム　坂上郎女

○昔男在計利。伊勢國爾欲得行而將相與。（アラム）無破云計禮波。女

大淀之。濱爾生云。乍海松爾。心者奈疑寐。雖不語　定家卿、大ヨトノ浦ニカリホスミルメタニカスミニタエテカヘルカリカネ

諸云而。倍而顏強借計禮者。壯士

袖沽而。泉郎之刈乾。渡津海之。海松乎相爾而。將停與哉爲流

ツレナシトハ物ニヨクタヘテアルヲ云。ミルハ海松ノ字心カ。
今コソエアハヌトキナリトモ又アフ時ノアラムスルヲマテノ心カ。
土佐日記、オホツカナケフハネノヒカアマナラハウミ松ヲタニヒカマシモノヲ
萬葉第十七、荒ソノ海シホヒシホミチ時ハアレトイツレノ時カワカ戀サラム
源氏ニ、チヒロトモイカテカシラムサタメナクミチシホノノトケカラヌヲ、サタメナキヲタノミニマテカヒアリテアフ事アラムソトヨメル歟。

女返　ナシ（イ）

上同返ヨミ人不知
從磯間生海松目志。顏強者。鹽干鹽滿。貝藻有何

又壯士

續後撰業平
涙爾會。沾乍鹽汗（流乎）世人之。烈城心者。袖之四附歟　此歌貫之家集下不審

余爾相事者難事爾何　女（イ）　（イ）ナシ

○昔二條後宮之。未[1]儲貳妃與申計流時。（貞明親王貞觀十一年二月立爲皇太子）（陽成院）氏神爾詣給計流爾。[2]親衞司爾候計流翁。人人祿賜計流次爾。

從御車賜而讀而奉計流

古今雜業平
[3]大原哉。小鹽山毛。今社者。最事毛。（初（イ））思出覽目

[1]儲貳、後見云、太子副君故謂之儲二（貳）。貳字未詳、貳與宮通乎、又宮之誤乎。

[2]親衞、和名鈔、左右近衞府（當唐羽林、又云親衞）、今案、近衞與親同。

[3]文德實錄第三、仁壽元年二月乙卯、制大原野祭儀、一准梅宮祭。

三代實錄第五、貞觀三年二月廿五日己巳、皇太后向大原野神社奉幣。御車以藤原氏ノ六位以下爲御車從者。同第廿七、貞觀十七年正月十三日從四位下行右馬頭在原朝臣業平爲右近衞權中將。

此時五十余歲ナルベシ、大和物語云、ミクルマノシリヨリ奉リケルヒトヘノ御衣ヲカツケサセ玉ヒケル。

諸云而。心爾毛悲與哉將レ思。如何將レ思不レ知借

舊事紀云、乃使下二天太玉命天兒屋ノ命二ノ神一陪從天忍穗耳ノ尊上以降之時天照太神詔二天兒屋命天太玉命一曰ク惟爾二神亦同侍二殿內一善爲二防護一焉。
大和物語、ムカシヲオホシイテ、オカシトオホシケリ

○昔田邑帝與中。文德天皇山城國葛野郡田邑陵 御門御在計利。其時之女御多賀幾子與中在計利。其疾給而後。御行安祥寺爾而。沽洗之 山科五條后建立見貞觀元年(紀)
晦爾一爲計利。人人之奉集多留捧物。千檠計。木枝爾付而。堂之前爾立多禮者。山師毛更爾。堂前爾動（奉リケリソコハクノサヽケ物ヲ）（有幾多捧物乎(イ)）（爾者(イ)）
出有樣爾何見計流。其乎右大將。藤原[2]常行與中人有計利。講之終間爾。歌讀人人乎食集而。今日之御行
乎題爾而。春之心波江阿流歌奉給爾。右馬頭有計流翁 メハタカヒナカラヨミケル
續後撰業平 選
山皆。迁而今日爾。相事者。春之別乎。問與可レ成
諸讀有計流乎。[4]今見者能毛不レ有計利。最初者。是乎將二勝有一 何賀利計利。 自記乎
○昔多賀幾子與中女御御在計利。疾給而七七日[5]之御態。安祥寺爾而爲計利。右大將藤原常行與中人在計利。 貞觀元年正月二日今有不審 云(イ)
其御態爾詣給而。還樣爾。人人[6]山科禪師親王御坐。爾山科宮爾。瀧落志水走瀨何與爲而。面白被レ造有爾。 人康親王法名法性此時未剃髮如何……
詣給而。年來遠者祇承與。間近者未二祇承一。今夜者此所爾將レ候與申給爾。親王悅給而夜留之御坐之儲作

[1] 疾 文德實錄第二、嘉祥三年秋七月丙子朔甲申、從藤原朝臣多賀幾子等爲二女御一。三代實錄第一云、天安二年十一月十四日辛未、從四位下藤原朝臣多賀幾子卒。多賀幾子者右大臣從二位良相之第一女也、少有雅操、文德天皇仁壽ノ初選入二掖庭一、俄而爲二女御一。二年授二正五位下一、四年進レ爵爲二從四位下一。

[2] 常行、右大臣良相嫡男、貞觀八年十二月十六日任二右大將一。天安二年十一月七日清和天皇御位ニツカセ玉フ日、從五位上ヲ授玉フ。右近衞權少將兼周防權守コレ當官ナリ。今ハ極官ヲカケルナリ。

[3] 涅槃經云、爾時世尊娑羅林下寢二臥寶牀一。於其中夜入第四禪寂然無聲、於是時項便般入涅槃、已其娑羅林東西二雙合爲二一樹一南北二雙合爲二一樹一垂二覆寶牀一蓋二於如來一又大山崩裂。

[4] 今ミレハタケテソノ故アリトハミユレト、僞ニハキコエネハ、カク注セル歟。

[5] 大和物語、ユク人ハソノカミコントイフモノヲ心ホソシヤケフノ別ハコノソノカミハ當時トカケル心ナリ、

[6] 三代實錄第二云、貞觀元年五月丙辰朔七日壬戌、四品彈正尹兼行常陸太守人康親王出家入道、上表曰云云……

[7] タハカルハ只ハカルナリ、
寄ヲタコル、忘ル、ヲタワスルナト、タハヨク物ニソヘテ云詞。日本紀ニ虜ナタハカルトコメリ。コレニオナシ。

[8] 萬葉、默然不有トコトノナクサニイフコトヲキヽシルラクハスクナカリケリ。此モタアラシヲ古點ニナホアシト點セリ。

[9] 三條之御幸、見貞觀八年之紀、年月大有違。

1 三代實録云…右大臣…

2 自毛詩云

3 慈不發、ス、ロ遊伽…

4 鵜茸屋、神代紀下云。

5 左傳注、芽支別屬則各爲レ氏、史記注氏者所以別二子孫之所出一。

6 玉篇云、簿寺林切、竹長千丈生二海畔一。

7 コレハサダカズノミコ、時ノ人中將ノ子トナムイヒケル、アニノ中納言ユキヒラノムスメノハラナリ。

8 侘、貞數延喜十三年マテマシ〳〵タレハ伊勢カ爺ニテアラヌ證ナリ。

世給。彼大將出而議給樣。宮仕之初爾。只直哉者可レ有。三條之御孝養師時。紀伊國千里濱爾在計流。最面白石奉禮利機。幸後奉禮利師賀波。或人之御曹司之前之溝爾居有師乎。嶋好給君也。此石乎將レ奉與（貞觀八年三月廿三日行幸右大臣家…）云而。御隨身舍人師而。取爾遣。幾毛無而用將レ來。此石聞師自者。見者勝有。此乎直爾奉者。可レ蘇與而。人人歌讀給。右馬頭（右大將ノ屬官）在計流人。何。青苔乎刻而。蒔繪之形爾。此歌乎付而奉禮利計流。日（イ）　程（イ）　之（イ）

雖レ不レ飽。石爾會替流。色不レ見。心乎將レ見。由能莫者（繪（イ））

諸何讀〻計流　三代實錄、貞觀十八年三月十三日辛卯、皇子貞數爲二親王一、年二歲、母更衣文子參議太宰權帥在原朝臣行平之女也、又元慶六年二月又仁和三年正月云々。　利（イ）

○昔氏中爾。親王誕生給爾計利。御鵜茸屋爾。皆人々歌讀而奉計利。御外舅有計流翁之讀（業平今年五十二歲）

吾門爾。千色在竹乎。所レ殖者。夏冬誰歟。可レ不レ隱

山海經云、在二崑崙之北一有二岳之山一、簿竹生焉、注簿竹ハ大竹ノ名、博物志異草木部云、此岳山多レ竹長千簿、鳳食二其實一、文選張景陽七命云、簿竹蔣レ葉、蔭二其壑一。

是者貞數親王時人中將子與何云計留兒中納言行平女之腹也（イ本在之）。

貞數親王、淸和第八、母中納言行平女、延喜十三年薨四十二。

○昔男所レ侘家爾。藤花殖有人在計利。彌生晦爾。其日雨曾保零爾。人之許江折而奉與而讀

古今業平

沾乍社。椎而所レ折。年中爾。春者幾日毛。不レ有與思江波

1 源融、嵯峨第十二、母正四位下大原全子、貞觀十四年八月任左大臣、仁和三年從一位、寛平五年輦車、七年八月薨、七十三。
2 應鐘（鍾乎）白虎通云、十月謂之應鍾、何鍾動也、言萬物應物而動下藏也。
3 古今、秋ヲオキテ時ニソアリケレキクノ花ウツロフカラニ色ノマサレハ
ヤトリ木ニ、御前ノキクウツロヒハテテ、サカリナル比空ノケシキノアハレニ打シクルヽニモ又……蜻蛉日記……
4 古今、秋ノツユ色々コトニオケハコソ山ノコノハノチクサナルラメ
5 鹽竈
6 謝
7 孝德天皇詔曰、我日本國譽田天皇之世。
8 惟高親王、文德第一、母正五位下紀靜子、右兵衛督名虎女、承和十一年誕生、貞觀十四年七月十一日出家法名素覺、寛平九年二月廿日薨、春秋五十四、號小野宮。
9 土佐日記ニ、カミナカシモエヒスキテ、イトアヤシク海ノホトリニテアサレアヘル。

河原院六條坊門南萬里小路東八丁

神中第九

○昔左大臣[1]在計利。賀茂河邊六條渡爾（爾乎）。家乎最面白造而住給計利。應鐘[2]之晦。菊花移[3]。江流榮。親王[4]（紅葉乎）達令御坐。一日一夜酒飲爲遊而。夜明以而行程爾。此殿之面白乎。譽歌上中下讀。爾所爾在計流難叟人（乞食カタヰ（和名））。板敷之下爾這行而。人爾皆讀世終而讀流。

（續後拾遺菓平）鹽竈[5]爾。幾時歟將來。朝奈疑爾。釣爲流船者。此爾頼何（○本マヽ、鍋乎）

古今、ミチノク歌、ミチノクハイツクハアレト鹽カマノ浦コク舟ノツナデカナシモ

同貫之、君マサテ煙タエニシシホカマノウラサヒシクモミエワタルカナ

山谷書夾ニ題スル詩、惠崇蘆雁坐二我瀟湘洞庭一欲下呼二扁舟一歸去上。

作者詞

諸何讀計流者。三津國。江往有計流爾。謝[6]面白所所多借計利。（○上二十一之石）吾大王[7]六十餘州之中爾（國乎）。鹽竈與云所爾。似有所無借計利。然者何彼叟人者（更（イ））。此所乎目出而。鹽竈爾幾時將來與者讀計流（利（イ））。

○昔惟高親王[8]與申御子御坐計利。山崎遠有水無瀬爾（與云所（イ））宮在計利。毎年之櫻花榮爾者。其宮江何御坐計流。其時右馬頭有計流人乎（貞觀七年三月右馬頭）。常爾將而御坐計利。時代經而久成爾計禮波。其人之名者摺爾計利（忘也）。狩者懇爾毛不爲。酒乎呑乍倭歌爾懸禮利計利（優ナリ）。今狩爲流片野之奈疑佐院之櫻。殊面白師。其木之本爾下居而。枝乎折而插頭爾挿而。上中下皆歌讀計利。彼右馬頭成計流人之讀

古今集平
世中爾。不絶櫻之。無有者。春之心者。可有閑
諸何讀多利計流。又人歌 諸者共人
忠岑、春ハタ、我ニテ知ヌ花サカリ心ノトケキ人ハアラシナ
續後撰、延喜御製、春風ノフカヌ世ニソニアラマセハ心ノトカニ花ハミテマシ
散者社。痛櫻者。日出多計禮。浮世爾何歟。可久在
可愛、メテタシ(遊仙窟)
古今、ノコリナクチルソメテタキ櫻花アリテ世中ハテノウケレハ
諸讀而。共木本者立而還爾。日没爾成怒。御共有人。酒乎持世而從埜出來。此酒乎將呑與而。潔所乎覓
行爾。流(イ) 天河與云所爾到怒。親王右馬頭御三寸進。親王言計流。片野乎獵而。天河之邊爾到乎題爾而歌乎讀
而。遊者指與言計禮者。彼右馬頭讀而上計流
古今集平
獵夜師。棚機3媛乎 袖中抄 麗爾。屋戸將借。漢河原爾。吾者所來
清少納言ニ、川ハアマノ川、コノ下ニモアナリ、タナハタツメニヤトカラントナリヒラヨミケン、マシテオカシ
親王此歌乎返返頌給而。返得作不給。紀有常 惟高之叔父 御共爾祇承而共返 利イ
上日記有常
一年爾。一度來坐。君成者。奈牛待(イ) 屋門借人毛。不有與社思
萬葉、ワタシモリハヤ舟ヨセヨヒト、セニフタ、ヒキマス君ナラナクニ
同、ヒト、セニ七日ノ夜ノミアフ人ノ戀モツキネハ夜ノフケユクヲ
還而宮爾入世給怒。水無瀬ナリ 至夜更酒飲談志而。主之御子。醉而入給何與爲禮者。十一日之月毛隱何與爲左。彼
右馬頭讀。
古今集平
莫飽。未幾毛月。所隱歟。山末逃而。不入毛有何

1閑、[illegible]

2土佐日記ニ、カクテ舟引ノボルニ渚ノ院トイフ所ヲミツヽ行、ソノ院昔ヲ思ヒヤリテミレハ、オモシロカリケル所ナリ、シリヘナル岡ニハ梅ノ花サケリ、コヽニ人々ノイハク、コレ昔名タカク聞エタル所ナリ。故惟高ノミコノ御トモニ故在原業平ノ中将ノ、世ノ中ニ絶テ櫻ノサカザラハ春ノ心ハノトケカラマシトイフ歌ヨメル所ナリケリ。今興アル人、所ニ似タル歌ヨメリ、千世ヘタル松ニハアレトイニシヘノ聲ノサムサハカハラサリケリ。久アル人ノヨメル、君コヒテ世ヲフル宿ノ梅ノ花昔ノカニソ猶ニホヒケル

3[illegible]、織女タナバタツメ(袖中抄、萬葉)

4土佐日記ニ、今夜月ハ海ニソ入、コレヲミテ業平ノ君ノ、山ノハニケテ入ズモアラナムトイフ歌ナムオホユル、モシ海邊ニテヨマヽシカハ、波立碍テ入ステモアラムト、ヨミテマシヤ。六帖、絶有則、イル月ヲ山ノハニケテ入ズトモ人ノ心ヲイカヾタノマム。萬葉、スハタマニヨワタル月ヲト、メムニ西ノ山ヘニセキモアラナム

親王爾代奉而。紀有常

押並而。峯毛平爾。成 何。山葉無者。月毛不レ入乎

後撰詞書ニ、月夜ニカレコレシテ、ハテノ句カクレジ
六帖ヽカンツケノミ子ヲ、大カタハ峯モタヒラニナリナ、
ム山ノアレハゾ月モカクル、

○昔水無瀨爾通給志。惟高親王。例之狩師爾御坐御共爾。右馬頭有計流翁祇承。日比浚而宮爾還給計利。

[2]御逐爲而。速還何與思爾。[3]御酒賜祿將レ賜左不レ遣計利。此右馬頭心本無賀利而ヽヽヽヽ 此七字無字也

枕左。草彈結。事毛不レ爲。秋之夜常多爾。手飲莫

諸讀計流。時者沽洗之晦成計利。親王毛御殿不レ籠明給而計利。是爲乍參祇承計流乎。思之外爾御櫛尾呂

師給而計利。太簇爾拜將レ上左小野爾詣而有爾。比叡山之麓成者。六出最高。推而御室爾詣而拜奉爾。

徒然與最物金敷而御坐計禮者。良久侍而。古之言何與。思出而聞江計利。然裳候而志哉與思與。公

事在計禮者。得不レ侍。日暮爾還左讀流。

古今業平
忘而者。夢歟與社思。念來哉。雪蹈別而。君乎將レ見與波

諸讀而何泣哭來逃流。

新古今集ニ、世ヲソムキテ小野トイフ所ニスミ侍リケル比、業平朝臣雪ノイトタカウフリテツミタルヲカキワケテマウテキテ、ユメカトゾオモフオモヒキヤトヨミ侍ケルニ、夢カトモ何カオモハムウキ世ヲモソムカザリケムホト

1 沒
2 遂
3 酒 オホミキ(日本紀)。
4 賈島三月晦日贈二劉評事一詩云、三月正當三十日、風光別レ我苦吟身、共レ君今夜不レ須レ睡、未ノ到ニ曉鐘ニ猶是春。
5 三代實錄、貞觀十四年七月十一日己卯、四品守彈正尹惟喬親王寢疾、頓出家爲二沙門一云々。此時御年二十九。法名算延豪。文章ニ御出家ノ後封戸ヲ辭シ玉フ表三通有、三代實錄ニ勅答並ニ御答二首アリ。
6 豈期(オモヒキヤ日本紀)定家卿、夢カトモ里ノ名ノミヤノコルラム雪モアトナキヲノヽカキヒテ

ソクヤシキ、有不審。櫻花チラハチラナム散ストテ故里人ノキテモミナクニ、白雲ノタエスタナビク岑ニタニスメハ住メル世ニコソ有ケレ、トヽモニ古今惟高ノ御歌ナリ。新古今ノ御返歌コレニハオトレリ。

○昔男在計利。身者乍レ賤母何内親王有計流。其母長岡與云所爾住給計利。子者京爾宮仕爲計禮波。詣與爲計禮與。數毛得不レ詣。一子爾副在計禮者。最惜久爲給計利。然爾大呂計爾。富之言左御文在。驚而見波

古今雜 所老者。不レ去別之。在與云者。彌見卷。欲君哉

カノ子イタウウチナキテヨメル

諸在計利。其乎見而。焉爾毛乘不レ合。甚痛打涙而。道尚思計流 スラ(萬)讀(イ)

枕草子ニ、マタナリヒラガ母ノ宮ノイヨ〳〵ミマクトノタマヘルイミジウアハレニオカシ、ヒキアケテミタリケンコソオモヒヤラレ

世中爾。不レ去別之。莫毛哉。千世藻常爾。人之子廼故

○昔男在計利。從レ童祇承君。惟高 御串下給而計利。大簇爾者必詣計利。公之宮仕爲計禮波。恒爾波得不レ詣。然而本之心乎不レ失詣計流爾。。昔祇承志人之。何有計流(イ) 俗有禪師有。多參集而。親月成者言立左。御神酒賜計利。如レ是間爾。雪落之如零而終日爾不レ停。皆人醉而。雪爾零被レ籠有爾云乎題與而。歌讀計利。

1 萬葉第六、市原王ノ悲獨子ニ、コトヽハヌ、木スラ、イモトセ有トイフヲ、タヾ獨子ニアレカクルシキ、同第九、遣使ノ母ノヨメルニ、秋ハギヲ、ツマトフカコソ、ヒトリゴニ、コモタリトイヘ、カコジモノ、ワカヒトリゴノ、草マクラ、タビニシユケバ、伊勢物語ニ、ミヤス所トキコユル御ツボネニ、ヤマトニオヤノルヒトサラヒケリ、オヤイトカナシウシテヲトコナトモアハセサリケルヲ

2 古今雜體長歌、身ノイヤシクテ年タカキコトノワヒシサ、伊豆内親王、桓武天皇第八皇女、貞觀三年九月十九日薨。三代實錄ニ、六、業平者故四品阿保親王第五之子、正三位中納言行平之弟也。阿保親王娶桓武天皇女伊豆内親王一生業平一

3 大呂 白虎通云、十二月律謂之大呂、呂者拒也。言陽氣欲出陰不レ許也、呂之爲レ言拒者旅抑拒難之也。

4 古今ノ中ニ、アケテミレバ、コトバハナクテ有ケルウタ。

5 サラヌハ、不避ニテ、サリノガルヽコトノナラヌ死別ノアルヲイヘリ。竹取物語ニ、此月ノ十五日ニカノモトノクニヨリムカヘニ人々マウデコムズ、

サラズハ、マカリスベケレバ、オボシナケカンガカナシキコトヲ。顧集、河風ハサランカタナ

ミ山吹ノチリ行水ヲセキヤトメマシ、又道モサリアヘズナトヨメル、サルモ同ジ心也。

6 親月 コトダツハ、コトノハジメナレハトイフホトノ心ナル

7 玉篇 傾盆大雨

8 貫之集、君ヲシム心ノソラニカヨヘハヤケフトマルヘク雨ノフルラム

古今上句篤行歌[1]
雖レ思。身乎志不レ別者。目。所レ離。雪之積社。吾情在（不乎）（上ニアカネトモト云五文字ニ同シ）（トムル（六帖））
諸讀。計禮者。親王最痛憐借給而。御衣貫而賜利計利（利（イ））

○昔最若男。若女乎會與云利計利。各母在計禮波。裹而云殘而病爾計利。年來經而女之許自。（方（イ）ニ）尙此事終與（コヽロザシハ）
（タサムトヤオモヒケム）云計禮者。壯士歌乎讀而遣計流。如何將レ思。

新古今ヨミ人不知
今左右手。不レ忘人者。世爾毛不レ有。己之樣樣。年之所レ經者（本（イ））
（テヤミニケリ　モ女モ）諸云而。男尙相不レ分宮仕爾何出爾計流（停爾計利夫毛女毛（イ））

昔男。攝津國菟原郡葦屋鄕爾。所レ知在而往而栖計利。往古之歌。
新古今業平不審
葦之屋廼。浪渡之鹽燒。遑波。黃楊小櫛毛。不レ差所レ來（寢爾計利（イ））
萬葉、シカノアマノメカリシホヤキイトマナミクシケノ小櫛トリモミナクニ

諸讀計流者。此鄕乎讀計流成計利。此所乎何葦屋浪渡與者云計流。此夫生宮仕爲計禮者。其乎（是（イ））便爾而。衞[2]府佐友雲集來爾計利。此夫之兄毛衞府督在計利。其家（業平ノ家）前之海邊爾遊行（アリキ）而。率[3]此山之上爾在與云。布引瀧見爾將レ躍[4]與云而昇而見爾。其瀧物自毛異也。高二十丈。廣五丈許在石之面爾（者（イ））。白絹爾石（イハ）乎將レ裹樣爾何在計流。然瀧之源爾。茵[5]之大佐爲而指出有石在。其石爾走懸水者（小字）。柑[6]子栗（計（イ））大左落下。爾所有人爾皆

1 末摘花卷、初ニ思ヘトモ猶アカサリシ夕貌ノ露ワスレ玉ハス。古今、イカコノアツユキ、思ヘトモ身ヲシワケネハメニミエヌ心ヲ君ニタクヘテソヤル。後撰、身ヲ分ルコトノカタサニマスカヽミカケ斗ヲソ君ニソヘツル　句兵部卿巻ニ、イカデ身ヲワケテシガナトオホエ玉ヒケリ。朱陸放翁梅詩云、何方可レ化ニ身千億一。一樹梅花一放翁上

2 衞府佐、左右衞門佐、左右兵衞佐ナドノ人ナルヘシ。行平、貞觀六年三月左兵衞督、同十四年八月左衞門督、此時五十五歲。

3 率此山、昔ヨリ沙山トイヘル一說アリ、夫木山部。後九條内大臣　アシノヤノイサコノ山ノ水上ヲノホリテミレバ布引ノタキ又……眞木柱卷、モノヨリコトニハナヤカナル御ウシロミ、初音、ミスノ内ノオヒ風ナマメカシク吹ニ、ホハシテ物ヨリコトニケタカクオホサル。

4 躍

5 茵　和名集云。圓座（和名和良布太）。

6 三代實錄四十九云、太宰府例貢小柑子六々。性靈集ニ、獻ニ柑子ニ表曰小柑子小六櫃、大柑子四小櫃云々。

瀧歌令レ讀。彼衛府督先讀

新古今行平　吾世姑。今日歟明歟與。待鹿之。浪渡之瀧與。何將レ降　（涙也）

主次讀　萬葉、白玉モメニヤ違ケン思ヒツ、ヒトヘノ衣ヲヒトリキテヌル　同、天原フリサケミレハ白マ弓ハリテカケタル夜道ハヨケム

古今、此人此瀧ヲ、コキチラス瀧ノ白玉ヒロヒ置テ世ノウキ時ノ涙ニソカル　又コト時ニノホラレケルニヤ。定家卿、布引ノ瀧ニ袂ヲアラソヒテワカ年ナミノイヅレタカケム　タカケムハ、高カラムトイフ心ナリ。

古今業平　貫亂人社有羅師。白玉之。間無藻散歟。袖之狹丹　（叢也）

後撰、瀧ツセニ誰シラ玉ヲミタリケンヒロフトセシニ袖ハトチニキ　拾遺、ナヤレクル瀧ノ糸コソヨハカラシヌケトミタレテオツル白玉

諸讀利計禮者。諸之人。笑言丹哉將レ在。此歌爾日出乍停爾計利。還來道遠而。疾丹志宮内卿茂能之家廼前來爾日沒。宿之方乎見遣者。泉郎之伊佐利-火多所レ見爾。（爲漁（イ））彼主之夫讀

後京極、イサリ火ノ昔ノヒカリホノミエテアヤシノ里ニトブホタルカナ　定家卿、アシノヤニ螢ヤマガフアマヤタク思ヒモコヒモヨルハモエツヽ　菅家、花カアラヌカ浪ノヨスルカ、齋宮、夢カウツヽカネテカサメテカ

新古今業平　晴流夜之。星歟河邊之。螢鴨。吾住方之。泉郎燒火歟

諸讀而家爾還所レ來。其夜南風吹而波殿盧最高。（ナゴロカ）晨而其家之女兒友出而。浮海松之浪爾被レ寄有乎拾而。（和名抄）家之裏江持來。（ヘニ）女之方自。其海松乎高坏爾盛而。（和名鈔）柏石覆而出有。其石爾書

萬葉第十六、所聞多禰乃。机之嶋能。小螺乎。伊拾持來而。辛鹽爾古胡登毛美。高坏爾盛

六帖　渡津海之。挿頭爾差與。齋藻裳。君之故爾者。不レ惜計利

古今、ワタツミノカサシニサセル白妙ノ浪モテユヘルアハチシマ山

1 カヒハ、アヒト通ス、間ナリ。貫之集、ヤミオキテケフカアスカト待ホトノ折フシシルハ涙ナリケリ　ワヒ人ノ袖ヲヤカレル山川ノナミタノゴトモオツル瀧　叢

2 探題式、其泉、コノマヨリミユルハ谷ノ螢カモイサクノアマノ海邊コクカモ

3 左傳、晉趙旃對楚子曰、其波及晉者君之餘也。（遠）萬葉ニ、餘波トカキテナゴリトヨメリ、ナゴロトヨメル歌モアリ。

4 續日本紀、攝津國御津、南風大吹潮水暴溢。定家卿、コノ比ノ南ノ風ニウキミルノヨル／＼涼シアシノヤノ里

5 ワタツミ　海若、（同）海童、（同）海神

1 柳宗元詩云、皇恩若許二歸田去一晩歳當爲二田舍翁一。（談叢）
2 夜景
3 匂 菅家萬葉。今案、倭字ナリ。
4 夜景

田舍人之歌爾。者。而(イ) 餘禮利乎。不レ足乎

○昔最稚人爾一不有。此彼朋友鞆雲集而。夜景乎見而其中爾一人 業平

古今業平
大方之。月面不二目出一。是曾此。積者人之。老與成物

月ツモリテ年トナリ年ツモリテ老トナル、四十歳ニモアマラレケル時、ヨマレタルナルベシ。

○昔不レ賤男。吾自者所レ勝人乎思懸而。勝(イ) 年歴計流。

新續古今業平
人不知。吾戀死者。味氣無。何所之神爾。レ(イ) 無名將レ負

萬葉十四、ワキモコニアガコヒシナバソワヘカモカメニオホセンコ、ロシラスナ
古今、コヒシナハタカ名ハタ、シ世中ノツネナキモノトイヒハナストモ

○昔男。須強人乎如何與思計禮波。有 何與哉將レ思然有。者 明物越爾而。毛(イ) 物將レ云與云利計流乎。無レ限嬉賀流。

復猶借計禮者。面白借計流櫻爾付而

櫻花。今日社右毛。匂覽目。穴手飲難。明日之代言 事也

諸云心歯得毛可レ有。

義訓 同
昔夜景火精之行乎副難心男。沽洗之晦一爾

後撰ヨミ人不知
雖レ惜。春之極廼。今日之。（後撰） 夕暮爾副。成爾計流哉 詞歌共ニ副ノ字ニ心ヲツクヘシ。

聞知人毛無乎

1 キツヽカヘレトハ、ミマクホシサニイサナハレツヽトヨメル心ナリ。

2 樴

3 ニナキハ、不似ナリ。萬葉ニ、シラヌヲシラナク、イハヌヲ、イハナクトヨメル、皆不ノ字ナリ。イヤシキ人ニ似ツカネハ、タフトキ人ナリ。

4 隨分、朗詠管絃、隨分管絃還自足等閑篇詠被二人知一（菅孝標）此隨分ノイ點ナフサ〳〵トモアリ。文集三十四、重答二劉和州一。

5 此女ハ右大臣良相女、染殿内侍トテ、滋春カ母ナレハ、子アル中トハイヘリ、後ノ男ハ大和物語ニ見エタリ。後ノ近院右大臣能有、文德天皇御子ナリ。大和物語ニ、ソメトノヽ内侍トイフイマスカリケリ、ソレヲヨシアリノオトヾトカケルナム時々スミ給ヒケル、物ヲヨクシ玉ヒケレハ、御ソドモヲナムアヅケサセ給ヒケルニ○在中將スマズナリテ後、中將ノモトヨリキヌヲナムシニオコセタリケル、ソレニアラハヒナトスル人ナクテ、イトワヒシクナムアル、ナホカナラスシテタマヘトナム有ケレバ、云々

6 齋宮女御、人ヲ猶ウラミツヘシヤ都鳥アリヤトタニモトフヲキカネハ

○昔戀佐爾來年還與。女爾消息乎多爾得不レ爲讀　古今、ホリエコク棚無小舟コキカヘリ同シ人ニヤ戀ワタリナム

葦部樴。棚無小船。幾每。行還覽。知人藻波

○昔男。身者賤而。最高人乎思。計利。少毛可二所手飮一樣爾不レ有哉將レ有。臥而思。起而思。侘而讀。

隨分。思者可レ爲名風無。高　賤。苦雁計利　萬葉、我宿ニマキシナデシコイツシカモ花ニサカナムナソヘツヽミム

昔毛如レ是言者。世之理仁哉將レ在　イ本在レ之。

○昔男女在計利。如何將レ在。其夫不レ往成迯里。後爾夫在計禮與。子在中成計禮波。細爾社雖レ不レ有。時時物謂遣計利。女之方爾圖繪人成計禮波。扇爾圖遣利計流乎。今夫之物作左。一日二日不レ遣計利。彼夫最面苦而。自之紀古由流言乎者。至レ今爲而不レ賜者。理與思與。浦見津邊幾物爾何在計流左。讀而遣計流。

時者秋爾何在計禮波

秋夜者。春日忘留。物成者。霞爾霧哉。立勝留覽

諾何讀利計。禮波返　女

7 ロウシテハ、弄シテ也、モテアソブナレハナブル心ナリ。

賢木巻ニ、イトサラニカロメロウゼラル、ニコソハトオホシナスニ。

蜻蛉日記ニ、ヨロコヒオコスル人モカヘリテハロウスル心チシテ。

千千之秋。一之春爾。向目哉。黄葉毛花毛。共社散（詫有 業平）

○昔二條後宮爾祇承男在計利。女之祇承計流乎。常爾見通而夜這渡計利。如何而物越爾而毛。（敗(イ)）對面志而

鬱悒思短有言。少晴借與云計禮者。女最偲而物越爾相爾計利。物語何與志而夫（萬葉同）

彦星爾。今夜者所勝。漢河。隔留塞乎。今者欲レ停（隠イ）

此歌爾目出而會爾計利。

○昔男在計利。女乎左右云事恒娥火精經爾計利。石木爾師不レ利者。心苦與哉將レ思。漸思付爾計利。（東屋ニアハレナルミ心サマヲイハキナラネハオモホシシル）（哀與 思計利(イ)）

其近林鐘之望計成計禮者。女之身爾。風疱毛一二出有計禮波。女之云遣有計流。今者何心毛無。身爾瘡毛（望(イ)）（キニケリ）

（望月(毛知都岐)和名モチトミチハ通ス月ノ滿スルナル 小瘡ナルヘシ）（古今タエス行アスカノ川ノヨトミナ）

一二出有。辰毛最日赤。少飽風吹立何後爾。必將レ會與云利計利。飽待近爾。此所彼所自口舌出來。（ハ心アリトヤ人ノ思ハム）（聞(イ)）（スナリトクセチイテキニ）

爾人者其人之許江往何與云訇訇計利。然計禮波。此女之背人。卒爾迎爾來計禮波。此女萓手之初黄葉乎拾

世而。歌乎讀而書付而遣多利（置(イ)）

曾丹集、下モミチ秋モコナクニ色付ハテル夏ノ日ニコカレタルカモ

後拾遺、下モミチヒトハツ、チル夏山ニ秋トオホユルセミノ聲カナ

近者ヲチカゴロトヨメハソノ略乎。

10 曹子建七啓近者。

訇訇、字彙云、萓手大聲。萓手 和名鈔云。

1 大和物語、近江右大臣モ時々スミ給ヒケリ。

2 思短

3 文選古詩云、河漢清且淺、相去復幾許、盈々一水間、脈々不レ得レ語。同謝惠連、七夕詩、迢川阻二暱愛一、修渚曠二清容一。遊仙窟曰、如今寸步阻二天津一。萬葉、久カタノ天ノシルシト天川ヘタテヽオキシ神代ノウラミ

4 文選司馬遷書、身非二木石一、獨與二法吏一爲レ伍。鮑照行路難云、心非二木石一豈無レ感。白氏文集、人非二木石一皆有レ情、不レ如不レ遇二傾城色一。(遂)遊仙窟、心非二木石一豈忘二深恩一。

5 林鐘(鐘乎)白虎通云、六月謂二之林鐘一何林者衆也。萬物成熟種類衆多也

6 風疱

7 望、釋名云、望月(和名毛知都岐)月大ナレハ十六日、小ナレハ十五日、日在レ東月在レ西遙相望。

8 淮南子、鳴者、アツヤミスルハ望二涼風一于秋。曾舟集、セミノ羽ノウスラ衣ニナリシヨリイモトヌル夜ノマトホナルカナ ウトマネト誰モアセコキ夏ナレハマトホニヌトヤ心ヘタテム

毛詩云、匪二我愆一レ期子無二良媒一將子無レ怒、秋以爲レ期。

9 近ヲ、コロヲヒトヨメルハ

新勅ヨミ人不知
飽懸而。年去毛。莫有。木葉零敷。緣[1]爾社在計禮

細字言(イ)
諸書道而。彼所自人遣者。是乎被遣左去。已上(イ)[2]然而。遂爾至今不知善哉在覽惡哉在覽。往志所毛不知。後(イ)

彼夫者天之逆手[3]打而何兕居計流成。無苦津氣幾言。人之咀詞者負物似哉在覽。不負物似哉在覽。今社者見目與社云成。

新勅撰、俊成、イカニセムアマノサカテヲ打カヘシ恨テモ猶アカスモアル哉
此歌海人ノ逆手ノ說ニヨリテヨメリ。古今、エソシラヌ今心ミヨ命アラハ我ヤワスル、人ヤトハヌト、萬葉、マスラヲノ思ヒワヒツ、アマタタヒナケク歎キヲオハヌモノカモ

○昔堀河太政大臣與申在計利。四十賀九條殿爾而被為計流爾、日中將在計流翁
宅(イ)　天慶元年中將　業平十九年任中將不審

昭宣公基經、貞觀十四年八月廿五日任右大臣左大將、三十七歲同十七年春四十歲、同十八年攝政

古今賀
櫻花。散峽陰。老口之。將來與云成。路迷賀爾
シカラハト云詞ヲ入レテ見ベシ　敷也

○昔太政大臣與聞流御坐計利。祇承夫。無射[6]爾梅之作枝爾雉乎付而奉
良房[5]　櫻(イ)[7]　與而(イ)

古今左註、アル人ノイハク、此歌ハサキノオホキオホイマウチキミノナリ。六帖カタミノ題ニテ君カカタミトアリ。

古今ヨミ人不知
和吾手飲。君之故爾與所折者。辰下不分。物爾社有計流
カギリナキ(古今)　花(イ)　待(イ)

諸讀而奉有計禮波。最賢笑借給而。使爾祿賜利計利。

○昔右近馬場之射禮[8]日。向爾立為計流車爾。女之顏𦣪。帷裳自側爾見計禮波。中將成計流翁
義訓　ナシ
オトコノヨミテヤリケル
業平貞觀六年三月右少將、七年右馬頭、十九年四月左中將

1 後撰ニ、只女カハスハカリニテ年ヘ侍ケル人ニツカハシケル。水鳥ノハカナキアトニ年ヲヘテカヨフハカリノ江ニコソアリケレ

2 事負十二、傳道ニ妹ニアハムト朝露ノ命ハイケリコヒハシケヽト　同、ワカ故ニイタクナワビソ後遂ニアハシトイヒシコトモアラナクニ

3 一修[illegible]出雜說、神代紀下云、海神因教之曰、以此鉤與汝兄時、則陰[illegible]貧鉤滅鉤落薄鉤[illegible]與之、勿以向授。[illegible]說、舊事記第三、經津主[illegible]大己貴神曰[illegible]時事代主[illegible]其父曰○[illegible]八重蒼柴籬[illegible]打而青[illegible]

4 古事記上、同段曰、卽蹈其船而天逆手矣、於青柴垣打成而隱也。古今集、老ラクノコントシリセハ門サシテナシトコタヘテアハサラマシヲ　六帖、櫻花ケフチリクモレアカスシテワカルヽヒトモ立トマルヘク

5 良房、天安元年二月太政大臣、五十一、四月九日從一位、二年十一月攝政、貞觀十四年九月二日薨六十六。諡忠仁公、以美濃國封之。

6 無射、白虎通云、九月謂之無射、何、射者終也。言萬物隨陽而終也。當復隨陰起、無有終已也。

7 夫木第三、家集中、右馬頭保昌朝臣ノモトニ紅梅ノ枝ニキシヲツケテオクルトテ　祭主輔親　春ノ野ノキヽスノ羽風アフケトモネクラノ梅ハチラスソアリケル　返シ保昌朝臣　鶯ノネクラノ梅トキクモノヲトリタカヘタル心チコソスレ

8 射禮、ヒヲリノ日ノ事、袖中抄ニ委シ。

[1] 淸少納言ニ云、オホツカナキ物、人ノカホシラヌ物見。

[2] 指南、古今註。越裳氏來貢歸忘ニ其路一周公與ニ指南車ニ至ニ其國一轄鐵鎖盡、指南車ハ今世ノ磁針ノ類ナリ。(諺)

東京賦、幸見レ指ニ南於吾子一。

導者(シルヘ、日本紀)。

[3] 迫、谷(ハサマ日本紀)。

[4] 大和物語云、在中將内ニサフラフニ、ミヤス所ノ御方ヨリ忘草ヲコレハ何トカイフトテ給ヘリケレハ、中將今ノゴトシトナム有ケル。同シ草ヲシノブ草忘草トモイヘハ、ソレニヨリテナム讀タリケル。

[5] 行平、貞觀六年左兵衞督。

[6] 美旨酒、離婁ニ禹惡ニ旨酒一好ニ善言一(五東)

[7] 良近、大宰員外帥、正三位、吉野、第四子貞觀十六年左中辨。

[8] 情

[9] 古今詞書ニ、染殿ノ后ノオマヘニ花カメニ櫻花ヲサヽセ玉ヘルヲミテヨメル。

淸少納言ニ、面白ク咲タル櫻ヲ長クオリテ、オホキナル花カメニサシタルコソオカシケレ。

[10] 蘂、字彙云、音榮說文、蘂草木實纍々タル也。文選丘希範詩云、藤垂レ嶋易レ陟

淸少納言ニ、木ノ花ハ○藤ノ花ノシナヒナカク色ヨクサキタル、イトメデタシ。

萬葉ニ、イサナミニ今モミテシカ秋ハキノシナヒニアラム妹カスガタヲ

古今 業平

見爲毛不レ有。見裳[1]不レ爲人之。戀敷者。文無今日哉。長目將レ沒

女返

上同 ヨミ人不知

知不レ知。何歟文無。別而將レ云。思耳社。[2]南指成計禮 菅萬(同) 下上歟

大和物語ニハ、左中將物見ニ出テ、女ノヨシ有車ノモトニタテリ、下スタレノハザマヨリ此女ノカホイトヨクミテケリ、物ナトイヒカハシケリ、コレモカレモ歸リテアシタニヨミテヤリケル。ミスモアラズ：：トアレハ、女カヘシ、見モミズモ誰ト知テカ戀ラルヽ、オホツカナミノケフノナカメヤ　カクハアレト此物語幷ニ古今集ニ過ヘカラス。

後者誰與知爾計利。

○昔男。後涼殿之[3]迫乎渡計禮者。(淸涼殿後ノ北方依テ號ス) 或貴人之御局從。[4]萱草乎。忍草乃哉云與而。出佐世給計禮波賜而

忘草。生野邊與波。見覽目與。是者忍也。後毛將レ手飮一

○昔[5]左兵衞督在計流。(衞門(イ)) 在原行平與云人在計利。其人之家爾[6]美旨酒在與聞而。上爾在計流左中辨藤原[7]良近與云人乎何。其日客眞爾而其日者。主儲爲多利。[8]情在人爾而。[9]瓶爾花乎插多利。其花之中爾。文敷藤花在計利。花[10]蘂三尺余何在計流。(六寸ハカリ)(六寸行(イ)) 其乎題爾而歌讀。讀終方爾。主之朋比有主之儲爲給與聞而來計禮波。捕而讀世計流。自レ本歌之詞不レ知計禮者。撲計禮與。推而讀世計禮波是何

玉葉 業平

咲花之。下爾所レ隱。人多。在志爾增。藤之影鴨

忠仁公

何是志毛讀與云計禮者。太政大臣之蜻蛉榮爾御在而。（1 蜻蛉葉之裏葉（イ））藤氏之殊爾榮乎思而讀與何云計流。皆人不鳴成（2 義）爾計流。

○昔男在計利。歌者得不讀計禮與。世乎少思知多利計流。（利（イ））高貴在女之尼爾成而。（齋宮元慶元歸京）世中乎思入禮而。（3 ウンジ）花城爾毛不有。遙在山家爾住計利。本氏族成計禮波。（與（イ））讀而遣計流。

新後拾葉平
4 僻左。雲爾者不乘。魂在常。世之浮事社。空爾成云。トナムイヒヤリケル齋宮ノ宮ナリ。

莊子曰、藐姑射之山有神人居焉、肌膚若氷雪、綽約若處子、不食五穀、吸風飲露、乘雲氣、御飛龍、而遊乎四海之外。

○昔男在計利。最儼5爾實用爾而。（要也）化在心無計利。深草帝6爾何祗承計流。（業平廿五六歲）心慾哉將爲。親王達之仕給計流人乎。會云計利。然7（覺乎）

古今業平
寢宿夜之。努乎墓無見覽者。彌墓無毛。成勝哉

諸何讀而遣計流。然歌之穢無氣佐介。（自記卑下詞）

○昔異在事無而。尼爾成計流人在計利。（禱利）貌乎志有望8。（雖乎）物哉由賀志借計無。賀茂祭見爾出有乎。（四月中酉）（計流）夫歌讀而遣9

1 蜻蛉ヲ、萬葉ニカクロフトヨメリ。久堅ヲモカケロフトヨメルハ、常ニハサカユレトモ、タニハオトロヘル心ニテ、蜻蛉ヲエイグワトヨメルニヤ。大戴禮、夏小正曰、蜉蝣ハ朝生暮死。爾雅云、蜉蝣渠略ナリ、郭璞註云、似蛣蜣ノ身狹而長有角、叢生糞土中、朝生夕死、陸璣疏曰、通謂之渠略、似甲蟲有角大如指、長三四寸甲下有翅能飛、夏月陰雨時出、白樂天詩云、長生無得者、擧世如蜉蝣。文選、拜石駮賦云、朝爲榮華夕爲□□（朝）世ヲスコシ、此詞ヲミルニ、歌ヨマン人ハ世ノコトワリヲ知ヘキ事トミユ、心ヲツクヘシ。

2 鳴

3 ウンジハ、クンシテト同音通、クンハ屈ナリ。竹取物語ニ、オイラカニアタリヨリタニナアリキソトヤハノ玉ハヌト、イヒテ、ウンシテミナカヘリヌ。

4 僻、字彙云、升同、淮南子分流僻馳ニ、又鑿夷臥以足向ト内曰僻。

5 儼

6 仁明天皇、諱正良、嵯峨第二皇子、在位十七年、嘉祥三年三月廿一日崩、同廿四日葬深草山。

7 睡（マトロム遊仙窟）寤人ニアヒテアシタニツカハシケル、古今詞書

8 望

9 イサメテヨメル歟、又ハ戀想シテヨメルカ。

1 眴、史記項羽本紀、須臾梁眴ニ籍。師古云、眴音舜、動レ目而使レ之也、眹亦同、以レ目使レ人也、公羊傳文公七年、眹ニ晉大夫一、楚辭九歌云、滿堂兮、美人忽獨與レ余兮目成。王逸註云。獨與レ我睨而相視成ニ爲親々一也。

若菜上ニ、人々メヲクハセツヽ、アマリナル御オモヒヤリカナトイフヘシ。後拾遺、アサリスルアマノスミカヲソコナリトユメイフナトヤメヲクハセケン、後撰、世ノ中ヲイトヒテアマノ住カヽモウキメノミコソミエワタリケレ

2 金露ハ秋ノ氣ニテ色白シ、金ハ猶秋露トイハムガ如シ

3 輕無禮（ナメケ）孝德紀。（ナメシ）萬葉。

4 詩經白駒篇云、所謂伊ノ人於レ焉逍遙。

5 華陽志云、蜀時濯ニ錦於流江中一則鮮明也。准周益列志云、成都織錦、濯ニ於江水一、其文分明、勝ニ於初成一、他水濯レ之不レ如ニ江水一。後撰、紅葉ノナカルヽ秋ハ川コトニ錦アラフト人ヤミルラム。

後京極、コレモ又神代モキカヌ立田川月ノ氷ニ水クヽルトハ、定家、芳野川タキツカフチノ春風ニ神代モキカヌ花ソミナキル

6 敏行、貞觀九年小内記、十二年任大内記、従四位下、富士丸男、母紀名虎女。

7 斧、幹歟、日本紀幹、軌制、明直共ニヲサ〳〵シ。

左傳、治同長ヲヲサトヨメハ、オトナシキ心ナリ。

萬葉第十四、東歌、トヤノ野ニヲサキ子ラハリヲサ〳〵モネナヘコユエニハヽニコロハエ

世乎海之。泉郎與志人乎。乍レ見爾。眴世余。毛所ニ手飲一哉

是者齋宮之。物見給計流車爾。是聞多利計禮波。見フ殘而返給爾計利與何

〇昔男右而者可レ死與云遣多利計禮波。女

新千秋家持又家持家集

金露者。消勿者消勿何。不レ消與而。玉爾可レ貫人毛不レ有乎

トイヘリケレバ、イトナメシトオモヒケレド、心サシハイヤマサリケリ。

家持ノコロノ歌トハミエス、古今、萩ノ花玉ニヌカントトレハケヌヨシミム人ハ枝ナガラミヨ。又コレタカノミコノ御歌、櫻花チラハチラナムチラストテ古郷人ノキテモミナクニ、此歌ノツヽキニ似タリ。

〇昔男親王達之逍遙爲給所爾參而。龍田河之頭爾而

古今詞書ニハ、二條后ノ東宮ノミヤス所ト申シケル時ニ、御屛風ニ龍田河ニ紅葉ナカレタルカタヲカケリケルヲ題ニテ、素性法師、紅葉ハノナカレテトマルミナトニハ紅フカキ浪ヤタツラム、トイフ歌ノ項ニ此歌アリ、集ハ實錄ニテ、コ、ハカクツクレルナルベシ。

古今秋業平

千磐破。神代毛不レ聞。龍田河。唐紅爾。水通與波

〇昔高貴成男在計利。其夫之許有計流人乎。裏爾有計流内記有計流。藤原敏行與云人夜這計利。然與未稚計禮者。文毛不レ轄。況哉。歌者獲不讀計禮者。此主有人。案乎書而書世而遣計利。可レ愛迷計利。然男讀

徒然之。（古今徽行　六帖雨又涙川）[1] 長雨爾倍。涙河。袖耳沾而。（ヌレテ(古)）會夜志毛無

返　例　男。女爾代而

淺水社。袖者漬覽日。涙河。身副流與。聞者將レ特

諸云計禮者。壯士最痛可レ愛而。文筥（祕藏也）爾入而用行而何云有。夫文乎遣多利。得而後之事成計利。雨零怒可

爾何。身佗（見也）侍怒流。身有レ德者。[2] 此雨者不レ零與云計禮波。例之夫。女爾代而讀而。（令乎）遣

六帖、天原ナルカミイカニ思フラムケフハ身ヲ知雨トコソフレ

伊勢集、カタミニモ身ヲ知雨ノフリシカナ我モセキアヘス君モコシカハ

[3]（古今業平）數數爾。思不レ念。問難美。身乎知雨者。零社所レ倍

（無字(イ)）諸讀而遣利計禮者。簑。笠毛不二取敢一。志土土爾沾而迷來爾計利

萬葉、春雨ニシト、ニスレテ呼子鳥三舟ノ山ニ鳴ワタルミユ

六帖、貫之、春雨ニシト、ニ袖ヲヌラシツ、君ガタメトソワカナツミツル

○昔　女。人之心乎怨而

（新古今貫之又貫之集）風吹者。不止爾浪越。（萬同）磐成哉。（イソ(古、又集)）[4] 吾衣手之。乾辰無

諸常之言種爾云計流乎。聞居計流（及(イ)）壯士

[5] 每レ宵。蝦蟇津數。唱谷者。（田也）水社倍。（源也）雨者雖レ不レ零

1 涙、ツレノ\ノツラノ\ト讀ス、ツラノ\ハ萬葉ノ字ニテ、今ハウツフウツラト云ル、下同シ、萬葉ニ、ツラノ\椿ツラノ\ニトヨメルモ是ナリ。古今集ニ、業平朝臣ノ家ニ侍リケル女ノモトニヨミテツカハシケル。搜神記、韓憑妻、其雨淫々、河大水深、日出當心、既而王得其書、以示左右、左右莫解其意、臣蘇賀對曰、其雨淫々、言愁且思也、河大水深ハ不レ得往來也。

六帖、ツレノ\トナトカ涙ノナカルラン人ナムワレヲ思フトモナク、ツレノ\トモノミヒチテ春ノ日ノナカメハ春ニサリケリ、千鳥、、ハ春雨ノ、ツレノ\トフル春雨ハ人ノ心ノ中ヤフラム、春ノホモ、涙ウキテイフナルカルウサホサへヤ我ヲハ人ノサカルマサルラムヤ人ヲ源氏、アサミニヤ人ノツタ我方ハサモソホツマテリフカキ袂ヲ

2 德

3 古今集ニ、業平ノ朝臣ノ家ニ侍リケル女ノモトニヨミテツカハシケル、ツレノ\トナカメニマサル涙川ソテノミヒチテアフヨシモナシ、此返シ、女ニカハリテ、在原業平朝臣

4 拾遺集、ミルメカルアマトハナシニ君ニフル我衣手ノカハクトキナキ。新拾遺闕ミ、白露ノオキフシタレヲ戀ツラム我ハキ□□□□イソノカミニテ

5 此返詞ニエカラス心ヲ得テヨメリ。

1 昔ニ、櫻ヲウヱテ有ケルニ、ヤウヤク花サキヌヘキ時ニカノウヱケル人身マカリニケレハ、ソノ花ヲミテヨメル。

2 ヒトタマヲ見タル時、下ガヘノツマヲ結ヒテマシナフ事アリ。吉備大臣ノ歌トテイヒツタヘタルハ、玉ハミツヌシハタレトモシラネトモムスヒソトムル下カヘノツマ
古今 アカサリシ袖ノウチニヤ人ニケン我タマシヒノナキ心チスル
新勅、道綱、夫ノツマモ結バヌ玉ノヲノタエミタエズミ世ヲヤツクサム
貫之、アクカルヽソガ玉シヒモカヘリナム思フアタリニムスヒトヾメヨ

3 後撰、人コトハ誠ナリケリ下ヒモノトケヌニシルキ心ト思ヘハ
同、結ヒ置シ我下紐ノ今迄ニトケヌハ人ノコヒヌナリケリ
後拾遺、オモフランシルシタニナキ下紐ニ心斗ノイカテトクヘキ

○昔男。朋友之。人乎所レ疾之許江遣計流
古今哀傷　紀モチユキ
1 從レ花毛。人社化爾。成爾計禮。幾乎前爾。戀與歟所レ見

○昔男。潛爾通所在計利。（女イ）爾之許從。今宵努爾何見給津流與云計禮者夫

思余。出爾志魂之。將レ在。夜深見者。玉結作余。

○昔男貴人之許爾。（女イ）無成多流女乎。詢樣爾而云遣

新古今ヨミ人不レ知
古者。有毛哉將レ爲。今社知。又不レ見人乎。（如何）戀物與波　古今、イニシヘニアリキアラスハシラネトモチトセノタメシ君ニハシメン

○昔男顏强借計流人之許爾
返シ非歟

後撰在原元方
戀與者。更爾毛不レ謂。下紐之。將レ解乎人者。其與知何　後非歟、後撰詞書ニ、女ノモトニツカハシケル在原元方

返

後撰ヨミ人不知
3 下紐之。指南與爲流毛。解莫爾。如レ是鹿言者不レ懸社可レ有　前非歟

○昔男鄭重爾云契女之。（一人）異樣爾成爾計禮者

古今ヨミ人不知又序タトヘ歌
六帖
陬磨之泉郎之。鹽燒煙。風乎痛。不念方爾。棚引逖利　萬葉第七、シカノアマノ鹽ヤク煙風ヲイタミ立ハノホラテ山ニタナビク

○昔男在計利。鬘爾而居而

新撰ヨミ人不知
不レ永。命之間爾。所レ望者。如何短。心在覽
或本不可有之云々多本皆載之不可止

○昔仁和帝芹河爾行幸爲給計流時。（仁和元年十二月也業平卒去以後七年）（光孝）生翁之今者然事爾計無思計禮與毛。（今年行平六十九）（無似氣也）本付爾計流事奈禮者。大方之鷹飼爾而。候波世給計流。（私（イ））摺狩衣之袂爾。鶴乎綴而書付計流。中將成計流翁

後撰行平
翁佐備。人勿科目莫。借衣。今日者狩與社。（計也）田津毛鳴成

萬葉、ヲトコサビ、ヲトメサビ、神サビ、都メクヲミヤビ、ヰナカメクヲヒナビ、同第十八、大伴池主、針袋コレハタバリスズリ袋今ハエテシカオキナサビテム

公之御氣色惡借計利。（齊五十七歲）己之齡乎思計禮與。和歌不知人者聞及計流與賀哉（居）（事也（イ））

作物語
○昔男蕭爾三津國至而迷往計利。夫京爾思人爾。是云遣計流

萬葉第十詠レ花、コゾマキシ久木イマサクイタヅラニツチニヤオチムミル人ナシニ　楸ニハアラテ久シク世ヲヘタル木ヲイヘリトミユ。

萬葉十一
從二浪間一。所レ見兒島之。濱久。（久木）久成怒。君爾不レ會而（拾遺、萬同）

女ノ詞
何事毛皆能名遠離爾計流與何。（直）云遣計流

○昔帝住吉爾行幸爲給多利計流爾

古今雜ヨミ人不知
吾見手毛。久成怒。墨吉之。（スミノエノ（古今））岸廼姫松。幾代歷寢覽

土佐日記ニ、住ノエノ忘草、キシノヒメ松ナトイフ神ニハアラスカシ。

萬葉、イニシヘノ事ハシラヌヲ我ミテモ久シクナリヌ天ノ香山

1和名鈔楊名云、鬘久美曰レ鬘
（古頭反）ニ
和名夜（コ、ロハ）鬘々外不レ寢、加ニ
毛乎
魚目恒不レ開者

2後撰雜一、仁和ノミカト、サカノ御時ノ例ニテ芹川ニ行幸シ給ヒケル日、在原行平朝臣、サカノ山ミユキタエニシ芹川ノ千世ノフル道アトハアリケリ、同シ日タカヽヒニテカリキヌノタモトニツルノカタヌヒテカキツケタリケル。オキナサビ……行幸ノマタノ日ナム、致仕ノ表ヘリケル。續古、ケサタニモヨヲコメテトレ芹川ヤ竹田ノサナヘフシタチニケリ　家隆、春クレハチヨノフル道アトメテタレセリ川ニワカナツムラム

3後撰、雲チヲモシラヌ我サヘモロコエニケフハカリトソナキカヘリヌル　伊勢集ニモ

4作物語　ムカシミチノクニニテオトコ女スミケリ、オトコミヤコヘイナントイフ、コノ女イトカナシウテ、ウマノハナムケタニセムトテ、オキノ井ノミヤコ島トイフ所ニテサケノマセテヨメル。古今小町、ケシ歌、オキノ井テ身ヲヤクヨリモ悲シキハミヤコシマヘノワカレナリケリ

5菅萬、人ヲ思フ心ノオキハ身ヲソヤク煙タツトハミエヌ物カラ

1 日本後紀、和氣清麻呂作、神宮ニ字佐ニ云々、神郎忽然現レ形云々。
新古今書ニ、伊勢物語ニ住吉ニ行幸ノ時、オホン神ゲギヤウシタマヒテトシルセリ。
2 神樂取物ノミツカキノミヨリサ、ノハヲタフサニ取テ、アソヒスラシモ此物語古本トテ顯昭ノ古今秘註ニヒカレタルハ、此事ヲキ、テ在原ナリヒラ、住ヨシニマヰリタリケルツヒデニヨメルニ。住吉ノ嚴ノヒメ松人ナラハ幾世カヘシトハマシヲ、トヨメリケルニ、オ物ヲトナリアシゲナル出テメキデテカヘシ、衣ダニ二ツアリヤセハキサハ一タノ山ニヒトツアハカサマシモノヲ、トヨミテキエウセニケリ。今オミヘハオホン神ニテナムオハシケル云々。
3 念記、遊仙窟ニ記念ヲカタミト點セリ、兩者ノ聞文字ノ轉々シタルナルヘシ。形見物、舊事一餞速日尊ノ玉ヘル事ナリ
4 信、小補韻會云、古者謂レ使曰レ信也、今之流俗遂以遺レ書餽レ物爲レ信故謂二之書信手信一。(箋)
○ムカシ男、女ノマタヨヲヘストオホエタルカ、人ノ御モトニ、シノヒテモノキコエテ後ホトヘテ
(拾イ)
5 アフミナルツクマノ祭リトクセナムツレナキ人ノナヘノカスミム
後撰、女ニモノイフ男フタリ有ケリ、ヒトリニカヘリコトスト キ、テ、今ヒトリ

御神現形爲給而。1(得ナシ) 萬葉、人麿、ヲトメラガ袖フル山ノミツカキノ久シキ世ヨリ思ヒキワレハ

新古今神祇 人王第十代崇神天皇舊事記曰……
睨與。君者白奈美。2 瑞離之。久代佘利。齋始而義 スヤ(奥儀抄イ)

業平 來乎
○昔男久音毛不爲。忘留心毛無。參與云利計禮波女

古今ヨミ人不知
玉葛。這木多爾。所成者。不絕言葉。嬉計毛無 有トイヘハ(六帖)コト人ヲ思フ

女ノ 3
○昔。化成男之念記與而。置多流物友乎見而 伊父泛共(萱蘂)寄物(萬葉)

古今ヨミ人不知 德女乎
信者。今者怨將有。是無者。忘留時毛。可有魂乎 六帖、カクトタニカ、ミニミユルモノナラハ忘ル、ホトモアラマシモノヲ
形見也4

拾芥
5 ○昔男凝華舍從。雨爾沾而。人之往乎見而

後セン春雨ノフラハ野山ニマシリナン梅ノ花カサアリトイフナル
卯來日過之。花乎縫云。笠毛哉。6 沾目流人爾。著而將還

催馬樂、青柳ヲカタイトニヨリテ鶯ノヌフテフカサハ梅ノ花笠
賢木卷ニ、アフ事ノカタキヲケフニカキラスハ今イク世ヲカナケキツ、ヘム、御ホタシニモコソト聞エ給ヘハ、サスガ打ナケキ玉ヒテナガキヨノウラミヲ人ニノコシテモ、カツハ心ヲアタトシラナム。伊勢集、ワカタメニ何ノアタトテ春風ノヲシムトシレル花ニシモフク、貫之集、我タメハアタニサリケリ年月ハ思ヒモナクテ行キカヘリツ、
源道濟、サカザレハ櫻ヲ人ノヲラマシヤサクラノアタハサクラナリケリ

返
カツカハシケル、ナヒクカタアリケルモノヲナヨ竹ノ ヨニヘヌモノト思ヒケルナ

6 文德實錄第四、仁壽二年二月甲戌授二近江國筑摩神從五位下一。(仁壽二、六、筑摩長撰二撰集中一補レ之。)(續次頁上欄)

鶯之。花乎縫云。笠者不知。念乎付余。乾而將遐（難心得）
1 イサ（イ）　カヘラムカ（可用乎）

○昔男契禮流言詭禮流人爾　新古幷六帖同

新古ヨミ人不知　山代之。堰堤廼玉水。手爾酌而。手飲志鹿毛。鳴代成計利（馮ヲ兼）

諸云遺與報毛不爲何

歛達紀云、於是綾糟等懼然恐懼乃下泊瀨中流向三諸岳歃水而盟曰云々。

新古今戀、此歌ノ右ニ、玉水ヲ手ニ、ムスビテモ心ミムスルクハ石ノ中モタノマシ

○昔男在計利。深草爾住計流女乎。漸飽方爾哉將思。如是歌乎讀計流。

古今雜 2 年乎歷而。棲來志鄕乎。出而去者。最深草。野與乎成何（情フカシ）

女返

古今 野與成者。3 鶉與成而（憂ヲ兼ナキテ）。鳴將居。假爾多爾矢者。人之將不來
4 女ノ本意人ヲ感ゼシム　トシハヘム（古）狩ヲ兼

此詞書ナシ（イ）　諸讀利計流爾目出而。將往與思心無成爾計利

○昔男如何有事乎思計流時爾歟讀（ナリケル）

此歌計點有　思言。不云莫直可止。吾及人敷。5 人志無計禮波
新勅撰業平　默然（萬葉）

7 後撰、ニクカラヌ人ノキセケンヌレ衣ハ思ヒニアヘス今カハキナム　後拾遺懸入道嚴攝、我コヒハ春ノ山ヘニツケニシヲモエテモ君カメニモミエナム　返シ大納言道綱母、春ノ野ニツクル思ヒノアマタアレハイツレヲキミカモユルトカミム

1 詭、譎。（アヤマリイツハル小學）。

2 古今詞書ニ、深草ノサトニ住侍リテ、京ヘマウデクトテ、ソコナリケル人ニヨミテオクリケル。ナリヒラノ朝臣。

3 六帖、庭草ヲ鶉フスマデハラハセシ小鷹手ニスエコン人ノタメ

4 同、カリニトテ我ハキツレト女郎花ミルニ心ソ思ヒツキヌル

4 同、花ノ色ヲ久シキ物ト思ハネハ我ハ野山ヲカリニコソミレ　此二首ハ貫之ノ歌ニテ、家集ニモ小鷹カリノ歌ナリ。

5 左傳、鄭子產謂子波曰、人心不同、譬如面、吾豈敢謂子面如吾面乎。後撰、ワガコトクアヒ思フ人ノナキ時ハフカキ心モカヒナカリケリ

萬葉、ウツラナクフリニシ里ノ秋ハキヲ思フ人トチアヒミツルカモ

同、人コトヲシケシト君ヲウツラ鳴人ノイニシヘニアヒイヒテヤリキ。

同、鶉ナクフルキ里ヨリ思ヘトモ何ソモ妹ニ逢ヨシモナキ

○昔男惱而。心地可レ死所レ念者（古今哀傷業平）終爾行。道與者豫而。聞師賀與。昨日今日與波。不レ思乎（有師乎）

シスルコトノカレヌ習トハカネテ聞オキタレド、キノフケフトハオモハサリシヲトハ、タレノ〳〵モ時ニアタリテ思フヘキ事ナリ、コレマコトアリテ人ノヲシヘニモヨキ歌ナリ、後々ノ人シナムトスルニイタリテ、コトノ〳〵シキ歌ヲヨミ、或ハ道ヲサトレルヨシナトヲヨメル、マコトシカラスシテイトニクシ、タヾナル時コソ狂言綺語モマジラメ、今ハトアラムトキダニ心ノマコトニカヘレカシ、業平ハ一生ノマコト此歌ニアラハレ、後ノ人ハ一生ノイツハリヲアラハスナリ。

大和物語云、水尾ノミカトノ御時、左大辨ノムスメ辨ノミヤス所トテイマスカリケルヲ、左中將シノヒテカヨヒケリ、中將ヤマヒイトオモクシテ、ワツラヒケルヲ、ヒトノメモアリ、コレハイトシノビテアルコトナレハ、エイキモトフラヒタマハス、シノヒ〳〵ニナムトフラヒケルコト日々アリケル、サルニトハス日ナムアリケル、ヤマヒモイトオモリテソノ日ニナリニケリ、中將ノモトヨリツレ〳〵トイトヾ心ノワヒシキニケフハトハステクラシテンヤト、トテオコセタリ、ヨハクナリニタリトイトイタウナキサワキテ、返事ナドモセントスルホトニシニケリト聞テ、イトイミシカリケリ、シナントスルコトイマ〳〵トナリテ讀タリケル、ツヒニ行道トハ……トヨミテナンタエハテニケリ、イマ〳〵トナレル時ノカヽル歌ヨマレタルハ、心ノ歌トナレル故ナリ。

萬葉緯 卷第十四 朗詠和歌

目錄

雁 一首　歸雁 一首
蟲 二首　鹿 二首
露 一首　霧 二首
擣衣 一首

冬

初冬 一首　冬夜 一首
歳暮 一首　爐火 一首
霜 一首　雪 三首
氷 一首　春氷 一首
霞 二首　佛名 二首

雜 朗詠集下歌

風 二首　雲 一首
晴 一首　曉 一首
松 三首　竹 二首
草 三首　鶴 三首
猿 一首　管絃 一首
文詞 一首　酒 一首
山 三首　山水 一首
水 二首　禁中 二首
古京 一首　故宮付故宅 三首
仙家 一首　山家 二首
田家 二首　隣家 一首
山寺 二首　佛事 四首
僧 三首　閑居 一首
眺望 一首　餞別 三首
行旅 三首　庚申 一首
帝王付法皇 二首　親王 一首
丞相 一首　將軍 一首
刺史 一首　詠レ史 一首
王昭君 一首　妓女 一首
遊女 一首　老人 二首
交友 二首　懷舊 三首
述懷 三首　慶賀 一首
祝 二首　戀 三首
無常 四首　白 一首

萬葉緯　巻第十四

洛東隠士似閑編緝

吾邑有正六位上姓宗岡岡作岳直行者一夕談予曰。有以和漢朗詠集和歌為眞名書青蓮院家藏本也矣。以隣好之交借請閲之。雖叶古風間多。雖然又非近世之作。至如以蝦鳴書河維以保乃保乃為似々以與妹我寢書幾本紿者用文字不容易。因茲書寫以為緯而已。文字些少而為一首萬葉集第十一卷十二卷其例多矣。先是西峯先生有言予。和漢朗詠者四條大納言公任卿作也。以於倭漢才士詩句採摘而為上下和歌者後人書加。江談抄云四條大納言者高相如弟子也。仍撰朗詠集之時多入相如作所謂蜀茶漸忘浮花味樵蘇往反之句有何秀發乎云々十訓抄第六云。小野宮右大臣實資トテオハシケル云々公任卿。此殿ヲ聟ニ取テ。ハシメテ入申サレタル時。朗詠上下卷ヲ撰テ。置物ノ厨子ニオカレタリケル。ユユシキ聟ヒキテ物ニテハアリケル云々今按兩書無和歌事則西峯説可為是乎。雖然今世有稱世尊寺行能卿自筆印本而有和歌行能卿筆以異本書焉。暫殘不審耳

徒然草云　ある者小野道風のかける和漢朗詠集とてもちたりけるを、或人御相傳うけることには侍らじ、なれども四條大納言ゑらはれたる物を道風かゝんこと時代やたがひ侍らん、おほつかなくこそといひければ、さ候へばこそ世にありかたき物には侍りけれとて、いよいよ祕藏しけり

古事談四、東大寺聖人俊乗坊入唐、教長手跡之朗詠ヲ持渡、唐人育王山長老以下見之感嘆無極、其中天神御作、春之暮月々之三朝句、殊以褒美不堪感懐、遂乞取納育王山寶藏、云云。

或説云、歌ハ堀河院御宇、右衛門督顕輔加之、藤原基俊同時人也、基俊之新撰朗詠有歌如何。

今案今之朗詠集相如之作不為多疑有異本歟。

小野宮實資公ハ誤乎、大二條關白教通公則公任卿聟也

今案至巻軸題白和歌一首公任卿自歌也、撰集之書入自歌事尋常也、和漢共自撰乎、傳聞公任大納言筆之和漢朗詠集今有官家、向來可校之耳、又歌人等之名有相違併可正之。

和漢朗詠集 上巻 和歌

文選十一孫興公天臺山賦、ヽ凝ニ思幽巖ー朗ニ詠長川ー善曰、朗猶ニ清徹ー也、翰曰、朗高也、伊庭氏

春

立春

古今巻頭
年内•春来梟•一歳•去年言•今年言
トシノウチニハルハキニケリヒトトセヲコソトヤイハムコトシトヤイハム
在原元方　トシノウチニ春立ケル日ヨメル

古今
袖浸•結水•凍•春立今日•風也解覧
ソテヒチテムスヒシミツノコホレルヲハルタツケフノカセヤトクラン
紀貫之　ハル立ケル日ヨメル

新撰巻頭
拾遺巻頭
春立•謂計•三吉野•山霞•今朝見覧
ハルタツトイフハカリニヤミヨシノヽヤマモカスミテケサハミユラム
秀歌體大略巻頭
壬生忠岑　平貞文カ家ノ歌合

早春

新古今　新誤行能本同
岩灑•筧上•早薇•生出春•成梟哉
イハソヽクタルヒ（ミ萬）ノウヘノサハラヒノモエイツルハルニナリニケルカナ（カモ）
萬葉第八垂氷（萬）
志貴皇子　行能本誤

續後撰
見渡•平野高嶺•雪消•若菜可レ摘•野○梟（成乎）
ミワタセハヒラノタカネニユキキエテワカナツムヘクノハナリニケリ
後　家集ナシ
平兼盛　麗景殿女御の歌合に

古今
谷風•解凍•毎レ暇•打出波也•春初花
タニカセニトクルコホリノヒマコトニウチイツルナミヤハルノハツハナ
前　みわたせは、柳さくら……コヽニアリ
源正澄　寛平御時后宮ノ歌合ノ歌

春興

新古
百敷•大宮人•有レ遑•櫻笄而•今日暮
モヽシキノオホミヤヒトハイトマアレヤサクラカサシテケフモクラシツ
萬葉第十作者未詳
赤人　新同

拾遺
春猶•我知•花盛•心長閑•人○有那（不乎）
ハルハナホワレニテシリヌハナサカリコヽロノトケキヒトハアラシナ
忠峯　平貞文か家の歌合に

茹、字彙云、人餘切音如雜揉(ウチマシハル)也。

古今　見渡柳櫻茹雜京春錦成梟（ミワタセハヤナキサクラヲコキマセテミヤコソハルノニシキナリケリ）イ早春　　素性法師

春夜

古今　春夜闇無レ益梅花色社。見香者隱（ハルノヨノヤミハアヤナシウメノハナイロコソミエネカヤハカクルヽ）不乎　　躬恒　春の夜うめの花をよめる

子日

拾遺題不知　子日野邊小松無則千代嬌何引增（ネノヒスルノヘニコマツノナカリセハチヨノタメシニナニヲヒカマシ）　　壬生忠峯

同　千歳迄限松一、自二今日一君被レ引萬代經（チトセマテカキレルマツモケフヨリハキミニヒカレテヨロツヨヤヘム）　　大中臣能宣　入道式部卿のみこの子の日侍るに

新古今　子日占野邊姫小松。引千代陰待增（ネノヒシニシメツルノヘノヒメコマツヒカテヤチヨノカケヲマタマシ）不乎　　藤清正

若菜

伊藤長胤曰、按嫩菘曰二若葉一種季曰

新古今春壬生忠見　不レ燒共草生春日野只春日任見（ヤカストモクサハモエナムカスカノハタヽハルノヒニマカセテヤミム）カタヲカノ（拾）　マカセタラナハ（新）以无爲是乎　行能本无　下卷草題重出

拾遺題不知　明日柄若菜摘占野明日原今日燒也（アスカラハワカナツマムトシメシノニアシタノハラハケフヤクナリ）セムカタヲカノ　ソヤクナリ　行本拾同　　人丸

萬葉八　新古　明日柄若菜摘思昨日今日雪降（アスカラハワカナツマムトオモヒシニキノフモケフモユキハフリツヽ）萬葉十作者未詳　ヨリハ（人丸集）　シメシノニ二本　　赤人

延喜六年月次ノ屏風八帖が、れうの歌四十五首せじにてこれを奉る廿首。ねのひあそぶ家　歌集　ユキテミヌ人モ忍ヘト春ノ野ニカタミニツメルワカナヽリケリ　貫之　行能本

三月三日付桃

拾遺賀　是則集　忠岑集　三千年成謂桃從二今年一花笑春逢梟。（ミチトセニナルテフモヽノコトシヨリハナサクハルニアヒニケルカナ）哉乎　アフソウレシキ（拾）　　躬恒　亭子院歌合

暮春

古今
徒・過月日・多・花見昏・春曾少無　オモホエテ(古)　　興風
興風家集サダヤスノミコノ后ノ五十賀奉リ給ヒケル御屛風ノヱニ櫻ノ花ミタル所

三月盡

古今
今日耳・春○思・時而・立事安・花影哉　不乎　(カハヽ本の歌)　　躬恒
亭子院の歌合に春のはて

拾遺
花皆・散宿者・行春・古郷社・成應成　　貫之
おなし御時月次の御屛風に
貫之家集延喜六年月次屛風の歌三月晦日

後撰
亦來・時思○被レ憑・我身在・惜春哉　不乎　アラ本　　同
三月ツコモリノ日、ヒサシウマウテコヌヨシイヒテ侍ル文ノオクニカキツケ侍リケル

潤三月

古今
櫻花・春被レ加・年・人心・被レ飽爲　古家
家集　　伊勢

鶯

拾遺
璞・年立回・從レ朝・被レ待物・鶯之聲　　素性
延喜の御時月次の屛風に

同
鶯聲無則雪消矣○山里如何可レ知レ春　不乎　シラマシ　　中納言朝忠
天暦十年三月十九日内裏ノ歌合ニ
中務行能本誤歟

〇アサミトリ春立空ニウクヒスノ初聲マタヌヒトハアラシナ
麗景殿女御　行能本
道濟本[illegible]

霞

拾遺赤人家集
昨日社・年暮・春霞・吉野々山・早立梟　行能本(拾同)　　山邊赤人
カスミヲヨミ侍リケル

萬葉八作者不詳
後
朝日指・嶺白雪・村消・春霞・靉二梟　　兼盛
兼盛集无、重之中

古今題シラス讀人不知
六帖
春霞・立也何・三吉野・々々山・雪者降　　赤人誤

雨

拾遺題不知讀人不知
鶯・雨降・來矣・亦者・濕・共花・影・宿（サクラカリアメハフリキヌオナシクハヌルトモハナノカケニヤトラムカクレム）（行能本（拾同））

新敕撰
青柳・枝・懸・春雨者・絲・持貫・玉乎見（アヲヤギノエダニカカレルハルサメハイトモテヌケルタマカトゾミル）
家集、六々貫之
コモレル字
シラツユヲ（六）　伊勢　柳をよみける

梅付紅梅

拾遺
古年・根・舉・栽・我宿・水・木梅・花・笑・梟（イニシトシネゴシテウヱシワカヤトノワカキノウメハハナサキニケリ）
萬葉若乎
　中納言　安倍廣庭　ニ六

萬葉
後撰瀬乎
我漱子・見・思・梅・花・其・共・不見・雪・降（ワカセコニミセムトオモヒシウメノハナソレトモミエスユキノフレヽハ）
萬葉八赤人　赤人

拾遺
香認・誰・不折・梅・花・無益・霞・立藏（カヲトメテタレヲラサラムウメノハナアヤナシカスミタチナカクシソ）
　亭子院乃御屏風に　躬恒

古今冬左注人麿
梅・花・其・共・不見・久・堅・天・衣・雪・之・遍・降（ム（ウ）メノハナソレトモミエスヒサカタノアマキルユキノナヘテフレヽハ）
拾遺春（萬十）
　行能本无　人麿　拾

後撰春上ヨミ人不知　我セコニミセント思ヒシ梅花ソレトモミエズユキノフレヽハ

紅梅

古今
不君・誰・見・梅・花・色・香・知・人知（キミナラテタレニカミセンウメノハナイロヲモカヲモシルヒトソシル）
　梅の花をゝりて人におくりけるに　友則

新古今
色・香・思・出・梅・花・不常・世・寄・添・見（イロカヲハオモヒモタサスム（ウ）メノハナツネナラヌヨニヨソヘテゾミル）
新イレス行本
梅の花をミ玉ヒテ
　花山院

柳

古今
青柳・從・絲・掛・初・霜・亂・花・綻・梟（アヲヤキノイトヨリカクルハルシモソミタレテハナハホコロヒニケリ）
ハル　行本古今同
　貫之

新千載　貫之集
春來・持・垂・柳・迷・絲・妹・心・成・梟・哉（ハルクレハシタリヤナキニマヨフイトノイモカコヽロニナリニケルカナ）
ト　ヤ
コヽリニ誤本
ルラム（已上）
　行能本无、或君本有

萬葉第十、春去ハ爲垂柳十（シクリノト）
ヲヲ
撃ニモ、イモカ心ニノリニケルカモ
此歌ヲ改メノセラレケルニヤ

青柳・眉・籠・絲・者・春・來・色・増・梟（アヲヤキノマユニコモレルイトナレハハルノクルニソイロマサリケル）
亭子院屏風に
　屏風に　兼輔中納言

褁ツト　萬葉

花付落花

古今
世中・絶・櫻・無則・春心者・長閑柄增
ヨノナカニタエテサクラノナカリセハ　ハルノコヽロハノドケカラマシ
伊勢物語　不絶ニテ誤　サカサラ（以下不明）
業平　渚の院にて櫻をみてよめる

古今
我宿・花見粮・來人・散後・可レ戀
ワカヤトノハナミガテラニクルヒトハチリナムノチゾコヒシカルベキ
躬恒　櫻の花のさけるを見にまうできたりける人によみておくりける

古今
見耳・人語。山櫻・毎レ手折・家褁爲
ミテノミヤヒトニカタラムヤマサクラテゴトニヲリテイヘツトニセム
素性　山のさくらを見てよめる

落花

拾遺
櫻散・木下風・寒柄・霄。被レ知・雪降梟　不平
サクラチルコノシタカセハサムカラテソラニシラレヌユキソフリケル
貫之　亭子院歌合に

拾遺雜春
殿守・友宮司子・有レ心者・此春計・朝淸
トノモリノトモノミヤツコヽロアラハコノハルハカリアサキヨメスナ
家集南殿の御まへのさくらの花のちるをみて
公忠

奧義抄ニ、六條家にの説には臣トミの御奴トイヘリ、トモトミ五音通スル故ナリ。

躑躅テキチヨク

古今ノ戀ヨミ人シラス
思出・常磐山・岩躑躅・不レ言社・戀物
オモヒイツルトキハノヤマノイハツヽシイハネハコソアレコヒシキモノヲ
平貞文　行能本誤

北畠准后親房、古今抄ニ、此歌ハ貞雅僧都ノ業平ニツカハシケル云々。

欵冬ヤマブキ

萬葉八
新古今チハヤフル（六帖）
河維・神南川・影見・今笑覽・欵冬花　カ（新）
カハヅナクカミナミカハニカゲミテイマヤサクラムヤマフキノハナ
厚見王　女誤

蝦鳴
拾遺ヨミ人シラス
我宿・八重欵冬・一枝・散殘覽・春形見
ワカヤトノヤヘヤマフキハヒトエタニチリノコラナムハルノカタミニ
へ也　ノコラナム行本拾同　一重タニ也
兼盛

天德四年歌合、一重ツヽ八重山吹ハヒラケナムホトヘテ匂フ花トタノマム　兼盛

藤

拾遺夏タコノウラノ藤花ヲ見給テ
田子浦・底匂・藤浪・靡行・見人爲　不平
タコノウラハソコサヘニホフフチナミヲカサシテユカムミヌヒトノタメ
萬葉十九
人麿家集タコノウラニテ
内藏忌寸繩麻呂

夏

續古今題シラス
常磐・松名立・無レ益・掛藤・笑散爲　行本（續古同）　貞之

更衣

拾遺
花色・染袪・惜者・衣更懶・今日有哉　冷泉院の東宮におはしましける時百首の歌奉れと仰られければ　重之

首夏

[illegible]首ノ内　朱[illegible]
拾遺
我宿・垣根春・隔覽・夏來梟・見卯花
家集應和二年十一月前朱雀院のわかみやの御裳着の日の料の四月卯花さける所　屏風に　順

夏夜

家集ナシ
夏夜・寢明・言置・人者物哉・不レ思梟（行本）　人丸

拾遺題シラス　よみ人不知　萬葉十
鵤・鳴五月・短夜・獨寢・則・明兼　ツモ（本拾同）　同

古今
夏夜者・欲レ臥・時鳥・鳴一聲・明明白　ト行本　貫之

端午

家集
我駒・今日逢來・菖蒲草・追後・負覽　五月五日駒クラヘスル比　頼基

拾遺家集
昨日迄・餘所思・菖蒲草・今日我宿・妻哉　屏風に　能宣

道納涼

涼每ニ草村ニ立倚暑增長夏花　六帖　貫之

晚夏

新古今
夏果扇與ニ秋白露何先置增覽　延喜乃御時月次の御屏風に壬生忠岑（忠峯歟忠岑歟）　齋宮

拾遺藤原長能
禰宜事不レ聞有神達今日名越人言也　行本（拾同）行本誤歟　中務行能本誤歟

盧橘

花橘

古今題不知讀人不知
五月待花橘香嗅昔人袖之香爲　業平歌ナリ

伊勢物語
新古題不知讀人不知
時鳥花橘香認鳴者昔人也戀敷　印本新撰和歌　貫之

蓮

古今遍昭
荷葉濁○染心持何者露○玉欺　不乎　之乎歟　良僧正

郭公

ヨヒノヤミ　新後拾遺
五月暗無ニ覺束一時鳥鳴聲彌晴氣　明香皇子

拾遺不乎
行○遣山路暮時鳥今一聲聞間星　北の宮の裳着の屏風に　公忠朝臣

家集此の宮のみくしあけの屏風に山をこゆる人の子規き、たる所

同
五更深○寢覺者時鳥人傳社可聞○梟　不乎　有乎　天暦の御時歌合に　壬生忠見

螢

新千載
○下クヽル水ニ秋コソカヨフラシムスフ泉ノ手サヘスヽシキ　中務

（拾イ）
松カケニイハ井ノ水ヲムスヒアケテ夏ナキトシトオモヒケルカナ　惠慶
行能本

拾遺、タカ袖ニ思ヒヨソヘテ郭公花橘ノ枝ニナクラム

文集十五、荷露雖レ團ントニ豈是レ珠ナランヤ

右元眞（持トナル）
人ナラハマテトイフヘキヲホトヽキスフタ聲トタニキカテスキヌル

左サヨフケテ……た歌キカントモオモハテネサメシケンソアヤシ、サレト歌カラオカシ

新古雜下、天暦御歌、秋乃夜の曉かたのきり〳〵す人つてならてきかまし物を

新勅撰ヨミ人シラス
草深・荒宿・燈火・風○消・螢也梟　不乎
（クサフカキアレタルヤトノトモシヒハカセニキエセヌホタルナリケリ）
赤　人（誤）

後撰
包共・隱物者・夏蟲・從レ身餘・思也梟
（ツヽメトモカクレヌモノハナツムシノミヨリアマレルオモヒナリケリ）
大和物語ニカツラノミコノワラハカ歌也
後、かつらのみこの螢をとらへてといひ侍りけれはわらはのかざみの袖につゝみて

蟬

家集ナシ
夏山・峰木末・高則・空蟬之・聲聞　よ（行本）
（ナツヤマノミネノコスエノタカケレハソラニソセミノコヱハキコユル）
人　丸

後撰
是見・人○咎・戀而・音鳴蟲・成姿　不乎
（コレヲミヨヒトモトカメスコヒストテネヲナクムシノナレルスカタヲ　スサメヌ（後））
ものいひける女にせみのもぬけをつゝみてつかはすとて
大納言重光

扇

拾遺雜秋
天河・河邊涼・七夕・扇風・猶借増　セ（行本）
（アマノカハカハヘスヽシキタナハタニアフキノカセヲナホヤカサマシ）
天祿四年五月廿一日、圓融院のみかと一品の宮にわたらせ給ふて、亂碁とらせ給ける、まけわさを、七月七日にかの宮より内の大盤所に奉られける扇にはられてけるうすものに、おりつけて侍ける
中　務

銀河・扇風・霧晴・空澄渡・鵲橋
（アマノカハアフキノカセニキリハレテソラスミワタルカサヽキノハシ）
同時ノ歌歟
元　輔

家集　君カテニマカスル秋ノ風ナレハナヒカヌ草モアラシトソ思フ　中務　行能本

秋

立秋

古今
秋來・目分明○見共・風音・被レ驚矣　不乎
（アキキヌトメニハサヤカニミエネトモカセノオトニソオトロカレヌル）
敏　行（秋立日よめる）

後撰ヨミ人シラス
打著・物悲・木葉散・秋始・今日思
（ウチツケニモノハカナシキコノハチルアキノハシメヲケフトオモヘハ）
ソト行本同
能　宣（本）

早秋

拾遺題シラス
秋立・幾日○有・此寢・朝氣風・袪涼　不乎
（アキタチテイクカモアラヌニコノイヌルアサケノカセハタモトス、シモ）
ネヌル行本（拾同）
アラネハ（拾萬同）
萬八
安　貴　王

イクカモアラネハ、コノテニヲハ萬葉ニオホシ、是秋ノ末ノ歌ナリ、コヽニ入タル不審

七夕

夫木撰題シラス讀人不知人麿集
銀河・遠渡〇（不乎）有共・君舟手・年社待
（アマノカハトホクワタリニアラネトモキミカフナテハトシニコソマテ　ワタリハナケレトモ（後セン）　ツナ（行本））
人丸

萬葉十作者未詳
拾遺秋
六帖
一年・一夜思・七夕・相見秋・無レ限哉
（ヒトトセニヒトヨトオモヘトタナハタノアヒミルアキノカキリナキカナ）（ム拾）（六同）
貫之　右衛門督源淸蔭家の屛風に

古今
毎レ年・逢聞・七夕・寢夜數・少那臬
（トシコトニアフトハキケトタナハタノヌルヨノカスソスクナカリケル　スレト（行本））
躬恒　なぬかの日の夜よめる

秋興

新拾遺題不知讀人不知
鶉鳴・岩根野邊・秋萩・思人共・見今日哉
（ウツラナクイハネ（レノ拾同行本同）ノノヘノアキハキヲオモフヒトトモミツルケフカナ　トチアヒミツルカモ）
行本如何

萬葉八
秋猶・不レ徒社・覺・荻上風・萩下露
（アキハナヲタヽナラズコソオモホユレオキノウハカセハキノシタツユ　フリニシサトノ　ユフマクレ　タヽナラネ（行本））
（已上萬葉作主无）
義孝少將

秋晚

新古ヨミ人シラス
小倉山・麓野邊・花薄・似見・秋夜月
（ヲクラヤマフモトノノヘノハナスヽキホノカニミユルアキノヨノツキ　ユフクレ行本（新同））
貫之

秋夜

拾遺
萬葉十一作者未詳
足引・山鳥尾・持垂尾・永々夜・獨寢
（アシヒキノヤマトリノヲノシタリヲノナカ〳〵ショヲヒトリカモネム　キ（行本））
人丸

古今俳諧
睦事・未盡無・明臬・何秋・長謂夜半
（ムツコトモマタツキナクニアケニケリイツラハアキノナカシテフヨハ）
躬恒

八月十五夜付月

拾遺
家集
水面・照月次・算者・今夜秋・最中也臬
（ミツノオモニテルツキナミヲカソフレハコヨヒソアキノモナカナリケル）
順　屛風に八月十五夜池ある家に人あそびしたる所

月

古今
天原・振提見・春日成・三笠山・出月
もろこしにて月をみてよみける　安倍仲丸

古今題シラス讀人シラス
白雲・羽打替・飛雁・數見・秋夜月（新撰萬葉）
躬恒

拾遺フレ行本
世栖者・物思年・無共・月幾度・詠覽　フレ（拾二貝平茸上）
後中書王

九月平　九日付菊

拾遺
我宿・菊白露・毎ニ今日・幾世積・成レ淵
三條のきさいのみやの裳着侍る屏風に九月九日の所　元輔（中務　行能本誤）

菊

古今
久方・雲上而・見菊・天津星・被レ誤梟（トソ）ル（已上行能本）
寛平の御時きくの花をよませ給ける　敏行

古今
心宛・投者折・初霜・置惑・白菊花
しらきくの花をよめる　躬恒

九月盡（倚）

風雅サムシ風モクレナハ行本
山凄・秋暮矣・告鴨・槇毎レ葉・置白露　アサシモ（已上行能本）
暮秋の心を　大江千里（風）　モ（風）

拾遺
昏行・秋形見・置物・我嚢・霜有梟
くれの秋重之かせうそこして侍りけるかへりことに　乘盛

女郎花

古今小野良材　ニホヘル（新撰萬葉）
女郎花・多野邊・宿・無レ益褪・名立・增　アキソ（新已上）（行本同）
遍昭（昭誤）

新古
女郎花・見心者・（不乎）慰・彌昔・人戀敷
廣義公の母なく成て後女郎花を見て　清愼公

伊勢家集女郎花を折て硯の上にかけるをみて

家持集別　ゆく冬のかたみの黒髪にふりおける雪のきえぬなりけり
褪（アタハナ、カヘリハナ）匀府曰、吐困切卸衣、又花謝也。周詩曰、蝶粉蜂黄都テ褪了ス云々。樋口氏
和名鈔云、禾爾云、木謂ニ之ヲ華ト、草謂ニ之ヲ榮ト、榮而不レ實、謂ニ之ヲ英ト。於驚反訓。阿太波奈。

萩

カノヲカニ(拾遺)　ナハヲ(同)
秋野・萩刈男・名並・寝煉索・碎思
アキノヽニハキカルヲノコナヲハナミネルヤネリソノヽタクテソオモフ
人丸

家集
移・事惜・秋萩・折計・遣白露
ウツロハムコトタマヲシキソキハキヲヲレルハカリニオケルシラツユ
ノ(家)　ヲレヌ　ツユカナ(行本)
伊勢

家集ヲノヽ宮ノオトヽサカサミイテヽ侍シニ
秋野・萩錦・古郷・鹿乍レ音・移哉
アキノヽニハキノニシキヲフルサトニシカノネナカラウツシテシカナ
元輔

蘭

古今不乎
主○知・香社匂・秋野・誰拔掛・蘭
ヌシシラヌカコソニホヘルアキノヽニタカヌキカケシフチハカマソモ
ハニホヒツヽ(行本)　ニホヘレ(古)素性

槿

新勅ヨミ人不知　々レトカシラム(新)　ニ(已上行本)
無ニ覺束一誰・(不乎)識・秋霧・斷間見・槿花
オホツカナタレトモシラヌアキキリノタエマニミユルアサカホノハナ
道信中将

拾遺哀傷藤原義孝
槿・何無レ計・思覽・人花・左社見
アサカホヲナニハカナシトオモフラムヒトヲモハナハサコソミルラメ
ヒケム　(イ行本)(拾同)
アサカホノ花ヲ人ノ許ニツカハストテ(拾)
同人

前栽

古今・
塵・不レ陶思・自レ種幾本縮・長夏花
チリヲタニスヱシトゾオモフウエシヨリイモトワガヌルトコナツノハナ
妹比我寝
隣より床夏の花をこひにおこせたりけれは、をしみて此歌をよみてつかはしける
躬恒

花依・物思・白露・置如何・爲レ成覽
ハナニヨリモノヲゾオモフシラツユノオクニモイカヽナラムトスラム
アラムトス(行本)

紅葉

古今
白露・時雨痛・漏山・下葉不レ殘・色付梟
シラツユモシクレモイタクモルヤマハシタハノコラスイロツキニケリ
モミチシニ　(家集)(行同)
貫之

村々・錦見・篙山・柞紅葉・截裁間
ムラ〳〵ノニシキトソミルサヲヤマノハヽソノモミチキリタヽヌマニ
不乎　ハ(行本)
家集无
清正

落葉

新古今　阿須賀川・紅葉葉流・葛城・山秋風・吹仕矣　カ（新）ラシ　コノハヽ今シチルラシ（萬）　萬葉集第十作者未詳　　人麿

後撰ヨミ人シラス　無レ神月・時雨共・神並・森木葉・降社降　　貫之

古今　無ニ見人一散矣・奥山・紅葉夜・錦也梟　　貫之

貫之集、神無月時雨にそめて紅葉はをにしきにおれるかみなみのもり

北山にもみちたらんとてまかれる時によめる

鴈　付　皈鴈

古今　秋風・初鴈音・聞成・誰玉札・懸來覽　　友則

是貞のみこの家のうた合の歌

歸鴈

古今　春霞・立見捨・行鴈・花無里・栖哉習　　伊勢

歸鴈をよめる

蟲

今來・誰憑驗・秋夜・明兼宛・松蟲鳴　コヱ（行本）

古今　蛬・痛那鳴・秋夜・永思者・吾被レ增　ウラミハ（古行同）　　藤原忠房　薬性（行能本）誤

人ものとにまかれるける夜きりきりすのなきけるを聞てよめる

鹿

不乎拾遺能宣　○紅葉・常磐山・住鹿・己鳴哉・秋知覽　（重之集）（能宣集）无　　能宣

古今　夕月夜・小倉山・鳴鹿・聲中哉・秋悔覽　シル（行本古同）　　貫之

九月晦日の日大井にてよめる

露

新古今　篙鹿・朝立小野・秋萩・玉見迄・置白露　ノヘノ　萬葉集第八　　家持

霧

拾遺 アキ(イ) トソラニソ(拾) ソラコソ
川霧・麓籠・立則・底秋・山者見垂 深養父
カハキリノフモトヲコメテタチヌレハソコニソアキノヤマハミエタル ケル(拾) ケル(以上行本)

古今 ハカ(古、行本同)
誰爲・錦成・者・秋露・篙山邊・立藏覽
タカタメノニシキナレハヤアキキリノサヲノヤマヘヲタチカクスラム
佐保ニ改ヘシ

やまとの國にまかりける時、さほ山に霧のたてりけるをみてよめる

和州ノ佐保山ノカナニ篙ノ字ハアシ。篙ノカナハサヲナリ。季云

擣衣

新勅撰
唐衣・打聲聞・月淸・未寢人・空知哉 貫之
カラコロモウツコヱキケハツキキヨミマタネヌヒトヲソラニシルカナ

擣玉篇丁道切、手推也、今本以木者非

冬

初冬

後撰題シラスヨミ人モ
無神月・降見不降見・無定・時雨冬・初梟 貫之
カミナツキフリミフラスミサタメナキシクレソフユノハシメナリケル ル(行本)

冬ノ夜

拾遺題シラス
思兼・夫獵行・冬夜・川風寒・千鳥鳴也 貫之
オモヒカネイモカリユケハフユノヨノカハカセサムミチトリナクナリ
妹也

千載冬、傳大納言道經家の歌合に千鳥をよめる、藤原長たゞ
ふ妹カリトサホノ川ヘヲ分行ハサヨカ更ヌル千鳥鳴也

歳暮

古今冬巻頭
行季・惜有哉・增鏡・見影・暮矣思 貫之
ユクトシノヲシクモアルカナマスカヾミミルカケサヘニクレヌトオモヘハ

集註 此歌ミルカケサヘニ老ヌトオモヘハト讀ヘキヲ、クレヌトオモヘハトイヘル、歳尾ノ折ニムカヒテ當立ナル物ナルヘシ。

爐火

コカレシ(行本)
埋火・下焦・自時・是被憎・折曾悲敷 業平
ウツミヒノシタニコカルヽトキヨリモカクニクマルヽヲリソカナシキ
宗集等ニミエス

霜

拾遺ヨミ人シラス
ネサメテキケハ(行本同、拾同)
後撰
夜寒・不寢覺鴛鳴・拂不肯・霜置
ヨヲサムミネサメサリセハヲシソナクハラヒモアヘスシモヤオククラム

雪

拾遺初雪ヲヨメル源景明
城而・珍敷・見・初雪・吉野、山・降也矣覽　ニケルカナ(行本)
ユキハ(拾)

古今
三吉野・山白雪・積・古里寒・成増也　是則
ならの京にまかれりける時にやとりける所にてよめる

同
雪降・毎レ木花・笑梟・何分・梅折増　友則
ウメトワケテ(古行本同)
ユキノフリケルヲミテヨメル

氷

古今題シラスヨミ人シラス
大空・月光・寒則・影見水・先凍梟　文時
ノ(行本同)　シキヨ(古)
マツハコホレル(行本)

菅萬上

春氷

續後拾遺平兼盛麗景殿女御の歌合の歌
山川・水者増則・東風・谷氷・解仕矣覽　惟忠
ミカサマサレル
カケノミキハ
ハトケニケラシモ(續後拾)
モケフヤトクラム(行本)

霰

古今大歌所のうた又神樂
深山・霰降・外山成・正木桂・色増梟
ツキニ(古、行本同)
奥山・初雪降・外山成・正木桂・色付梟

此歌爲木旡、不叶霰題、初雪歟歟。

佛名

拾遺
家集
璞・季而暮則・造驗・罪不レ殘・成仕矣覽　兼盛
ツル(行本)

蓰、字彙云、想里切音、洗物數也、樋口氏トシノ内ニツクレルツミハカキクラシフル白雪トヽモニキエナム　行能本

家集内の御屏風に十二月佛名する家
徙・則我身積・季月・送迎・何急覽　同
齋院の御屏風にて二月の晦日の夜

拾遺貫之詞書延喜御時御屏風に

和漢朗詠集上卷終

和漢朗詠集下卷 和歌

雜

風

後撰戀 秋風吹就而問哉荻葉成者音而增

中務　平のかねきがやう／＼かれがたになりにければ

新古今題シラス 似々有明月月影紅葉吹下山下風 家集 人丸 行本誤

家集

信明　御屛風のゑにもみぢ散たるを見る人々

雲

新古今羇旅巻頭 餘所耳見哉休葛城高間山峰白雲 ヤ(新)

讀人不知

晴

童蒙抄 霞晴碧天長閑而有耶無遊野馬 ミユル(イ)

曉

後撰戀 曉無間敷者白露置詠別爲間哉

詠、離騷經云、謠詠謂会善謠セリト博雅ノ書也。樋口氏

貫之　人のもとよりかへりて

松

古今 常磐成松緑春來今一入色增梟

敏行 行本誤　寛平の御時きさいのみやの歌合の歌　源宗于(ユキ)朝臣

古今雜ヨミ人シラス 吾見久成矣住吉岸姫松幾世經覽

拾遺集
天下・荒人神・相生・思久・住吉之松（ノハイ）
安法々師

竹

古今よみ人シラス
世栖・事葉繁・呉竹・憂節毎・鶯鳴（已上行本）
六帖 フレハ一本 スル一本（行本同）

新古今旅耕
時雨降・音爲共・呉竹・那與レ世共・色不換
六帖 素性

草

拾遺集 人丸
彼丘・草刈男・然刈・有得・君來・秣爲（ツヽモ（行本同）） ワラハ（已上萬）
人丸 本

萬葉九人丸集
古今よみ人シラス
大荒木・森下草・生則・駒不レ諫・刈無人（下上字）
重之 行本

等、字彙多言也。クヱスサム心アリ。樋口氏

新古今
不レ燒共・草生・春日野・只春日・任足
忠見集 御屏風春日野やく
忠見
上巻若菜題已出

鶴

續古今
和歌浦・鹽盈來・片男波・葦返指・鶴鳴渡
萬葉六 古今小注 潟乎無（萬） キル（拾） ナル行本
赤人

拾遺集
大空・群入鶴・乍レ指・思心・有氣成哉
五條内侍のかみの賀民部卿清貫し侍ける時屏風に
伊勢

新古今
天津風・吹井浦・居鶴・何雲井・可レ不レ歸
殿上はなれ侍てよみ侍ける
清正

袋草紙云云、歌仙も時々歌を人に乞常事也、清正任紀伊守之後、中還昇歌、ふけゐのうらにゐるたつの一、忠見可令讀也、但彼集有件歌無、清正集。

大鏡

猿

古今著聞（萬行本同）
佗左・（ラニ）猴那鳴・足引・山甲斐有・今日不レ在
法皇にし川におはしたりける日猿山のかひにさけふといふ事を題にてよませ給ふけり
躬恒

管絃付舞妓

拾遺雜
琴音・峰松風・通・自何絃・調初験
（コトノネニ　ミネノマツカゼ　カヨフラシ　イヅレノヲヨリ　シラベソメケン）
野宮に斎宮の庚申し侍りけるに松風入夜琴といふ題をよみ侍りける　　斎宮女御

文詞付遺文

古今戀四ヨミ人シラス
僞・無世也則・如何計・人情・嬉稍聞歟
（イツハリノ　ナキヨナリセバ　イカバカリ　ヒトノコトノハ　ウレシカラマシ）
コトノハ（行本同）

酒

拾遺雜秋
有明・心地・社爲・盞・光副而・出矣思者
（アリアケノ　コヽチコソスレ　サカヅキノ　ヒカリモソヒテ　イデヌトオモヘバ）
ニヒカケ（拾）
をみにあたりける人のもとにまかりければ女ともにひかけにそへて出したりければ　　能宣

山

拾遺雜下貫之
名耳而・山三笠・無梟・朝日夕日・指在梟
（ナノミシテ　ヤマハミカサモ　ナカリケリ　アサヒユフヒノ　サスニツアリケル）
マカセテ（拾、行本同）
ライニケリ（拾、已上行本同）
忠見（行本誤致）

同
雲出・越白山・帶而・多年之・雪積宛
（クモノイツ　コシノシラヤマ　オビニシテ　オホクノトシノ　ユキツモリツヽ）
年フレバ（拾）
忠見

同
見渡・松耳白・吉野山・幾世積・雪有覽
（ミワタセバ　マツノミシロキ　ヨシノヤマ　イクヨツモレル　ユキニカアルラム）
ノハ（拾）
入道攝政の屏風に　　兼盛
三成（行本誤致）

山水

拾遺物名ヘロノ大高卓香
神並・水室岸・崩覽・立田川之・水被濁
（カミナミノ　キシヤクヅルラム　タツタガハ　ミヅノニゴレル）
ミカサマサリテ（行本）

水付漁父

古今
年經・花鏡・成水・散掛哉・曇言覽
（トシヲヘテ　ハナノカヾミト　ナルミヅハ　チリカヽルヲヤ　クモルトイフラム）
水のほとりに梅の花のさけりけるをよめる　　伊勢

源上・定則・君之代・再度澄・堀川水
（ミナカミニ　サダメテケレバ　キミガヨニ　フタヽビスメル　ホリカハノミヅ）
圓融院の御時堀河院にふたゝびみなきせさせ給ひけるによめる　　曾禰好忠

禁中

宗集ナシ
御鑰守・其燒火・○在共・吾心・中社有
ミカキモリ　ヱシノタクヒニ(イ)(不予)　ソノタクヒニハ　アラネトモ　ワレモコヽロノウチニコソアレ　タケ(行本)

延喜の御時八月十五日夜藏人所のをのこども月の宴し侍りけるに

中務 イ

拾遺
爰・光寒氣・秋月・雲上社・思被レ遣
コヽニタニヒカリサヤケキアキノツキ　クモノウヘコソ　オモヒヤラルレ

藤原經臣

古京

新古今春題不知讀人シラス
磯神・古京・來見者・昔笄・花曾笑梟
イソノカミ　フルキミヤコニキテミレハ　ムカシカサシヽハナソ　サキニ巳上行本　サキケリ
中務集 淸正集 ワタリヲ(中)

故宮付故宅

古今哀
無レ君・煙斷・鹽釜・浦凄敷・見度哉
キミナクテ　ケフリタエニシシホカマノウラ　サヒシクモミエワタルカナ　マサテ(古)

河原の左のおほひまうちきみの身まかりて後かの家にまかりて有けるにしほかまといふ所のさまをつくれりけるを見てよめる

貫之

六帖カナシヒ
無レ君・荒宿・自二板間一月漏・袖沾梟
キミナクテ　アレタルヤトノ　イタマヨリ　ツキノモルニモ　ソテハヌレケリ　マサテ(六)

古者・散哉人之・惜驗・今花社・昔請
イニシヘハ　チルヲヤヒトノ　ヲシミケン　イマハハナコソムカシコフラン　ハナコソイマハ(拾)

一條攝政

拾遺哀傷、謙德公中納言ニテ忠マカリカクレテノチ、ヒエノ西坂本ニ侍ケル山里ニ人々マカリテ花ヲ見侍ケルニ

後拾雜三小大君
チルヲコソアハレトミシカ梅花ハナヤコトシハ人ヲシノハム

仙家付道士隱倫

古今
濕乾・山路菊・露間・爭我・千世經覽
ヌレテホス　ヤマチノキクノツユノマニ　イツカチトセヲワレハ(行本イ古同)　イカテカワレハチヨヲヘヌラム
寬平菊合

仙宮に菊をわけて人のいたれるかたをよめる

素性

山家

古今讀人シラス
山里・物凄左・事有・世自レ憂・栖吉假梟
ヤマサトハ　モノヽサヒシサ　コトソアル(コソアレ(古))　ヨノウキヨリハ　スミヨカリケリ　ワヒシキ
モノサヒシカルコトハアレト行本

古今
山里者・冬凄左・増梟・人目草・枯奐思
ヤマサトハ　フユソサヒシサ　マサリケル　ヒトメモクサモ　カレヌトオモヘハ

冬ノ心トテヨメル

宗干

田家

拾遺
春田•人任而•我者只•花心•盡計曾
ハルノタヲ ヒトニマカセテ ワレハタヾ ハナニコヽロヲ ツクスハカリソ
ツクルコロカナ(拾) ツクルケフカナ(行本)

承平四年中宮ノ賀シ玉ヒケル時屏風ニ　齋宮內侍

○六帖 古今ヨミ人シラス 貫之集
昨日社•早苗取•何間•稻葉•秋風吹
キノフコソ サナヘトリシカ イツノマニ イナハモソヨト アキカセノフク
脫字乎 ソ(行本) イナハソヨキテ(古)ソヨグ(戰鬪)

躬恒 行本 敏行 イ

○家集 トキスキハサナヘモイタクオヒヌヘシアメニモ田子ハサハラサラナム　貫之
行能本 ソヨグ 戰 文集

隣家

六帖貫之 家集
君宿•我宿懸•杜若•映矣時•見人哉
キミカヤト ワカヤトカケテ カキツハタ ウツロハストキ ミムヒトモカナ
ワクル(行本、六同) ワカヌイ 不乎 ウツロハヌマニ(行本)

伊勢 行本誤

映、字彙相照也。樋口氏

山寺

拾遺題不知讀人不知 詞花
山寺•入相鐘之•每聲•今日暮•聞悲敷
ヤマテラノ イリアヒノカネノ コヱコトニ ケフモクレヌト キクソカナシキ
ニケル(詞)(イ)

詞花
木下•爲栖則•自•花看人•可成矣哉
コノモトヲ スミカトスレハ オノツカラ ハナミルヒトニ ナリヌヘキカナ
ナリニケルカナ(イ行本)

修業シアリカセタマフケルニ、櫻花ノサキタリケル下ニヤスマセ給ヒテ、ヨマセタマフ　花山法皇

清少納言、皇后宮山チカキ入相ノ鐘ノ聲コトニコフル心ノカスハシラナム

榮花物語、みはてぬ夢、花山院所々あくがれありかせ給ふて、園城寺なといふ所におはしまして、櫻のいみしう面白きをみて、見めぐらせ給ひて、ひとりごたせ給ひける、このもとを―

佛事

拾遺
何•然與•君•若菜•法爲•今日摘臬
イツシカト キミニトオモヒシ ワカナヲハ ノリノタメニソ ケフハツミケル
恩 ミチ(拾) ツル(行本、拾同)

天暦の御時、故きさいの宮の御賀せさせ給はんとて侍けるを、宮うせ給ひにければ、やかて其まうけして、御誦經おこなはせ給ひける時　村上御製

拾遺
極樂•晴氣道•聞連•勤而到•處也臬
コクラクハ ハルケキホトヽ キヽシカト ツトメテイタル トコロナリケリ
シカト

極樂ヲネカヒテヨミ侍ル　仙慶法師 拾　千載集 空也上人

千載
阿耨多羅•三藐三菩提•佛達•吾立傍•冥加有給
アノクタラ サミャクサンホタイノ ホトケタチ ワカタツソマニ ミャウカアラヒタマヘ
ソマニ(行本、新同)

新古今比叡山中堂建立時　傳教大師

此世•菩提種•栽則•君可引•身成矣
コノヨニテ ボダイノタネヲ ウヱツレバ キミガヒクベキ ミトゾナリヌル

九條左相府

僧

後撰
多羅地禰・掛兎・優婆玉・我黒髪・不撫有（行本）ム　撫乎　　はしめてかしらおろし侍ける時物にかき付侍ける　良僧正

字書云

拾遺題シラス讀人シラス
世中・牛車・無則・思之家・如何出間敷（拾）
ミワカハノ續古今題シラス行木同　任乎
水上・濤流・雪而任・我名更・又乎汚　江談　玄賓

事ニ江談云

閑居

古今
吾宿・道無迄・荒梟・無例人・待爲間　列乎　良僧正

眺望

古今
見渡者・柳櫻・茹交而・京春・錦○梟　也乎　花さかりに京をみやりてよめる　素性

餞別

後撰離別
想像・心計者・不碍於・何阻覽・峰白雲　しほくまかりける人に餞し侍りける所にて　橘直幹

毎乎　乎敷
季直・春別於・憐共・人後・人曾知梟　元眞

家集
古今リヘツ
壽而・心叶・物成者・何乎別之・可悲假　源のさねかつくしへゆあみんとてまかりける時に、山崎にてわかれをしみける所にてよめる　白女

行旅

古今羇旅ヨミ人不知左注人丸
似々・明石浦・朝霧・島藏行・舟推思　人丸

同別
和田原・八十島掛・漕出・人告・天釣舟　おきの國になかされける時に舟にのりて出たつとて京なる人のもとにつかはしける小野篁　野相公

相像

○道トホク雲井ハルカノ山中ニ又トモナカヌ鳥ノ聲カナ　行能本

○イカテカハ人ニモトハム（ニナホ(イ)）アヤニシキハオモハヌ中ノエサルマシキヲ　行本

詞書云

丞、顕倉長陵切

ウテノ使、討手ノ使也。村上帝ノ時純友ガ亂ノ時ノコト也。

刺史ハ國司也、此歌コヽニ入ル事御製ニ有疑。日本紀竟宴歌、得大鷦鷯天皇藤原時平タカトノニノホリテミレハアメノシタヨモニケフリテイマソトミヌル。

拾遺　有レ便・爭京・告遣・今日白川・關越（タヨリアラハイカテミヤコヘツケヤラムケフシラカハノセキハコエヌト）　兼盛

みちのくにしら河のせきこえ侍けるに

庚申（カウ）

袖中抄　沖中・漁無レ方・釣舟・海士先立・魚先立（オキナカノイサルカタナキツリフネハアマサキタツウヲヤサキタツ）　エサル(行本)　トキ(イ)

帝王付法皇

古今小注王仁　難波津・笑此花・冬籠・今春部・笑此花（ナニハツニサクヤコノハナフユコモリイマヲハルヘトサクヤコノハナ）　ハ(古、行本同)

散矣・又來春者・笑梟・千年後・君於賴（チリヌレトマタコムハルハサキニケリチトセノノチハキミヲタノマム）　ヌヘシ(行本)　光孝 小松天皇

親王付王孫（ソン）

拾遺　伊加留伽・富小河・絶者社・我大君・御名忘（イカルカヤトミノヲカハノタエハコソワカオホキミノミナハワスレメ）　カノ(行本、拾同)　達磨本　大師行本　拾遺　ウエ人

丞相付執政（シヤウシヤウ）

新古今　古今小注　山櫻・飽迄色・見津留哉・花可レ散・風吹間（ヤマサクラアクマテイロヲミツルカナハナチルヘクモカセフカヌマニ）　不乎　ヨニ(行本同)　兼盛

家集、たのゝみやのおとゝの櫻花御覧しにおはしましたりしに、詞云、此歌は月輪寺の花見侍りける時よみ侍りける

清愼公月輪寺の花見侍ける時よみ侍ける

少將軍（グン）

撰雜一　公忠家集　玉梳・下・再・世。逢・君・身・乍レ明・哉・者・有・思（タマクシゲフタトセアハヌキミカミヲアケナカラヤハアランドオモヒシ）　不乎　兼緋　公忠

大和物語小野好古朝臣、西の國のうての使にまかりて、二とせといふとし、四位には必まかりなるへかりけるを、さもあらすなりにけれは、かゝることにしもさされにける事のやすからぬよしを、うれへをくりて侍ける文のかへりことのうらに、書付てつかはしける

刺史　判行本

新古賀　仁德天皇　高屋・上見則・煙立・民竈者・賑梟（タカキヤニノホリテミレハケフリタツタミノカマトハニキハヒニケリ）

御調物ゆるされて國とめるを御覧して

詠史

カソイロハ(一本、行本)
第則・如何憐・思覽・三季成矣・足立間 アシタヽズシニ(同上同)　—後江相公 本

日本紀竟宴歌得伊弉諾尊大江朝綱
カソイロハアハレトミスヤヒルノコノミトセニナリヌアシタヽズシテ　—大江朝綱

王昭君

トシヲヘテミ
足引・山隱成・杜鵑・聞人無・音鳴覽 ノミソナク(行本) 已上拾遺　—實方 拾同

○ミルタヒニ鏡ノカケノツラキカナカヽラサリセハカラマシヤハ 行能卿本

家集ナシ

妓女

ニヨ字 尼與切

古今
天津風・雲通路・吹閉・弟妻姿・暫留　—良岑宗貞 五[illegible]

遊女

新古今題シラス讀人シラス ツクス(新)
白浪・寄渚・夜過・海士子則・宿不レ定 スクル(行本同)　—海人詠 本

老人

拾遺 キテミル時ニコソ(拾虎頭)
宇集 キテ(行本同)不字
磨鏡・底成影・向而楚ニ知翁・逢心地爲　—躬恒

イツカタニ クニカ(行本)
何方・身寄間・世中・老ニ厭・人仕無則 キ于九切 不字　—爲頼

交友

新千載題シラス讀人シラス戀
與レ君我・何成事・契・昔世社・知間。梟 親字乎　—イ村上御製

古今
誰而知人爲高砂松昔友無
（タレヲカモシル人ニセン高砂ノ松モ昔ノ友ナラナクニ）
藤興風

懷舊

古今雑ヨミ人不知
古野中冷水濕梟本心知人楚酌
（イニシヘノノナカノシミヅヌルケレトモトノコヽロヲシル人ソクム）

拾遺
昔不懸思土旦計怪敷目波立哉
（ムカシヲハカケシトオモヘトカクハカリアヤシクメニモミツナミタカナ）（拾、行本同）
イニシヘヲサラニカケシトオモヘトモ拾 ノ（行本） カ（拾）
村上御製
右大臣の女御うせ侍りにければ父おとどのもとにつかはしける

拾遺哀傷
世中有間敷者思人無多成梟哉
（コノナカニアラマシカハトオモフヒトナキハオホクモナリニケルカナ）
榮花物語
爲頼
むかし見侍りし人々おほくなくなりたる事を歎くを見侍りて

述懷

古今俳諧讀人不知
爲何身徒老矣覽季之思事慙敷
（ナニヲシテミノイタヅラニオイヌラントシノオモハムコトモヤサシキ）（古、行本同）
オナシコト新行本ミ

新古今
世中者兎角可有宮也蒿屋終無
（ヨノナカハトテモカクテモアリヌヘシミヤモワラヤモハテシナケレハ）
蟬丸

拾遺
旦計難經見世中浦山敷澄月哉
（カクハカリヘカタクミユルヨノナカニウラヤマシクモスメルツキカナ）
シハシタニ（拾、行本同）
榮花物語
藤原高光
法師にならんと思ひたち侍ける比、月を見侍りて

慶賀

新勅撰ヨミ人不知
嬉左昔者袖包梟今夜身餘矣哉
（ウレシサヲムカシハソテニツヽミケリコヨヒハミニモアマリヌルカナ）

祝

伊藤長胤曰、按祝者頌禱之謂

古今賀ヨミ人不知
ワカキミハ（古）
君代千代哉千代磊岩成苔蒸迄
（キミカヨハチヨニヤチヨニサヽレイシノイハホトナリテコケノムスマテ）

拾遺賀
萬代御嵩山曾呼成天下社長閑梟
（ヨロツヨトミカサノヤマソヨハフナルアメノシタコソノトケカリケリ）
タノシカルラン（拾已上、行本同）
仲算

江談

磊、字彙音雷、衆石皃、前漢書磊落。

戀

古今 我戀者・行末不レ知・終無・逢限・思計　躬恒

類宛、來夜餘多・成則・不レ待思・待增　人丸

六帖、コムトイヒテコザリシヨルモ有シカハマタヌシモコソ待ニマサレル

古今 今來・言計・長月・有明月・待○律留哉　素性

無常

拾遺 世中・何喩・朝曙・漕行舟・跡之白浪　滿誓法師

萬葉 世中・夢耶覺・々共・夢共不レ知・有無則

世中心ほそくおほえて常ならぬ心地しければ公忠朝臣のもとによみてつかはしける、此あひだ病おもくなりにけり、左注此うたよみてほどなくなくなりにけるとなん

拾遺哀 手結・水宿・月影之・有無之・世有哉　貫之

新古今後 末露・下滴也・世中・後先・矯仕成覽　良僧正

家前集 世ノハカナサイト、思ヒシラレテ侍シカハ

白

白々志・爲レ白夜月影・雪蹈分・梅花折

西行撰集抄、村上ノ帝ノ末比、公任ノ中將ニ梅ノ花折テマイレトテツカハサレケルニ、ホトナク雪ヲチラサズ折テマイリ玉フニ、帝イカ、思フトオホセノ有ケルニ、カクコソヨミ侍リツレ、シラ〳〵シ……

萬葉緯卷第十四終

萬葉緯 十五　出雲風土記

萬葉緯卷第十五

目錄

出雲國風土記 全篇

意宇郡郷一拾壹、里卅、餘戸壹、驛家參、神戸參、里六、

母利郷　屋代郷　楯縫郷　安來郷　山國郷

飯梨郷　舍人郷　大草郷　山代郷　拜志郷

宍道郷　餘戸里　野城驛家　黑田驛家

宍道驛家　出雲神戸　賀茂神戸　忌部神戸

嶋根郡郷捌、里廿五、餘戸壹、驛家壹、

山口郷　朝酌郷　手染郷　美保郷　方結郷

加賀郷　生馬(和名)嶋郷　法吉郷　餘戸里　千酌驛

秋鹿郡郷肆、里十二、神戸壹、里

惠曇郷　多太郷　大野郷　伊農郷　神戸

楯縫郡郷肆、里十二、餘戸壹、里神戸壹、

佐香郷　楯縫郷　玖潭郷　沼田郷　神戸里

出雲郡郷捌、里廿二、神戸里二、

健部郷(和名 建)　漆沼郷　河內郷　出雲郷　杵築郷

伊努郷　美談郷　宇賀郷　神戸郷(イ 里)　里二

神門郡郷捌、里廿二、餘戸壹、驛家貳、神戸壹、里

朝山郷　日置郷　鹽冶郷　八野郷　高岸郷

古志郷　滑狹郷　多伎郷　餘戸里　狹結驛

多伎驛　神戸里

飯石郡郷漆、里一十九、

能谷郷　三屋郷　飯石郷　多禰郷　須佐郷

波多郷　來島郷

仁多郡郷肆、里一十二、

三處郷　布勢郷　三津郷(和名 署)　横田郷

大原郡郷捌、里廿四、

神原郷　屋代郷　屋裏郷　佐世郷　阿用郷

海潮郷　來次郷　斐伊郷

萬葉緯　卷第十五

洛東隱士似閑編緝

風土記

續日本紀第六元明天皇、和銅六年五月甲子制、畿內七道諸國、郡鄕名著好字、其郡內所生銀銅彩色草木禽獸魚蟲等物、具錄色目、及土地沃塉、山川原野名號所由、又古老相傳舊聞異事、載于史籍言上云云　朝野群載卷第二十一、雜文上云、諸國召風土記官符、太政官符、五畿七道諸國司、應早速勘進風土記事、右如聞、諸國可有風土記文、今被左大臣宣偁、宜仰國宰令勘進之、若無國底探求部內、尋問古老早速言上者、諸國承知、依宜行之(イ)。不得延廻(イ)、符到奉行　參議左大辨從四位上兼行讚岐守源朝臣恒、外從五位下行右大史阿部宿禰忠行、延長三年十二月十四日、云云　本朝書籍目錄云、風土記事見扶桑略記云云、今案、元正天皇雖開風土記端紀中不見撰進之文、又或曰、仁明帝撰之、延喜時全備、不審、憶自元正帝以後、往往依撰進之不載史籍歟、至出雲國風土記卷末書云、天平(聖武天皇)五年二月卅日勘造之、云云　此間雖勘造之或不全或亡失歟、依茲延喜賢主展轉反側探求諸國官符云、可有諸國風土記文、則以往全備　明矣、書目雖書事見扶桑略記所載風土記篇亦亡焉、惜哉不傳、仰而可嘆、今適全部　出雲一國而已、雖有流布本不免傳寫誤、今以出雲國造文庫所秘本爲篇首、餘者諸書採所引證殘篇遺紙爲好古者次之耳

先年出雲國吏出雲郡風土記ノ抄ヲ見ル、與レ今合テ與郡所々分明ナリ。

出雲國風土記

國之大體、首レ震尾レ坤、東南宮、北屬レ海、東一百卅七里一十九歩、南北一百八十三里一百九十三歩

一百歩

、、、

七十三里卅二歩

、、、、、

得而難可誤

老細思レ枝葉裁ニ定詞源一、亦山野濱浦之處・鳥獸之棲・魚貝海菜之類・良繁多。悉不レ陳、然不レ獲レ止粗擧レ梗槩以成レ記趣、所ミ以號ニ出雲一者、八束水臣津野命詔、八雲立詔之故云ニ八雲立出雲一、

合神社・參佰玖拾玖所、

壹佰捌拾肆所 在ニ神祇官一

貳佰壹拾伍所 不レ在ニ神祇官一

玖郡郷陸拾壹、里一百七十九餘戸肆、驛家陸、神戸漆、里一十

於字 意宇郡郷一拾壹里卅、餘戸壹、驛家參、神戸參、里六

之末 嶋根郡郷捌、里廿五、餘戸壹、驛家壹、

安伊加 秋鹿郡郷肆、里一十二、神戸壹、里

多天奴比 楯縫郡郷肆、里一十二、餘戸壹、神戸壹里。

出雲郡　郷捌（里廿二）神戸壹（里二）

（加夜止）神門郡　郷捌（里廿二）餘戸壹、驛家貳、神戸壹（里一）

（伊比之）飯石郡　郷漆（里十九）

（阿以多）仁多郡　郷肆（里十二）

（於保波良）大原郡　郷捌（里廿四）

已上（古文）

右件郷字者、依靈龜元年式改里爲郷、其郷名字者被神龜三年民部省口宣改之。

（傾和名鈔、此外有漢部郷爲十郡、百郷有七十六、餘戸驛家、神戸等混合）

意宇郡

合郷壹拾壹（里卅）、餘戸壹、驛家參、神戸參（里六）

（和名）爲意宇郡之内
母理郷　本字文理

（同）屋代郷　今依前用

（同）楯縫郷　今依前用

（同）安來郷　今依前用

（同）山國郷　今依前用

（和名）南部共無
飯梨郷　本字云成（飯（イ））

（和名）爲能義郡之内
舍人郷　今依前用

（和名）大草郷　今依前用
（同）山代郷　今依前用
（同）拜志郷　本字林
（同）完道郷　今依前用　以上壹拾壹、別里參
餘戶里
黑田驛家
（和名）在能義郡
野城驛家
完道驛家
（和名）能義意宇兩郡有神戶
出雲神戶
（和名）能義郡
賀茂神戶
（同）意宇郡
忌部神戶
所以號意宇者、國引坐八束水臣津野命詔八雲立出雲國者狹布之稚國在哉、初國小所作、故將作縫詔、而栲衾志羅紀乃三埼矣、國之餘有耶見者、國之餘有詔、而童女胷鉏所取而、大魚之支太衝別而、波多須須支穗振別而、三身之綱打挂而、霜黑葛聞々耶々爾、河船之毛々曾々呂々爾、國々來々、引來縫國者、自去豆乃折絶而八穗米支豆支乃御埼、以此而堅立加志者石見國與出雲國

和名鈔、此外有能義郡口縫、意宇郡來待筑陽爲郷
千字注
霜黑葛
闇々眼々モヤノ\ニトヨムヘシ、古ハ古事ヲ古事ニ等此例多矣、毛々曾々呂々是亦モソロ\トヨムヘシ

一毋、櫟ハイチヒ
倭字違、余未平
和名鈔、能義郡母理

神龜三年詔紀中无、見和銅六年紀此間三十三年
和名鈔、能義郡屋代。

之堺有名佐比賣山是也、亦持引綱者、薗之長濱是也、亦北門佐伎之國矣、國之餘有耶見者、國之餘有詔而、童女胸鉏所取而、大魚之支太衝別而、波多須々支穗振別而、三身之綱打挂而、霜黑葛闇々耶々爾、河船之、毛々曾々呂々爾、國々來々、引來縫國者、自多久乃折絕而狹田之國是也、亦北門良波乃國矣、國之餘有耶見者、國之餘有詔而、童女胸鉏所取而、大魚之支太衝別而、波多須々支、穗振別而、三身之綱打挂而、霜黑葛闇々耶々爾、河船之、毛々曾々呂々爾、國々來々、引來縫國者、自宇波折絕而闇見國是也、亦高志之都都乃三埼矣、國之餘有耶見者、國之餘有詔而、童女胸鉏所取而、大魚之支太衝別而、波多須々支穗振別而、三身之綱打挂而、霜黑葛闇々耶々爾、河船之、毛々曾々呂々爾、國々來々引來縫國者、三穗之埼、接引綱夜見嶋、堅立加志者、有伯耆國火神岳是也。今者國者引訖。詔而意宇社爾御杖衝立而、意惠登詔、故云意宇。所以號意宇社者、郡家東北邊田中在塾是也、圍八步許、其上有一以茂。

母理鄉、郡家東南卅九里一百九十步、所造天下大神、大穴持命。越八口平賜而還坐時、來坐長江山而詔、我造坐而命國者、皇御孫命平世所知依奉、但八雲立出雲國者、我靜坐國、青垣山廻賜而、玉珍直賜而守詔、故云文理。神龜三年改字母理。

屋代鄉、郡家正東卅九里一百廿步、天乃夫比命御伴天降來坐伊支等之遠神、天津子命詔、吾淨將坐志社詔、故云社。神龜三年改字屋代。

楯縫鄉、釋日本紀引之・郡家東北卅二里一百八十步、布都努志命之天石楯縫直給之故、云楯縫、

安來郷、郡家東北廿七里一百八十歩、神須佐乃烏命、天壁立廻坐之、爾時來坐此處而詔、吾(カ)(イ)御心者、安平成詔、故云安來也、即北海有邑、曰賣埼(賈下)、飛鳥淨御原宮御宇天皇御世甲戌年七(白鳳三)月十三日、語臣猪麻呂之(イ)女子、逍遙件埼、邂逅遇和爾、所賊不切(飯乎)、爾時父猪麻呂所賊女子斂買上(賣乎リニ)、大發苦憤、號天踊地、行吟居嘆、晝夜辛苦、無避斂所、作是之間、經歷數日、然後興慷慨志、麻呂箭鋭鋒、撰便處居、即擡訴云、天神千五百萬、地祇千五百萬、并當國靜坐三百九十九社、及海若等、大神之和魂者靜而、荒魂者皆悉依給、猪麻呂之所乞(乞乎)、良有神靈坐者、吾所傷(和爾乎)給、以此知神靈之所神者、爾時有須臾而和爾百餘、靜圍繞一和爾、徐率依來、從於居下不進不退、猶圍繞耳、爾時擧鋒而刄中(矢(イ))大一和爾殺捕、已訖然後、百餘和爾解散、殺割者、女子之一脛屠出、仍和爾者殺割而掛串、立路之垂也、(安來郷人語臣與之父也、自爾時以來至于今日經六十歳)

山國郷、郡家東南卅二里二百卅歩、布都努志命之國廻坐時、來坐此處而詔、是土者、不止欲見詔、故云山國也、即有正倉、

飯梨郷、郡家東南卅二里、大國魂命、天降坐時、當此處而御膳食給、故云飯成(神龜三年改字飯梨)、

舍人郷、郡家正東廿六里、志貴島宮御宇天皇御世、倉舍人君等之祖、日置臣志毘大舍人供奉之、即是志毘之所居、故云舍人、即有正倉、

大草郷、郡家南西二里一百廿歩、須佐乎命御子、青幡佐久佐日古命坐、故云大草、

顯宗紀室壽採擧棟梁者此家長御心之林也。

御心之波夜志（萬葉集）

和名鈔　能義郡野城。

愛子（神代紀）

和名鈔　能義郡加茂。

山代郷、郡家西北三里一百廿歩、所造天下大神大穴持命御子、山代日子命坐、故云山代也、即有正倉。

拜志郷、郡家正西廿一里二百一十歩、所造天下大神命將平越八口爲而幸時、此處樹林茂盛、尒時詔、吾御心之波夜志詔、故云林（神龜三年改字拜志）即有正倉。

完道郷、郡家正南（西(イ)）卅七里、所造天下大神命之追給猪、像南山有二（一長二丈七尺、高一丈、周五丈七尺、一長二丈五尺、高八尺、周四丈一尺）、追猪犬、像（長一丈、高四尺、周一丈九尺）、其形爲石無異猪犬、至今猶有（在リ(イ)）、故云完道。

餘戸里、郡家正東六里二百六十歩、（依神龜四年編戸、立一里、故云餘戸也。○他○郡○如○也(イ)ナシ）

野城驛、郡家正東廿里八十歩、依野城大神坐、故云野城。

黑田驛、郡家同處、郡家西北二里有黑田村、土體色黑、故云黑田、舊此處有是驛、即號曰黑田驛、今郡家屬東、今猶追舊黑田號耳。

完道驛、郡家正西卅里（說名如郷）

出雲神戸、郡家南西二里廿歩、伊弉奈枳乃麻奈古坐熊野加武呂乃命與五百津鉏々猶所取々而所造天下大穴持命二所大神等依奉、故云神戸（他郡等之神戸如是）

賀茂神戸、郡家東南卅四里、所造天下大神命之御子、阿遲須枳高日子命坐葛城賀茂社、此神之神戸（子(イ)）、故云鴨（神龜三年改字賀茂）即有正倉。

神吉詞式作神壽詞トモニカンノヨゴト、讀ヘキ證也。カンホギゴト、讀ムハ非ナリ。

忌部神戸、郡家正西廿一里二百六十歩、國造神吉詞望（讀(イ)）參向朝廷時、御沐之忌玉、故云忌部、卽川邊出湯、出湯所在兼海陸、仍男女老少、或道路駱驛、或海中沼洲日集成市・繽紛燕樂、一濯則形容端正（也(イ)）。再沐則萬病悉除、自古至今無不得驗、故俗人曰神湯也。

教昊寺（寺(イ)在(イ)）。舍人郷中、郡家正東廿五里一百廿歩、建立五層塔（之(イ)也(イ)）。（有僧）教昊僧之所造也（散位大初位下上腹首押猪之祖父也）

新造院一所（在乎）。山代郷中、郡家西北四里二百歩、建立嚴堂也（無僧）。日置君自烈之所造也、（出雲神戸日置君鹿(イ)猪麻呂之祖也）

新造院一所、在山代郷中、郡家西北二里、建立嚴堂、住僧一軀、飯石郡少領出雲臣弟山之所造也。

新造院一所、在山國郷中、郡家東南卅（廿(イ)）一里百廿歩、建立三層之塔也、山國郷人遣那根緒之所造也。

熊野大社　夜麻佐社（山狹(式)）　賣豆貴社

加豆比乃社（勝日(式)）　由貴社　加豆比乃高社（守(式)）

都俾志呂社（辨(式)）　玉作湯社　野城社

伊布夜社（揖(式)）　支麻知社（來待(式)）　夜麻佐社（同社坐久志美氣濃神社(式)）

野白社（城(イ)＼同社坐大穴持神社(式)　ヒ乎）　久多美社　佐久多社

多乃毛社（田面(式)）　須多社　眞名井社

布辨社　斯保彌社（美(式)）　意陀支社（多伎(式)）

市原社　久米社　布吾彌社

仁壽元年九月庚午朔乙酉、特擢出雲國熊野杵築兩大神並加從三位、貞觀元正廿七正三位、同五月廿八日授二位（元正三位勳七等）

貞觀十三年十一月十日授出雲國正五位上湯神從四位下（脫玉作二字是乎）

來待川、記中

意字與能義兩郡犬牙相接有此混合乎。

能義郡野城訓耳。

又案三代實錄廿云、

貞觀十三年十一月十日授出雲國從五位上能美神正五位下。

今案、无此神、疑寫生義誤作美耶。

舍利十、青屋社（青屋此云伊乃阿乎）、古事記、出雲國之伊賦夜坂及揖屋。

貞觀九年五月二日、出雲國從五位下揖屋神授從五位上、十三年十一月十日正五位下

仁壽元年九月庚午朔乙酉、御譯命等並授從五位下、貞觀七年十月廿八日從五位上

仁壽元年九月庚午朔乙酉、青幡佐草壯丁命等並授從五位下是乎、元慶二年三月三日授出雲國正五位下青幡佐草壯丁命正五位上。

宍道社
賣布社
狹井社 佐(式)

狹井高守社
宇流布社 同守(式)誤字
伊布夜社 同社坐韓國伊太氐神社(式)

布自奈社 大穴持神社(式)
同布自奈社 布(式)
山宇社

野代社
野代社 (式)無
佐久多社 同社坐韓國伊太氐神社(式)

伊陀支社 意 同社坐御譯神社(式)
前社
田中社

詔門社
楯井社
速玉社

石坂社 簀(式)
佐久佐社 筑陽(式)
多加比社 賣 日(式)

山代社
調屋社 ツキヤ
同社 坐調夜都武自和氣神社(式) 以上四十八所並在神祇官

宇由比社
支布佐社 興(ヒ)
毛社乃社

那富乃夜社
支布佐社
國原社

田村社
予穗社
同予穗社

伊布夜社
阿太加夜社 宇(イ)
須多下社

河原社
布宗社
米那爲社

加和羅社
笠柄社
志多備社

食師社 以上一十九所並不在神祇官

山

長江山、郡家東南五十里（有水精）

暑垣山、郡家正東八十步（有烽）

高野山、郡家正東一十九里

能野山、郡家正南一十八里（有檜檀也、所謂熊野大神之社坐、）

久多美山、郡家西南廿三里（有社）

玉作山、郡家西南三十二里（有社）

神名樋山、郡家西北三里一百廿九步、高八十丈、周六里卅二步（東有松三方並有茅）

凡諸山野所在草木、麥門冬、獨活、石斛、前胡、高良姜、連翹、黃精、百部根、貫衆、白朮、薯蕷、苦參、細辛、商陸、藁本、玄參、五味子、黃芩、葛根、牡丹、藍漆、薇、藤、李、檜（字或作梧）、杉（字或作榀）、赤桐、白桐、楠、椎、海榴（字或作椿）、楊梅、松、栢（字或作柏）、蘗、槻、禽獸則有鵰、晨風（字或作隼）、山雞（鵰晨皆依此（イ））、鳩、鶉、鵯（字或作雜黃）鴟、鵄（作横致、悪鳥也）、能、狼、猪、鹿、兎、狐、飛鼯（字或作鼺作鼯／鼯字）獼猴之族、至繁多、不可題之。

川

伯太川、源出仁多與意宇二郡堺、葛野山、流經母里、楯縫、安來三郷入于海（有年魚、伊久比）

（伊久比今語二字久比者乎。重本）

山國川、源出郡家東南卅八里、枯見山、北流入于伯太川。

飯梨河、源有レ三（一ノ水源出二仁多大原意宇三郡ノ堺田原一、一ノ水源ハ出二枯見一、一ノ水源ハ出二仁多郡玉嶺山一）三水合北流入二于海一。

筑陽川、源出二郡家正東一十里一百歩荻山一、北流入二于海一。有二年魚一

意宇川、源出二郡家正南一十八里熊野山一北流東折流入二于海一（有(イ)〇年魚伊久比）

野代川、源出二郡家西南一十八里須我山一、北流入二于海一

玉造川、源出二郡家正西一十九里〇志山一、流入二于海一（有二年魚一）

來待川、源出二郡家正西廿八里和奈佐山一、西流至二山田村一、更折北流入二于海一。（有二年魚一）

完道川、源出二郡家正西卅八里幡屋山一、北流入二于海一（無レ魚）

池

津間抜池、周二一里四十歩一、有二鳧鴨芹菜一

眞名猪池、周一里北入レ海、

〇留乎
門江濱（伯耆ト與二出雲一二國ノ堺自レ東行レ西）

〇嶋乎
子嶋（礒(イ)ナシ）

粟嶋（有二椎、松、多年木、宇竹眞嶋等葛一）

砥神嶋、周三里一百八十歩、高六十丈（有二椎・松・莘薺頭・蕎・山高・都波・師大等ノ草木一也）

賀茂嶋（礒）

羽嶋 有二椿・比佐木・多年木・蕨・薺頭・蒿一

鹽楯嶋 有二蓼・螺子・永蓼一

野代海中蚊嶋、周六十步、中央涅土四方並礒 中央有毛捄許木一株。其礒有レ蚊有二螺子海松一 自レ茲以西濱、或峻堀、或平土並是通道之所レ經也。

道通二國東堺手間剗一卅一里一百八十步、通二大原郡堺林垣峯一卅二里百步、通二出雲郡堺佐雜埼一卅一里卅步、通二嶋根郡堺朝酌渡一四里二百六十步

前件一郡入レ海之南北則國務也。是(イ)

郡主司主張 無位海臣 無位出雲臣

少領從七位上勳業出雲

主政外少初位上勳業林臣

擬主政無位出雲臣

（伊呂波字類抄）
剗 セキ
六帖、セキ、八雲タツイツモノクニノテマノセキイカナルテマニ人サハルラム
同、マテシハシ人シリミムヤ我セコヲト、メカネテソテマトナツケシ
堀河百首、[illegible]顯、サリトモト思ヒシカトモ八雲タツテマノ關ニモ秋ハトマラス

嶋根郡

合郷捌、里廿、餘戸壹、驛家壹、

山口郷 今依レ前用

朝酌郷 今依レ前用

和名鈔ノ加ニ多久千酌ニ寵ノ鈔ニ十郷ト

丁寧ネモコロ　萬葉

手染郷　今依レ前用
美保郷　今依レ前用
方結郷　今依レ前用
加賀郷　本字加加
生馬郷　今依レ前用
法吉郷　今依レ前用　以上捌郷別里参
餘戸里
千酌驛家（イ）

所ヨ以號ニ嶋根郡ト、國引坐ス八束水臣津野命之詔而順（貫イ）給、故名ニ嶋根ト

朝酌郷、郡家正南一十里六十四歩、熊野大神命詔、朝御饌勘養、夕御饌勘養、五贄緒之處定給、故云レ朝酌。

山口郷、郡家正南四里二百九十八歩、須佐能烏命御子、都留支日子命詔、吾敷坐山口處在詔、而故山口負給

手染郷、郡家正東一十里二百六十。（四イ）歩、所レ造天下大神命詔、此國者丁寧。所（所イ）造國在詔、而。（故イ）丁寧負（頭イ）給、而今人猶誤謂ニ手染郷ト之耳、卽有ニ正倉ニ。

美保鄕、郡家正東廿七里一百六十四歩、所造天下大神命、娶高志國坐神、意支都久辰爲命子、俾都久辰爲命子、奴奈宜波比賣命、而令產神御穗須須美命、是神坐矣、故云美保。

方結鄕、郡家正東廿里八十歩、須佐能烏命御子、國忍別命詔、吾敷坐地者國形宜者、故云方結。

生馬鄕、郡家西北一十六里二百九歩、神魂命御子、八尋鉾長依日子命詔、吾御子平明不憤、詔故云生馬。

加賀鄕、郡家北西二十四里一百六十歩、佐加地賣命、闇岩屋哉詔、金弓以射給、時光加加明也、故云加加。

法吉鄕、郡家正西一十四里二百卅歩、神魂命御子、宇武加比賣命、法吉鳥化而飛度、靜坐此處、故云法吉。

餘戶里　說名如意宇郡。

千酌驛家、郡家東北一十九里一百八十歩、伊佐奈枳（差（イ））命御子、都久豆美命、此處坐、然者則可謂都久豆美、而今人猶千酌號耳。

布自伎彌社　多氣社　久良彌社（椋見社記中）
同波夜都武志社　川上社　長見社（長見川記中）
門江社　横田社　加賀社（加加明記中）

娶マクト通ズ。古語マイ歟マキ歟未攷。種孝

篝火　赫　カヽハユキ　加賀國。

多多鄕（楯名）、楯鳴（記中）、久與多通是乎。布自枳美高山（記中）

爾佐社（美佐嶋記中 壬生ニ了）　爾佐加志能（能（式））爲社　法吉社（法吉鳥記中）

生馬社　美保社（美保留（記中））（以上十四所並在神祇官）

大崎社　大崎川邊社　朝酌社

朝酌下社　努那彌社　椋見社

大井社　阿羅波比社　三保社

多久郷以下諸社當在於此。種季

多久社　蜛蝫社　同蜛蝫社

質（簾（イ））開比社　方結社　玉結社

川原社　虫野社　持田社

加佐奈子社　比加夜社　須義社

伊奈須美社　伊奈阿氣社　御津社

比津社　玖夜社　同玖夜社

田原社　生馬社　布夜保社

加茂志社　一夜社　小井社

加都麻社　須衛都久社（以上卅五所、並不在神祇官）

山

布自枳美高山、郡家正南七十二百一十步、高二百七十丈、周一十里（有烽　千家清主本）

女岳山、郡家正南二百卅步

蝨野、郡家西南三里一百步、無樹木

毛志山、郡家北一里

大倉山、郡家東北九里一百八步

糸江山、郡家東北廿六里卅步

小倉山、郡家正西廿四里一百六十步

凡諸山所在草木、白朮、麥門冬、藍漆、五味子、獨活、葛根、薯蕷、萆薢、狼毒、杜仲、芍藥、紫胡、苦辛、百部根、石斛、藁本、藤李、赤桐、白桐、海柘榴、楠、楊、松栢。禽獸則、鷲（字或作鵰）隼、雉、山雞、鳩、雉、猪、鹿、猿、飛鼯。

川

水草川、源二（一水源出郡家北三里一百八十步、毛志山、一水源出郡家西北六里一百六十步、同毛志山）二水合南流入于海。有鮒。

長見川、源出郡家東北九里一百八十步大倉山東流。

大鳥川、源出郡家東北一十二里一百一十步墓野山南流、二水東流入于海。

野浪川、源出郡家東北廿六里卅步糸江山西流入大海。

加賀川、源出郡家正北廿四里一百六十歩小倉山、北流入大海。

多久川、源出郡家西北二十四里小倉山、西流入秋鹿郡佐太水海。（以上六川並無魚、少少川也。）

法吉坡、周五里、深七尺許、有鴛鴦、鳧、鴨、鯉、鮒、須我毛。（當夏之節、尤有美菜。）

前原坡、周二百八十歩、有鴛鴦、鳧、鴨等之類。

張田池、周一里卅歩。

匏池、周一里一百一十歩。（生蒋。）

美能夜池、周一里。

口池、周一里一百八十歩。（有蒋、鴛鴦。）

敷田池、周一里。（有鴛鴦。）

南入海

（白海行東）

朝酌促戸渡、東有通道、西有平原、中央渡則筌亘東西、春秋入出大小雜魚、臨時來湊、筌邊駈駭、風壓水衝、或破壞筌、或製日鹿於鳥被捕、大小雜魚濱藻家闐市人四集、自然成鄽矣。（自入東至于）

（駭下　音駭　形皆二切、黄白色、又馬走貌。駭　手駭切、馬行也、又無知也。）

（大井濱之間南北二濱、並捕日魚、水深也。）

朝酌渡、廣八十歩許、自國廳通海邊道矣。

大井濱、則有海鼠海松、又造陶器也。

邑美冷水、東西北山並嵯峨、南海澶漫中央鹵瀾磷。男女老少時叢集常燕會地矣。

（寒水　日本紀　成務紀乎。　サムキミモイ）

前原埼、東北並籠㠑、下則有陂、周二百八十歩、深一丈五尺許、三邊草木自生涯、鴛鴦、鳧、鴨、隨時常住、陂之南海也、卽陂與海之間濱、東西長一百歩、南北廣六歩、肆松蓊鬱、濱鹵淵澄、男女

本草綱目、鮫魚部、鼻前有レ骨如レ斧斤、能擊レ物壞レ舟者曰二鋸沙一。

今按蜛蝫訓多古乎、今俗用二蛸字一。

薺頭蒿、牡蒿異名。和名八波ニ計久左。

隨レ時叢會。或愉樂歸、或耽遊忘レ歸、常燕喜之地矣。

蜛蝫島、周一十八里一百步高三丈、古老傳云、出雲郡杵築御埼有二蜛蝫一、天羽合鷲掠二持飛燕一來止二于此島一、故云(曰(イ))二蜛蝫島一、今人猶誤栲(多久(和名))島號耳、土地豐渡、西邊松二株、以外茅沙、薺頭蒿、蕗、等之類生靡、(卽有レ牧)去レ陸三里蜛蝫島周五里一百卅步、高二丈。

古老傳云、有二蜛蝫嶋一蜛蝫食二來蜈蚣一止二居此島一、故云二蜈蚣島一、東邊、神社、以下(外(イ))皆悉百姓之家。

土體豐渡草、木扶疎、桑麻豐富、此淵(津乎)所謂島里是也矣、(去レ津二里一百步、)卽自レ此島達二伯耆國郡內一。

夜見島、磐石二里許、廣六十步許、乘レ馬猶往來、鹽滿時深二尺五寸。鹽(許(イ))乾時者已如二陸地一。

和多太嶋、周三里二百二十步、(有二椎(椎(イ))、海石榴、白桐、松、芋、茱、薺頭蒿、蕗、都波、猪、鹿一)去レ陸渡一十步、不レ知レ深淺。

差佐島、周二百六十步、高四丈、(有二椎、橿、茅、葦、都波、薺頭蒿一)

戸江剗、郡家正東廿里一百八十步(非レ島二陸地ノ濱耳、伯耆ノ郡(國(イ))內夜見島將二相向一之間也。)

栗江埼(相二向フ夜見ノ島一促戸渡二百一十六步、)埼之西入レ海堺也、凡南入レ海所在雜物、入鹿、和爾、鯔、須受枳、近志呂、鎮仁、白魚、海鼠、鰝、鰕、海松、等之類、至多。不レ可レ令レ名、北大海埼之東大堺也。(猶自レ西行レ東)

鯉石島(生レ海藻)　大島(磯)

宇由比濱、廣八十步(捕二志毗魚一)

盜道濱、廣八十步(捕二志毗魚一)

澹山比濱、廣五十歩（捕ニ志毘魚ー）

加努夜濱、廣六十歩（捕ニ志毘魚ー）

美保濱、廣一百六十歩（西ニ有ν[illegible]、北ニ有ニ百姓之家ー、捕ニ志毘魚ー）　美保埼（[illegible]）

等等島、（[illegible]）土島、礒　久毛等浦、廣一百歩（自ν東行ν西ニ十船可ν泊）

黒島（生ニ海藻ー）　這田濱、長二百歩

比佐島（生ニ紫菜海藻ー）　長島（生ニ紫菜海藻ー）

比賣島　礒　結島門、周一里卅歩、高一十丈、（有ニ松、[illegible]、薺頭蒿ー）

御前小島、礒　質開北浦、廣二百廿歩、（有ニ南神社ー北ハ百姓之家、卅船可ν泊）

久宇島、周一里卅歩、高七尺、（有ニ椿、松、白朮、小竹、薺頭蒿、都波、芽ー）

加多比島　礒

船島　礒　屋島、周二百歩、高廿丈、（有ニ椿、松、薺頭蒿ー）

赤島（生ニ海藻ー）　宇氣島（同ν前）

黒島　礒　粟島、周二百八十歩、高一十丈、（有ニ松、芽、都波ー）

玉緒濱、廣一百八十歩（有ν碁石、東邊ニ有ニ唐砥ー又有ニ百姓之家ー）　小島、周二百卅歩、高一十丈、（有ニ松、芽、薺頭蒿、都波ー）　方結濱、廣一百八十歩、（東西有ν家）

勝間埼、周有ニ二窟ー（一ハ高サ一丈五尺、裏ノ周リ一十八歩、一ハ高サ一丈五尺、裏周二十歩、）　鳩島、周一百廿歩、高一十丈、（有ニ都波、茨ー）

質留比浦見上

唐砥

鳥島、周八十二步、高一十丈五尺、有見椙（鳥（イ））
黑島 生紫菜海藻。信按重出
須義濱、廣二百八十步
衣島、周一百廿步、高五丈、中鑿南北船猶往來也。
稻上濱、廣一百六十步、有百姓之家。
稻積島、周卅八步、高六丈、有松木鳥之栖、中鑿南北船猶往來也。大島礒。千酌濱、廣一里六十步、東有松林、南方驛家、北方百姓之家アリ、郡家西北廿九里一百八十步、（一十（イ））此則所謂度隱岐國津定矣。
如志島、周五十六步、高三丈、有松。
赤島、周一百步、高一丈六尺、有松。
葦浦、廣一百廿步、有百姓之家。
黑島、生紫菜海藻 𪚲島 同前
附島、周二里一十八步、高一丈、有椿、松、薺頭蒿、芋菜、都波也。其薺頭蒿者、正月元日生、長サ六寸。
蘇島 生紫菜海藻。中鑿南北船猶往來也。
眞屋島、（ナシ（イ））周八十六里、（ナシ（イ））高五丈、有松。
松島、周八十步、高八丈、有松林。

薺頭蒿、或説、和名鈔ニ薺蒿トカキテオハギトイヘル草アリ。萬ニ野邊ノウハギヲツミテ𛂞ラシモトヨメル是也。薺頭蒿モ薺蒿歟。オホツカナシ、ウハキハ今俗ヨメカハキトイヘル物歟。

立石島、礒　瀬埼（[illegible]）

野浪濱、廣二百八十步、（東邊有神社、又有百姓之家。）

鶴島、周二百一十步、高九丈、（有松。）

間島（生海藻）　毛都島（生紫菜海藻。）

川來門大濱、廣一里一百步、（有百姓之家。）

黑島（有海藻）　小黑島（生海藻。）

加賀神埼即有窟、一十丈許、周五百二步許、東西北通。所謂佐太大神所産生也、産生臨時、弓箭亡坐、爾時御祖神魂命御子、枳佐賣命、願、吾御子麻須羅神御子坐者、所亡弓箭出來、願坐、爾時角弓箭隨水流出、于時所子詔、子此者非弓箭詔而擲廢給、又金弓箭流出來、即待所之坐而闇鬱窟哉詔而射通坐、即御祖支佐加地賣命社坐此處、今人又是窟邊行時必聲磕磕而行、若密行者神現而飄風起、行船者必覆。

御島、周二百八十步、高一十丈、中通東西（有松、栢、椿。）

葛島周、一里一百一十步、高五丈、（有椿、松、小竹、茅、葦。）

櫛島、周二百三十步、高一十丈、（有松林。）

許意島、周八十丈、（イ同）高一十丈、（有茅、葦、松林。）

眞島、周一百八十步、高一十丈、（有松林。）

比羅島（生紫菜海藻）　黒島（同前）
名島、周一百八十歩、高九丈、（有松）　赤島（生紫菜海藻。）
大崎濱、廣一里一百八十歩、（西北有百姓之家。）
須須比崎（有白朮）
御津濱、廣二百八歩、（有百姓之家）　三島（生海藻。）
虫津濱、廣一百廿歩、手結埼濱邊（有二檜）　宿（高一丈、裏周卅歩、）　手結浦、廣卅武歩、（船二許可泊。）
久宇島、周一百卅歩、高七尺、（有松）凡此海所捕雜物、志毗、朝鮐、沙魚、烏賊、蜛蝫、鮑魚、螺、蛤貝、（字或作蚌菜）
蕀甲嬴（字或作石経子）　甲嬴蓼螺子（字或作螺子）　螺蠣子、石華（字或作蠣、犬脚也、或膩、於脚者勢也。）　白貝、海藻、海松、紫菜、凝海菜、等之
類、至繁、不可令稱也。
通道通意宇郡朝酌渡、一十一里二百廿歩之中、海八十歩、通秋鹿郡堺佐太橋、一十五里八十歩、通隱岐
渡千酌驛家湊、一十一里一百八十歩

郡司主帳無位出雲臣
大領外正六位下社部臣
少領外從六位上社部右臣
主政從六位下勳業蝮朝臣

秋鹿郡

合郷肆、里十二、神戸壹

惠曇郷　本字惠伴

多太郷　今依前用

大野郷　今依前用

伊農郷　本字伊努　以上郷肆里參

神戸郷（和名无）里（イ）

所以號秋鹿者、郡家正北秋鹿日女命坐（坐歟）、故云秋鹿矣。

惠曇郷、郡家東北九里卅（卅（イ））歩、須作能乎命御子、磐坂日子命、國巡行坐時、至坐此處而詔、此處者國稚美好有、國形如畫鞆哉、吾之宮者是處造（事（イ））者、故云惠伴（神龜三年改字惠曇）

多太郷、郡家西北五里一百廿歩、須作能乎命之御子、衝杵等乎而留比古命、國巡行坐時、至坐此處詔、吾御心照明正眞成、吾者此處靜將坐詔而靜坐、故云多太。

大野郷、郡家正西一十里廿歩、和加布都努志能命、御狩爲坐時、卽郷西山狩人立給（賜（イ））而、追猪犀北方上之至阿內谷而、其猪之跡亡失、爾時詔、自然哉、猪之跡亡失詔、故云內野、然今人猶誤大野號耳。

伊農郷、郡家正西一十四里二百歩、出雲（雲（イ））郡伊農郷坐、赤食伊農意保須美比古佐和氣能命之后、天

甕津日女命、國巡行坐時、至坐此處而詔、伊農波夜詔、故云伊努、神龜三年改字伊農

神戸里 出雲之說名如意宇郡

○社

、佐太御子社　、比多社　、御井社

、垂水社　、惠梯毛社　、許曾志社

、大野津社　、宇多貴社　、大井社

、宇智社 內(已上五) 以上一十所並在神祇官

惠曇海邊社　、同海邊社　、怒多之社

郡牟社　多太社　同多太社

出島社　阿之牟社　田仲社

彌多仁社　細見社　下社

伊努社　毛之社　草野社

秋鹿社 以上十五所(六乎)並不在神祇官

山

神名火山、郡家東北九里卌步、高二百三十丈、周四里、所謂佐太大神社即彼山下也。

足日山、郡家正北一里、高一百七十丈、周一十里二百步。
女心高野山、郡家正西一十里廿步、高一百八十丈、周六里、土體豐渡百姓之膏腴之園也矣、無レ樹林、但上頭在レ樹林、此則神社也。
都勢野山、郡家正西一十里廿步、高一百一十丈・周五里、無レ樹林、嶺中有レ澤周五十步、雚、藤、荻、芽、等物叢生、或叢峙、或伏水、鴛鴦住也。
今山、郡家正西一十里廿步、周七里。
凡諸山野所レ在草木、白朮、獨活、女青、苦參、貝母、牡丹、連翹、茯苓、藍漆、女委、細辛、蜀椒、署蕷、白歛、芍藥、百部根、薇蕨、薺頭蒿、藤李、赤桐、白桐、椎、椿、楠、松、柏、槻。
禽獸、則有二鵰、晨風、山雞、鳩、雉、猪、鹿、兎、狐、飛鼯、獼猴一。

伏水 仙覺萬葉註釋云

女青 和名鈔云

川

佐太川、源二（東ノ水源ハ島根郡ノ所謂ル多久川是ナリ、西ノ水源ハ出二秋鹿郡渡村一）二水合南流入二佐太水海一、即水海周七里、有レ鮒 水海通入海潮、長一百五十步、廣一十步。
山田川、源出二郡家西北七里一、湯大南流入二于海一。
多太川、源出二郡家正西一十里、女心高野一、南流入二于海一。
大野川、源出二郡家正西一十三里、磐門山一、南流入二于海一。

甗甑（字彙云、——ハ燒墼也、瓫也。）

草野川、源出郡家正西一十四里、大繼山、南流入于海。
伊農川、源出郡家正西一十六里、伊農山、南流入于海。
長江川、源出郡家東北九里卌步、神名火山、南流入于海。（以上七川並無魚）

池

（改書四字、北四字アリ、恐次字、依例之）○参陂、周六里、有鴛鴦、鳧、鴨、鮒、四邊生葦蔣菅、自養老元年以往、荷蕖自然叢生太多、二年以降自然至失、都無莖、俗人云、其底陶器瓱甅（鼠子）等類多有也、自古時時人溺死、不知深淺矣。
深田池、周二百卌步。（有鴛鴦鳧鴨）
杜原池、周一里二百步、蜂峙池、周一里。
佐久羅池、周一里一百步、（有鴛鴦）南方入海、春則在（有子）鯔魚、須受枳、鎮仁、鰝、鰕等大小雜魚、秋則在（有子）白鵠、鴻鴈、鳧、鴨等、島北大海、惠曇濱廣、二里一百八十步、東南並在家、西野北大海、即自浦至于在家之間、四方並無石木、猶白沙之積、大風吹時、其沙或隨風雲零、或居流蟻散、掩覆桑麻、即有彫鑿磐壁三所（一所ハ厚サ三丈、廣一丈（イ）。高八尺、一所ハ厚三（イ）二丈、廣一丈、一所厚二丈、廣一丈、高一丈）其中通川、北（流テ（イ））海入大海、（川ノ東島根ノ郡。西ハ秋鹿ノ郡内也）自（也（イ））川口至南方田邊之間長一百八十步、廣一丈五尺、源者田水也、上文所謂佐太川西源是同處也矣。
凡渡村田水南北別耳。
古老傳云、島根郡大領社部臣訓麻呂之祖波蘇等依稻田之澇所彫掘也。起浦之西礒、盡楯縫

郡之堺、自毛埼之間濱壁等崔嵬。雖風之靜往來船無由停泊頭矣。

白島 生紫菜 御島、高六丈、周八十歩。有松三株

都於島礒 著穗島 生海藻

凡北海所在雜物、鮎、沙魚、佐波、烏賊、鯦魚、螺、貽貝、蚌、甲蠃、螺子、石華、蕀子、海藻、

海松、紫菜、凝海菜。

通道通島根郡堺、佐太橋八里二百歩、通楯縫郡堺、伊農橋二十五里一歩(イ)

郡司主帳外從八位下勳業早部臣、

大領外正八位下勳業刑部臣

權任少領從八位下蝮部臣

楯縫郡

合郷肆 里一十二 餘戸壹 神戸壹

佐香郷　今依前用

楯縫郷　今依前用

玖潭郷　本字忽美

沼田郷　本字努多

以上肆郷、別里参

神戸里

（釋日本紀引之）所以號楯縫者、神魂命詔、五十足天日栖宮之縦横御量、千尋栲縄持而、百結結、八十結結而、此天御量持而、所造天下大神之宮造奉詔而、御子天御鳥命楯部為而、天下給之爾時、退下來坐而、大神宮御裝楯造始給所是也、仍至今楯桙造而奉於皇神等、故云楯縫。（已上釋）

佐香郷、郡家正東四里一百六十歩、佐香河内、百八十神等集坐、御厨立給而、今醸酒給之、即百八十日喜讌解散坐、故云佐香。

楯縫郷、即属郡家。（説名如郡）即北海濱、業利礒有窟、裏方一丈半、高廣各七尺、裏南壁在穴、口周六尺、徑二尺、人不得入、不知遠近。

玖潭郷、郡家正西五里二百歩、所造天下大神命、天御飯田之御倉、將造給並覓巡行給、爾時波夜佐雨久多美乃山詔、故云忽美。（神亀三年改字玖潭）

沼田郷、郡家正西八里六十歩、宇乃沼比古命、以爾多水而御乾飯爾多爾食坐詔而、爾多負給之、然則可謂爾多郷、今人猶云努多耳。（神亀三年改字沼田）

（爾多ハ、今言ウ無味ヲ、ニヽノヽ味ト云、又味アリテモ、和カニテ無味ヲモ、ニヽノヽトスルト云。）

餘戸里（説名如神戸里。）（出雲也、説名如意宇郡。）（意宇ノ八字无イ）

寺

新造院、一所在沼田鄕中、建立嚴堂也、郡家正西六里一百六十步、大領出雲臣太田所造也。

社

久多美社（玖濃）　多久社　佐加社（香(イ)）

乃利斯社（能呂志）　御津社　水神社

宇美社　許豆社　同社（以上九所並在神祇官）

○又許豆乃社（許豆乃社(イ)ナシ(イ)）　○許豆社（又(イ)）　久多美社

同久多美社　高守社　又高守社

紫菜島社　鞆前社　宿努社

猗田社　山口社　葦原社

又葦原社　又葦原社　峴之社

阿年知社　葦原社　田田社（以上一十九所不在神祇官）

阿年、知阿年知乎。靈異記、阿年知乃子又掩知子云々。

山

神名樋山、郡家東北六里一百六十步、高一百廿丈五尺、周廿一里八十步、嵬西在石神、高一丈、周一丈、往側在小石神百餘許、古老傳云、阿遲須枳高日子命之后、天御梶日女命、來坐多忠村、產給多伎都比古命、爾時教詔、汝命之御祖之向位欲生此處宜也。所謂石神、卽是多伎都比古命之御

麻奈加比池

託當畢、已雨時必令零也。

阿豆麻夜山、郡家正西（北イ）五里卅歩。

見椋山、郡家西北七里。

凡諸山所在草木、蜀椒、漆、麥門冬、茯苓、細辛、白蘞、杜仲、人參、升麻、署預、白朮、藤李、榧楡、

椎、赤桐、白桐、（梧イ）海石榴、楠、松、槻。

禽獸則有鵰、晨風、鳩、山雞、猪、鹿、兎、狐、獼猴、飛鼯（鼺イ）。

川

佐香川、源出郡家東北所謂神名樋山東南流入于海。

多久川、源出郡家東北。（。。。ナシ（イ））神（同（イ））名樋山西南流入于海。

都宇川、源二（水（イ））東ノ川源ハ出阿豆麻夜山、西川源ハ出見椋山、二水合南流入于海。

宇加川、源出同見椋山南流入于海。

池（イ）

麻奈加比池、周一里一十（二百（イ））歩。（可欠字）大東池、周一里。（同）亦南（市（イ）、池乎）周一里二百歩、沼田池、周一里五十歩。

長田池、周一里一百歩、南入海、雜物等如秋鹿郡説。

北大海自毛埼 秋鹿ト與楯縫二郡ノ堺、崔嵬クリ、松柏鬱、即有晨風之栖也。

佐香濱、廣五十步、己自都濱・廣九十二步。
御津島（生紫菜） 御津濱、廣卅八步。 能呂志島（生紫菜） 能呂志濱・廣八步。 鎌間濱、廣一百步、蒲豆椎長（島周字）里一百步、廣
一里。（周礒峨ク リ、上有松紫菜芋） 許豆島（生紫菜） 許豆濱廣一百步、（出雲與楯縫二郡之堺）
凡此（北(イ)）海所在雜物、如秋鹿郡說、但紫菜者楯縫郡尤優也。
通道通秋鹿郡堺伊農川八里二百六十四步、（通字）出雲郡堺宇賀川七里一百六十步。

郡司主帳無位物部臣
大領外從七位下勳業出雲臣
小領外正六位下勳業高善臣（史(イ)）

出雲郡

合鄉捌（里廿二(イ)）神戸壹 里二

健部鄉 今依前用
漆沼鄉 本字志司沼
河內鄉 今依前用
出雲鄉 今依前用
杵築鄉 本字寸村

伊努郷　本字伊農

美（三(イ)）談郷　本字三太三　以上漆、郷別里參(イ)

宇賀郷　今依前用　里貳(イ)

神戶郷（里(イ)）　里二、

所以號出雲者、說名如國也。

健部郷、郡家正東一十二里二百廿四步、先所以號宇夜里者、宇夜都辨命・其山峯天降坐之、卽彼神之社、主今猶坐此處、故云宇夜里、而後改所以號健部（耶(イ)）之、纏向檜代宮御宇天皇勅、不忘朕御子倭健命之御名、健部定給（耶(イ)）、爾時神門臣・古彌健部定給、卽健部臣（耶(イ)）等自古至今猶居此處、故云健部。（耶(イ)）

漆沼郷、郡家正東五里二百七十步、神魂命御子、天津枳値可美高日子命御名、亦（又(イ)）云薦枕志都沼値之、此神鄕中坐、故云志司沼。（神龜三年改字漆沼）卽有正倉。

河內郷、郡家正南一十三里一百（三(イ)）。步（九十七(イ)）、斐伊大河此鄕中北流、故云河內、卽郡有優。長一百七十丈五尺（一(イ)恐脫字乎）。七十（丈之廣七丈九）十丈、廣廿四丈五尺

出雲郷、卽屬郡家、（說名如國）

杵築郷、郡家西北二十八里六十步、八束水臣津野命之、國引給之後、所造天下大神之宮將奉、與諸

皇神等參集宮處杵築、故云寸付、（神龜三年改字杵築）

伊努郷、郡家正北八里七十二步、國引坐意美豆努命御子、赤衾伊努意保須美比古佐倭氣能命之社、即坐郷中、故云伊農、（神龜三年改字伊努）

美談郷、郡家正北九里二百四十步、所造天下大神御子、和加布都努志命、天地初判之後、天御領田之長、供奉坐之、即彼神坐郷中、故云三太三、（神龜三年改字美談）即正倉。

宇賀郷、郡家正北一十七里二十五步、所造天下大神命、誂坐神魂命御子、綾門日女命、爾時女神不肯逃隱之時、大神伺求給所、是則此郷也。故云宇賀、即北海濱有礒、名腦礒、高一丈許、上生松、（有）菜、至礒里（尾イ）人之朝夕如往來、又木枝人之如攀引、自礒西（以下釋日本紀引）方有窟戸、高廣各六尺許、窟内在穴、人不得入。（又イ）不知深淺也。多（夢）至此礒窟之邊者必死、故俗人自古至今號黄（土）泉之坂、黄泉之穴也。

（以上釋日）

神戸郷、（里イ）郡家西北二里一百步。（出雲也、說名如意宇郡）

寺

新造院一所、有（在乎）河內郷中、建立嚴堂也、郡家正南一十三里一百步、舊大領日置部臣布彌之所造、（今大領佐宣麿之祖父。）

社

杵築大社	御魂社	御向社
出雲社	御魂社	伊努社
意保美社（父（式）武（式））	曾致乃夜社（只（式））	
牟久社（久 牟（イ） 女（イ））	審伎乃夜社（曾乎 下神名火山下）	
阿受伎社（須）	美佐伎社（御 埼）	伊奈佐乃社（因）
彌太彌社（美 談）	阿我多社	伊波社（卯）
阿具社（吾）	都牟自社	久佐加社
故努波社（婆（イ））	阿受枳社（須 伎）	加守社
布世社	同阿受枳社	
神代社（カムシロ）	加毛利社（立（イ））	來坂社
伊農社	同社	同社
鳥屋社	御井社	爾豆伎社
同社	同社	阿受枳社（（イ））
同社	同社	同社
同社	同社	同社

今五十九所不審

同社
同社
伊努社
阿陀彌社（阿彌陀（沖）・等彌社（式））
韓銍社（カラ蛭イ・鉇（式）・銍鎌乎（沖））
波彌社（ノ知（式））
御前社
阿受枳社（支（イ））
同阿受枳社
同社
同社
同社
同社
同社
同社

同社
同社
同社
縣社
加佐加社（伽（イ））
立蟲社　以上五十八所（並在神祇官）
同御埼社
同阿受枳社（支（イ））
同阿受支社
同社
同社
同社
同社
同社
同社

同社
來坂社
同社
斐提社（ヒ・シロ代（式））
伊自美社（甚）
支豆支社
同社
同社
同社
同社
同社
同社
同社
同社

同社　同社　同社
同社　○同努社（イ）ナシ　四縣社　五彌陀彌社
二同伊努社　三同社　七同社
八同社（イ）ナシ　六同彌陀彌社　九同社
十已上（イ）同社　同社　同社
同社　同社　同社
伊彌波社　都牟自社　同社
彌努波社　山邊社　同社
同社　間野社　布西社
波加社　佐支多社　支比佐社
神代社　同社　百枝槐社　已上六十一所並不在神祇官

山

神名火山、郡家正東（イ）南三里一百五十歩、高一百七十五丈、周一十五里六十歩、曾支能夜社坐、伎比佐加美高日子命社、即在此巖、故云神名火山。

出雲御埼山、郡家西北廿七里三百六十歩、五（イ）高三百六十丈、周九十六里一百六十五歩、西下所謂所造天

斐伊川下

下大神之社坐也。

諸山野所在草木、萆薢、百部根、女委、夜干、商陸、獨活、葛根、薇藤李、蜀椒、楡、赤桐、白桐、椎、椿、松、栢。

禽獸、則有晨風、鳩、山雞、鶬、猪、鹿、狼、兎、(狐(イ))獼猴、飛鼯也。

川

出雲大川、源自伯耆與出雲二國堺鳥上山流出仁多郡橫田村、即經橫田三處。澤布勢等四郷、出大原郡堺引沼村、即經來次、斐伊、屋代、神原四郷、出出雲郡堺多義村、經河內出雲二郷、北流更折西流、即經伊努杵築二郷、入神門水海、此則所謂斐伊川下(上乎)也、河之西邊、或土地豐渡、土穀桑麻稔欵枝百姓之膏腴薗也。或土體豐渡草木叢生也、則有年魚、鮭、麻須、伊具比、魴鱧等之類、潭端雙泳自河口至河上橫田村之間、五郡百姓便河而居(出雲、神門、飯石、仁多、大原郡)起孟春至季春校材木船沼沂河中也。

意保美小川、源(八自乎)。出雲御碕山北流入大海。(有年魚少少)

池江

(頂(イ))土負池、周二百卅步。(可欠字)須須比池、周二百五十步。

西門池、(江(イ))周三里一百五十八步、東流入于海。(有鯔)

戸船

大方江、周二百卅四步、東流入于海。（有鮒）

二江、源者並田水所集矣、東方入于海、三方並平原遼遠、多山雞、鳩、鳧、鴨、鴛鴦等之族也。

東方入海、所在雜物如秋鹿說也。

北大海宮松埼（有楯縫與出雲郡之堺）　意保美濱、廣二里一百廿步

氣多島（生紫菜、海松、有鮑螺、蕀甲蠃）

井吞濱、廣卅二步

宇太保濱、廣卅五步

大前島、高一丈、周二百五十步（生海藻）

腦島（生紫菜海藻、有松栢）

鷲濱、廣二百步

黑島（生海藻）

手結濱、廣廿步

爾比埼、長一里卌步、廣廿步、埼之南本東西通戶船猶往來、上則松叢生也。

宇禮保浦、廣七十八步。（船廿計可泊）

山埼、高卅九丈、周一里二百五十步。（有椎、楠、椿、松）

子負島磯、大椅濱、廣一百五十歩

御前濱、廣一百廿歩。有百姓之家

御厳島生海藻

御厨家島、高四丈、周廿歩。有松

等等島有蠻石穴。

怪聞埼、長三十歩、高卅二歩。有松

意能保濱、廣一十八歩、

粟島生海藻

黒島同前

這田濱、廣一百歩。

二俣濱、廣九十八歩。

門石島、高五十丈、周四十二歩。有鷲之栖

薗（島乎）。長三里一百歩、廣一里二百歩、松繁多也矣、即自神門水海通大海潮（江（イ））長参里、廣一百廿歩、此則出雲與神門二郡堺也。凡此海所在雜物、如楯縫郡説、但鮑出雲郡尤優、所捕者所謂御崎海子是也。

薗松山（神門郡）薗下脱松字並島字乎。

通道、通二意宇郡堺佐雜村一、一十三里六十四步、◦（通乎）神門郡堺出雲大河邊一、二里六十步、通二大原郡堺多義村一、一十五里卅八步、通二楯縫郡堺宇加川一、二十四里二百卄步。

郡司主帳無位若倭部臣
大領外正八位下置部臣
小領外從八位下太臣
主政外大初位下◦（脫字乎）部臣

神戶郡

合鄉捌、里廿二、餘戶壹、驛貳、神戶壹、

朝山鄉　今依前用　里二
日置鄉（ナシ（イ））　今依前用　里參
鹽冶鄉　本子（字（イ））止屋　里參
八野鄉　今依前用　里參
高岸鄉　本字高峰（岸（和名））　里參
古志鄉　今依前用　里參
滑狹鄉（南佐（和名））　今依前用　里二

和名鈔、八郷外有伊秩、狭結爲狭三郷。

多伎郷　本字多吉里參

餘戸里

狭結驛（和名爲郷）　本字最邑

多伎驛　本字多吉

神戸里

所以號神門者、神門臣伊賀曾然之時、神門貢之、故云神門、卽神門臣等、自古至今常居此處、故云神門。

朝山郷、郡家東南五里五十六歩、神魂命御子、眞玉著玉之邑日女命坐之、爾時所造天下大神、大穴持命娶給而毎朝通坐、故云朝山。

置郷、郡家正東四里、志紀島宮御宇天皇之御世、置伴部等所遣來宿停而爲政之所也。故云置郷。

鹽冶郷、郡家東北六里、阿遲須枳高日子命御子、鹽冶毘古能命坐之、故云止屋。（神龜三年改字鹽冶）

八野郷、郡家正北三里二百一十歩、須佐能袁命御子、八野若日女命坐之、爾時所造天下大神、大穴持命將娶給爲而令造屋給、故云八野。

高岸郷、郡家東北二里、所造天下大神御子、阿遲須枳高日子命、甚晝夜哭坐、仍其處高屋造可坐之、卽建高椅可登降養奉、故云高岸。（神龜三年改字高崖）

古事記、古志國

古志鄕、卽屬郡家、伊弉奈彌命之時。以日淵川築造池之、爾時古志國人等到來而爲堤卽宿居之所也、故云古志也。

滑狹鄕、郡家南西八里、須佐乃袁命御子、和加須世理比賣命坐之、爾時所造天下大神命、娶而通坐、時彼社之所有磐石、其上甚滑之、卽詔滑磐石哉。故云南佐。神龜三年改字滑狹

多伎鄕、郡家南西二十里、所造天下大神之御子、阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之、故云多吉。神龜三年改字多伎

餘戶里、郡家南西三十八里、六(イ) 說名如意宇郡

狹結驛、郡家同處、古志國佐與布云人來居之、故云最邑。神龜三年改字狹結也(イ)。其所以來居者、說名如古志鄕也。

多岐驛、郡家西南一十九里。說名卽如多岐鄕

神戶里、郡家東南一十里。說名如意宇郡

細書以千家淸主本補之

寺。

新造院一所、有朝山鄕中、郡家正東二里六十步、建立嚴堂也、神門臣等之所造也。

淸主云、本當作建

新造院一所、有古志鄕中、郡家東南一里、本立嚴堂、刑部臣等之所造也。

社

•美久我社　•阿濱理社 須(式)　•比布知社

神名帳、廿七座、今二座脱乎。

•支比布知社　•多吉社　•夜牟夜社
矢野社　波加佐社　•奈賣佐（伎）社
•知乃（伊）社　•淺（朝）山社　•久奈爲社
•佐志牟社　•多支（伎）枳（藝）社　阿利社
•阿如（禰）社　•國村（持（イ））社　•那賣佐（伎）社
•阿利社　•大山社　•保乃加社
•多吉（伎）社　夜牟夜社　同夜牟夜社
比奈社　以上廿五所並在神祇官

鹽夜（冶（イ））社　火守社　•同鹽夜（冶（イ））社
久奈子社　同久奈子社　加夜社
小田社　波加佐社　同波加佐社
多支社　多支支社　波須波社　已上十二所並不在神祇官

山

田俣山、郡家正南一十九里、有二梠枌一
長柄（ナカエ）山、郡家東（正（イ））南一十九里、有二梠枌一

吉栗山、郡家西南二十八里、有檜杉也、所謂所造天下大神宮（在乎）。狹造山也。

宇比多伎山、郡家東南五十六步、大神之鄉屋也。

稻積山、郡家東南五里七十六步、大神之稻積也。

隱山、郡家東南五里八十六步、大神之御陰。也乎

稻山、郡家正東五里一百一十六步、東在樹林（木（イ））三方並礒也、大神之御稻種（ナシ（イ））。也乎

桙山、郡家東南五里二百五十六步、南西並有樹木（林（イ））北並礒也、大神之御桙（ミホコ）。也乎

冠山、郡家東南五里二百五十六步、大神之御冠。也乎

凡諸山野所在草木、白蘞、桔梗、藍漆、龍膽、商陸、續斷、獨活、白芷、秦椒、百部根、百合、卷柏、石斛、升麻、當歸、石葦、麥門冬、杜仲、細辛、茯苓、葛根、薇蕨、藤李、蜀椒、檜、杉、榧、赤桐、白桐、椿、槻、柘、楡、蘗、楮（アリ）。

禽獸則有鵰、鷹、晨風、鳩、山雞、鶉、鶻、猪、狼、鹿、兎、狐、獼猴、飛鼯也。

川

神門川、源出飯石郡琴引山、北流即經來島、波多、須佐三鄉、出神門郡餘戶里、門立村（土（イ））即神戶、朝山、古志等鄉西流入水海也。則有年魚、鮭、麻須、伊具比。

多岐小川、源出郡家西南卅三里、多岐岐山（（イ）ナシヨリ）北西流入大海。有年魚。

池

宇加池、周三里六十步

來食池、周一里一百四十步 有レ菜

笠柄池、周一里六十步 有レ菜

刺屋池、周一里

水海

神門水海、郡家正西四里五十步、周卅五里七十四步、裏則有鯔魚、鎭仁、須受枳、鮒、玄蠣也。卽水海與大海之間在山、長廿二里二百卅四步、廣三里、此者意美豆努命之國引坐時之綱矣。今俗人號云薗松山地之形體壤石並無也、白沙耳積上、卽松林茂繁、四風吹時、沙飛流掩埋松林、今年埋半遺恐遂被埋已與。起松山南端美久我林盡石見與出雲二國堺中島埼之間或平須或凌礒、凡此海所在雜物如楯縫郡說、但無紫菜。

通道 通出雲郡堺出雲川邊七里廿五步、通飯石郡堺堀坂山一十九里、通同郡堺與曾紀村廿五里一百七十四步、通石見國安濃郡多伎伎山卅三里、路貫 有別 通同安濃郡川相鄉卅六里、

徑常引不有、但當有政時權置。前件伍郡並大海之南也。

郡司主帳無位刑部臣

路貫

大領外從七位上勳業神門臣
擬小領外大初位上勳業刑部臣
主政外從八位下勳業吉備部臣

飯石郡

合郷漆 里一十九

能谷郷 今依前用

三屋郷 本字 今字三刀矢

飯石郷 本字伊鼻志

多禰郷 本字種

須佐郷 今依前用 以上伍郷、別里參

・波多郷 今依前用

來島郷 本字支自眞 以上貳郷別里貳

所以號飯石者、飯石郷中、伊毘志都幣命坐、故云飯石。

能谷郷、郡家東北二十六里、古老傳云、久志伊奈太美等與麻奴良比賣命任身及將産時、求處生之、爾時到來此處詔、甚久麻久麻志枳谷在、故云能谷。

和名鈔、此外有草原田井二郷爲九郷。

三屋郷、郡家東北廿四里、所造天下大神之御門、即在此處。故云三刀矢。神龜三年改字三屋。即在正倉。

飯石郷、郡家正東一十二里、伊毗志都幣（弊(イ)）命、天降生（坐(イ)）處也、故云伊鼻志。神龜三年改字飯石。

多禰郷、屬郡家、所造天下大神、大穴持命與須久奈比古命巡行天下時、稻種墮此處、故云種。神龜三年改字多禰。

須佐郷、郡家正西一十九里、神須佐能袁命詔、此國雖小國、國處在、故我御名者、非著木（水(イ)）石、詔、而即己命之御魂鎭置給之、然即大須佐田、小須佐田定給、故云須佐。即有正倉。

波多郷、郡家西南一十九里、波多都美命天降坐處在、故云波多。

來島郷、郡家正南卅六里、（一(イ)）伎自麻都美命坐、故云伎自眞。神龜三年改字來島。即有正倉。

和名鈔、飯石郡田井鄕

社

・須佐社　・河邊社　・（三）御門屋（屋(ナシ)）社
・多倍（位(イ)）社　・飯石社（以上五處並在(イ)有神祇官）
狹長社　飯石社　田中社
多加社　毛利社　兎比社
日倉社　井草社　深野社
託和社　上社　葦麻（麗(イ)）社

粟谷社　穴見社　神代社

志志乃村社（以上十六所並在（イ）不有神祇官）

山

燒村山、郡家正東一里

穴厚山、郡家正南一里

笑村山、郡家正南（西（イ））一里

廣瀨山、郡家正北一里

琴引山、郡家正南三十五里二百步、高三百丈、周一十一丈（里（イ））、古老傳云、此山峰有窟、裏所造天下大神之御琴、長七尺、廣三尺、厚一尺五寸、又在石神、高二丈・周四。尺（丈（イ））、故云琴引山（有鹽）

石穴山、郡家正南五十八里、高五十丈

幡咋山、郡家正南五十二里（有紫草）

野見、木見、石以、三野並郡家南西四十（卅（イ））里（有紫（芝（イ））草）

佐比賣山、郡家正西五十一里一百四十步（石見與出雲二國堺）

堀坂山、郡家正西卅一里（有杉松）

城垣（恒（イ））山郡家正西（南（イ））一十二里（有紫（芝（イ））草）

剗　經常有剗乎
馬傳曰置步傳曰剗
剗ハヒトヤトリトヨムヘキ歟。樋口氏

伊我山、郡家正北一十九里二百步

奈倍山、郡家東北二十里（廿(イ)）二百步

凡諸山野所在草木、萆薢、升麻、當歸、獨活、大薊、黄精、前胡、署蕷、白朮、女委、細辛、白頭公、白恐、赤箭、桔梗、葛根、秦皮、杜仲、石斛、藤李、楷（槲(イ)）、赤桐、椎、楠、楊梅、槻、柘榆、松、榧、蘗、楮。禽獸則、有鷹、隼、山雞、鳩、雉、熊、狼、猪、鹿、兎、獼猴、飛鼯。

川

三屋川、源出郡家正東一十五里多加山、北流入斐伊川。有年魚

須佐川、源出郡家正南六十八里琴引山、北流經來島、波多、須佐等三鄉、入神門郡門立村。此所謂神門川上（河(イ)）也、有年魚

磐鉏川、源出郡家西南七十里箭山、北流入須佐川。有年魚

波多小川、源出郡家西南二十四里志許斐山、北方流入須佐川。有鐵（鋏(イ)）

飯石小川、源出郡家正東一十二里佐久禮山、北流入三屋川。有鐵

通道、通大原郡堺斐伊川邊卅九里一百八十步、通仁多郡堺溫泉川邊廿二里、通神門郡堺與曾紀村卅八里六十步、通同郡堀坂山卅一里、通備後國惠宗郡堺荒鹿坂卅九里二百步、經常有（路敷上ニ）剗（剗敷德文乎）、通道通三以郡三坂八十一里、經常有（路敷上ニ）剗（剗敷）波多、多經（纈乎）、須佐、經（路敷）剗（剗敷）但志（志）。都（志都(イ)）。美經以上經（路敷）常無剗（剗敷）、

但當有政時權置耳、並通備後國之

郡司主帳無位置首（臣（イ））
大領外正八位下勳業大弘造
少領外從八位下出雲臣

仁多郡

合鄕肆、（里十二、）

三處鄕　今依前用
布勢鄕　今依前用
三津鄕　今依前用
横田鄕　今依前用

和名鈔、此外有漆仁阿位二鄕爲六鄕。

所以號仁多者・所造天下大神・大穴持命詔、此國者・非大非小、川上者・木穗刋加布（刋（イ）、榮）・川下者・阿志婆布這度之（河（イ）、波（イ）、這（樋口氏）、蕈）、是者爾多志枳小國在詔、故云仁多。

爾多ハ、ニタ〳〵笑、又莞爾ニコヤカ。樋口氏

三處鄕、卽屬郡家、大穴持命詔、此地田好、故吾御地古經、故云三處。

布勢鄕、郡家正南一十里、古老傳云、所造天下大神大己遺命之宿坐處、故云布世（神龜三年改字布勢）

三津鄕、郡家西南廿五里、所造天下大神大穴持命御子、阿遲須枳高日子命、御髮八握于生、晝夜哭坐（澤（イ））

之辭不通、爾時祖命、御子乘船而率巡八十島、宇良加志給、猶不止哭之、大神夢願給、告御子之哭由、夢爾願坐、則夜夢見坐之御子辭通、則寤問給、爾時三津申、爾時何處然云問給、即御祖前立去、坐而、名川渡坂上至留申、是處也、爾時其津水治於而御身沐浴坐、故國造、吉事奏參向朝廷時、其水活出而用初也、依此今產婦彼村稻不食、若有食者、所生子已不云也、故云三津、（神龜三年改字三澤）即有正倉。

横田鄉、郡家東南廿一里、古老傳曰、鄉中有田四段許、形聊長、遂依田而故云横田、即有正倉

以上諸鄉所於鐵（在手鐵）、堅尤堪造雜具

社

三澤社　伊我多氣社（以上二所並在神祇官）

玉作社　須我乃非社　湯野社

比太社　漆仁社　大原社

仰支斯里社　石壺社（以上八所並不在神祇官）

山

鳥上山、郡家東南卅五里、（伯耆與出雲之堺、有鹽味葛）

室原山、郡家東南卅六里、（備後與出雲二國之堺、有鹽味葛。）

上
鳥○山

鹽味葛、今案五味歟。和名鈔云、蘇敬本草注云、五味皮肉甘酸、核中辛苦、都有鹹味、故名五味也。（和名、作佐加豆良）

灰火山、郡家東南三十里。

遊託山、郡家正南卅七里。有鹽味葛。

御坂山、郡家西南五十三里。即此山有神御門、故云御坂。傳、從吳出雲之堺、有鹽味葛。

志努坂野、（山乎）郡家西南卅一里。有紫草（草（イ））。少少。

玉峯山、郡家東南一十里。古老傳云、山嶺有玉上神、故云玉峯。

城紲野、郡家正南一十里。有紫草。少少。

大內野、郡家正南廿二里。有紫草。少少。

菅火野、郡家正南四里、高一百廿五丈・周一十里。峯有神社。

戀山、郡家正南廿三里。古老傳云、和爾戀阿（河（イ））位（笛（イ））村坐神玉日女命而上到。爾時玉日女命以石塞（川（イ））川、不得會。（和爾乎）所戀、故云戀山。

凡諸山野所在草木、白頭公、藍漆、藁本、玄參、百合、王不留行、齊苨、百部根、瞿麥、升麻、枚葬、黃精、地楡、附子、狼牙、離留、石斛、貫衆、續衆、續斷、女委、藤李、檜、椙、樫、松、栢、栗、柘、槻、蘗、楮。

禽獸、卽有鷹、晨風、鳩、山雞、雉、熊、狼、猪、鹿、狐、兎、獮猴、飛鼯（鷽（イ））。

川

室原川
斐伊川上
斐伊大川上

室原川、源出郡家東南卅五里烏上山、北流、所謂斐伊河上也（有年魚少少）

横田川、源出郡家東南卅六里室原山北流、北則所謂斐伊大河上（有年魚・麻須・魴・鱧等ノ類。）

灰火小。川、源出灰火山、入斐伊河上（有年魚）

阿伊川、源出郡家正南卅七里遊託山、北流入斐伊河上（有年魚、麻須）

阿位川、源出郡家西南五十里御坂山、入斐伊河上（有年魚、麻須）

比太川源出郡家東南一十里玉峯山、北流、意宇郡野城河上是也（有年魚）

湯野小川、源出玉峯山、西流入斐伊河上。

通道、通飯石郡堺漆仁川邊、廿八里、卽川邊有藥湯。（一浴）則身體穆平也、再濯則萬病消除。男女老少晝夜不息駱驛往來、無不得驗、故俗人號云藥湯也、卽有正倉。

通大原郡堺辛谷村一十六里二百卅六歩、通伯耆國日野郡堺阿志毗緣山卅五里一百五十歩、（有常劔）

通備後國惠宗郡堺遊託山卅七里、（有常劔）通同惠宗郡堺此市山五十三里（常無劔、但當有政時權置クコト多シ。）

郡司主帳外大初位下品治部（臣手）

大領外從八位下蝮部臣

少領外從八位下出雲臣

大原郡

今郷捌 里廿四

神原郷　今依前用

屋代郷（和名爲大原）　本字矢代

屋裏郷　本字矢內

佐世郷　今依前用

阿用郷　本字阿欲

海潮郷　本字得鹽

來次郷　今依前用

斐伊郷　本字樋　以上郷捌、里參

所以號大原者・郡家正西一十里百一十六歩・田一十町許平原也、故號曰大原、往古之時、此處有郡家、今猶追舊號大原（今有郡家處、號云斐伊村）

神原郷・郡家正北九里、古老傳云、所造天下大神之神御財積置給處也、則可謂神財郷、而今之人猶誤云神原郷耳。

屋代郷・郡家正北一十里一百一十六歩、所造天下大神之垜立射處、故云矢代（神龜三年改字屋代）即有正倉

屋裏郷・郡家東北一十里一百十六歩、古老傳云、所造天下大神令殖矢給處、故云矢內（神龜三年改字屋裏）

佐世乃木 和名鈔、楊氏漢語抄云、烏草樹〈佐之夫乃紀、辨色立成記(日)〉師説、今山中者云、佐世保乃木。古事記仁德天皇々后磐之媛歟詠之。

佐世郷、郡家正東九里二百步、古老傳云、須佐能袁命・佐世乃木葉頭刺而踊躍爲時・所刺佐世木葉墮地、故云佐世。

動動 アヨ〳〵トヨムヘキ歟。

阿用郷、郡家東南一十三里八十步、古老傳云、昔或人此處山田佃而守之、爾時目一鬼來而食佃人之男、爾時男之父母竹原中隱而居之、時竹葉動之、爾時所食男云動動、故云阿欲、神龜三年改字阿用

海潮郷、郡家正東一十六里卅六步、三(イ) 古老傳云、宇能活比古命・恨御祖須義禰命、美(イ) 而北方出雲海潮押上漂御祖。之(イ) 神、此海潮至、故云得鹽、神龜三年改字海潮 即東北須我小河之湯淵村川中温泉 不用號 同川

須我小川、

上毛間林川中温泉出 不用號

來次郷、郡家正南八里、所造天下大神命詔、八十神者不置青垣山裏詔而追廢、時此(イ) 止義追以生故云來次。

斐伊郷 鈔云

斐伊郷、屬郡家、樋速日子(イ) 女命坐此處、故云樋、神龜三年改字斐伊

寺

新造院一所、在斐伊郷中、郡家正南一里、建立嚴堂也、有僧五軀 大領勝部君虫麻呂之所造也。

新造院一所、在屋裏郷中、郡家正北一十一里一百廾步、建立層塔也 有僧一軀 前少領田部臣押嶋所造也。今少領伊去美之從父兄也。

新造院一所、在斐伊郷中、郡家東北一里、建立嚴堂也、有尼二軀 斐伊郷人樋仰(印(イ)) 支知麻呂之所造也

社

矢口社　宇乃遲社　支須支社

布須社　御代社　宇乃遲社

神原社　樋社　樋社

佐世社　世裡陀社　得鹽社

加多社（以上一十三所並在神祇官）

赤奈社　等等呂吉社　矢代社

比和社　日原社　情屋社

春殖社　船林社　宮津日社

阿用社　置谷社　伊佐山社

須我社　川原社　除川社

屋代社（以上○十六所並不在神祇官）

山

菟原野。山乎、郡家正東、即屬郡家

城名樋山、郡家正北一里一百歩、所造天下大神・大穴持命爲伐八十神造城、故云城名樋也。

高麻山、郡家正北一十里二百歩、高一百丈・周五里、北方有樫椿等類、東南西三方並野也、古老傳云、

神須佐能袁命御子・青幡佐草壯命・是山上麻蕷祖、故云高麻山、即此山峯坐其御魂也。

須我山、郡家東北一十九里一百八十歩、有檜枌

船岡山、郡家東北一里一百歩、阿波枳閉委奈佐比古命・曳來居船、則此山是矣、故云船岡也。

御室山、郡家東北一十九里一百八十歩、神須佐乃乎命・御室令造給所宿、故云御室。

凡諸山野所在草木、苦辛・桔梗・薔茹・白芷・前胡・獨活・卑薢・葛根・細辛・茵芋・白朮・讀月・白歛・女委・署蕷・麥門冬・藤李・檜・杉・栢・樫・櫟・椿・楮・楊梅・梅・槻・蘗。

禽獸則有鷹・晨風・鳩・山雞・雉・熊・狼・猪・鹿・兎・獼猴・飛猫。

川

斐伊川、郡家正西五十七歩、西流入出雲郡多義村 有年魚麻須

海潮川、源出意宇與大原二郡堺、入矣村山北、自海潮西流 有年魚少少

須我小川、源出須我山西流 有年魚少少

佐世小川、源出阿用山之北、流入海潮川 無魚

幡屋小川、源出郡家東北幡箭山南流 無魚 水日氷合正流入出雲大川 巳上十一字イ本

脩主本 水三水合西流入出雲大河

屋代小川、源出郡家正東正除田野、西流入斐伊大河 無魚

通道通意宇郡堺木垣坂、廿三里八十五歩、通仁多郡堺辛谷村、廿三里一百八十二歩、通飯石郡

堺斐伊河邊五十步、通出雲郡多義村、一十二里二百廿步、前件參郡並山野之中也。

郡司主帳無位勝部臣

大領正六位上勳業勝部臣

少領外從八位上勳部臣

主政無位置臣

道度 自國東堺去西二十里二百八十步、至野城橋、長三十丈七尺・廣二丈六尺、飯梨川 ○又西二十一里・至國廳意宇郡家北十字街、卽分爲二道、一正西道、一枉北道 枉北道・去北道四里二百六十六步、至郡北堺朝酌渡、渡八十步、渡船一 ○又北方一十里一百卅步、至島根郡家、自郡家去北一十七里一百八十步、至隱岐渡千酌驛家濱、渡船、○亦自郡家西一十五里八十步、至郡西堺佐太橋、長三丈・廣一丈、佐太川 ○又西方八里三百步、至秋鹿郡家、又自郡家西方一十五里一百步、至郡西堺、○又西方八里二百六十四步、至楯縫郡家、又自郡家西方七里一百六十步、至郡西堺、○又西方一十里二百二十步、出雲郡家東邊・卽入正西道也、總枉北道、程九十九里一百一十步之中・隱岐道一十七里一百八十步、正西道自十字街西・一十二里・至野代橋、長六丈・廣一丈五尺・又西七里至玉作街、卽分爲二道、一正西道、一正南道 正南道十四里二百一十步、至郡南西堺、○又南廿三里八十五步・至大原郡家、卽別爲二道、一南西道、一東南道 南西道五十七步、至斐伊川、渡廿五步、渡船一、○又南西二十九里一百八十步、至飯石郡家、又自郡家南八十里・至國南西堺、通備後國次郡、總去國程一百六十六里二百五十七步也、○東南道自郡家去二十三里一百八十二步・

濱主本、廣一丈、下野代川、分注有之。

而至郡東南堺。又去東南一十六里二百卅六歩、而至仁多郡比比理村、分為二道。其一道東方去卅八里一百廿一歩、至仁多郡家。一道南方去卅八里一百二十一歩、備後國堺至遊託山。○又正西道自玉作街西方九里、至來待橋。長八丈、廣一丈三尺。○亦西三十三里三十四歩、至出雲郡家。自郡家西二里六十歩、而至郡西堺出雲河。渡五十歩、渡船一。○又西方七里廿五歩、而至神門郡家。即有河。渡二十五歩、渡船一。自郡家西方四十三里、而至國西堺。通石見國安濃郡。○總。國程一百五十四里二百四十四歩。

○驛。自東堺去西方二十里一百八十歩、至野城驛。又西方二十一里、至黒田驛。即分為二道。一正西道、一渡隱岐國道也。隱岐國道去北方三十四里一百卅歩、至隱岐渡千酌驛。○又正西道三十八里、至客道驛。又西方廿六里二百二十九歩、至狹結驛。又西方一十九里、至多伎驛。又西方一十四里、至國西堺。

○團。意宇軍團即屬郡家。熊谷軍團飯石郡家東北廿九里一百八十歩。神門軍團郡家正東七里。

○馬見烽。出雲郡家西北三十二里二百四十歩。土椋烽。神門郡家東南一十四里。○多夫志烽。出雲郡家北一十三里卅歩。○布自美烽。島根郡家正南七里二百一十歩。○暑垣烽。意宇郡家正東二十八里八十歩。○宅和式。神門郡家西南四十一里。瀨埼式。島根郡家東北一十九里一百八十歩。

天平五年二月卅日勘造。秋鹿郡人神宅臣全太理

國造帶意宇郡大領外正六位上勳業出雲臣廣島

千家清主本廿一歩下有至□□南堺（通備後國）字曰野郡二

清主本三尺下來待川分注三字有之

驛、和名鈔廐牧令云、諸道須置驛者、毎三十里置一驛（音繹、和名無末夜）、若地勢險阻及無水草處、隨便置之、說說、驛、日本紀私記以為早馬也、夜與以五音通、萬葉集同、又云音由末夜與由通、假字同義歟。

團　恐改團（下皆倣之）

團、軍防令云、凡軍團大毅領一千人、又云、兵士簡點之次、皆令比近團割、義解云、謂團者聚也、守者分也。

烽、軍防令云、凡置烽、皆相去四十里、若有山岡隔絶、須逐便安置者、但使得相照見、不必要限四十里、和名鈔說文云、烽燧（蜂遂二音、度布比）邊有寸警則擧之、唐式云、諸置烽之處置火臺、臺上插筱（音篠、俗云之保久）

宅和式　瀨埼式　此式國々所置官舍見、名未詳、式部等之式乎、周禮天官太宰之職、以九式均節財用、一曰祭祀之式、二曰賓客之式、三曰喪荒之式、四曰羞服之式、五曰工事之式、六曰幣帛之式、七曰芻秣之式、八曰匪頒之式、九曰好用之式。

清主本平沙戍

續日本紀第九、元正天皇神龜三年二月庚寅、出雲國造從六位上出雲臣廣島奏神事、因廣島及祝神部等賜位、廣島并祝二人並進位二級、賜廣島絁二十疋綿五十屯布六十端、自餘祝部一百九十四人祿各有差。

萬葉緯卷第十六 風土記殘篇(朱書)

目錄

近江國 種季曰

畫圖曰傳曰湖者人王第七孝靈天皇五年江州地拆水初而湛矣淡海號出于右（此歟）四方行程一千有七百里南北一百九十有八里東西一百里（各以六町爲一里）先是因湖水七度變枯爲桑田也昔者廿四郡今者十二郡修貢八拾三萬二千八百一十六石四斗八升五合田數三萬三千四百五十町湊津九十九浦々八百八川若水反（及カ）九合則損亡二十有七萬石（衍歟）云云地秀北壑水入南溟玄武指于越州青龍偃於勢濃朱雀跨于伊州白虎棄於山丹君神社星（列歟）州佛盧霧集先王之舊都古仙之隱窟名區勝境畫圖亦有難描之處故作杜撰十卷以附畫圖陸海以勾金一寸爲一里法程八荒遠近粗記其大槩云 （角倉與一藏 近江ノ國ノ繪圖）

此繪圖角倉與市氏ニ御座候先年借出候うつしおき、申候圖の樣は古く見え申候、杜撰十卷トハあしくは當國ノ風土キニハ御座あるましく候はん哉御尋ね申候、修貢ヲ升めニ書申候ハ不レ古ナラ候へとも六町一里おもしろく覺え候

萬葉緯 卷第十六

洛東隱士似閑編緝

日本總國、今案、依此文、據以納於官庫之篇上云乎、是以書ヲ標題ニ以テ未雖其十七巻之内ト今見ニ有九巻、是亦并八巻、以當總計十二巻

和名鈔 近江(筑摩郡不三)

和名鈔淺井(阿佐井)郡 同第日(安佐比)岡本(乎加毛止)郷名 甞衛、其名、稱名、本書十六 細見氏

日本總國風土記第十八

今所書記風土記。殘篇十四帖。並民部省圖帳。殘篇一帖。荷辻柳陰之恩惠所摸寫也。傳聞從林氏之書樓出。近世引用此書。雖未見及而與古書合符節。則非僞書必矣。誰家文苑所秘置矣。記卷數亦可珍賞焉。圖帳之內。至鳥羽後鳥羽兩代之事則非古代之圖帳明矣。本朝書籍目錄有民部省圖帳而無卷數並作者也

知加都阿波宇美國。淺井郡或阿座隣

湖十三、浦六ケ所、湊二ケ所、名山十二、岡礒山五ケ所、宮祠十七前、寺院十一宇、墳墓三基、

淺井郡　西限知奈浦　東限朝日湊　南限岡本儀　北限小寢社

貢。松。杉。竹。栗。橘。柚。橙。柑。土大根。牛房。枸杞。青木香。黃芩。芎窮。香薷。茵蔯。稾本。黃連。前胡。王不留。蛇銜(街敷)。茄苺。黃菊花。桔梗。高梁香(タカキビ)。草薢(ヒカイ)。狼芽(トコロ)。枳實。藍。漆。菖蒲。鶴。鳩。鸛。鴨。鷺。鷗。鴴。鮒。鱒。(ヨトリ等、細見氏)

鰻。其外諸鮮魚等

二彭田 假粟 三字田 三毛田

藤野牧也先生曰、圭田字彙云、圭之爲言潔也、田之所入以供祭祀、故曰圭田、云云、孟子滕文公上篇曰、卿以下必有圭田、圭田五十畝、集註云、此世祿常制之外、又有圭田、所以厚君子也、圭潔也、所以奉祭祀也。朱子曰、圭田只是給公田之在民者、記王制云、圭田無征、云云、

和名鈔淺井郡田根(多保)

同湯次(由須木)今依和名須下脱岐木等字乎、神名帳作湯次神社、兩社共可改須岐次等、又一社計可改乎

和名鈔淺井郡大井(於保井)寄田

和名鈔淺井郡都宇、神名帳同、今同訓說、都久夫須麻島乎、伊呂波字類抄云

岡本(重名) 公穀七百六十三束。二畝田。假粟。五百八十四束三字田

貢松杉土大根等

岡本神社(重名) 圭田。三十五束。三毛田。所祭素盞嗚尊也。雄略天皇三年己亥六月。始加神體

佛性寺 寄田。三十五丸。三字田。定惠和尚。結壇之地也。安丈六慈尊

田根 公穀五百六十八束。假粟。四百九十三丸。四畝田。

貢枸杞橘柚橙柑諸鮮魚。諸江鳥等

湯須神社 圭田。二十九束。三毛田。安康天皇六年甲午十二月。始所祭。御名賀多建命也

湯須神社(重名) 圭田。三十四束。三字田。推古天皇二年始所祭瀬織津比咩也。有神家巫戸等

大井 公穀五百六十四束。三毛田。假粟。四百九十三丸。六毛田。虫喰二三行程

小江神社(重名) 圭田。三十一束。三字田。所祭事代主命也。敏達天皇三年始神家加圭田

德壽院 寄田。二十五束。三畝田。

役小角。掛巾之院也。有自作之不動明王像

虫喰

都宇郷 無公假之貢。粟代湖貢

都久夫須麻神社 圭田。百五十六束。三毛田。四字田。雄略天皇三年己亥二月。始行神禮。奉圭田。

本朝之勝地不レ可レ比二類餘嶋一者也。四時之變景。畫工不レ可レ及。文人不レ可レ記者乎

此後虫食

右風土記殘冊之中近江國淺井郡之餘卷。求二閑院大臣家之藏本一以二官本一遂校讀畢

嘉慶二年乙丑四月上旬（後小松院）

左中將藤原元隆寫レ之

川道（加波知）　丁野（與保乃）　錦部（爾之古利）　速見（波也美）　益田（末須太）　新居（爾比井）　朝日（安佐比）　鹽津（之保津）

右八郷所レ出二和名鈔淺井郡一今脱

鹽津神社　波久奴‥‥　下鹽津‥‥　矢合‥‥　片山‥‥　比佐多理‥‥　麻蘇多‥‥　上許曾‥‥　大羽‥‥

右九前社所出神名帳今脱

日本總國風土記第二十三

河内國高安郡

名山七ケ所、岡六ケ所、河三流、川二流、泉一壽、宮祠七前、寺院五字、

高安郡　東限二庄田山一　西限二榛田山一　南限二箕輪川一　北限二永川一

貢二栢。檜。榊。楓桂。鹿。猪。狐狸之革。鸛。鴿。鶉。鴨。鷗。鷺。河水之鮮魚。及桑麻白綿等

坂本庄（有名）　公穀。八百九十五束。假粟。七百二十九丸。

貢。鸛。鴿。鷹。鴨。桑麻。竹籠等

和名鈔河内國高安（多加夜須）郡

三代實錄三十六、元慶三年十月廿二日、常澄宿禰某八戸史某等六人賜二姓高安宿禰一、先祖出レ自二漢光武皇帝一、孝章皇帝之後也、裔孫高安公陽倍天萬豐日天皇御世立二高安郡一、

嘉祥三年十月乙巳朔辛亥…
貞觀元年正月廿七日…

恩智神社（神名帳）　圭田。八十三束。三字田。所祭多力雄神也。雄略天皇三年。奉圭田行神事。凡祈力業相僕（撲）者詣此神。

虫食

三宅庄（和名）　公穀。六百九十三束。假粟。五百二十五丸

御祖神社（神名）　圭田。三十八束。五毛田。所祭別雷神也。欽明天皇三年。始行神禮

隨遊寺　寄田。四十八束。一字田。和銅二年滿快比丘。安坐結夏之室也

三宅川　出鮎鱸等。總而出鮮魚

和名鈔 玉祖（多末乃於也）

玉祖庄　公穀。八百二十九束。假粟。七百六十三丸。

貢。鸛。鶴。鴨。雉等。又貢桑麻白綿等

玉祖神社（神名）　圭田。四十五束。五字田。所祭玉依比咩命也。天智天皇四年。始奉圭田行神禮

此後虫食

右一卷之風土記者。河内國高安郡之風土記也。以閑院家之藏本寫之畢

御鎮座本緣云、高安岩屋神二座、高安岩屋是伊勢津彦神、春日片高安神等之窟也、神武天皇御宇彌熾伊勢不加理氏人民亡、火氣發起而天

嘉慶二年三月中旬

藤原元隆

撝守　右一鄕和名鈔高安郡今脫

下[illegible]、[illegible]日[illegible]
命[illegible]大己貴[illegible]復[illegible]
發[illegible]
時、[illegible]八[illegible]後[illegible]、
大[illegible]官[illegible]取伊勢
國[illegible]氏部[illegible]天日[illegible]命之村
地上
大己貴國玉神一座、（大己貴
神是素戔嗚尊第四之太子
也）
天日別命一座、
天牟羅雲命之子、天波與
命子、天日別命是也、已
上[illegible]見氏
時乎
此也[illegible]火[illegible]伊勢多賀
佐山嶺爾造石宅住居焉、
于時天日別命奉勅東方
八[illegible]百[illegible]有[illegible]伊
勢津彥矣、略又春日戸高
座[illegible]是[illegible]度會（相
イ）小田原爾御鎭之後、任
神勅恐高座綵氏、遷座
于河内國高安郡、天照太神
高座神社是也、
和名鈔和泉（以郡三）
和名鈔和泉國日根（比[illegible]）郡
和名鈔日根郡近義
和名鈔日根郡呼唹乎、
神名帳同之、
此間脫呼唹郷

神名帳、高安郡十座大四座小六座
都夫久美神社　天照大神高座神社二座（並大月次新嘗、元號春日戸社）　鴨神社　佐麻多度神社　春日戸社坐御子神社

日本總國風土記第二十九

和泉國日根郡或蒜根

浦一ケ所、湊一ケ所、名山八ケ所、岡三ケ所、池三ケ所、泉三藥、河四流、川三派、宮祠十二前、寺院六宇、墳墓三基、

日根郡　西限岸海湊（キシノツダノ）。東限大泊。南限多布綫岡。北限小田川
貢。松。梅。桃。竹。栗。柑。枷。楮草。川芎。柴胡。香薷。獨活。決明子。虎杖。黄熟瓜（キホソチ）（和名）。鶴。鴈。鸛。鴨。鴫。鶫。鷺。鷗、
鯛。鮪。鱸。鰤。鰡。其外諸鮮魚。鹿。狐。狸。兎。之革。充武庫之貢
近義。（郷乎）公穀　五百六十八束。三字田。假粟。四百二十五丸。六畝田。
貢。梅。竹。鶴。鴈。鴫。鶫。等
男（ヲノ）神社　圭田　三十七束。三字田。
所祭伊弉諾尊也。崇峻（天皇乎）三年（庚戌）八月初加神禮奉圭田。有神家巫戸祝部禰宜等
。。
脫神社名並圭田若干束乎、　三毛田。所祭大山祇也。天武天皇二年（癸酉）三月自官奉圭田。爲開守之祭社。有
神家巫戸等
太洋寺　圭田。三十八束。三字田。

大寶二年（壬寅）八月。尅光比丘爲救世摩利戒廻國終焉於此寺。自刻菩薩像安置寺。

賀美郷（和名）　公穀　四百七十三束。三字田。

假粟。三百五十二丸。六字田。

貢。粟。葛粉。蕨。鮎。鮒。柴胡。地黄。當歸。等　虫食

火走神社（神名）　圭田　二十九束。三畝田。

所祭軻遇突智也。推古天皇二年（甲寅）三月。初加神禮

雀池　貢。鮒。鰻。及諸鮮魚。待官使之來。鞍而充其貢

金身寺　寄田　三十二束。三字田。

行基開基也。虫食　地有金身之尊像

日根　公穀　三百八十二束。假粟　二百五十丸

貢。桑麻。炭薪

日根社（神名）

所祭饒速日命也。皇極天皇二年（癸卯）二月自官奉圭田二十五束

鳥取郷　公穀　三百七十二束。假粟。二百二十七丸。三字田。

貢。鶴。鴨。雉子。雲雀。鶉。紅花。桑麻等

和名鈔日根郡鳥取（止々利）

小村有鷹飼村往昔仁徳天皇與酒君成放鷹之遊（闕字）取雉子之所。

比賣神社（神名）　圭田　三十二束

所祭大宮比賣也（命字）

虫食六行不諳

右風土記殘冊之中。和泉國日根郡之餘卷。以藤大納言高基卿之家本挍合畢

（後光嚴元字）文和六年（壬辰）七月下旬

朝散大夫中原師行

神前神社　加支多…　波太…　國玉（クダマ）…　意賀美…

右五社所出神名帳今脫

日本總國風土記第三十六

伊勢國安濃郡（无字）

名浦十三（處）、名山九（十處）、河二流、川三流、宮祠四十二ケ所、寺院六宇、墳墓十三基、

安濃郡（或ハ阿乃、或ハ安野）東限建部浦（タケムヘ）。西限長野嶽（ナガヤ）。南限岫田川。北限狹屋社。

出楠樟。松栢。梅桃。梨杏。柿栗。大豆。小角豆（无）。柴胡。黄芩。地黄。當歸。松脂。橘柚。及山雞（ヒ）。鶴鶉。

鴨鷺。靈雀（雲字）。鯔。鮒。鮎。鰻。諸鳥諸鮮魚海苔等。其（外）産上之上也

和名鈔伊勢（以世）國安濃（安乃）郡

和名鈔安濃郡建部（太介無倍）長屋（奈加也）

和名鈔安濃郡内田（宇知多）

内田郷　公穀　三百六十束。假粟。百九十二丸二圍

出梅杏柿栗等（柳イ（朱書））

（神名帳）

置染神社　圭田　三十二束。三字田。五毛田。

孝元天皇

大日本根子彦國牽（日本紀）引天皇五年辛卯三月。所祭大鷲津命也

和名（太介無倍）

建部郷或竹戸　公穀。六十三束（四百イ）。二字田。六毛田。假粟。二百六十丸（ミイ）　三畝半圍田。

脱字何々乎

貢。松。栢。珍石。海鹽。諸鳥。諸鮮（魚乎）。及苔貝等之類

（神名）

美濃夜神社　圭田　二十三束。三毛田。

景行天皇

大足彦忍代別天皇三年癸酉六月。所祭金山彦（命乎）也

寶田寺　寄田　三十二丸。六字田。

文武天皇三年四月八日。道昭和尚開基之地也

美濃夜川　出鮎。鰻。鰤。鮒。等

和歌以之爲終之點、恐失主之意

野見逸主之詠。美乃夜能川乃礒際來居聽衛鳴明須此川也

虫食此間五六葉不見

和名安濃郡村主（須久利）

村主郷　公穀　三百四十三束。三畝（田乎）。

七字。田乎五毛田。假粟。百九十三丸六圍。

田産大豆。小角豆。琬宗豆。朱米。柴胡。黃蓮。黃芩。地黃。當歸。梅梨等。田之楮葉芻羽鞍。靴。縛。等

豌豆本草二十四　豌宗豆ハ豌字豆ノ誤乎。豌字豆者和名鈔非知古矣久

村主神社　圭田　二十七丸。六字田。三毛田。

稚足彥天皇（成務天皇）。六年丙子二月。所祭大山祇命也。

松岸寺　寄田　二十五丸。六毛田。

持統天皇六年壬辰八月。役小角開基之地也。安不動明尊像。虫食不見

安濃津　仁德天皇三年乙亥定三津其一也。夷方之蠻船。本邦公私之著船。湊入之船。各來于此待其風雲。擧國之名湊也。去國府二百二十里也。富饒德有之地也。准驛宿公穀減其三之二

安濃神社　圭田　三十三束。三字田。

太神宮之神戸之地也。

船山（フナヤマノ）神社（神名）　圭田。四十三束。六毛田。

垂仁天皇四十三年甲戌十一月。依齋宮之夢託所祭田凝比咩命乎也　此後蟲食脫簡不見

右風土記殘冊十七冊之內。伊勢安濃郡之餘卷。以藤大納言高基卿之家本與官本校合畢

文和三年壬辰二月下旬

朝散太夫中原師行

和名鈔　英太　跡部　長屋　石田　驛家　片縣　今脫
神名帳　大市神社　志夫彌…　小丹…　阿由太…　小川內…　比佐豆知…　加良比乃…　已上七座今脫
一校(朱書)

異書同有無巻數不審(朱書)

伊勢國

和名鈔伊勢國員辨(爲奈倍)郡

員辨郡　東限箕田川。西限貫木山。南限驛田師社。北限浮木川。
貢。松。杉。竹。梅。梨。栗。及河海鮮魚。野鳥田鳥等亦織昆綿衣。當內藏寮并左右馬寮蒭之料。

塞藏(朱書)

塞藏鄉　公穀　二百六十束。三字田。假粟。百六十三丸
貢。黍稷粟稗等

香榎鄉　公穀　二百八十六束。三毛田。五字田。假粟　百七十三丸

榎葉井

榎葉井神社　圭田　二十五束
孝謙天皇御宇三年二月。始鎭坐麛田別宮。雄略天皇廿二年戊午七月。從丹後國與謝郡魚井原豐受大神假鎭坐于此宮。卜宮所。三月九月廿八日。遷渡會郡山田原。圭田　三百六十三束。
三畦、三字田。
執賀師神社　圭田　四十五束。二步田。

欽明天皇二年。始祭此神。大己貴命也。

田尻郷　公田　百九十三束。六畝。田乎三字田。

圭田。八十三丸。三毛田。

貢。松杉梅梨等

雲宇途郷　公穀　三百九十束。三字田。

假粟。百九十八丸。三毛田。

貢。竹梅桃櫻等。及柴胡。川芎等。以下雲宇途川條下乎洪河及逆浪則郷民浴水渉瀬防急水。千之一者及溺死。

雲宇途川　出鮎鮒鯉鯇。ハエ歟(朱)及菘菜苔等

荒木郷　公穀　二百八十三束。假粟。百三十丸。三毛田。

荒木神社　圭田　二十五束

垂仁天皇三年。脱官姓名某乎被徴爲吏官來祭此神。白髭大明神同一位之社也。

櫻田郷　公穀　二百七十三束。假粟。百三十六丸

櫻谷　貢。栢梓杉松藤葛及狐狸猊猪等

櫻谷神社　圭田　六十七束。三字田。

推古天皇乎五年七月。始行祭事。所祭闇雄乎推神也。

今有下稱二雲津一處上(朱書)

夫木廿六
大中臣親守
伊勢嶋ヤ月ノミ舟ハヨキテフケ雲津カ崎ノ松ノ村立
是乎

大明神稱號此時有之乎、可考

朝明郡有櫻神社

野間池　出鮒鯉鮒鰻又貢枰（評敷筍乎）菱實等

井上神社　圭田。十七束。三畝。三字田。

孝謙天皇四年。所祭園。韓神。少彦名命也。土地在（有乎）疫疾則來此社。神前掛長繩垂白木綿祈

其疫疾其勳（效乎（朱書））驗不迴領也

和名鈔員辨郡野摩末也是乎

右風土記殘卌十七卌之内。伊勢國員辨郡之餘卷。求藤大納言高基卿之家本。與官本挍合畢

文和元年壬辰八月下旬

朝散大夫中原師行

記中所書記神社幷鄉里與和名鈔神名帳等今比挍不合（悉違疑）若與他國令混雜乎追而可考

日本總國風土記第四十三

和名鈔遠江（止保太阿不三）國濱名（波萬奈）郡

遠江國濱名郡

浦八ケ所、湊四ケ所、名山六、岡三ケ處、池五處、河五流、川三派、泉三穴、宮祠九ケ所、墳基四基、

寺院十宇、

走井（朱書）

濱名郡　西限坂上走井　東限麻作堤

南限大和田　北限葦名山

貢。樟。杉。松。栢。梅。栗。桴（栫イ）桃。胡桃。紫草。茯苓。茯神。柴胡。黃芩。香薷。枳殼。及諸藥種等數多。亦出

斑魚（本草四十四河豚）（朱書キ）

鹿狸狐兎鶴鶉鵜雉鯛鱸斑綾魚文泥其外禽獸出數多

坂上郷（神名）　公穀。五百六十三束。三毛田。假粟。六百二十七丸。三字田。
貢。松栢。胡桃杉。梅等及柴胡。黃芩。鹿。兎。鶴。鶉。鵜雉子。等諸鮮魚等、尤以鰹鮨有美味。充内膳司之料

猪鼻湖神社二座（神名帳）　景行天皇。四十九年八月。所祭猿田彦也。圭田五十束。三毛田。有神家巫祝之居

横貢者諸ノ鮮魚（朱書キ）

白菅　無公穀。假粟以横貢減其半。横貢者諸鮮魚以鰹鮑文魚尤美。海鳥食鹽等也。則充珍膳料大膳料

園韓神少彦名命（朱書キ）

菅沼神社　仁德天皇二十年甲戌三月。所祭園。韓神。少彦名命也。圭田。充横貢。依其宜

坂本（神名）　公穀。五百二十八束。三畝田。假粟。四百九十二丸。六毛田。
貢。樟。杉。栢。梅楊。梅桃。橘。鹿。兎。狐。狸。雉子。鵜。等。及茯苓。土根皮布。毎皆造修這貢濱名橋材用又（木ノマヽ）（朱）出橋工。此地尤宜木工

前澤　公穀減其半。四百八十二束。三字田。假粟。同減其半。二百三十六丸貢諸鮮魚海鳥彩貝等

八幡宮齋明天皇

。八幡宮（蒲雄イ）　齊明天皇元年乙卯初所祭之也
圭田。二十七束。三毛田。

雙烏爲瑞

大神郷（和名） 公穀。七百六十五束。三毛田（彰イ（朱書キ））。假粟。五百八十八丸

貢。柴莚。竹籠。調布。絹（細イ）綿。糸絹等

大神神社（神名）（本ノマヽ） 敏達天皇二年癸巳六月。所祭大己貴命也。圭田。五十束。處民祈水旱其驗有之。則有雙烏集瑞竊（蓬乎）之内。以之爲瑞

贄代郷（和名） 公穀。七百六十二束。三字田。假粟 六百七十二丸。七毛田。

貢。諸禽魚。尤宜鰯（鮒イ）。取之肥官田私（无）稻

角避比古神社（神名）（朱） 浦無。圭田有百五十束。三字田。

宣化天皇元年丙辰所祭素盞嗚尊也。角避比古者尊之異名也（ミコトノ別イ（朱））

文德實錄、嘉祥三年八月戊申詔、以遠江國角避比古神列官社、先是彼國奏言、此神社瞰臨大湖、々水有一口、叢開塞无常、湖口塞則民被水害、湖口開則民致豐穰、或塞或開、神實爲之、請加崇典、爲民祈利、從之

英多郷（和名） 公穀。四百六十束。假粟。三百八十三丸

貢。松。梅。脩竹。横穀等

英多神社（神名） 欽明天皇。四年（脱月乎）。所祭木花咲耶比咩也。

圭田三十束

虫食

龍瑞寺 寄田。三十五束。皇極天皇。三年乙巳七月。祈雨安置觀音勢至普賢之三像。崇源法師居之

虫淦

彌和山事代主（朱書キ）

彌和山神社（神名）　圭田。五十束。崇峻天皇元年。所祭事代主命也

右風土記殘冊十七冊之內。遠江國濱名郡之餘卷。求藤大納言高棐卿之家本。與官本挍合畢

文和元年 壬辰 五月下旬

朝散大夫中原師行

和名鈔　驛家　宇智今脫

一挍（朱書キ）

日本總國風土記第四十四

遠江國敷智郡

浦 三ケ所、湊 二ケ所、名山 六、岡 七、池 三、河 四流、川 二流、泉 二穴、宮祠 七ケ所、寺院 七宇、墳墓

五基、

ハガノ芳賀系圖遠江國愛甲山アリ
樋口氏
和名鈔遠江國敷智淵郡

敷智郡　西限二爰甲山（愛イ）　東限長田

南限蟹江浦　北限三本杉

節藥

貢。松。梅。竹。梨。椀桃。○（朱）胡桃。蘿蔔。牛房。橘柚。總諸菓木。及節藥澤藥之類。○（朱）海禽諸鮮魚。浮菜苔澤

藻等。諸苔食鹽者。充膳部之料

和名蛭田(比留多)

蛭田鄉　公穀。五百八十二束。三毛田。(一イ(朱))假粟。四百

虫食

許邊神社(神名帳)　圭田。三十。(五イ)束。仁德天皇二年(甲辰イ)五月。所祭玉依姬也

願行寺　寄田。六十三丸。推古天皇四年。依釋慧慈之宿願建立之。有官使弁事用(寺イ(朱))

驗德寺　寄田。三十七束。三字田。天平十一年。僧正玄昉。於此寺修曼行迦陀法。故自官終爲定額。爾時安置不動明王尊像。每一季春秋。山頂鳴動吐魔火。祈病痾無不驗。結草鞋。續草衣。掛不動尊前祈一物無水功

和名赤坂(阿加佐加)

赤坂鄉　公穀。六百七十二束。五畝。三字田。

假粟。四百九十六丸。六毛田。

桑螵蛸 本草卷三十九(朱書キ)

貢。大絹三十張。鹿革百枚。凝菜十五斤。(トコロテン也點(朱書))胡麻子二石。黃芩。芍藥。桑螵蛸等(朱)

岐佐岡神社(神名)　俗號岡糟垣。圭田。五十束

孝德天皇。三年(六イ)丁未十一月。所祭天兒屋根命。大宮比咩也。有神家巫戶祝部等宅。

行德寺　寄田。四十三束。三畝。三毛。三字田(田乎)。

敏達天皇。十三年。百濟國日羅。於此山修驗咒術法。安(置イ(朱))劾主定尊

佐奈池　貢。鮒。鰻。等。又生浮筍松藻(朱)主藥寮取之爲官藥

此郷和名神名等無所見

成瀬郷　公穀七百六十七束。假粟。六百三十五丸
貢。松梅。以梨薊蒿純豆。薯蕷。夜干。防己。山椒。附子等藥物充主藥司料
川尻神社　圭田。三十七束。三字田。舒明天皇元年己丑所祭玉垂命也
澤井神社　圭田。二十八束。一字田。宣化元年丁巳所祭級長戸也。級長。彥也。有神家有巫戸等
白龍寺　寄田。六十三束。一字田。孝德天皇八年。熊野勝漫法師。安置丈六之釋迦佛。行傳經
會丈云

虫食

和名鈔象嶋神名帳岐佐神社
象嶋公穀。八百六十七束。三畝。三字田。
假粟。六百九十二丸。二毛田。
貢。橘柚。橙柑。牛房。鴿。鷹。鶴。斑鯛。鯖蛤等幷麥門冬。黃蘗。茯苓。柏子。車前子等
神名帳津毛利神社（下三字朱）
津氣里神社　圭田。四十八束。天武天皇二年癸酉八月。所祭饒速日尊也虫食
濱松神社。圭田。三束。所祭白髮神社也
崇立寺　寄田。三十六丸。三毛田。
和銅二年新羅直映。安置藥師佛十二尊
此後虫食

右風土記殘冊十七冊之內遠江國敷智郡之餘卷。求藤大納言高基卿之家本。與宮本校合畢

文和元年壬辰五月下旬

朝散大夫中原師行

和名鈔　柴江　小文　竹田　雄踏　尾間　和治　濱松　驛家　今脫

神名帳　息神社　曾許乃御立…　賀久留…　今脫

一校(朱書キ)

日本總國風土記第四十六

遠江國伊波多郡　式八磐田

浦四ケ所、湊三ケ所、名山六、岡四、池二、河四流、川二派、泉二職、宮祠十一前、寺院七宇、墳墓四基、

伊波多郡　西限廬山。東限梅坪坂。

南限英賀湊。北限長途岡。

貢。栢。杉。樟。檜。梅。竹。黃芩。桑螵蛸。蜀椒。干薑。黃蘗。茯苓。薯蕷。山桃實。楊梅。蘇木綿。弓弦。琴瑟。銅鏡。鹿角。羚羊皮。熊膽。走兒血。鶴。鷹。鷂。龜。山返。諸海鮮并鮎鮒之最

入見鄉(和名)　公穀。四百六十二束。三字田。假粟。三百二十八丸。四畝田。

和名鈔遠江國磐田(伊波太)郡

貢銅鏡。琴瑟絃。弓絃。

入見神社（一名鬱）　圭田。三十八束。雄略天皇二年戊戌十一月所祭葉山媛長媛也。有神戸入見氏巫戸數十字

福滿寺。寄田四十二束。三字田。大寶六年役泰澄應母氏之緣而來當郡所母也。病苦其有所望也。諸物菓應所見其物。終治母家之病苦修觀音秘咒自刻安置觀音像後代祈病痾莫非其驗乎

淨光院　圭田。三十六束。三字田。定慧和尚開基之地也

飫寶猶飫飯、和名鈔飯石郡有飯寶鄕二ケ所

加志ハ小魚名、オコゼノ類ノモノ、今奥山ノ川瀬ニナク大ナニ稀ニアリ

諸名鰕鹿苑寺社。下亦見

飫寶鄕　公穀六百八十三束。三字田。假粟。五百五十五丸。六毛田。

貢。栢。梅。竹。粟。黃芩。辛螺。螵蛸。蜀椒。茯苓。薯蕷。

求也河　出奇石加志嘉鴨鷺。其流落入海。源自阿曾能嶽出。漲逢洪水雖舟楫不可及

田中神社（古名）　圭田。六十八束。敏達天皇四年乙未六月所祭宇介御靈也

幸梓

幸梓神社　圭田二十八束。三畝。安閑天皇元年甲寅十二月所祭經津主神也

恩惠德院　寄田。二十五束。三毛田。天平寶字六年善仲善算暫住此院安淨居刻彫百佛立之。二善開基之地也

曾能鄕（古名）　公穀五百六十八束。假粟四百七十三丸。三畝。

神名帳鹿苑神社

貢。栢。樟。鶴。鳩。鹿革。黃岑等

香園神社或作鹿。（苑乎）圭田。二十八束。三字田。

園韓神事代主兩神

欽明天皇。三年（壬戌）。（脫某月乎）自官園韓神。事代主兩神所祭之也。有神家巫戸祝第宅

白仙寺　寄田。三十五丸。三毛田。天智天皇。二年（甲亥）二月。擇（釋乎）養安　安置丈六之釋迦

駿河國烏濱郡八幡岡註作二

山香鄉（ヤマカ）（和名）　北西（二字恐文乎）。公穀三百六十九。二瀨（歟乎）田。

横脫一

横脫下亦見

貢。栢。松。梅。竹。芍藥。桔梗。鶴。鳩。雉。鵜。横脫等

神名帳作豐比賣命神社當八豐誤乎

豐玉比咩神社　圭田。二十八束。三毛田。

疑訓往來云クサシシノヒ草鹿頒物遊三々九手的八的等曲的

雄略天皇。十五年八月。神（初乎）行祭禮。有神家巫戸。得夏六月十五日之夜。有草鹿之遊。庶民之中。長弓馬之者。自國守命之令行此禮。曰草印地土民之稱也

〇印地

丈六寺　寄田。四十二束。三毛田。

秦河勝。舉國之中。十五ヶ國。安丈六之尊佛。共一也

國停湊　公穀滅其半。諸國及蕃船入湊經（宿乎）。

推古天皇孝經論語

推古天皇。三十二年秋。蕃船入湊。各佩金玉之帶。萬類珠玉滿船。言語難通。以筆紙通（雖乎）之。其俗無文字。以繩指南方。載一書餞獻我國。舟司異之。孝經論語也　其趣異本有章節教

封之奏。官侍（持乎）來勅下後賚金米返之

和名鈔小野（乎乃）

小野郷 公穀虫沧

千柄郷（和名チエカラ） 公穀五百六十七束。三毛田。假粟。四百三十二丸

貢梅竹諸藥物之中貢之。得有數多。又有横脱之美。獻膳部料。

神名帳作豐雷命神社

豐雷神社 圭田三十二束。三毛田。仁徳天皇三年（乙亥）四月所祭別雷皇大神也

蓮池寺 寄田二十七丸。三畝田。

行基開基之地乎（也乎）。有自作之尊佛

右風土記殘冊十七冊之内遠江國伊波多郡之餘卷求藤大納言高基卿之家本與官本挍合畢

文和元年（壬辰）六月上旬

朝散大夫中原師行

和名鈔 高花（タカハナ） 壬生（ニフ） 野中 久米 小各 神戸 豐國 驛家（今貌）

神名帳 淡海國玉神社 生雷〻〻 天御子〻〻 御子〻〻 御祖〻〻 矢奈比賣〻〻 須波若御子〻〻 今脱

日本總國風土記第四十八

和名鈔遠江國蓁原（波伊波良）郡

遠江國蓁原郡

浦（六ケ所、） 名山（七ケ處イ、） 岡（三ケ處イ、） 河（三流、） 川（四派、） 泉（二薮、） 宮祠（八ケ所、） 寺院（十三字、）

蓁原郡 西限大田輪川 東限大猪川

南限相良浦　北限早勝山

貢松杉梅桃橘柚横麥鮮魚柴胡笙草黄熟菓虫濱

鶴鵠鴨鷺鹿猪狐狸兎猿等

（和名）蓁原小府　公穀。八百六十二束。三十二畦。

出桐杉松竹禽魚之鮮

（神名）大楠神社（オホクスノ）　所祭大己貴命也。欽明天皇乎三年加新祭。圭田百三十二束。三毛田。有神家鹿田氏

松野氏居之

服織田村　公穀。二百六十二束。假粟。百二十三丸

（神名）服織田神社（ハトリタノ）　景行天皇七年支干何月乎所祭猿田彦命乎與天鈿女命也。圭田。三十二束

崇岡寺　龍伯僧都居之。假夏之室也。寄田。二十六丸。三毛田乎。二字田

和名鈔蓁原郡勝間（加都萬多）

勝間。郷乎公穀。六百二十五束。三字田

出松。桃。名橘等

勝間神社　圭田。百二十五束。三字田。有餘。

孝元天皇三年祭之。則木花咲耶比咩也。

（神名）片岡神社（カタヲカノ）　孝靈天皇六年三月初所祭住吉之神也

大井川其河流其瀬飛礫岩轟車勢往返至此添汗馬之汗如鞋底之砂。死生極此。運賃可在

自己之業

虫食

敬満神社（和名）　圭田。六十二束。三字田。有餘

垂仁天皇二十六年。所祭少彦名命也

養仙寺　所安置虫食

（和名鈔秦原郡大江　於保江）

大江郷　公穀。二百六十三束。三毛田。

貢柴胡獨活等

（神名帳作飯津佐和乃神社）

飯津澤神社　圭田。二十五束。所祭高皇彦靈尊也欽明天皇之御願也

相良浦里（和名）公穀。減海料半貢也

出諸鮮諸禽虫食

右風土記殘冊十七冊之内。遠江國之内。秦原郡散帖。求藤大納言高基卿之家本。與官本挍

合畢

文和元年壬辰十月下旬

朝散大夫中原師行

和名鈔 賀治 驛家 細江(ホソエ)(朱) 神戸 船木(フナキ)(朱)今脱

和名鈔駿河(須流加)國、志太。益頭(末志頭)、有度。(宇止)、安倍。廬原(伊保乃良)、富士。(不志)、駿河。(異レ國同)

日本總國風土記第五十三

蕩河七郡、大郡三、中郡二、小郡二、

烏渡郡大　伊穂原郡大

富士郡中　安辨郡中

蕩河郡大　志太郡小

麻(マシ)賤郡小

蕩河 仙河 珠流河 駿河 尖峨 以上異二其名一而其國號者同也

蕩河者。依下其河流蕩蕩而不レ知上淀溜一也。所謂志通波他(ルシツハタ)河(一本)不二一河。大堰河也

仙河者。不二一河出レ自二蓬島藥峯一故名也

珠流河。急波奔濤之流派。國郡繁多也。其河石琢レ波磨レ風恰如(モ)二珠玉一。終以爲二國號一

駿河。有二三大河一(者乎)。而其濤勢如三駿馬嘶二千里一。故爲二國號一

尖峨(者乎)。擧國之四至。信甲相豆遠参紀勢之衆峯粒粒。而嶮嶺尖(スルト)立地(タツテ)勢峨峨焉(タリ)。故有二此號一

虫損

萬河國　御間城入彥五十瓊殖天皇（崇神天皇）三年割國而爲分國。此國東西三日之宿、南北一日半之宿。北西地勢強而山嶺多。東南海嶼多而河流帶之焉。東限息川神祠、西限大堰、北限猪川山、南限有度沖、定穀土之上。横穀貢麥・蕎・麪草・綿麻等、有大利。其産者於他邦部先五十ケ日。當雪不滿籬、潮風不成害。樹竹山野之土貢陪他邦。海鹽食菜鮮鳥飛禽之産。尤害腴也。櫻花孟春開、嚴冬不見氷。國造伊與部直來于此、梁橋海潮之害、鮮聞之。當時所築之島田之堤。志津機之要障、今猶存之。虫湌

鳥渡郡　浦六、名山五、河六流、川濱、澤九、池三、祠宮十五ケ座、寺院七宇、墳陵五十墓

東限藍染川（嵯峨天皇四年庚寅春以前以淨見川爲限。今以藍染川爲限。）

西限狐崎

南限有渡濱（一作鳥濱）

北限正木山

産早田・荊麥長短・冬樹・脩竹・海鹽・食鹽・茯苓・柴胡・藿香・香薷・川芎・土茯苓・山梔子・牡蠣。

當山葛根・榜鷄・蠻茄・麪毛等、總而拔郡之利、擧國之用、有此國而已

貢　壁　公穀六百束。假粟二百丸

産。荊麥。山藥。當歸。亦有遊雉之圃

榜鷄（本草卷四十）
番茄（同二十八）
和名鈔意譯（萬加信）

眞弓神社一座武甕槌之神也

中島　公穀　九百束。假粟　二百五十丸。

産。楝（或棟乎）實。梨。桃。梅。蕨。松。杉。等

成願寺（岡本天皇三年丁巳六月。造營之地。緣宗沙門。開基之所也。）

西島　公穀　三百束。假粟　百五十丸。

産。蕎麥。芋。薯蕷。胡蘿。苹蒡。等又産。晩（ヲシネ）稲。雉。鳩。雲雀。鴻鴈之群備吹獵。

岡野井陵。國造岡野井眞人葬于此。早（莖イ）稲熟時以穗幷被祭之。神祇官之下文。毎祭至於此。

治部省解牒印陵（戸イ）

和名鈔他田（乎佐多）

他田　公穀　六百二十三束。八字田。假粟二百六十丸。三畝。

其産同西嶋

松城神社　所祭饒速日命也

神宮寺　松城之攝（鎭守イ）寺。仲大兄皇子之開基（地イ）也。後行基住此院

瓣志田池（調御。鯉。鮒。鮮魚。筍。根。荷葉。鯉御ハ寄膳部。筍根荷葉ハ附典藥寮）

賀美嶋（或神嶋）　公穀二百束。假粟。虫飡

有鮮鱗粒具之利

少彦名、園韓二神

賀美志摩之祠　稚足彦天皇五年乙亥五月。被奉宮幣。少彦名・園韓之二神也

有度釆女陵

豐炊爾乃陵有度釆女藪子。葬于此

有度淸水或玉潔水公穀　千二百束。假粟。九百丸

海磯之貢。月料百駄

神名帳作伊河麻神社

伊軻麻神社　淨見原天皇御宇。四年四月。被祭之。應神處分爲四宮。奉祭譽田天皇所也

間頓寺　聖武天皇豐櫻彦天皇之勅願也。俊良阿闍梨居于此

池田或築田　公穀　六百束。假粟　二百丸。

產早稻。晚麥。地黃。當歸。橘柚。供典藥膳部之調

池田神社（神名）　所祭事代主神也。小泊瀨若鷦鷯天皇元年乙卯六月。祈雨祭之

萬福寺　安聖德太子十如木佛。天平神護元年乙巳之造營也

大澤　生鯉鮒。旱歲水不死。雨歲不增波。膏腴之地利也

一邑　或一職　公穀。二百束。假粟。百五十丸

一邑　川自廬原川落于此。有鮎鰻之利

幸之社　所祭高皇產靈神也

瀧祭宮　與伊勢國神也

緣澤　出獨活蓮根菱實

吉田　公穀。千三百束。假粟　五百丸

吉田川　出自盧原川

廣野社　日本武尊所奉祭素盞鳴尊也

此間虫食

草奈岐　公穀　六百束。假粟。四百丸

草薙神社（神名）　香具山日記曰。天照大神。以天孫瓊瓊杵尊。欲爲豐葦原中津神君。欲天降之時。左御手持攝八坂瓊之曲玉。右御手攝天叢雲劍。叢雲。或稱草薙之劍。號叢雲者。素盞鳴尊。欲下根國。吟出雲國之時。出雲與伯耆之境有簸川。其川上常世有大蛇橫行。松栢生背。其徑。尋阿里氏。蔓延於八丘八谷之間。其眼如赤酸醬。頭尾各有八岐。因之史家謂八岐大蛇。不云大蛇可謂於呂地。取於止魯於止魯志。貴之義也。其大蛇之常住之傍有奇雲。依之。素盞鳴尊誅之寸寸。而至尾劍刃少缺。故割裂其尾視之尾中有一奇神劍。尊取之被奉天。用依雲氣有天叢雲之名。草薙亦別名也。草者生無主之地。此草原自天孫降臨。無草叢之神。專其國輝然焉繁草逢利劍如拂其子葉。故天孫降臨之後。有草薙之號。又齋部記云。取燒鎌乃敏鎌之義。又善哉胸與腹之間中八咫鏡神祝曰。天孫視吾。如視此三種之寶器。又同牀共大殿。自此天。嗣不絕。以此三種之璽。

被奉持之。云云 依之見之則、草薙者、叢雲之別名也

一書曰。日本武尊、越東夷難。至駿河國。浮嶋原與阿部市東夷欺尊、託狩獵令遊御廣野。日中縱火。于時十月之旬、衆草枯死而宜添火。恰如塗油。煙已進而尊之軍至危。所帶之叢雲劒同脫拂此野火。依此有草薙名。此事大謬也。唯自神代同名。而此神祠者、所祭天照大神之地也。

枚也曰、菌菌乎、菌音君、箕竹、可為矢、亦箭竹云云

草薙山（或矢田山）　出走兎。雉雊（雖乎）。狐狸等。又産菌蕈（クサヒラ）松竹等

淺澤　出鯉鰻魚。當國造之用

葵澤（同澤）　公穀。四百束　假粟。（百丸　脫何百等乎）

敢國神名帳伊賀國阿拜郡有同神社

敢國神社　奉祭金山此咩。與伊賀美濃之社同。

又云美濃國不破郡仲山金山彥神社

建崇寺　蘇我稻美連之願也。亦多羅葉璃穀（前後脫字乎）

澤田川。脫註乎

玖乃　或久能。取久能義。後忌久義之皇子御名而改玖乃。公穀。六百束　假粟。二百丸

山料　月別。三（何々乎）千駄。浦料。食鹽。四十五駄。

出雉。兎。鴻。鴈。雕。隼。鮮魚。茯苓。柴胡。綿毛等

稻荷

稻荷神社　神護景雲三年（己酉）正月初祭之

有渡濱 上已出

有渡山（久鳥渡山） 炊屋姬天皇之御宇。秦川勝之男秦尊良之弟（或ハ之子尊良）久能。朝昏信佛願拜千手觀音像。連夢念此事。一老翁夢裏示曰。汝欲（顧イ）拜正身之觀音像者。赴鷹河國有度山。可待一浦風之至時。晨枕如見眞老翁。忽進杖履。不陪家僕。唯自己而越茲。寄身禽獸之栖穴。專念正身謁見之事。松風改更。月落潮海之時。浦風陣陣而成寂寥之思。不期著睡。往時之老翁再來。我是補陀洛之僧也。今夜應汝望……………虫食廿五行程

有渡濱 自久能浦至御穗吳服之神社前。都行程七里。曰有渡濱

淺澤 公穀。七十束 假粟。四十丸。澤料貢大膳職。但待國造守家處分

淺澤神社 鳴澤女神也

瀨織戸 公穀百束。假粟。八十五丸。海料。十（乾字乎）五駄。但年別食鹽。二十駄

（瀨乎）織戸神社 神護景雲元年丁未（小字）。所祭瀨織比（津乎）咩也（有一本）

海松院 安千壽中藏大偸（イニナシ）菩薩作（像乎）。天平二年（丙午）勅願也

高麗肥（或駒）越。此間虫食 公穀二百五十束 假粟。八十三丸。八文（字田乎）

止由氣（草イ）神社 泊瀨邊天皇（崇峻天皇）。（年乎）己酉七月。初奉例幣

鳥澤　貢ニ鯉。鮒。鰻。菱。海甲。等

矢部田山　貢ニ鹿。角。頭。走。兎。血。山藥葛糯等

此間虫食

村松（或邑松）　公穀五百束。假粟二百七十丸　食鹽十七駄。但年（小字）別供ニ內膳司ー。海料十二駄

直日神社　所ㇾ祭ニ手力雄命ー也（此間虫食）

八幡岡　貢ニ樸稅百十七駄。出ニ松栢杉樟ー。又貢ニ兎。狐。狸。貂（狼イ）。之皮毛

八幡神社　神護景雲（稱德天皇）三年九月。大宰神主阿曾麻呂。五畿七道各置ニ譽田先君宮舍ー。故此亦擧

田天皇之舊官（館イ）也。

稻河（或伊奈川或稻南河）　公穀七十束。假粟六十丸。

生芹蘿蔔入ニ內膳司料ー

會星（鄕乎）　公穀三百束。假粟。百六十丸

香稚神社　所ㇾ祭ニ神功皇后ー也

會星澤　出ニ鰤。鯉。鮒。之魚ー

新居（鄕乎）　公穀二百五十束　假粟百七十丸

新居神社　押栖天皇（宣化天皇）二年（丁子）三月。初祭ㇾ之。大武神也

八幡神社　稱德天皇景雲三年　五畿七道各置ニ譽田先君宮舍ー

和名鈔有度郡會星（安布保之）

和名鈔有度郡新居（爾比井）

鰕（蝦イ）墳　公穀。二百三十（二本）束　假粟。九十丸

鰕（蝦イ）澤　貢。菱。澤瀉。獨活。荷葉。典藥寮之料也

虫喰七十行

萬葉集中、山上憶良以袖師浦廬崎爲連景歌追可考

袖師浦　以自烏渡濱以東。號袖師浦。憶（山上乎）良以廬崎爲連景

此後脫簡十二（面イ）行

矢部渡有渡　公穀。二百六十束　假粟。八十丸。

貢。海料。食鹽。亦有驛船

和泉或壹出水　公穀。百七千束。假粟。六十丸

有好井。（水イ）其底二尺餘。旱水不枯。洪水不增。常有小蟹散雙住井底。取之不當手。其水味如甘露

履奴仗（岐イ）　公穀。三百束　假粟。八（百イ）十丸

有去靏神社或莫（北田氣イ）神社則所祭外宮也

長澤　公穀。三百二十束。假粟百二十丸

貢。五穀。綿麻等

宗隆寺　些呂菅天皇之御稙（頴乎）也已上大字

長澤神社奉祭高皇産靈尊神皇産靈尊也（ノ二三字恐文字脱乎）單其等社皇彥靈尊也

總日本風土記蕪河與雁卯終（目乎）（有變誤乎　海北氏曰　已上十二字イニナシ）

右風土記殘卌十七卌之內蕪河有（烏イ）渡郡之餘（也二字イニナシ）卷求大納（義乎）言高基之（邦乎）家本與官本挍合畢

文和元年（壬辰）四月下旬

朝散大夫中原師行

和名鈔　內屋（ウツノヤ）　託美（タクミ）　苷見（カミ）今旣

日本總國風土記第五十四

蕪河

和名鈔駿河國廬原（伊保波良）郡

伊穗原郡　浦五、名山十五ケ所、河七、川三、池七、澤四、宮祠十八ケ社（所イニ）、寺十一宇（院乎（海北氏））、墳墓十二基、堤五ケ所、圃六ケ顆、

東限蒲原榎田堤、西限西奈山微雨河、南限美穗田子浦之間、北限太平山其滑居濕（四字有不審　土イ）（焉イ）

貢早穀橫產白絹商布驛馬松栢杉樟怪石奇草靈羊角革鎧箭鏑鐵金鯉鮒鮎鱸鵁鶄鴨雉五味子薯蕷香薷葛根鷄丹草等。其土貢秀餘里其田者中之上也

和名鈔廬原郡蒲原（加無波良）驛長田

蒲原或神原驛　公穀六百八十二束。假粟三百六十三丸　驛長田三十丸。

田令曰、凡驛田皆隨近給、大路四町、中路三町、小路二町、

榎田堤　每歲仲春仲秋之望令郡民植柳栗。曰別一千丁。丁食充國府飾（師（イニ））家其食鹽充御保（供イ）

由居盧崎海戸。三年別防河使令之正事。故

巖淵 出横穀井川 苔。前胡。柴胡。鮎鱸等。又甲斐之檜皮木槇。桐。并令筏舟著于茲

西山寺 和銅元年戊申。聖仲沙門開基之地也。安十體之無量壽佛

東山寺 太寶元年 辛丑 三月之間。疫疾入病骨滿市。府官命官令之埋此寺 二字間脱字乎

阿蘇宇伊 公穀。三百十五束 假粟百二十丸

出麥麴商。絹鹿角等

阿蘇宇神社 所祭大山祇命也

內富瀬 公穀二百六十七束 假要九十六丸

紬伊 或ハ由伊。或ハ由膽ノ譌 公穀。二百五十束 假粟。百十二丸 出白絹。麻布。竹籠。土陶瓶。海魚礒苔。

食鹽

飲田八幡 神護景雲二年 戊申 八月十五日。所祭譽田天皇與荒木田襲皮彥也

向海寺 靈龜二年 丙辰 二年。吉備右府開此地安釋迦佛

闢澤 公穀。二百六十五束。假粟。百二十丸。

出獨活荷葉菱 實芹菜

伊與膽同假名

○與榎田堤註作由居者異與否貝國字差、種季

萬葉第十一

カツラキノソツヒコマ弓アラキニモタノメヤ君カワカ名ツケヽム

闕口神社　所祭建角部見命也

來迎院　天平寶字二年戊戌。高寛沙門開基之地也。安三十三體佛

寺尾　公穀。三百八十束　假粟。百七十丸

寺田。九十二畝

鞍佐里　公穀。二百八十束。二字田。假粟。百三畝六字。隻字田　出杉樟松栢

鞍佐里神社　所祭日本武尊也。往昔古老傳曰。日本武尊。逢野火鞍馬賦騑矣。自居鞍下念

神明忽自鞍共鞍破盡。依之有此名焉

袖師洞或佐惠田乃岡　海岸如立屏。驛馬浴浪。浄見之要領也

井上　公穀。三百二十束　假粟。百六十丸

出鈴羊角。猪皮。狐狸。兎。犬。革

他伊原或橘原　公穀。二百六十束　假粟。百十三束。二字田。

此間三十二行蟲食不見

鹿。原並山　公穀。六百七十三束。假粟。二百九十三丸

出鹿。猪。狐。狸革幷隼。鷹。鷲。鶴。鴈。鵰等

鹿田神社　所祭建角見命也。泊瀬部天皇。三年庚戌三月遷座也

古國府　公穀。三百十八束。三字田。假粟。百六十三丸　出宿麴麥。麥草。荀栗。當歸。芍藥。人參。黃芪。等充主藥寮。

紀弊公穀。三百三束。二畝。二字田。假粟。百二十七丸　貢。麻帛野劒等

紀弊神社　祭大歳神也。圭田。八十束。充國府下文

中藏寺　神龜三年丙寅三月。什滿法師開基也

雄嶋　公穀。三百二十束　假粟。二百三十二丸。隻毛。

酒瓶神社

酒瓶神社　大酒解命。小酒解命也。彥押白別天皇。十三年癸未三月。初奉宮幣。國中四宮也

浦田川或奧津川　出利瀨里何　貢。鮎。鰤。川苔。亦鵜飼臺充國府之料。慰官使。

和名鈔息津(於木都)

興津或息津。或奧津。或沖津　公穀。三百六十束　假粟。百五十丸　貢。海魚。食鹽。又兎關戸之守丁

茨原神社　稚足彥天皇。二年。初奉官幣。帛絹

此間虫湌

神名帳作久佐奈岐神社

東草奈岐或久佐奈岐　公穀。三百九十束　假粟。百六十丸。二毛田。貢。脩竹。杉松等

草奈岐神社　稚足彥天皇。元年辛未。初祭之奉官幣

和名鈔廬原（伊保波良）

廬原或伊穗原。小府有。有大領宅。公穀。五百六十束 假粟。二百七十丸
貢松栢蕈菘等
豐積神社或止由氣（神名）日本武尊祭之地也。國中之二宮也此間虫食
高橋 公穀。五百三十三束 假粟。二百六十丸
貢。澤料。鶴。鴨。川魚等
北高橋 公穀。四百六十七束。三字。隻毛。假粟二百三十丸。二毛田。其。田。高橋
國分寺僧方 俗高。豐櫻彥天皇。神龜四年丁卯三月初。之定。定額之寺
山原 公穀。二百十四束。七字田。隻毛。假粟九十七丸。三畝。三毛田。山貢居其豐饒。貢。山
禽。鹿革。麥羊角。猪肉膏。充主藥寮用。商絹五十疋。毎歲被充國府處分
闕田神社 所祭大山禱。木華開耶姬也
以下虫食二十行程

和名鈔蒸（世奈）

瀬名田 公穀。百六十束 假粟。七十二丸。三畝。三毛。貢。澤 芹茱根等
西奈 公穀。五百六十束 假粟。二百七十丸。三畝。三字田。五毛
此間虫食（行數不知イ）

羅浮子神社考第五云、三保一作御穗。案風土記、古老傳言、昔有神女自天降來、曝羽衣於松枝、漁人拾得而見之、其輕軟不可言也、所謂六銖衣乎、織女機中物乎、神女乞之、漁人不與、神女欲上天而無羽衣、於是遂與漁人爲夫婦、蓋不得已也、其後一日女取羽衣乘雲而去、其漁人亦登仙云、
今按、此文與今違矣、如何、

美髣或御穗。美保。三保。御方。公穀。百八十束。假粟。二十丸、浦料三十駄。食鹽四十駄。各月別。出鰐魚長短。粒貝魚石等。産。杉。樟。櫟。松。茅。茯苓。茯神。琥珀。松脂。柴胡。黄芩。山梔子。橘柚。川芎。香薷。藿香。土茯苓。牡蠣。煙青。海鹽。土針草。薯蕷等之貢

御穗神社（神名） 所祭。已貴命。又號御穗津彥。御穗津比呼命也。日本。所祭。奉勅供官幣。始獻圭田五百畝。爲國之三宮。所謂瀨織戶邑。箭部村。興津郷。菴崎。三保也

羽車礒田社 離宮也 大已貴命。天孫降臨之機爲顯其時。大已貴命。登天上。奏可順条条。忽乘御天日鷲。大羽鷲羽車。休御穗御崎。後其鷲爲拳之社日。有天女脫羽衣謬羽車也。

潮風不違時。波濤不擧壞。可奇之嶋也

田子里或苫屋里 八穀。二百五十束 假粟百三十二丸。三畝

田子浦 出食梨鮮魚海苔等

此後虫食不見

右風土記殘冊十七冊之內。蔦河伊穗原之餘卷。求藤大納言高基卿之家本。與官本校合畢

文和元年壬辰五月十六日

朝散大夫中原師行

和名鈔 大井 河名今脫

日本總風土記第五十五

駿河

安辨郡　浦四、河五流、川一派、澤七、池四、祠宮十一ケ所（〈座イ〉）、寺院五字、墳陵三ケ基、

（和名鈔駿河國安倍郡）

東限布留忘川。西限志都機河。北限平野山。南限藤井浦。　産。早中田。横苗。綿。麻。萱。松

栢。樟。楠。橘。柚。柴胡。黄芩。川芎。楊梅。公棟楮梅。楮。（〈脂イ〉〈（イ）ナシ〉〈楝（イ）〉）　貢海料禽。料河料等

廣作　公穀五百束。十七字田。假粟二百五十丸。

（和名鈔廣作（比呂止毛））

貢。松栢。杉。梅。鶴。鷹。野鶴等

廣作神社　所祭經津主神也

安樂寺　行基菩薩之開基之地也。安置瑠璃之四方佛

（買與數目漆字通用）

山崎　公穀三百束。假粟百質十三丸（〈セイ（朱）〉）

横貢。梨。桃。梅。栗。楊梅等―已上九字イニナシ

椎乃尾　公穀。七百束。十九。田（〈字乎〉〈イニナシ〉）　假粟。三百五十二田（〈丸乎〉）　貢樟杉竹蔬等（〈イナシ〉）

椎乃尾神社　所祭事代主神也

椎田池　出美石。和銅元年（戊申）自三月徑五月。池底鳴（〈ル夜（一本）〉）聲百餘度。恰如地震。五月望夕。有

一黒牛出池底。負一顆之玉。其玉光照四邊。後以其牛獻京家。路程不堪著。至白須計渡

斃死。號其處曰牛瀨。今猶存焉云云

宇知牧　公穀百六十束。假粟七十二丸

貢。騎馬幷驛馬。例歲。信濃駒使宿此

宇知乃宮　所祭天照大神。忍穗瓊尊之地也

迎仙寺　神護景雲元年之願寺也。密祕雄密經之法

白澤　公穀。五百束　假粟。二百十二丸

貢。澤瀉。獨活菱會。荷葉。鰹。鮒。蟹。等

白澤神社（神名帳）　所祭伊弉冊尊也。豐國成姬天皇二年庚戌添祭諏訪神社

出鹿。猪。狐。狸。狼。兎。雉。鳩。鷄。葛。蕨。楊梅。山藥等

芸野牧山　公穀。百六十束　假粟。七十二丸

諏訪神社　豐櫻彥天皇三年乙丑夏五月。始祭之

大河內　公穀。百二十三束。假粟八十四丸

産。葛粉。蕨。芰茱等

大河內河　河流分爲三。一爲思豆機河。一爲鞠子川。一爲猪川。終純入海出鮎。鰯魚。鯽等。又

出奇苦怪石

和名抄有川邊郷。大河內同所歟

和名鈔葛間（加都良萬）

葛間　公穀三百六十束　假粟百四十丸
鞆神社　廣野姫天皇三年丑（又何月乎）所祭少彦名園（合乎）韓神也
律壽量寺　高野姫天皇六年（甲午）四月安置無量壽佛
皇之池　日本武尊討蝦夷之時。暫時屯于茲浴此池。被（其乎）東軍之地也。故曰皇之池
中河內　公穀二百六十束　假粟百二十丸
貢葛粉蕨。鮎。鯆。松柏杉樟竹柴等役府舍
木枯里　公穀三百二十束。假粟十二丸出松。杉鹿狐松脂。當圖書寮中匠寮。鹿狐當兵庫寮武器
木枯森　廣野姫天皇（實何年）十月。府官史生使部奉役入山中　慕（暴乎）風陣樹木顛倒。荒忽如沈醉于時風雨一行後。已至黃昏月清朗焉。有一大男居巖頭。其威風如生毛髮暫時難對顏眉。史生（秦家）助右解腰劍當之之下手如覺目眩。四邊無物。唯覺醉夢。使部（并）餘生如此。其後不知其過蹤云云
安藤驛　公穀六十二束　假粟二十七丸
日別馱。官物省物二百馱。商馱日別。百五十圍。草（馬乎）料當手腰原。鹽料當中里。持舟。燒津之民戶

此歌以今按。則假名恐ハ失ン之。憶良ノ讚ハ千入ノ假名ハ知之ヘリ。今書ニ千志恩ト假名違

恩津機山（或志豆機山。或恩津機山。或須波多山）

又號青葉岡。有山上憶良短歌

駿河路乃。青葉岡爾。身波須禮止。袖波千志恩丹。成茂古曾。云（須曾乎）云

志津機神社 日本武尊征東蝦夷之時。遭野火屯此山避其勞陋。尊深志專守倭姫命之神教（神教ハ見世記）仍之以栲幡千千姫祭此山。合之以稚日女尊（見天照大神有殺疑。當心宜鎮之）志津機之名本女功。依兩神之名與其功業而號之也

麓山神社 去志津機社五十步。譽田天皇五年（甲午）十一月。所祭大山祇神與日本武尊也。

此則依祝部氏祈忌寸之夢託

和名鈔川邊（加波乃倍）

府 無正税 假粟。六百八十丸。掃料百丸。固關料。百六十丸

府有川邊郷四園（在乎）。楠。杉。松。栢（當乎）等。侍府務處分植之。阿部役夫掌之所也

和名鈔横田（與古太）

横田 無正税 郷學醫生之給料。驛馬之草料。當此郷

横杉野 公穀。二百五十束 假。百二十丸（粟乎）

去府官舍纔二百步許。故其役繁多也。假粟准府官地

大歳御祖神

大歳御祖神（或雷神）（本名） 譽田天皇四年（己巳）始祭。云大歳御祖神者號玉依姫。賀茂健角見（命乎）之女也。雷神者。伊弉冊尊生火神軻遇突智終。後伊弉諾尊斬爲三斬（段乎）。後其一爲雷神。云

神名帳作…社

槽垣ハ遠江濱名郡ニ亦在、又同敷智郡ニ有岐佐岡ノ神社、俗ニ號岡槽垣云々　細見氏

注連田

延保（或建保）　公穀三百九十束　假粟百二十丸

産竹　杉　瀧米　草　蓼　桔梗　牛蒡等

延保神社　所祭天照大神也。日本武尊之擧之所也

此後虫（蝕）落丁三葉許

菩提寺（法宗　相敏）　公穀三十二束

養老五年三月始（建之乎）云。虫（蝕乎）

大澤　公穀二百五十束　假粟百十七丸

大澤池　出鯉　鮒　狩兎（獵乎）等

菅沼　公穀五百二十束　假粟二百六十丸

菅沼神社　所祭糟垣大神也。依豐櫻彦天皇（聖武天皇）三年丙寅御祈（晴日乎）也（祭之乎）

松墨　公穀百二十束　假粟百十丸。佐伯田三ケ二。虫（蝕乎）

貢圭田注連田三毛殘之

井宮神社　所祭滿織津姫也

崇德寺　道鏡法師宿願之地而安置彌勒佛。

神護景雲二年（戊申）三月。別置別當職。

神名帳作足坏神社

廣野　公穀。二千百五十束。假粟。百十七丸

海料准正税

貢。諸鱗。田禽。諸苔。怪石等

持舟泊無正税往返之諸帆盡入此湊。故府官擧度決此云(朱)

足坏公穀。二千百二十束　假粟百三丸

足都幾神社　所祭蛭兒也。卜部兼臣求而祭之也

神部　公穀三百束　假粟。百二十七丸

日本武尊驛。此護持神劔。故有神部。云

神部神社(神名帳)(朱)　則日本武尊所祭大神宮也此下虫損

中津神社(神名帳)　所祭住吉神也。天平神護元年乙丑三月。之造社也。

小梳　公穀。二千百六十束　假粟。百十二丸

小梳神社(神名帳)　所祭素盞嗚尊與奇稲田姫也。小梳後號東川込

足濯　公穀。三百二十束　假粟。百三十丸

出芹菜蘿蔔牛房等

萬行寺　廐戸之皇子御願也

足濯澤　出諸鮮其後當府官祭國神之用云云

横雄河　出中河内河落有度海

此後虫湌落丁五葉許

南内屋　公穀三百六十束　假粟二百十五丸

和名鈔有度郡有内屋（字都乃也）

貢蘿蔔芹菜。當府務官使

白髮神社　神護景雲年中所祭也

平峽　公穀二百三十束　假粟六十丸

貢鵝鸛鵜鶘醯

壽福寺　行基之願寺安無量壽佛

池峽　公穀百三十束　假粟六十七丸

鴻之池　安瀬織津比咩

風土記安辨郡終

右風土記殘冊十七冊之内駿河安辨郡之餘卷。求藤大納言高基卿之家本與官本校合畢

今案、富士駿河志太益頭四郡既焉、仙覺萬葉註釋第三云、古老のいはく、するがのふしの山、蕈高の山、此兩山の間、昔は東海道の驛路也、さて其中によこはしりの關なんど云所も有けるなり、足から、清みが横走なんどいふことの侍るはこれ也、横走の關はふしろ足高のあはひ也、此邊を昔の旅人通りける間、重服觸穢の

文和元年壬辰四月下旬

朝散大夫中原師行

和名鈔　埴生　美和　川津　八蔬今脱

者とも、朝夕通りけるを、明神いとはせ給ひて、今の浮嶋ケ原といふは、南海の中に浪にゆられて有けるを、うちよせさせ給ひけり、扨其後、今の道はいて來に、けりと申つたへ侍ふ也、同日、せのうみといふは、水海しのいぬいの角に侍る山の、なり、すへてふしの山の、もとには、山をめぐりて、八の海あるとなん申す、石花の海と申すは、かの八の海ノ一也、又曰、此山には、其雪のふりつもりて有が、六月十五日に、其雪のきえて、子の時よりしもには、又ふりかはると、するかの國の、風土記に見えたりといへり、

和名鈔武藏(牟佐之)國荏原(江波良)郡

和名鈔荏原郡荏原(江波良)

和名鈔蒲田(加萬太)

日本總國風土記第七十七

牟差國(或ハ作武藏武刺) 荏原郡(或ハ縁原、氷原)

浦(二ケ所)、湊(一ケ所)、岡(三ケ所)、。河(二流)、泉(一礎)、宮祠(五ケ所)、寺院(四宇)、墳墓(一基)、關(一要)、

荏原郡 西限ニ金洲崎ー。東限ニ常盤木森ー。或限ニ大戸湊ー。南限ニ復世川ー。北限ニ佐也岡ー。貢。竹。梅。桃。櫻。

野老。栗。柿。葡萄。土大根。紫。黄芩。芎藭。丹参。桔梗。サ。知母。芎藥。烏頭。鶴。鳩。鴨。鷺。雉。鶉。

鮮魚之類。石決明。鮨。名苔之類。又制ニ武器之具ー。獻ニ官之武庫ー

荏原。郷 公穀。三百六十二束。字田。假粟二百三十丸 五字田貢。粟。葡萄。土大根。紫。野老。

又有ニ鶴鷹之獵ー

甲飾神社 圭田 三十六束。六毛田。所レ祭ニ。經津主神ー也。天智天皇三年三月始行ニ神禮ー

荏原河 貢。鮎。鮠。及雜魚近村之旱使利如ニ河水ー。其水落ニ結城河ー

郊倉寺 寄田 四十五丸。四字田。文武天皇大寶三年戊滿快法師。安ニ觀音尊像ー。行ニ救世ー行

處ー也

蒲田。郷 公穀 四百八十六束。八字田。

假粟 三百十五丸。貢。梅。竹。櫻桃。黄芩。芎藭。鶴。鳩。鸛。鶉。鹿。猪。狐。兎。之類

虫浪不レ見

貞觀六年八月十四日……（朱書キ）

韓田神社（神名帳）　圭田六十二束　所祭園韓神少彦名命也。依雄略天皇十一年之勅而始行神禮。有神家巫戸。祈病災莫不驗。祈田毛莫不實。

按、延喜式參考志云、益々今

益師池　有鄕之南貢鯉鮒水旱水不增減。傳言。役小角入府之池也

參覺之誤乎、和名鈔田本（多毛止）

田本鄕　公穀　虫食不見

磐井神社（神名帳）　圭田三十六束。三字田。敏達天皇二年癸巳八月所祭大己貴命也。社邊有磐井。祈事土俗行安願則其御手洗井水變鹽味。事正直則如淸水。近國奇之。祈病者取之服之其功驗如神。土俗曰藥師水

和名鈔櫻田（佐久良太）

櫻田。鄕字　公穀　五百六十三束　假粟四百二十五丸　貢紫草香薷及褐染衣及綾布調布等。又貢武器。號櫻田。開櫻之時。イナシ（朱）取田苗。故有此名

石田神社　圭田三十二束　所祭應神天皇也。和銅元年始行祭禮

霞關　日本武尊東夷征罰之時。蝦夷之儲關也。爾來連綿太被置之。干今乎　ノ而イ　舉國之勝景而然其遠眺隔雲霞。故有霞關之號。已上十四字ナシイニ

右風土記殘冊之內。武藏國荏原郡之餘卷。以閑院大臣之藏本寫之。以官本遂校合イ讀畢

右小松氏
嘉慶二年乙丑四月上旬

左羽林次將藤原元隆寫之

和名鈔　滿田　覺志　御田　木田　驛家今院

風土記

豐後國

今案、此非全篇、古書抜書也

郡捌所　鄕四十、里一百一十、驛玖所　並小路、烽伍所　並下國、寺貳所　一僧寺　一尼寺

和名鈔豐後（止與久邇乃美知乃之利）國

豐後國者。本與豐前國合爲一國。昔者纒向日代宮御宇大足彦天皇　詔豐國直等祖菟名手遣治豐國。往到豐前國中津郡中臣村。于時日晩僑宿。明日昧爽忽有白鳥從北飛來翔集此村。菟名手卽勒僕者遣看其鳥。鳥化爲餅。片時之間化芋草數千許株。花葉冬榮。菟名手見之爲異歡喜云。化生之芋未曾有見。實至德之感乾坤之瑞。既而參上朝庭擧狀奏已上。

和名鈔、中津郡、中臣、海北氏曰、

本闕

天皇於茲歡喜之有。卽勅菟名手云。天之瑞物地之豐草。汝之治國可謂豐國。重賜姓曰豐國直。因曰豐國。後分兩國。以豐後國爲名。

日田郡　鄕伍所　里一十四、驛壹所、

和名鈔日高（比太）郡安伎、伊美、夾緒、田染、津守、日田、石井

昔者纒向日代宮御宇大足彦天皇征球磨贈於凱旋之時。發筑後國生葉行宮幸於此郡。有神名曰久津媛。化而爲人。參迎辨申國消息。因斯曰久津媛之郡。今謂日田郡者

訛也

石井郷(在郡南)

昔者此村有土蜘蛛之堡。不用石築以土。因斯名曰無石堡。後人謂石井郷誤也。郷中有河。名曰阿蘇川。其源出肥後國阿蘇郡少國之峯。流到此郷。郡通球珠川。會爲一川。名曰田川。年魚多在。遂過筑前筑後等國。入於西海。

堡字字彙云博雅曰堡累也堤也　實方保ニハ小城也　樋口氏

鏡坂(在郡西)

昔者纏向日代宮御宇。天皇登此坂上。御覽國形。即勅曰。此國地形似鏡面哉。因曰鏡坂。斯其緣也

靫編郷(在郡東西　南北(海北氏))

昔者磯城嶋宮御宇天國排開廣庭天皇之世。日下部君等祖邑阿自。仕奉靫部。其邑阿自就於此村。造宅居之。因斯名曰靫負村。後人改曰靫編郷。中有川。曰球珠川。其源從球珠郡東南山出。流到石井郷。通阿蘇川。會爲一川。今謂日田川是訛也

五馬山(在郡南)

昔者此山有土蜘蛛。名曰五馬媛。因曰五馬山。飛鳥淨御原御宇(宮字(海北氏曰))天皇御世戊寅年。大有地震。山岡(岡イ)裂崩。此山一峽崩落。溫之泉處之而出。(々字(朱))湯氣熾熱炊飯早熟。但一處之湯。其穴

似井。（曰佳丈）餘無知深淺。水色如紺常不流。聞人之聲驚慍騰遲一丈餘許。今謂溫湯是也

球珠郡　郷參　所（里）九、驛壹所

和名鈔球珠（久須郡今已小田永野）

昔者此村有洪樟樹。因曰球珠郡

直入郡　郷肆　所（里）十、驛壹所

和名鈔直入（奈保利）郡三宅直入　三宅

昔者郡東垂水村有桑生之。其高極陵。枝幹直美。俗曰直垂村。後人改曰直入郡是也

神名帳直入郡一座（小）

健男霜凝日子神社

柏原郷（在郡南）

昔者此郷柏樹多生。因曰柏原郷

禰疑野（在柏原郷之南）

昔者纏向日代宮御宇天皇行幸之時。此野有土蜘蛛名曰打猨八田國摩侶等三人。天皇親欲伐此賊。在茲野勅歷勞兵衆。因謂禰疑野是也

此段見景行天皇十二年紀

蹶石野（在柏原郷之中）

同天皇欲伐土蜘蛛之賊幸於柏峽。大野中有石。長六尺。廣三尺。厚一尺五寸。天皇祈曰。朕將滅此賊當蹶茲石。譬如柏葉而即蹶之。騰如柏葉。因曰蹶石野

珠覃郷（在郡北）

珠乎（釋日本紀及仙覺萬葉註釋）

此村有泉。同天皇行幸之時。奉膳(イ(可用))之人。擬於御飲令汲泉水。即有蛇龗(仙同)依茲天皇勅云。如將有臭莫令汲用。因斯名曰臭泉。因爲名今謂球覃鄕者訛也以上釋日本紀亦仙覺註

宮處野(朽網鄕所在之野)

同天皇爲征伐土蜘蛛之時。起行宮於此野。是以名曰宮處野

救覃峯(在郡南)

此峯頂火恒燎之基有數川名曰神河。亦有二湯河。流會神河

大野郡　鄕肆所(里一十)驛貳所、烽壹所、

此郡所部悉皆原野。因此名曰大野郡

海石榴市　血田(並在郡南)

昔者纏向日代宮御宇天皇。在球覃行宮。仍欲誅鼠石窟土蜘蛛。而詔群臣伐採海石榴樹。作椎爲兵。即簡猛卒授兵椎。以穿山靡草襲土蜘蛛。而悉誅殺。流血沒踝。其作椎之處曰海石榴市。亦流血之處曰血田也(已上(釋))

細(網乎)磯野(在郡西南)

同天皇行幸之時。此間有土蜘蛛。名曰小竹鹿奥(謂志努片意招(拘乎))小竹鹿臣。此土蜘蛛二人。擬爲御膳。

和名鈔大野(於保乃)郡田口大野、緒方、三重神名帳大野郡一座大、西寒多神社大、

在化氏曰、簡ハ簡作簡、簡ハ簡也、選也、云云

蘇字彙云牀略切音栖鉄誅也(朱一)

作二田獦一。其獦人聲甚譁

天皇勅云。大囂(謂二阿那美須一)。因レ斯曰二大囂野一。今謂二網磯野一者訛也

海部郡　郷肆　所（里十二）驛壹所。烽貳所

此郡百姓並海邊白水郎也。因曰二海部郡一

和名鈔海部(安萬)郡佐加、穗門、佐井、丹生、在田、夜開、日理、父連
神名帳海部郡一座小、早吸日女神社

丹生郷（在二郡西一）

昔時之人。取二此山沙一該二朱沙一。因曰二丹生郷一

佐尉郷（在二郡東一）

此郷舊名二酒井一。今謂二佐尉郷一者訛也

穗門郷（在二郡南一）

昔者。纏向日代宮御宇　天皇。御船泊二於此門一。海底多生二海藻一而長美。天皇勅曰。取二最勝海藻（謂二價郡米一）便令三以進二御。因。最勝海藻門一。今謂二穗門一者訛者也

若沖曰、價郡米ハ保都米ノ誤乎、最手ヲホツテトヨメハ、本行ノ最勝海藻ヲホツメトヨムヘキ故也、和名ニ海藻ヲニキメトヨメハ、價郡米ヲ、ニキメトヨムヘケレトモ、サニテハ最勝ノ字ニ不レ叶

大分郡　郷玖　所（里二十五）、驛壹所。烽壹所

和名鈔大分(於保伊多)郡
阿南　殖田　津守　荏隈
判太　跡部　武藏　笠祖
笠和　神前

寺貳所（一僧寺、一尼寺、）

昔者。纏向日代宮御宇　天皇。豐前國京都行宮。幸二於此郡一遊二覽地形一嘆曰。廣大哉。此郷也、宜レ名二碩田國一（碩田謂二大分一）今謂二大分一。斯其緣也

京都應レ改二京都一、和名鈔…

前國京都郡。景行天皇紀亦同、

大分河（在郡南）

此河之源出直入郡朽網之峯。指東下流。經過此郡。遂入東海。因曰大分川。年魚多在

酒水（在郡西）

此水之源出郡西指（柏乎）野之磐中。指南下流。其色如（脫字）水。味少酸焉。用療痂癬（謂之波太氣）（洒乎（湖北氏））

速見郡　鄕伍所（里十三）。驛貳所、烽壹所、

昔者。纏向日代宮御宇天皇。欲誅球（珠乎）磨贈。幸於筑紫。從周防國佐婆津（郡名）發船而渡。泊於海部郡宮浦。時於此村有女人。名曰速津媛。爲其處之長。卽聞天皇行幸。親自奉迎奏言。此有二大磐窟。名曰鼠磐窟。土蜘蛛二人住之。其名曰靑。白。又於直入郡禰疑野。有土蜘蛛三人。其名曰打猨。八田。國摩侶。是五人竝爲人强暴。衆類亦多在。悉皆謠云。不從皇命。若强喚者興兵距焉。於是天皇遣兵遮其要害。悉誅滅。因斯名曰速津媛國。後人改曰速見郡

和名鈔速見（波夜美）郡朝見、八坂、由布（ユフ）、大神（オホムチ）、山香（ヤマカ）。續日本紀三十二、速見郡、敵見鄕云々朝見誤乎。神名帳速見郡三座（並小）宇奈岐日女神社、火男火賣神社二座、貞觀九年二月廿六日、太宰府言、從五位上火男神、從五位下火賣神二社、在豐後國速見郡鶴見山嶺、山頂有三池、一池泥水色靑、一池黑、一池赤、云々四月三日、令豐後國鎭謝火男火賣兩神、兪轉讀大般若經緣三池震動之恠也、塵添壒囊抄第十曰、豐後國速見郡ニ溫泉アマタアリ、其中一所ニ四ノ湯アリ、一ヲハ珠灘湯ト云、一ヲハ等峙湯ト云、一ヲハ寶轍湯ト云、其湯ノ谷ノ東西ニ、自然ノ氷アル窟アリ、記曰、開ニ石門ヲ望見ハ如倉、可一丈ニナル、内縱橫可方十丈、其獨聳、興通窟氷凝レリ、或如鋪玉、或似銀柱、非因鑿斧一片

赤湯泉（在郡西北）

此湯泉之穴。在郡西北竈門山。其周十五許丈。湯色赤而有泥。用足塗屋柱。泥流出外變爲淸水。指東下流。因云湯泉

玖倍理湯井（在郡西）

取難、時屬三炎探氷人乎（朱）
百姓入々自足如酌爾樽
若非龍宮浚家安能冬夏
不消者乎云云
今按風土記文乎、說于玆ハ

此湯井在郡西河直山東岸。口徑丈餘。湯色黑。埿常不流。人竊到井邊發聲大言、驚鳴沸騰二丈餘許。其氣熾熱不可向。附緣邊草木悉皆枯萎。因曰溫湯井。俗語曰玖倍理湯井。

柚富鄉（在郡西）

此鄉之中、栲樹多生。常取栲皮以造木綿。因曰柚富鄉。

柚富峯（在柚富鄉西）

此峯頂有石室。其深一十餘丈。高八丈四尺。廣三丈餘。常有水凝。經夏不解。凡柚富鄉近於此峯。因以爲峯名。

頸峯（在柚富峯西南）（富イ）

此峯下有水田。本名宅田（田乎）。此田苗子鹿恒喫之。田主造柵伺待鹿到。未擧已頸容柵間、即喫苗子。田主捕獲將斬其頸。于時鹿請云。我今立盟。免我死罪。若垂大恩得更存者、告我子孫、勿喫苗子。田主於玆大懷怪異、放免不斬。自時以來、此田苗子不破鹿喫、令獲其實。因曰頸田、兼爲峯名。

[illegible]、[illegible]上文ニ次
テ、其[illegible]次第ニ衰ヘテ
失セニケリ[illegible]ハ空シキ野ト
成タリケルヲ、天平中速見ノ

田野（在郡西南）

此野廣大。土地沃腴（腴乎海北氏）。開墾之便、無比此土（無比カ）。昔者郡內百姓居此野、多開水田。餘糧宿畝、大奢已富、作餅爲的。于時餅化白鳥（鳥乎）、發而南飛。當年之間、百姓死絕、水田不造。遂以荒廢。自時以

降不宜水田。今謂田野其緣也

謂ニ日ケル、逢云ケル人、
サシモ記號ニハヒタリシ事ノ、
アセニケルヲアタラシトカ
ミケム、又國ニワタリテ、
田ヲツクリタリケルホトニ
其苗皆失ケレハ驚怠レテ、
又作ラス、捨ニケリト云事
有云々
氏名鈔國埼（井作木）郡武藏
來樽國前　由若　國岐
津守　伊美

國埼郡　鄉陸所十六、里一

昔者纏向日代宮御宇天皇御船從周防國。佐婆津發而度之。遙覽此國勅曰。彼所見者若

國之崎。因云國埼郡

伊美鄉在郡北

同天皇在此村勅曰。此國道路遙遠。山谷阻隘（ハノマヽ）。往還疎稀（朱）。乃得見國。因云國見村今謂

伊美鄉其訛也

豐後終、

寫本云伏見院
永仁五年貳月十四日書寫畢

同十九日一校了

正親町院
文祿四未年臘月三日書寫校合等了

梵

右與畠山牛菴藏本挍勘無差異

大日本國東海濱道尾張國　何十何郡乎（　　　　）

民部省圖帳

△職原抄民部省——又有圖帳。國郡𡸴示載以明句ナリ
誤ニ之民部省圖帳ト
百練抄、後堀河院、嘉祿
二年九月十一日、盜人切ヨ焼

民部省文庫ノ、後ニ取文七等ヲ
了、諸國郡帳少々紛失
和名鈔尾張(チノ乙也)闕、今
栗(クリ)ニ作ル

葉栗郡 行程有西二十四里、清北二十二里七十歩

葉栗 公穀一千二百六十八束、九百五十八丸。六毛出。

貢。松材 栢 樟 海鮮 食鹽等

虫淦

河沼(和名) 公穀二千五百陸拾七束有餘 假粟一千三百仇拾五丸

貢。桑綿。斑糸。鞍馬具 木竹之工。又以牧馬充國司之舉

大毛(和名) 公穀二仇佰陸拾七束有餘。岡毀之舊領也。

大毛川 貢。鮠。鮭。鮎。等 官家命國司之吏部爲乾魚

村岡(和名) 公穀一千撥佰二拾束有餘。假粟。貨百伍拾貨丸有餘。

貢。鶴。鴻。鴨。鷗。鷲鷺。 虫淦

若栗(和名) 公穀 虫淦 假粟拾三丸有餘

神名帳作穴太部神社。宗丞作穴太

穴部明神 天武天皇三年二月祭之

今社

神靈惠日命也。由多氏之祭之。神田二十八束

神名帳作若栗神社

若栗明神 神田三十有餘束。充國司之學稅。和銅二年所祭饒速日命也

同作黒田神社

黒田明神 神田三十五束。外以海料食鹽爲横貢。皇極天皇二年三月。初行神禮。神靈者淀比咩

羽使
有北馬田、持國倉ノ寺ノ村
高八村名鈔、並郡村同、
云々

命瀨津比咩二座也。久我家相續以羽使祭之。三月上丁日

大乘院　持國　寺領三十九束有餘

元曆元年六月源詠法師開基。安置自彫丈六之金佛

極樂寺
(和名)若栗　寺領四十八束有餘。以浦領爲貢代。法然上人三夏與出之繩室也

後醍醐天皇
元亨二年十月下吏日

下民部省　史生源ノ忠勝　史生秦ノ行宗

大日本國東海陰道尾張國　貳十九標

民部省圖帳

海部郡　行程東西十九里二百步　南北二十三里六十步

和名鈔尾張國海部(阿末)郡

新屋鄉(和名)　一千伍佰八十三束　六百二十五丸

貢海料驛馬以牛稅充國庸

中嶋庄(和名)　八百九十三束　提有餘　四百七十二丸

提

漆部大明神　神田七十二束有餘　文德仁壽三年二月加再復

神名帳作漆部神社

賓天智天皇三年五月御新遷也。所祭之神靈者木華咲耶比咩也

國津宇太志明神　神田三十八束有餘。天武天皇元年壬辰十二月始建宮殿。爾來及堀河院寬治六年戊卯

神名帳作宇太志神社

加再復。給神境十四圍（若沖 穀平）（朱）

萬行寺　寺領。三十八束五十餘石

寛仁元年十月。（後一條）惠心僧都開基之地也

安國寺　寺領五十八束

元永元年戊戌（鳥羽院）行尊僧正。修求聞持給爲定額寺

虫食

簗川八幡　正暦之年（一條院）依

敕夢之事而以藤原仲遠而奉幣帛。終給附神田百束。自男山八幡所見遷也

富岡明神　有日置之（和名）村。去村二百步也

長保三年（同）初奉宮殿。神靈豐（若子）岡比咩也

蟲食

右總數二萬三千七十五束有餘

元亨二年十月下春（吏日平）

下民部省史生（源ノ忠勝）史生（秦ノ行信）

萬葉緯　卷第十六　終

萬葉緯卷第十七目錄

風土記

萬葉緯　卷第十七

洛東隱士似閑編緝

世ニ稱スル風土記殘篇ヲ、書今集メテ于茲ニ爲ス篇ヲ

山城國風土記

和名鈔、山城ノ（夜萬之呂）國紀伊（岐）
神名帳、稲荷神社三座（並ニ名神大月次新嘗）
河海抄云、風土記ニ云、南鳥部里稱ニ鳥部ト者、秦公伊呂具ノ的ノ餅化レ鳥與ニ飛居テ其所ノ森ニ、今鳥部ト云云

紀伊郡、

伊奈利社　稱ニ伊奈利ト者。秦中家忌寸等ノ（乃神名帳頭註）遠祖伊侶具ノ秦公積テ稲梁ヲ有ニ富祐一、仍用テ餅ヲ爲ス的ト者化成リ白鳥ト飛翔テ居ニ山峯ニ──伊奈利生子。山遂爲ニ社名ト。至テ其苗裔ニ悔テ先過ヲ而拔ニ社之木ヲ殖テ家ニ禱リ祭ス之ヲ。其木蘓スル者ハ得レ殖、枯ルヽ者ハ不レ移（イ）已上諸神記

和名鈔、久世(久世)郡

久世郡

東西十三里。南北十里。東限長野川西限蘇岡
南限百舌鳥原北限小川、當郡川多山少。民家
富有而出竹木奇沙三行(虫食十)
平間山　出名杉及靈竹。毎歳冬至之後初甲日。兵庫寮之掌。取竹便箭用

(虫食)

穂掛神二座。有山南一千歩。(在乎)日本足彦國押人(天皇乎)十二年

(虫食)

尾山　出大材并多諸鳥。稚日本根子太日日大皇(開化)。三年丙戌冬。此山出光數日。土人恐之又奇之。而告奉(イ)
川宮。　造清域往而察之課土人令狩山出一鳥。土人不曉之形賤而黑色大羽取他鳥而(虫食)
連清域搏之奉卒川宮又無難(虫食)
秦賀瀬川　柚野目良川之末也。川小而少鱗類。出奇沙似金。瀬大者如玉(虫食)
畦日川　出鮎鱒等。小川之末也。觀松彥
(虫食六行)
長野川　少鱗類夫川百歩餘座神中倉稻神。毎秋祭之闕文

和名鈔山城國久世郡宇治

保、今按、保字、字彙云、堡博考、曰音寶、堡也、壕也、云々

ノ兵令義解、若二十戸一者依二上法一立二鄕里一、若不レ滿者令レ伍相保一附二於大村一、又云、凡戸逃走者令三五保追訪一 樋口氏

式目ニ郡鄕庄保云々

今按、葛野郡不レ見、

宇治――野出二柴胡氣造草川實等一。多二狐狸一而往還西後又無レ見虫食

四女地野 有二宇治野東一（又在宇治郡） 出二奇沙及奇石一闕文

藤岡 岡頭神座。天穗日命二座。以二仲夏初癸一祭レ之。土人以レ麥爲二神供之料一

蕪我岡 氣長足姬尊（神功皇后）虫喰

武内宿禰屯レ軍。土人多枯死出二屋財一贖レ之。武内薨往之後祭レ茲二虫食

友田保 出二藥草一總三十種。充二寮之一（用字）公田稚足彥尊一年免二毎貢一虫喰

松保 出レ馬柄仙草充二寮用一虫喰

路水保闕文

健角見命也（又摩二寧喜一 或田井神） 土人四時四度祭レ之當郡三宮也虫喰

霜井堤

去來穗別尊（履中）三年水霜枯二田畠一。

土人愁訴不レ止以虫喰

構レ之亦愁訴無レ聽闕文二行餘

山城國風土記三郡（葛野郡 愛宕郡 久世郡）分者以二權少外記中原朝臣師之所持之本一寫レ之畢。闕文虫喰鼠糞之難無二是非一者也

正親町院
永祿元年十二月三日

熊野山智良快書判

伊賀國風土記

伊賀郡

猿田彥神。始此之國屬伊勢加佐波夜之國時、二十餘萬歲知此國矣。猿田彥神女吾娥津媛命。日神之御神。自天上投降給之三種之寶器之內。金鈴知之守給。其知守給之御齋處謂加志之和都賀野。今時云手柏野者此其言謬也。又此神之依知守國謂吾娥之郡。其後淸見原天皇(天武)御宇。以吾娥郡分爲國之名。其國之名未定十餘歲。謂之加羅具似、虛國之義也。後改伊賀。吾娥之音轉也。伊賀之郡。其郡之一也此國之內。當郡者土地燥而多小川。其川之總號名而謂久禮波之登利須須杵川。此國昔吳服之君濯衣之緣也。此川者多出於年魚及鮭雜鮮。今又內膳司之下魚者自此川貢之物也

名山十餘箇處

宮見山　此山多出茯苓獨活薇薯蕷

玉瑴山　此山多出蜜柑橘靈芝大杏

喰虫

禽虫

加志之和都賀野
萬葉(第二)云白妙ニトネリヨソヒテ和豆香山ミコシタアシソ長歌家持反歌ワカ大君アメシラレムトオモハネハオホニソミツルワツカソマ山向
和名鈔伊賀郡阿我
倭姫世記云、神武天皇、六十四年云々、注云、天武天皇庚辰歲、割伊勢四郡ヲ立伊賀國云々(伊賀十リ)
和名鈔伊賀國阿拜郡、服部(ハトリ)

神名帳伊賀郡敢國津神社
三代實錄

（脫敢國神社四字乎）此山有神。奉申敢國所謂少彥名之命也。敢國之御名。高産靈之尊使守此郡之時。國神奉愛敬之義也

神名帳名張郡宇流富志禰神社

不盡見嶽　此山多出群鷲群鷹并多異獸。大鷦鷯（仁德）七字許闕　酒君葬此處。號謂高見之神。後土民多取群鷹此神年々荒出逢疫癘死民數多。國人恐而奉稱天之靈神。後奉申不盡見神者謬也。又號不盡見之嶽者。此山甚嶮高而似富士山。故謂不盡似之嶽謬也

和名鈔伊賀郡大內

○內山（大乎）　此山。出名材。茂蔓而土民多取用之。此山者。昔當國大嘗會之用。悠紀二度用。主基三度用。其拔穗勅使者。必當山之麓立幄屋行之。其處曰由須野。云悠紀主基野。云言轉也

（自是下七張脫）

和名鈔作阿拜郡（安倍與府）

阿盃郡　此郡始屬伊勢國云阿波庄。天照太神自天上下天之阿波主給。五穀長蔓。故名阿波。謂阿盃者音謬也。正稅寸（此下十七字虫食）

又云阿拜。謂阿倍者此處爲國府。其府務之宅地謂阿倍。故今謂阿倍郡者此其言謬也

松山　此山高嶮多出名山（村乎）群鹿競栖。處者。野笛之先。所（取乎）中女之月經濕付而取群鹿甚矣。後又出東市中。東市司之鹿羮者。是自此處貢物也。此下虫食

（此下十張脫）

鳥飛山　此山甚賤而又其形奇。昔大友王子來此山暫休之。刀鋒多殘置給。今國俗謂鋒岡者此其緣之本也

當識此書脫
內宮別與下稱二伊賀國風土記一本上有二少同大異一雖レ然此書者其說有二大古風一自元正天皇和銅六年一至二醍醐天皇延長三年一二百二年之間時召二風土記一者度々可レ有二作改一依レ茲有二異本一歟、俟二後哲之正訂一耳

此ノ一條無ニ一本一在ニ釋日本紀(和歌第一二)後人書加歟

伊勢名所集云、伊勢國風土記云、宇治村五十鈴之河上造二作宮社一奉二大一是日以二宇治鄕一爲二內鄕一也今以二宇治二字一爲二鄕名一云云

和名鈔伊勢國桑名(久波奈)郡

此本者於二或書肆一借而早卒令二書寫一者也

寶永六年月日

伊勢國風土記

伊勢國風土記曰。夫伊勢國者。神武天皇勅二詔天日別命一曰。國有二天津之方宜乎其國一卿賜二標劍一。天日別命奉レ勅東入數百里。其邑有レ神名曰二伊勢津彥一。天日別命問曰。汝國獻二於天孫一哉。答曰。吾覓二此國一居住日久。不二敢聞レ命矣。天日別命發レ兵欲レ戮二其神一。于レ時畏伏啓云。吾國悉獻二於天孫一。吾不二敢居一矣。天日別命令レ問云。汝之去時何以爲レ驗。啓云。吾以二今夜一起二八風一吹二海水一乘二波浪一將二東入一此則吾之却由也。天日別命令二整レ兵窺レ之。比レ及二中夜一大風四起扇二擧波瀾一光耀如レ日陸海共朗。遂乘レ波而東焉。古語云。神風伊勢國常世波寄國者蓋此謂レ之也。詔曰。國宜下取二國神之名一號中伊勢上已上釋日本紀

桑名郡

當郡東西拾一里。南北九里。河海多而少二山林一。五穀多而民戶富盛。雜魚多二陽年一大魚少二陰年一。樹木貧而土地出二名竹一

槇山　此山出二松栢一多二狐兎一。文武天皇二年戊戌三月。此山燃數日也。爾來松栢猶少焉

野上山　此山狸兎多而無二樹木一。掘レ崖則美石多而疑二珠玉一焉

中村上　此山竹木繁茂而爲二國用一

蜆（志々見和名）
口女　見二于神代紀一

中村神社三座　秋九月草木黄色則年々山上鳴動數日。則此時祭二此神一。今九月中子或初子祭レ之也
玉置山　此山少二樹木一又無二禽獸一
神戸岡　此山多出レ桃。花少而其實大如二鷄卵一。土民食レ之無レ病。又商レ之
藤澤山　此山多二諸鳥一。和銅三年出二黄鳥一。大勝二諸鳥一。其後時々出レ之
永山　此山有レ松。竹不レ多
潮干神社五座。齋二宮尾崎一
蜆濱　去二永山一一里餘。出二雜魚一
田鶴濱　有二民戸海苔一。色青而連綿五尺餘。土民食レ之濟レ飢。惣而當國海上多出レ之
市部磯　海上多二口女一而商民賣。中古以來有二夢想之事一而備二熱田神膳一。其魚大者如レ鯉細鱗而長口。其味美也
粟畑　在二市部北一。土民植二五穀一難レ熟。但粟而已大熟焉。故名レ之
亥鼻野　此野多二桃梅一出二餘木一
河内野　此野廣方一里　平岡神社一座。奉レ祟時代難レ知矣
絲川野　此野隣二河内野一
鷹生野　多二異竹一。平岡之神領也

天　以下鼠損

和名鈔員辨ノ郡今缺　闕

員辯郡

當郡東西七里。南北八里。河海多而山林出樹木。神戶十八座。土地豐饒也。但不出大竹。魚鳥禽獸不少

水無瀨山　此山出名材。當郡神社有破壞則用此材。又禽獸繁多也

杉山山　此山諸木不少。又出名石。大者如大象。深掘則出美沙。月讀神坐山之尾

和田嶽　此山少樹木。猿兎多焉

諸狗山　此山樹木繁多而民戶富矣。出小竹。又多禽獸。諸狗神社四座在山上

北下闕

阿波野　此野出名草。其名難知。土人者稱川芎也。治產婦有驗

佐陁野　在阿波野北。多出藥草

井戶野　在水無瀨河東。雨宮神社二座。竹草繁蔓多諸草

北下闕

荻野　此野多諸鳥。又有名竹

光森　神護二年秋七月。森中鳴動而有異香清光。隔三日而土民牛馬遭疫癘而失命。故民戶祭之稱光宮。今絕而無再造。此森多鳥類

玉手森　此森出二名草一。又多二諸鳥一

鞆尾森　韓神宮三座。森之中祭レ之。時代不レ可レ知。又多二狸狐鳥類一

膳森　此森在二鞆尾村西一里一。雖レ森無二樹木一。唯有二一廟一。祭二大巳貴神一處也。土民每歲落橡之時。供二神膳一此處四時無二蚊虻一（自二此下一至二貢不一分明一）

伊勢名所集伊勢國風土記云、以二度會一者作二川名一而已云云

此一條一本无、出二伊勢人尾崎[illegible]世記一

日刀今按作二日刀一而可レ訓二日刀一

[illegible]

度會郡

○夫所三以號二度會郡一者。畝傍樫原宮御宇。神日本磐余彥天皇。詔二天日別命一。覓レ國之時度會賀利佐嶺火氣發起。天日別命視之曰。此小佐居歟。使レ遣二使者一見。使者還來申曰。有二大國玉神一賀利佐到。于レ時大國玉神遣レ使。奉レ迎二天日別命一。因令レ造二其橋一。不レ堪二造畢一。于レ時到レ今以二礪弓一爲レ橋而渡焉。爰大國玉神資二彌豆佐々良比賣命一參來迎二相土橋鄉岡本村一申。天日別命欵地出之參會日力白レ爾度會焉。因以爲レ名也

此本者於二或書肆一借而半李令二書寫一者也

寶永六年月日

尾張國風土記

和名鈔云、尾張（乎波里）國海部（阿末）郡塵添壒囊抄第二、尾張國、登々川ト云河アリ、菅清公記云、大巳貴少彥命ト巡レ國之時往還[illegible]云、[illegible]之賂々一又云、尾州記有ニ女人容貌大[illegible]語云[illegible]得々志一又云、尾州[illegible]郡、[illegible]寺云[illegible]手尾寺、[illegible]丑、小乙中羽栗臣人麿、始建立[illegible]也[illegible]三[illegible]許[illegible]中[illegible]神名帳海部郡由乃伎神社是乎

尾張國者。纒レ世穗曾續古之所ニ領行一也。神日本磐余彥天皇。東征之時。討ニ伏渴貴僉人一歸化之場。海部偃宅奉レ射ニ天皇一種子命以ニ三角石弓及玉羽ニ矢一。射ニ殺偃宅臣一討ニ終於海部氏姓一。因ニ號二其國一謂ニ於波里乃國一。謂ニ尾張一者音之訛也。土地大肥民用富饒也。出ニ名材一。多レ米而海鮮以レ萬數之。西限ニ愛智海一東限ニ富川一。北限ニ澤田海一南限ニ多田峯一。山之數百餘嶺。郡之數八。鄉之數二百。村之數四百四十三。海濱半。川之數廿八所。神社六十箇社。大上國也

海部郡　民用富饒。村竹多種。出ニ柴胡橘柚川芎當歸厚朴等一。鮮魚繁多而膳部所レ知也。神社十三箇社。山之數三十。鄉之數五十。村之數八十。在手有ニ德之數一川之數八。上郡也

雫田山（[illegible]）

西之傍有レ神號ニ油日宮一。（大山咋之神與ニ訶子[illegible]初[illegible]一也）

富櫨山　出ニ修竹柴胡茯苓大鳥一。民用數多。在レ神號ニ白鳥神一。日本武尊白鳥所レ化也。白鳥之神也。山麓在レ神號ニ橘田宮一。猿田彥神所レ祭也

柞曾山　出ニ名材一。松杉多。禽獸繁多也。在レ神號ニ松田神一。三保津姬之神之所レ化也

重敏見山　出ニ茯苓獨活等一。民用繁多種也

莫太山　出ニ名材一。禽獸ニ加雀（有手知乎）其形似レ蟬大頭。療家取レ之治ニ眼疾患爛痛一

石邊山　出ニ名材一。鹿狐繁多也。亦出ニ奇石一可レ用ニ硯石一。其紫紅之二色能ニ汝硯石一

玉置山　出二鹿狐一。在レ神號二道主命一。亦有二一小石一。昔人云。赤星之所レ落也。山麓有二星池一。星之常ニ宿ル所也。

亦有二惟石一。星之所化之石也。今猶且星落焉

尾越山　出二茯苓山椒桔梗等一。有二名桂樹一取レ之工家用二篋櫃之類一。在レ神號二敢田之神一也。吾田連遠祖也

晨師山　出二名竹一。亦多二鹿狸一。有二芙草一。號二去役與草一也。有レ花四季結二花實一。依二潮之進退一花實互ニ榱。潮之進ム

時ハ者花開。退時ハ者實結。其花似二菊花一。實似二棗子一。醫家取レ之用二疾喘運胸衰一。神功也

役支イ
役與草

太古山　出二名石一。亦多出二鹿狐狸狼一。在レ神號二生田彥神社一。大神宮之叢御玉也。亦山之南在レ神。狹田彥神。

太古佐見命之遠祖神也

箭野山　出二大禽并茯苓獨活等一。亦山窟之深所有二牡蠣一。是昔海變爲レ田之處也

杉立山　出二名材奇石一。民用富饒也

垂置山　出二野狐鹿兎一并二松栢等一

吉藤山　出二脩竹并杉栢等一。鹿兎多シ。頂上ニ有レ池號二吉藤池一。昔在レ神號二三段之荒玉一。築二社於此池中一。毎レ秋

供レ犧以レ人。當時絶。亦社之在處滅焉

鄕類五十。此中有レ村

今按鄕ノ類廿五、且ツ以二神名帳和名鈔等一ヲ勘レ之ヲ不ル處モ無二符合スル所[illegible]、

上市鄕　出二柴胡橘柚一

吾田鄕　上農　　沖積鄕　同

富樫鄕　同
柚鄕　下農
故鹿鄕　出ニ油酒蕎飯等ヲ
中農
桁井鄕　下農　工人多シ
五十嵐　下農
玉村鄕　同
中鄕　上農
奥中鄕　上農
角田鄕　上農
川瀬鄕　上農
葭波（鳴見下）（汲イ）鄕　中農
栖雀（花イ）里　下農
大井田鄕　出ニ年貢（魚子）。簸。鋤。鍬。鎌ヲ民用繁
長見鄕　上農
簸水鄕　下農
樂田鄕　上農
三橋鄕　同
寄木鄕　同
強田鄕　同
用木田鄕　下農
短景鄕　同
川口鄕　上農
六七鄕　同

川之數八

十市川　出ニ年魚沙食加（カ）鹿（シカ）ヲ　自ニ樂田口ヲ流出入レ海

和名鈔尾張國中嶋（奈加之萬）郡

萬葉集第十二、下勝間、安倍嶋山之、暮露ニ爾、云々

琥珀

延喜式神名帳尾張國中嶋郡
大神神社（名神大）

故麻川　　桁井川

葭嶋川　出二荒貝一。其貝似レ蛤短少。民家用爲レ薬

大井田川　出二年魚鯉魚等一

長見川　　五十嵐川

吾田川　出二加鹿、翡鳥、鴨鷗等一

闕文

中島郡　民用富貴也。材用不レ少。出二脩竹柴胡大根胡麻等一。神社七箇社。山之數十二。鄕之數七十。村之數三十。川之數四箇所。上之中郡也

安陪嶋山　出二名材名竹奇石奇禽怪獸一。亦出二茯苓。山椒。橘。柚。大根。蒟蒻草。葱蒜草。薫眼草。餘紫直、如樹。女蘿。戒現草。桂梅。角粟。長芋、羽瓜。獨活。相撲取草。强葵禮草等一。山有二琥珀一今猶在。民用取レ之爲二燧器一。山之麓在レ神。號二人瀬社一。不レ知二其本基一。每歲四月中亥祭レ之用二猿兎一爲レ供。天下有レ怪則此神社鳴動。山上在レ神。號二大神社一。大物主神之御闕レ字也。昔日有二吾市連君一。以レ娘嫁二此神一。會後爲二一子一化爲レ鹿坐下失二其姿一。後祭レ之所也。大神者相殿也

平山　出二名石奇獸一。亦出二獨活橘柚一。在レ神號二豐岡姬一也。以二九月九日一祭レ之也

野老土山　出二狐兎一民用少

圓山　出狐兎。民用不少

角瀨山　出獨活荒草厚朴山椒。在神號梢見吉社。民用少

大山　出狸鹿民用少

鹿瀨山　出狐狸鹿。民用少。在神號放田見社。所祭少彥名命也

横田山　出竹松。亦禽獸繁多也

丁山　出名石。亦出黃芩黃蘗等

六師山　出狐兎。民用不少

中乳山　出狐兎。亦獨活山椒繁多也。民用不少

嶺山　出良材亦獨活牡蠣丁草。角羊草。亦鳥鷹之有之。民人縛隼鳥爲用。山之北有池。幅方一里。昔日蛇之所栖也。日本武尊殺之。其國今猶號蛇穴。雨雪經日之時。今猶爲劇聲。土人號神所、不得登此嶺山也

川之數七十。村之數三十。在此鄕之內

中嶋鄕　活目入彥五十狹茅天皇卽位十年辛丑。倭姬命奉戴天照太神、遷幸于美濃國伊久良阿宮、積四年奉齋。經明四年之年。遷此鄕號中島玉墻之荒御階。民用繁多也

神戶　在中島之北。出栗菱等。有神號早田宮。天照太神之御在所也

闕按、所之誤字、博于日切、蜴也

川以下十五字、可屬中島鄕下歟

和名鈔中島郡神戶

准レ上德山郷前、應レ有ニ郷類何十。此中有レ村八字、此郷亦和名等无

德山郷	上農	佐久間郷	同
荒礒郷	上農	油懸郷	同
成田郷	中農	縣主郷	同
吉見郷	中農之下農。出ニ狐兎一。亦出ニ菰（荒）菌。大根一民用繁多也		
天野里	上農	雀原里	同
狹師郷	上農之中農	苅馬郷	同
夜晴（暗イ）部郷	下農	遠山郷	無
戀田郷	同	良峰郷	同
故栖郷	。沙	籠郷	同
與流世郷	同	紺坤郷	下農
喚續濱		阿波手	

准レ上天野川上、應レ有ニ川之數幾之四字一

天野川　出ニ年魚加鹿一

狹師川　出ニ鯉鱸一

戀田川　細鱗魚多出レ之

與流世川　出ニ楮（猪イ）鱗一。有ニ魚口貝一。形似レ蛤大貝。能治ニ腹痛一。民家取用レ之

諸乎

和名鈔尾張國羽栗ニ波久利ト 郡 今按羽栗郡下脫註乎

羽栗郡

夕景山 出ニ名材一。亦禽獸多。在レ神。號ニ垂井宮一

斧根山 出ニ名材一。亦出ニ獨活當歸黃芩柴胡茯苓等一

餘筒鄕 上農　中村鄕 同

葭原鄕 中農　河內鄕 同

伊豫根鄕 同　事主鄕 同

杉本鄕 下農　角田鄕 同

脫上脫ニ鄕標題一乎

脫肢鄕 同　大乳鄕 同

悳井

悳井鄕 出ニ瓜獨活等一。民用多。上農

鮭田鄕 上農　豐田鄕 同

中之林鄕 同　川亂鄕 同

颯白鄕 下農　道田鄕 同

夜瀨鄕 下農　遠見鄕 中。農乎

乾蓮長村 下農（同イ）　左手彥鄕 同

待音鄕 同　夜臥鄕 同

戀淵村（郷イ）　同　　鳥野里　同イ

町並郷　中農　　皆連郷　同

好見郷　上農　　禮拜郷　同

莫手郷　上農　　行瀨郷　中。（農乎）

望田郷　上農　　上望田郷　同

下望田　同　　尾張郷　同

筆世郷　　皆郷

梅田郷

推上脫二川題一乎

太刀市川（カイ）　出二年魚幷鯉鮒一。民人以二眞人形一取レ之用レ之民家之慶爲レ富。以レ魚替二年祝（脫イ）一

中川　出二鮮魚一。河邊多（ク）出二柴胡幷奇石一。民用少。在レ神。號二連（速乎）佐須神社一。以二六月廿六日一祭レ之

横川。出二年魚幷加志賀一。民用多也

丹波郡（ニハ）

智多郡（チタ）

山田郡（ヤマタ）

和名鈔作二春部郡一

春日郡（カスカヘ）

文明兵火燒失。諸本失二本文一。中原職道

本亦脫簡

權少外記中原淸職判

愛智郡

右壹卷。以二伊勢長官蓮明院家本一寫レ之畢。爲二袖珍一可レ祕者也

文龜元年辛酉五月十三日

尾張國風土記全計一卷。以覺勝院僧正御本寫之畢。雖然蟲食簡脫大災等。無是非事歟

十住心院心敬判

大永四年甲申三月廿七日

右之風土記一卷。罹火災蟲食纔殘一曲而漸殘寫而爲袖玉。惜哉脫簡多。而示到闕丹波智多山田春日愛智之五郡。唯期後來闕字而已

弘治三年丁巳五月廿四日

權大宮司富成判

風土記

伊賀國

伊賀國者。往昔屬二伊勢國一。大日本根子彥太瓊天皇。御宇癸酉分而爲二伊賀國一。本此號者。伊賀津姬之所レ領之

郡也。仍爲二郡名一亦爲二國名一。西限二高師川一。東限二家富唐岡一。北限二篠嶽一南限二中山一。土地中肥而民用有二山川一足レ業。樹木中材。出二名石異禽異鳥等一

疊讀三行六字

和名鈔。伊賀國。伊賀郡。阿保。阿我。神戸。猪田。大内。長田。

伊賀郡　中郡也。東限二澤墳一。西限二高師川一。北限二横川一。南限二豐岡一。以二國名一爲二郡名一。昔日多二松竹栢杉。中古少出。中田也。山數五拾二。河數源流共二十三。里數庄保總數八十二處

神名帳伊賀郡比地神社
比地中地蓋是

和歌山　出二松栢等之良材一。又多二鳥獸一。有二淨見御所一。淨見原與二大友皇子一爭戰之地也有レ神號二中地明神一。猿田彥垂跡也

嶋田山　出二松竹。茯苓獨活等一

南山　出二異禽異木一。有レ神號二南大明神一。所レ祭二大物主一也

伊賀山　出二松杉檜桃一。有二異鳥異禽一。有二横井墳一。横井眞人以二此山一。爲二山賊一被レ害。仍而國造葬レ之。春秋中終之癸。有二幽魂一出レ光。國民以稱レ經祭レ之。有レ神號二田乞神社一。龍田明神也

高師山　出二松栢一。隣二伊賀山一

嶋箇原山　出二松竹一。有二異鳥一。有レ神號二天王社一。事代主之垂跡也

狹山　出二松杉一出二茯苓一

神名帳伊賀郡猪田神社云々
院亭亦井多止讀倍木歟

院亭山　出二松栢一。有レ神號二射手明神一。有二一社一所レ祭二譽田天皇并玉垂命一也

長田山　出松栢杉等良材。昔日爲拔穗之地。
浮田山　出異禽
櫻本山　出松竹櫻梅
大野木山　出松竹。有神號天王。事代主之垂跡也
阿蘇山　出松杉。有神號岡八幡。小泊瀨稚鷦鷯(武烈)天皇之御宇。國造中田麻呂所祭也。神者譽田天皇也
神戸山　出松杉。御間城入彦五十瓊殖天皇六十六年。天照太神垂跡也
木根山　出松竹。有神號酒地明神。所祭建角見命也
中井山　出松竹。多產茯苓
田守山　出松杉。多異禽。有神號田守明神。所祭別雷也
依名古山　有神號江大明神。所祭味好高彦根也
坂戸山　出杉檜。有神號坂戸若宮。所祭稚産靈命也
上山　出松竹、有神號藏王權現。所祭天照太神也
淡令園杜　有神神樂神也
垂園杜　有神號垂園明神。所祭大物主神也。息長足彦廣額天皇御宇。國造別部眞人祭之也

自此以下脱簡

神名帳伊賀郡木根神社
神名帳。伊賀郡田守神社、
耜名帳。伊賀郡。依那古神社、味好隱作味耜今案今俗謂古乃毛事云須支古來亦好字讀須々歟
同坂戸神社
今按、吉野藏王權現亦天照太神歟
神樂神、今案、高皇産靈尊歟、又天兒屋根命、太玉命兩神歟

高師里　肥田也

和名鈔猪田
射手里　中肥也

和名長田
長田里　上田也

豐岡里　下肥也

鳥野里　中肥也

嶋箇原―中肥也

和名並神名帳猪田、
猪田―　中肥也。有レ井依レ此有二里名一

大旱水不レ盡。忍穗井所レ通也

和名大内
大内里　中肥也

櫻本里　中下肥也

浮田里　下肥也

大野木里　下肥也

神名帳高[illegible]ノ神社
高瀬里　中肥也。有レ神號二高瀬大明神一。所レ祭二大田命一也

同乎美禰ノ神社
乎美禰里　中肥也。有レ神號二天皇一。所レ祭二素盞烏尊一也

猪川里　中肥也。有レ神號二猪神一。所レ祭二瀬織津姫一也

神名帳大村神社

大村里 中肥也。有レ神號二大村明神一。國造由氣忌寸所レ祭也

同比々岐神社

比々岐里 下肥也。有レ神號二比々岐明神一。所レ祭二少彥名一也

同比自岐神社

比自岐里 中肥也。有レ神號二天王一。所レ祭二三保津姬一也

以下七十行脫漏可レ惜

高師川 出二名張川一落二笠木川一。多出二鮎鮒等一。又出二恠小石一

射手川 出二細魚一

嶋箇原川 出レ鮎。亦出二涅魚一

猪田川 出二涅魚一

阿我川 出二鮎石骨魚等一

鳥野川 出レ鮎

長田川 出二細魚一

垂園川 出二細魚一

暗崎川 出二鮎鮒等一

以下脫漏

和名鈔阿拜郡 枯殖 川合 印代 服部 三田 新居

阿拜郡 中郡也。往昔阿拜忌寸死レ此。有レ墳仍有二此號一。東限二佐與川一。西限二樫淵一。北限二篠嶽一。南限二岸村一。

社名帳阿拜郡敢國神社

和名鈔作柘殖。柴也。天武紀上、到積殖山口云云。倭姬世記云、活目入彥五十狹茅天皇即位二年癸巳。遷于伊賀國敢都美惠宮。二年奉齋

シクレヤナキ
垂楊　萬葉
中世以後只有垂櫻。無垂楊歟

萬葉第十一。葛城襲津彥眞弓荒木ニモタノメヤ君カワカ名ツゲケム

社名帳阿拜郡須智荒木神社

社名帳阿拜郡波太伎神社

社名帳阿拜郡阿波神社
和名鈔

社名帳眞木山神社

松藥草多出之。中田也。山數四十二。河數源流共十五。里鄕庄保總六十三所

南宮山　多出松杉。亦出異禽異獸等。有神號南宮大明神。少彥名之御神也

一宮山　出松竹杉檜等。有神。敢國大明神。所祭金山比咩也

柘殖山　出松杉。出茯苓獨活等。有神號神明。天照太神遷座之假殿也

柏野山　出松竹。

阿波山　出松竹杉檜。昔日觀松彥香殖稻天皇御宇。出六足猿。于今有昔洞。號麿志野。有神號阿波大明神。所祭神功皇后也

阿閉山　出松竹。又有垂櫻四枝。度數十丈

荒木山　出松杉。多異禽異獸。有神號須智明神。所祭猿田彥。武內宿禰。葛城襲津彥也

國府山　出松竹。有神號波太岐社。所祭仁德天皇也

國分寺山　出松杉。有塔婆。有蘭社。皇明皇后之御願也

河合山　出松杉。又多異禽異獸。有神號藪田大明神。武小廣國押盾天皇御宇。戊午國造多賀連祭之也

眞木山　出松杉檜栢竹等良材。多異禽異獸等。有神號眞木山大明神。所祭經津主。武甕槌。天兒屋根命也

（同穴石神社）穴師山　出㆓松栢㆒。有㆑神號㆓穴師大明神㆒。所㆑祭㆓木花開耶姫㆒也

友村山　出㆓松竹㆒

（同名篠佐々神社）篠嶽　出㆓松杉㆒。有㆑神號㆓天王㆒。所㆑祭㆓事代主㆒也。又有㆑神號㆓佐々大明神㆒

（同小宮神社　和名鈔）服部里　中肥也有㆑神。小宮大明神。幷狹伯大明神㆒共服部氏祖之所㆑祭也

千座里　中肥也。敢國明神之攝社多居㆓此里㆒。故有㆓此名㆒也

實古里　中肥也。有㆑神號㆓天王㆒。所㆑祭㆓事代主㆒也

荒木里　下肥也

玉地儀里　中上肥也。有㆑神號㆓天王㆒。所㆑祭㆓應神天皇㆒也

油日里　中肥也。有㆑神號㆓油日大明神㆒。螢火耀神等之垂跡之地

宇都賀里　中肥也

（和名）柘殖里　中肥也

（和名）印代里　下肥也

以下脫簡

柏川　出㆓鮎鮒㆒

印代川

服部川　出鮎鯉魣等。又號呉服川

阿部川

調川

袖日川

宮川

青山川　（以下脱落可惜之）

（旧名多ノ山田郡木代川原竹原　同山田（也木太）郡）

山田郡　下郡也。東限爾保河。西限阿野。南限葭塚。北限澤田。神日本磐余彦天皇御宇、某史道守之所知也。（其時屬伊勢國、後名也。後爲郡）昔日多出松竹。中古廢貢焉。山數三十七。河數源流共七。里郷庄保總數五十三所也

山田山　有郷東南也。松栢鳥鹿多而土地富饒也。在神曰事代主尊。（亦曰河田明神）磯城津彦玉手看御宇之時奉崇（安寧）也（虫喰）

木代山　多出松杉。有郡之東南。亦出茯苓柴胡

市部山　多出名松。爲木工寮之助材。亦有異禽。有神曰豐田明神。足仲彦（仲哀）御宇奉崇（云云）有郡之東北

里山　多出松杉。在郡之東北。譽田（應神）御宇此山燒數月。越年不消

澤田山　有郡之東北。松多出名材。禽獸集。在神曰澤田明神。不知奉崇時代

雪下山　有（在乎）二郡之東北一。多出二葛蕨一。亦民家所レ用也

大木山　在二郡之東一。（出乎）松杉。亦多二異獸一

鞆尾山　有（在乎）二郡之東一。在レ神日二鞆（此間七字虫喰）。依レ之所レ名也。出二松竹一。亦出二厚朴川芎一民（家乎）所レ用也

樫木山　有（在乎）二郡之東一。出二松竹一。之有二異禽一

（自レ此奥虫喰）

川原鄕（在名）　土地瘦亡。有二旱水之患一也。時々出二橘柑一。民家所レ用也

阿野鄕　土地富饒而民用多。有（在乎）二郡之西一。在レ神曰二並日月明神一。（異行）大足彦忍代別御宇（オホタラシヒコオシロワケノ）。奉レ祟也

竹原鄕（在名）　土地富饒而脩竹多焉。亦民家所レ用也在二郡（虫喰）

鳥合鄕　有（在乎）二郡之東北一。土地廢亡焉。民用少也

玉井鄕　在二郡之東北一。土地富饒而民用多也。在レ神曰二植村綾一也

郡鄕　土地富饒而民用多也。亦多出二藥草一。在二郡之西一。昔日紀伊國（脱字乎）連所レ葬也

川向鄕　有（在乎）二郡之東北一。多出二藥草一。亦所二民用一也

（自レ此奥虫喰）

河之數七澤（池乎）地等有二此中一

爾保川　在二郡之東一。出二群魚一。亦民家所レ用也。亦在（有乎）二洪水之難一

和名鈔名張(奈波利)郡
周知名張(奈波利)夏身
隠 天武紀
吉隠 萬葉

神名帳有二名居神社一。兩書之内有二文字轉倒一歟

大川　在二大木山麓一。無二魚類一而民用少也
自レ此奥脱簡

名張郡　下之中郡也。東限二早雄河一。西限二糸河一。南限二中山一。北限二角野一。神日本磐余彦天皇御宇。宇見間人之所レ知也（其時屬二伊勢國一）當郡初者郷名也。號二其名張郷一者。宇見間人。知之纔二三月計不レ納二其年貢一。仍而名計者知二此郷一云聲之轉也。此名張郷之名基也。土地富饒而民用多也。亦出二松竹名材異禽異獸藥草等一。山數五十三。河數十七。里數庄保共七十二所也

月野世山　有二郡。東南一。（之乎）多出二松竹一。民用多也。亦在二異禽一（有乎）

大山嶽　有二郡。東南一。（之乎）多出二松杉亦茯苓葛根一。民用多而土地肌（肥乎）焉。異獸異禽等来レ爲二田家害一。

自レ此奥虫喰

周知山（此間八九字虫喰）多出二松栢一。亦有二山猿狸狐一。土地豐饒而民用多也

沼木山　有二郡之東北一。多出二松栢一。民用多也。在レ神日二沼木宮一。足仲彦（仲哀）御宇奉レ祟所也

箕曲山　在二郡之東一。土地富饒而民用多也。多出二松杉栢竹柴胡葛根蕨一。在レ神日二箕曲主明神一。不レ知下奉二其祟一之時上

爲奈山　在二郡之南一。多。松杉一（出二乎）。民用亦不レ少也

自レ此虫喰

夏身山　在郡之（五字疑有脱）松竹。土地富饒而民用多。里數七十二所。庄保共在此中

箕曲里　有郡之東。土地富饒也。民用不少

周知郷　土地富饒而民用多也

夏身郷　土地肥而民用不貧也。在神田積田宮

狭田郷　有郡之西。民用少而土地亦廢貢也。出葛蕨

此郷和名鈔无

道田村　有郡之西。民用少而土貢貧廢也

早川郷　在郡之西。民用多而土地富饒也。在神田油滿明神。大鷦鷯尊之御宇奉崇神也

和名鈔無此郷、此郷雖諸説加良古止可讀歟

賀羅坤士郷　有郡之西。民用少而土地瘦也。出葛根柴胡。在神田賀羅坤士社也。穴穗御宇奉崇也

神功皇后紀云、古今敘名カラコト傳前ナミノ音ノケサカラコトニキコユルハハルノシラヘヤアラタマルラン

神功足乎神跡ハ者氣長。姫尊也出雲國ノ造之次、崇崇也

寒田郷　在郡之西北。土地富饒而民用不少。出松竹

和名鈔無此郷

自此奥脱簡

右二卷者雖多脱葉鼠害寫之畢惜哉和籍之及荒廢焉

二卷者、尾張國伊賀國風土記也、

正親町院天正二年三月下旬　權少外記中原忠胤判

峰相記貫書

一宮、伊和大明神者（宍粟郡）素盞烏尊、第一皇子、男已貴尊。白山妙理現顯坐。爰神功皇后、三韓攻給時、副將

師安元年

神立
神館ナルヘシ

軍トシテ彼戰場向坐、靜謐後、皇后皈洛時、倚異賊勝乘事有、中國諸神相催責戰べキ由。御約諸家、神勅隨當國神戸地、四方山廻、河流谷口無雙要害タル間。此陣取後甍卒躰顯坐、其後數百年經、師安 異本年代記人王三十代欽明帝二十五年 元年甲申、伊和恒鄕託、此地我崇ヘシト、云云 夢驚居屋西野見、一宿經テ數千本松栢生並ヘリ、群鶴多飛來近邊在家燒拂淸淨地成テ、大白鶴二北向眠居ケリ、其跡神殿造始、其瑞籬門神樂奉幣不レ絶、絲松庭財施法施無盡ナル者也、住國宰史先參詣、毎度田園寄附國衙官人歩運祭禮隨ヘリ、當國第一宮トシテ、正一位授、與位子勝 宍粟郡與位村與位明神、己勝明神有二社、已註 父母崇奉、安志姫 宍粟ノ郡安志ノ庄三ツ森村安志姫大明神 若邇志 宍粟郡皆木村若邇志明神 庭田 宍粟郡能倉村庭田明神 遙拜所 宍粟郡須賀村ノ北ニ在ニ云、鷺簗宮、往昔ノ神戸ノ路ハ者嶮路ナリ也、故ニ自ニ此所一遙ニ奉レ拜ニ一宮一、故ニ曰ニ遙拜所一ト云云 等皆此眷屬部類也 一宮記曰、大己貴孫伊和魂、云云、神戸一宮緣起ニ曰、人皇十三代、成務天皇甲申二月十一日、始與座云云 二宮、荒田大明神者 多河郡高多庄 天平勝寶元年己丑五月七日女躰唐人東帶赤衣ニシテ天ヨリ降給其地住人山繁雄耕作最中也、亦其地明源上人云人有相共急參向降臨由來問被レ申我上界ヨリ下本地十一面觀音也、汝等宿緣有、神殿此地造進ヘシト、云云、一宿經後朝繁雄取置、靑苗悉杉成、神歌云、取タテシ山ノシケ雄カユフ苗ノアクレハ杉ト生カワリケリ、其夜雷電山崩殊勝靈地顯給彼ヘシト示云、上人繁雄相共神殿造降臨處神立トテ西有、其後延暦年中田村麻呂將軍 從三位左京太夫兼右衞士督田村麻呂 專崇敬神領四至定、荒田大明神號、神殿改造時上棟日、白馬六十匹奉ラルト、云云 當國丹波將軍官領タル間、兩國土貢ニテ、神殿造遷社時勅使立ラレ、正一位授ラル當國第二宮トス、 神社啓蒙ニ曰、攝津ノ國多紀ノ郡ニ所レ祭神一座所謂當國二宮也、小彦名命云云

三宮、酒見大明神者 加西郡北條鄕酒見村 養老六年壬戌、住吉大明神並五所王子當國入坐、 酒見ノ社記ニ曰、養老元年高宮ノ化人親子五人人ニタヽリ當國ニ 先上鴨。

西條 鎌倉嶺坐 北條郷明谷村 西條鎌倉峯 從神佐保明神私意有此嶺不レ宜山中三重。北條誘引鴨坂ノ上 同 北谷石上御優息時佐保明神
加東郡福田庄佐保ノ社鎮座シ玉フ 御裏盜。加東川東迯去畢、追付給サル王子勘氣遠所崇奉ル 酒見種記ニ曰、三人ノ王子[illegible]所々、[illegible]故ニ三人ノ王子ノ社、[illegible]
北ニ二所、者同郡在田庄在田村森部ノ社 爰山酒人門田六町殖日、俄槻一本門内出生處、白髮老翁並貴女若君三人相伴御宿借給、是播州
住吉邊ヨリト宣、事躰唯人非、仰隨宿借奉、所レ殖苗一夜經槻木トナル、林中御寶殿造、兩大明神崇奉、社躰
本社風儀學、酒人子孫可レ爲ニ神主一云云住吉本地、高貴徳王菩薩 酒見ノ社記ニ曰、高貴徳王菩薩ト云云 若宮者、 酒見十一面觀音 云云 酒見ノ社記ニ
曰、皇女ハ者十一面觀音、酒見大明神是也云云 毎年四月初廿日、餝萬津御拔トテ御出、後田原川 八東郡田原庄 御出、鈴森是也、 田原ノ庄鈴ノ森ニ有リ小宮ハ本尊觀音 當時社
頭南當滑御出、氏人神人供僧等供養、税谷ニテ、御神遊御車有也、數百年後車破今有車谷云、第一代神主、
山光時代、長暦元年丁丑、神殿燒失畢、長久承保嘉承永久國司等寄ニ進度々田園四十餘町一、保安三年壬寅三月
三日鶏合始、國中第一神事見物也、平治元年己卯正月四日、亦燒失、第十七代神主、由貞久時也、長寬二年
甲申二月朔日、大般若經讀誦次五問一答論議講有、當國六箇寺 書寫山、増位山、八葉山、妙徳山法花山蓬萊山 碩學二十人、講師巡年役ニ
テ寺々義勢其器用隨一碩才撰無雙重事也、今不レ絶、元久二年乙丑、神宮寺供養、亦建武二年乙亥三所御殿
酒見ノ社記ニ曰、中殿ハ十一面觀音、東殿ハ者阿彌陀、西殿ハ者釋迦ノ之垂跡、云云 造改、當國一宮授位次、同正一位授ラル
四宮、白國大明神者、日域開闢垂跡申傳、人皆不レ知、或說、開化天皇第一ノ姫宮、或賀茂大明神ノ餘流申・鳥羽
院御宇、水無瀬川 山城 御幸有、御遊最中女躰唐人出現播磨白國神田日代押領セラル、返可レ給由申失給、驚御
尋有國司日代相尋、水田一段、云云 則返附奉、其外當社事無沙汰 云云 飾東郡國衙ノ庄、白國村ノ社ハ者、廣峯山神官相傳ニ曰、白國ハ者新羅也、往昔廣嶺牛頭天皇行ニ幸新羅ニ而自ニ新羅ニ皈

朝ノ之時、少時ハ此神ニ座ス、故ニ日ニ白國ト云云以ニ新羅白國ノ倭訓相近ヲ也、則添レ祟ニ白國大明神ト

次生石子、高御倉陰陽二神トシテ、夫婦顯給、天人降石ニテ社造擬處、夜明間、押起不レ及、返上竟今有レ社

大更凡夫所レ爲非 印南郡平津ノ庄生石子大明神俗云、石ノ寶殿ナリ也、所レノ祭神二座、大名持ノ尊、少彥名命ナリ也、高御倉大明神者、同所ノ志方ノ庄ノ之神社

次垂水大明神、因州上宮御子申說有、海明神衣財田明神四座、不レ分明 在ニ明石ノ郡垂水村ニ延喜式ニ曰明石郡ノ之太社海神社三座ト云云 次、日向大

明神者 加子郡北條鄉大野ト云所ニ有 養老年中、彼國石船乘 俗ニ云フハ天ノ小舟ト者蓋指ス此ノ石船ヲ石ノ舟櫓櫂在リ加古郡高砂ノ浦ニ 容顏美麗女躰侍女多召具賀古浦坐、卽高御

倉思食付通給間、生石子御嫉妬依川向居奉玉、侍女泊明神 印南郡鴈南庄木村ノ社 等是也、三社本緣憚多上、雜說間略也、

當國八所大明神是也、此外神名帳面、百七十餘座見、其本地垂迹申盡難 延喜式神名帳ニ曰播摩國、五十座、大七座、小四十三座(已上)或ハ曰每ニ庄鄉ニ建ニ一社ヲ爲ニ齋神ト則百七十餘座乎

當山麓稻根明神トテ坐、其跡久本緣舊、昔當山鎭守九座一也、古老說、高嶽上大磐石間小水湛、今有崇神

天皇御宇、十三年丙申秋九月日、香稻四本出生、卽子細奏、彼稻種トシテ、諸國普可ニ耕作一云云 其以前山野

自然生、人民分領定乃貢備稻顧見ヘタレ共、更此類非、當時國土流布香稻、恐此種ナルヘシ、當初勅ニテ彼地

神殿造稻根明神號、當國古來隨分本社也、國衙ヨリ是祭村里仰奉、國衙奉免田地四至有、山嶽嶮難依祭禮煩

有間、麓崇奉時、二如來二菩薩感應夢相有依、天慶年中其地神殿移造奉、今社跡是也、天下撫育本社也 今案ルニ峯合

山ノ西ノ嶺ナ、號ニ風破壞、有ニリ此所ニ太盤石一名テ爲ニ龜岩ハト岩中坎門水受ニク五六計ハヲ蓋シ此ノ穴ニ香稻生焉乎

次松原別宮 飾東郡松原鄉松原山八正寺 申、彼浦夜々光物有、其形不レ知、此浦群釣云老翁有 松原山古記ニ曰、久津坪トイフ漁人ト云 釣網中、面一尺五六

寸朽木引入、分明八幡大菩薩、虫食、卽此浦奉レ崇利生揭焉也、萬人崇敬、社頭繁昌僧坊軒連、神事祭禮嚴重

近比マテ當國重代人々放生會鏑流馬濫役、（[illegible]）

次魚吹八幡（[illegible]八幡ニト）是推、大菩薩初御上時（[illegible]）當國ヲ達賀古郡迄集御迎保供川（[illegible]）ヲ遣參會神事祭禮儀有、其跡大菩薩奉レ崇、本緣有、此八幡ニテ坐歟、其時神集會所名神出保（[illegible]二村ヲ、號ニ神出保ト云云社記ニ曰[illegible]一日寛平年中ニ[illegible]）

（[illegible]）

又問曰、郡郷田地樣、御存候哉、答曰若候時、府邊ニテ人々集會場ニテ聞候シハ、天平年中、田代七千餘町畠三千六百餘町、被レ注歟（古者ハ、以ニ方六尺ヲ爲ニ一歩ト、七歩二分ヲ爲ニ一代ト、五代ヲ爲ニ一畝ト、十畝ヲ爲ニ一段ト、十段ヲ爲ニ一町ト、古ハ者百代ノ名今ハ[illegible]者）白川院御治世、寛治年中、諸國惣檢云田九億四萬六千餘町時、當國惣田數二萬一千百三十六町云、關東御教書ニテ、（四條ノ[illegible]東將軍[illegible]時）嘉禎三年丁酉、田所等注進、惣田數一萬六千七百十八町七段二十五代、同御教書ニテ、（[illegible]將軍[illegible]時）建治二年丙子、南廳直兩田所注進、一萬七千四百四十九町二段五代也（天正年中、秀吉公ノ時、爲ハ高ト[illegible]中ノ高五十五萬七百石一升九合、[illegible]池田三左衞門尉輝政ノ時、慶長年中ノ改、高六十二萬九千九百十一石六斗八升）郡者元十二郡、今十七郡申元。明石。加子。印南。餝磨。揖保。神崎。赤穗。佐用。宍粟。多可。加茂。美嚢。是也今餝磨分飾東飾西トス、揖保分揖東揖西トス、神崎分神東神西トス、加茂分加東加西、トスト云ヘリ、（天正年中ノ高、明石郡、百十七、村高四萬八千三百八十七石五斗四升、三木郡、百六十六村高三萬七千六百八十七石六升、加東郡百三十四、村高四萬八千三百八十五石二斗三合、加西郡百十二、村高三萬七千百四十一石三斗四升七合、加古郡、七十、村高三萬三千二百三十三石六斗四升、印南郡、九十八、村高三萬四千八百八十石八斗五升一合、多可郡、百二十二、村高三萬四千二百九十六石八斗七升九合、神東郡、六十八、村高一萬千六百五十六石一斗三升一合、神西郡、六十三、村高一萬七千九百九石九斗七合、餝東郡、六十六、村高二萬九千八百四十石二升四合、餝西郡、七十四、村高三萬千三百五十九石九斗五升二合、揖東郡、百二十五、村高、四萬七千四百二十八石八升八合、揖西郡、九十六、村高二萬八千八百十一石七斗七升、赤穗郡、百十八、村高三萬九千百八十四石四升一合、宍粟郡、百三十一、村高三萬七千九百十二石六升二合、佐用郡、七十七、村高二萬三千三百八十五石五斗二升四合）

剩、近飾東西間、中條郡トテ有也（今案ニ攝州ニ無ニ中條郡ハ有馬ノ北、有中條郡）庄一百三拾九、鄉保八十九所也（二三ヶ村ヲ、曰レ保ト、四五六ヶ村ヲ、曰レ鄉ト、七八ヶ村以上ヲ、曰レ庄ト）

右、峰相記ハ者、貞和四年、播州峰相山鷄足寺ノ住僧、一夕知己來訪ノ序テ、談話ヲ書記セルナリ也、殆ント類ニイセリ於
風土記ニ依レ茲措ニ浮屠ニヲ取ニル補苴ヲ而已、序ニ曰他日在ニッテ播州風土記トイフ者ハ之ノ出ツ、則考ニ備フ亦非無小補云云

萬葉緯卷第十七　終

萬葉緯 卷第十八

目錄

諸書所レ引風土記文

山城國 加茂ノ社、木幡ノ里、大?ノ社、加茂ノ神、鳥部ノ里、宇治、鎮火、桂里

大和國 香山

攝津國 住吉、土蜘、夢野、歌垣、有馬、比賣島、美奴賣、八十島、氣比ノ神、廣田ノ社、武庫、下樋山

伊勢國 的形ノ浦、神風、五十鈴、又、機殿、

尾張國 黄田村、吾縵郷、奈良香、葉木田、宇夫須那、

常陸國 常世、日高見、歌垣、石村、歌、新治ノ國、大神、信太ノ國、曝井、國名、嬥歌、相波、都久岡、比佐頭、靜織

美濃國 金山彦神

越後國 八坂丹、八掬脛、

丹後國 天ノ橋立、浦島子、奈具ノ社、

伯耆國 粟島、鶴雛樹羽

因幡國 白兎、武内夢、

石見國 人麻呂

播磨國 八十橋、速鳥、天日槍、菅川ノ里、香山、三山ノ鬪、韓荷ノ島、針間井、鵠、

備前國 牛窓

備中國 二萬郷、新造御宅、宮瀬、

備後國 疫隅ノ社、

紀伊國 手束弓

淡路國 鹿子ノ湊

阿波國 所知、中ノ湖、奈佐、勝間、

伊豫國 三嶋ノ神、天ノ香具山、能野ノ船、湯碑文、臣ノ木、熱田津、

土佐國 下島、高賀茂(多氏古事記)朝倉ノ神社、三輪

筑前國 資珂島、怡土ノ郡(恪勤)大三輪神、兒饗野、鏡宮、奈羅朝、解識宮、埼村ノ水門、狭手彦、身形ノ郡

筑後國 筑紫 三毛ノ郡、宇根、筑紫ノ船井、

肥前國 値嘉島、杵島、(…)褶振峰、

肥後國 火ノ國、?、大島、

豐前國 鏡、鹿春ノ郷、

日向國 韓國、高千穂、日向、竹刀、速生峰、

大隅國 久西具、必志、隱酒、多小、

壹岐國 鯨伏

築紫 閑宗、子饗ノ原、御津柏、

志摩 吉津嶋相

諸國雜駁

伊豆國 温泉、木枯、鍛鞍　甲斐國 鶴郡

因幡國 武内

萬葉緯 卷第十八

洛東隱士似閑編緝

諸書所證風土記文

前篇所集風土記、出雲國者往古之全篇、豐後尾張伊賀等國亦古來鈔出歟。其余或亂古人所出文證、或雖有殘篇古書無引證、或以前人所引證之文後人增添之類傍不能無不審。雖然亦依非可弃置、已集之畢。今古賢諸書以風土記所引證文詞隨見集而作篇耳

山城國

加茂神山背

風土記曰。賀茂建角身命娶丹波國神野伊可古夜日女生子名玉依日子。次曰玉依日賣。玉依日賣於石川瀨見小川之遊爲時、丹塗矢自川上流下。乃取梓（指手　採下）置屋邊、遂孕生男子。至成人時、外祖父建角身命造八尋屋、竪八戸扉、釀八腹酒而神集々而七日七夜樂遊。然與子語言。汝父將思人令飮此酒。卽擧酒抔向天爲祭分穿屋甍而升於天。乃因取下外祖父之名號可茂別雷命。所謂丹塗矢者乙訓郡社坐火雷命在（釋日本紀述義第一）

木幡社

風土記曰。宇治郡木幡社（祇社）名天忍穗長イノ命イ根尊。云云（同述義第四）　一書（曰子）吾勝尊作天忍骨尊（骨與穗根二字訓通）●雜浮子神社考第三

風土記曰。久世郡水渡社。祇名天照高彌牟須比命和多都彌豐日比賣命　神（同上）

風土記曰。可茂社。稱可茂者。日向曾之峯天降坐神賀茂建角身命也。神倭石余比古之御（詞林采葉袖詞同）（袖）襲（詞林采葉抄）

前立坐而宿坐大倭葛木山之峯。自彼漸遷至山代國罡田之賀茂。隨山代河下坐葛野河與（詞林采葉袖詞同）

賀茂河所會至坐。逈見賀茂川而言。雖狹小然石川清川在。仍名曰石川瀨見小川。自彼

川上坐定坐久我國之北山基。從爾時名曰賀茂也。賀茂建角身命娶丹波國神野神伊可古（上同以下見于上）

夜日女生子名玉依日子。次曰玉依日賣。玉依日賣於石川瀨見小川遊爲時丹塗矢自川上

流下。乃取插置床邊。遂孕生男子。至成人時外祖父建角身命造八尋屋堅八戶扉釀八腹

酒而神集集而七日七夜樂遊。然與子語言。汝父將思人令飲此酒。即擧酒坏向天爲祭。分穿

屋甍而升於天。乃因外祖父之名號可茂別雷命。所謂丹塗矢者乙訓郡社坐火雷命。在可

茂建角身也。丹波神伊可古夜日賣也。玉依日賣也。三柱神者蓼倉里三井社坐也（清中抄第十七加茂緣起曰）

而引ニテ於是乞ノ之父ヲ此ノ女ニ云ニ妹玉依日子ハ者今ノ賀茂ノ縣主等カ遠ツ祖也。其祭ノ日ニ乘馬者。志貴嶋ノ宮ニ御宇天皇ノ之御世天下

擧國風吹雨零百姓含愁。爾時ニ勅シテト部伊吉ノ若日子ニ令ムト卜。乃賀茂ノ神之崇也。撰四月吉日ヲ馬ニ懸鈴ヲ人蒙猪ノ頭ヲ而驅馳

以爲祭祠能令禱祀。因之五穀成就天下豐平也。乘馬始於此也云云又曰。蓼倉里三身社。稱三身者。賀茂建角身命也。丹波伊可古

夜日女也。玉依日女也。三柱神身坐。故號三身社。今瀨云三井社（同上義第五）

鳥部里　風土記云。南鳥部里。稱鳥部者。秦公伊呂具。的餅化鳥飛去居其所森。今鳥部（河海抄 空蟬）

宇治　風土記云。謂宇治者。輕嶋豐明宮御宇天皇之子。宇治若郎子。造桐原日桁宮以爲宮室。因御名號宇治。本名曰許乃國矣。（由阿詞林采葉抄）

鎭火　風土記曰、謂在宮城四方角、卜部等鎭火而祭。爲防火災也。故曰鎭火云云（壺鈔第五 細見氏）

桂里　風土記云。月讀尊受天照大神勅、降于豐葦原中國、到于保食神許、時有一湯津桂樹、月讀尊乃倚其樹立之、其樹所有今號桂里（名勝志 或云）

大和國

香山　風土記天上有山。分而墮地。一片爲伊豫國之天山。一片爲大和國之香山。（神代紀口譯第三。細見氏）

攝津國

住吉　風土記曰。所以稱住吉者。昔息長足比賣天皇世、住吉大神現出、而巡行天下覓可住國。時到於沼名椋之長岡之前（前ト者今神宮南邊是其地）、乃謂、斯實可住之國。遂讚稱之云眞住吉眞住吉之國。乃是定神社。今俗略之直稱須美乃叡（釋日本紀述義第六）

土蛛　風土記曰。宇禰備能可志婆良能宮御宇天皇世偽者土蛛（此人恒居穴中故賜賤號曰土蛛）（同述義第五）

夢野（仁徳紀三十八年春正月）　風土記曰。雄伴郡有夢野。父老相傳云。昔者刀我野有牡鹿。其嫡牝鹿居此野。其妾牝鹿居淡路國野嶋。彼牡鹿屢往野嶋與妾相愛無比。既而牡鹿來宿嫡所明旦牡鹿語其嫡云。

日都須久（々）紀〔…〕今は
なし、八〔…〕夢野村にあり、
〔…〕と云、〔…〕功皇后は
〔…〕れた
は、〔…〕野と〔…〕
〔…〕野な〔…〕まかへ
て、つけ野と歌によみなら
へる、つ風土記に刀我野と
あるも、かか野にし我、野萬
葉第十一につかきに近を聞
賀野邊のたかききねふとよめ
るも、妹か名を聞つくとつ
ゝけて此野に也、

今夜夢。吾背雪零見之。又日都須久（々イ）紀草生多見之。此夢何祥。其嫡忌夫復向妾。可往乃作相之曰。背上生草者矢射背上之祥也。又雪零者白鹽塗宍之祥。汝渡淡路野嶋者必遇船人射死海中。謹勿復往。其牡鹿不勝感戀。復渡野嶋海中遇逢行船。終爲射死。故名此野曰夢野。俗說云。刀我野爾立留眞牡鹿母夢相乃麻爾麻爾 已上〔…〕 同註義第七

歌垣事

風土記曰。雄伴郡。波比具利岡。此岡西有歌垣山。昔者男女集登此上常爲歌垣以爲名。

有馬湯

同註義第九

同風土記曰。有馬郡又有鹽之原山。此近有鹽湯。此邊因以爲名久牟知川。有因山爲名。山本名功地山。昔難波長樂豐前宮御宇天皇世。爲車駕幸湯泉作行宮於湯泉之。于時採材木於久牟知山。其材木美麗。於是勅云。此山有功之山。因號功地山。俗人彌誤曰久牟知山。又曰。始得見鹽湯等。云云 土人云。不知時世之號名。但始嶋大臣時耳。同註義第九

比賣嶋

同風土記云。比賣嶋松原。古輕嶋豐阿岐羅宮御宇天皇世。新羅國有女神遁去。其夫來尋住筑紫國伊波比乃。比賣嶋名乃曰。此嶋者。猶不是遠。若居此嶋男神尋來。乃更遷來。遂停此嶋。故取本所住之地名以爲島號。以上神社考第六 仙覺萬葉註釋第二、 風土記ノ次ノ句ニ長樂ノ（地名）邊トミエタリ同註釋、

美奴賣

同風土記云。美奴賣松原。今稱美奴賣者。神名。其神本居能勢郡美奴賣山。昔息長足比賣天皇幸于筑紫國時。集諸神祇於川邊郡内神前松原。以求禮福。于時此神亦同來集曰。吾亦護治。

氣比ノ

美由キ

尹庫

樋山

仍諭之曰。吾所住之山有須義乃木。各宜伐採為吾造船。則乘此船而可行幸。當有幸福。天皇乃隨神教遣命作船。此神船遂征新羅。（一云。于時此船大鳥爲、書紀ニ年、還自新羅到對馬ノ海、還到此處不得乘、仍卜占曰、神靈所欲、乃留置）還來之時祠祭此神於斯浦。并留船以獻神。亦名此地曰美奴賣。（同註卷第三）

又代初に、やそしまの使と云事。或物云。風土記云。堀江の東に澤あり。ひろさ三十四町許。名をは八十頭嶋と云。昔女待人の負其兒其間罟をもちて鳥をとらんとする。鳥まつあいだ。河の鳥飛て罟にかゝる。女人とりの力にたへずしてかへる。ひきかへされておちいりてしぬ。又有人其頭を求に。人頭二。鳥頭七十八有。今八十頭也。是によりてなつくる也（古今秘註第三抄 古今秘註抄第十八）

風土記。人皇十四代。仲哀天皇將攻三韓到筑紫而崩。今氣比大明神者此帝也。其后神功皇后開化天皇五世孫息長宿禰女也。於是發軍伐三韓時當于產月。取石挿其腰裳。欲不產也遂入新羅高麗百濟。皆悉臣服。歸到筑紫產皇子。是譽田天皇也。皇后到攝津國海濱北岸廣田鄉。今號廣田明神是也。故號其海邊曰御前濱曰御前澳。大埋其兵器處號曰武庫（今云兵庫）。其譽田天皇者今八幡神也（羅浮子註卷第二。今案。此文風土記ノ省略カ）

同風土記曰。昔有大神云天津鰐。化爲鷲而下止此山。十人往者五人去。五人留。有久波乎トイフ者來此山伏下樋而屆於神許。從此樋内通而禱祭。由是曰下樋山（同第六）

伊勢國

的形浦

風土記云。的形浦者。此浦地形似的。因以爲名也。今已跡絶成江湖也。天皇行幸濱邊歌曰。麻須良遠能佐都夜多波佐美手加比多知伊流夜麻度加多波麻乃佐夜氣佐（仙覺萬葉注釋第一）

歌

伊勢風土記

風土記云。伊勢國者。天御中主尊之十二世孫。天日別命之所平治。天日別命。神倭磐余彥天皇。自彼西宮征此東州之時。隨天皇到紀伊國熊野村。于時隨金烏之導入中州而到於菟田下縣。天皇勅大部日臣命曰。逆黨膽駒長髓彥宜早征。罸遒天日別命曰。國有天津之方。宜平其國。卽賜標釣天日別命。奉勅東入數百里。其邑有神。名伊勢津彥。天日別命問曰。汝國獻於天孫哉。答曰。吾覓此國居住日久。不敢聞命矣。天日別命發兵欲戮其神。于時畏伏啓云。吾國悉獻於天孫。吾敢不居矣。天日別命令問云。汝之去時何以爲驗。啓曰吾以今夜起八風吹海水乘波浪將東入。此則吾之却由也。天日別命令整兵窺之。比及中夜大風四起扇擧波瀾光耀如日陸國海共朗。遂乘波而東焉。古語云。神風伊勢國常世浪寄國者蓋此謂之也。伊勢津彥神近（近）信濃國（五十鈴宮ノ奈具波志忍山宮ヲ造奉六ケ月齋（已上元々集））天日別命懷築此國復命天皇。天皇大歡詔曰。國宜取國神之名號伊勢。卽爲天日別命之村此國賜宅地于大倭耳梨之村焉。

勅語以下載于釋日本紀

度會
度會命世記考

風土記云。號度會者、作川名也、而已、五十鈴謂神風百船度會縣佐古久志呂宇治五十鈴河

迦逢漢井賴宮傳記已遂

五十鈴

機殿　神服機殿　在飯野郡[?]田郷服村　麻績機殿　在同郡井手郷

尾張風土記別離二一卷在 愛智郡 熱田社

吾縵郷　昔中則所有上中下　和名鈔、上野國新田郡(波不利)

今良宮　今按異說也、

上、皆因以古語名也、百船乃御船神所獻也、佐古久志呂者、河水流通天底江通儀也、

五十鈴曰、風土記云、是日、八小男八小女等、迦逢此泗樹接因以名也

風土記云、機殿號八尋者、倭姬命奉齋太神之日、作立也、(此鄉屬大同本紀二具也、)又曰、難波長柄豐碕宮御宇天皇、丙午、竹連礒眞二氏、建此郡焉(已上四箇條、名稱書紹見氏度會也)

尾張國

風土記曰。熱田社者。昔日本武命巡歷東國還時。娶尾張連等遠祖宮酢媛命宿於其家。夜頭向則以隨身劍掛於桑木遺之入殿。乃驚更往取之。劍有光如神不把之。即謂宮酢姬曰。此劍神氣。宜奉齋之爲吾形影。因以立社。由鄉爲名也(釋日本紀述義第三)

風土記中卷。丹羽郡吾縵郷。卷向珠城宮御宇天皇品津別皇子。生七歲而不語。傍問郡下無能言之。乃後皇后夢有神告曰。吾多具國之神。名曰阿麻乃彌加都比女。吾未得祝。若爲吾充祝人。皇子能言亦是壽考。帝卜人覓神者日置部等祖建岡君卜食。即遣覓神。時建岡君到美濃國花鹿山。攀賢樹枝造縵誓曰。吾縵落處必有此神。縵去落於此間。乃識有神。因竪社。由社名里。後人訛言阿豆良里也(同述義第六)

風土記云。葉栗郡。川嶋社(在河沼鄉川嶋村)

奈良宮御宇聖武天皇時。凡海部忍人申。此神化爲白鹿時々出現。有詔奉齋爲天社、同

國愛知郡（ニ）、寺中[illegible]宅[illegible]、平城宮御宇天璽國押開豐櫻彥命天皇神龜元年主政外從七位下三宅連麻佐所奉造也。仙覺萬葉註釋第一

昔尾張國春部郡國造川瀨連云ケル者田作タリケルニ一夜間藤生タリケリ。恠異切奇事ナカリケルニ其藤大成ケリ。其故此田ハキタト云ハルトカヤ。此事ヲ菅淸公卿尾州記云ヘルニハ其藤漸大如樹。遂號藤木田云云 萬葉註釋第九

同風土記云。葉栗郡若栗郷宇夫須那社アリ。廬入姬誕生產屋ノ地也。故ニ此號アリト云云 同第十三

常陸國

風土記曰。夫常陸國者云云所謂水陸之府藏物產之膏腴古人云常世之國蓋疑此地 釋日本紀第十三

風土記云。信太郡云云古老曰。御宇難波長柄豐前宮之天皇御世癸丑年小山上物部河內大山上會津等請總領高向大夫等分筑波茨城郡七百戶置信太郡。此地本日高見國云云

又景行天皇之時日本武尊征討蝦夷之時云云下蝦夷既平自日高見國還之、西南歷常陸至甲斐國居于酒折宮云云 同第十

同風土記曰。香島郡童子女松原。古有年少僮子男稱那賀寒田之郎子女曰海上安是之孃子並貌容端正光透鄉里相聞名聲同存望念自愛心滅經月累日嬥歌之會邂逅相遇于時郎子歌曰。云云孃子報歌曰。云云 同第九

(Upper-margin notes:)

鬼神[illegible]下[illegible]ナルベシ

藤木田 ハキタ 淸公、尾州記俗ニ藤ヲハ波木トモ云ニコソ云云

本居 又[illegible]生

常陸 日立ノ[illegible]、日本[illegible]見[illegible]

日高見[illegible]

甲斐[illegible]

石村
日本紀磐余玉穗宮云々、以石村讀伊波禮可爲證矣、神武紀便言有井村有長

歌
萬葉集比曾寶山
フリハサシマネク也

新治國
大蛇(太神)
驛家下云焉(日本紀曰、閭噫此云久良於箇美之山神也、已上詞林采葉)
葬具儀
幡垂國
角枯
轜車喪葬令ニ見ユ

曝井

國名
近通之義須道之宮乎
衣手常陸
嬥歌

同風土記。或云卷向日代宮大八洲照臨天皇之世。或云。石村玉穗宮大八洲所馭天皇之世。(繼體)
或云。難波長柄豐前大朝八洲撫馭天皇之世。(孝德) 仙覺萬葉註釋第一
同風土記 香嶋郡舊聞異事ヲ註ス處ニ 海上安是之孃子歌曰。伊夜是留乃阿(安(詞林采葉))是乃古麻都爾由布志弖々和乎布利彌由母阿(安(同))是古志麻波母云云 同註釋第一
同風土記には。にひばりのくに。にらかべのくに。つくばのくに。かしまのくに。たかのくに。などいへり 同註釋第一
同風土記云。新治郡驛家名曰大神。所以然稱者。大蛇多在。因名驛家。云云 同註釋第二
同風土記云。信太郡。黒坂命征討陸奥蝦夷事了。(者乎)凱旋及多歌郡角枯之山。黒坂命遇病身故。(死乎)爰改角枯號黒前山。黒坂命之輸轜車發自黒前之山到日高之國。葬具儀赤旗青幡交雜飄颺雲飛虹張。瑩野耀路。(路イヲ)時人謂之幡垂國。後世言便稱信太國云云 同註釋第二
同風土記云。當其以南出坂中水多流尤清。謂之曝井。縁泉所居村落婦女本月會集院本布曝乾。云云 同註釋第五
同風土記云。往來道路不隔江海之津濟。郡郷境堺相續山河(川イ)之峯谷。取近通之義以爲(爲イチ)名稱焉。又倭武尊巡狩東夷之國新令掘井流泉淨澄尤有好(最(詞林采葉))愛。時停乘(輿(イ詞同))翫水洗手。御衣之袖垂泉而沾。依漬袖之義以爲此國之名。國俗諺云筑波岳黒雲掛衣袖漬國是矣 同註釋第五
自坂已東諸國男女。春花開時。秋葉黄節。相携飲食齎賚(齎齎乎)騎歩登臨遊樂栖遲。又俗諺云筑波峯

之會。不レ得レ娉二財者兒女一、不レ爲矣取レ意（同註釋第十五二載ク）

同風土記云、眞壁郡枳波都久岡（同註釋第八）

常陸國風土記云。採二大谷村之大椽一。本伐造レ鼓樂、伐造レ琴。俗云二比佐頭一云云（萬葉註釋第十一）

同風土記云茨城國造初祖多祁許呂命仕二息長帶比賣天皇之朝一

同云久慈郡西。靜織里。上古之時。織二綾之機一。人未レ知レ之。于レ時此村初織。因名（同）

美濃國

風土記曰、伊奈波諸尊生レ火神輒遇二槌之時、悶熱懊惱、因爲レ吐此化レ神、曰二金山彥神一是也

細見氏　有疑

越後國

風土記云。八坂丹玉名。謂玉色青。故云二青八坂丹玉一也（釋日本紀述義第一）

風土記曰。美麻紀天皇御世、越國有レ人。名二八掬脛一（其ノ脛ノ長サ八掬アリ。多力太强シ。是レ出雲之後也）其屬類多（同上第六）

丹後國

風土記曰。與謝郡々家東北隅方有二速石里一。此里之海有二長大石一（一本石字无）前長二千二百廿九丈。廣或所九丈以下。或所十丈以上。廿丈以下。先名二天梯立一。後名二久志濱一。然云者國生大神伊射奈藝命、天爲二通行一而梯作立。故云二天梯立一。神御寢坐間仆伏。仍怪二久志備坐一。故云二久志備濱一。此中間云二久志一

但波都久岡

比佐頭

金山彥三ノ野有細見氏

八坂丹

八掬脛　景行天皇四十年六、亦以二七掬脛一爲二膳夫一

和銅六年割二丹波國五郡一置二此國一（和名）丹後國丹波郡丹波鄉アリ　同天橋立　神社考第六引二此語一有二省略一

自此東海云與謝海。西海云阿蘇海。是二面海雜魚具善作。但蛤乏少(釋日本記注義)

同風土記曰。與謝郡日量(置(和名))里。此里有筒川村。此人夫日下部首等先祖。名云筒川嶼子。爲人姿容秀美風流無類。斯所謂水江浦嶼子者也。是舊宰伊預部馬養連所記無相乖。故略陳所由之旨。長谷朝倉宮御宇天皇御世。嶼子獨乘小船汎出海中爲釣。經三日三夜不得一魚。乃得五色龜。心思奇異置于船中。卽寐。忽爲婦人。其容美麗更不可比。嶼子問曰。人宅遙遠海底人乏。詎(誰(河))人忽來。女娘微笑對曰。風流之士獨汎蒼海。不勝近談就風雲來。嶼子復問曰。風雲何處來。女娘答曰。天上仙家之人也。請君勿疑。乘相談之愛。爰嶼子知神女。愼懼疑心。女娘語曰。賤妾之意共天地畢俱日月極。但君奈何早先許不之意。嶼子答曰。更無所言何獨乎。女娘曰。君宜迴棹赴于蓬山。嶼子從往。女娘教令眠目。卽不意之間至海中博大之嶋。其地如敷玉。闕臺腌映樓堂玲瓏。目所不見。耳所不聞。携手徐行。到一太宅之門。女娘曰。君且立此處。開門入內。卽七竪子來。相語曰。是龜比賣之夫也。亦八竪子來。相語曰。是龜比賣之夫也。茲知女娘之名龜比賣。乃女娘出來。嶼子語竪子等事。女娘曰。其七竪子者昴星也。其八竪子者畢星也。君莫恠焉。卽立前引導進入于內。女娘父母共相迎揖而定坐。于斯稱說人間仙都之別。談議人神偶會之嘉。乃薦百品芳味。兄弟姉妹等擧杯獻酬。隣里幼女等紅顏戲接。仙哥寥亮神儛逶迤。其爲歡宴萬倍人間。於茲不

此文載於源氏河海抄第十五卷。有異同、附傍。此外有浦嶋子傳。是亦有異同。萬葉集第九卷有詠浦嶋子長歌。日本後記淳和天皇天長二年紀云。今歲浦嶋子歸鄕云々。日本紀雄略天皇廿二年紀、嶋子入蓬萊云云。此間三百七十餘歲也、高林采葉抄第四有續浦島子傳。又爲家卿撰正義嶋子傳アリ

語八佾[illegible]子懷ㇾ[illegible]小人懷ㇾ土
[illegible]曰狐死正首丘其
所ㇾ生不ㇾ忘ㇾ本也

歌五首

遠等之還當ㇾ作ㇾ於譯紀多
有ニ異選之差ニ種字

知曰暮。但黄昏之時、群仙侶等漸漸退散。即女娘獨留雙眉接袖成夫婦之理。于時嶼子遺舊俗遊仙都既經三歲、忽起懷土之心、獨戀二親。故吟哀繁發嗟歎日益。女娘問曰。比來觀君夫之良異於常時。願聞其志。嶼子對曰。古人言。少人懷土、死狐首丘。僕以虛談今斯信然也。女娘問曰。君欲歸乎。嶼子答曰。僕近離親故之俗、遠入神仙之堺、不忍戀眷。輙申輕慮。所望暫還本俗、奉拜二親。女娘拭淚歎曰。意等金石、斯萬歲何眷鄉里棄遺一時。即相携俳佪相談慟哀。遂接袂退去。就于岐路。於是女娘父母親族但悲別送之。女娘取玉匣授嶼子謂曰。君終不遺賤妾、有眷尋者、堅握匣慎莫開見。即相分乘船、仍教令眼目。忽到本土筒川鄉。即瞻眺村邑、人物遷易、更無所由。爰問鄉人曰。水江浦嶼子之家人、今在何處。鄉人答曰。君何處人。問舊遠人乎。吾聞古老等相傳曰。先世有水江浦嶼子、獨遊蒼海、復不還來。今經三百餘歲者、何忽問此乎。即銜棄心、雖廻鄉里、不會一親、既逕旬日。乃撫玉匣而感思神女。於是嶼子忘前日期、忽開玉匣。即未瞻之間、芳蘭之體、率于風雲、翻飛蒼天。嶼子即乖違期、要還知復難會。廻首踟躕、咽淚俳佪。于斯拭淚哥曰。等許余蘇爾、久母多知和多留美頭能叡能、宇良志麻能古賀許等母知和多留。又神女遙飛芳音曰。夜麻等辨爾加是布企阿義天久母婆奈禮所企遠理等母與和遠和須良須奈。嶼子更不勝戀望歌曰。古良爾古非阿佐比良企和我遠禮波等許與能波麻能奈美能遠等企許由。後時人追加哥。（仙覺萬葉註釋）元

曰。美頭能叙能。宇良志麻能古我。多麻久志義。阿氣受阿理世波。麻多母阿波麻志。等許與弊爾。久母多知和多留。以下二句間恐有脫字 多由女久女波都賀末等。和禮曾加奈志企 同述義第八

同風土記曰。比沼山頂有井。其名云眞井。今既成沼。此井天女八人降來浴水。于時有老夫婦。其名曰和奈佐老夫。和奈佐老婦。此老等至此井。而竊取藏天女一人衣裳。卽有衣裳者恐脫何字皆飛上。但无衣裳女娘一人卽身隱水。而獨懷愧居。爰老夫謂天女曰。吾無兒。請天女娘汝爲兒。天女答曰。妾獨留人間。何敢不從。請許衣裳。老夫曰。天女娘何存欺心。天女云。凡天人之志以信爲本。何多疑心不許衣裳。老夫答曰。多疑无信率土之常。故以此心爲不許耳。遂許。卽相副而往宅相住十餘歲。爰天女善爲釀酒。飲一坏吉萬病除之。其一坏之直財積車送之。于時其家豐土形富。故云土形里。此自中間至于今時便云比沼里。後老夫婦等。謂天女曰。汝非吾兒。暫借住耳。宜早出去。於是天女仰天哭慟。俯地哀吟。卽謂老夫等曰。妾非以私意來。是老夫等所願。何發猒惡之心忽存出去之痛。老夫增發瞋願去。天女流涙微退門外。謂鄕人曰。久沈人間不得還天。復無親故。不知由所居。吾何々々哉。拭涙嗟歎仰天歌曰。阿麻能波良。布理佐兼美禮婆。加須美多智。伊幣治麻土比天。由久幣志良受母。遂退去而至荒鹽村。卽村人等云。思老夫老婦之意。我心无異荒鹽者。仍云比沼里荒鹽村。亦至丹波里哭木村。據槻木而哭。故云哭木村。復至竹野郡船木里奈具村。卽謂村人等云。此

奈具社

鎭座傳記云、酒殿謂伊弉諾伊弉冊尊所生和久産巣日神子豐宇賀能賣神、從月天降座、善釀酒、飮一坏吉萬病除、其一坏直千金、財寶積車送之云々、又見于鎭座本記倭姬世紀、細見氏

此歌、文字淸濁有字法

伊勢物語、大ヨトノハマニ生テフミルカラニ心ハナギヌカタラハネトモ、萬葉ニ心ナグヤト多クヨメリ、

神名帳丹後國竹野郡、大宇加神社、奈具神社

虎我心奈其志久（古事記平、奈具者云奈且志）乃留居此村。斯所謂竹野郡奈具社坐豐宇賀能賣命也（第七）

伯耆國

粟嶋

風土記曰。相見郡々家西北有餘戸。里有粟嶋。少日子命蒔粟莠實離々。即載粟彈渡常世國。故云粟島也（釋日本紀述義第三）

雞雉樹羽

同風土記云。震動之時。雞雉悚懼。則鳴蹌嶺谷。即樹羽蹬蹬云云（塵添壒嚢抄第八）

因幡國

稱スルハ記風土記乎カ、白兎ノ事見ニ于古事記舊事紀等ニ
因幡白兎

因幡記云。高草郡。其名二ノ釋アリ。一ハ野中ノ草タカケレハ。タカサト云。其野ヲ郡ノ名トセリ。一ニハ竹草ノ郡ナリ。コノ所モト竹林アリケリ。其故カク云ヘリ。竹ハ草ノ長ト云フ心ニテ。竹草トハ云ニヤ。其竹ノ中ヲアカスニ。昔コノ竹ノ中ニ老タル兎スミケリ。或時俄ニ洪水出來テ。其竹林水ニ成ヌ。浪竹ノ根ヲ洗ヒテ掘ケレハ。皆崩レ損ジケルニ。兎竹ノ根ニノリテ流レケル程。オキノ嶋ニツキヌ。水カサ落テ後。本ノ所ニ歸ラント思ヘドモ。渡ルベキチカラナシ。其時水中ニ鰐ト云フ魚アリケリ。此兎鰐ニ云樣ハ。汝ガ族ハ何程多キ。鰐云樣ハ。一類多シテ海ニミチミテリト云。兎云ク。我族ハ多シテ。山野ニ滿リ。先汝ガ類ノ多少ヲカズヘム。ムロノ島ヨリ氣多ノ崎ト云所マデ。鰐ヲ集メヨ。一々ニ鰐ノ數ヲカズヘテ。類多キ事ヲ知ン。鰐兎ニタバカラレテ。親族ヲ集メテ。セナカヲナラベタリ。其時。兎鰐ノ（兎蹈其上ヲ讀テ渡リ來ル註ニ）其上ヲ蹈テ數ヲカズヘツ。竹ノ崎ヘ渡ツキヌ。其後今ハシスマシツト思テ。鰐トモニ云樣ハ。我レ汝ヲタバカリテ。爰ニ渡リツキヌ。實ニ親族多キヲ見ニハアラズトアザケルニ。右ノ鰐其腹立テ。兎

ヲトラヘテ。兎毛ヲハギトリテ。毛モナキ兎ニナシタリケリ。ソレヲ大己貴神哀ミテ給。教ヘ給樣ハ。ガマノハナヲ。コキチラシテ。其上ニ伏テマロベトノタマフ。教ヘノマヽニスル時。多ノ毛本ノ如クイデキニケリ。ト云ヘリ 塵添壒囊抄第二

風土記云、武内宿禰垂跡也、仁德治五十五年春三月御歳三百六十餘歳、當國御下向於龜金ニ双履殘ルイハ、御陰カクレノ所ヲ不知 神名帳頭註宇陪ノ社ノ下、細見氏 有疑

石見國

風土記曰。天武天皇乎三年八月。人丸任石見守。依萬葉歌 同九月三日任左京大夫。萬葉集等无官位古今耳 正四位上行。次年三月九日任正三位兼播磨守矣。依古今序 依保乃々々ノ歌 爾來至持統。依萬葉歌時代 文武。元明。元正。聖武。孝謙。御宇。奉仕七代ノ朝者哉。於是持統ノ御宇。被配四國之地。不見萬葉等ノ古記 文武ノ御宇被左遷東海之畔。亦不見 子息躬都良者被流隱岐。於配所 謫 死去。由阿詞林采葉抄第九

播磨國

風土記曰。賀古ノ郡益氣ノ里有石橋。傳云上古之時。此橋至天。八十人衆上下往來。故曰八十橋ト 釋日本紀述義 第一

同風土記曰。明石ノ驛家駒手ノ御井者。難波高津宮ノ天皇之御世。楠生於井口。朝日蔭淡路ノ嶋ヲ。夕日ニハ蔭大倭嶋根ヲ。仍テ伐其楠ヲ造舟。其迅キコト如飛カ。一檝シテ去越七浪ヲ。仍テ號速鳥ト。於是朝夕乘此ノ舟ニ爲

今按此風土記大有不審、疑ハ偽書乎、丸字古來無用、皆作麻呂、由阿欲立仙覺井我意偽作乎

秀歌太體和歌得業生柿本躬貫云々、細見氏曰、以此作名亦偽作乎、太體ハ人麻呂貫之躬恒三人ヲ合セル作名也此作名ヲ眞ノ人ト思ヘルニヤ云々

播磨一國神社ノ宴ヲカケルモノニ蜂相記アリ天梯立(八十橋)神社考第六云播磨國風土記云八十橋者陰陽二神及八十二神之降迹也、細見氏

速鳥

速

于日川

菅川神
比々良木八尋桙
仲哀記曰五百、
寶如美女之眉有向津國
眼炎之金銀色多在其
國是謂栲衾新羅國

香山之事
古事記有天加語山命

三山相鬪

供御食汲此井水、一旦不堪御食之時、故作歌止唱曰。住吉之大倉向而飛者許曾速鳥云。（上下共句乎）
因名速鳥。（釋日本紀 述義第四）

同風土記曰。天日槍命從韓國度來、到於宇頭河底、而乞宿處於葦原志擧乎命曰。汝爲國主。欲得吾所宿之處。志擧即許海中。爾時客神以劍攪海水而宿之。又曰。天日槍命之黑葛皆落於但馬國。故占但馬伊都志地而在之。（同述義第六）

同風土記曰。息長帶日女命。欲平新羅國下坐之時。禱於衆神。爾時國堅大神之子。爾保都比賣命者。國造石坂比賣命教曰。好治奉我前者。我爾出善驗、而比比良木八尋桙（桙乎）根底不附國越賣眉引國。玉匣賀賀益國。苦尻有寶白衾新羅國矣。以丹浪而將平賜伏。如此教賜。於此出賜赤土。其塗天之逆桙（逆乎）、建神舟之艫舳。又染御舟裳及御軍之著衣。又攪濁海水、渡賜之時。底潛魚及高飛鳥等不往來、不遮前。如是而平伏新羅已訖、還上。乃鎭奉其神於紀伊國管川藤代之峯。（同述義第七）

同風土記云。香山里（本名鹿來墓 土下上）所以號鹿來墓者。伊和大神占國之時。鹿來立於山岑。是忽似墓。故號鹿來墓。後至道守臣爲宰之時。乃改名爲香山。家內谷。即是香山之谷。形如垣廻。故號家內谷。云云（仙覺萬葉註釋第一）

同風土記云。出雲國阿菩大神。聞大和國畝火香山耳梨三山相鬪。以此欲諫止上來之

韓荷島

針間井 紀見氏曰、萩乎波我止讀事、上古無所見、是亦可讀波里止

鵲島 推古紀六年夏四月、難波吉士磐金至自新羅、獻鵲二隻、乃俾養於難波杜、因以巣枝而産之（子乎）紀見氏

時。到於此處、乃開閉、止覆其所乘之船而坐之。故號神阜。阜形似覆。（二船乎）（同註釋第一）

同風土記云。韓荷島。韓人破船所漂之物漂就於此島。故云韓荷島云云（同註釋第四）

同風土記云。萩原里。七中有井。右所以名萩原者。息長帶日賣命。韓國還上之時、御船宿於此村。一夜之間生萩根。高一丈許。仍名萩原。即闢御井。故云針間井。已上（同註釋第八）

同風土記見、佐用郡船引山云フ。此山有鵲鳥。世俗云韓國鳥。栖枯木穴。春見之夏不見。云云（塵添壒嚢抄第八）

備前國

牛窓

神功皇后舟過備前海上時、有大牛、出欲覆舟。住吉明神化老翁、以其角投倒之。故名其處曰牛轉。今云牛窓訛也（羅浮子神社考第六。此事亦見于鹿苑院殿嚴島詣記。疑ハ風土記ノ文カ乎）

備中國

二萬郷 此風土記文中古引證初乎

備中國風土記。皇極天皇六年大唐將軍蘇定方率新羅軍伐百濟。百濟遣使乞救。天皇行幸筑紫、將出救兵。時天智天皇爲皇太子攝政。從行路宿下道郡。見一郷戸邑甚盛。天皇下詔。試徵此郷軍士。即得勝兵二萬人。天皇大悅。名此邑曰二萬郷。後改曰邇磨。其後天皇崩於筑紫行宮。終不遣此軍。（本朝文粹第二 意見封事 善相公清行）

新造御宅

同風土記云。賀夜郡松岡。去岡東南維一里。驛路在今新造御宅。奈良朝廷以天平六年甲戌。國司從五位下勳十二等石川朝臣賀美。郡司大領從六位上勳十二等下道朝臣人主。少領從七位下勳十二等薗臣五百國等造始云云（仙覺萬葉註釋第一）

宮瀬

同風土記曰。賀夜郡伊勢御神社東在河。名宮瀬川。西者吉備建日子命（景行天皇皇子）之宮造此。三世王宮之。故仍名宮瀬云云（諸社根元記）

備後國

疫隅社

風土記曰。疫隅國社。昔北海坐志武塔神南海神之女子乎與波比爾坐爾日暮。彼所蘇民將來二人在伎。兄蘇民將來甚貧窮。弟將來富饒屋舍一百在伎。爰塔神借宿處惜而不借。兄蘇民將來借奉。即以粟柄為座。以粟飯等饗奉。々々既畢出坐。後爾經年率八柱子還來天詔久。我將奉之為報答。曰汝子孫其家爾在哉止。問給。蘇民將來答申久。已女子與斯婦侍止申。即詔久。以茅輪令著於腰上。隨詔令著。即夜爾蘇民與女人二人乎置天皆悉許呂志保呂保志天伎。即詔久。吾者速負（須乎）佐雄能神也。後世仁疫氣在者。汝蘇民將來之子孫止云天。以茅輪著腰上詔。隨詔令著。即家在人者將免止詔伎。（釋日本紀述義第三）

紀伊國

たつか弓

考紀伊國風土記。弓のとつかをおほきにするなり。それは紀伊國の雄山のせきもりがもつ弓なり。

とざいへるつか弓の下 （袖中抄第五－た）

淡路國

風土記云。應神天皇廿年秋八月。天皇淡路嶋遊獵。時海上大鹿浮來。則人也。天皇召左右詔問。答曰。我是日向國諸縣郡牛也。角鹿皮著而年老雖不仕尚以莫忘天恩。仍汝女長髮上姫貢也。仍令榜御舟矣。回之此湊曰鹿子湊（詞林采葉第七）

阿波國

風土記。或云。大倭志紀彌豆垣國大八島國所知天皇朝廷。或云。難波高津宮大八島國所知天皇。或云。檜前伊富利野乃宮大八島國所知天皇（仙覺萬葉集註釋第一、）

阿波國ニ。みなとあり。中湖といふは。牟夜戸與奏湖中にあるか故。中湖為名。見阿波國風土記（同註釋第二、）

同風土記云。奈汰（奈汰ト云由者。其浦波之音無止時。依而奈汰ト云。海邊者波立者奈汰等云フ　同註釋第）

同風土記云。勝間井冷水。勝間井云由者。倭健天皇命。乃大御櫛笥忘依而勝間云。粟人者櫛笥者勝間云也已上（同註釋第七）

伊豫國

伊豫國風土記曰。宇和郡御嶋坐神御名大山積神。一名和多志大神也。是神者所顯難波高

應神天皇十三年紀、一日、說ト有二大同小異一、鹿子湊

所知（シロシメス）

中湖　牟夜戸與奏、所名也　樋口氏

勝間　詞林采葉抄第七云。美作風土記云。日本武尊。櫛ヲ池ニ落入玉フ。因號二勝間田池一、今按竹籠ヲ勝間ト古事記等ニ見ヘ侍ヘバ、竹ノ櫛ノコトト見ヘ申侍、[illegible]ノコトモ竹ノ櫛ノコト[illegible]カツマハ別歟同歟

[illegible]

天賀山

能野船

湯事并碑文

歟難解

法興、推古天皇年號歟、今按自武烈十六年至欽明三十二年、凡四十九年ノ間、既有別年號、不見法興ノ年號、不審。欽明十五年有法清年號耳。碑文難解。

津宮御宇天皇御世、此神自百濟國度來坐。而津國御嶋坐云云。謂御嶋者津國御嶋名也。（釋日本紀述義）

同風土記曰。伊預郡。自郡家以東北在天山。所名天山由者。倭在天加具山。自天天降時二分而以片端者天降於倭國。以片端者天降於此土。因謂天山本也。（釋日本紀述義第三）

同風土記曰。野間郡。能野峰、所名熊野由者。昔時熊野止云船設此、至今石成在。因謂熊野本也。（釋日本紀述義第四）

同風土記曰。湯郡。大穴持命見悔恥。而宿奈毗古那命欲活。而大分速見湯自下樋持度來。以宿奈毗古奈命。而漬浴。者。暫間有活起居。然詠曰。眞暫寢哉踐健跡處。今在湯中石上也。凡湯之貴奇不神世時耳。於今世染疹痾萬生爲除病存身要藥也。天皇等於湯幸行降坐五度也。以大帶日子天皇與大后八坂入姬命二躯爲一度也。（以下景行天皇）以帶中日子天皇與大后息長帶姬命二躯爲一度也。（以下仲哀天皇）以上宮聖德皇爲一度。及侍高麗惠總僧。葛城臣等也。于時立湯岡側碑文。記云。（其ノ立碑文處、謂伊社邇波之岡也。所ノ名伊社邇波由者、當土ノ諸人等其ノ碑文ヲ欲見而伊社邇來。因謂伊社邇波也。云云（仙覺萬葉註釋））法興六年十月歲在丙辰。我法王大王與惠總法師及葛城臣。逍遙夷與村正觀神井歎世妙驗欲叙意。聊作碑文一首。惟夫。日月照於上而不私。神井出於下無不給。萬所以機妙應。百姓所以潜扇。若乃。照給無偏私。何異于壽國。隨華臺而開合。沐神井而瘳疹。詎升于落花池而化弱寬望山岳之巖崿反冀子平之能往椿樹相廕而穹窿實相五百之張臨朝啼鳥而戯吐下何曉亂音之聒

耳丹花卷葉映照玉菓彌葩以垂井。經過其下可優遊。豈悟洪灌霄、進意與才拙實慚七上(イ)步。後定君子幸無蚩咲也。以岡本天皇幷皇后二軀爲一度。以後岡本天皇（齊明天皇）近江大津宮御宇天皇。淨御原宮御宇天皇三軀爲一度。此謂幸行五度也 同述義第九

舒明紀十二之左 于時於大殿戸有椹云臣木。於其木集止鵤云比米鳥。天皇爲此鳥枝繫稻穗等養賜也。（仙覺萬葉註釋）

臣木

同風土記曰。二者一者椋木。一者臣木云云 仙覺萬葉註釋第一

熟田津歌

同風土記云。後岡本天皇御歌曰。美枳多頭爾波弖丁、美禮婆云云 同註釋第三

土佐國

玉島

風土記曰。吾川郡玉嶋。或說曰。吾川郡玉嶋。或說曰。神功皇后巡國之時。御船泊之。皇后下嶋休息。礒際得一白石。團如鷄卵。皇后安于御掌。光明四出。皇后大喜詔左右曰。是海神所賜白眞珠也。故爲嶋名 釋日本紀述義第六

高加茂大社
多氏古事記

流布古事記序云、太安萬侶謹上云云、多與大川義同、今所引古事記與所流布古事記全同矣、雖然雄略天皇於葛城山遊獵段有大同少異、

拍手

同風土記曰。土左郡。郡家西去四里有土左高賀茂大社。其神名爲一言主尊。其祖未詳。一說曰。大穴六道尊子。味鉏高彥根尊。曆錄曰。雄略天皇四季庚子。春二月。天皇獵于葛城山。忽有長人。面形似天皇。天皇知是神人。故問何處公。對曰。現人神。願稱皇諱。答勅。朕、是稚武尊。長人曰。僕是一言主神也。遂與盤于遊田。言辭恭恪。有若逢仙。日斜田罷。神送天皇至來目川。群臣各脫衣服而獻。神拍手而受之。淩空而還。一說懸一柏末而受之。是時成知有德天皇矣。或說云時神與天皇相競有不遜之言。天皇大嗔。奉移土左。神隨而降。神

多氏古事記、多與太同

身已隱。以祝代之。初至賀茂之地。後遷于此社。而高野天皇寶字八年。從五位上高賀茂朝臣田守等奏。而奉迎鎭於葛城山東下高宮岡上。其和魂者猶留彼國。于今祭禮而。云云 國記曰。雄略天皇卽位二十年戊戊。奉移鄉者誤也。多氏古事記曰。天皇一時獵葛城山。向堆之上有如天皇儀者。彼此同容。天皇大異。遣使問曰。大倭之國豈有如朕之人。爾是誰。何與朕同儀耶。大神所答之辭與天皇同。天皇懷瞋更問。然則稱名。大神答云。先問吾者汝也。汝宜先稱之。天皇勅答。朕是大倭根子稚武天皇也。大神答曰。吾是吉事一言。凶事一言。言放之葛木一言主神也。天皇大驚下馬而拜。百官羅拜。大神答拜。又如天皇。而射狩山獸。言語相通者。蓋疑。此時有不恭之言乎。論者曰。夫神祇者。陰陽不測。與寂寥虛無。利用出入民咸用之者也。雖懷自然之聰明。蘊自然之猛烈。而不得勝於天皇之威。而懸心質幽冥之境。降魂邊鄙之邦。是所謂對而柔弱。以蒙養正。妙萬物而爲言。不可以形語者也。而今女巫計利假威。宜誘頑俗。迷溺流弊。不止非。銷禍招福。更調氣和物之本意者也。今正月十五日立例。百姓相聚。行射禮於社下。五月下旬。中南畝功竟之事。月上旬。貢封戸調物。國司必向。自古成蹤　同述義第八

朝倉ノ神社

同風土記曰。土左郡。有朝倉鄉。鄉中有社。神名。天津羽羽神。天石帆別命。今天石門別神子也　同述義第九

三輪

同風土記云。神河。訓三輪河。源出北（此イ）山之中、屆于伊與國。水清故爲大神釀酒也。用此河水。故爲河名也。訓神字爲三輪者。多氏古事記曰。（此段亦與漢布古事記有大同少異）崇神天皇之世。倭迹々媛皇女。爲大三輪大神婦。每夜有一壯士密來曉去（歸イ）。皇女思奇以綜麻貫針。及壯士之曉去也以針貫襴。及旦也看之唯有三輪遺器者。故時人稱爲三輪村。社名亦然云云（仙覺萬葉註釋第一）

筑前國

資河島

風土記曰。糟屋郡資河嶋昔時氣長足姬尊幸於新羅之時。御船夜時來泊此嶋。有陪從。云大濱小濱者。便勅小濱遣此嶋覓火。得早來。大濱問云。近有家耶。小濱答云。此嶋與打昇濱近相連接。殆可謂同地。因曰近嶋。今訛謂之資河嶋（釋日本紀述義第二）

怡土郡恪勤

同風土記曰。怡土郡。昔者穴戶豐浦宮御宇足仲彥天皇將討球磨噌唹幸筑紫之時。怡土縣主等祖。五十跡手。聞天皇幸。拔取五百枝賢木。立于船舳艫。上枝掛八尺瓊。中枝掛白銅鏡。下枝掛十握劒。參迎穴門引嶋獻之。天皇勅問阿誰人。五十跡手奏曰。高麗國意呂山自天降來。日桙之苗裔五十跡手是也。天皇於斯譽五十跡手曰恪手（私考謂伊蘇志矣）五十跡手之本土可謂恪勤國。今謂怡土郡訛也（同述義第六）

西峰曰、伊蘇志勤臣之義、按文德天皇實錄四、楢原東人天平勝寶元年爲駿河守于時土出黃金、東人採以獻之、天皇歎其功曰、勤哉臣也、遂取勤臣之義、賜姓伊蘇志臣伊蘇志之義、可以此的之矣、

大三輪神

同風土記曰。氣長足姬尊。欲伐新羅整（勑イ）理軍士發行之間道中遁（逃亡イ）已古求其由即有崇神名曰大三輪神。所以樹此神社遂平新羅（同述義第七）

兒饗野
此文出於萬葉集

同風土記曰。怡土郡兒饗野。在郡西。此野之西有白石二顆。一顆長一尺二寸。大一尺。重卅一斤。一顆長一尺一寸。大一尺。重卅九斤。二字衍文乎。曩者氣長足姫尊欲征伐新羅。到於此村。御身有姙。忽當誕生。登時取此二顆石。挿於御腰。祈曰。朕欲西堺來著此野。所姙皇子若此神者。凱旋之後誕生其可。遂定西堺。還來即產也。所謂譽田天皇是也。時人號其石曰皇子產石。今訛謂兒饗石。同述義第七

鏡宮
仙覺萬葉註釋第三、豐前國風土記云。田河郡鏡山。在郡東。以下全同。河海抄爲筑前者誤乎。林榮華抄與註釋全同、而社名第三、爲肥前國。是手

同風土記曰。昔者氣長足姫尊在此山。遙覽國形。而勅祈云。天神地祇爲我助福。乃用御鏡安置此處。其鏡即化爲石。而見在。山中。回名曰鏡山。河海抄 鏡山宮

奈羅朝

同風土記云。當奈羅朝。天平四年歲次壬申。西海道節度使藤原朝臣諱宇合。嫌參議之偏考當時之要者。仙覺萬葉註釋第一

賀襲宮

同風土記云。到筑紫國例。先參謁于賀襲宮。賀襲可紫比也。同註釋第四

塢舸水門

同風土記云。塢舸縣。東側近有大江口。名曰塢舸水門。堪容大船焉。從彼通島鳥旗澳。名曰岫門。鳥旗鳥旗ハ等鳥多岫門久岐也。コノ等ハ久岐ノ下乎。堪容小船焉。海中有兩小島。其一曰河斛嶋。々生支子。海出鮑魚。其一曰資波島。資波島ハ資波紫摩。兩島俱生鳥葛冬蕗。鳥葛ハ黑葛也。冬蕗ハ汪菜也。同註釋第五

狹手彥

同風土記。うちあげの濱の所に云。狹手彥連。舟にのりて。海にとゞまりて。わたることをえがたし。于茲石勝。推量して云。此舟のゆかざる事は。海神の心なり。其神はなはだ。狹手彥連か。ゐてゆく所の妾。字は。那古君をしたふ。これをとゞめばわたるべし。于時彥連妾とあひなげく。皇命をかうふらん

ことをおそれて。うつくし姫をいだきて。こものうへにのせて。なみにはなちうかふ。と云（袖中抄第八）

身形郡　宗像社記云筑前國風土記曰。宗像大神自居埼門山天降之時。以青蕤玉置奥津宮之表。以八坂瓊紫玉置中津宮之表。以八咫鏡置邊津宮之表。以此表成神體之形。而納三宮卽納隱之。因曰身形郡。（舊事本紀第十頭註延佳）

筑後國

筑紫　風土記云。筑後國者。本與筑前國合爲一國。昔此兩國之間山有峻狹坂。往來之人。所駕鞍韉被磨盡。土人曰鞍韉盡之坂。三云。昔此堺上有麁猛神。往來之人半生半死。其數極多。因曰人命盡神。于時筑紫君肥君等占之。今筑紫君等之祖甕依姬爲祝祭之。自爾以降行路之人不被神害。是以曰筑紫神。四云。爲葬其死者伐此山木造作棺輿。因茲山木爲盡因曰筑紫國。後分兩爲前後。（釋日本紀述義第一）

三云四云、上已以有筑紫名一二說乎。

三毛　同風土記云。三毛郡云云昔者棟木一株生於郡家南。其高九百七十丈。朝日之影蔽肥前國藤津郡多良之峰。暮日之影蔽肥後國山鹿郡荒爪之山。云云　因曰御木國。後人訛曰三毛。今以爲郡名。（釋日本紀述義第六）

宇枳ノ事　同風土記云。昔景行天皇巡國旣畢還都之時。膳司在此村忘御酒盞云云　天皇勅曰。惜乎朕之酒盞（俗語云酒盞爲宇枳）。因曰宇枳波夜郡。後人誤號生葉郡。（同述義第六）

筑紫君磐井墳墓(十二右十三左)

同風土記曰。上妻縣。縣南二里有筑紫君磐井之墓墳。高七丈、周六丈。墓田南北各六十丈、東西各卌丈。石人石盾各六十枚(校字)、交陣成行、周匝四面。當東北角有一別區。號曰衙頭(衙頭政所也)。其中有一石人、縱容立地。號曰解部。前有一人、裸形伏地。號曰偸人(生爲偸猪仍擬決罪)。側有石猪四頭。號賊物(賊物盗物也)。彼處亦有石馬三疋、石殿三間、石藏二間。古老傳云。當雄大迹天皇之世、筑紫君磐井、豪強暴虐、不偃皇風。生平之時、預造此墓。俄而官軍動發、欲襲之間、知勢不勝、獨自遁于豐前國上膳縣、終于南山峻嶺之曲。於是官軍追尋失蹤。士怒未泄、撃折石人之手、打墮石馬之頭。古老傳云。上妻縣多有篤疾、蓋由茲歟。(同註義第九)

服前國

近嶋

風土記曰。更勅云。此島雖遠、猶見如近。可謂近島。因曰値嘉島。或有一百餘近島、或有八十餘近島。(釋日本紀述義第十一)

杵嶋峯

同風土記云。杵嶋郡。縣南二里有一孤山。從坤指艮、三峰相連。是名曰杵島。坤者曰比古神、中者曰比賣神、艮者曰御子神(一名軍神。動則兵興矣)。郷閭士女、提酒抱琴、毎歳春秋、携手登望、樂飲歌舞。曲盡而歸。歌詞云。阿羅禮符縷、耆資麼加多、憇塢嵯峨紫、彌占匣縒刀理我泥底、伊母我提鳴刀縷(嶋イ)(是杵嶋曲ナリ)(仙覺萬葉註釋第三)

同風土記云。松浦縣。々東三十里有帔搖岑(帔搖此云比禮府離)(詞林采葉)。最頂有沼、計可半町。俗傳云、昔者檜前(武小廣國宣化二年)

按孫老、紗手彥
欽明廿三年八月
袖中、離別之日ノ下
○鏡をとりいこ婦にあたふ、いた
婦わかれをかなしひ、いた
きて、玉島くりかはをわたる。
あたへたる所のか、見をい
たいてかはにしつみぬ。仍
其所をか、見のわたりと
いふ。狹手彥、舟をいたし
て、別さるとき巳上袖中抄
第八此間ニアリ詞林同

淀姬

火國

（細楯袖中抄詞林采葉同人丸勘文亦同）（十月）天皇之世也。遣大伴紗手比古鎭任那國。于時奉命經過此墟。於是篠原村（篠ハ資也）有娘子。名曰乙等比賣。容貌端正。孤爲國色。紗手比古便娉成婚。離別之日乙等比賣登此峰擧帔招。因以爲名。（仙覺萬葉註釋第四）

風土記曰、人皇卅代欽明（天皇乎）廿五年甲申冬十一月朔甲子。肥前國佐嘉郡與止姬神有鎭座。一名豐姬。一名淀姬。（神名帳細見氏頭註　有疑）

肥後國

風土記云。肥後國者。本與肥前國合爲一國。昔崇神天皇之世益城郡朝來名峰有土蜘蛛。名曰打猴頭猴二人。率徒衆百八十餘人。蔭於峰頂。常逆皇命不肯降服。天皇勅肥君等祖健緒組遣誅彼賊衆。健緒組奉勅到來皆悉誅夷。便巡國裏兼察消息。乃到八代郡白髮山日晚止宿。其夜虛空有火自然而燎。稍稍降下著燒此山。健緒組見之大懷驚怪。行事既畢參上朝庭陳行狀奏言云云天皇下詔曰。剪掃賊徒頗無西眷。海上之勳誰人比之。又火從空下燒山。亦怪火下之國。可名火國。又景行天皇誅球磨贈於兼巡狩諸國。云云幸於火國渡海之間日沒夜暗不知所著。忽有火光遙視行前。天皇勅棹人曰。行前火日行前。火見直指而往。隨勅往之。果得著崖。即勅曰。火燎之處此號何界。所燎之火亦爲何火。土人奏言。此是火國八代郡火邑。但未審火由。于時詔群臣曰。燎之火非俗火也。火國之由

知所以然（釋日本紀述義第六）

同風土記曰。玉名郡長渚濱（在郡）昔者大足彥天皇誅球磨噌唹還駕之時。泊御船於濱云云。又御船左右游魚多之。棹人吉備國朝勝見以釣釣之多有所獲。卽獻天皇。勅曰。所獻之魚此爲何魚。朝勝見奏申。未解其名。止似鱒魚耳。歷御覽曰。俗見多物卽云爾陪佐爾。今所獻魚甚多有。可謂爾陪魚。今謂爾陪魚其緣也（釋日本紀述義第一）

水島　同風土記云。球磨縣乾七里海中有島。稍可七十里。名曰水島。島出寒水。逐潮高下云云（仙覺萬葉註釋第三）

豐前國

鹿春ノ神　風土記曰。田河郡鹿春鄉。昔者新羅國神自度到來住此川原。便卽名曰鹿春神（釋日本紀述義第六）

日向國

劔柄　風土記。宮埼郡高日村。昔時自天降神以御劔柄置於此。因曰劔柄村。後人改曰高日村也（釋日本紀述義第二）

高千穗　同風土記曰。臼杵郡內知鋪鄉。天津彥彥火瓊瓊杵尊（仙覺萬葉註釋第十　離天ノ磐座ヲ排天ノ八重雲ヲ稜威之道別々テ而（註釋））天降於日向之高千穗二上峯時。天暗冥。晝夜不別。人物失道。物也難別（色（註釋））。於茲有土蜘蛛名曰大鉗小鉗二人奏言。皇孫尊以御手拔稻千穗爲籾。投散四方。必得開晴（无（註釋））。于時如大鉗等所奏搓千穗稻爲籾投散。卽天開晴日月照光。因曰高千穗二上峯。後人改號智鋪（釋日本紀述義第四）

東指抄ニ云、豐土記ニ曰、天孫降臨時ニ雲霧深ク不辨物色、天孫乃チ拔稻穗ヲ散之ヲ於四方ニ、卽開晴、因是名曰千穗ノ峰ト云々。

日向國

同風土記曰。纏向日代宮御宇大足彦天皇之世。幸兒湯之郡。遊於丹裳之小野。謂左右曰。此國地形直向扶桑。宜號日向也(同上)

同風土記云。皇祖裒能忍耆命。日向國贈於郡高茅穗槵生峯ニアマクダリマシテ。是ヨリ薩摩國閼駝郡竹屋村ウツリ給テ。土人竹屋守女メシテ。其腹ニ一人男子マウケ給ケル。時ニ彼所ノ竹ヲカタナニ作テ。臍緒切給タリケリ。其竹今ニ有リ(塵袋第二)

日向國韓槵生村。昔哿怛武別ト云ケル人。韓國ニ渡テ。此栗ヲ取テ飯リテ殖タリ。此故ニ槵生村トハ云。

風土記云。俗語謂栗爲區兒。然則韓槵生云者。蓋云韓栗林歟云云(同第九)

大隅國

風土記云。大隅郡串卜鄕。昔者造國神勅使者。遣此村令見(詞)。消息使者報道。有髮梳神云可謂髮梳村。因曰久四良鄕(髮梳者隼人俗語久四良。今改曰串卜鄕)(仙覺萬葉註釋第三)

風土記云。必志里。昔者此村之中在海之洲。因曰必志里(海中洲者隼人俗語云必志)(同註釋第七)

風土記云。大隅國ニハ。一家水米ヲ設テ。村ニツゲメグラセバ。男女一所ニ集リテ。米ヲカミテ酒船ニハキ入テ。チリチリニ歸リヌ。酒香イデクル時。又集リテ。カミテハキ入シ者ドモ。是ヲ飲ム。名テクチガミノ酒ト云フト云云(塵袋第三)

大隅國。夏ヨリ秋ニ至マデ。シラミノ子多クシテ。食ヒ殺サルヽ者アリ。是ヲ風土記ニ云ルニハ。沙虱二字ヲ訓者小神ト注セリ(同第八)

壹岐國

鯨伏　風土記云。鯨伏鄕(在郡西)昔者䲭(鮨イ)鰐追鯨。鯨走來隱伏。故云鯨伏。鰐並鯨並化爲石。相去一里。(俗云鯨爲伊佐)(仙覺萬葉集註釋第二)

筑紫

閼宗嶽　風土記曰。肥後國閼宗縣。縣坤二十餘里有一禿山。曰閼宗岳。頂有靈沼。石壁爲垣。(計可縱五十丈許、橫百丈許、深或二十丈或十五丈)清潭百尋。鋪白緣而爲質。彩浪五色。絙黃金以分間。天下靈奇出茲華矣。時時水滿。從南溢流。入于白川。衆魚醉死。土人號曰苦水。其岳之爲勢也。中天而傑峙。包四縣而開基。觸石興雲。爲五岳之最首。濫觴分水。寔群川之巨源。大德巍巍。諒人間之有一。奇形杳杳。伊天下之無雙。居在地心。故曰中岳。所謂閼宗神宮是也。(釋日本紀述義第六)

子饗原　筑紫風土記曰。逸都縣子饗原有石兩顆。(萬葉並筑前風土記)一者片長一尺二寸。周一尺八寸。一者長一尺一寸。周一尺八寸。色白而便圓如磨成。俗傳云。息長足比賣命欲伐新羅。閱軍之際。懷娠漸動。時取兩石。插著裙腰。遂襲新羅。凱旋之日。至芋湄野。太子誕生。有此因緣。曰芋湄野。

蓑延時　(謂產爲芋湄者風俗言詞耳)俗間婦人忽然娠動。裙腰插石。厭令延時。蓋由此乎。(釋日本紀述義第七)

御津柏　同風土記曰。寄採御津柏也(同述義第八)

志摩國

神宮之中禮典之間。爲ニ永例ニ有ニ長柏ニ。謂ニ之三角柏ニ。件柏者。志摩國。吉津嶋堺ニ土貢嶋內在ニ山中ニ生ニ木上ニ也。吉津嶋

風土記曰。昔行基菩薩。請ニ南天竺婆羅門僧正。天竺僧佛播ニ殖三角柏ヲ爲ニ太神宮御園ト。天平九年十二月十七日致ニ御祭之勤ヲ也 拾玉集第五

伊豆國 諸國雜駁

准后親房記引ニ伊豆國風土記ヲ曰稽溫泉玄古天孫未レ降也大巳貴尊與ニ少彥名ニ我秋津洲憫ニ民夭折ヲ始製ニ禁藥湯泉之術ヲ伊津神湯又其數而箱根之元湯是也。走湯者不レ然人王四十四代養老年中開基非ニ尋常ノ出湯ニ。一晝夕二度山岸屈中火焰隆盛ニ發而出溫泉甚熾烈。鈍ニ沸湯ヲ以レ樋盛ニ湯船ニ浸レ身者諸病悉平治ス 鎌倉實記第三

同記曰伊豆別王子者景行天皇二十四子武押分命也。伊豆風土記曰割ニ駿河國伊豆乃崎ニ號ニ伊豆國ト。日金嶽祭ニ瓊々杵尊荒神魂ニ與野神。獵年々國別役也。構ニ八牧幣坐ニ出ニ納狩ス具行裝ニ之次第有ニ圖記ニ。推古天皇ノ御宇伊豆甲斐兩國之間聖德太子御領多。自レ此獵鞍停止。八牧別所往古獵鞍之司祭ニ山神ニ號スニ幣坐神社ニ。其舊法斷久也。夏野獵鞍者伊藤與野每年撰ニ鹿桐射手ヲ行云云 同第三

同記曰應神天皇五年甲午冬十月課ニ伊豆國ニ造レ船。長十丈船成泛レ海。而輕如レ葉馳傳云。此舟木者日金山麓與野之楠也。是本朝造ニ大船ヲ始也 同第三

古事記(仁德)曰、太后爲將ニ豐樂ニ而採ニ御綱柏ヲ幸ニ行木ノ國ニ之間、天皇婚ニ八田ノ若郎女ニ云云。大后大ニ恨怒。載ニ其ノ御船ニ之御綱ノ柏ヲハ者悉投ニ棄於海ニ。故ニ謂ニ其ノ地ヲ謂ニ御津前ニ也。貞觀儀式大嘗會ノ(ムシ)服男七十二人、註ニ執ニ酒柏ニ、所謂酒柏ハ者以ニ弓弦葉ヲ挾ニ白木四重別四枚在ニ左右ニ。同、雜物ノ下、長女柏一宮(置案)。江次第大嘗會卯ノ日ノ下、最姫取ニ本柏ヲ盛レ酒奉ニ天皇ニ云々。釋日本紀曰、本紀曰、太神宮大同七日二度會ス云云。齋宮ノ采女二人御綱柏盛酒盛テ、毎レ人盃云云。詞林采葉、兒手柏條下云、土員當レ作ニ土貢ニ所太神宮三折ノ祭ノ神ノ宴以ニ御角柏ヲ飲ニ柏(枸)酒ヲ者志摩ノ國土ト貢島ノ之貢獻也。度會延佳考

溫泉

御浴

鶴郡

甲斐國　　權大納言長家

雲の上に菊ほりうゑてかひの國鶴の郡をうつしてそ見る

夫木十四此歌之注曰風土記甲斐國鶴郡有菊花山流水洗菊飲其水人壽如鶴云云

武内傳曰因幡國風土記云、難波高津宮（仁徳天皇）治天下五十五年春三月大臣武内宿禰御歳三百六十餘歳（二説八歳）當國御下向於龜金双履殘御隱所不知焉蓋因幡國法美郡宇倍山麓有神社也。曰宇倍神社。是武内宿禰之靈也。昔武内宿禰平東夷還入宇倍山之後不知終所

萬葉緯第十八卷終

萬葉緯　卷第十九目錄　樂詠并郢曲

樂詠類

郢曲

萬葉緯 卷第十九

洛東隱士似閑編緝

樂詠

允恭天皇四十二年、天皇崩ス。新羅王聞天皇崩而驚愁テ之貢上調船八十艘及ヒ種々樂人八十。且張種々樂器自難波至于京。

古事記顯宗天皇段云。弟皇將舞時爲詠曰。物部之。我夫子之取佩於太刀之手上丹畫著其緒者載赤幡立赤幡見者五十隱山三尾之竹矣訶岐苅。末押靡。魚簀如調八緒琴所治賜天下伊邪本和氣天皇之御子市邊之押齒王之末奴。今按吾朝因此爲詠歟。未知異朝故實可尋矣。推古天皇二十年五月紀云。百濟人味摩之歸化曰。學于呉得伎樂儛。則安置櫻井而集少年令習伎樂儛。於是眞野首弟子新漢齊文二人習之傳其儛。今按吾朝樂雖始于茲未見於其詞。適樂家雖有著其來由等書。皆出自浮居之說可謂悉淫樂。毛詩亦南陔白華黍等雖有有聲無詞章其餘大備矣。於是倭樂歌詞一一箇依無可微而但集詠而求樂之旨趣耳。禮記樂記云。樂勝則流。倭風事於遊宴不甄雅音可謂樂信流去。朱子亦不言哉。今禮樂之書皆亡。學者但言其義。狛朝葛續教訓抄云。舞詠事。或人云。舞樂曲詠ト云事アリ。思ヲノブル義也。其心ヲロニノブルユヘニ、囀トモ云也。昔今タエズシ侍ル

ハ○輪臺○靑海波○採桑老等也。是ハ舞アル程ノ時儀ニ○略事ナシ。陵王ノ詠ハ○タヤスクスル事ナシ。公家ニテハ○別勅ヲカウフリ○サナラヌ所ニテハ○御定ヲカウフリテ○スヘキコトナリ○但シ身ニトリテ○サモト思ハムトコロニテハ○ハカラヒスベキナリ○此外案摩○加陵頻○菩薩○河南浦○泛龍舟○三臺○五常樂○賀王恩○甘州○還城樂○師子○貴德○胡德樂○是等ニハ詠アリトイヘトモ○當世舞アルトキモ不レ用○柳花苑○庶人三臺○是等ハ○當世舞モナケレハ○詠又モチヰズ○ヤスキホトノ事ナカラ○カヤウニシリワケテ○存ズベキナリ。

體源第一・古今樂錄云・夫歌者樂之始也、古人・前レ詩而後レ歌以レ舞象ニ其事一然後被ニ之管絃一哥中未必有舞・々中未必有歌、景範記 又云・大般若經七十七云・五支同・音義云・絃管鼓歌詠・是五支也。云云 同第一云・七言樂事・七言ノ樂ト云物アリ・所謂・扶南・良君子・陪臚・如是也・必不可違七言・笙一終ヲ吹延ル所・尤可聞也。詩ト樂トハ是一體異名也・音ヲハ樂ト號ス・詞ヲハ詩ト名ク、同統秋云・ナケカシキ哉・諸樂ノ詞ヲ不レ知・音計殘テ誰モ吹トモ詞不レ知・又少々殘モ大方也。詠詞則樂詞也・能々受ニ師說一可レ吹レ之。

續教訓抄（卷數不知）武ノ功ニヨリテツクレル舞ヲハ・武ノ舞トイフ。歌ノ詞又カクノコトシ。

體源第二・秋風樂下云・漢武帝之時代ヨリ出來歟・由注之・秋風辭文選ニアリ・樂詞是也・穴賢可祕・云云。

同第八・本猿笛下云・或云・吹猿笛奏蘇利古云云・ウソヲ吹蘇利古ヲ舞也・云云 入道通憲云ク・何大法會ニウソヲ吹テ可舞・詠二十四種アリ・其中ニ猿笛ノ詠ト云詠アリ、其體ノ作法ハ・妓女舞ノ時・微細ナル音聲ヲモテ・詠ヲナス・コレヲ猿笛ノ詠トハ云ナリト・云云 蘇利古ハ古樂ナレハ・狛笛細・音聲ナレハ・目出タクキコユル

ヲ常樂ノ式ニ・吹猿笛蘇利古ヲ舞ト云。

紅葉賀・朱雀院ノ行幸ハ・神無月ノ十日アマリナリ。シガクヲ御前ニテセサセタマフ・源氏中將・青海波ヲゾマヒタマヒケル・入カタノ日カゲ・サヤカニサシタルニ・ガクノ聲マサリ・モノヽヲモシロキホドニ・ヲナジ舞ノ足フミ・世ニミエヌサマナリ・詠ナトシタマヘルハ・ソレヤ佛ノ御迦陵頻迦ノコエナラムトホコユ。詠ハテヽソテウチナホシタマヘルニ・マチトリタルカクノニキハシキニ・カホノ色アヒマサリテ・ツネヨリモヒカルトミエタマフ・墻代ナト・殿上人地下モ・心コトナリト・人ニヲモハレタルイウソクノカキリトヽノヘサセ給ヘリ・木タカキ紅葉ノカケニ・四十人ノカイシロ・イヒシラスフキ立タル物ノ音トモアヒタル・松風マコトノミ山ヲロシトキコエテ・吹マヨヒ・色々チリカフ木ノハノ中ヨリ・青海波ノカヽヤキイテタルサマ・イトヲソロシキマテミユ・カサシノ紅葉イトウチリスキテ・カホノニホヒニ・氣ホサレタル心チスレハ・ヲマヘナル・キクヲリテ左大將サシカヘ給フ。

同第十・村上御記云・管絃四德アリ・心ニ忍ヒ・手ニ携リ・口ニ唱ヘ・耳ニ聽・コレヲ四德トイフニシカレハ唱哥尤人ノスヘキコトナリト。云云

又云唱歌ニハ・皆以詞アリ・近來其習皆絕異ヌ・平調ノ品玄ノ末ノ詞ニユ由中ユ夕火ユ由六由下中中ㄓ六中五リ上由上九火干火口干リ・干リ・

此詞ハ蘭生（ソノフ）ニ出テ蒜（ヒル）取喰（ハム）ト云云 此說人ニカクスヘシ。當時人不知。

熊澤氏・集義外書・雅樂解曰・或云・今ノ樂ハ聖賢ノ樂ニアラス・上古ノ樂ハ・詩ヲウタヒテ・ソレニ管絃ヲ合タル者也・今ノ樂ノヤウニ・樂器ハカリニテハナキトノコトナリ云・五常樂ハ舜ノ樂也・太平樂ハ武王ノ樂ナリトイヘリ・ソノ外ニモ聖賢ノ樂アリトイヘトモ・御名ヲ失ヘリヽイニシヘハ・詩ヲウタヒソレニ八音ヲ合セタル者ナレトモ・其詩ヲハ傳ヘテ失之・聲バカリ殘リタリ・モロコシニテ孔子ノ時ニサヘ・三皇五帝三王ノ樂ノ聲アリテ・言葉ナクナリタリ・聖人ハ其聲ヲ聞テ・其心ヲ知給ヘリ・後世ノ人其心ヲ不知トイヘトモ糸竹ヲシラヘテ精神ヲ養ヒ・心思ヲ和スルノ益アリ・是故ニイニシヘヨリ。言葉ナキノ聲ヲ傳テ・樂ヲモテアソハリ・五青五行ノ聲ナリ・五臟ニ通シテ氣血ヲ順流ス・雅樂ノ音ハ・天地神明ニ通ス・五常樂ハ新樂也・或云太平樂ハ隨唐ノ遺音ナリトイヘリ云・古ノ傳ヲ失ヒテ是ヲ用ヒ・是ヲ傳タル時代ヲサシテ・其代ノ作トイヘル叓多之・中夏ノ書トテモ・秦火以後ノ說ハ證據ト成カタシ・此二ノ樂ヲ大舜武王トイヘルハ・ヨリ處アリ・但シ五常樂ハ急計・大舜ノ樂ニシテ・序破ハ失ヒテ後ニ作リカヘタルモノカ・五常樂ノ名モ後人ノ付タルナルヘシ・急ハカリハ慥ニ聖作ト見ヘテ・他ノ樂音トハ各別ナリ。

丹波並河良弼・問・寔錄ニ云・舞有レ辭・自レ漢始・既非レ古矣。而後歷代治レ之・製二其舞一必製二其辭一、本朝所レ傳亦然・如下和名鈔所レ謂二某曲有レ詠・某樂有二某曲一、源氏物語所レ謂中將舞二青海波一爲レ詠・其聲清絕如二迦陵頻之類一是其明證也・而今樂家悉失二唱曲之法一、亦不レ知二其歌辭一、今猶間有レ存二於典籍之間一者上至于遂日樂元惟有二鐘鼓絲竹之音一耳・未三始有二所レ謂辭一者一、豈不レ可レ惜哉・今取二其

歌、辭見ニ存者ハ錄ニ之於樂目之後ハ使三以テ知二舞一元有レ辭之不レ可レ疑云。

今按、和名抄・樂曲部一・案摩有レ囀・陵王有レ囀・催馬樂・我駒曲是也・狹鰭河・律澤田川曲是也・西州有レ詠・拾翠樂律歌有二伊勢海一曲是也・青海波有レ詠・採桑老有レ詠・地久即歌ニ櫻人有レ曲是也・如レ此ニ記テ・此外詠・叓、教訓抄ノ說ヨリ・甚スクナシ・且囀與レ詠其說オナシトイエトモ・和名ニヨルトキハ有レ違ニルニ似タリ・又體源抄ヲ考ルニ・神樂ノ鳥ハナキヌ也ニ・鶏鳴樂合フ・催馬樂ハ呂・律トモニ唱レ之・此樂ハ・安加己末・ヲ以テ序トシ・伊勢海ヲ以テ破トシ・竹川ヲ以テ急トス・高砂ハ・長生殿ノ破・夏引ハ夏引樂ノ音ブリ・青柳ハ・長生樂ノ序・伊勢海ハ・拾翠樂ニ合フ・老鼠ハ・林歌ニ合フ・呂哥ニ・櫻人ハ地久ニ合フ・狹鰭河ハ・澤田川ニ合・葦垣ハ西王樂同音・亦葦垣ヲ以テ序トシ・高山ヲ以テ破トス・美作ハ柳花苑ニ合・石川ハ石川樂ニ合・葛城ハ葛城樂ニ合・青馬ハ夏引樂ニ合・酒飲ハ・古徳樂ニ合・田中ハ・胡飲酒ノ破・眉止之女ハ・酒清子ニ合・無レ力蝦ハ・吉簡ニ合・此哥トモ・樂ニ合フト云トキハ・律哥二十五首・呂哥三十六首・都合六十一首ノ内・凡二十一首樂ニ合テ・其餘ハ合フト云コトキコエス・哥ヲウタヘルトイヘルハ・此二十一首ノコトナルヘシ・詩哥ヲウタヘルト云ハ・問・襄錄ニ出ストコロノ・我駒・澤田川・伊勢海・櫻人マテナリ・詩ハ破陣樂・後庭花・等也・然ハ此ノ催馬樂・六十一首ハ・詠ト別ノモノニテ・詠ハ樂スギテウタフナルヘシ・紛シキニヨリコヽニ記ス・詠ト哥ト詩ト・能オモヒワカツヘキ叓也。亦蘇羅密ハ・空見津ノ古語ニテ・大和ノ枕詞歟・垣破ハ・半

月ノ古語ニテ和名抄ニ所レ出ノ人歟。蘇志摩利ハ素戔烏ノ古事歟。此外此類追テ可レ考。信ニ絶果タルコト可レ惜矣。予レ茲右之説々ヲ拾テ俟ニ後哲ヲ。今體源抄ニ所レ出ノ神樂人長詞。振鉾詞。樂詠等ヲ以慫ニ集レ之而已。

又按、樂ニ合タル詩歌ハ、共ニウタヘルナルヘシ、然トモ、詩ハ四聲アリテ、歌ハ四聲ナケレハ、ソノ分チ不審シ、詠ハ詩ハサラナリ、歌バカリニテ、四聲ナシトイヘトモ、ソノ節ハカセステニ、催馬樂ノ譜ニ見タリ。今所集ルノ詠ニハ、詩ハ四聲ニ極リヌヘシ、又詩ニ似タル語アリ、歌アリ、イヅレニモ、一決シカタシ。又今琵琶法師、箏ニテ、富貴トイヘル歌。五常樂ニ合トイヒテ、ウタヘルコトアレトモ、可證コトナシ。又肥州佐賀ニ、朝譽トイヘル僧ノ、五常樂ヲ、箏ニテ合セタルヲキキ侍シコソ、目出度聞侍ヘリシ。又集義外書ニ、スガヾキノ一聲、河圖ノ數ニ叶ヘリ、一六二七三八四九五十是ナリ、此等少シカナフベカラン。

神樂作法

御前次第、十一月丁酉。賀茂臨時祭事。云云掃部寮儲ニ座ヲ於東庭ニ。主殿寮供ニ庭燎ヲ。人長云。音高。（鳴歟）（ナリ歟）

二度次ニ振二度次

今夕乃夜乃、御神能乃、人乃長佐、官位姓名懸利多。大江山乃（ヒエノ）（火平）大行事藉天（頬(イ)）懸利多。天下千秋萬歳可ニ持給物聞キ。

今按、大江山ハ、大比叡山之中比叡乎。又云、樓李曰、ハヒノ大江火江山乎。

多近方云、人長耦ニ稱ニ精ヲ、雅樂大江ノ由大行事ト云ハ、御前儀ニアラサル也、此詞在ニ山繡一云云

可レ尋レ之。同云。人長詞ニ我君千秋萬歲可ニ御座、御輿ノ長ト申ハ畏申詞ナリ。代代ハ物聞ト申也。（是ハ近衛ノ舍人二十二月ノ祭ヲ爲ニ[illegible]之[illegible]近衛舍人一[illegible]。人[illegible]中ニ[illegible]人[illegible]之[illegible]一・申ニ[illegible]一・令ニ[illegible]之也。[illegible]八人[illegible]）

爾宜大藏卿行丸撰述日吉神道祕記云・大行事社・高皇産靈尊・當昔・日神入ニ岩戸一・閉居之時・以

此尊神之謀・而集ニ八百萬神一・奏ニ神樂一玉・依レ此日神再出現也・中臣被曰、神魯岐者・當社御事也。

體源抄云、太神景範家記云、古語拾遺抄云、天鈿屋者。大和國神部云處也。作俳優（云）御琴（[illegible]）長（[illegible]）

（楾[illegible]・佐[illegible]）御歌（[illegible]）御笛（[illegible]）人長（[illegible]）唱ニ文釋一使ニ事配一侍一（[illegible]）

（[illegible]）普賢文釋者一乘法說給、相共歌吹舞乙（[illegible]）

（其驗）今神樂是也。

同第十二上・神樂ノ時ノ事・カントリノ明神ハ・鼓ノ役トシ・ヒルコノ明神・太笛ノ役ナリ。

鹿嶋ノ明神ハ韓神ノ役

若沖云・大和神部不レ見・和名葛（上下）城上・十一郡等ニ・神戸ト有之候ヘトモ・神名帳ニモ見ヘス。

振桙樣

今按・弘仁內裏式・七月七日・相撲式・左司先奏ニ厭舞ヲ訖。

江次第讀江牟武・松田氏曰、或厭桙止書止、今按・神代卷上・禁厭乎、末自奈比也牟留止讀里、然者

振レ桙（波）・厭（比爾天）、邪氣（乎）拂（比）、禁須（留）心（仁天）・振桙（止）書（天）・江牟武（止）讀（歟）。

三節亂聲謂之曰、傳ヲ初節者（供天）中節者（和天）後節者（祭先靈）謂之三節・左右各有禮義奏、初二後一鎭曲、（云云）或人、鎭桙云、先發亂聲、于時伶人首正禮節採鉾（爲左頭居右袖）至舞臺半鉾ヲ右ニ頭ヲ採直シテ成禮、初二後一禮（有三說）供祭神祇先靈之後共鎭詞云。

天長地久。政和世理　。王家太平。雅音成就

又曰

聖朝安穩政和世理　國家太平雅音成就

初二。後一。禮畢後。合桙時。鎭詞云、

一天雲殊靜。四海波尤澄。十雨不破塊。五風不鳴枝。天地和合禮。

五返振後桙崎持上地衎置時頌打留大鼓延立落居。

此鎭詞者・公家神社佛寺・諸家並恒例臨時共砌（云云）・聊可相替也、殊可受師說口傳也。

・輪臺　和名鈔・盤渉調曲・輪臺・青海波・（有詠）

太神景範云、輪臺大唐樂也、德譚作之。

二代御記云、左衛門督藤原賴忠朝臣・重光朝臣已下・廿餘人爲垣代、朱紫交雜・視聽催感

云云

詠（野田說）

千里萬里禮拜　我此西盤國信三郎
奉勅安邏鴻臚　尙侍金魚
聲歌　太良利知良利々良太利良利　打反尾
又說
燕子山裏食喰　共酌保桃美酒
莫賀鹽聲平廻　相抱聚踏輪臺
詠歌小野篁所作。已上輪臺詠、
又
桂阿殿迎初ウ歳　社阿盧義早阿
貞觀年
聲歌　知夜利乙太　打反尾
折阿花樹梅下　蝶阿燕
書梁邊
聲歌如レ先　已上靑海波ノ詩篁所レ作。長秋カ說
一說　辻說

千里萬里禮拜　我是西蕃國信・三郎
奉勅。安置・鴻臚　常賜金魚
燕〇山裏食散（子平）　共酌蒲桃美酒
莫嘉鹽聲平廻　相抱聚踏輪臺

唱歌

桂阿殿桂乘殿　桂阿天桂天

唱歌

相火盧美々　朝果年梅吹
長果年　果長果長美々

體源抄輪臺・垣代立樣・書古今条々七ケノ相違云・已上七ケ條違・勘長秋之笛譜近見當時之樂禮所辨・記古今兩說也・夫禮樂之道・沿革隨時、取捨之間・竊俟後賢耳。

今按・河海抄・紅葉賀註云・青海波。南宮譜云。此曲承和御時。大納言良峰安世朝臣承勅命此舞時依勅成盤渉調。（本平調）但小野篁作。

詠曰

桂殿迎初歳　桐樓媚早年

剪花梅樹下　　蝶鸎畫梁邊　已上河海

舞手向一方摸寄波引體也、云云大神景範青海波書七箇進曰。夫禮樂之道。沿革隨時取捨之、云云然則此詠亦隨時有違歟。

・採桑老（[illegible]）唐作・操桑子、其體老人携杖著紫淺袍・微々行身體如不堪。承暦之比・中宮大原野行啓ノ試樂ニ飛香舍ニテアリケルニ、多政資・採桑老詠之。時藤ニ係リテ・詠タル・當日ノ興モ甚シ・後代ノ勝事ト申傳タリ・如此振舞人ニシタカノヘキ事ナリ、

絲管抄通曲曰・因三州曲而依採老、三州歌者諸商客數由巴陵三江口往還因其依此歌一子傳云、採桑老・日出禮舞也・人ノ賀ヲヲコナハル、時ノ風性ナリ。老體ナレハ拍子モツネノ舞立ヨリモシヅカナルヘシ。

松田氏曰。採桑三州曲。唐禮樂志入舊曲中・南宋樂也。文獻通考曰。常林歡宋梁間曲也。三州商人歌也。採桑三州曲所出也、止比教坊記、曲名之中・有采桑（異三州）

詠

三十情方盛　　四十氣力微　　五十至衰老

六十行歩宜　　七十枝頭（項（イ））榮　　八十座魏々

九十得重病　　百歳死無疑

一說

三十性方靜　四十氣力靡　五十始衰老

六十行步倚　七十鬢毛白　八十座魏々

殘九十百ヲハ不レ詠。イマウユヘト云。

・陵王 和名鈔沙陀調有二曲陵王一舞

通典云、大面出二於北齊一、蘭陵王長恭才武ニシテ而貌美、常著二假面一以對レ敵、嘗周師金墉城下ニテ勇冠二三軍一、壯レ之爲二此舞一以效二其指麾擊刺之容一、謂二之蘭陵王入陣曲一。

尾張濱主云、高野天皇例好二此曲一仍奏二御前一、還入時又吹二沙陀調一入時有レ勅以二案摩一爲二入音聲一、此レ古老所レ傳也。

續教訓抄云、轉三度 昔七度アリケレトモ、今世ニハ用ズ・三度舞・手ノ舞事・狛光時之流ノ外他舞人不レ知レ之。

其詞云、即向二四方一舞レ之、殊八方荒序時用レ之濱主傳也。

一說云、

吾罰胡人　古見如來　我國守護　翻日爲樂

一說云

我等胡人　許還城樂初度石於蹈テ泥ノ如ク

第二度光則說・當時用之

一說云

我等胡兒、吐氣如雷、初度、我採頂雷、踏石如泥 光近說

古記曰、左馬屬大友成道ト云ケル舞人・究竟陵王舞也、時人生陵王トナン申ケル、作舞人關東ヘ下向ノ時・常陸國鹿嶋宮ニシテ・陵王ヲ舞ケルニ・其國ノ書生ナリケル翁・此舞ヲミテ申ケル様ナル陵王ヲ見事始ナリ、但物語ニシツタヘテ侍ハ・陵王ハ一躍一千里ヲカケリ・石ヲ踏ハ泥ノ如シ・吐氣ハ雷如ナリ・小龍ヲヒタイノシハニ・タタミトヽメントスル・物ニテコソ侍ルナルニ・今ノ陵王ハ・蜻蛉返髮取手・コトノ外ニ・又ミユルモノカナト。云云

續教訓抄云、巻數不知 陵王イカメシク・又ヤサシク・又サムケナルスカタアル所アルヘシ。常ニカイツシテ・面ヲアケ々々トハミセスシテ・ニハカニミセテ・又カクルヽヤウニ舞タルカ・イミシキナリ。石ヲ踏コト泥ノコトシト云ヘル・詠ノ詞ヲ心ウヘキナリ。

體源十二上・陵王・荅舞納蘇利・延喜四年甲子・三月廿四日・於内裏有舞、大納言國經朝臣・之子舞納蘇利・大臣奏此兩童舞急被聽昇殿勅依請、云云 先亂聲・次吹亂序八度數無定、舞良久舞畢、後有轉七度今世用三度云云

間裏錄云、羅陵王 三ノ長・調

詞 恨春

捲珠箔朝雨輕・陰乍閣欄干外・烟柳弄晴芳草・倚堦映紅藥束・風・如許惡吹落・梢頭嫩蕚屛山・掩沉水倦薰中・酒心情怕盃句・○尋思舊京洛正年少疎狂歌笑迷著障泥油壁・催梳掠曾馳道・同載上林攜手・燈夜初過早共・約又爭信飄泊・○寂莫念行樂・任粉淡衣襟・音斷絃索瓊・枝壁月春如・昨悵別後華・表那回雙鶴・相思前事夢・魂裡暫忘却。

・案摩（和名抄・沙陀調、曲・案摩、轉）有承和御時。大戸清上奉勅作曰。古老語曰。更非新製改直其詞許也。轉詞合テ。天竺ヨリ渡事。普合シテ目出侍ナリ。

體源第十二上・明德五年・常樂會日記云・案摩面六十枚・并插頭花（左櫻右疑冬）送樂屋云云

轉三度（略時二度・皆七度アリケレドモ・今ハ不用之）

初音聲 本出何所。一

音聲本出南天竺國佛家種子阿修羅等所作伎樂

音聲娛樂佛娛樂貴人之所賦安摩。三

一舞是地祇土神入醉狂舞乙姿也。

體源第九・案摩又鷲ノ羽ニアマノ面ト申テ・羽カタニイタシタルハ・全體雀ノカホニ似タリ・海人ノ面ニアラス、不可有外見段也。案ノ字心相叶歟、摩ノ字ハナツルトヨム、又トルトモアリ、猶有口傳、朱書二、案摩ト一舞トハ各別ノ舞ナリ。

詠ニ曰

日ハバムケイニナリニタリ。我カユクサキハハルカナリ。

（琵景）詠シテ桴ヲ振ナリ。二人手ヲトリクミテ、一人ハ立テバ。一人ハ居ル。三度スル時ニ樂止了謂ニ之囀（サヘツリ）ト一教訓

抄

私云、史記・伍子胥列傳曰。伍子胥求ニ昭王ヲ一既ニ不レ得。仍テ掘テ楚平王ノ墓ヲ一出シテニ其尸ヲ一鞭コトレ之三百。○申包○曰。子之報ルコトレ讎其以甚キカナ乎○伍子胥曰。吾日暮レ途遠シ。吾故ニ倒マニ行テ而逆ニ施ストレ之。云云

・鳥（和名鈔・道調ノ曲・聖明樂）或云、聖明樂・異名勢明樂・又醉卿日月云、太常樂・或又本朝樂ト云、有ニ其詠一其詞ニ

云

由ニ彼向ニ陶門一　眼晴皆與ニ青シ　一帖

繁株春色好　泰階天下平　二帖

稽黎皆昔土　武勇又文明　三帖

紅欄景氣烈　朱旃客輝明（容乎 晴（イ））　四帖

（聲同）膀膀千里響（普（イ））　股肱四海聲　五帖

春調席煩業　秋唱入從城（昌（イ） 佳（イ））　六帖

二漢退瀉德（鴻同）　綿々詠歌英　七帖

體源 加陵頻、古樂中曲有舞、又一名鳥。

聞書錄ニ云、

聖明樂、劉禹錫

玉帛殊方至（コリル）歌鐘比屋聞。華夷今ニ一貫。同賀ニ聖明君ニ。海浪。恬ニ丹徼ノ一邊塵靖ニ黑山ヲ一從レ今萬里ノ外（晴乎）不復鎖蕭關、九陌祥烟合シ千春瑞月明ナリ。宮華將ニ花柳ニ先發鳳凰城。

一子傳云、鳥ハ迦陵頻トアレハ淨土ノ樂ナリ、心チツケテ・苦空無我ノ調アレハ・ヨロコヒテ吹ヘシ、コレハ一越調ノ樂也、ワタシ吹ナレハ同事歟。

通典云、隋文帝開皇六年商昌（天竺國ノ名）獻聖明樂曲。帝令知音者於館所聽之歸而肆習、

・菩薩（和名鈔陀調ノ曲・菩薩）

古抄云、菩薩・序破之間。有詠（大和國橘寺ニ留此說）

橘寺說

南無十方世界。諸佛如來供養。十種伎樂舞。法會成就大菩薩衆　是季長法師說

合掌詠　其詞曰

南無佛法僧禮拜　南無極樂會同聞衆拜

是舞人能貞說也。

杜陽雜編（種季云）、大中初。女蠻國。貢雙龍犀。有一龍。鱗鬣爪角悉備。明霞錦雲。鍊水香麻。以爲色。光暉映曜。芬馥著人。五色相間。而美於中華錦。其國人。危髻金冠。頭終被體。故謂之菩薩蠻。當時倡優。遂製菩薩蠻曲。文士亦往々聲其詞。傳於樂部矣。

百川學海可話（同）。樂府有菩薩蠻。不知何物。在廣中。見呼蕃婦爲菩薩蠻方識之矣。

松田氏曰、菩薩宋樂也、通考曰、菩薩獻香花隊衣生色窄砌衣戴寶冠執香花盤 止此　教坊記

有菩薩蠻至床亦有。

信義記曰 河南浦作鯉舞、

・河南浦 和名鈔、萬鏡調曲・河南浦 此曲、承和大嘗會、尾張連濱主作之、從之中傳タリ。或書云、海濱人舞、今此曲尤故アリ。云云

玄北皇辰北天道 朱南日月賀會場
八嶋新器鎮萬歳 白生无相屬大嘗

一子傳云、河南浦ハ、鯉ヲ切樂ニテ、殊更ユヘモロ傳モ有、ヨク習テ吹ヘシ。

體源鈔八云、奏河南浦音聲則作魚、加拍子テ、今在此寺ニ蓼摺一人舞、著二舞面咲面也 蓼摺ト云

ハ・鯉ヲ切テ、膾ニ作テ食由之咲、蓼摺體ナスルナリ

・泛龍舟 和名鈔、水調ノ曲、汎龍舟 童舞

松田氏曰、泛龍舟或作汎龍舟、泛汎同シ、ノ煬帝樂也、通ニ曰、煬帝幸江都宮所作。

詠云

稽首無上諸善逝、妙法一乘無二曲、開示悟入佛知見、三乘三望法善士、供養香花及音聲、
以此微妙殊勝舟、乘大牛車出三界、不入化城到寶所・願共衆生速成佛

統秋云、近來此詠スルコトナケレトモ、日出度文ニテ侍ハ注之、則此詠ヲ吹之。

一子傳云、泛龍舟詞經文ナリ、殊勝ノ樂也、コレヲ吹ハ、ス丶シキ風南ヨリ來トシルセリ。

閑窓錄云
泛龍舟 隋煬帝

舳艫千里泛ニ歸舟一。言旋舊鎮下ニ揚州一。借問揚州在ニ何處一。淮南江北海西頭。六轡聊停御ニ百丈一。暫罷開山歌ニ棹謳。詎似江東掌間地。獨自稱言鑑裏遊。

・三臺 今按無ニ此詠一、體源ニ、三臺鹽ト云、聲ノ字、有ニ口傳一

躰源抄第一、大神景範記云、三臺亦名ニ天壽樂一有レ轉、近來絶畢、此曲唐國乃物ナリ。醉鄕日月曰、高宗后則天皇后所レ造。

間裏錄ニ云、三臺鹽、後漢書曰。蔡邕爲ニ侍御史一、又轉ニ持書侍御史一遷ニ尚書一、三日之間、周ニ歴三臺一。馮鑑續事始曰。樂府以下邕曉ニ音律一、製ニ三臺曲一、以悅ニ邕希ニ其厚意一。章氏藻林曰。三臺魏武帝所レ築在レ鄴。前臺名ニ銅雀一、中臺名ニ水井一、後臺名ニ金虎一。醉鄕日月曰。三臺曲、唐則天后所レ作。文獻通考曰、宋太宗時、百官飲、作ニ三臺曲一。按三臺有ニ二義一。據ニ後漢書一則爲ニ臺省之臺一、據ニ藻林一則爲ニ臺觀之臺一。恐以ニ臺省之義一爲レ之、又作ニ此曲一者三。漢也、唐也、宋也、而本朝所レ傳多ニ唐樂一、則今所レ傳者恐則天作。

三臺詞　　韋應物

一年々々老去。明日後日花開。未レ報ニ長安平定一。萬國豈得レ銜レ盃。

冰泮寒塘始綠。雨餘百草皆生。朝來門閣無レ事。晩下高齋有レ情 以上出于萬首唐絶

五常樂 和名鈔、道調ノ曲、五聖樂在ニ平調ニ　又五聖樂。

一子傳云、五常樂急ハ、樂始ニ吹樂ナリ。五常禮義此樂ヲ以スル間、五音ノ本性ソノ心又自餘ニ不レ

可混樂ナリ。

鉢源云名禮義樂、或譜云。太食調曲有詠。

唐太宗朝、貞觀末天觀初、帝製五常樂曲圖、五常公作之或記云、仁義禮智信謂之五常、々々者人可常行者也、五常卽配五音、此曲能備五音之和詠詞。

又云、禮儀公所作也、或云秦始皇作之、云云又云、此急聖德太子尺八ニテ吹セ給フ。仍御作云云。

續教訓抄云、五常樂　詠詞、云

端譜。一賦賀弘。二反

初度次破詞二拍子吹之〇次舞人詠

報恩者欲疑上

第二度・次破・三拍子吹之・次舞人詠

詠寬寶連疑　輔賦賀鴻仁　天寬五常樂

一說云、妙音院御說云、序次詠

歎聖音萬感(芳イ)　報恩志欲申　第二度

次奏破・三拍子・樂拍子・次又詠

詠願禱寶曆　率儛賀弘仁　天觀五常樂　或

天觀五聖樂（或觀祝）

一説云、序後詠云（或云、序二反後、舞人詠）

嘆聖音芳感　報恩志欲申　詠願禱寶曆

牽舞賀弘仁

又次詠云

天祝五聖樂　崇恩北極辰（賀（イ））　可憐家恩舞（衆鳥）

音響動梁塵（歌（イ））

次又詠

天祝五聖樂　玉燭開天道　弘仁發聖君

舞尋三古曲（無（イ）五（イ））（或右左）

又次詠（雲カ）

歌尅（對（イ））七仙靈（儛（イ）雲（イ）五（イ））（堂（イ））　天祝五聖樂

又説云、歌云

歎聖音方盛　々々々々々（返二）　報恩志欲申

詠願禱寶曆　牽儛歌弘仁　天冠五常樂

齊法南壽山　ゝゝゝゝ：　崇恩北極辰
恂恰衆鳥舞　可嚮動梁塵　天冠五常樂
玉燭開天道　ゝゝゝゝゝ　共年發聖君
舞等三寺曲　歌對一乘雲（七カ）　大冠五常樂
用使道能諳云、序二返之後、舞人詠曰
歎聖音芳感
次吹破一果・次詠曰
報恩志欲申
次又樂一果次・又詠
詠願禱寶曆
次又樂一果・次詠曰
奉舞賀弘仁
次五聖樂舞一返・次詠曰
崇恩北極辰
次樂一果如前　次詠曰

可憐衆鳥舞

次樂一巣 如前 次詠曰

歌響動梁塵　天祝五常樂

次舞一返、次詠曰

玉燭開天道

次樂一巣 如前・次詠曰

弘仁發聖君

次吹樂一巣・如前 次詠曰

舞尋三古曲 ○對（歌カ）七○雲（乗カ）・天祝五常樂

次舞三帖、次急一返之後・打三度拍子・舞人終為期云々

博雅三位譜曰、但二帖詠、三帖、四帖、詠、或譜云、

淨瑠理之・寶之城・近（加良）介、法之儀・臨給（戸里）

七種・淨土乃粧・直見・國家毛今日曾榮（介良）

同詠。句頭二十返 一句終 大返五常樂、年號川當時。

歎佛音芳感 二三返

或云

淨瑠理之、寶之城、近牟加良法之儀、臨給戶里

又云

七寶之、淨土之粧、引直ス見由、國家モ法モ、今ソ榮由ル　續教訓抄第四ノ末歟。

躰源第六・五常樂三度

乞由一。凡由ュ一引由乞・一二一由引乞・一引・凡ュ一引・已上三度

下十引由一由下十引・下二・十由下・乙由凡・乙二・十由下・乙由凡二・十下乙二已上一度

同秘說

乞由一・凡由ユ・一引乞・一引・以下同

下十由一由下十・引・已上常ヘ、拍子打レ之。

以二此說一爲二祕中祕事一、行高之流人不レ知レ之、師說云、

此詠三度ヲ各別ニ打替也。

躰源景範記、五常樂急ハ・七歲ニテ笙始ニ吹樂也。誰モ能手ナレタレトモ。故治秋ハ此樂ヨク吹タル人無レ之、我モ大事ナリト云テ・常ニ吹カレシカ・常ノ拍子ニモ不替アリシ・能々傳テ後キ、侍ハ大ニ替也。

・賀王恩　無名抄

五常樂譜、所見是而已外ニ有ル乎。可尋。

續教訓抄舞條下云、加王恩・又感皇恩・此曲者嵯峨天皇御時、大石峯良所ㇾ作也。皇恩ヲ賀スル心ニ謂ㇾ之、仍妙音院禪閤者・土作國流罪ノ後、被ニ召返一給時歟、於ニ御前一御琵琶仕給ケルニ、令ㇾ彈ニ當曲一、云云 古記曰有ㇾ詠。云云 此無ㇾ詠

・甘州 和名鈔、平調曲、甘州有ㇾ詠。 又云作ニ泔州一。又名ニ甘洲樂一或甘州樂 或甘州鹽、亦名ニ衍臺一、有ㇾ詠近來不ㇾ用ㇾ之。

五代史記・梁本記曰、唐玄宗名衍。嘗與ニ大后大妃一遊ニ靑城山一。宮人衣服皆畫ニ雲霞一、飄然望ㇾ之若ㇾ仙。衍。自征ニ甘州曲一、述ニ其仙狀上ニ下山谷一衍・常自ㇾ歌。而使ニ宮人一皆和ㇾ之。

南宮譜云。三反之後詠。博雅三位譜云。三帖之後詠。四帖之後詠。有ㇾ詠其詞曰。但近來、絶了。

三帖後

燕路波山遠（邇(イ)遼(イ)）　胡關易水寒

范々風飆動（蒸(イ)漆(イ)）サウトウ　澮々陽候閑（檜(イ)）クワイクヤウコウカン

四帖後

殘月蘆江白　老花芮岸舟（菊(イ)黃(イ)）

行驚晚落冷（曖(イ)露(イ)）レイ　桑落暮執闌（寒(イ)擱(已上一說)）ラン

又云、今按、醉鄕日月ニ云、樂之精、莫ㇾ過ニ玄宗朝一。然者玄宗作尤、可ㇾ取ㇾ信歟。又玄宗既知ニ音律一又酷愛ニ法曲一。

松田道格曰。凉州。甘州。皆唐玄宗樂也。通考曰。天寶樂曲皆以邊地名之、夾漈鄭氏曰。按今樂、有伊州涼州渭州之類比西地也。止此　西清詩話引西域記曰。龜茲國王與臣庶知樂者、於泰山間、聽風聽水之聲、均節成音、後翻入中國、如伊州凉州甘州、皆龜茲境也。

問裏錄云　　　　崔國輔

甘州樂苑曰。羽調曲也

亭々孤日照行舟。寂々長江萬里流。鄉國不知何處是。雲山漫々使人愁

同　　　　張說

欲使傳消息。空書意不任。寄君明月鏡。偏照故人心。楊柳千尋色。桃花一苑芳。風吹入羅程。只有惹衣香

・還城樂　和名抄　乞食調ノ曲。還城樂

陵王ヲアヤブメムトス、日ノクル、搔シテ、日ヲムマニ。カヘス。（トニ事也クハシクハシラス、源氏與人齊卷）

續教訓鈔、囀三度

阿虵具　虵我兹　等逵去果。（制乎劍熾景善）剡敵若剡　早禮薩波　落蛇樂　顏愼漢曲　瓻蛇樂

河海抄云、淮南子曰、魯陽公與韓構難戰酣日暮、陽援（探イ）戈而招之、日爲之反（麾イ）（退イ已上韻府ルコト）三舍（舍ハサホノタケナリ）又史記云、魯陽以戈廻落日、又還城樂陵王ヲアヤフメントスル、日ノクル、ニ撥シテ日ヲ午ニカキカヘストイヘリ

陵王隨舞吹囀云、我等胡兒•吐氣如雷•我採頂(イ)雷•踏石(イ)履如泥、左(イ)右得力(イ)得(イ)士刀•後鞭廻日光西沒東

若月舞樂打去(云(イ)之(イ))緣也•長曲（私云ヲ羅陵王詩混成樂歟）

•師子（和名抄云）松田氏曰、通考、唐太平樂、亦謂之五方師子舞、

（續教訓抄）武將太平樂有面、中曲新樂、又、武昌樂、或號巾舞、又謂項莊鴻門曲•常太平樂ト云•通典曰、

又謂之五方師子舞、師子執干獸出於西南夷、天竺師子等國綴毛爲衣象、俛仰馴狎、容、二人持繩拂、爲習弄之狀、五方師子各依其方色、百四十人、歌太平樂舞、并以從之、服飾皆畫

爲象（云云）或云、公莫舞也、項莊持劍舞•項伯以袖隔之、使不得害高帝（云云）躰源十三、代々師子

日記云、建保二年二月、（云云）先召左樂行事可舞師子之由、奉勅仰樂屋、于時政氏自樂屋進

出庭中（着甲袍尻引）中半許ニ立テ甲ヲヌキテ、腰ニ付テエホシヲ引立テ、吹古樂亂聲、其時ニ左師子ヲ

キテ登舞臺ノ上、四ノ角ヲ拜シテ、正面ニ廻立テ拜一度之後、止亂聲、古ハコヽニ有詠、次樂吹、師子

舞、終後ニ、又着甲樂屋還入畢（云云）此詠所見

•貴德　問褰鈔ニ云、歸德侯（侯或作候、一樂書曰、又名貴德、今按歸德、高麗ノ地名•在鴨綠江ノ西）

漢書曰神對中•內奴日、（私云年號前漢宣帝時有神爵年號ノ誤歟）遂壬先賢撣欲降漢、使人相聞、遂詣京師漢對曰、遂爲歸德侯、用鯉口潘

子（着面也）先欲舞出時吹亂聲、執桙立桙之間作法（大旨如散手也）桙立之後、在鎮詞、其詞曰

鯉口吐氣　嘯（ウソフク）萬歲政　天下太平　世和世理

此詞ヲ詠テ後、退左右腰ヲ突テ見棒、末ハ此鎮詞近來不詠、今世舞人不知如何

・胡德　面色赤也、酒ニ醉タル色ナリ、平子胡童樂、小曲遍鼻・胡德謂之

此曲本是、横笛ノ樂ナリシヲ、承和御時、依勅爲、高麗笛常世改作之、唐笛譜ニハ、此曲序一帖、呂備馬ノ酒飲合・赤キ面ノ鼻ユルガザルハ・著一者也。多忠節説・酒飲ト云歌ハ雜ナリ、詞ニ云

サケヲタウベテ、タベエウテ、タフドコリンゾヤ・マウデクル・ヨロホヒマウデクル・タンヨリナ、タンナタリヤ・ランナタリ・チリラ（笛ノ詞ト云）

此舞輪造、舞人遠肘（スチカエ）ヲ打廻ナリ、皆舞臺居、次左方ヨリ出勸盃、著面出（クリヲ）、間有二説、一説者、持盃筋替ヲ打テ寄也、一説者、盃ヲ懐中シテ、筋替ヲ打テ、寄居ル、古記云カヒナヅカヒ、（オモゾカヒ）クヒモチ、足踏歪他舞不似ナリ、偏醉人ト舞成ナリ、天王寺ニハ、方ヲタカヘテ、アチコチ、マトヒ、アリクト申メリ、其モアマリニ侍ル。

・柳花苑　或柳花鹽樂

和名鈔。雙調曲。柳花苑。或譜云。延暦年遣唐舞生。久禮貞茂傳之、即勅内教坊奏之。初以大食調有此曲、承和天皇勅雙調奏之。

大神景範記云。本者柳花怨云。而天暦内宴之日。有儀定被改苑字、苑字定置。云云　昔ハ此曲舞アリケレトモ絶テ久クナリ侍。南宋笛譜云。一二帖、三帖、次有詠・四帖・五帖・六帖・次有詠　云云

詠曰

後園(苑(イ)・去(イ))桃花正芳菲　芳菲正是忘愁時(續教訓抄・姿(イ)同)　昨夜新州昭陽殿　更勿非情形畫眉

玉門(イ)主開春色晩(續教訓・悦予)　金河路幾千(花同)　琴悲桂條上　竹怨柳花前

・庶人三臺(和名鈔、道調曲、庶人三臺)　古記云。舞出自樂屋時。其長甚短。漸進臺上時。其長隨長承明門懸居。舞畢。入時如本漸減云云　幼主之時。被停止畢。子細見一條院御記。作者不見之。其舞名阿良良木。女房躰云云　有詠

詠云

アーラーラーキノ(蘭)　スヱニハナサク(末花咲)　コトシバカリハ(今歳許)　カゼナフカセソ(風勿令吹)　安良々木ハ　カフチハカリニ　キテ(來而)　ネヌレハ(寢畢)　コヽロカウハシ(心馥)

和名鈔、蘭、唐居(?)、本草注云、澤蘭一(和名佐波阿良良木、一云阿加末久佐、)生澤傍、故以名之、今案記其蘭一莖(アララギト)

・陪臚破陣樂(別樣ノ舞。太一臣(?)舞之古樂)　斑朗德所作也(是天竺ノ樂)　而大國至精(淸(イ))舍曰。於陣內奏此曲知死生。此樂七返之時。有舍毛音。我陣即勝。怨陣即破。若我陣无此音自陣破。怨陣則勝云。(此ノ舍毛音何事哉。可尋之。古目錄云)

陪臚道行云。住僧寺(天王)說云。毎句可頻打上拍子有唱歌　同志可同是也。又八多羅拍子云。

今按、同志可同・詠乎。

推之。招提寺倍呂走。トウシカトウカトウノ皷音也云

・相夫戀(和名鈔、平調曲、相夫憐)　又想夫憐　有詠

元愼集春詞云

今按、元愼・詠乎、可尋

郢同向來彈畢曲皆人不道　又云。執レ笛奏二此曲一。ヘシ。又云。相府蓮

種季云　相府蓮笛曲名。國史補曰。于司空頔。以二樂笛一曲有二想夫憐一。其名不レ雅。將レ易レ之。答曰。

南朝相府。因二瑞蓮一製レ曲。號二相府蓮一。語轉訛如レ此　正字通

一作二想夫一 [illegible]

聞蘘錄云 [illegible]

相夫憐　　白居易

夜聞鄰婦泣　切々有二餘悲一　郎問緣二何事一。征人戰骨廻　骨一ニ作レ未　出二于文集一

△郢曲

奥書云。右以二永德永享等嘉例一註レ之。又云。右當家説雖レ禁二外見一。依レ爲二郢曲門弟一。書二一一

郢曲者[illegible]内、給[illegible]
[illegible]
たた古今累代乃政・勞家に
樣々別れて、五節の勝一曾
は、此代の始の儀式とか、
[illegible]は・[illegible]
座へそ御幸なる。進て昇
し梵分無道も通れき、
廻立殿の行幸に、冴る夜の
月[illegible]
ん、[illegible]
主基の節會には・あの召
の内[illegible]
さ[illegible]の末々[illegible]
の御明の程かとよ、[illegible]
の御神樂に、雲の上人
取々に[illegible]
さ、面白さや聞し、[illegible]
の莊は、雲を重る竹の葉に、
霜月の比そかし。火燈す
なとにも[illegible]ぬれに藏人所
の小舍人を聲々呼て忿た
る。其夜は[illegible]に、舞
姫共に參める。常寧殿の西
裏、皇后徽殿の細殿の前を
は過て、登花殿、玄暉門の裏
より、貞觀殿の北裏の、
妻戸の砌にたくすめは、宣
耀殿の北の廂主ハ忍て御覽
有えならぬ待の道なれとあ
の衣被共拂はせて、汗衫
の裔と下仕、袖を引てや扶
持すなる、常寧殿の帳臺の
今夜の試念とて后町より參

なる、[illegible]の番し[illegible]人さ・
皆其夜に[illegible]の日は[illegible]
殿上の、[illegible]・今
月[illegible]・[illegible]
未央・[illegible]山の五[illegible]
松・筑摩の陰め樣[illegible]・南[illegible]
北枝の梅の光・開る色も異
ならん・さて今は[illegible]
氣高く聞る音の音・北の[illegible]を
渡つゝ、渡殿を經てや廻ら
ん、朔餉より色々に刷重

る[illegible]・勝言しらすや見つ
らん、[illegible]の推參に、[illegible]
の律をそはやすなる、
同末(同前)
さても日出かりしは・後の
[illegible]野の道ある御代の・
[illegible]の事かとよ、大宮
參の大納言・權大納言其外
も、推て上りし宮司・時め
き[illegible]し侍・類は久もあるか
し、宮の御前の置櫛は・染
分擇櫛動櫛・衣櫛に差

緒櫛・いさ立なんやと計
の[illegible]くは[illegible]
し[illegible]・[illegible]にそ[illegible]に
ける。卯の日は興有祖の、
[illegible]御覽そ始れる、仁壽殿よ
り[illegible]の戸の、上の御局の程
とかや、假橋渡て簀の子よ
り、清涼殿の[illegible]・過る乙
女の袖の色・其容貌も隱無
・透扇をそ挿頭ける、雲
の通路暫共・心に誰かは[illegible]

さら[illegible]、[illegible]圖なそしたな
ける、五節の[illegible]今日の
[illegible]・[illegible]時の上[illegible]・
[illegible]る色なる[illegible]に・[illegible]小
忌の袖の青摺取々に、露
[illegible]の[illegible]舞も[illegible]ぬれは・白
薄樣小[illegible]紙の紙・卷揚
の筆・[illegible]たる筆の軸・
故々[illegible]覺る・[illegible]の[illegible]
の下にてそ・藏人の頭はや

すなる、[illegible]高く[illegible]人
侍、其[illegible]に[illegible]開らん、[illegible]
女の[illegible]・[illegible]る程に
そ人御は[illegible]、清見原の古へ
[illegible]野の[illegible]に、[illegible]し
[illegible]の[illegible]・心引てや
久方の・天[illegible]乙女の
薄衣五度[illegible]し袖・是
そ五節の始なる

覽之處、剩被透寫者也。於末代正本可爲明鏡歟。永正十一年六月一日按察使俊量判。云云今按、文選晉宋玉對楚王問曰云。客歌於郢中、始曰下里巴人、屬而和者數千人。爲陽阿薤露、和者數百人。爲陽春白雪、和者數十人。引商刻羽、雜以流徵、和者數人。其曲彌高、其和彌寡。

○五節間郢曲事

[illegible]源抄云、打毬[illegible]皇年中行事[illegible]、五節の舞マイル[illegible]人ノ内、一人ハマイリノ後ニアリ、其外ハウチノマイスヲハ曉ノ宴トイフ、三十宴ニ、ノホリテ、帳臺ニアリ、ニノ帳臺ニテハシマスホト・ビンタ、ラナトウタフ、大嘗小哥、ナト云コトアリ。

今昔物語
そのつくりたる歌には鬢たゝらはゑかせばこそおかせばこそ愛敬つきたれ此鬢たゝらといふは守の主の鬢の落たる也。

一 丑日帳臺出御

○帳臺試事。於子午廊上南有后町廊、亂舞・大歌・了。阿音三反。鬢多多良三反比牟多多良乎。阿由加世婆古會。由加勢婆古曾阿支也宇川以多禮。也禮古止宇止宇

鬢ニ早鬢多多良一 相乎於替也 五反・七反 萬歲樂 白下鶴 亂舞

一 寅日叙位之儀

○殿上淵醉事 令月三反

嘉辰令月歡無極萬歲千秋樂未央

此ノ句必ズ三反可レ之、初反令月句ヨリ第二反嘉辰句第三反[illegible]極ヨリ[illegible]作[illegible]之時・[illegible]二[illegible]

德是北辰、椿葉之影再改、尊猶南面、松花之色十廻二反

○今樣

靈世光美也。萬乃五江宇萬津。知久葉奈里止。曾比止波以不。和禮毛美留。知久葉奈里止毛。
裒里毛天古禰也乃。加左志仁萬呂佐左牟
萬歳樂　自二不一鶴一亂舞
一於二准后御休盧一推參事
○思之津　五反
於毛比乃津爾。舟能與禮加之。星乃萬幾禮爾。裒之天萬以良宇。也禮。古止宇止宇トウタフ時ハ。トハトウト詠也。五反ノ說有レ之
ヤレトハ。ヨビイダスコト葉。子ハ。ソノ人ヲサス歟。トントハ。富ツ也。トツ。五音相通也
○令月三反　新豐二反
新豐ノ酒ノ色ハ鸚鵡盃ノ裏ニ清冷タリ、長樂ノ歌聲ハ鳳凰管ノ中ニ幽咽ス
○蓬萊山一反
蓬萊山仁波。千止世不留。萬歳千秋・可左奈禮里・松乃枝仁波。津留須久比。以波保加曾波
爾波。加女阿曾不
萬歳樂　自二下鶴一進　御前一亂舞
物云舞

1 五葉松、清少納言云 [illegible] チクハ弁内侍日記ノ哥次下ニアリ
○五江宇萬津、付言云、[illegible]
五鬣 [illegible] 在人門 [illegible]
松有五鬣七鬣（酉陽雜俎）[illegible]
[illegible] 雅有 [illegible] 五 [illegible] 詩
同云 [illegible] 松五
[illegible] 一名 [illegible] 鬣 [illegible] 口氏
2 昇ノマキレ誤上ニ [illegible] アリ誤 [illegible] リテ [illegible] ルニヤ [illegible] 口氏
3 弁内侍日記云、建長二年正月三日 [illegible]
[illegible]
4 後醍醐天皇年中行事 [illegible] 殿上の淵醉 [illegible] 十リ、三日
詠ハ今樣ナドウタヒテ、
コンハテ、亂舞アリ、
[illegible] 曲ノトモカラヲシテ、イ
シテマイランナトウタフ
公事根源同

1後拾遺賀、後冷泉院御時大嘗會御屏風、近江國龜岡、松樹多生、萬代ニ千代ノカサネテミユルカナ龜ノ岡ナル松ノミトリニ、式部大輔資業、宗際卿千代フヘキノ龜ノ岡ナル小濱原ウレシキフシノ岡シケルキ比哉。

2盛花子葉

3急居ノ説居ト通スル、ユヱヲ不レ知、若シキウノ反イトモキトモ反レハキニテツヰナルヘシ。急トヨムハツイノ下略歟。方ツイト云コトヲツトミ往古云シ例可若。亦立天トカケドモ川井太夫天トカケルヲ見レハ、立天トアルモタテトヨムヘシ。然ラハ急居立天ト讀ヘシ。全クヨマバツヰタチテ也。

津井津爲　津以ニハアラヌ歟。殘ソ同韻ニテ通ズルハ大抵リナリ。

津津居　兵範記

崇神紀云、急居(急居此ニ云三兎岐于)コレハ大倭迹々日百襲姫命ト申ガ、立テオハシケルガ、物ニオソレテ、心ナラズ・トミニヰ々マヘルヲ、カクハイヘリ、ウ、ツホ物語ニ、宮ノソイナラビタマヘバトイヒ、平家物語ノ六代ナドニ、ツイヰテ、カキ、常ニモツイ・ヌル・ツイクルナド云ハ、急ノ字ヲ兎岐ト云ヲ、岐ヲ伊ニ同韻ニテ、カヨハシテイソニヤ、何ニツケテモ、ツイトハ、スミヤカナルニイヘリ、江次第、十二月内侍所御神樂次第云、人長起、行事先鳴高、次仰主殿寮御火白奉仕、キヌカツキ並内侍日記云

一千世爾萬代加左奈留波。鶴乃先禮爲留龜乎加

一椿乃加介波八千止世松花乃色波十加戸里

一美留爾女天多支花乃色。千止世能松爾不留雪

一豐年能志留之波。尺爾美知天不留雪

一年乃内爾佐久梅。紅爾保比乃宇須由支

一比加介乃絲爾无須保々禮。乎美能袖爾於久霜

一御萬戸乃池能鴨止里。宇波毛能霜乃志呂左與

一津爲立天美多禮波。御階乃月能阿加左與

一川井太天美多禮波。神能萬須宇知野乃。森能加介乃多加佐與　今案、神者宵神歟、

玉葉、フリツモルウチ野ノ原ノ雲ノ上ヲワタルアサケノ袖ノ寒ケサ　從一位隆博

新六帖、イカニセム内野ノ芝生年ヲヘテアラヌ作リニセバクナル世ヲ　爲家

一川井立天美太禮波御隨身能毛知太留多天阿加之乃志呂佐與　4江次第、平野祭次第注云主殿ノ官人等儲ニ庭火云云

一津爲立天美多禮波。衣加川支能於保佐與

一津井立天美太禮波。舞姫乃於保左與

一寸左萬之久以不奈留志波寸能月夕𡖋。豐乃阿加里能比加里波。女川良之久曾於保由
留

水猿曲（或謂二水白猿子一）

水乃須久禮天於保由留波。西天竺之白鷺池。志无之也宇許由爾須美和多留。昆明池乃水乃
色行末久之久寸无止加也。賢人乃釣乎垂志波嚴陵瀨乃河乃見川月影奈加羅毛留那留
波。山田乃加氣筧乃水止加也。芽乃下葉乎止津留波。美志萬入江乃古保里美川。春立空乃若
水波久乎止毛久乎止毛津支毛世之。川幾毛勢志

伊佐立奈乎（五反、二反ノ時立座）

以左多知奈乎。𡖋之乃加毛止里。水萬左羅波。止久曾萬左良乎

一御前試事於二昇廊一上有二露臺亂舞一

大歌儀同二昨日一

一御前召事於二朝所一南面庇有レ之（西上對座）

令月（三反）新豐（二反）鶴之群入（同手一）

津留能无禮井留萬津山爾。千世爾千止勢袁加左爾津津。與波比波支美加太女奈禮也。阿女乃
志太古曾乃止加奈禮

者少不言矣

2 [illegible]

3 昆明池、杜詩云、昆明池水漢時功、[illegible]長安[illegible]一種曰氏

4 嚴陵瀨、大明一統志（四十一）[illegible]七里灘[illegible]釣台[illegible]七十[illegible]之詩里光縣[illegible]一種曰氏

後拾遺集、[illegible]ノカレ葉モサヤニ[illegible]ヤ水ノウヘハ浦[illegible]匠。

後拾遺集、[illegible]ニツノクミワタル[illegible]ノ根ノ一葉ノホトニ[illegible]ケリ、[illegible]好忠。

5 加[illegible]及[illegible]下[illegible]催馬樂[illegible]何為、イカニセム

7 ヤ、ヨシノカモトリヤ、イデ、ユカハ、云々。

8 催馬樂、妹與我、イモトアレト、イルサノ山ノ、山アラヽキ、テナトリソ、ヤ、カホマサルカニヤ、シトクマサルカニヤ、

9 [illegible]ヘテイハ[illegible]ナカリケリ[illegible]

萬歲樂（下﨟進御前亂舞）白下﨟物之學（名謂也、白下﨟氏若クハ字申之）物云舞（自下﨟參進）水猿曲　白薄樣

白字寸也。宇古世乎之乃紙（薄樣小帋、卷上）萬支阿介乃筆。止毛惠加以多留筆乃知久也（輛巴稻書、有輛）。禮古止宇止宇（子留）反五（七反相替也）

一仙洞推參事、於公卿座廣廂有推參之儀思之津令月（反三）德是（反二）鶴之群入

萬歲樂（自下﨟參進）物之學　物云舞　水猿曲伊佐立奈乎（自下﨟起座）

出雲國風土記絲韜鄉、江家次第韜絲

西園寺東絲（二）會納言大將中部（卿）中國中一一邑革緣文小韜絲……

卯日（拍子、山國司以下供之、次國庁行事）

一殿上淵醉事、如昨日　但今樣蓬萊山

辰日節會

巳日節會如昨日

一清暑堂御神樂、於昇殿廊被行之

先音取　總介安知女（於）、榊、韓神、（上拍子二反）　薦枕（有音取）　篠波　千歲柳、早歌（自鷺頭上拍子由說利阿爾利）　星、（首三）　朝藏

其駒（上拍子二反不）

一御遊事

呂調子　安名尊、鳥破（反一）　蓑山（反一）　鳥急（反三）　律調子　伊勢海　萬歲樂（子十拍）　五常樂急（反三）

午日

一豐明節會始則舞姫參二上正廳一事

大歌了於二昇殿南一上有二露臺一亂舞如二寅日一

已上[illegible]實[illegible]曲[illegible]八[illegible]
[illegible]

[illegible]同五年九月[illegible]有年號也[illegible]大化之[illegible]日本宜雜[illegible]同五年爲[illegible]六年日本[illegible]云[illegible]第十六年[illegible]年[illegible]第十一[illegible]二六ク、人王廿八代[illegible]皇ノ御宇、敎[illegible]六年內[illegible]駿ノ可[illegible]二、人アマクタリテ[illegible]云云淡[illegible]六、八幡[illegible]起[illegible]、人皇第三十代、欽明天皇ノ位ニ付[illegible]十二年ニアタリテ、[illegible]ト[illegible]アラハレ給フ、[illegible]補任帳ニハ僧聽三年トモ云云、[illegible]年號ナシ平家物語第[illegible]、[illegible]寺炎ノ上、降下、[illegible]來欽明天皇御宇ニ及テ、[illegible]ヨリ此國へ[illegible]ラセ[illegible]、常ニ[illegible]色ノ光リヲ放タセ[illegible]、是ニ依テ年號ヲ八、[illegible]ト號ス云云[illegible]田氏[illegible]寥[illegible]六、[illegible]功皇后攻給フ時、其後數百年經テ、師安(異本年代記曰、人王三十代、欽明帝二十五年)元年(甲申)[illegible]鄕[illegible]此[illegible]ヘシト、云々

史籍不レ記二往古年號一

塵添埃囊抄ニ云。人皇第廿六代。武烈天皇ノ御代ニ。始テ善記ト云年號アリシカドモ。不次シテ有無不定ナリ云云　今按ニ。伊與國風土記。湯郡條下。聖德皇子。至二陽時一立二湯岡側碑一文ヲ記ス法興六年十月ト。是亦古代之年號歟。雖レ然今所レ記年號中ニ無二法興一則此外別亦有二年號一欽明天皇御代ニ雖レ有二法清字形相似タル在一。時代遙ニ遠ヘリ矣。今所レ記以二木瀨三之自筆一摸レ之。傳聞南都古寺間有下記二此年號一書上矣

武列天皇二十六代　己卯元　庚辰二　辛巳三　壬午四　癸未五　甲申六　乙酉七　丙戌八　繼體天皇二十七代　丁亥元　戊子二　己丑三　庚寅四　辛卯五　壬辰六　癸巳七　甲午八　乙未九　丙申十　丁酉十一　戊戌十二　己亥

十三庚子　十四辛丑　十五　善記十六壬寅元　十七癸卯二　十八甲辰三　十九乙巳四　二十丙午　正和二十丁未元　廿一戊申二　廿二己酉三　廿三庚戌四　廿四　教到辛亥元　廿五壬子二　廿六癸丑三　廿七　安閑天皇二十八代、甲寅元　乙卯二

宣化天皇二十九代　丙辰元　丁巳二　戊午三　己未四　欽明天皇三十代　庚申元　已上七年間年號不次　要明辛酉元　欽明二　壬戌二　三　癸亥三　四　甲子四　五　乙丑五　六　丙寅六　七　丁卯七　八　戊辰八　九　己巳九　十　庚午十　十一　辛未

十二　貴樂壬申元　十三　癸酉二　十四　法清甲戌元　十五　乙亥二　十六　丙子三　十七　丁丑四　十八　兄弟戊寅元　十九　藏和己卯元　二十　庚辰二　廿一　辛巳三　廿二　壬午四　廿三　癸未五　廿四　師安甲申元　廿五　和僧乙酉元　廿六　丙戌二　廿七　丁亥三　廿八　戊子四　廿九

1淡海錄卷十一曰、伊賀郡、(中略)日大明神緣-起云、大子爲ノ報-三書-勝熙四年戊申二月、到-二此國-一、先ソノ郡ヲ賀-二兒轄-一軍之因也

源[2]平盛衰-記第十三、イツク嶋ノミヤウジンヲ信スル事、イツクシマノミヤウジント申ハ、推古天-皇、ミツトノウシ、正五年十一月十二日、云云

種[3]彥曰、淺草緣-起云、推古天-皇定居〇年云云

甘露鏡推古天皇段、聖德太子傳書スル所ニ推古天皇卅年、六六、(中略)者、年、壬申等、又太子傳年四十九八、定居二年己卯二月廿日、號勝鬘、又見-日域化記-云云

種[4]彥曰、田村下(中略)、平(中略)第七卷、男(中略)者、人王五十六代、清和天皇御宇、貞觀元年己卯、南方溪嶋山一・靈二(中略)佐宮二・自二僧聽三年戊、三百二十四年・大安寺行敎和尙・(中略)姓紀氏)於二(中略)宇佐宮二・相-勸二一夏九(中略)一旣上洛セント欲ス、此年號ナ、

種彥曰、信野往來、(中略)此瀉鳩原者、弘擬五年、蒲出(中略)也

己丑五卅 金光庚寅元卅一 辛卯二卅二 敏達天皇三十一代 壬辰三敏達元 癸巳四 甲午五三 乙未六四 賢輔丙申元五 丁酉二六 戊戌三七 己亥四八 庚子五九 鏡常辛丑元十 壬寅二十一 癸卯三十二 甲辰四十三 照勝乙巳元十三 用

明天皇三十二代 丙午二一 丁未三二 崇峻天皇・三十三代 戊申四崇峻一 端政己酉元二 庚戌二三 辛亥三四 壬子四五 推古天皇三十四代 癸丑五推古元 吉貴甲寅元二 乙卯二三 丙辰三四 丁巳四五 戊午五[4]六

己未六七 庚申七八 願轉辛酉元九 壬戌二十 癸亥三十一 甲子四十二 光弘乙丑元十三 丙寅二十四 丁卯三十五 戊辰四十六 己巳五十七 庚午六十八 定居[3]辛未元十九 壬申二二十 癸酉三廿一 甲戌四廿二 乙亥五廿三 丙子六廿四 丁丑七廿五 景繩戊寅

己卯元廿六 庚辰二廿七 辛巳三廿八 壬午四廿九 癸未五三十 仁王甲申元卅一 乙酉二卅二 丙戌三卅三 丁亥四卅四 戊子五卅五 六卅六 舒明天皇三十五代 己丑〇元 庚寅二 辛卯三 壬辰四 癸巳五 甲午六 己上六年ノ間年號不次 僧安

乙未元七 丙申二八 丁酉三九 戊戌四十 己亥五十一 長命庚子元十二 辛丑二十三 皇極天皇三十六代 壬寅三皇極元 癸卯四二 甲辰五三 孝德天皇三十七代 乙巳元紀ニ爲ス大化元年ト、史籍所レ記年號始ニ於テ茲ニ 丙午二大化二 己上

二年ノ間年號不次 常色丁未元三 戊申二四 己酉三五 庚戌四以下年號不次紀ニ爲ス白雉元年ト 辛亥五白雉二 壬子六三 癸丑七四 甲寅八五 齊明天皇三十八代 乙卯九齊明元 丙辰十二 丁巳十一三 戊午十二四 己未十三五 庚申十四六

己上十一年 年號不次 白鳳紀ニ天智天皇元年ヲ爲ス白鳳ト 辛酉元七 天智天皇三十九代 壬戌二天智元 癸亥三二 甲子四三 乙丑五四 丙寅六五 丁卯七六 戊辰八七 己巳九八 庚午十九 辛未十一十 天武天皇四十代 壬申十二

紀ニ爲ス白鳳元年 癸酉十三白鳳二 甲戌十四三 乙亥十五四 丙子十六五 丁丑十七六 戊寅十八七 己卯十九八 庚辰二十九 辛巳廿一十 壬午廿二十一 癸未廿三十二 朱雀甲申元 乙酉二 大化紀ニ爲ス朱鳥元年ト、又大化六年爲ス孝(中略)

元持統天皇 丁亥一 爲朱鳥元 己下五年ノ間年號不次 戊子二二 己丑三三 庚寅四四 辛卯五五 六 大屯壬辰元六 癸巳二七 甲午三八 乙未四九 丙申五十 文武天皇四十二代 丁酉六文武元 戊戌七二 己亥八三 庚子九四

已上繼體天皇十六年爲ニ善記元年ト、文武天皇四年爲ニ大屯九年ト、而凡百七十九年之間三之

所ニ記置ク也

萬葉緯卷第十九終

（插紙）

日本僞年號　善記（繼體天皇十六年始建年號、爲善記元、海東諸國記作善化）　正和（同廿年丙午爲正和元年）　殷到（同廿五年辛亥爲殷到元、諸國記作發倒）　僧聽（宣化元年丙辰爲僧聽元）　明要（欽明二年辛酉爲明要元、諸國記作同要）　貴樂（同十三年壬申爲貴樂元）　法清（同廿五年甲戌爲法清元、諸國記作結清）　兄弟（同廿九年戊寅爲兄弟元）　藏和（同卅年己卯爲藏和元）　師安（同卅五年甲申爲師安元）　和僧（同卅六年乙酉爲和僧元、諸國記作和重）　金光（同三十一年庚寅爲金光元）　賢棲（敏達帝五年丙申爲賢棲元、諸國記棲字作接）　鏡常（同十年辛丑爲鏡常元、諸國記作鏡當）　勝照（同十四年乙巳爲勝照元）　端政（崇峻二年己酉爲端政元）　吉貴（推古二年甲寅爲吉貴元、諸國記作從貴）　願轉（同九年辛酉爲願轉元、諸國記作煩轉）　光元（同十三年乙丑爲光元元）　定居（同十九年辛未爲定居元）　倭京（同二十六年戊寅爲倭京元、此號諸國記有之、麗氣記不載之）　仁王（同三十一年癸未爲仁王元）　聖聽（舒明元年己丑爲聖聽元）　僧要（同七年乙未爲僧要元）　命長（同十二年庚子爲命長元）　常色（孝德三年丁未爲常色元）　白雉（同六年庚戌爲白雉元）　朱雀（天武元年壬申爲朱雀元）　大和（持統九年乙未爲大和元、麗氣記載之、海東諸國記載之）　大長（文武二年戊戌爲大長元、同上）　此僞年號、浮屠所志作、而出于麗氣記私抄及海東諸國記。且伊豫溫泉銘亦有取用於此號、則古代間亦有稱之者、可知而已矣。非唯施之本邦、施及外國。海東諸國記悉擧此年號、以爲實有此號、可嘆哉

萬葉緯 二十終 近世

萬葉緯卷第二十

目錄

萬葉緯卷第二十

洛東隱士似閑編輯

近世存於古風之人。擬古歌詠歌。集于茲

伊勢太神宮參詣記

坂士佛

康永元年。十月十日あまりの比。太神宮參詣の心ざしありて。云云聊。古語の風情をまなひて。悠に今案の詞露をしたつ

足引之。山田原能。宮柱。廣敷之而。天下。高知賜。宗廟社稷之。皇御神農。垂跡志。創者泊瀨。朝倉能。大御門之。敕。最恐久。辭定而。眞奈志峯農。白雲能。棚引越志。太宗山。何日母阿良氏。伊勢國。沼木鄉社。宮居奈禮。鳥居瑞籬。佐丹奴羅須。小茨刈葺。宮造。玉毛金毛。不飾者。四方國有。人夫者。煩貴。事曾奈岐然者阿禮登母。運云。荷前宮之。長路敷氏。子良毛御母良毛。暇波。日日之御膳。絶藻瀨須。豐宇賀能賣農。神爲之。大神酒御贄。忍穗井之。以水炊。朝日佐。奉饗。氏人農。三角柏之。常磐仁。百官之。仕

眞奈志峯大宗山、何在。

於 假字違へり。

者天業仁不異。思之者八隅知之吾大王能御心能聰明久賢久御坐母神之誓登木綿手襁懸留頼能廣前爾降悪農雨露於仰而受流國土能百姓裳榮管作五穀物雖置足戸指勢奴五百枝杉之深緑如不葉替伊麻勢太御世

右一首奉讃外宮天照豊受太神歌也。

短歌

丹後国風土記云、比沼山頂有井

處女子之友爾別而天原振離津久流昔悲聞（寄酒）

右一首奉題豊宇賀能賣神歌也。

皇御麻之敕勢志從神代兼手降志種種農天津寶能一鳴五十鈴河之水清見流受畚皇之高御位之無動。下津岩根之御柱農神能宮居農自内外國乎育父母能居諸之照天原振離見者古之岩戸耀眞清鏡載増而皇女之光留賷之。玉匣二見浦之湊與利御船艤而上瀬爾河浪立傳御裳能奴禮雜流時由此河之名仁流垂水上農神路山之岩村之常石堅石之瑞離毛舊奴留貢之

於、假字違へり　以下亦同

有數登影於雙而相生仁千歳乎送百枝松栄於奈良佐奴神風也伊勢云國爾垂跡御世鎮居皇得神香裳

右一首奉讃天照皇太神歌也

短歌

天降左十鈴河乃瑞籬能舊奴留世世者神也知良牟

朝熊巡禮の志ありて宮にまいりぬ。仍長短二首の歌をつくりて内外二宮の法楽に[illegible]奉る。

千磐振神世不レ替朝熊之阿波丹建留瑞籬農。水能心毛。伊知早久宮居乎出而。有麓阿利曾之上於耀須。光麻志和流。塵土之積留山農。高照月由勝而。隠奈貴。鏡宮者。多輔姤句阿利計梨

[illegible]

短歌

朝能也。豊栄登日影社天津神世之鏡奈利雞禮 [illegible]

詠初音　　沙門契沖

宇閑婆受能波累岐雨部里農。府布咩雛門鳥能毛佐幾那牟明日嶷将挿頭

芽子　　契沖

爾日異爾波疑曾将開保杼登企須古惠勢奴野邊仁阿幾乃風布久

右二首習古風[illegible]於萬葉二可詠歌[illegible]或人[illegible]以眞跡書寫焉

應人強請講萬葉集講竟述懐贈歌一首并短歌二首　　沙門契沖

瑞籬乃久志支代與里。住江能松乃葉能。葉茂繁三。苔能亂禮氐。浪數農與牟事難美。忘禮草和須留習波

萬葉第十三同四　萬葉十二

萬葉集二云萬葉集[illegible]萬世不易書也云云

加里○開毛不レ見奴○（萬葉第六）粉濱能四時見○無レ用厭○欝悒弖蚤○（萬葉第十三）淡路島○阿波禮登谷毛○誰之見○（萬葉第七）出見乃濱爾○夫止

太仁○立出氏將レ見○垣津旗（萬葉第七）淺澤小野荷○濃紫○久佐我九禮年○衣爾摺留○人爾茂不レ相受○（萬葉十二）水脉衛石○所レ

指細江爾○阿世仁乃美○（萬葉第十四）阿勢西鬼乎○耳敏川○（六帖第三）都夜古乎遠身○琴乃浦爾○（夫木第廿五）浪能緒須氣天○古家乃○風能調爾（夫木）

鳴尾爾在○松波加與布止○小牡鹿乃○聞爾志聴氣婆○（中臣秡）口無能○（古今）不レ云天能杜乃○（續千載一）黄葉婆野○左夫之毛過古

須○難波潟○海士能囀利○小巓子乃○（萬十六）老古駄美氏○（萬葉第四）葦能葉野○何歟將レ吉乎○霍公○鳴五月從○鴈哭弖○菊

咲佐左良叙爾○（萬葉第三）玉匣○奥仁麻毛娩而○（萬葉第二）秘女島乃○姬於支之事遠○（萬四同十一又）指瀬河底毛阿良波爾○言仁伊太志川

反歌

墨乃江能○千蔵野松乃○與呂川葉能○吉婁美太禮弖○加受茂與麻禮受

水無瀨川○底乎安左美曾○安良波奈留○猶守毛禮木波比止里多都禰與

于レ時元祿九丙子ノ年○九月十八日○於二東ノ高津圓珠庵之窓下一賜レ焉

萬葉集第一卷中極秘傳授新點和歌一首

幸二于紀温泉一之時額田王作歌

莫囂圓隣之大相七兄爪謁氣、吾瀨子之、射立爲兼、五可新何本、

仙覺註釋云、予所點ノ和謌百二十五首此等新點ノ初ナリト云々、然レトモ新點不可ヽ依無以爲新點ヽ

右謌新點、倭漢古今訓義注

莫囂圓隣之

[illegible]

[illegible]

圖也不改作圖字而可乎。

本朝文粹第一、纖月賦・菅

[illegible]

新考曰、初四字並音、圓疑原本圖、傳寫者謬作圓乎、之和義乃也。五字合讀我豆里乃、和義曲鉤之也、曲鉤則以譬爲初月之名。文選第七鮑明遠翫月城西門廨中詩曰、始出西南樓、纖纖如玉鉤、末映東北墀、娟娟似蛾眉。蛾眉蔽珠櫳、玉鉤隔瑣窗。鉤字神代紀皆訓爲知、俗間訓爲豆利波利。又訓加岐、訓加古。者兩訓並一物而與今訓知者相似而別也。日本紀第九神功皇后紀曰、若有成事者河魚飮鉤、訓此飮鉤爲豆利久。則非鉤字之音。豆里波里爲豆利者更不可難。

大相七兄爪謁氣

上五字除爪皆以訓爲和字所謂於保比奈勢曾矣、相訓阿比、捨上取下、七兄不待釋、爪促音、於保比覆也。此有兩義、取體則覆物、蓋和語即稱於保比、倭名抄辭拯訓久比於保比、鞍杷訓久良於保比之類並當時俗間語意同此。集下第十一卷鏡王女贈內大臣藤原卿歌曰、玉匣覆乎安美開而行者、此中覆現本取用訓於保布今歌接發句之字則取體明矣、以此見彼亦取體爲蓋相當、奈勢曾莫爲也。謁氣上字當改作靄。二字合而訓久毛。玉篇曰、靄於蓋於曷二切雲狀也、雲之隱初月猶如納曲鉤於以蓋覆此矣、故加禁止詞。

吾瀨子之

四字用字明瀨借爲兄兄子亘兄弟男夫朋友等之詞矣、雖然此歌下句所嘆甚切而似婦之指夫第十一有言鏡王女又曰額田姬王也、題脫女字若此人乎。

射立爲兼

射備和訓爲發語詞伊下三字當有二訓異。初、下一字用音、四字合而伊多多志氣牟也。後四字皆和語伊多多志加奴類也、至下卷不得訓加奴留和訓當字兼唯假同訓用而已。

五可新何本

立傳授本在初後二句五字之中初後二字訓中三字音、伊豆加志我毛登、義嚴橿之本而則大和國城上郡三輪

此事雖不可類於緯中以與秘人不知。正恐紛失センコトヲ而列于茲

長流 下河邊氏以眞蹟書之

介姉左儆毛。難波乃古也能。加久禮妻。愛也兎耆安之濃。之堂葉那里氣梨

冬夜　同

水曾古仁。宇知奴留波加里。寒支與能。與毛乃安良之曾。海止幾古由留

郭公　同

桂幾留。遠乃乃飛比支乃。保止止幾須。月丹幾古江天。也萬奴宅加奈

紅葉交松　三之木瀬氏

世丹安良波。與仁楚萬禮止也。蔦能葉乃。於乃加紅葉遠。松丹加須良牟

花半落　　同以眞蹟書之

芳南毛又。人也萬川良半。小車乃。加多分天與毛。風波能古左之

夏草　　同同

無左之野波。猶分和比奴。川太加倍天。志氣里天保曾幾。山毛古江之加

題、河上ノ霧、日出三竿春霧消トイヘルヲ取テ　　契沖

朝日山。左須也乎不禰乃。棹婆加里。乃保禮婆波留留。宇治能河霧

春乃歌止天　　同

吉野山。美止里古具良久。春久禮天。比止里花知留。瀧乃白糸

契戀　　同

左左波乃。志賀乃濱松。古江毛世之。安不美乃宇美乃。名乎之加戸壽波

終日尋花　　松堅宮川氏

山不加美。古古爾一木止。太知與禮波。知良奴毛花乃。乎之幾夕久禮

夕立　　同

志類志良須。也止里之人乃。別太爾。古止葉乃古里天。波留留夕立

月思往事

世世乃人農月波詠之形見曾止思戸婆思戸婆奴留留袖哉　長嘯（東山　見三千集外歌仙）

小盥山ニテ讀留　同

櫻左久大原野邊能津保須美禮川美奈於加之曾春乃山風

（浦邊月）

波留婆留止敷津乃浦乃月能夜波氷爾宇加不安波知之萬山　同

月　貞德（松永氏道遙軒　見三千集外歌仙）

雲止見江婆古與比乃月爾宇加良萬之與之也與之乃乃櫻成止毛　同

深夜爾雪乎聞止云事乎

久禮竹乃與留能嵐波志川萬里天須惠葉爾阿方類雪曾於止須留　同

待戀

高沙能萬川與乃以太久不氣奴留乎尾上乃加禰與餘所爾古止和禮

若沖曰、イキタナノツボスミレヤトサガナキゴダチノ名タテニクチズサミらん歟。種李曰、奈於加之曾ハ、莫侵敷ノ字、未詳。

海北氏曰、シツマリテト云ヘル詞イカヽ。

海北氏曰、カネヨヽソニコトワレイカヽ。

弔故讚州國守右京兆法諱源英歌一首並ニ序

聞墻之者靡知在原友愛然猶有禦侮之衞嬴皆之於齒蓋天倫之使然也、況孔懷之邕穆乎、故讚州國守右京兆水戸黃門卿令兄所謂難兄難弟者也、京兆法諱源英、久築隠室於封地、黃門亦隠豹姿於西山霧有年于今、人雖支干親程隔東西、除誦經念佛之暇寄望初輝夢絕魂驚之後

支干ノ字ハエトト云コトニシテ、兄弟ノ義トセルト見ユ。何ト紀ト巴ノ様ノ誤ニ行闕ニ（ソコノカミヲトハヲ）支干トヨメリ支干ノ字タツヌヘシ。

馳思殘月、互恨不縮地、各嗟不換心、京兆尹四月十二日卒于龍雲軒、料知凶訃到、披封緘之後、愁容潛然、千行叵禁、貧道豪黃門顧問久矣、故獻一首拙詞奉弔、慰彼悼怛之情、豈敢抑侍手、伏聞左右人

於奈之久爾。太乃美志豆伎毛。夜麻那羅奴。與乎敝多天豆波。那我米加努良牟

萬十八 月ミレハオナシクニナリ山コソハ君カアタリナヘタテタリケレ

奈幾比杼能。古由氐布也。萬乃。四泥太哀佐。伊麻預利登之仁。岐幾耶宇止末六

元祿八年五月十一日　沙門契沖上

奉謝西山源隱君傳命水戶相公降恩施倭詞并序

僕宿報貧寠、而朝三之儲將罄焉、舊臘就相公家臣板氏、獻短絕拙詞於黃門君、奉請毎歲賜若干錢米料、近者板氏復書到曰、卿退隱之后、委百事相公、相公從命、依請年充十金云云、此而重讀、卷而亦舒、惟嚴君傳告孝嗣、代賜傳告、辭如玉代賜物優、金彼此恩既重、荷載音奚輕、宛類轍魚遇決楚沛、翹鰭游沆矣、係旃再欲上辱謝之鄙唫、頃日有人令僕拙歌書于短冊、書至賀祝、適得一首、幸有祝而兼謝之意、故不更作、謹介板氏以當曝芹、伏乞寬恕

美奈能河。常陸帶左右。將見江世裳。吉美我筑波能。蔭者不變易

元祿九年二月十二日　沙門契沖謹進、

琉球聘使記　于時寶永七年十一月。荻生惣右衞門述作

已下東語因テ校ヲ闕ク。

二十一日。薩侯又率美里等奏其國伎於御前。云云其樂首太平調。云云次三線歌。琉曲也。

內間津覇對彈三線曰。

結諸（華ニ云ニ希有ト）火骨刺沙喲（華ニ云ニ春華ト）捺屋列割捺（華ニ云ニ更有是哉ト）他鐵鹿（其彩色）子僕奕阿兒發捺諾（華ニ云ニ未ル開花ヲ）子由麻

藥他我多（華ニ云ニ如ニ帶レ露ニ結ブリト）

亦在華和間奕有傳其邦謠歌者。併附于此曰。

欲諾捺湯諾捺來句乙子日湯儞薩刺滅句諾骨兒苦多奈句薩滅末尺諾由苦烈

又一曲娼妓所唱曰。

一多藥捺茄句骨骨鹿滑儞句阿刺沙拔句諾欲鐵法我鹿默諾句渴說儞喲呂渴

題萬葉緯後

[illegible]緯對、經者有二一定之體、故爲常、緯則錯綜往來、故爲變、聖人之言、猶之常也、諸子百家之言、猶之變也、故聖人之言、特謂之經焉

昔者。中納言大伴卿。撰萬葉集二十卷。至今一千年所。風人韻士。以爲根據。蓋上世倭歌者。詞氣簡遠。情態朴略。往々有不可曉者也。是以家々涉考索。競訓詁。洛東隱士。好古之人也。嘗耽讀斯集。而得肯綮。家富倭漢史籍。何視奧篇祕策。世之所希。欽博爲約。遂成一家之言。抄書百餘卷。未脫稿矣。尋輯古文。凡二十卷。於其編次。歌正史之所收。大祀之所頌。神樂催馬樂。東遊及樂府。郢曲今樣。朗詠之屬。大神壽詞。大祓祝詞。高橋氏文。釋奠祝文。宮咩追儺祭文。而下諸國風土記。民部省圖帳殘編。壺碑佛之跡讃。其他遇

見暫觀。類舊物云者。哀集不遺。叙大意於各篇之首。資善本補罅漏。斯删定焉。斯考異焉。訓釋尤致詳矣。題曰萬葉緯。嗚呼隱士。好古之人也。讀書以娛。朝繙暮繹。優游乎机榻之際。饜飫乎篇章之中。則其見聞習熟之功。可想矣。緯者經之對也。說者曰。經一定之常。緯有錯綜往來之變。伏惟。

憶企都御製。迥出關雎之始。夜句茂麗藻。高聳鵲巢之上。雖則題曰緯。可以爲經。其擧古於大作之撰。製工同機。爛然錦文。自相爲經緯。非所謂錯綜常變之意也。偉哉。在千載之下。慕千載之遺文。旣所得者。僅兵燹之殘缺耳。若微此編。將或有就澌滅者乎。併是隱士之志也。示余請爲叙。繾綣不已焉。余之不識字也。不嫺文也。素隱之亥所知。而寄遠於百里外。則奚憖鄙陋焉。卒爾援筆。若夫大方之笑。非余所逃。隱士姓今井。名某。別號似閑云

享保二年春三月江都源種季書

種季之印　家號伊筵

昭和九年四月五日印刷
昭和九年四月十日發行

未刊國文古註釋大系 第三册

非賣品

編纂者 吉澤義則

發行者 大橋貞雄
東京市神田區一ツ橋通

印刷者 君島潔
東京市小石川區久堅町一〇八

印刷所 共同印刷株式會社

發行所
東京市神田區一ツ橋通
振替東京六八二一八六番
電話九段自四一五一至四一五五
帝國教育會出版部

昭和九年四月拾日

川崎輝男

[illegible]
[illegible]気も[illegible]
こ[illegible]つきのめ[illegible]
[illegible]
[illegible]何お[illegible]
[illegible]
[illegible]